

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第127集

な ご や じょうさん まる
名古屋城三の丸遺跡(VII)
—旧国立名古屋病院地点の調査—

2005

財団法人愛知県教育サービスセンター

愛知県埋蔵文化財センター

序

尾張徳川家 62 万石の居城として建設された名古屋城は、一般にはその天守閣に飾られた金の鱗で有名です。天守閣や本丸御殿などの建物遺構は戦前まで残されていましたが、太平洋戦争で消失してしまい、現在は石垣や二の丸庭園などの一部の遺構が残されているに過ぎません。しかし、その城構えは壮大で現在は特別史跡に指定されています。一方、名古屋城の城下は、江戸時代において既に全国でも有数の近世都市として発展しており、現在では名古屋は東海地方の政治・経済・文化の中心として機能しています。

名古屋城三の丸遺跡は、名古屋城三の丸一帯を範囲とする遺跡であり、既に約 20ヶ所で発掘調査が行われています。その結果、江戸時代の三の丸域内に展開した武家屋敷などに伴う遺構や遺物が確認されるだけに止まらず、それ以前の集落や墓域が展開していたことが明らかになっています。また、最近では近代の陸軍関係の遺構や遺物も発見され研究が進んでまいりました。

今回の調査は、国立名古屋病院（現独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター）の敷地内で行われ、名古屋城三の丸の北東部に当たります。当地点は「御屋形」と呼ばれる藩主の親族らが居住した屋敷が存在した場所に相当し、実際の発掘調査では庭園に伴う池など貴重な調査成果が上がっています。江戸時代のみならず、古墳時代から昭和時代前半までの様々な遺構や遺物も確認されており、これらの資料は名古屋台地北端部の歴史を解明する上で重要な情報となると思われます。

これらの多岐にわたる調査成果を本書に掲載することが、地域史研究に寄与し多くの方々に活用され、ひいては埋蔵文化財保護につながっていくことを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、各方面の方々にご配慮を賜り、関係者および関係機関のご理解とご協力をいただきましたことに対して、厚くお礼申し上げます。

平成 17 年 3 月

財団法人愛知県教育サービスセンター
理事長 古池庸男

例 言

1. 本書は愛知県名古屋市中区三の丸に所在する名古屋城三の丸遺跡（県道跡番号 01-7027）の発掘調査報告書である。
2. 調査は国立名古屋病院（現独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター）の看護婦養成所大型化整備事業に伴う事前調査として、愛知県埋蔵文化財センターが愛知県教育委員会を通じて委託を受けて実施した。調査対象面積は 1100 m²である。
3. 発掘調査は平成 14 年 4 月から 9 月にかけて実施した。整理および報告書作成作業は平成 15 年 4 月から平成 16 年 9 月にかけて実施した。
4. 現地における発掘調査は朝日航洋株式会社の支援を受けて行い、石黒立人（主査）、鈴木正貴（調査研究員：現主任）、鶴岡雅弘（調査研究員）が担当した。なお、朝日航洋株式会社の調査スタッフは本文第 1 章に記載した通りである。
5. 調査にあたっては、愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、国立病院機構名古屋医療センター、名古屋市教育委員会、名古屋市見晴台考古資料館、名古屋市蓬左文庫、西尾市教育委員会をはじめとして、多くの関係諸機関のご協力を得た。
6. 本書の執筆と編集は鈴木正貴が担当したが、一部に分担執筆がある。
第 3 章第 2 節第 12 項埴輪：早野浩二（本センター調査研究員）
第 3 章第 2 節第 13 項古代瓦：永井邦仁（本センター調査研究員）
第 4 章第 1 節：鬼頭剛（本センター調査研究員）・古澤明（古墳地質調査研究所）
第 4 章第 2 節：森勇一（愛知県立明和高等学校）・上田恭子（同）
第 4 章第 3 節：樋木真美子（本センター調査研究員）・小村美代子（パレオ・ラボ）
第 4 章第 4 節：樋木真美子（本センター調査研究員）
第 4 章第 5 節：植田弥生（パレオ・ラボ）
第 5 章第 1 節：鶴岡雅弘（本センター調査研究員）
7. 整理作業は鈴木正貴が担当した。なお、整理スタッフおよび作業の一部を委託した機関および協力者は本文第 1 章に記載した通りである。
8. 本書に示す座標数値は国土交通省に定められた平面直角座標第 VII 系に準拠する。海拔表記は東京湾平均海面（T.P.）の数値である。ただし、表記は日本測地系とした。
9. 遺物は、本書に掲載された遺物図版番号を登録番号として整理した。
10. 写真や図面などの調査記録は愛知県埋蔵文化財センターで保管している。
〒 498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方 802-24 (0567-67-4161)
11. 出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。
〒 498-0017 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方 802-24 (0567-67-4164)
12. 本書の作成に至るまで、本センター専門委員・職員をはじめとして、下記の多くの方々から多大なご指導とご助言を得ている。記して感謝したい。（五十音順：敬称略）
浅野弘子、伊藤厚史、伊藤正人、蟹江吉弘、上條信彦、木村有作、小島一夫、佐藤公保、下村信博、城ヶ谷和広、辻田文雄、竹内宇智、仲隆裕、中野晴久、仲野泰裕、野口泰子、服部哲也、藤井康隆、藤澤良祐、村上伸之、森本伊知郎

目 次

第1章	調査の概要	
第1節	調査の経緯	1
第2節	調査の方法と経過	4
第3節	歴史的環境	6
第2章	遺構	
第1節	基本層序と遺構の概要	11
第2節	A期の遺構	14
第3節	B期の遺構	24
第4節	C期の遺構	35
第5節	D期の遺構	83
第3章	遺物	
第1節	遺物の概要	88
第2節	A期の遺物	91
第3節	B期の遺物	109
第4節	C期の遺物	127
第5節	D期の遺物	214
第4章	自然科学的分析	
第1節	名古屋城三の丸遺跡地下の層序、堆積環境と地形解析	234
第2節	名古屋城三の丸遺跡の埋桶の埋土より産出した双翅目のサナギについて	242
第3節	名古屋城三の丸遺跡出土の漆喰等の科学分析	247
第4節	名古屋城三の丸遺跡出土の石材について	261
第5節	名古屋城三の丸遺跡出土木製品の樹種同定	268
第5章	考察・まとめ	
第1節	文献から見た御屋形の歴史	276
第2節	名古屋城三の丸遺跡出土土器器皿の変遷	286
第3節	名古屋城三の丸遺跡出土土器器皿類の変遷	295
第4節	御屋形庭園の意義	299
第5節	遺構の変遷	308
第6節	まとめ	318
付 表		
	遺構一覧表	331
	遺物一覧表	343
図 版		
	遺構図版	394
	写真図版	399
抄 錄		

挿図 目次

第 1 図 遺跡位置図 (1)	1	第 37 図 石組溝 SD04 土層断面図	51
第 2 図 遺跡位置図 (2)	2	第 38 図 SD01 石組構成石材実測図	51
第 3 図 調査区位置図 (1)	3	第 39 図 石列 SX09 遺構図	54
第 4 図 調査区位置図 (2)	4	第 40 図 池 SX02 遺構全体図	55
第 5 図 名古屋城三の丸遺跡の自然立地	7	第 41 図 池 SX02 遺構詳細図 (1)	56
第 6 図 周辺遺跡分布図	8	第 42 図 池 SX02 遺構詳細図 (2)	57
第 7 図 これまでの発掘調査位置図	9	第 43 図 池 SX02 遺構詳細図 (3)	58
第 8 図 基本上層断面図 (南壁)	11	第 44 図 池 SX02 遺構詳細図 (4)	60
第 9 図 包含層掘り下げ範囲	12	第 45 図 池 SX02 遺構詳細図 (5)	61
第 10 図 壁穴建物跡 SB02・SB07・SB09 遺構図	15	第 46 図 池 SX02 遺構詳細図 (6)	63
第 11 図 壁穴建物跡 SB03・SB05 遺構図	16	第 47 図 池 SX02 遺構詳細図 (7)	65
第 12 図 壁穴建物跡 SB04 遺構図	17	第 48 図 池 SX02 遺構詳細図 (8)	67
第 13 図 壁穴建物跡 SB08 遺構図	18	第 49 図 池 SX02 エレベーション図 (1)	68
第 14 図 壁穴建物跡 SB06 遺構図	19	第 50 図 池 SX02 エレベーション図 (2)	69
第 15 図 挖立柱建物跡 SB10 遺構図	20	第 51 図 池 SX02 土層断面図	71
第 16 図 挖立柱建物跡 SB11～14・SA01～02 遺構図	21	第 52 図 池間連施設 SD41・SX03・SD40 土層断面図	73
第 17 図 土坑 SK308 遺物出土状態図	22	第 53 図 池 SX02 石材分布図	74
第 18 図 土坑 SK353 遺物出土状態図	23	第 54 図 池 SX02 玉石印分図	74
第 19 図 挖立柱建物跡 SB15～19 遺構図	25	第 55 図 池 SX02 周辺土坑遺構図	75
第 20 図 挖立柱彫列跡 SA03 遺構図	26	第 56 図 埋埴造 SK145・SK37・SK228 遺構図	76
第 21 図 挖立柱彫列跡 SA04・05 遺構図	27	第 57 図 地下室 SK94・SK100 遺構図	77
第 22 図 井戸 SK226・SK203 土層断面図	28	第 58 図 土坑 SK185 遺構図	79
第 23 図 井戸 SK147 土層断面図	30	第 59 図 土坑 SK01 遺構図	80
第 24 図 井戸 SK146 土層断面図	31	第 60 図 土坑 SK484 遺物出土状態図	81
第 25 図 清 SD17・SD18・SD22・SD25 土層断面図	32	第 61 図 土坑 SK04・SX10 遺構図	82
第 26 図 挖立柱建物跡 SB21 遺構図	36	第 62 図 挖立柱建物跡 SH25 遺構図	84
第 27 図 挖立柱建物跡 SB22～24・SA08～09 遺構図	37	第 63 図 墓石建物跡 SB01 遺構図	85
第 28 図 挖立柱彫列跡 SA06・07 遺構図	38	第 64 図 墓石建物跡 SB01 平面復元図	85
第 29 図 井戸 SK163・SK202・SK49 土層断面図	40	第 65 図 墓石建物跡 SB01 土層断面図	85
第 30 図 清 SD12・SD14・SD31 土層断面図	41	第 66 国 第三師団司令部周辺軍事施 設配置図と調査区	86
第 31 国 石組溝 SD01～SD04 遺構全体図	43	第 67 国 名古屋衛戍病院病棟平面図	86
第 32 国 石組溝 SD01・SX01 遺構図 (1)	44	第 68 国 土坑 SK142・SK107 遺構図	87
第 33 国 石組溝 SD01 遺構図 (2)	45	第 69 国 A 期の遺物実測図 (1) SK308 (1)	92
第 34 国 石組溝 SD01～SD04 遺構図 (3)	47	第 70 国 A 期の遺物実測図 (2) SK308 (2)	93
第 35 国 石組溝 SD01・SD02 遺構図 (4)	48	第 71 国 A 期の遺物実測図 (3) SK308 (3)	94
第 36 国 石組溝 SD01・SD03・SD04 遺構図 (5)	50	第 72 国 A 期の遺物実測図 (4)	95
		SB02・SB07・SB09	95

第 73 図 A 期の遺物実測図 (5)	
SB03・SB05・SB04 他.....	96
第 74 図 A 期の遺物実測図 (6) 土坑出土遺物.....	98
第 75 図 A 期の遺物実測図 (7)	
包含層他出土遺物 (1)	99
第 76 図 A 期の遺物実測図 (8)	
包含層他出土遺物 (2)	100
第 77 図 A 期の遺物実測図 (9)	
包含層他出土遺物 (3)	101
第 78 図 A 期の遺物実測図 (10)	
包含層他出土遺物 (4)	102
第 79 図 A 期の遺物実測図 (11) 墓輪 (1).....	104
第 80 図 A 期の遺物実測図 (12) 墓輪 (2).....	105
第 81 図 墓輪出土分布図.....	106
第 82 図 A 期の遺物実測図 (12) 古代～中世の瓦..	108
第 83 図 八事菅野古窯出土瓦実測図.....	108
第 84 図 B 期の遺物実測図 (1) SK226.....	109
第 85 図 B 期の遺物実測図 (2) 溝・土坑出土遺物..	110
第 86 図 B 期の遺物実測図 (3) 包含層他出土遺物..	111
第 87 図 B 期の遺物実測図 (4) SK155 (1)	112
第 88 図 B 期の遺物実測図 (5) SK155 (2)	113
第 89 図 B 期の遺物実測図 (6) SK155 (3)	114
第 90 図 B 期の遺物実測図 (7) SK147 (1)	116
第 91 図 B 期の遺物実測図 (8) SK147 (2)	117
第 92 図 B 期の遺物実測図 (9) SK147 (3)	118
第 93 図 B 期の遺物実測図 (10) SD39 (1)	119
第 94 図 B 期の遺物実測図 (11) SD39 (2)	120
第 95 図 B 期の遺物実測図 (12) 溝出土遺物 ..	121
第 96 図 B 期の遺物実測図 (13) 土坑出土遺物 (1) ..	122
第 97 図 B 期の遺物実測図 (14) 土坑出土遺物 (2) ..	123
第 98 図 B 期の遺物実測図 (15) 土坑出土遺物 (3) ..	124
第 99 図 B 期の遺物実測図 (16) 包含層他出土遺物 ..	125
第 100 図 C 期の遺物実測図 (1) SK185 (1)	128
第 101 図 C 期の遺物実測図 (2) SK185 (2)	129
第 102 図 C 期の遺物実測図 (3) SK156・SK223. 130	
第 103 図 C 期の遺物実測図 (4) SD12	131
第 104 図 C 期の遺物実測図 (5) SD14	132
第 105 図 C 期の遺物実測図 (6) SK163・SK484. 133	
第 106 図 C 期の遺物実測図 (7)	
土坑・溝出土遺物 (1)	134
第 107 図 C 期の遺物実測図 (8) SK94 (1)	136
第 108 図 C 期の遺物実測図 (9) SK94 (2)	137
第 109 図 C 期の遺物実測図 (10) SK94 (3)	138
第 110 図 C 期の遺物実測図 (11) SK01 (1)	139
第 111 図 C 期の遺物実測図 (12) SK01 (2)	140
第 112 図 C 期の遺物実測図 (13) SK01 (3)	141
第 113 図 C 期の遺物実測図 (14) SK01 (4)	142
第 114 図 C 期の遺物実測図 (15) SK01 (5)	143
第 115 図 C 期の遺物実測図 (16) SK01 (6)	144
第 116 図 C 期の遺物実測図 (17) SK01 (7)	145
第 117 図 C 期の遺物実測図 (18) SK01 (8)	146
第 118 図 C 期の遺物実測図 (19) SK01 (9)	147
第 119 国 C 期の遺物実測図 (20) SK01 (10)	148
第 120 国 C 期の遺物実測図 (21) SK01 (11)	149
第 121 国 C 期の遺物実測図 (22) SX09.....	150
第 122 国 C 期の遺物実測図 (23) SK47・SK63 ..	151
第 123 国 C 期の遺物実測図 (24)	
SK105・SX02 (1)	152
第 124 国 C 期の遺物実測図 (25) SX02 (2)	154
第 125 国 C 期の遺物実測図 (26) SD01 (1)	156
第 126 国 C 期の遺物実測図 (27) SD02 (2)	157
第 127 国 C 期の遺物実測図 (28)	
SD01 (3)・SD03.....	158
第 128 国 C 期の遺物実測図 (29) SK23.....	159
第 129 国 C 期の遺物実測図 (30)	
SK262・SK37・SK93	160
第 130 国 C 期の遺物実測図 (31)	
SK47・SK55・SK63・SK60	161
第 131 国 C 期の遺物実測図 (32)	
土坑・溝出土遺物 (2)	162
第 132 国 C 期の遺物実測図 (33)	
包含層他出土遺物	163
第 133 国 C 期の遺物実測図 (34) 軒丸瓦 (1)	165
第 134 国 C 期の遺物実測図 (35) 軒丸瓦 (2)	166
第 135 国 C 期の遺物実測図 (36) 軒丸瓦 (3)	167
第 136 国 C 期の遺物実測図 (37) 軒丸瓦 (4)	168
第 137 国 C 期の遺物実測図 (38) 軒平瓦 (1)	170
第 138 国 C 期の遺物実測図 (39) 軒平瓦 (2)	171
第 139 国 C 期の遺物実測図 (40) 軒平瓦 (3)	173
第 140 国 C 期の遺物実測図 (41) 軒平瓦 (4)	174
第 141 国 C 期の遺物実測図 (42) 軒桟瓦	175
第 142 国 C 期の遺物実測図 (43) 丸瓦 (1)	180
第 143 国 C 期の遺物実測図 (44) 丸瓦 (2)	181
第 144 国 C 期の遺物実測図 (45) 丸瓦 (3)	182

第 145 図 C 期の遺物実測図 (46) 丸瓦 (4)	183
第 146 図 C 期の遺物実測図 (47) 平瓦 (1)	184
第 147 図 C 期の遺物実測図 (48) 平瓦 (2)	185
第 148 図 C 期の遺物実測図 (49) 平瓦 (3)	186
第 149 図 C 期の遺物実測図 (50) 平瓦 (4)	187
第 150 図 C 期の遺物実測図 (51) 棟瓦 (1)	188
第 151 図 C 期の遺物実測図 (52) 棟瓦 (2)	189
第 152 図 C 期の遺物実測図 (53) 飾瓦 (1)	191
第 153 図 C 期の遺物実測図 (54) 飾瓦 (2)	192
第 154 図 C 期の遺物実測図 (55) 飾瓦 (3)	193
第 155 図 C 期の遺物実測図 (56) 飾瓦 (4)	194
第 156 図 C 期の遺物実測図 (57) 飾瓦 (5)	195
第 157 図 C 期の遺物実測図 (58) 飾瓦 (6)	196
第 158 図 C 期の遺物実測図 (59) 飾瓦 (7)	197
第 159 図 C 期の遺物実測図 (60) 飾瓦 (8)	198
第 160 図 C 期の遺物実測図 (61) 飾瓦 (9)	199
第 161 図 C 期の遺物実測図 (62) 飾瓦 (10)	200
第 162 図 C 期の遺物実測図 (63) 鬼瓦 (1)	201
第 163 図 C 期の遺物実測図 (64) 鬼瓦 (2)	202
第 164 図 C 期の遺物実測図 (65) 鬼瓦 (3)	203
第 165 図 C 期の遺物実測図 (66) 菊丸瓦	205
第 166 図 C 期の遺物実測図 (67) 輪違い瓦 (1)	207
第 167 図 C 期の遺物実測図 (68) 輮違い瓦 (2)	208
第 168 図 C 期の遺物実測図 (69) 丸瓦系道具瓦	209
第 169 図 C 期の遺物実測図 (70) 平瓦系道具瓦 (1)	210
第 170 図 C 期の遺物実測図 (71) 平瓦系道具瓦 (2)	211
第 171 図 C 期の遺物実測図 (72) 縁軸附器瓦 (1)	212
第 172 図 C 期の遺物実測図 (73) 縁軸附器瓦 (2)	213
第 173 図 D 期の遺物実測図 (1) SK96 (1)	215
第 174 図 D 期の遺物実測図 (2) SK96 (2)	216
第 175 図 D 期の遺物実測図 (3) SK96 (3)	217
第 176 図 D 期の遺物実測図 (4) SK96 (4)	218
第 177 図 D 期の遺物実測図 (5) SK56 (1)	220
第 178 図 D 期の遺物実測図 (6) SK56 (2) 他	221
第 179 図 D 期の遺物実測図 (7) SK57・SK362 ..	222
第 180 図 活字模式図	223
第 181 図 D 期の遺物実測図 (8) 活字 (1) 他	224
第 182 図 D 期の遺物実測図 (9) 活字 (2)	225
第 183 図 D 期の遺物実測図 (10) 活字 (3)	226
第 184 図 D 期の遺物実測図 (11) 活字 (4)	227
第 185 図 D 期の遺物実測図 (12) 活字 (5)	228
第 186 図 D 期の遺物実測図 (13) 活字 (6)	229
第 187 図 D 期の遺物実測図 (14) 包含層他出土遺物	230
第 188 図 時期不明の遺物実測図 (1)	232
第 189 図 時期不明の遺物実測図 (2)	233
第 190 図 調査地位位置図	238
第 191 図 名古屋城三の丸遺跡 02 区における 深掘柱状図	239
第 192 図 名古屋城三の丸遺跡 02 区深掘地点の テフラ分析結果	240
第 193 図 名古屋城三の丸遺跡における 地下層序横式断面図	241
第 194 図 試料採取位置	254
第 195 図 蛍光 X 線スペクトル (1)	255
第 196 図 蛍光 X 線スペクトル (2)	256
第 197 図 蛍光 X 線スペクトル (3)	257
第 198 図 Ca の分布状況 (1)	258
第 199 図 Ca の分布状況 (2)	259
第 200 国 Ca の分布状況 (3)	260
第 201 国 池状造構の互隣の配置	261
第 202 国 愛知県周辺の地形図と発掘取扱定地	264
第 203 国 池状造構より出土した繩	267
第 204 国 名古屋城三の丸跡出土木製品材組織の 光学顕微鏡写真 (1)	273
第 205 国 名古屋城三の丸跡出土木製品材組織の 光学顕微鏡写真 (2)	274
第 206 国 名古屋城三の丸跡出土木製品材組織の 光学顕微鏡写真 (3)	275
第 207 国 御屋形の機能	278
第 208 国 御屋形の内部空間	280・281
第 209 国 御屋形の変遷	284
第 210 国 名古屋城三の丸跡 (御屋形地点) の 土師器皿の変遷	290
第 211 国 尾張における戦国時代の 土師器皿の地域性	294
第 212 国 名古屋城三の丸跡 (御屋形地点) の 土師器鍋類の変遷	296

第 213 図 池 SX02 の復元想定イメージ	301	第 218 図 名古屋城下大曾根屋敷庭園	306
第 214 図 名古屋城三の丸庭園の発掘調査状況	302	第 219 図 道構変遷図 (1)	314
第 215 図 名古屋城三の丸庭園	303	第 220 図 道構変遷図 (2)	315
第 216 図 名古屋城御深井庭園	304	第 221 図 道構変遷図 (3)	316
第 217 図 名古屋城下御下屋敷庭園	305	第 222 図 道構変遷図 (4)	317

挿表 目次

第 1 表 調査スタッフ	2	第 20 表 SK20 より出土した甕	263
第 2 表 整理スタッフ	9	第 21 表 名古屋城三の丸遺跡出土木製品の 樹種同定結果一覧	271
第 3 表 名古屋城閏連年表	10	第 22 表 名古屋城三の丸遺跡出土木製品の 種別の樹種集計	272
第 4 表 石組溝の石材加工度	53	第 23 表 三の丸御屋形居住者の変遷	285
第 5 表 SX02 出土玉石組成表	75	第 24 表 SK226 出土山茶碗類組成表	318
第 6 表 出土遺物組成表	89	第 25 表 SK155 出土陶器類組成表	319
第 7 表 時期区分対照表	90	第 26 表 SK147 出土陶器類組成表	320
第 8 表 丸瓦出土量一覧表	177・178	第 27 表 SD39 出土陶器類組成表	321
第 9 表 平瓦厚さ別出土量一覧表	179	第 28 表 SD17 出土陶器類組成表	322
第 10 表 名古屋城三の丸遺跡 02 区深掘地點の チラ分析結果	237	第 29 表 SK185 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表	323
第 11 表 漆喰の分析試料一覧	247	第 30 表 SK156 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表	324
第 12 表 内眼観察結果	248	第 31 表 SK163 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表	325
第 13 表 X 線回折結果	249	第 32 表 SK94 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表	326
第 14 表 石英と方解石の最高強度	250	第 33 表 SK01 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表	327
第 15 表 方解石の検出限界実験結果	251	第 34 表 SD01 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表	328
第 16 表 蛍光 X 線分析結果	252	第 35 表 SK23 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表	329
第 17 表 SX01 より出土した巨石	262	第 36 表 主要遺構出土肥前窯産磁器類組成表	330
第 18 表 池状遺構の床面より出土した甕	263		
第 19 表 池状遺構東張り出し部より出土した甕	263		

第1章 調査の概要

第1節 調査の経緯

名古屋城三の丸遺跡（県遺跡番号 01-7027）は愛知県名古屋市中区三の丸一帯に所在する遺跡である。江戸時代には尾張藩徳川家 62 万石の拠点として名古屋城が築城されたが、そのうちの三の丸全体が遺跡の範囲となっている。遺跡の内容は、これまでの約 20 回の発掘調査などにより、名古屋城に関連する江戸時代の遺構・遺物ばかりではなく、弥生時代から近代に至るまで連続と遺跡は継続していることが判明しており、名古屋市域の歴史を解明するために重要な遺跡と評価されている。

今回の発掘調査は国立名古屋病院（現独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター）の看護婦養成所大型化整備事業に伴う事前調査として実施した。調査地点は三の丸 4 丁目の名古屋医療センター敷地内である。まず、平成 13（2001）年に国立名古屋病院から依頼を受けて愛知県教育委員会が遺跡の有無確認調査（試掘調査）を行った。建設予定地に南接する部分にトレーニング掘削した結果、トレーニング全体が約 2m の深さに至るまで複

乱であったが、近世の遺物が確認されたことから、発掘調査が必要と判断された。これを受けて、翌平成 14（2002）年 4 月から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。調査面積は 1100m²、調査担当者は石黒立人・鈴木正貴・鶴岡雅弘である。

発掘調査は、調査支援として朝日航洋株式会社に作業を委託した。調査スタッフは第 1 表の通りである。調査区の設定や近代以降の整地土の掘削、事務所の設営など周辺の環境整備などについては、国立名古屋病院から看護婦養成所大型化整備事業の委託を受けた鹿島建設株式会社の多大な協力を得た。調査は、調査区が当初の予想よりも遺構・遺物の残存状況が良好であり、3 面調査が必要となった。調査期間中は当センター理事崎崎彰一氏、京都芸術大学教授仲隆裕氏、愛知県教育委員会文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、名古屋市教育委員会の他多くの方々から現地での指導を得た。そして平成 14 年 9 月 4 日に



第1図 遺跡位置図(1)

名古屋城三の丸遺跡 VII

は江戸時代の庭園遺構などを中心に現地説明会を開催し約500名の参加者があった。現地での発掘調査は9月20日に終了し、終了後はすぐに鹿島建設の工事作業が開始された。遺物の洗浄・注記作業は一部を発掘調査現場で行ったが、大部分は平成14年度中に整理作業員によって実施した。

一方、整理・報告書作成作業は平成15年4月から平成16年9月まで実施した。調査担当者は鈴木であり、これに調査研究補助員と整理補助員が補佐した。整理担当スタッフは第2表の通りである。整理作業のうち、文様の複雑な染付磁器を中心とした遺物実測についてはアイシン精機株式会社に作業を委託した。また、遺物のトレース作業はアイシン精機株式会社および株式会社セビアスに作業を委託した。庭園に伴う池状遺構のコンピューターグラフィック作成については、仲隆裕氏の指導を受けて朝日航洋株式会社が行い鈴木

が監督した。写真撮影は福岡栄氏の手を頼むわた。自然科学的な分析については、漆喰分析をパリノ・サーヴェイ株式会社、樹種同定をパレオ・ラボ株式会社、昆虫遺体分析を森勇一氏にお願いした。遺物の実測は分担執筆を除く大部分の資料を鈴木および安達が行い、全点を鈴木が点検した。また、整理作業中には愛知県陶磁資料館仲野泰裕氏と愛知学院大学教授藤澤良祐氏をはじめとする多くの方々の指導を得た。報告書の印刷作業は西濃印刷株式会社に委託した。

第1表 調査スタッフ

総括責任者	岩崎直也	安田幸市	7月18日交替
現場代理人	大岩 隆		
調査補助員	木戸心界		
調査助手	近藤 緑	古田 恵	
土本測量技師	間根浩希	村井志高	7月18日交替
土本測量技師補	村井志高	本田義春	7月18日交替
発掘作業員	仲川信子	中田真澄	森田明子
	齋場美子	濱崎英津子	野田郁子
	古田めぐみ	江口智恵子	中川豪雄
	林 満	志水康佑	吉田 清
	山田正夫	松井美佐子	高山ヒサ
	長谷川邦子		



第2図 遺跡位置図(2)



第3図 調査区位置図(1)

第2節 調査の方法と経過

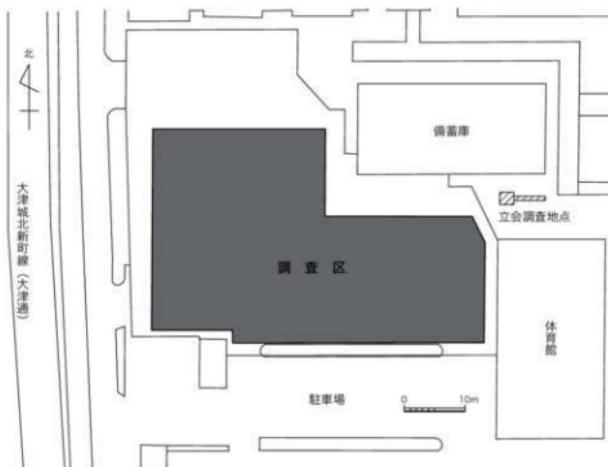
今回の発掘調査区は II NS02 区と表記する。II NS 是当センターにおける名古屋城三の丸遺跡の略号である。遺構図面・記録類・写真類・遺物カード・遺物の注記もすべてこの記号によっている。

発掘調査に先立って調査区の設定と近代以降の整地土の掘削を調査員の立会いのもと鹿島建設株式会社が重機によって行った。この掘削は現地表面から約 1.2m まで行い、これ以下の表土掘削は愛知県埋蔵文化財センターが重機によって行った。

測量は新国土地標と海拔標高 (TP) を基準に実施した。なお、これまで当センターで実施した名古屋城三の丸遺跡の 6 調査区では旧測地系による土地標を基準に測量されており、これと簡易に合成できるよう卷末基本遺構図面に旧測地系による座標値を挿入しておいた。調査では国土地標に基づき 5m グリッドを設定し、遺物の取り上げは一部の例外を除きこの 5m グリッド単位で取り上げている。5m グリッドの名称は本センター調

査マニュアルにより 4 種の記号で表記され、南北方向の 100m グリッドをローマ数字、東西方の 100m グリッドを大文字アルファベット、南北方向の 5m グリッドを算用数字、東西方向の 5m グリッドを小文字アルファベットで示す。順は南北方向が北から南へ、東西方向が西から東となっている。今回の調査区では 100m グリッドは全て VC に属すことから特別な場合を除き 100m グリッド表記を省略し 5m グリッドのみを用いることとした。

表土掘削の後トレーナーを南壁・西壁付近に設定し掘削した結果、遺構面が大きく 3 面存在することが判明し 3 面調査を実施することとした（実際に部分的に 1 面しか残存しない部分などがある）。実際の遺構面はさらに多く存在することが認められたが、複雑に分布しており調査区全体を通じた遺構面の認識が困難なため便宜上 3 面とした。したがって各面はおおよそ時代順に推移するが、各面には複数の時期の遺構が含まれてい



第4図 調査区位置図(2)

ることに注意する必要がある。

表土掘削以降の掘削作業は一部を除き全て人力によった。

測量は、各3面の基本平面図はラジコンヘリによる空中写真撮影測量、庭園に伴う池状遺構SX02はレーザー測量をそれぞれ実施し、それ以外は電子平板測量または手測り測量を行った。図面は多くは50分の1の縮尺で表記したが、遺構詳細図、遺物出土状態など特殊な図面は20分の1あるいは10分の1の縮尺を用いた。また一部の遺構については100分の1の図面を作成したものもある。図面類は全てデジタル表記で記録され、打ち出し図面とともに当センターで保管している。

写真類は6×7のカラーリバーサルで撮影したものを記録保存用として撮影した。撮影は全て調査担当者の指示のもとに朝日航洋株式会社の木戸心界が行った。この他に記録保存や作業記録としてデジタルカメラによる写真データも記録した。

以下に調査日誌の概要を記述する。

調査日誌抄

- 4月4日 国立名古屋病院敷地内での埋設物設置に伴う立会調査。
 4月8日 表土上部（現代整地上）を整備事業工事受託業者鹿島建設が掘削開始。
 4月10日 現地表下約1.2mで陸軍東洋兵場床面と礎石建物SB01を検出。
 4月12日 磚石建物SB01測量写真撮影。鹿島建設表土掘削終了。伊藤厚史氏指導。
 4月15日 表土下部の掘削を開始し、地山と黒色土を残す。蟹江吉弘氏・伊藤厚史氏指導。
 4月18日 竹内宇智氏指導。
 4月23日 調査区半ばで石組溝等を検出。既掘削部分より約30cm高く土表を掘削。
 4月24日 表土掘削終了。
 5月7日 作業開始、調査区清掃と壁トレレンチの掘削。
 5月14日 トレレンチ断面断面観察から、調査地点は3面調査が必要であると判断。
 5月15日 第1面遺構検出開始。
 5月24日 第1面遺構掘削開始。石組溝の掘削および清掃に着手。
 5月31日 当センター研究会中近世部会現場検討会開催。名古屋市教委来訪。石組溝測量開始。
 6月5日 県教委来訪。石組溝写真撮影。調査研究員榎木による石組構成石材の調査。
 6月7日 SX02トレレンチ掘削完了。規模と構造の概要を把握。
 6月12日 浅野弘子氏来訪。SK01の掘削が進み遺物出土状況の写真撮影。
 6月19日 池SX02掘削開始。埋土上位を重機により掘

削する。

- 6月20日 伊藤正人氏・藤井康隆氏来訪。
 6月21日 SK96掘削。近代遺物でガラス片を多く含むためゴム手袋着用で掘削。
 6月24日 SK94か地下室と推定。土壤サンプル採取（調査研究員鬼頭・榎木）
 6月27日 SX02完掘し庭園に伴う池の可能性が高くなる。第1面遺構写真撮影、空中写真測量。近世遺物と遺構について橋崎彰一氏招聘指導。国立名古屋病院幹部見学。
 6月28日 写真撮影。補足調査。県教委・名古屋市教委・佐藤公保・福田敏一氏来訪。
 7月2日 第1面遺構補足調査。SX02精査などを実施。上條信彦氏来訪。
 7月3日 名古屋市教委2名・名古屋市政資料館小南欣治氏他9名来訪。
 7月4日 東海テレビ取材。松村冬樹氏来訪、上條信彦氏から御屋形絵図の紹介あり。
 7月8日 朝日新聞社取材。石組溝測量補足作業。SK147掘削開始。
 7月15日 近世の遺構について小寺武久氏招聘指導。
 7月17日 当センター研究会中近世部会現場検討会開催。森本伊知郎氏来訪。
 7月18日 第2面調査のため遺物出土量が非常に少ない間隔を重機で掘削。廃灰褐色粘土質を除去し黒色土上面を露出させる。CBCテレビ取材。
 7月22日 第2面遺構検出開始。石組み溝縫写真撮影。下村信博氏来訪。
 7月23日 第2面掘削開始。
 7月29日 半田高校生徒15名見学。
 7月30日 下村信博氏指導。御屋形絵図についての情報を得る。
 8月1日 第2面空撮、写真撮影。国立名古屋病院ニュースに連載記事が掲載される。
 8月2日 第2面遺構補足調査。第3面調査に向けて黒色土の掘削を入力で開始する。小幡早苗氏ら来訪。
 8月5日 調査研究員川添が調査に助勢参加。8月22日まで。
 8月9日 掘り下げが7割程度終了し遺構検出を開始。小島一氏指導。
 8月13日 SX02清掃、写真測量とレーザー測量を実施。SK01とSK185の土壤サンプル採取（調査研究員鬼頭・榎木・森勇一氏指導）。
 8月14日 第3面遺構検出完了。SK02補足測量。NIKKI取材。
 8月16日 SX02床面断ち割り。伊藤正人氏来訪。
 8月21日 第3面遺構掘削。庭園遺構について仲澤裕氏招聘指導。
 8月26日 SK308掘削開始。橋崎彰一氏・藤澤良祐氏に遺物指導を受ける。
 8月30日 第3面遺構写真撮影、空撮。
 9月2日 第3面遺構補足調査開始。上層断面精査の結果、遺構面の把握を間違えたことを認識。厚生局見学。
 9月3日 名古屋市博3名、加藤安信氏来訪。厚生局・病院幹部見学。
 9月4日 現地説明会開催に関する新聞記者発表（資料配布）。
 9月7日 伊藤秋男氏来訪、現地説明会開催（約350名見学）。
 9月9日 SX02補足調査開始（断ち割り調査などを実施）。
 9月10日 SX02などの漆喰壁サンプル採取、SK49断ち割り調査、藤澤良祐氏・丸山竜平氏来訪。
 9月17日 排水路 SD41掘削。
 9月19日 調査区南側中央部で深掘り調査し、必要なサンプルを採取（調査研究員鬼頭）。
 9月20日 発掘調査に伴う掘削作業が終了。
 9月21日 遺構測量も完了し、現地調査作業は完全に終了する。

第3節 歴史的環境

名古屋城三の丸遺跡は名古屋台地北西端に立地しており、北西には木曾三川によって形成された濃尾平野が広がっている。名古屋台地と沖積低地の比高差は約8mを測り、近世名古屋城はこの崖を防御上の利点として活用し崖下には外堀を構えている。加えて名古屋台地は北端部が最も標高が高く南に向かって緩やかに下がる地形であり、四方に見通しが利く場所であったといえる。

名古屋台地の縁辺部では绳文時代以降の各時代にわたる多くの遺跡が分布している。名古屋城三の丸遺跡では西端部の調査地点で弥生時代の遺構が確認され集落が営まれていた。古墳時代では東側に片山神社古墳など古墳が所在している。

古代において当地は愛智郡に属し、『和名抄』によれば愛智郡内には10郷のムラが記載されている。このうち熱田郷周辺では6世紀前葉の前方後円墳である断夫山古墳や熱田神宮が所在する。現正木町にある5世紀中葉から6世紀にかけて営まれた集落遺跡は古代豪族尾張氏を中心とした集落と考えられている。また、7世紀代には正木町に尾張元興寺が創建され中央との強い結びつきを窺い知れる。11世紀代に勢力が衰退した古代豪族尾張氏は藤原氏と外戚関係を持ち三河に拠点を移していくようになった。名古屋城三の丸遺跡では西端部の調査地点で奈良時代を中心とした堅穴建物跡などが確認され集落が営まれていたことが判明している。

11世紀から12世紀にかけて名古屋台地上には那古野荘という荘園が成立する。開発領主は「建春門院法花堂領尾張国那古野庄領家職相伝系図」によれば小野法印顕惠とされ、荘域は特定できない。荘内に安養寺が所在したことから現名古屋城域を含むと考えられる。

14世紀代には那古野荘に今川氏が台頭していく。一般に大永4(1524)年頃に今川氏親が那

古野城を築き今川氏敷が入城したといわれるが、永享3(1431)年に那古野今川氏が屋敷を構えた可能性が考えられ、その後今川氏は在国化の傾向を強めた。明応2(1493)年の細川政元の政変後には奉公衆の職務を捨て在地那古野を拠点としたという。

天文7(1538)年(天文元年説もある)に、守護代家の三奉行の一人である織田信秀が那古野城を攻略した。その後は信秀の子織田信長、林秀貞が那古野城を支配していた。那古野城の経緯は詳らかではないが、天正10(1582)年頃と推測されている。中世や戦国時代の屋敷地は、名古屋城三の丸遺跡の中では台地縁辺部を中心に確認されている。特に戦国時代の那古野城関連の遺構が各地点で確認されるようになり、実情が不明であった城郭の構造が徐々に明らかになってきている。

戦国時代において尾張国の政治の中心は清須であったが、徳川家康は慶長14(1609)年に名古屋城築城を決定し翌年に普請を開始した。慶長18(1613)年にはその大略が完成し、三の丸城では多くの武家屋敷が建設された。今回の調査地点では、当初武家屋敷が展開したが、17世紀後半に御屋形と呼ばれる徳川家の親族等が居住した屋敷に変更している。この経緯の詳細については第5章第1節を参照されたい。

明治維新により江戸幕府が解体すると、版籍奉還により名古屋城主徳川義勝は名古屋藩知事になった。名古屋城は1871年(明治4年)に二の丸が兵營となり、1872年(明治5年)には東京鎮台第三分営(後の名古屋鎮台)が城内に置かれた。三の丸は1874年(明治7年)に全城が陸軍省に移管され、今回の調査地点は東練兵場となつた。そして太平洋戦争終戦直前には名古屋陸軍病院第二分院が建造された。



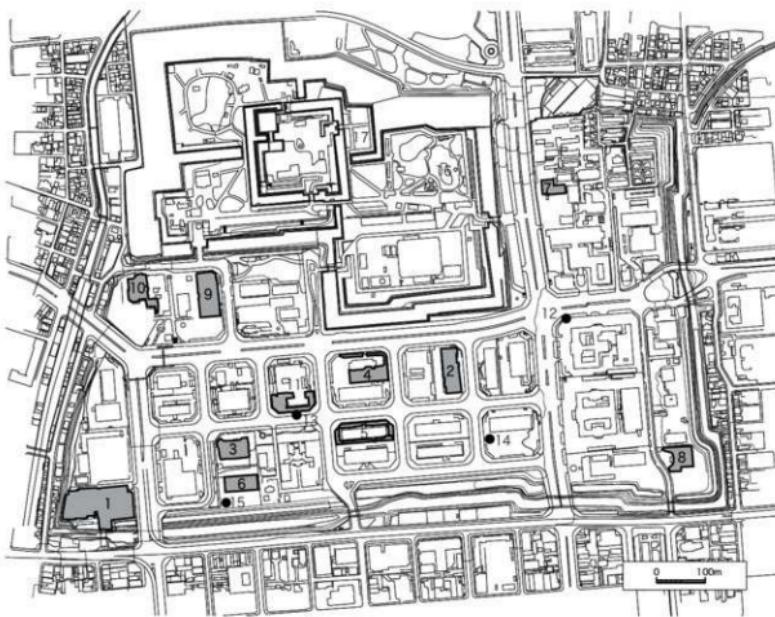
第5図 名古屋城三の丸遺跡の自然立地

名古屋城三の丸遺跡 VII



1. 志賀公園遺跡・志賀城跡 2. 黒川遺跡 3. 緑神社遺跡 4. 西志賀遺跡 5. 田幡城跡 6. 七夕町遺跡 7. 沼玉町遺跡 8. 片山神社遺跡
 9. 東芳野町遺跡 10. 長久寺遺跡 11. 東二葉町遺跡 12. 西二葉町遺跡 13. 名古屋城三の丸遺跡 14. 名古屋城天守閣貝塚
 15. 押切城跡 16. 那古野城跡 17. 善光院跡 18. 堀下遺跡 19. 名古屋城跡 20. 小鳥町遺跡 21. 伏見遺跡 22. 白山神社古墳
 23. 白川公園遺跡 24. 穂三藏遺跡 25. 南大津遺跡 26. 伯栄川遺跡 27. 日出神社古墳 28. 小林城跡 29. 那古野山古墳
 30. 清間神社古墳 31. 岩井酒貯塚 32. 西脇町遺跡 33. 旗瀬町遺跡 34. 曜城跡 35. 大須二子山古墳

第6図 周辺遺跡分布図



第7図 これまでの発掘調査位置図

1. 愛知県図書館地点『名古屋城三の丸遺跡I』県埋文
2. 名古屋第一地方合同庁舎地点『名古屋城三の丸遺跡II』県埋文
3. 簡易家庭裁判所地点『名古屋城三の丸遺跡III』県埋文
4. 愛知県警察本部地点『名古屋城三の丸遺跡IV』県埋文
5. 愛知県三の丸宇舎地点『名古屋城三の丸遺跡V』県埋文
6. 地裁簡裁合同宇舎地点『名古屋城三の丸遺跡VI』県埋文
7. 国立名古屋病院地点『名古屋城三の丸遺跡VII』県埋文
8. 名古屋市公館地点『名古屋城三の丸遺跡I・2・3次調査の概要』市教委
9. 中部電力地下変電所地点『名古屋城三の丸遺跡第4・5次発掘調査報告書—遺構編・物語編』市教委
10. 名古屋市美術館地点『名古屋城三の丸遺跡第6・7次発掘調査報告書』市教委
11. 名城病院地点『名古屋城三の丸遺跡第8・9次発掘調査報告書』市教委
12. 地下鉄出入り口地点『名古屋城三の丸遺跡第10次発掘調査概要報告書』市教委
13. 下水道管築造地点『下水道工事に伴う埋蔵文化財報告書』市教委
14. 無線統制室地点『代替無線統制室建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』県教委
15. 名古屋城二の丸庭園地点『名古屋城二の丸庭園発掘調査概要報告書』市教委
17. 名古屋城本丸東門地点: 市教委

第2表 整理スタッフ

調査研究補助員	安達崇子 水野多菜
整理補助員	加藤和枝 上岡知春 小森奈菜枝 山下明美

第3表 名古屋城関連年表

1582年（天正10年）この頃那古野城廃城となる（『金城温古録』）	1739年（元文4年）宗春が蟄居を命じられ、宗勝が封を繼ぐ、候約令を出す
1607年（慶長12年）徳川義直が甲斐から尾張（清須）に移封（『当代記』他）	1744年（延享元年）松平君山が深井丸に菜園を設ける
1608年（慶長13年）徳川秀忠、義直へ尾張一円領地支配を認める（『秀忠判物』）	1745年（延享2年）町屋に桟瓦葺を許す
1609年（慶長14年）徳川家康が徳川義直を従え清須城に入り名古屋城築城を決定する（『事蹟録』他）	1761年（宝曆11年）宗勝死去、宗睦が封を繼ぐ
1610年（慶長15年）徳川家康が名古屋に至り牧長勝の縄張りを決定する（『尾陽始君知』）	1799年（寛政11年）宗睦死去
本丸・二の丸・西丸・深井丸の石垣完成（『当代記』）	1800年（寛政12年）一橋家から斎朝が封を繼ぐ
1611年（慶長16年）本丸・二の丸・西丸・深井丸の作事	1822年（文政5年）二の丸御殿大改造、南御庭がなくなり、東御庭を増造
1612年（慶長17年）天守作事完了、城下の検地と町割り	1827年（文政10年）斎朝が家督を斎温に譲る
1613年（慶長18年）名古屋越、諸士・町人の住宅定まる	1834年（天保5年）下深井御庭に達磨町（門前町）設立、ついで杉股町（宿場町）を造営
1615年（元和元年）義直が本丸御殿に移徒（『敬公実録』）	1839年（天保10年）斎温死去、田安家から斎莊が封を繼ぐ
1617年（元和3年）二の丸殿合作事、尾張藩政の各機関の整備	1842年（天保13年）斎莊死去
1618年（元和4年）深井丸（下深井御庭）完成（『事蹟録』）	1845年（弘化2年）養子慶誠封を繼ぐ
1620年（元和6年）義直が二の丸に移徒（『敬公実録』）	1849年（嘉永2年）慶誠江戸藩邸で死去、慶勝封を繼ぐ
1650年（慶安3年）義直が江戸藩邸で死去、光友が封を繼ぐ	1858年（安政5年）慶勝退隠、茂徳封を繼ぐ
1663年（寛文3年）二の丸の成瀬・竹腰邸を三の丸に移転	1863年（文久3年）茂徳隠居して家督を義宣に譲る
1679年（延宝7年）この頃御下屋敷を設ける	1869年（明治2年）版籍奉還により義勝名古屋藩知事になる
1693年（元禄6年）光友が家督を世子綱誠に譲る	1871年（明治4年）廢藩置県、二の丸が兵營になる。
1699年（元禄12年）綱誠が江戸藩邸で死去、吉通が封を繼ぐ	1872年（明治5年）東京鎮台第三分営（後の名古屋鎮台）城内に置かれる
1713年（正徳3年）吉通死去、五郎太襲封するが3ヵ月後に死去、繼友が封を繼ぐ	1874年（明治7年）三の丸全城を陸軍省に移管
1730年（享保15年）繼友急逝、弟宗春が封を繼ぐ	1889年（明治22年）名古屋市市制施行、下深井御庭を小牧山と交換し陸軍省に移管
1731年（享保16年）宗春が入府して自由化政策を実施、名古屋城下が発展	1893年（明治26年）本丸と西丸の一部を宮内省に移管、名古屋離宮となる
	1930年（昭和5年）宮内省から名古屋城を名古屋市に下賜、名古屋城24棟を国宝に指定
	1945年（昭和20年）空襲を受け、名古屋城本丸他を焼失

『日本名城集成 名古屋城』より抜粋

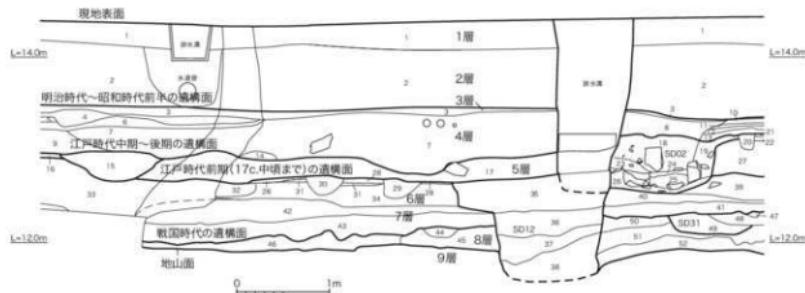
第2章 遺構

第1節 基本層序と遺構の概要

今回の調査区における土層堆積状態は地点によって異なるが、遺構との対応関係を比較的良好に把握できる南壁西部の土層断面（第8図）でみると、上位から1層灰白色礫層、2層にぶい黄褐色中粒砂層、3層褐灰色砂、4層暗褐灰色砂、5層灰黃褐色細粒砂、6層褐色細粒砂、7層黒褐色シルトまたは細粒砂、8層黒褐色シルト、9層にぶい黄褐色シルトの順に堆積する。

このうち1層と2層は昭和20年以降の堆積と

思われ、国立名古屋病院の建設などに伴う整地層と推測される。3層はその上層で近代の遺物が散見されることから、明治時代以降に陸軍第三師団が設置された時の面と考えられる。この3層は層厚が約2cmと非常に薄く、硬く締まった状態で検出されていることから、鍛兵場の硬化面と推測される。4層はシルトなどがブロック状に混在した斑状であり、近世の遺物をわずかに含む土層である。層厚は30～80cmと比較的厚いことか



第1層 N7/0 灰白色礫層 中粒砂含む 現地表面	第27層 10YR4/4 褐色細粒砂 炭化物混じる
第2層 10YR5/4 にぶい黄褐色中粒砂 硬多く混じる	第28層 10YR4/4 暗褐色細粒砂
第3層 10YR6/1 褐色細粒砂 硬多く含む	第29層 10YR4/2 灰褐色細粒砂 炭化物混じる
第4層 10YR3/4 暗褐色細粒砂 硬混じる	第30層 10YR3/4 暗褐色細粒砂 褐灰色シルト混じる
第5層 10YR3/4 暗褐色細粒砂 黒色土粒、炭化物混じる	第31層 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂
第6層 10YR2/2 黑褐色細粒砂 硬多く混じる	第32層 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 粘土塊混じる
第7層 10YR5/2 黑褐色細粒砂 硬化物多く混じる	第33層 10YR4/4 褐色細粒砂
第8層 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂 硬多く混じる 炭化物少量混じる	第34層 10YR4/5 褐色細粒砂 粘土塊混じる
第9層 10YR3/3 暗褐色細粒砂 黑色土粒、炭化物混じる	第35層 10YR5/3 にぶい黄褐色砂粒
第10層 10YR3/4 暗褐色細粒砂 硬、地上混じる 炭化物少量混じる	第36層 10YR3/2 黑褐色シルト
第11層 10YR4/2 にぶい黄褐色細粒砂 細粒砂混じる	第37層 10YR3/2 黑褐色シルト 細粒砂混じる
第12層 10YR3/2 黑褐色細粒砂	第38層 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘土塊混じる
第13層 10YR3/2 黑褐色細粒砂 炭化物混じる	第39層 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 炭化物混じる
第14層 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 炭化物少量混じる	第40層 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂
第15層 10YR2/2 黑褐色細粒砂 硬多く混じる	第41層 10YR4/2 灰褐色細粒砂 炭化物混じる
第16層 10YR3/4 暗褐色細粒砂 粘土層混じる	第42層 10YR2/3 黑褐色シルト 細粒砂、炭化物、炭化物混じる
第17層 10YR4/2 黄褐色細粒砂 硬混じる	第43層 10YR2/3 黑褐色細粒砂
第18層 7.5YR3/3 暗褐色細粒砂 黄褐色土粒、炭化物混じる	第44層 10YR2/1 黑褐色細粒砂 赤褐色土粒混じる
第19層 10YR2/3 黑褐色細粒砂 硬多く、炭化物混じる	第45層 10YR3/3 暗褐色細粒砂 黄褐色シルト層混じる
第20層 10YR4/5 にぶい黄褐色細粒砂 炭化物混じる	第46層 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 黄褐色シルト、粘土層混じる
第21層 10YR3/3 暗褐色細粒砂 赤系褐色土粒混じる	第47層 10YR5/1 黄褐色細粒砂 炭化物混じる
第22層 7.5YR4/6 暗褐色細粒砂 炭化物混じる	第48層 10YR2/2 黑褐色細粒砂 硬化物、赤褐色泥炭混じる
第23層 7.5YR3/3 暗褐色細粒砂 赤褐色焼土混じる	第49層 10YR3/4 暗褐色細粒砂 黄褐色、炭化物混じる
第24層 7.5YR4/6 褐色砂粒 暗褐色細粒砂混じる	第50層 10YR2/2 黑褐色シルト 粘土、黄褐色土粒、炭化物混じる
第25層 10YR3/3 暗褐色砂粒 炭化物少量混じる	第51層 7.5YR3/2 黑褐色シルト 細粒砂、赤褐色砂混じる
第26層 10YR4/4 褐色砂粒 硬多く量に混じる	第52層 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 細粒砂混じる 炭化物少量混じる

第8図 基本土層断面図（南壁）

ら、江戸時代に行われた大規模な整地層と考えられる。5層は4層と同様シルトと砂質土の斑土であり、出土遺物からみて江戸時代前期の整地層と判断される。6層も4層と同様シルトと砂質土の斑土であり、出土遺物からみて戦国時代の整地層と推測される。7層も4層と同様シルトと砂質土の斑土となるが部分的に認められる堆積であり状況は詳らかではない。出土遺物からみて古代から中世前半にかけての堆積と思われるが、整地層と断定するには至らない。8層は黒褐色シルトで旧表土に相当する堆積物と考えられる。9層は名古屋台地の基盤層の最上層と推測される堆積で人為的な攪拌は認められない。

このようにみると、調査区南西部においては、3層上面が明治時代以降の遺構面、4層上面が江戸時代中後期の遺構面、5層上面が江戸時代前期の遺構面、6層上面が戦国時代の遺構面、7層または8層上面が室町時代以前の遺構面にそれぞれ対応すると思われ、少なくとも合計5面の遺構面が存在したと推測される。

実際の発掘調査では、1～7層までが整地層であり面の把握が困難であることや地点により堆積層が大きく異なっていることから、各5面の遺構面を平面的に認識することは難しくまた調査区全体で5面の遺構面が均一に識別できる形で展開したとは思われない。また、これに加え、遺構面の把握が難しい状況であったため、調査上の失敗を犯したことでも遺構面を正しく平面的に捉えられなかった一因である。実際に調査当初の表土掘削の際に第9図に示した範囲で3層と4層の一部を重機で掘削してしまうというミスを犯している。

このような諸般の理由で、発掘調査は便宜上3面で調査を実施した。このうち表土掘削で一部掘り過ぎた部分や遺構の重複が少ない部分については1面または2面で調査した範囲が存在する。当然上記のような事情から、調査時の面は正しく均質な時期の遺構が検出されたとはいえないの

で、各面の遺構は複数の時期にまたがって検出されていると認識しなければいけないものである。卷末に示した各面の遺構図はこうした発掘調査時の検出状態をそのまま表現しているので、この点を留意願いたい。

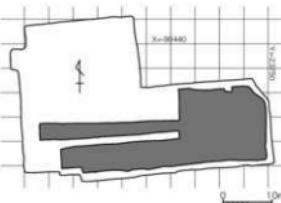
さて、このような形で検出された遺構や遺物は極少量の古い時期の遺物が存在する他は、古墳時代中期から昭和時代前半の範囲に広く展開している。報告に際してはこれらを大きく時期別に整理しておく方が、記述においてあるいは利用に際しても便利であると考え、遺構や遺物の種別が大きく変化する両期を認識して大きく4期に区分したい。

A期：古墳時代中期～平安時代（5世紀～12世紀）

この段階の遺構は竪穴建物跡と掘立柱建物跡、土坑などによって構成される。井戸や溝などは顕著な形では確認されない。また遺物は多くの須恵器、土師器、灰釉陶器などの焼き物と一部の石製品で構成される。

B期：鎌倉時代～戦国時代（13世紀～16世紀）

この段階の遺構は掘立柱建物跡、井戸、土坑などによって構成される。竪穴建物跡がなくなり、井戸や溝が出現することが大きな特徴である。また遺物は多くの陶器と土師器類の他、一部の石製品・金属製品・木製品で構成される。金属製品が一定量認められるようになるのが特徴で、木製品の出現は潜水状態の環境を維持し続けた井戸などの遺構が存在することが大きく影響しているといえる。



第9図 包含層掘り下げ範囲

C期：江戸時代（17世紀～19世紀中頃）

この段階の遺構は掘立柱建物跡と礎石建物跡、井戸、溝、池、地下室、土坑など多種の遺構によって構成される。石材を豊富に使用した遺構が展開した点に大きな特徴を見出すことができる。また遺物はこれまでの陶器や土師器に加え一定量の磁器が加わり、これに石製品・金属製品・木製品などが加わる。特に金属製品や木製品は種類と出土量ともに増加し、豊かな物質文化が展開したこというかがい知れる。

D期：明治時代～昭和時代前半（19世紀後半～20世紀前半）

この段階の遺構は礎石建物跡と井戸・土坑など

によって構成される。ただし、この時期は調査当初には調査の対象として視野に入れていなかったため、いくつかの遺構を見逃している可能性が高いことに注意しておきたい。また遺物は多くの陶磁器類・ガラス製品・金属製品が認められ、木製品・革製品・石製品など多様な材質の遺物で構成される。ガラス製品と金属製品の比重が非常に高まったことが特徴といえる。

以上、4期の時期区分にしたがってこれから遺構と遺物の記述を進めて行きたい。なお、各時期はさらに細分することが可能であるが、ここでは示さず各時期毎に分析していく。

第2節 A期の遺構

第1項 概要

A期は古墳時代中期から平安時代までの時期である。この段階に属する遺構には、竪穴建物跡、掘立柱建物跡、掘立柱柵列跡、土坑などが存在する。この時期の遺構はさらに次の5段階に細分が可能である。

A-1期：5世紀後半を中心とする段階。東山11号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土する時期。

A-2期：6世紀前半の段階。東山61号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土する時期。

A-3期：7世紀を中心とする段階。東山44号窯式期前後の猿投窯系須恵器などが出土する時期。

A-4期：8世紀を中心とする段階。岩崎17号窯式期から折戸10号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土する時期。

A-5期：9世紀を中心とする段階。黒笹90号窯式期の灰釉陶器などが出土する時期。

以下、種別に遺構を紹介する。

第2項 竪穴建物跡

今回の調査で確認された竪穴建物跡は全部で8棟存在する。黒褐色砂質土の旧表土を掘削して構築されたと思われるが、旧表土と埋土との区別は難しい場合が多い。また、中世以降の擾乱などが激しいことや竪穴建物跡の重複が認められるなどの悪条件も重なり、平面プランの検出は困難を極めた。平面形はおおよそ隅丸長方形で、旧表土などの遺存状況が悪いために、遺構の深さは概して非常に浅くなっている。以下、個別に説明を加えていく。

SB02（第10図）

調査区の西部で確認された隅丸長方形の竪穴建物跡で、西辺は明瞭な掘肩を確認することができます

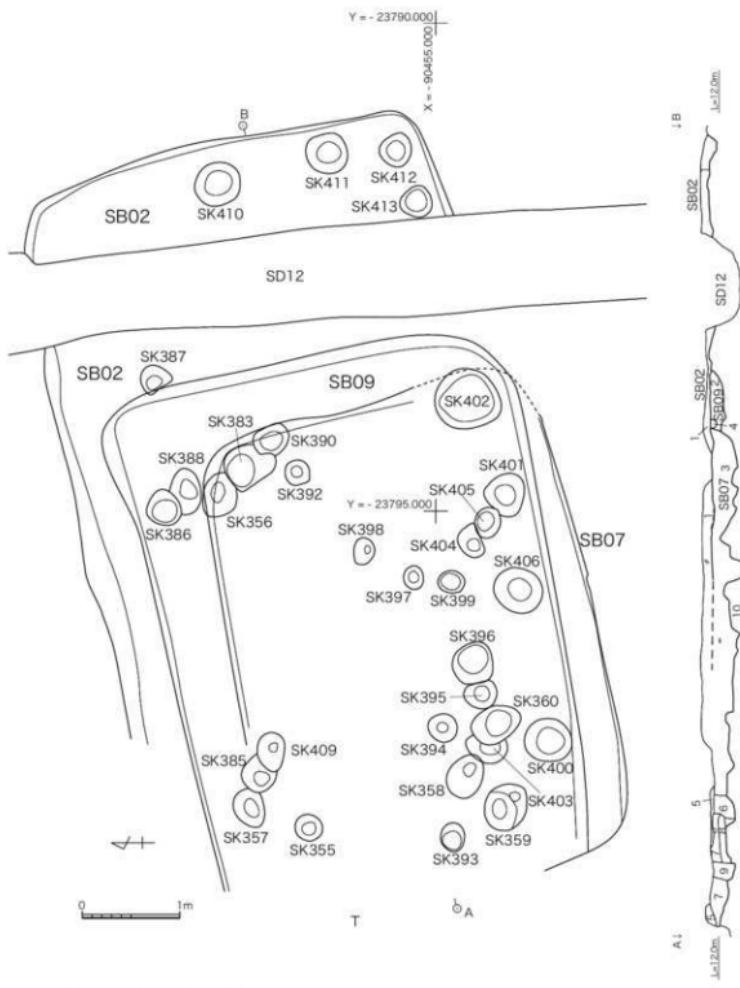
きなかった。規模は5.42m以上×4.46mで、深さは最大で12cmを測る。平面的にも断面的にもSB04、SB07、SB09を切る状態が確認された。特にSB07とSB09とはほぼ重複した形で検出されており、SB02はこれらの建て替えられた竪穴建物群の最終段階の竪穴建物跡と推測される。主柱穴はSD12などの擾乱も存在するため明確に確認できなかった。SK410～413はSB02の補助的な柱穴であった可能性が考えられる。埋土は黒褐色砂質土の斑土が主体で、最下層では白色のシルトが薄く堆積していた。この白色シルトは床面整地土（貼床）と考えられる。埋土には焼土粒が混入していたが、カマドや炉などの痕跡は認められなかった。一部にB期の遺物が混入するものの、折戸10号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、8世紀後半に廃絶した竪穴建物跡と推定される。

SB07（第10図）

調査区の西部で確認された隅丸長方形の竪穴建物跡で、北西隅を確認することができなかつた。規模は5.08m以上×3.80mで、深さは最大で25cmを測る。SB02に切られ、SB09を切った状態が確認された。特にSB09とはかなり近接した状態で重複している。主柱穴はSK355・SK400・SK401が該当すると考えられるが、北東隅の柱穴を確認することはできなかつた。埋土は黒褐色砂質土の斑土が主体で、焼土粒などが混入していた。カマドや炉、周溝などの内部構造は認められなかつた。岩崎1号窯式期または高蔵寺2号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、8世紀中頃に廃絶した竪穴建物跡と推定される。

SB09（第10図）

調査区の西部で確認された隅丸長方形の竪穴建物跡で、西辺は明瞭な掘肩を確認することができます



SB02.09東西セクション上層段階		
第1層	10YR2/2 黒褐色細粒砂	粘土・塊土混じる
第2層	10YR3/1 黃褐色細粒砂	粘土・塊土混じる
第3層	10YR2/2 黑褐色細粒砂	粘土・塊土混じる
第4層	10YR6/2 黑黃褐色シルト	
第5層	2.5Y5/2 稼灰黄色細粒砂	中粒径混じる、揮少 黏泥混じる
第6層	10YR3/1 黑褐色細粒砂	粘土・塊土混じる
第7層	2.5Y2/1 黑褐色細粒砂	粘土混じる
第8層	2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土	顆粒砂混じる
第9層	10YR6/1 黑褐色細粒砂	粘土混じる
第10層	10YR6/6 明黄褐色粘土(地山)	

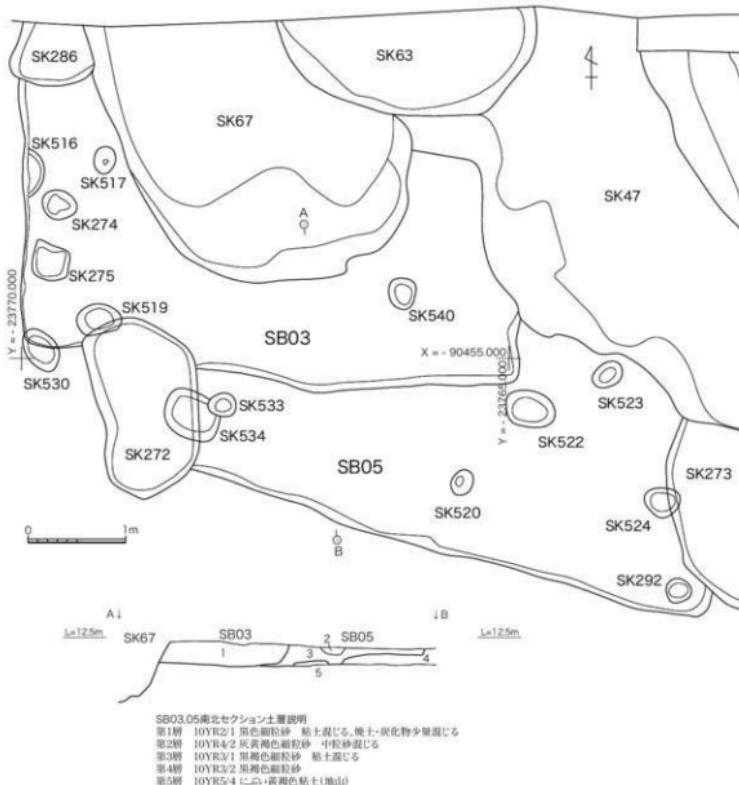
第10図 竪穴建物跡 SB02・SB07・SB09 遺構図

なかった。規模は 5.38m 以上 × 4.09m で、深さは最大で 14cm を測る。SB02 と SB07 に切られしており、特に SB07 は SB09 よりも深く掘削されているために、埋土はほとんど遺存しない状態であった。状況から見て SB02 などの建て替えられた竪穴建物群の初期段階の竪穴建物跡と推測される。主柱穴はその配置からみて SK402・SK388・SK357・SK359 とここでは推測しておくが、確定的ではない。埋土は黒褐色細粒砂の斑上が主体で、カマドや炉などの痕跡は認められなかった。

埋土がわずかしか遺存しないため出土遺物が非常に少なく、鳴海 32 号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土したが、切り合ひ関係からみて、7 世紀後半に廃絶した竪穴建物跡と推定される。

SB04 (第 12 図)

調査区の中央部のやや西寄りで確認された隅丸長方形の竪穴建物跡で、西辺の一部が SB02 によって切られている。規模は 5.48m × 3.44m で、深さは最大で 26cm を測る。SB08 を切る状態が確認された。主柱穴は SK414・SK420・SK424



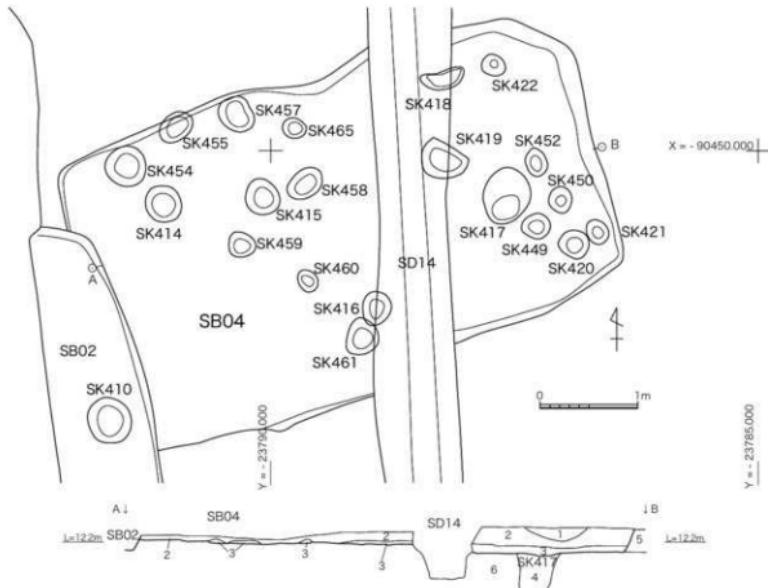
第 11 図 竪穴建物跡 SB03・SB05 遺構図

が該当すると推定され、南西隅の柱穴を特定することはできなかった。埋土は上層が褐灰色細粒砂、下層が黒褐色細粒砂となっている。このうち下層は地山の黄色土粒が混入して薄く堆積していることから、床面整地土（貼床）の可能性が考えられる。埋土上層には焼土粒が混入していたが、カマドや炉などの痕跡は認められなかった。B期以降の柱穴が相当量重複しているために一部にB期以降の遺物が混入するものの、多くの東山44号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、8世紀中頃に廃絶した堅穴建物跡と推定される。

SB08（第13図）

調査区の中央部で確認された少し歪な隅丸長方

形の堅穴建物跡で、西辺は明瞭な掘刷を確認することができなかった。規模は4.94m × 3.56mで、深さは最大で20cmを測り、SB04に切られていた。主柱穴はSK421・SK432・SK427が該当するとして推定され、北西隅の柱穴を特定することはできなかった。北東および南西の主柱穴はSK421・SK427以外にも候補が考えられ、建て直しが行われた可能性が考えられる。埋土は黒褐色細粒砂の斑上が主体であったが、カマドや炉などの痕跡は認められなかった。一部にB期の遺物が混入するものの、黒縁90号窯式期の猿投窯系灰釉陶器などが出土していることから、9世紀後半に廃絶した堅穴建物跡と推定される。



第12図 堅穴建物跡SB04 遺構図

名古屋城三の丸遺跡 VII

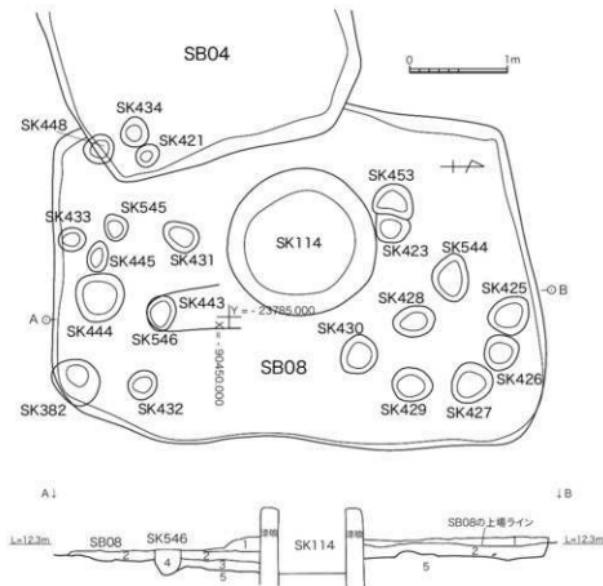
SB03 (第 11 図)

調査区の東部で確認された隅丸長方形の堅穴建物跡で、北半は近世以降の造構に切られ、さらに調査区外にも広がると予測されるため、規模を特定することができなかった。規模は 5.12m × 2.36m 以上で、深さは最大で 23cm を測る。平面的・断面とも SB05 を切る状態が確認された。主柱穴は SK517・SK519・SK540 が該当すると推定され、北辺の柱穴は確認されなかった。SK517 は補助的な柱穴かも知れない。埋土は黒色細粒砂の斑土で炭化物や焼土粒が混入していたが、カマドや炉などの痕跡は認められなかった。高蔵寺 2 号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、8 世紀中頃に廃絶した堅穴建

物跡と推定される。

SB05 (第 11 図)

調査区の東部に所在する隅丸長方形と推測される堅穴建物跡で、南辺のみが明瞭に確認された。規模は 5.52m 以上 × 1.80m 以上で、深さは最大で 21cm を測る。SB03 に切られ、南西隅と南東部がそれぞれ SK272 と SK273 に切られていた。主柱穴は SK533・SK524 が該当すると推定され、北辺の柱穴は確認されなかった。SK520 などは SB05 の補助的な柱穴であった可能性が考えられる。埋土は黒褐色細粒砂の斑土で、カマドや炉などの痕跡は認められなかった。東山 44 号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、7 世紀前半に廃絶した堅穴建物跡と推定される。



第 13 図 堅穴建物跡 SB08 遺構図

SB06（第14図）

調査区の中央部南寄りで確認された隅丸方形の堅穴建物跡である。柱穴が検出されなかったことや規模が小さいことなどの遺構の状態からみて、堅穴建物跡ではなかった可能性が高い。規模は3.10m×2.64mで、深さは最大で17cmを測る。堅穴建物跡どうしの遺構の重複は確認されなかつた。南半部が段差を持って深くなつており、埋土は黒色細粒砂の斑土であった。一方、北半部は埋土が灰黄褐色細粒砂であり、これを床面整地土（貼床）と考えることができる。カマドや炉などの痕跡は認められなかつた。東山61号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、6世紀前半に廃絶した遺構と推定される。

第3項 挖立柱建物跡

今回の調査で確認された挖立柱建物跡は全部で16棟存在する。挖立柱建物跡は全てそれに伴う確実な床面を確認することができたため、建物の時期を決定する重要な床面出土遺物が存在しない。また、多くは各柱穴が同一の遺構面から掘

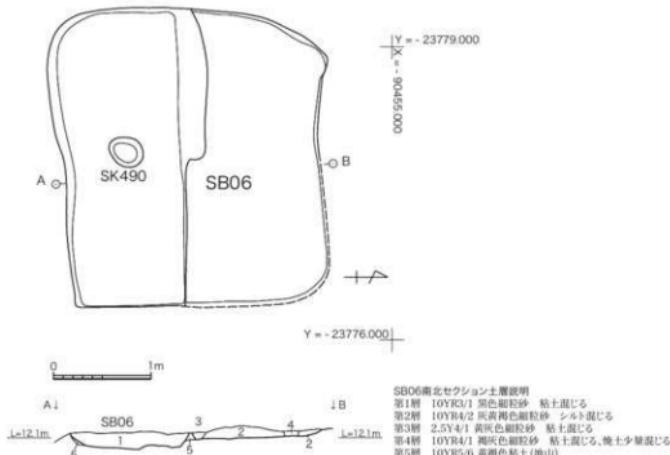
削されたものと断定することも難しい状態である。このため、建物跡の時期は柱穴内出土遺物と柱穴の切り合い関係など様々な情報から総合的に推測せざるを得ない。ここではA期に属すると推測された5棟の掘立柱建物跡を報告する。掘立柱建物跡の平面形は全て長方形を呈しており、庇などの付属施設を伴うものも存在する。以下、個別に説明を加えていく。

SB10（第15図）

調査区の中央部で確認された3間×2間の掘立柱建物跡である。建物規模は5.2m×3.7mを測る総柱建物で、北東隅の柱穴は調査区外に展開すると推測される。当初は埋土が灰黄褐色砂質土であるためB期の遺構と認識していたが、柱穴から出土した遺物を検討するとA期の遺構である可能性が高くなつた。柱穴から岩崎17号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、8世紀中頃に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

SB11（第16図）

調査区の北西部で確認された2間以上×2間の



第14図 堅穴建物跡 SB 06 遺構図

名古屋城三の丸遺跡 VII

掘立柱建物跡で、西辺は調査区外に展開すると推測される。少なくとも東辺と南辺には1間分の底が存在したと見られ、この部分も含めた建物規模は6.8m以上×6.2mである。身舎の規模は4.1m以上×4.4mである。柱穴から東山44号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、7世紀中頃に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

SB12（第16図）

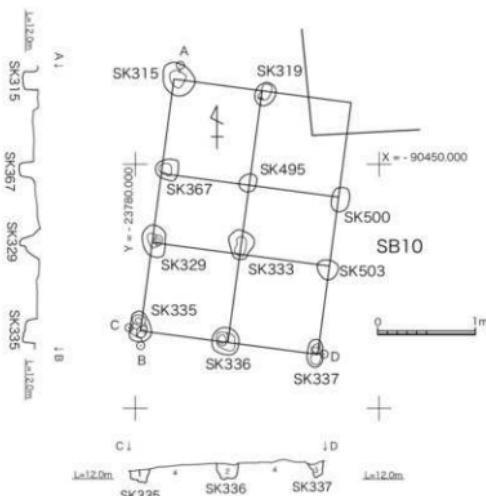
調査区の中央部で確認された2間×1間の掘立柱建物跡で、北東部が調査区外に展開する。建物規模は5.3m×2.5mで、SK322は東柱と推測される。柱穴から黒窯14号窯式期の猿投窯系灰釉陶器などが出土していることから、9世紀中頃に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

SB13（第16図）

調査区の中央部で確認された2間×2間と推測される掘立柱建物跡で、西辺と南辺の柱穴は確認することができなかった。SB13が2間×2間とすれば建物規模は5.3m×3.3mである。柱穴から東山44号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、7世紀中頃に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

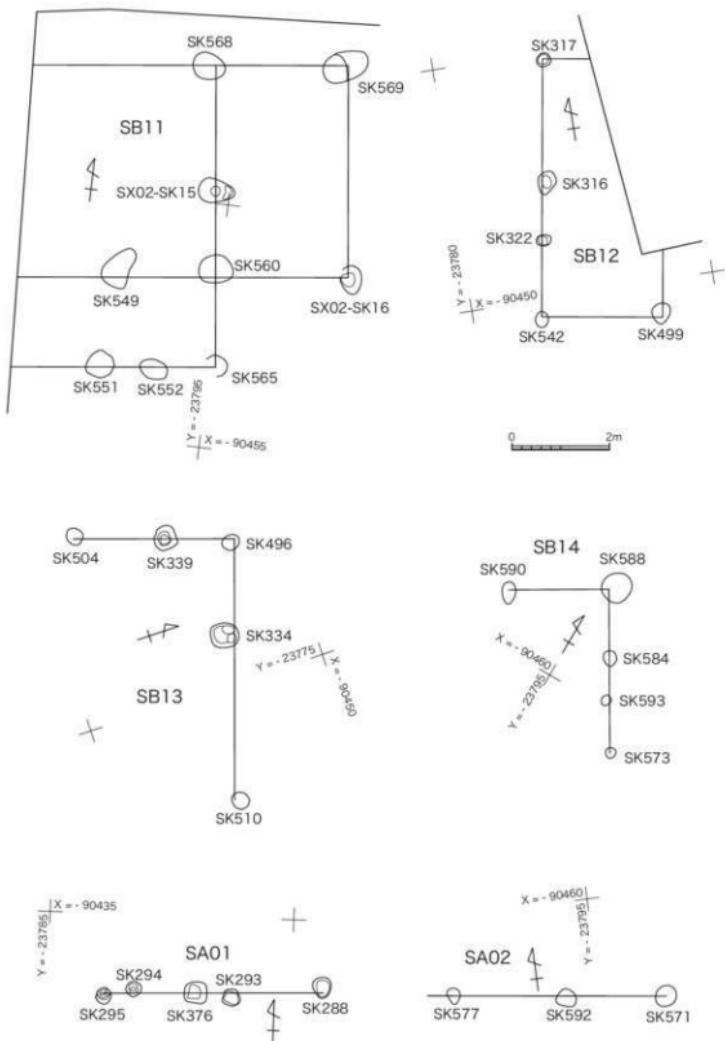
SB14（第16図）

調査区の南西部で確認された1間×3間と推測される掘立柱建物跡で、西辺と南辺の柱穴は発見されなかった。建物規模は3.3m×2.1mである。柱穴から高藏寺2号窯式期の猿投窯系須恵器などが出土していることから、8世紀前半に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。ただし状況から中世まで下る可能性も残されている。



第1図 10Y4/2 黄褐色細粒粘土砂 粘土・黄色土ブロック混じる
第2回 10Y4/2 黄褐色細粒粘土砂 粘土・黄色土混じる
第3回 10Y4/2 黄褐色細粒粘土砂 粘土混じる、黄色土わずかに混じる
第4回 10Y6/6 明黄褐色粘土(地山)

第15図 掘立柱建物跡 SB10 遺構図



第 16 図 挖立柱建物跡 SB11 ~ 14・SA01 ~ 02 遺構図

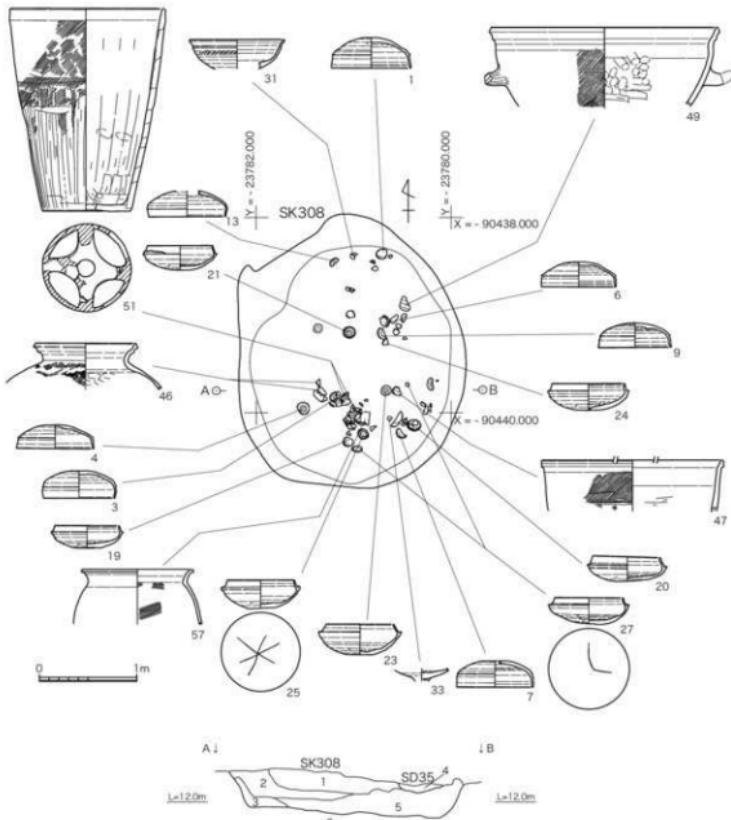
第4項 挖立柱柵列跡

今回の調査で確認された掘立柱柵列跡は全部で9棟存在する。掘立柱柵列跡は、掘立柱建物跡と同様、全てそれに伴う確実な床面を確認することができないし、多くは各柱穴が同一の遺構面から掘削されたものと断定することも難しい状態で

ある。したがって、柵列跡の時期は柱穴内出土遺物と柱穴の切り合い関係など様々な情報から総合的に推測せざるを得ない。ここではA期に属すると推測された2基の掘立柱柵列跡を報告する。

SAO1（第16図）

調査区の北端部で確認された掘立柱柵列跡で、



SK308東西セクション土解説
第1標 7.5YR3/2 墓褐色細粒砂 粘土多く混じる、粘土・炭化物混じる
第2標 7.5YR3/2 墓褐色細粒砂 粘土・粘土・炭化物混じる
第3標 地土(10YR5/4 に近い)黄褐色+7.5YR3/1 黑褐色) 細粒砂 粘土・黑色土混じる、地土わずかに混じる
第4標 10YR3/3 墓褐色細粒砂 粘土・黄色シル・地土・炭化物混じる
第5標 7.5YR2/3 墓褐色細粒砂 粘土多く混じる、炭化物・粘土・黑色土混じる
第6標 10YR6/6 明黄褐色粘土(地山)

第17図 土坑SK308遺物出土状態図

2間分 (4.6m) が確認された。SK294・SK293は束柱と推測される。柱穴から出土した遺物からは時期を詳細には特定できない。ただし位置がSD23と重複するためSD23とはあまり遡らない時期の遺構である可能性は考えられる。

SA02 (第 16 図)

調査区の南西部で確認された掘立柱柵列跡で、2間分以上 (4.4m以上) が確認された。柱穴から黒窯 90 号窯式期の猿投窯系灰釉陶器などが出土していることから、9世紀中頃に廃絶した掘立柱柵列跡と推定される。

第 5 項 土坑

今回の調査で確認された A 期に属すると推測される土坑は全部で数十基存在する。ここでは特徴的な土坑を報告する。

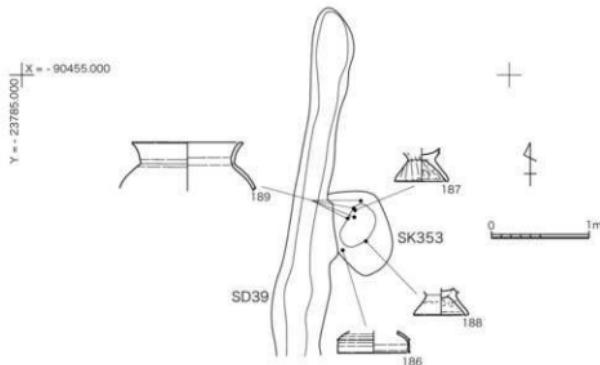
SK308 (第 17 図)

調査区の北東部で確認された土坑で、規模は 2.73m × 2.32m、深さは最大で 43cm を測る。

平面プランは少し歪な円形を呈し、断面形は鉢鉢状となっている。SD35 に切られている。土坑埋土から多量の須恵器などの遺物が出土した。これらの須恵器は東山 44 号窯式期から東山 50 号窯式期に属する資料が大半を占めていることから、7世紀中頃に多量の須恵器を投棄した土坑と推定される。発掘調査の過程で遺物の出土量が多く特殊な遺構と判断されたため、土層観察用ベルト部分についてのみ 1mm メッシュの篩別作業を実施した。この結果土製白玉や石製白玉、土製勾玉などを検出することができた。本来はこのような微細な遺物がもう少し多く存在した可能性が考えられる。

SK353 (第 18 図)

調査区の北東部で確認された 0.88m × 0.54m を測る土坑である。平面プランは歪な円形状を呈しており、SD39 に切られている。土坑埋土から土師器台付瓶甌や須恵器杯蓋などの遺物が出土した。5世紀後半に比定される。



第 18 図 土坑 SK353 遺物出土状態図

第3節 B期の遺構

第1項 概要

B期は鎌倉時代から戦国時代まで（13世紀～16世紀）の時期である。この段階の遺構には掘立柱建物跡、井戸、溝、土坑などが存在する。この時期の遺構はさらに4段階に細分が可能である。

B-1期：13世紀中葉を中心とする段階。尾張型山茶碗第7～8型式などが出土する時期。

B-2期：14世紀から15世紀中頃までの段階。東濃型山茶碗大烟大窓式～脇之島窓式などが出土する時期。

B-3期：15世紀後半の段階。東濃型山茶碗生田窓式や古瀬戸後IV期古段階の瀬戸窓産陶器などが出土する時期。

B-4期：15世紀後葉から16世紀中頃までの段階。古瀬戸後IV期新段階から大窓第1段階までの瀬戸美濃窓産陶器などが出土する時期。

B-5期：16世紀中葉の段階。大窓第2段階の瀬戸美濃窓産陶器などが出土する時期。

以下、種別に遺構を記述する。

第2項 掘立柱建物跡

この段階に属すると推測される掘立柱建物跡は全部で6棟存在する。A期の遺構で記述したように、掘立柱建物跡は全て時期を特定することが難しい状態である。加えてこの段階に属すると考えられた掘立柱建物跡の柱穴は規模が小さく柱穴がきちんと並ばない傾向が見られる。建物の形状や規模はなお検討を要する状態といえる。以下、個別に説明を加えていく。

SB15（第19図）

調査区の南東端部で確認された2間以上×1間の掘立柱建物跡で、東部は調査区外に展開すると推測される。建物規模は4.2m以上×4.1mである。柱穴から尾張型山茶碗第6型式の碗などが出土していることから、B-1期（13世紀中頃）に廃

絶した掘立柱建物跡と推定される。

SB16（第19図）

調査区の中央部で確認された1間以上×1間の掘立柱建物跡で、北東部が調査区外に展開する。建物規模は4.3m以上×3.0mである。柱穴から山茶碗と思われる陶器片がわずかに出土していることから、古代末から中世に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

SB17（第19図）

調査区の中央部で確認された3間以上×1間と推測される掘立柱建物跡で、北東部が調査区外に展開する。建物規模は6.1m以上×3.0mである。柱穴から東濃型山茶碗の破片などが出土していることから、B-3～4期（15世紀から16世紀前葉）に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

SB18（第19図）

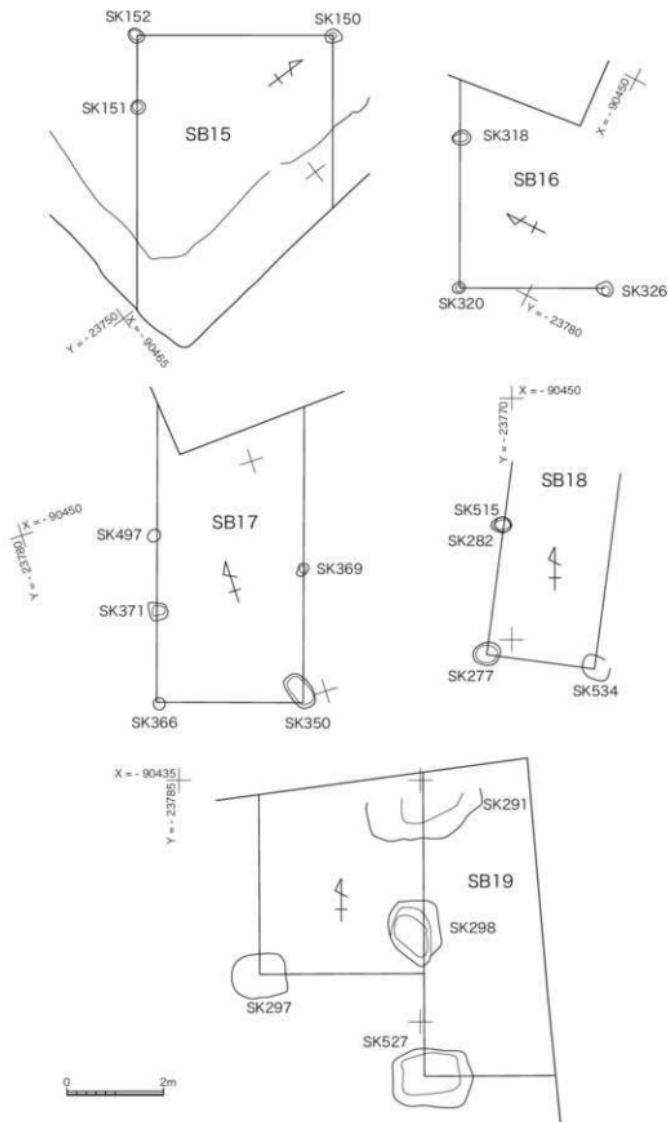
調査区の中央部東寄りで確認された1間×2間以上と推測される掘立柱建物跡で、北辺の柱穴は発見されなかった。建物規模は2.8m以上×2.2mである。柱穴から大窓前半の瀬戸美濃窓産陶器などが出土していることから、B-5期（16世紀中葉）に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

SB19（第19図）

調査区の北端部で確認された2間以上×1間以上と推測される掘立柱建物跡で、南西隅部のみが検出された。建物規模は6.4m以上×2.7m以上である。SB19はこの時期の他の掘立柱建物跡と比べて非常に柱穴の規模が大きい点が特徴である。SK297の存在から西側に庇が付く可能性も考えられる。柱穴から古瀬戸末段階の瀬戸美濃窓産陶器などが出土していることから、B-3期（15世紀後半）に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

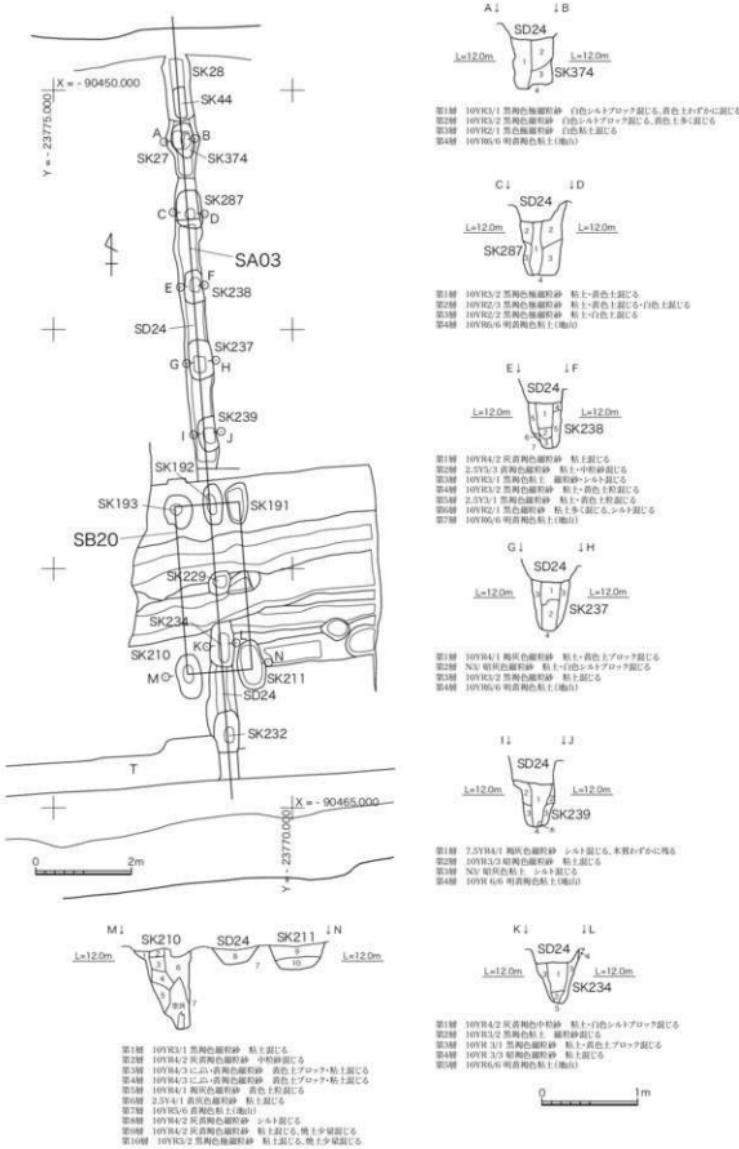
SB20（第20図）

調査区の東半部で確認された1間×1間の掘立柱建物跡で、建物跡の中央部を南北にSA03およ



第19図 挖立柱建物跡 SB15～19 遺構図

名古屋城三の丸遺跡 VII



第 20 図 振立柱柵列跡 SA03 遺構図

びSD24が走っている。建物規模は $3.5m \times 1.3m$ と小型である。柱穴の平面形は長楕円形を呈しその深さは約50cmと深い点が特徴である。SA03またはSD24に付随する建物跡と想定するならば柵または垣などの遮蔽施設に伴う門である可能性が高い。柱穴から古瀬戸末段階の瀬戸美濃窯産陶器などが出土したが、SA03・SD24と一緒に遺構と考えるならばB-5期（16世紀中葉）に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

第3項 掘立柱柵列跡

今回の調査で確認された9棟の掘立柱柵列跡のうち、B期に属すると考えられるものは3棟である。掘立柱建物跡と同様、時期を断定することは難しいが、柱穴内出土遺物と柱穴の切り合い関係など様々な情報から推測した。ここでは個別に報告する。

SA03（第20図）

調査区の中央部で確認された掘立柱柵列跡で、10間分（15.2m）以上が確認された。柱穴はSD24内に平行して存在するため、いわゆる布掘り状の柵列と想定される。柱穴の平面形は隅丸長方形を呈し、埋土の断面観察から柱の痕跡を確認することができた。柱穴およびSD24から大窯第2段階に属する瀬戸美濃窯産陶器などが出土していることから、B-5期（16世紀中葉）に廃絶し

た掘立柱柵列跡と推定される。なお、柵列の南部でSB20が付随していると考えられる。

SA04（第21図）

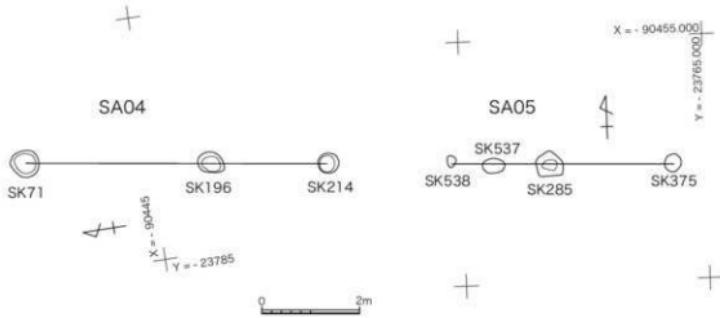
調査区の中央部北半で確認された掘立柱柵列跡で、2間分（6.2m）が確認された。柱穴から古瀬戸後期末段階に属する瀬戸美濃窯産陶器などが出土していることから、B-3期（15世紀後半）に廃絶した掘立柱柵列跡と推定される。

SA05（第21図）

調査区の東半部で確認された掘立柱柵列跡で、2間分（4.6m）が確認された。SK537は柄柱であった可能性が考えられる。SA04の南部には並行してSD17などが存在する。柱穴から大窯前半の瀬戸美濃窯産陶器などが出土していることから、B-5期（16世紀中葉）に廃絶した掘立柱柵列跡と推定される。

第4項 井戸

今回の調査で確認された地下水を汲み取るための掘り抜き井戸は全部で6基存在する。このうちB期に属する井戸は4基を数える。この時期の井戸は井戸側に石材や木材の構造物を持たないいわゆる素掘り井戸である。井戸の形状は、上位が広く下位が狭い逆円錐形で、深さは遺構検出面から2m以上を測る。井戸の完全掘削作業は危険を伴うため、遺物の大量出土を伴わない限り、あ



第21図 掘立柱柵列跡 SA04・05 遺構図

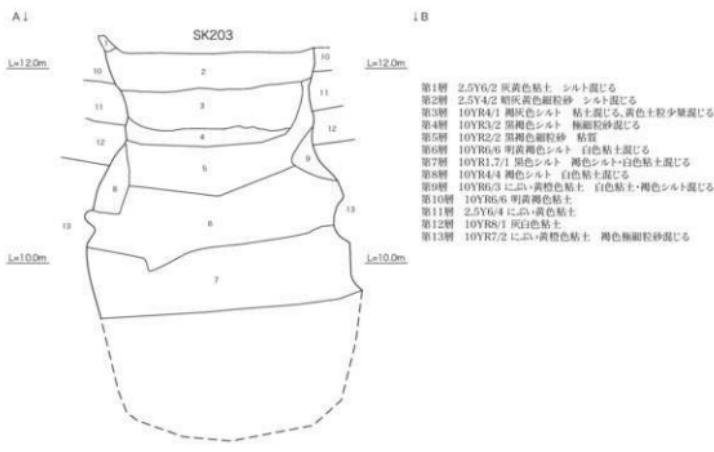
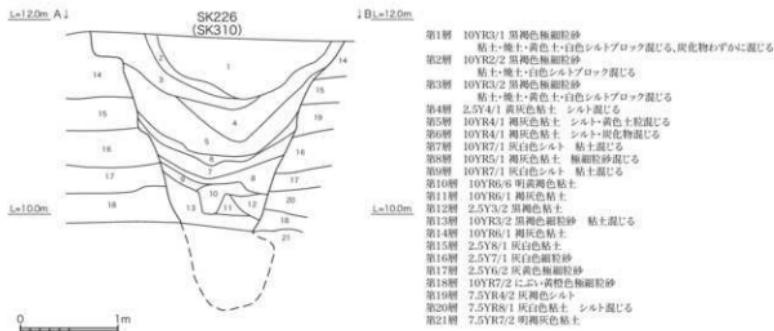
名古屋城三の丸遺跡 VII

る深度以上の調査は重機による断ち割り調査を実施した。しかしながら一部の井戸については最深部まで調査が達しなかったものもあることをあらかじめ断っておきたい。ここでは個別に事例を報告する。

SK226 (第 22 図)

調査区の南西部で確認された素掘り井戸である。平面形は 2.98m × 2.59m の歪な楕円形で、深さは造構検出面から最大で 278cm を測る。標高 9m 強で涌水層に達したと推測され、断面形は

三角形状であるが、下部で一部の壁が崩落している。埋土は黒褐色細粒砂に粘土やシルトが混入する斑土となっている。土層断面からみて、井戸廃絶に際して斑土を埋め立て、その後埋め立て土が陥没した際に再度埋め立て整地されたものと推測される。井戸埋土中位から数点の完形に近い状態の山茶碗などの遺物が出土している。これらは尾張型第 7 ~ 8 型式に属する山茶碗であることから、B-1 期 (13 世紀中頃) に廃棄された井戸と推定される。なお、上層を SK226、下層を



第 22 図 井戸 SK226・SK203 土層断面図

SK310として掘削した。

SK203（第22図）

調査区の中央部南寄りで確認された素掘り井戸で、平面形は $2.27m \times 1.96m$ の楕円形となっている。最深部には確実には達していないが、深さは遺構検出面から $264cm$ を測ると思われ、標高 $9m$ 弱で湧水層に達したと推測される。断面形は箱形となっているが、下半部で一部の壁が崩落したために袋状に広がっていた。埋土は黒褐色細粒砂に粘土やシルトが混入する斑土となっている。土層断面からみて、井戸廃絶時に斑土を含入りに順に埋め立てて整地されたものと推測される。ただし、SK203の埋め立て土は後に陥没したと思われ、実際に江戸時代に構築された石組溝SD01がこの陥没によって一部が崩壊している。埋土から灰釉陶器や山茶碗の他に土師器内壺型羽釜などの遺物が出土していることから、B-2期（14世紀中頃）に廃棄された井戸と推定される。

SK147（第23図）

調査区の東端部で検出された素掘り井戸である。平面形は $3.91m \times 3.71m$ の楕円形で、深さは遺構検出面から最大で $424cm$ を測ることから、標高 $8m$ 付近で湧水層に達したと推測される。断面形は三角形状であるが、標高 $10m$ 付近で土壁が崩落していた。埋土は黒褐色細粒砂に粘土やシルトが混入する斑土となっている。土層断面からみて、中位までは一気に斑土を埋積させ、上位を互層に埋め立てた状況を読み取れるが、それでも後世に陥没したと思われる。互層に堆積した埋土から多量の完形に近い状態の土師器皿などの遺物が出土しており、これらの遺物からB-4期（15世紀後葉）に廃棄された井戸と推定される。同じ器種の一括大量廃棄の状況から見て、井戸廃絶の際に行われた儀礼の痕跡であった可能性も考えられる。

SK146（第24図）

調査区の北東端部で確認された素掘り井戸であ

る。平面形は $3.43m \times 2.68m$ の歪な楕円形で、深さは遺構検出面から最大で $470cm$ を測る。標高 $8m$ 弱で湧水層に達したと推測され、断面形は三角形状である。埋土は黒褐色細粒砂に粘土やシルトが混入する斑土となっている。土層断面からみて、順次土砂を埋め立てて井戸を廃絶したものと推測される。井戸埋土から土師器皿や土師器内壺型羽釜などが出土していることから、B-3期（15世紀中頃）に廃棄された井戸と推定される。

第5項 溝

今回の調査で確認されたB期に属すると推測される溝は全部で13条確認された。ここでは主要なものについて報告する。

SD06

調査区の東部ではほぼ南北方向に走る溝である。幅は最大で $0.77m$ 、深さは最深で $0.23m$ を測るが、南端部は調査区外に伸び、北端部はSK01に切られて長さは特定できない。溝底はほぼ平坦となる箱型状である。発掘調査時点では17世紀に属すると考えていたが、出土遺物の検討からみてそこまで下らないと思われる。SD17を切ることから、現状ではB-5期（16世紀中葉）に位置づけておきたい。

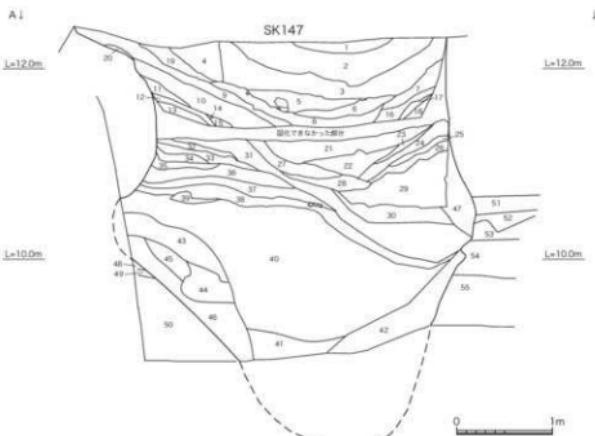
SD17（第25図）

調査区の南東部ではほぼ東西方向に走る溝で、幅は最大で $1.72m$ 、深さは最深で $1.15m$ を測る。東端部は調査区外に伸びるが、西端部はSK185に大きく切られその行方は特定できない。おそらくSD25に継続していくものと思われる。断面形が上位は掘鉢状、下位は箱形状となっている。少なくとも暗褐色細粒砂層の上位から掘り込まれたことが確認され、平行して走るSD18を切っている。出土遺物からB-4期（15世紀後葉～16世紀前葉）に属するだろう。

SD18（第25図）

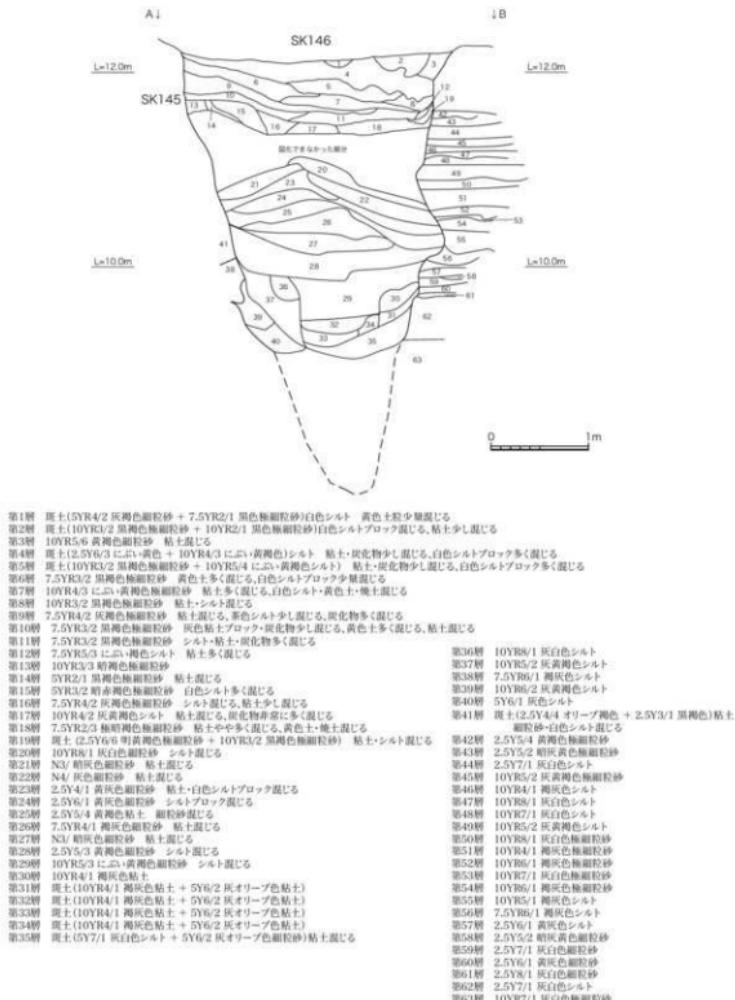
調査区の南東部ではほぼ東西方向に走る溝で、幅

名古屋城三の丸遺跡 VII



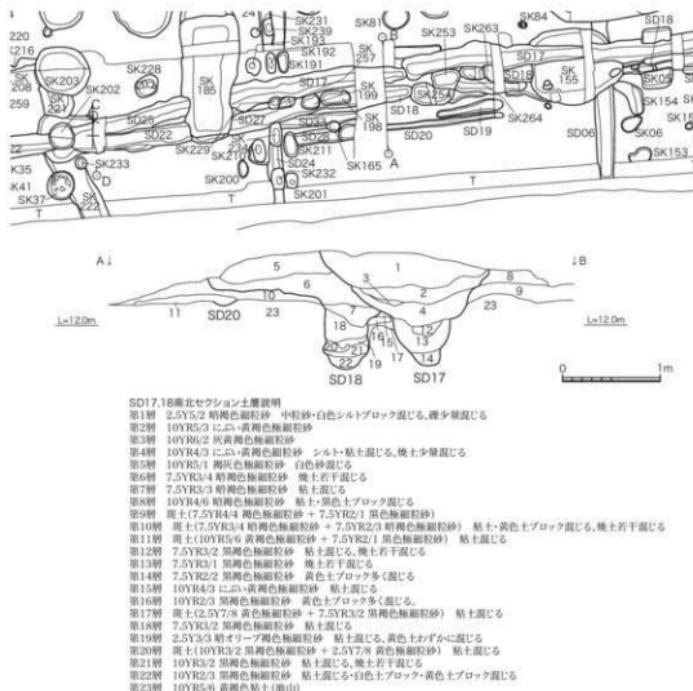
- 第1層 7.5Y4/1 灰褐色砂粒 粘土混じる
 第2層 2.5Y3/1 黑褐色細粒砂 シルト混じる、燒土少量混じる
 第3層 10YR2/2 黑褐色細粒砂 粘土混じる、灰化物・燒土少量混じる
 第4層 2.5Y3/1 黑褐色細粒砂 粘土混じる、灰化物・燒土少量混じる
 第5層 2.5Y3/1 ライノーブル黒褐色細粒砂 粘土混じる、灰化物・燒土少量混じる
 第6層 10YR2/1 黑褐色細粒砂 シルト混じる、浅褐色粘土ブロック若干混じる、灰化物少量混じる
 第7層 2.5Y4/1 灰褐色細粒砂 粘土混じる、浅褐色土粘石若干混じる
 第8層 7.5Y3/1 黑褐色粘土 細粒砂混じる、浅褐色粘土ブロックにて混じる
 第9層 7.5Y2/2 黑褐色粘土 細粒砂混じる、浅褐色土若干混じる、燒土少量混じる
 第10層 10YR2/1 黑褐色粘土 細粒砂混じる、浅褐色土粘石大粒にて混じる、燒土若干混じる
 第11層 10YR2/1 黑褐色粘土 細粒砂混じる、浅褐色土粘石大粒にて混じる
 第12層 2.5Y3/1 黑褐色粘土 細粒砂混じる、浅褐色土粘石大粒にて混じる
 第13層 2.5Y2/2 黑褐色粘土 細粒砂混じる、黄色粘土ブロック若干混じる
 第14層 10YR2/1 黑褐色粘土 細粒砂混じる、浅褐色土粘石大粒にて混じる
 第15層 10YR2/1 黑褐色粘土 細粒砂混じる
 第16層 2.5Y2/1 黑褐色粘土 細粒砂混じる、燒土わずかにて混じる
 第17層 2.5Y5/2 黑褐色細粒砂 粘土混じる
 第18層 2.5Y4/1 黑褐色細粒砂 粘土混じる、浅褐色粘土を較若干混じる
 第19層 10YR2/1 黑褐色細粒砂 粘土混じる、燒土少量混じる
 第20層 10YR2/2 黑褐色細粒砂 粘土・白シルトブロック混じる、焼化部分(赤褐色)有り
 第21層 10YR2/2 黑褐色細粒砂 粘土・黄褐色土ブロック混じる、焼化部分(赤褐色)有り
 第22層 10YR2/5 黑褐色細粒砂 粘土混じる、焼化部分(赤褐色)有り
 第23層 10YR2/4 に₁ 黄褐色細粒砂 粘土混じる、黄色土ブロック多く混じる、焼化部分(赤褐色)有り
 第24層 10YR2/1 黑褐色細粒砂 粘土混じる、黄色土粘石大粒にて混じる
 第25層 10YR2/4 に₁ 黄褐色細粒砂 粘土混じる、黑色土混じる
 第26層 10YR2/2 黑褐色細粒砂 粘土・白シルトブロック・焼土混じる、焼化部分(赤褐色)有り
 第27層 10YR2/2 黑褐色細粒砂 (白シルトブロック多く混じる、黄色シルトブロック・粘土混じる)
 第28層 10YR2/2 黑褐色細粒砂 粘土・白シルトブロック・燒土混じる、10YR2/1 浅褐色
 第29層 10YR2/2 黑褐色細粒砂 (白シルトブロック多く混じる、黑色土・黄色土混じる、わずかに燒土混じる)
 第30層 NJ/1 創灰白色シルト
 第31層 10YR2/2 黑褐色細粒砂 黄色・白色シルトブロック・燒土・粘土・混じる
 第32層 10YR2/2 黑褐色細粒砂 白色シルトブロック多く混じる、燒土・粘土・混じる
 第33層 10YR2/2 黑褐色細粒砂 白色シルトブロック・黄色土・混じる、燒土・わずかにて混じる
 第34層 10YR2/4 黄褐色細粒砂 白シルトブロック多く混じる、黄色シルトブロック・焼化物混じる
 第35層 10YR2/2 黑褐色細粒砂 黄色土・粘土・混じる、燒土・わずかにて混じる
 第36層 10YR2/2 黑褐色細粒砂 (10YR2/1 黄褐色) 黃褐色
 第37層 10YR2/2 黑褐色細粒砂 (白シルトブロック多く混じる、黑色土・黄色土混じる、わずかに燒土混じる)
 第38層 5YR3/1 黑褐色粘土 細粒砂混じる
 第39層 10YR2/2 黑褐色細粒砂 粘土・黄色土・ブロック・燒土・混じる
 第40層 10YR2/3 に₁ 黄褐色粘土 砂粒混じる
 第41層 10YR2/2 黑褐色粘土
 第42層 2.5Y5/3 黄褐色粘土
 第43層 烧土上に10YR2/4 黄褐色粘土 + 10YR2/6 明黄褐色粘土 砂粒混じる
 第44層 2.5Y5/3 黄褐色粘土
 第45層 10YR2/1 黄褐色粘土
 第46層 2.5Y6/2 黄褐色粘土 細粒砂混じる
 第47層 2.5Y8/1 灰白色シルト
 第48層 7.5Y7/1 灰白色シルト
 第49層 7.5Y7/3 浅褐色シルト
 第50層 10YR2/1 浅褐色シルト
 第51層 7.5Y7/2 灰白色シルト
 第52層 7.5Y7/2 灰白色シルト
 第53層 7.5Y8/2 灰白色シルト 粘土混じる
 第54層 10YR2/1 灰白色シルト
 第55層 7.5Y8/1 灰白色粘土

第23図 戸井 SK147 土層断面図



第24図 井戸SK146 土層断面図

名古屋城三の丸遺跡 VII



第25図 溝 SD17・SD18・SD22・SD25 土層断面図

は最大で 0.71m、深さは最深で 0.89m を測る。東端部は調査区外に伸びるが、西端部は途中で収束する。SD27 に継続していく可能性も考えられる。断面形が上位は捕鉢状、下位は箱形状となり、平行して走る SD17 に切られている。出土遺物からみて、B-1 期（13世紀中頃）に埋没した溝と推定される。

SD19・SD20（第 25 図）

調査区の南東部ではほぼ東西方向に走る溝で、両者とも規模は小さく部分的に重複する。幅は SD19 が 53cm、SD20 が 27cm、深さは SD19 が 10cm、SD20 が 6cm を測る。出土遺物は少ないが、B-1 期（13世紀？）と推定される。

SD24（第 20 図）

調査区の中央部ではほぼ南北方向に走る溝である。幅は最大で 0.51m、深さは最深で 0.14m を測るが、両端部は調査区外に伸びて長さは特定できない。溝内に掘立柱柵列跡 SA03 が構築されている。SD17などを切ることから、B-5 期（16世紀中葉）に位置づけられる。

SD25（第 25 図）

調査区の南部ではほぼ東西方向に走る溝で、幅は最大で 0.84m、深さは最深で 0.52m を測る。東端部は SK185、西端部は SK202 に切られその行方は特定できない。おそらく東側は SD17、西側は南に屈曲して SK222 に継続していくものと思われる。この推測が正しければ、これらの溝群は東西 30m 以上、南北 6m 以上の区画を囲む溝と考えられる。断面形は丸底状となり、ほぼ平行して走っている SD22 に切られている。黒褐色細粒砂層の斑上が堆積し、出土遺物からみて B-4 期（16世紀前葉）に属すると推定される。

SD27

調査区の南部ではほぼ東西方向に走る溝で、幅は最大で 0.83m、深さは最深で 0.37m を測る。東端部は SD18 と同一と思われるが確定が難しい。また、西端部は SK185 に大きく切られその行方

は特定できない。おそらく SD22 に継続していくものと推測されるが、遺構の所属時期が合わない点が問題となっている。断面形は箱形で、出土遺物からみて、B-4 期（15世紀後葉～16世紀中頃）に埋没した溝と推定される。

SD28・SD33

調査区の南部ではほぼ東西方向に走る溝で、両者とも規模は小さく部分的に重複する。幅は SD28 が 0.53m、SD33 が 0.48m、深さは SD28 が 0.27m、SD33 が 0.11m を測る。出土遺物が少なく時期の特定が難しいが、B-1 期（13世紀）と推定される。SD19・SD20 の西側に所在することから、同一の溝であった可能性が考えられる。

SD29

調査区の中央部ではほぼ南北方向に走る溝である。幅は最大で 0.60m、深さは最深で 0.20m、長さは 4.68m を測る。やや蛇行しながら、SD36 と平行している。出土遺物からみて、B-4 期（15世紀後葉～16世紀中頃）に位置づけられる。

SD31

調査区の西部ではほぼ南北方向に走る溝である。幅は最大で 1.23m、深さは最深で 0.74m を測る。北端は SX02 によって切られ、南部は調査区外に伸びている。SD14 などと平行している。出土遺物には若干江戸時代の遺物が含まれるが、南壁の土層断面観察などを検討した結果 B 期（おそらく B-5 期（16世紀中葉））に位置づけられよう。

SD35

調査区の北部中央ではほぼ南北方向に走る溝である。幅は最大で 0.64m、深さは最深で 0.16m を測るが、北端部は SK308 に、南端部は SK94 切られて長さは特定できない。SK94 の南側に存在する SK327 が溝の南端である可能性も残される。出土遺物からみて、B-3 期（15世紀後半）と思われる。

SD36

調査区の北部中央ではほぼ南北方向に走る溝で、幅

名古屋城三の丸遺跡 VII

は最大で 0.40m、深さは最深で 0.13m となり、北端は調査区外に伸びる。やや蛇行しながら、SD33 と平行している。出土遺物からみて B-4 期（15世紀後葉～16世紀前葉）に位置づけられる。

SK39

調査区の中央部でほぼ南北方向に走る溝である。幅は最大で 0.97 m、深さは最深で 0.17m、長さは 7.54m を測る。溝の両側には柱穴群（SK475・SK479・SK480・SK481・SK482・SK483）が伴っている。出土遺物からみて、B-4 ～ 5 期（16世紀前半）に位置づけられる。

なお、SD33・SD35・SD36・SD39 はその配置からみて、幅約 2.5m の道路状遺構の側溝と考えることができる。この想定が正しければ、道路状遺構 SF01 は中央部でやや西側に湾曲してほぼ南北方向に走る道路であるといえよう。

第 6 項 土坑

今回の調査で確認された B 期に属すると推測される土坑は全部で數十基存在する。ここでは特徴的な土坑を報告する。

SK155

調査区の東部中央で確認された土坑で、規模は 3.23m × 3.11m、深さは最大で 58cm を測る。平面プランは楕円形を呈し、断面形は浅い皿状となっている。SD17・SD06 などに切られている。土坑埋土から古瀬戸製品の他に大量の須恵器、灰釉陶器、山茶碗などの遺物が出土しており、土地改変に伴い集められた廃棄物をまとめて投棄されたものと想定される。遺構の埋没時期は、出土遺物の中における最新資料から見て、B-3 期（15世紀後半）と考えられる。

SK215

調査区の北東部で確認された土坑で、規模は 1.55m × 1.05m、深さは最大で 35cm を測る。平面形はいびつ形、断面形は皿状となっている。土坑埋土から多くの古瀬戸製品の他に須恵器、灰

釉陶器、山茶碗などの遺物が混在していた。陶器片がまとめて投棄されたものと想定される。遺構の埋没時期は、出土遺物の最新資料から見て、B-4 期（15世紀後葉）と推測される。

SK240

調査区の中央部に所在する土坑で、規模は 3.07 m × 2.03m、深さは最大で 32cm を測る。平面形は楕円形を呈し、断面形は丸底の皿状となっている。SD21 に切られている。土坑埋土から古瀬戸製品の他に大量の須恵器、灰釉陶器、山茶碗などの遺物が出土しており、土地改変に伴い集められた廃棄物をまとめて投棄されたものと想定される。遺構の埋没時期は、出土遺物の最新資料から見て、B-4 期（15世紀後葉）と考えられる。

SK324

調査区の中央部で確認された土坑で、平面プランは規模が 2.12m × 0.82m を測る隅丸長方形を呈する。断面形は箱状で、他の土坑とは形状が異なる。土坑埋土から古瀬戸製品が含まれることから、B-3 期（15世紀後半）に位置づけられる。

SK330

調査区の中央部で検出された土坑で、規模は 1.47m × 0.86m、深さは最大で 53cm を測る。平面プランは隅丸長方形を呈し、断面形は箱状となっている。土坑埋土から古瀬戸製品が出土していることから、B-3 期（15世紀後半）に位置づけられる。SK324 と同様の形状であり、両者とも墓坑である可能性も考えられる。

SK556

調査区の北西部で確認された土坑で、規模は 2.00m × 1.33m、深さは最大で 100cm を測る。平面プランは楕円形を呈し、断面形は擂鉢状となっている。SD12・SK557 などに切られており、SK557 と同一の遺構である可能性も残る。土坑埋土から尾張型山茶碗などの遺物が出土した。B-1 期（13世紀）に位置づけられる。

第4節 C期の遺構

第1項 概要

C期は江戸時代を通じた段階（17世紀～19世紀中頃）であり、尾張藩徳川家の拠点である名古屋城が存続した時期である。この段階の遺構は掘立柱建物跡と礎石建物跡、井戸、溝、池、地下室、土坑などが存在する。この時期の遺構はさらに4段階に細分が可能である。

C-1期：17世紀前半。連房式登窓第1～2小期の瀬戸美濃窯産陶器などが出土する時期。名古屋城三の丸全体で展開した武家屋敷が構築された段階である。

C-2期：17世紀後半。連房式登窓第3～4小期の瀬戸美濃窯産陶器などが出土する時期。武家屋敷が廃止され東御屋敷や御屋形が形成された段階に相当すると考えられる。この段階以降、C-4期までは屋敷割りの形状を変えつつも御屋形が繼續して存在したものといえる。

C-3期：18世紀。連房式登窓第5～8小期の瀬戸美濃窯産陶器などが出土する時期。

C-4期：19世紀前半～中頃。連房式登窓第9～11小期の瀬戸美濃窯産陶器などが出土する時期。この段階の遺物出土量が少ないため、この時期に属する遺構はあまり多く確認できない。

以下、種別に遺構を記述する。

第2項 掘立柱建物跡

C期に属すると推測される掘立柱建物跡は全部で4棟存在する。これまで記述したように、掘立柱建物跡は全て時期を特定することが難しい。加えてこの段階では建物の平面プランが複雑に入り組む形状のものが出現すると考えられるため、建物構造を考察することも難しい。以下、個別に説明を加えていく。

SB21（第26図）

調査区の南部中央で確認された3間以上×1間

の掘立柱建物跡で、南部は調査区外に展開すると推測される。建物規模は9.2m以上×9.1mである。東辺の柱穴は北隅のみを確認したに過ぎず、建物と推定することには問題が多いが、ここでは柱穴をSK185の埋土中に見落とした可能性を考えられることから、このような形状で復元した。柱穴の出土遺物からC-2期（17世紀後半）に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

SB22（第27図）

調査区の東部で確認された3間以上×1間以上の掘立柱建物跡と推測される遺構である。東部と南部が調査区外に展開し、建物規模は10.5m以上×2.3m以上である。西辺南半部に庇が付いたものと想定される。柱穴から出土した陶器片などから、C-1期（17世紀前半）に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

SB23（第27図）

調査区の中央部で確認された3間×3間と推測される掘立柱建物跡で、西辺は柱穴が2間分しか残存しなかった。また南辺では両端部しか柱穴が確認できなかった。建物規模は5.7m×4.8mである。柱穴からわずかに出土した陶器破片などから、C-1期（17世紀前半）に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

SB24（第27図）

調査区の北東端部で確認された2間以上×2間以上と推測される掘立柱建物跡で、東部と北部は調査区外に展開すると推定される。柱穴の平面形は円形で、建物規模は5.9m以上×4.8m以上である。柱穴からわずかに出土した陶器破片などから、C-3期（18世紀前半）に廃絶した掘立柱建物跡と推定される。

第3項 掘立柱柵列跡

今回の調査で確認された9棟の掘立柱柵列跡

のうち、C期に属すると考えられるものは4棟である。掘立柱建物跡と同様、時期を断定することが難しいが、柱穴内出土遺物と柱穴の切り合ひ関係など様々な情報から推測した。ここでは個別に報告する。

SA06（第28図）

調査区の北西部に所在する掘立柱柵列跡で、6間分（15.5m）以上が確認された。柱穴は南北に走る石組溝SD03とSK23に平行して切られていたため、石組溝SD03の前身の区画施設であった可能性が高い。柱穴の平面形はまちまちであるが、柱穴から出土する遺物から、C-2期（17世紀後半）に廃絶した掘立柱柵列跡と推定される。

SA07（第28図）

調査区の南部西寄りで検出された掘立柱柵列跡で、2間分以上（3.5m）が確認された。SD12のテラス状に掘削された西肩に設定されているこ

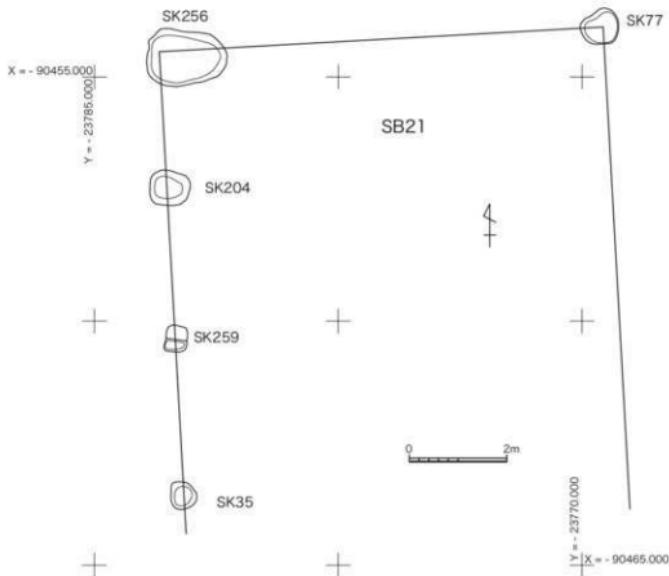
とからSD12に付随する施設と考えることができる。柱穴およびSD12から出土した遺物から、C-1～2期（17世紀）に存在した掘立柱柵列跡と推定される。

SA08（第27図）

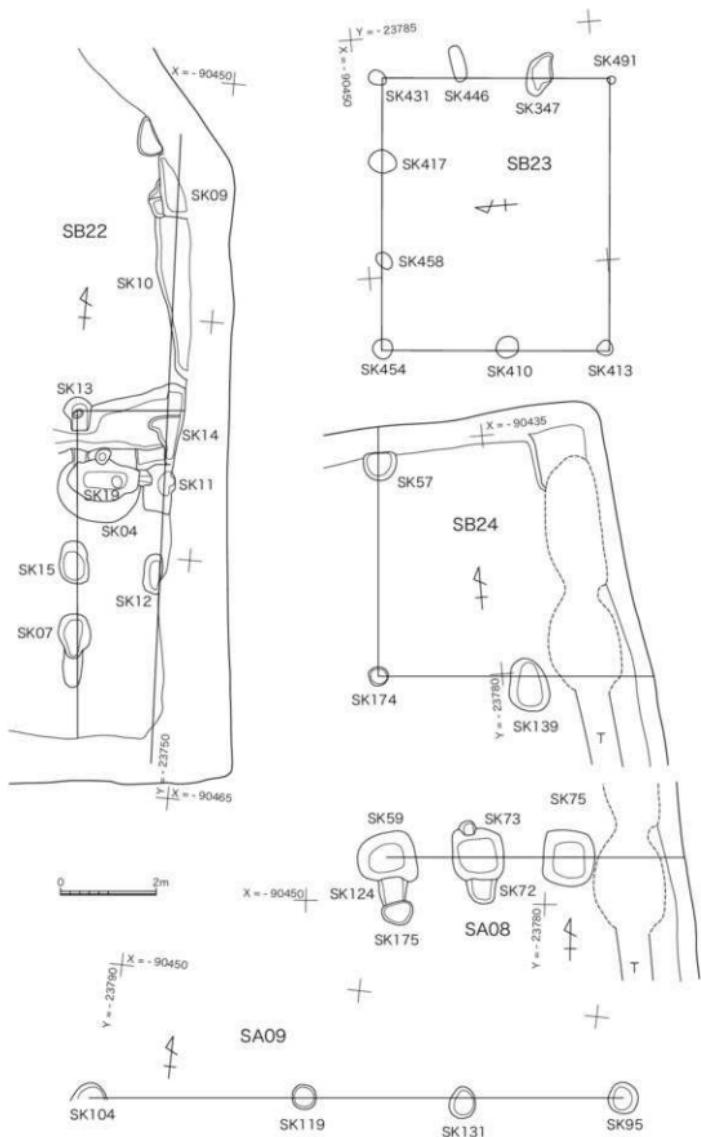
調査区の北東端部に位置する掘立柱柵列跡で、ほぼ東西方向に2間分（4.2m）以上が確認された。柱穴の平面形は一辺が約1mの隅丸方形で規模が大きく、柱穴の南に補助的な土坑が付随する。北側に柱穴列が並び建物跡になる可能性も残れる。柱穴から出土する遺物から、C-1期（17世紀前半）に属する掘立柱柵列跡と推定される。

SA09（第27図）

調査区の中央部で検出された東西方向に走る掘立柱柵列跡である。3間分（11.3m）が確認された。わずかに柱穴から出土した遺物から、C期に属することは明らかであるが、詳細な時期は特定



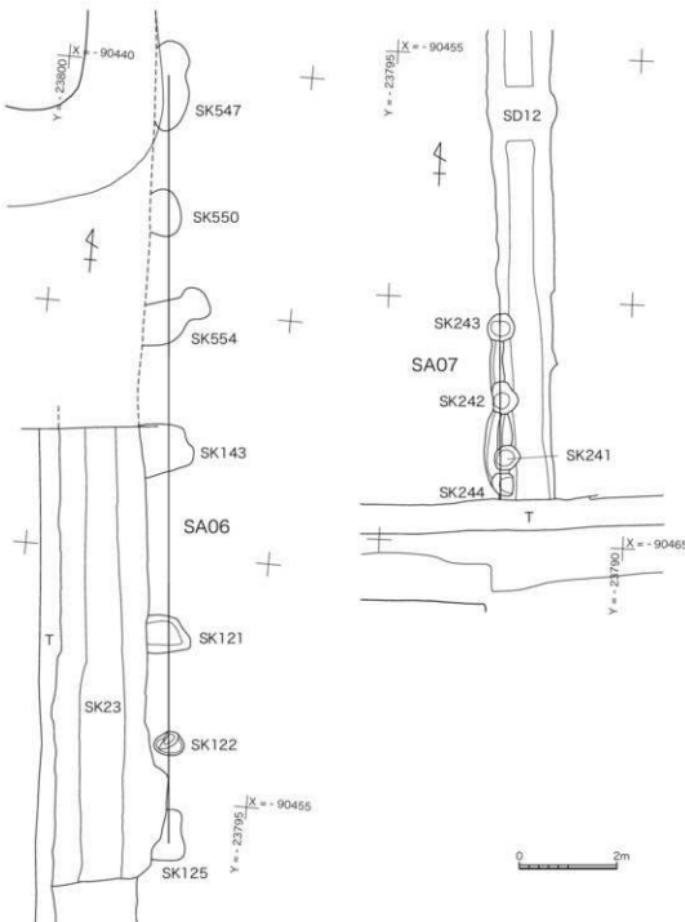
第26図 掘立柱建物跡SB21 遺構図



第 27 図 挖立柱建物跡 SB22 ~ 24 · SA08 ~ 09 遺構図

名古屋城三の丸遺跡 VII

できない。遺構の全体配置からみて後述する池状遺構の南部を区画する施設の可能性が考えられることから、C-4 期（19 世紀前半）に存在した掘立柱柵列跡と想定しておきたい。



第 28 図 掘立柱柵列跡 SA06・07 遺構図

第4項 井戸

この段階の掘り抜き井戸は全部で3基を数え、井戸側に石材や木材の構造物を持たないいわゆる素掘り井戸である。井戸の形状は垂直に掘り下げられた円筒形を呈しており、深さは遺構検出面から2m以上を測る。前述と同様、ある深度以上の調査は重機による断ち割り調査を実施した。ここでは個別に事例を報告する。

SK162・SK163（第29図）

調査区の南西部で確認された素掘り井戸である。平面形は $2.94m \times 2.92m$ のほぼ円形で、深さは遺構検出面から最大で411cmまで掘削したが、確実な最終底面までは達しなかった。標高8m弱で湧水層に達したと推測されよう。下部で一部の壁が崩落していた。埋土は黒褐色細粒砂に粘土やシルトが混入する斑土が主体となっている。土層断面からみて、木製井戸側の存在を予想させる堆積状況を確認できたが断定するには至らなかった。むしろ井戸廃絶に際して斑土を埋め立て、その後埋め立て土が何處か陥没したと想定される。調査では、井戸全体の埋土をSK163とし、陥没して土坑状になった窪地を最終的に埋め立て整地されたものをSK162として認識した。井戸埋土から出土した遺物から、C-2期（17世紀後半）に廃棄された井戸と推定される。

SK202（第29図）

調査区の中央部南寄りで確認された素掘り井戸で、平面形は $1.08m \times 1.03m$ のほぼ円形となっている。最深部には確実には達していないが、深さは遺構検出面から289cmを測ると思われ、標高9m弱で湧水層に達したと推測される。断面形は箱形となっている。埋土は黒褐色細粒砂に粘土やシルトが混入する斑土となっている。土層断面からみて、井戸廃絶時に斑土を念入りに順に埋め立てて整地されたものと推測され、後に陥没した痕跡は認められない。埋土から出土した土師器皿から見て、C-1期（17世紀前半）に廃棄された

井戸と推定される。

SK49（第29図）

調査区の南西端部で検出された素掘り井戸である。平面形は $1.27m \times 1.26m$ の円形で、深さは遺構検出面から最大で185mを測る。やや浅く湧水層に達したかは疑問が残ることから、井戸ではない可能性も残される。断面形は箱状で、埋土は黒褐色細粒砂に粘土やシルトが混入する斑土となっている。出土遺物からC-2期（17世紀後半）に廃棄された井戸と推定される。

第5項 溝

今回の調査で確認されたC期に属すると推測される溝は全部で13条確認された。この段階の溝には従来から存在した素掘り溝の他に、両岸と床を石積みで構築された石組溝が出現している。石組溝は次項に改めて項目を設けて記述することとし、ここでは主要な素掘り溝について報告したい。

SD11

調査区の中央部ではほぼ東西方向に走る溝で、幅は最大で1.17m、深さは最深で0.13m、長さは8.40mを測る。溝底は浅い皿状で、陶磁器類の他に多くの石材が投棄されていた。出土遺物から見てC-3期（18世紀）に位置づけられるだろう。

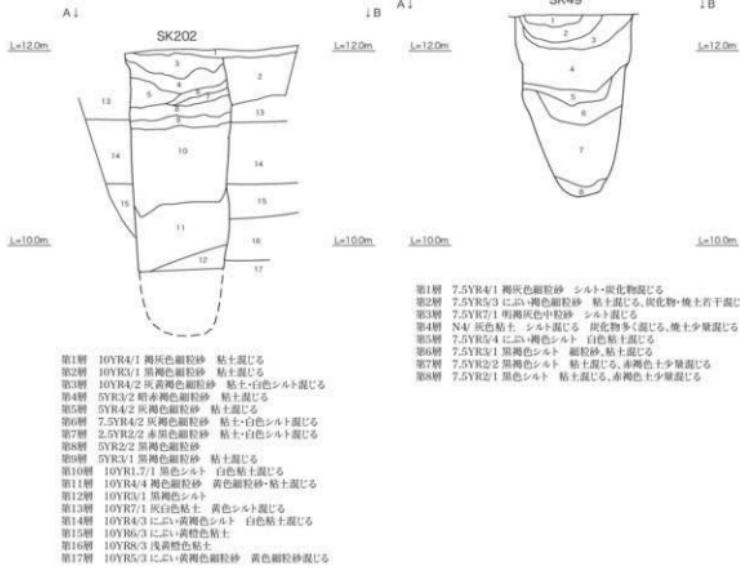
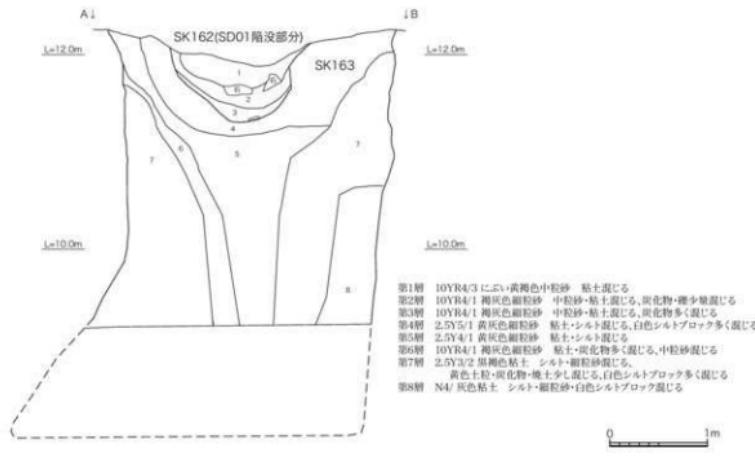
SD12（第30図）

調査区の西部ではほぼ南北方向に走る溝で、幅は最大で2.09m、深さは最深で0.97mを測る。溝の断面形は逆台形を呈し、底幅は50~60cmを測る。SD14と平行して走っていることから、両者で道路状構造を形成している可能性も考えられる。出土遺物から見てC-1~2期（17世紀）に位置づけられるだろう。

SD13

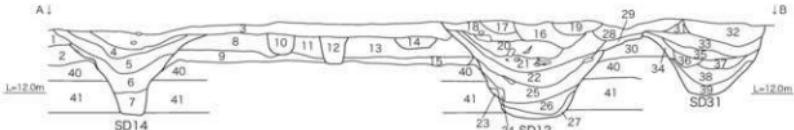
調査区の西部ではほぼ東西方向に走る溝で、幅は最大で1.49m、深さは最深で0.10mと非常に浅い。SD12とSD14の間の部分を結ぶような形で

名古屋城三の丸遺跡 VII

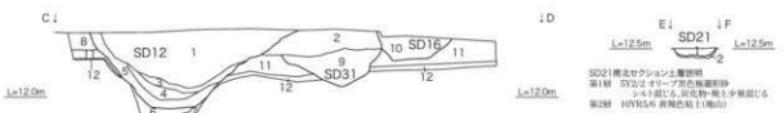


第29図 井戸 SK163・SK202・SK49 土層断面図

遺稿



SD12.14.31東西セクション土層説明



SD12.16.31裏面セクションナ彙説明

- 第18回 7.25/4 黒色地刷毛糸
粘土+白色糊上地に

第19回 7.25/5 黑色地刷毛糸
粘土+白色糊上地に

第20回 10/25/5 黄色地刷毛糸
シルク混入、化粧少で艶消しに

第21回 10/25/5 黄色地刷毛糸
シルク混入、化粧少で艶消しに

第22回 2.25/4 黄色地刷毛糸
粘土+白色糊上地に

第23回 5/4/1 黑色地刷毛糸
シルク混入に

第24回 5/4/1 黑色地刷毛糸
シルク混入に

第25回 5/4/1 黑色地刷毛糸
シルク混入に

第26回 5/4/1 黑色地刷毛糸
シルク混入に

第27回 5/4/1 黑色地刷毛糸
シルク混入に

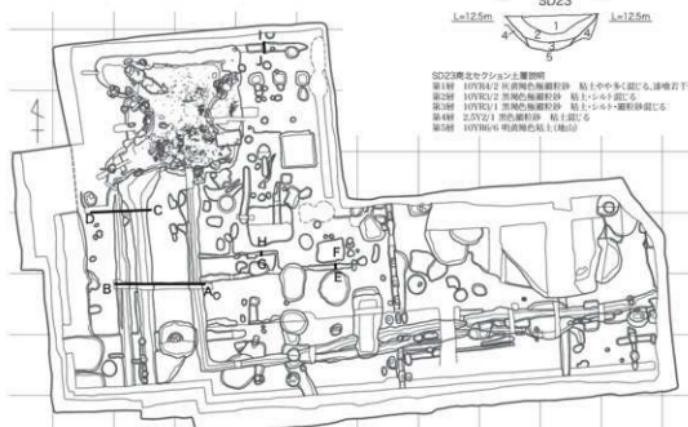
第28回 10/7/4 黑色地刷毛糸
糊土+白色糊上地に

第29回 10/7/4 黑色地刷毛糸
糊土+白色糊上地に

第30回 5/5/1 黑色地刷毛糸
糊土+白色糊上地に

第31回 2.25/5 黑色地刷毛糸
粘土+白色糊上地に

第32回 2.25/6 黑色地刷毛糸
糊土+白色糊上地に



第32回 渡 SD13 SD14 SD21 大慶斯面回

検出され、調査時点では SD12 と SD14 を切る形で確認された。出土遺物や前述の遺構の検出状況から見て C-3 期（18 世紀）に位置づけられるだろう。

SD14（第 30 図）

調査区の西部ではほぼ南北方向に走る溝で、幅は最大で 1.44m、深さは最深で 0.81m を測る。北端部は SX02 に切られ、南端部は東に折れて SD22 に連続する。卷末遺構図には表現されていないが、SD14 の最上層部分は SD22 を越えてさらに南に継続する状態が認められ、その断面が南壁土層断面に観察されたが、これは非常に浅く同一遺構とは認めがたい状態であった。溝の断面形は SD12 と同様に逆台形をなしているが、底幅 20 ~ 30cm と狭く「V」字状に近い形状である。陶磁器類の他に多くの石材が投棄されていた。SD12とともに道路状遺構を形成していた可能性がある。出土遺物から見て C-1 ~ 2 期（17 世紀）に位置づけられるだろう。

SD15

調査区の中央部ではほぼ東西方向に走る溝で、幅は最大で 0.63m、深さは最深で 0.43m、長さは 3.85m を測る。溝底は「U」字状を呈する。埋土は黄灰色細粒砂の斑土で、上層からは近代の遺物が混入していたが、下層の出土遺物から C-3 期（18 世紀）に属すると考えられる。

SD21（第 30 図）

調査区の中央部で検出された溝で、溝中央部で 2 回直角に折れてクランク状となっている。幅は最大で 0.40m、深さは最深で 0.08m と規模は小さい。出土遺物から見て C 期の遺構であることは知れるが、詳細は明らかではない。

SD22（第 25 図）

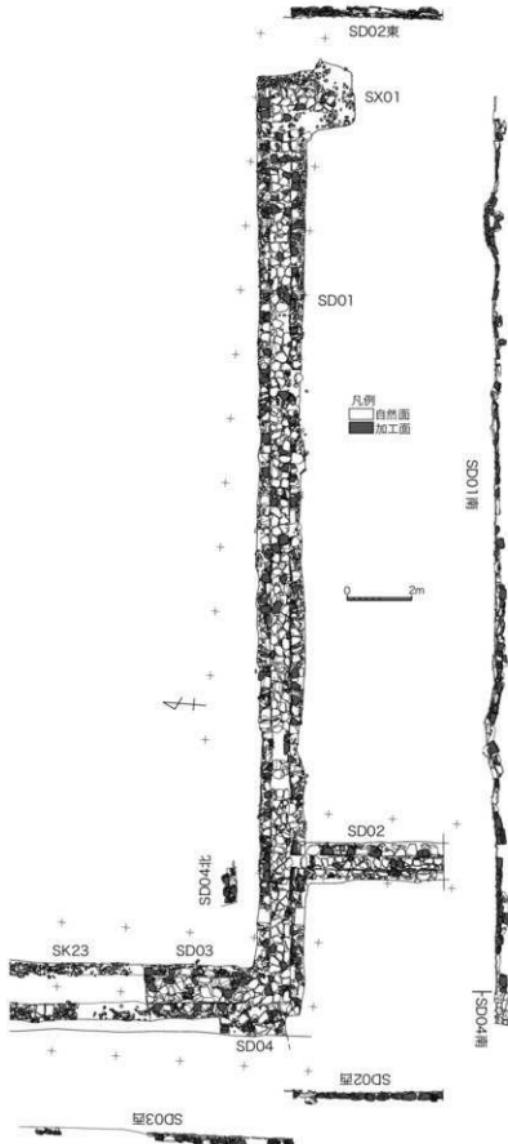
調査区の南部中央ではほぼ東西方向に走る溝で、幅は最大で 0.77m、深さは最深で 0.47m を測る。西端部は SD14 と接続し北に折れ曲がる形状となっている。一方、東端部は SK185 に切られ

ており、その行方は特定できない。遺構の配置状況から SD27 と連続する可能性が残されるが、遺構の時期が合致しないため、ここでは別の溝として理解しておきたい。溝の断面形は箱状であり、SD25 を切っている。出土遺物や遺構の検出状況から見て C-1 期（17 世紀前半）に位置づけられるだろう。

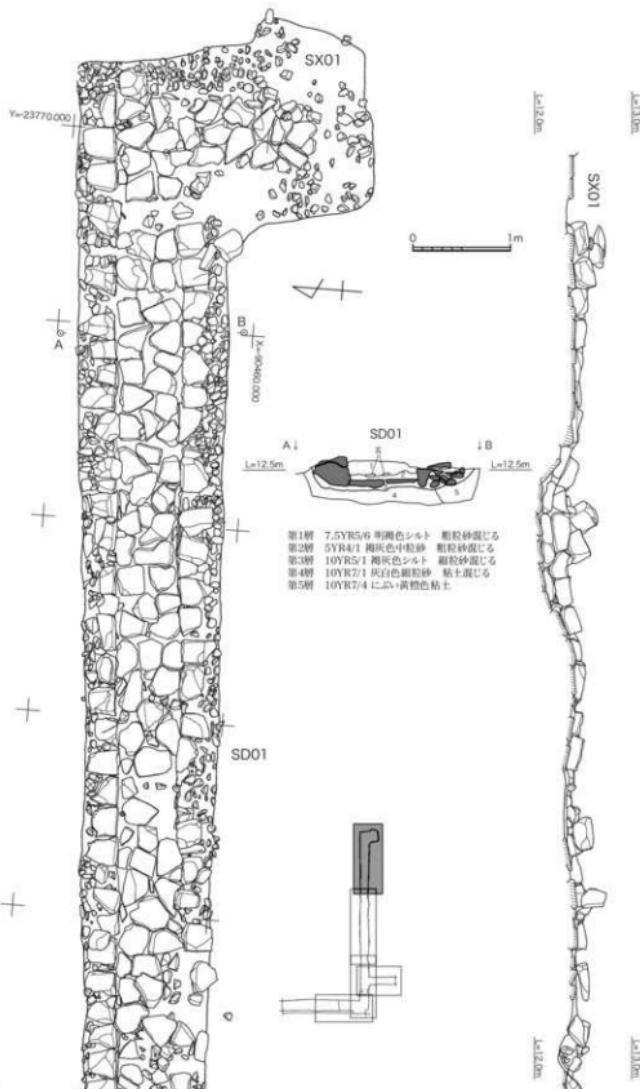
第 6 項 石組溝

石組溝は全部で 4 条確認されたが、いずれも相互に連続して構築されており、総体的には一連の遺構と捉えることが妥当であろう。調査区の南西辺に平行して SD01 と SD03 が L 字状に屈曲して存在し、SD01 の屈曲部付近から SD02 が、SD03 の屈曲部付近から SD04 が分岐していた。SD01 の東端部は短く南に折れて枠状の遺構 SX01 が付随していた。SD03 の北側の大部分は石組溝を構成する石材の抜き取り穴である SK23 により破壊されていた。溝底の高さ（レベル）は、SD01 の東端が最も高く、SD02 南端と SD04 の西端も高い。SD01 は西側に向かって低く傾斜し SD03 に至って北側に低く傾斜していた。水を流す溝と想定した場合、SD01 東端、SD02 南端、SD04 西端から、それぞれ SD03 に向かって流れ、SD03 に集められた水は北に向かって流れていったものと考えられる。このまま北に向かって流れていけば台地の崖下に排水されたものと想定される。

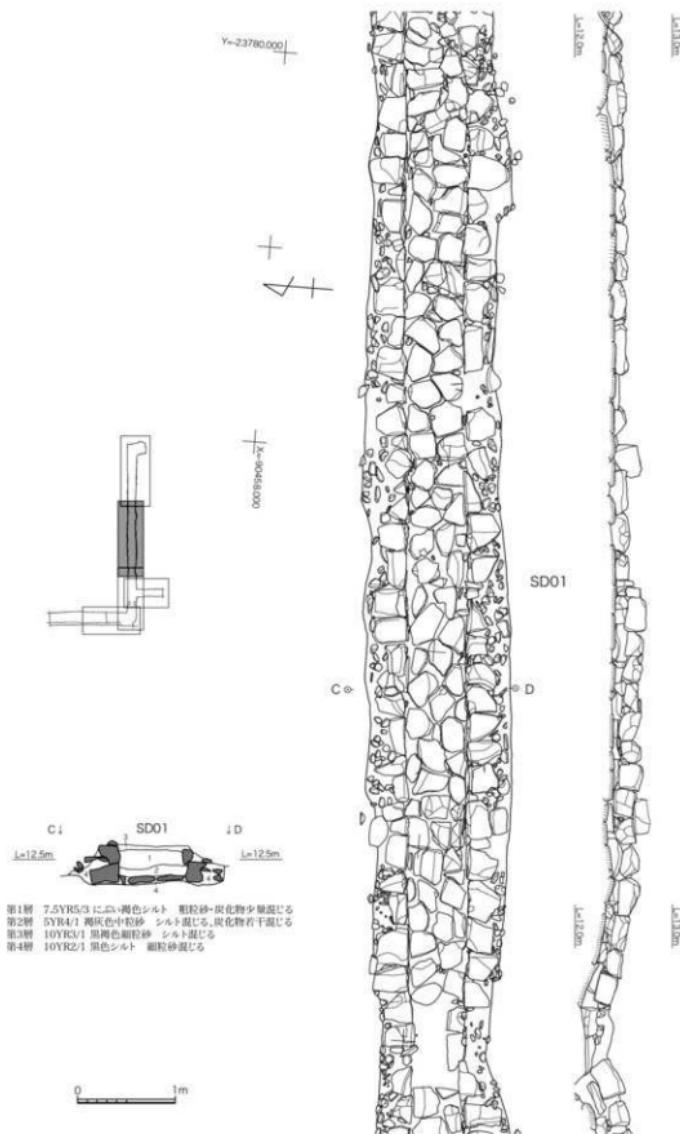
石組溝の基本的な構造は、箱型状に削削された溝に扁平な石材を床材として敷き並べ、その両側に割石を積み上げて側石とし、側石の背後に割石を製作する際に出てきた小石材を裏込め石に使用して完成させている。蓋の存在については現状では明らかではない。石組溝内の埋土は最下層と上層に分離でき、上層は明褐色粘土による整地層であった。石組溝を廃絶した後は、同じ平面プランで明褐色を呈する道路状の堆積が存在したと想定



第31図 石組溝 SD01～SD04 遺構全体図



第32図 石組溝 SD01・SX01 遺構図(1)



第33図 石組溝 SD01 遺構図(2)

される。

以上が全体に共通する石組溝の特徴であるが、ここでは個別のバーツに分剖してさらに詳細に報告したい。

SD01（第32～34図）

調査区の南部で西端部付近から中央部東寄りの付近まで伸びる東西方向に走る石組溝で、内法幅は最大で66cm、長さは28.11mを測る。溝を構築するために掘削された溝の掘肩の幅は最大で155cm、深さは最深で50cmを測る。断面形で箱型状に掘られた溝の床面には基本的に何も施されていなかったが、東部では部分的に灰白色細粒砂が堆積していた。

床面の上には扁平な石材が2～3列に敷き並べられていた。石材は自然石または荒く削られて成形された石材が用いられており、どの部分でも石と石の間の隙間が大きく開いている状態である。SD01の東部に1ヶ所と中央部に1ヶ所に大きく床面が壅み、敷き並べられた石材が乱れている部分があった。これらはそれぞれSK185およびSK163（SK162）を埋め立てた整地が十分に堅固ではなく石組溝が構築された後に陥没してしまったために発生したと考えられる。同様の陥没はSD01中央部にもわずかに認められ、これはSK203によるものと想定される。また東端部に近い部分で床石が1列分残存していなかった。状況から見て後世に抜き取られた可能性を考えておきたい。

側石は南壁と北壁両者とも高さ約20cmの側石で構成されていた。石組の上位は既に破壊または除去されて遺存しておらず、大部分は1段分しか残存していなかったが、部分的に最高で3段積み重なった状態が残っており、本来はこの高さかそれ以上の高さの石組が残っていたことが予測される。側石は内法面を比較的平坦にした横に長い長方形状になるように配置され、上下面も比較的平坦になるように配慮されていた。一方、背

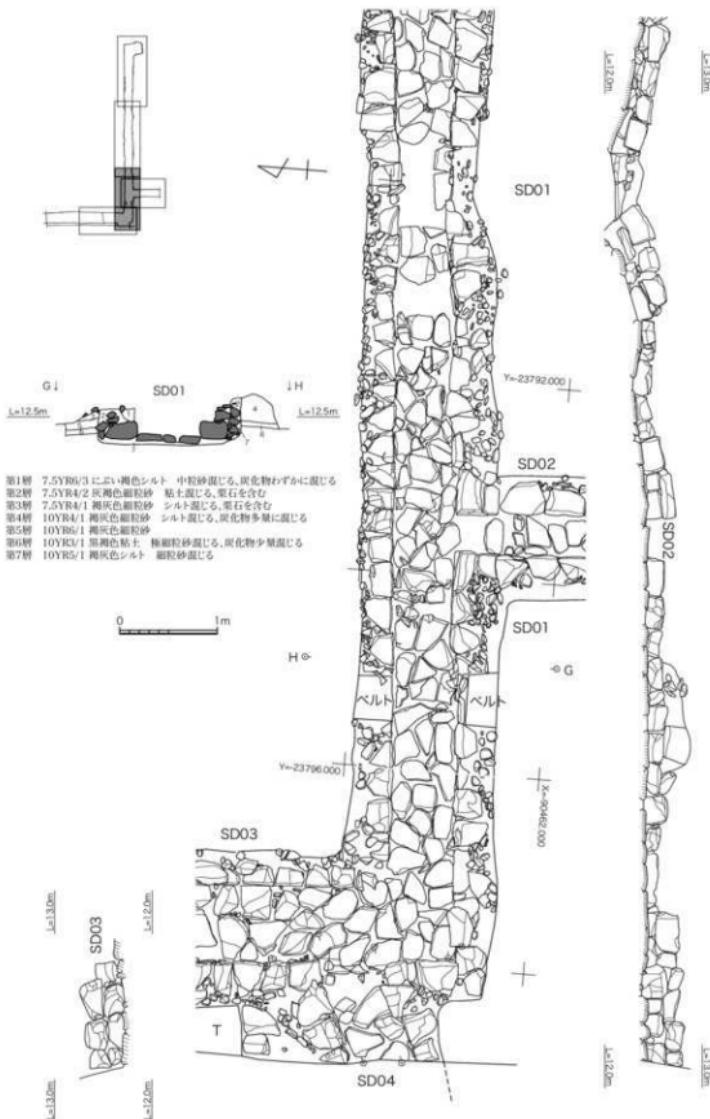
後の部分は形状がバラバラの状態であり、その間には同一石材の細かな割石の小破片などが隙間に無いように詰め込まれていた。

石組溝内の堆積は、最下層は褐灰色中粒砂が非常に薄く堆積しており、これは溝が機能していた時に自然に堆積した土層である可能性が高い。その上位には明褐色シルトが硬く締まった状態で堆積しており、人工的に埋め立てられ叩き締められたものと考えられる。確認はないが、この人工的な埋め立て土は名古屋台地を構成する表面に近い部分の褐色土が集められ用いられたのではないかと推測される。

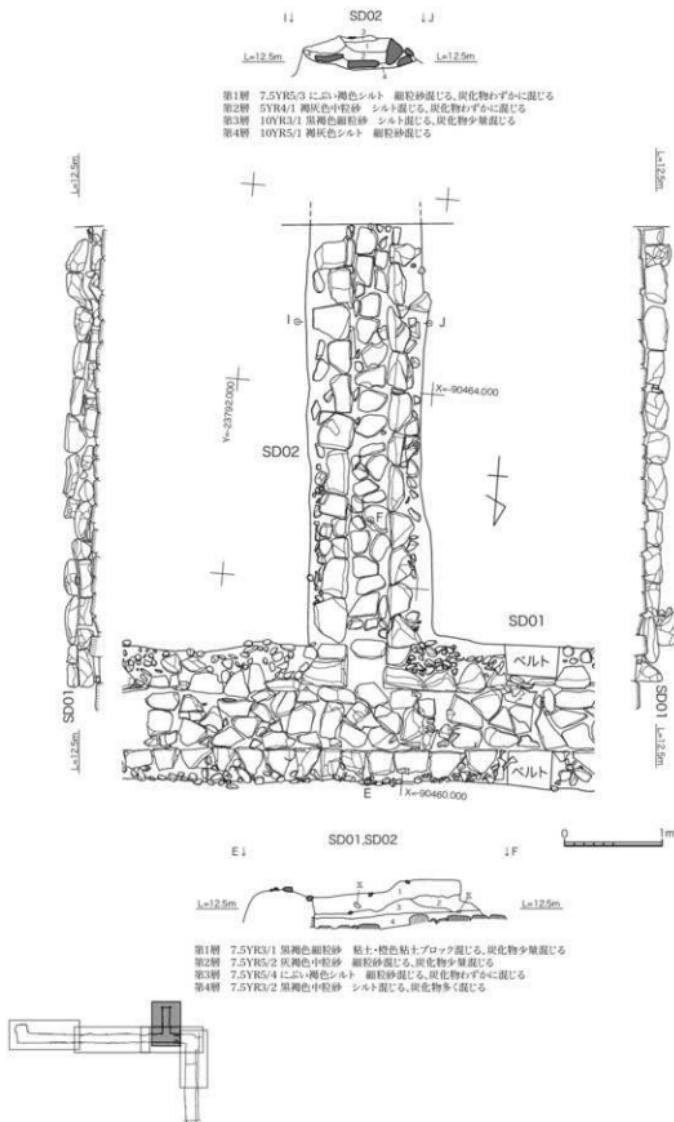
石組溝内から陶磁器類などが出土しているが、中でも鉄釘（1594～1628）の出土量が多い点が特徴的である。遺物の項でも説明するが、この鉄釘は基部付近で木質の存在した痕跡が認められるものが多いことから、鉄釘留めで組み立てられた木製品が廃棄された可能性が考えられる。想像を逞しくすれば木製の蓋板に使用された鉄釘である可能性も考えられよう。また、SD02との接合部付近では、常滑窯産陶器の壺1個体分が潰れた状態で確認された。これらの出土遺物から見て、溝が機能し廃絶した時期はC-3期（18世紀）初頭に位置づけられるだろう。また、石組の背後の裏込め部分からは肥前窯産磁器碗（1553）などが出土しており、構築された時期は17世紀末から18世紀初頭と位置づけられよう。

SD02（第35図）

SD01の西端付近の南壁に接続する南北方向に走る石組溝で、内法幅は最大で42cm、長さは4.41mを測る。溝を構築するために掘削された溝の掘肩の幅は最大で126cm、深さは最深で63cm（南壁上層断面で計測）を測る。断面形で箱型状に掘られた溝の床面に直接扁平な石材が1～2列に敷き並べられていた。石材は自然石または荒く削られて成形された石材が用いられており、石の隙間が大きい。



第34図 石組溝 SD01～SD04 遺構図(3)



第35図 石組溝 SD01・SD02 遺構図(4)

側石は東西壁両側とも高さ 10 ~ 20cm の割石で構成されていた。石組の上位は既に破壊または除去されて遺存しておらず、大部分が西壁は 1 段分、東壁は 2 段分が残存していた。割石は内法面を比較的平坦にした横に長い長方形状になるよう配置され、上下面も比較的平坦になるようになっていた。背後の状態は表土はぎの段階で掘削されていた部分が多く、詳細は不明である。状況からみて SD01 と同様に、隙間に細かな割石の小破片などが詰め込まれていたといえる。

SD01 との接合部は床面で 5cm 程度の段差が存在し、SD02 の方が高い。SD01 に接する SD02 の床石が推定 1 個欠落しており、これが構築当時から欠けていたものか、後に抜き取られたものかは特定できない。東西両壁の側石と SD01 の南壁の側石は一連の遺構として連続した状態で構築され、石積が 2 段存在する東壁の隅角部は算木積み状に長辺を入れ違いの状態で積まれていた。

石組溝内の堆積は、最下層は褐色中粒砂が 10cm 程度とやや厚く堆積しており、その上位にはにぶい褐色シルトがやや硬く締まった状態で堆積していた。石組溝内から陶磁器類などが出土しているが、検出された部分が少ないためその量は少ない。それでも SD01 と同様に鉄釘の出土量が多い傾向は認められる。SD01 と同様に、構築された時期は 17 世紀末から 18 世紀初頭、廃絶時期は C-3 期（18 世紀）に位置づけられるだろう。SD03（第 36 図）

SD01 の西端部で屈曲して北方向に伸びる南北方向に走る石組溝で、内法幅は最大で 76cm、深さは 43cm を測る。北部は石材抜き取り穴 SK23 によって破壊されており、石組溝は遺存していない。残存長は 3.40m を測るが、SK23 の検出状態からみて、本来 SD03 は調査区北端まで継続していたものと考えられる。溝を構築するために掘削された溝の掘肩の幅は最大で 172cm、深

さは最深で 72cm を測る。断面形で箱型状に掘られた溝の床面に直接扁平な石材が 2 ~ 3 列に敷き並べられていた。SD01 と同様、石材は自然石または荒く削られた石材が使用され、石の隙間が大きい。

側石は東西壁両側とも高さ約 20cm の割石で構成されていた。石組の上位は既に破壊または除去されて遺存しておらず、大部分が 1 段分しか残存していなかった。割石は内法面を比較的平坦にした横に長い長方形状になるよう配置されていた。背後の状態は表土はぎの段階での掘削と西壁トレーナーにより不明な部分が多いが、SD01 と同様に、隙間に細かな割石の小破片などが詰め込まれていた。

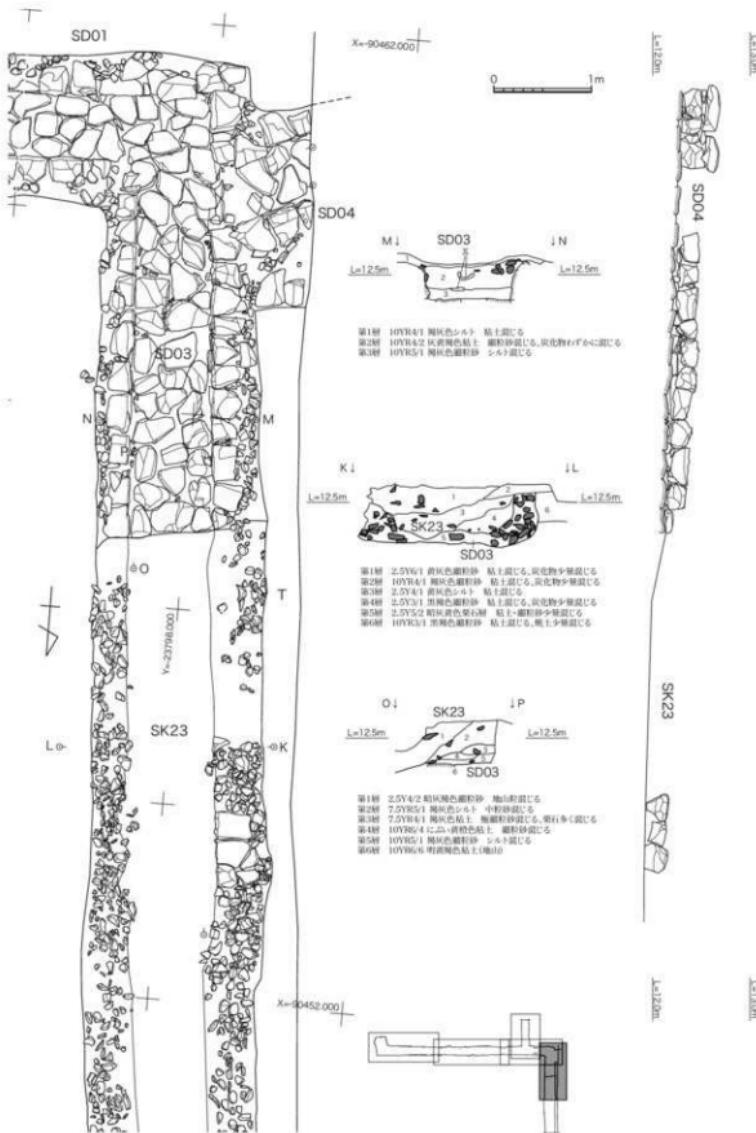
SD01 との接合部分は、床石と側石とともに連続して構築されていた状態と思われる。少なくとも床石については SD01 と SD03 の境界線を認めることはできない。SD03 の東壁の隅角部（出角部）の石材が遺存せず、構造は明らかにできない。SD03 の西壁の隅角部（入角部）の石積みは SD01 の南壁が築造された後に SD03 の西壁が構築された構造が確認された。

石組溝内の堆積は、最下層は褐色中粒砂が 10cm 程度とやや厚く堆積しており、その上位は灰褐色粘土の斑土層、褐色シルト層が順に堆積し、最上面はやや硬く締まっていた。石組溝内から陶磁器類などが出土しているが、検出された部分が少ないためその量は少ない。それでも SD01 と同様に鉄釘の出土量が多い傾向は認められる。SD01 と同様に、構築された時期は 17 世紀末から 18 世紀初頭、廃絶時期は C-3 期（18 世紀）に位置づけられるだろう。

SD04（第 36 図）

SD03 の南端付近の西壁に接続するやや方位が南に振れた東西方に走る石組溝である。内法幅は最大で 68cm、深さは最深で 50cm（西壁土層断面で計測）で、検出長は 0.80m を測る。大半

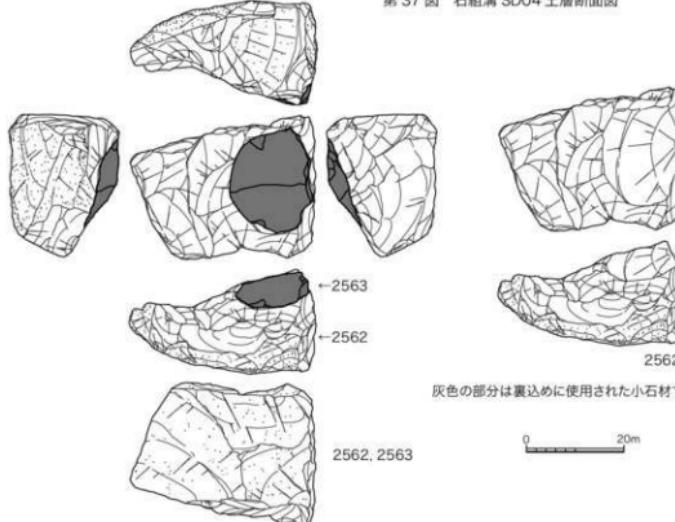
名古屋城三の丸遺跡 VII



第36図 石組溝 SD01・SD03・SD04 遺構図 (5)



第37図 石組溝 SD04 土層断面図



第38図 SD01 石組構成石材実測図

は調査区外に伸びると想定される。溝を構築するために掘削された溝の掘肩の幅は最大で162cm、深さは最深で66cm（西壁土層断面で計測）を測る。断面形で箱型状に掘られた溝の床面に直接扁平な石材が1～2列に敷き並べられていた。石材は自然石または荒く削られた石材が用いられ、その隙間が大きい。

側石は東西壁両側とも高さ約20cmの割石で構成されていた。石組の上位は既に破壊または除去されて遺存しておらず、大部分が南北両壁とも2段分が残存していた。SD01と同様に割石は内法面を比較的平坦にして配置され、隙間に細かな割石の小片などが詰め込まれていたが、北壁については若干様相が異なっている。北壁を構成する石材の背後にも、側石と同様の石材で石列が1段構成されている。背後の石列は北方向に面して平坦面が揃った状態で配置されており、溝内法面を構成する石列と対になっている。遺構の大半は調査区外に伸びて様相は明らかではないが、この石列は溝の内法面を構成するとは考えにくく、北壁を構成する石列とともに石壁を構成していたと考えられよう。

SD03との接合部は床面で5cm程度の段差が存在し、SD03の方が高い。SD03に接するSD04の床石が推定1列分欠落しており、これが構築当時から欠けていたものか、後に抜き取られたものは特定できない。南北両壁の側石とSD01の南壁の側石は一連の遺構として連続した状態で構築されているが、両壁とも石積が2段存在するもののその積み方は特に算木積み状にしておらず1段目と2段目の石列配置はあまり変化していない。

石組溝内の堆積は、最下層は黄灰褐色細粒砂が20cm強とやや厚く堆積し、その上位にはにぶい赤褐色細粒砂が薄く堆積していた。石組溝内から陶磁器類などが出土しているが、検出された部分が少ないとその量は少ない。SD01と同様

に、構築された時期は17世紀末から18世紀初頭、廃絶時期はC-3期（18世紀）に位置づけられるだろう。

SX01（第32図）

SD01の東端から南に屈曲して南北方向に走る短い枠状の石組構造物である。側石はほぼ全部が遺存せず、側の裏込め石と床壁のみが残存していた。床材の状態からみて内法幅は最大で70cm、長さは2.15mを測る。溝を構築するために掘削された溝は、石組溝と方位がやや異なり南で東に振れていた。掘肩の幅は約185cmを測るが、一部の東辺が広がっている。断面形で箱型状に掘られた溝の床面に直接扁平な石材が2～3列に乱雑に敷き並べられていた。石材は自然石または荒く削られて成形された石材が用いられ石の隙間が大きい。SD01との接合部分は、床石と側石ともに連続して構築されていた状態と思われる。少なくとも床石についてはSD01とSX01の境界線を明瞭に認めることはできない。

側石が遺存しなかつたが、裏込めまたは下部に存在した小石材は残存しており、SD01～04と同様な構造を持っていたと考えられる。石組溝内の堆積もほとんど残存しておらず、出土遺物もわずかである。SD01と同様に、構築された時期は17世紀末から18世紀初頭、廃絶時期はC-3期（18世紀）に位置づけられるだろう。

石材について

石材は花崗岩が1点使用されたのを除き全て木曾川流域で産出されたと想定される砂岩であった。側壁に使用された石材は、多くは長さが30～50cm、幅が20～40cm、厚さが10～20cmの大きさに加工されている。一方、床壁に使用された石材は、多くは長さが20～50cm、幅が20～40cm、厚さが5～15cmの大きさに加工されている。ただし、加工が施されているといつても、実際には同等の規模の石材が調達され、大半は細かな形状を形成するために部分的に打ち欠いた程

度の加工であった。したがって自然面が活用できる部分は可能な限り活用されている。また、加工痕は床壁よりも側壁に使用された石材の方が多い傾向が窺える。

加工は打撃による剥離技法が使用されている。2562 は SD01 の北壁に使用された石材の一つである。また、2563 は SD01 の北壁石材背後に裏込めされていた小規模な石材の一つで、2562 と 2563 は接合された資料である。側壁に使用された石材と裏込めに使用された小石材の接合作業は調査上の制約のため十分に行うことができなかつたが、2562 と 2563 のような事例が存在することは剥離による石材加工は現地（石組溝が存在する場所の付近）で行われて全ての材料が効率よく使用されたことを推定できる。2562 は第 38 図の下面が石組溝側面の内法面に相当する。加工の順番は、まず内法面である下面の平坦面を形成するために数回の剥離作業が行われた後、上面に相当する正面の平坦面を形成するために大きな剥離作業が施されている。大きな剥離作業を行う際に、打点の部分にはあらかじめ直径 1cm 程度、深さ 1cm 弱の小穴が穿たれており、その部分に敲打具を当てハンマーなどによって衝撃が加えられたものと考えられる。

最後に石材の加工面と自然面の割合を検討する。全ての石材の 6 面全部の加工状況を確認することも調査上の制約のためできなかつたが、石組溝が検出された状態で見える面についてどの部分が加工されているかという調査を現地で行っているので、その傾向を示しておきたい。第 31 図は石組溝群全体の平面図に、平面図に見える部分（上面）で剥離加工が行われた部分をトーン（灰色）で示したものである。上面で剥離加工が施されたものと自然面のまま使用されたものの数量比をまとめたものが第 4 表である。これによると、床石は自然面のまま使用されたものが圧倒的に多く、側石は上面で剥離加工が施されたものと自然

面のまま使用されたものがほぼ同数であることが判明した。床と側である程度石材の適正が選別され、これが加工状態にも反映された結果であると考えられる。

上面の状態(個数)	加工面	自然面
SD01	北側壁	48
	南側壁	40
	床	33
SD02	東側壁	4
	西側壁	2
	床	3
SD03	東側壁	8
	西側壁	4
	床	13
SD04	北側壁	1
	南側壁	2
	床	1

第 4 表 石組溝の石材加工度

第 7 項 石列

C 期に属すると推測される石列は 1 基存在する。

SX09 (第 39 図)

調査区南端で検出された東西南に伸びる石列である。発掘調査時点では、この石列は南壁土層断面に見えていた遺構で、調査終了直前に南壁を部分的に拡大して SX09 の平面形態の調査を実施した。したがって石列の南側がどのように展開したかは、調査区外のため不明である。石列は大きく 3 つの石群に分かれており、全体の長さは 6.6m を測る。直方体の形状をした切石を用いて石の北側の面を直線的に掘りて配置されていた。切石の下部と南側には若干の自然石を使用して裏込め石としていた。石列は標高 13m 強のレベルの地面に設置され、その周囲は黒褐色シルトの斑土で覆われていた。石列設置面の下層は暗褐色細粒砂などによる整地土層でこの堆積は C-1 期の遺構を埋め立てた土層である。一方、石列設置面上層は黒褐色極細粒砂の斑土であり、詳細な時期の特定

名古屋城三の丸遺跡 VII

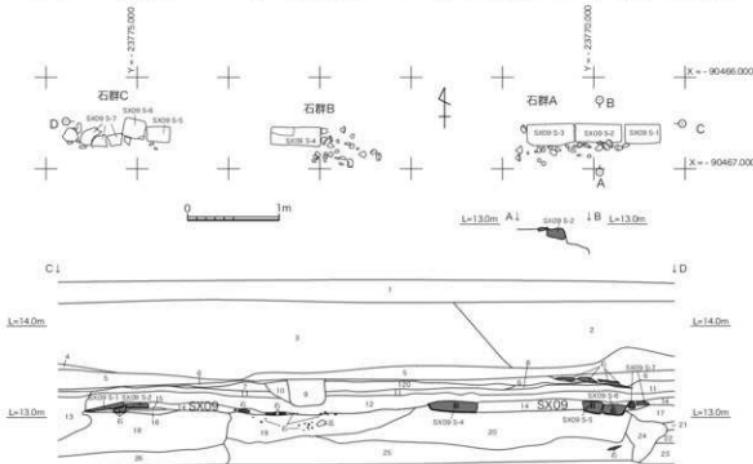
は難しい状態であった。

次に各石群の状況について説明を加える。SX09 の東端に所在する石群 A は直方体の石材を 3 個 (S-1 ~ 3) 配置して 1.45m 分の石列を構成している。北に面する側面は表面が研磨され美しく平坦面を作っていたが、それ以外の部分では表面を打ち欠いた加工痕が残存している。SX09 の中央に位置する石群 B は直方体の石材を 1 個 (S-4) 配置したものである。石材の東側には裏込めに使用される小玉石が約 70cm 四方の範囲で散乱しており、本来はこの東側の部分にも直方体の石材が存在していた可能性が高い。この想定が正しければ石群 B の全長は 1.25m を測る。SX09 の西端に展開する石群 C は直方体の石材を 5 個 (S-5 ~ 9) 配置して 1.20m 分の石列を構成

している。石列の配置は後世の擾乱によって乱されてしまったものと思われ、どの面も直線的にはなっていなかった。

各石群の間は、石群 B で見られたような玉石の散乱などが認められないことから、断定はできないものの、元々石列の空白が存在した可能性が高いと推定できる。このように推定すると、石群 A と石群 B との間は約 1.6m、石群 B と石群 C との間は約 1.1m を測る。

この石群に伴う遺物はわずかな陶磁器類と石群を構成する石材が存在するのみで時期を特定するにはあまり参考にはならない。石列の検出位置から考察すると、C-3 期（18 世紀）に構築された石列と推定される。この石列の用途を特定することはもとより困難であるが、現在まで残る近世の



建造物などの基礎構造を観察すると、建物基礎の土盛周囲に配置された石列や、雨落ち溝の建物側に設置された石列などの類例を知ることができる。このような状態から、SX09も建物（おそらくは礎石建物）に伴う縁石列であったと推測したい。

第8項 池状遺構 SX02（第40～55図）

C期に属する池状遺構は1基存在する。今回の発掘調査で最も特徴的な遺構となっている以下、詳細に説明を加えていく。

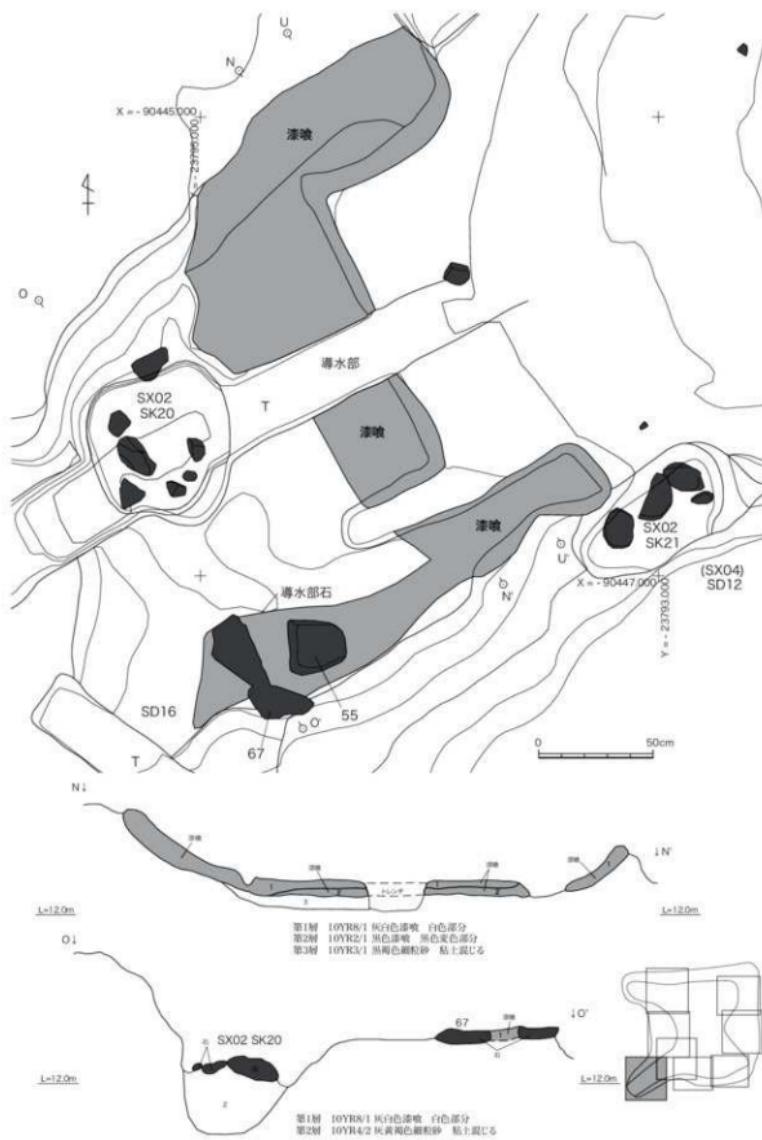
概要（第40図）

SX02は調査区の北西部で確認された池状遺構で、規模は最大長12.0m×最大幅10.8m×深さ1.45mである。全体の平面形は11m×10mのほぼ正方形に近い方形のプランに、東辺と西辺の両側から半島状に伸びた張り出し部が掘り残される形状と説明できる。周囲の壁面は大小様々な形状の土坑と漆喰による壁面などが認められ、部分的には石材が埋め込まれる形で配置されていた。床面は薄く粘土が貼られ表面には大量の玉石が敷き並べられていた。南西隅がスロープ状に傾斜し、



第40図 池 SX02 遺構全体図

名古屋城三の丸遺跡 VII



第41図 池SX02遺構詳細図(1)

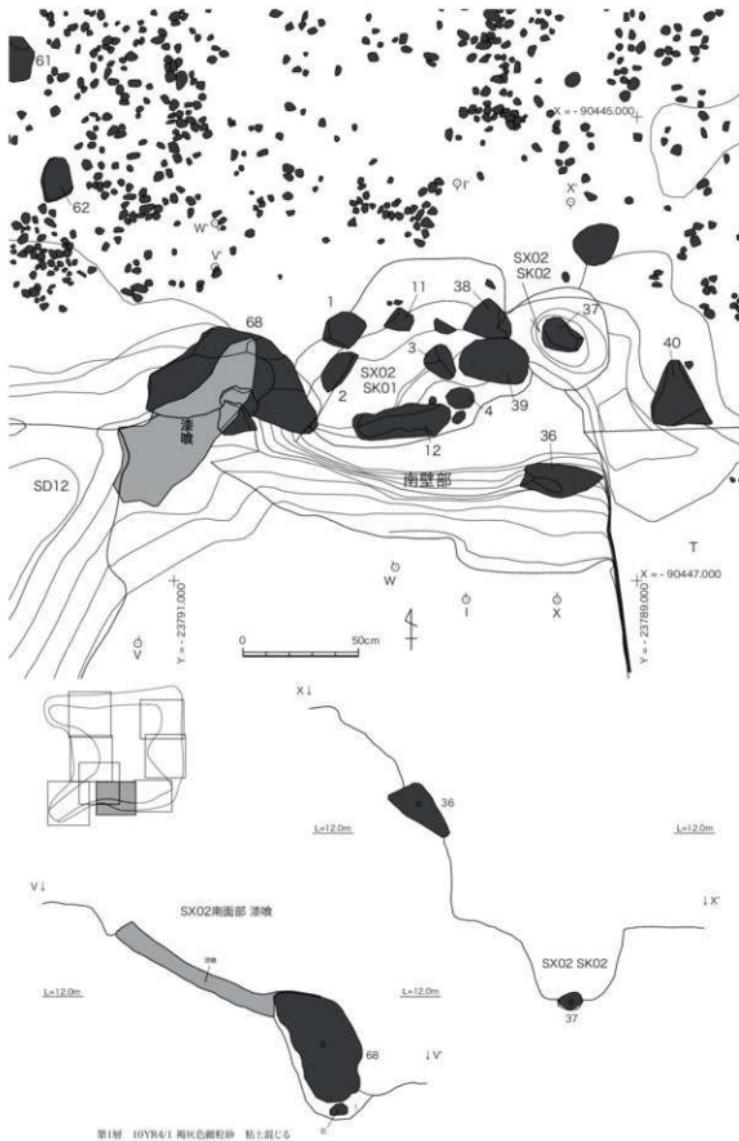
東辺北部で階段状の遺構が存在する。北壁は直線的に構築され東寄りの部分にはSD41が掘削されていた。埋土は灰色細粒砂と粘土の斑状が堆積しており、一気に埋め立てられたと考えられる。なお、池東辺に接する形で砂利敷SX03が存在し、SX02と一連の遺構の可能性が高い。

以上がSX02の形態的な概略である。次にSX02の性格や機能を検討する。まず、床に粘土

が貼られ四隅の壁は漆喰で覆われていたことが予測されることから、SX02は水を貯める施設であることがわかる。しかも、南西部にスロープを持ち、その対角線上の北東部に排水溝と思われるSD41が存在することから、大局的には南西から北東に水を流したものと推定される。また、部分的に巨石や装飾的な石材が漆喰壁に埋め込まれていたことから、壁周囲に分布する土坑は埋め込ま



第42図 池SX02遺構詳細図(2)



第43図 池 SX02 遺構詳細図 (3)

れた石の抜き取り穴であることが想定され、従つて SX02 は石材で装飾された構築物であると考えられる。ただし、北壁は極めて直線的に構築され装飾を持たない構造を呈している。こうした状況を総合的に判断すると、石材を配置して漆喰壁で覆われた装飾的な庭園に伴う池と推定され、北側から観賞したものと想定されよう。なお、SX02 の時期は、出土遺物や他の遺構との関係から、C・3 期（18 世紀）に構築・廃絶されたと推定される。

さて、ここでは遺構の説明を行うために、導水部（南西部）、南壁部（築山？）、西張り出し部、東張り出し部、階段状構造、北壁部、排水部（SD41）、床面、砂利敷（SX03）の 8 つの部分に分けて記述を進めたい。

導水部（第 41・42 図）

導水部は SX02 の南西部に所在する。南西端部が高く北東方向に向かって下る傾斜となっており、傾斜角度は約 5° を測る。導水部の幅は上端部付近で約 2.0m、開口部付近で約 2.8m、長さは約 4.7m を測る。

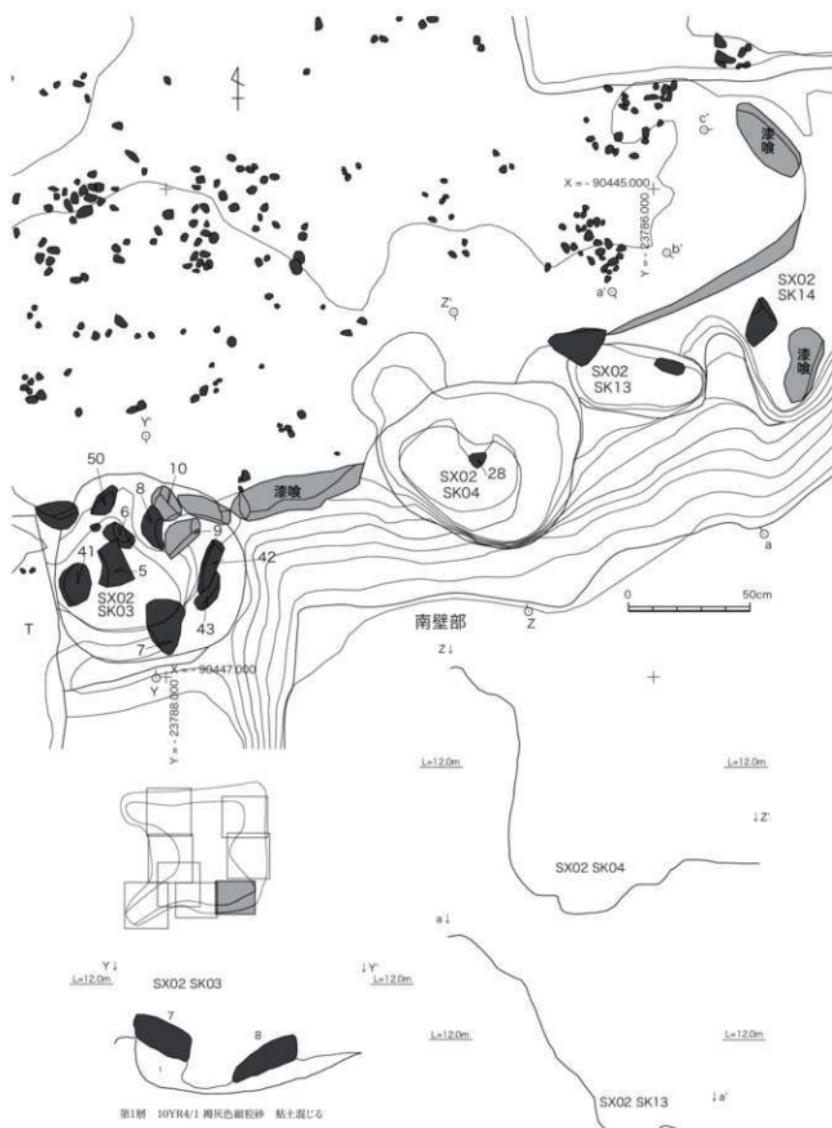
導水部上部では、北壁・床・南壁ともに厚さ 6cm の漆喰で覆われた状態が確認された。漆喰は「h」字状に残存していたが、一部の漆喰が直線的に欠落していた。欠落した部分が石の抜き取り痕か否かは特定し難いが、偶然に欠落したものとは考えにくい。漆喰は中央部が幅約 1.4m の平坦面を形成し、両側は緩やかな断面 U 字状の形態となっている。漆喰の北側の平坦部と傾斜部の境界にはわずかな溝が存在する。導水部上位の漆喰には石材が 2 個埋め込まれていた。導水部上位中央部には直径が 70cm 程度の歪な円形プランの土坑（SX02SK20）が存在する。この土坑は中位まで灰黄褐色細粒砂が埋積され、その上には小石材が散乱していた。埋め込まれた巨石の抜き取り穴と想定される。漆喰下端の東側にも 70cm × 40cm の梢円形土坑が存在し、中からは中規模

の石材が 3 点ほど出土した。これも石抜き取り穴であろう。

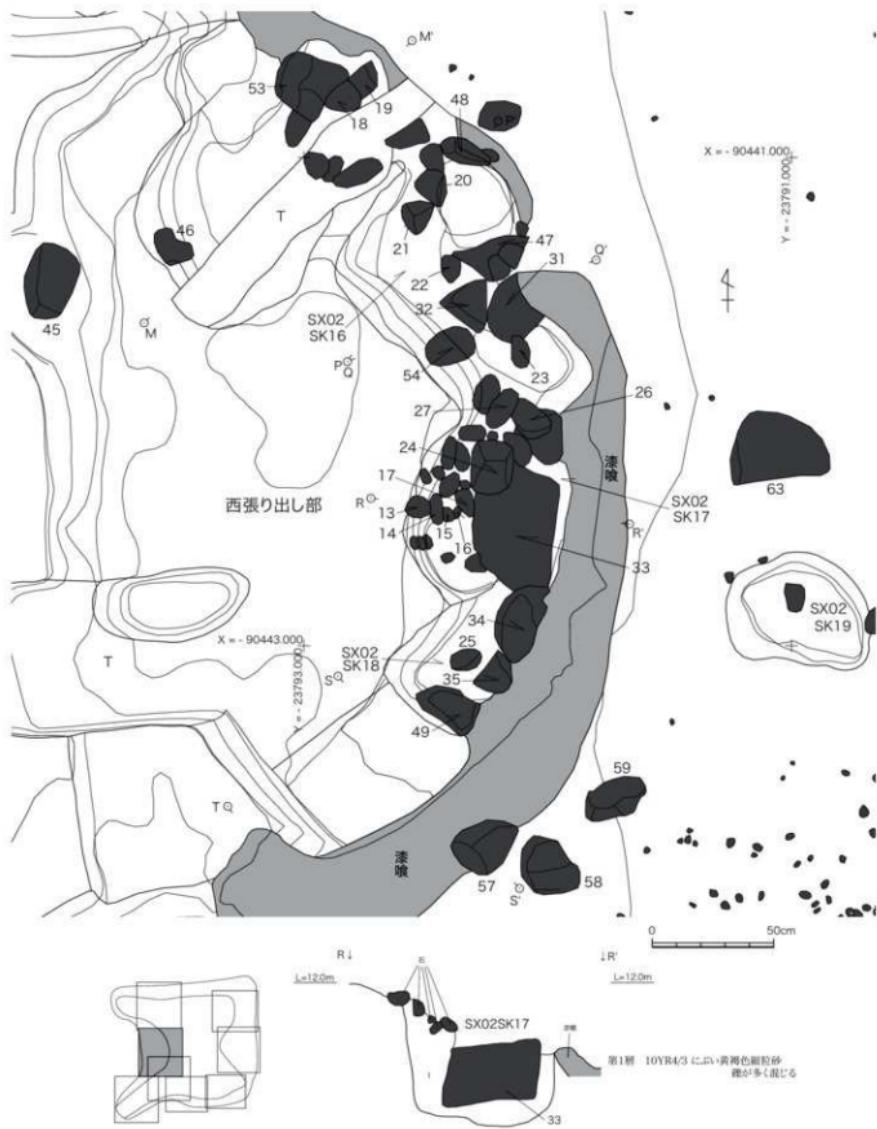
導水部下部（北東方向の大半）は傾斜を持つ地山の平坦面が広がり、他の構造物は全く存在しない。もともと地山面が露出していた可能性も考えられるが、ここでは上位に存在するような漆喰壁に覆われていたものと想定しておく。庭園の池の導水部としての景観を考えると、地山に影響を与えない程度の小規模の配石が存在したことも視野に入れておきたい。導水部最下部では地山あるいは薄い黄褐色粘土層上に玉石が散かれた状態が展開し、導水部と池本体との境界部分には中規模な石材が 6 個確認された。これら 6 個の石材は全て据え付けられた状態では確認されず、本来の位置から移動している可能性が高い。実際 6 個の石材のうち 2 個については石材に漆喰が付着した状態が確認されともと漆喰壁に埋め込まれていたことを窺わせている。しかしながら、6 個の石材が一部を除き直線的に検出されたこと自体が偶然の産物とは思われず、導水部と池本体の境界部に一程度の配石が存在したものと想定しておきたい。

導水部南壁中央部には SD12 が存在しているが、少なくとも漆喰壁で導水部が覆われていた段階ではこの SD12 は機能していなかったと考えられる。しかし、漆喰壁に覆われる以前（池構築段階か？）には SD12 と共存していた段階があったことが想定される。その理由は SD12 上層が SX02 に接する直前でラッパ状に開き、SD12 上層の東壁が SX02 の南壁と連続するかのような状態が確認されたためである。SD12 と SX02 の境界部は硬化した盛土によって山形に少し高くなっている、仮に SD12 を SX02 の水の供給源と想定するならば、境界部の高まりをオーバーフローした水流が池に流れたものと考えることもできよう。一方、導水部上端南部には SD16 が存在するが、検出された長さが短くその性格は確定で

名古屋城三の丸遺跡 VII



第44図 池 SX02 遺構詳細図 (4)



第45図 池SX02 遺構詳細図(5)

きない。導水部の上端部は本来もう少し上位まで遺構が展開したと考えられ、導水部が漆喰壁に覆われていた段階の水供給源の遺構は、後世の削平により滅失したものとここでは考えておきたい。
南壁部（築山？）（第43・44図）

SX02 の南壁部は概ね直線的に東西方向に広がっている。西は導水部につながり、東は池壁が北に折れてそのまま東張り出し部に至る。西端部には巨石が埋め込まれた漆喰壁が広がり、中央部は壁が厚い斑土で整地された土壁となり、中央部から東端部にかけてはその手前に石抜き取り穴と思われる土坑が多数存在していた。

南壁部西端の SD12 東肩と接する部分には 76cm × 36cm × 46cm の規模を持つ巨石が据え付けられていた。巨石は深さ 10cm 強の土坑中に立て置かれ、巨石より上位は厚さ約 8cm の漆喰壁で覆わされていた。漆喰は巨石上端部を覆うように設定されたが、巨石下部には漆喰壁は認められなかった。

南壁部中央には前時期に存在した SD14 があり、南壁から奥へ約 1.5m の範囲は灰白色粘土や褐灰色粘土などにより突き固められていた。版築状に積み重ねられた盛土は標高 12.5m 前後まで確認されたが、これよりも高くなっていた可能性もある。このように粘土によって溝を堰き止め盛土を行った場所は南壁部中央のみであり、他の地点では確認できない。

南壁部の掘肩は凹凸があり平坦ではない。掘肩部分には池の埋土とは異なる盛土が存在し、これは石材を配置した際の裏込め土である可能性が高い。

南壁部の直下には多数の土坑が存在する。土坑の形状や規模は様々であるが、中から中小規模の石材や漆喰片などが出土し、土坑の周囲には漆喰壁や床面の粘土層が巡りやや盛り上がっていた。以上の所見から、これらの土坑は石抜き取り穴と推定され、本来据え付けられた石材は漆喰や粘土

により隙間が埋められ固定されていたと想像される。

SX02SK01 は南壁部西端にある巨石の東隣に所在する土坑で、100cm × 56cm の規模を持つ。土坑の周囲を巡るように S1、S2、S12、S42などの石材が配置されていた。この土坑に庭石 1 石を配置したとすると相当大きな石材が使用された可能性が高い。

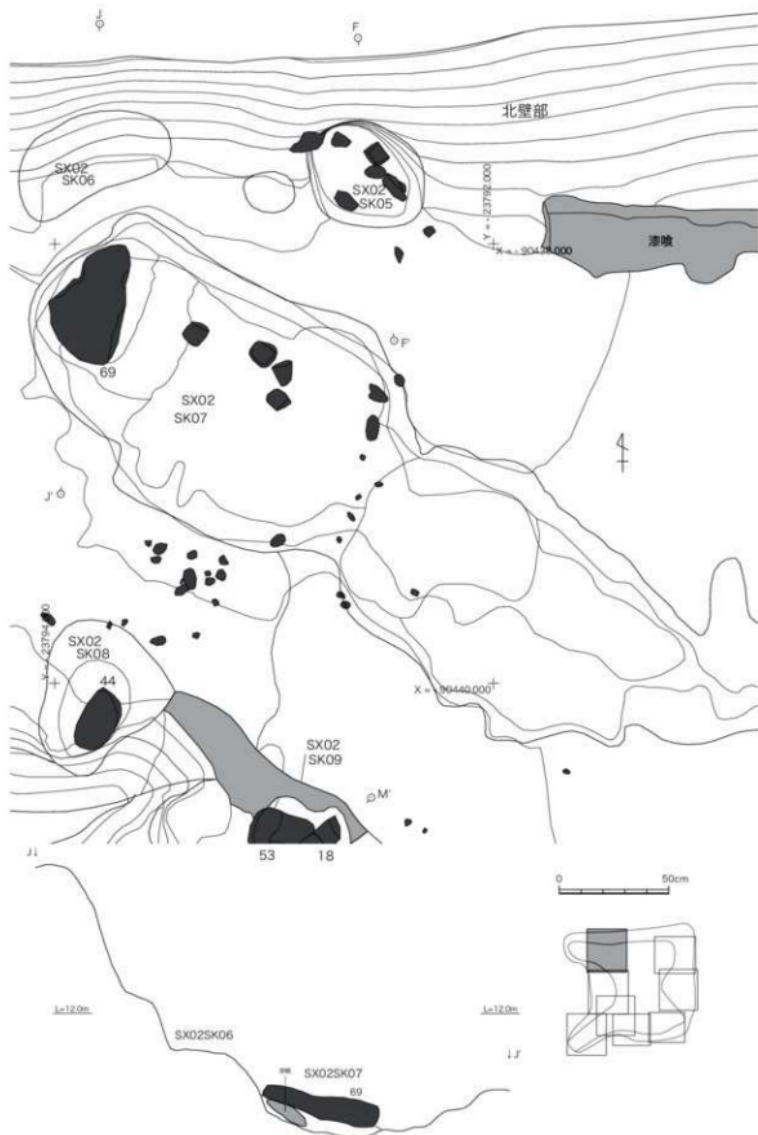
SX02SK02 は SX02SK01 の東隣に所在する土坑で、46cm × 44cm のほぼ円形プランとなっている。土坑の中央から石材 1 個(S40)が出土した。SX02SK02 と SX02SK03 の間はレンチ掘削のため不明な点が多いが、壁の奥側に抜き取り穴が存在した可能性がある。手前部分には S43 が存在する。

SX02SK03 は南壁部中央にある土坑で、78cm × 77cm の規模を持つ。土坑内部から S5 ~ 10、S44 ~ 46、S54などの石材が出土した。石材の他に漆喰片も出土しており、石が抜き取られた後に部材が混入した状態が想定される。この土坑に庭石 1 石を配置したとすると相当大きな石材が使用された可能性が高い。

SX02SK04 は南壁部東部に位置する土坑で、84cm × 69cm の規模を持つ。土坑からは小石材が数個出土した程度である。SX02SK03 と SX02SK14 の間には漆喰壁が一部残存していた。

SX02SK13 は南壁部東端に所在する土坑で、57cm × 28cm の規模を持つ。土坑の周囲に数個の中小規模の石材が配置されていた。この土坑にはあまり大きくない石材が使用された可能性が高い。

SX02SK14 は南壁部東端に存在する土坑で、壁を横に掘り込んだ状態で確認された。土坑と盛土の識別は実際には難しいが、漆喰片や石材が出土したため土坑と確定した。SX02SK12 の前面には漆喰壁の立ち上がり部分が残存しており、池の平面プランはこの漆喰残存位置で特定できよ



第46図 池SX02遺構詳細図(6)

う。あるとすれば、SX02SK12 や SX02SK13 は漆喰壁のやや奥に設定されており石材は相当埋め込まれた状態であったと想像される。

上記の状態からみて、南壁部は概ね直線的に庭石が一列に配置されていたことが想定される。

西張り出し部（第 45 図）

西張り出し部は SX02 の西部に所在する。西張り出し部本体は半円形に掘り残された半島状の高まりであり、その周囲には漆喰壁の護岸が施されその上位には土坑や石材が配置されている。上部は数個の石材が配置されている他は施設が遺存しない。西張り出し部の南側は導水部北壁に連続し、北側は壁が U ターンをして北壁部に至る。

西張り出し部南端では漆喰壁が高さ約 30cm、平面幅約 70cm で残存していた。漆喰の厚さは 12cm を測り、特に表面の厚さ 2cm の部分は肌理の細かい漆喰で丁寧に塗られていた。漆喰壁は東端部で最も高く遺存し、すぐ北側で約半分の高さとなっている。これはその背後が平坦面を形成していることに起因するものと思われる。漆喰壁の残存状況はさらに北に行くほど低くなり西張り出し部北側で漆喰壁は残っていないくなっている。

西張り出し部では、残存する漆喰壁の上位に石抜き取り穴と推測される土坑が 6 基存在する。残念ながら巨石が据え付けられていたままの部分は認められなかった。土坑の形状や規模は様々であるが、中から中小規模の石材や漆喰などが出土していた。南壁部では漆喰壁下端付近で土坑が存在していたのに対して、西張り出し部では土坑が上位に存在する点が大きく異なる特徴であるといえよう。

SX02SK18 は西張り出し部南側にある段差状の土坑で、60cm 以上 × 40cm 以上の規模を持つ。土坑の岸側に S27、S37、S38、S52 などの中小規模の石材が配置されていた。この土坑の奥側に庭石 1 石を配置し中小規模石材を根固めとして利用したものと考えられる。

SX02SK17 は西張り出し部中央に所在する土坑で、約 70cm × 約 60cm の大きさを測る。土坑の岸側には上面が平坦で厚さが 22cm、平面形が 54cm × 34cm の平行四辺形の巨石 S36 が据え付けられ、その奥側に小規模な石材 S13～S17 などが散乱していた。巨石 S36 は庭石 1 石を配置するための根石の可能性がある。

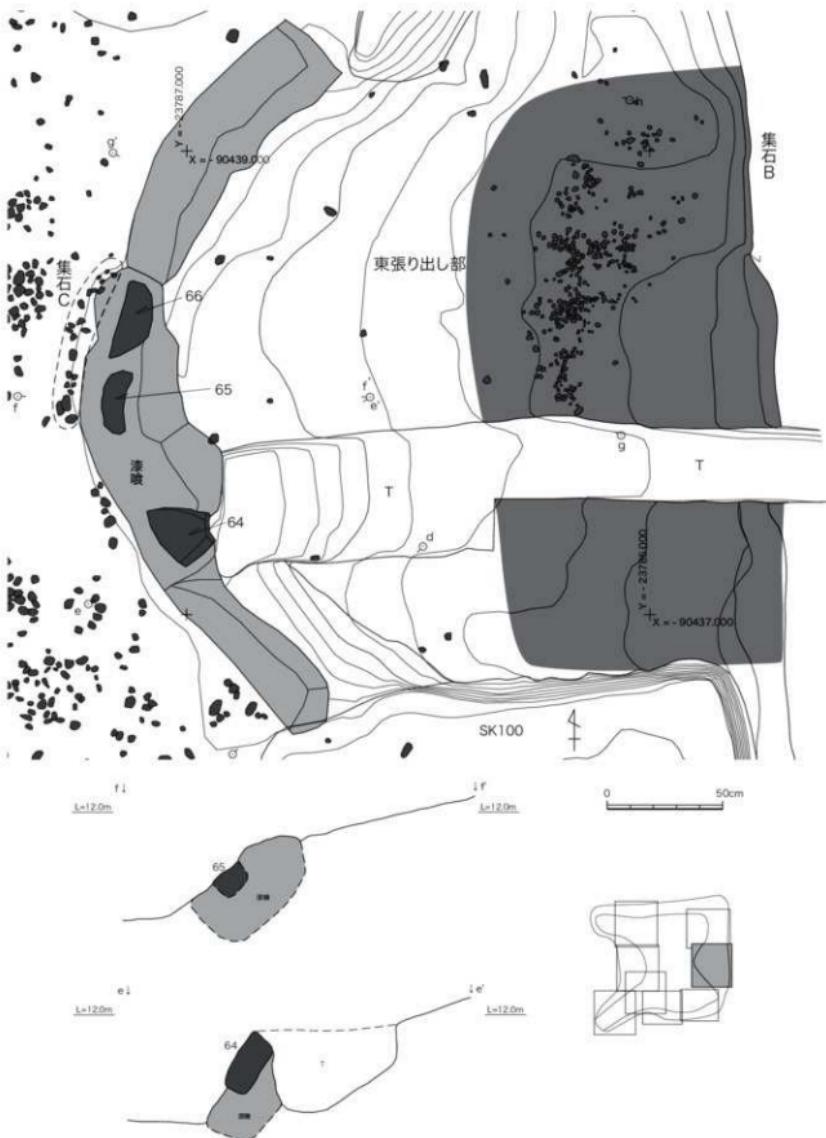
SX02SK16 は西張り出し部北側にある長方形土坑で、117cm × 80cm の規模を持つ。複数の土坑が重複してこの形状になった可能性もあり、S22～S24 など多くの石材が配置されている。この土坑には複数の庭石が配置されたと思われる。

SX02SK09 は西張り出し部北側に所在する 124cm × 82cm の規模を持つ土坑である。土坑の上端部からの深さは 65cm を測る非常に深い土坑である。最下層からは鎌倉時代の山茶碗などが出土していることから、下部は B 期の遺構と推測される。一方、土坑の岸側の部分では S16、S19、S56 などの石材がおおよそ円形に配置されており、その中央に庭石 1 石が配置されたと想定できる。

SX02SK08 は西張り出し部北端にある土坑で、71cm × 62cm の規模を持つ。土坑中央には石材 S47 などが配置されていた。この石材は庭石を安置するための根石の可能性がある。漆喰壁はどの土坑まで残存し、土坑の西側には展開していない。

SX02SK15 は西張り出し部北端にある土坑で、91cm × 65cm の規模を持つ。土坑中央には石材 S30 などが配置されていた。この石材は庭石を安置するための根石の可能性がある。

上記のように西張り出し部の岸に沿った形で展開する土坑群の上位には、土坑など池の装飾などに関連する遺構は意外と少なく、石材 2 個と土坑 2 基が存在するのみである。土坑については池に伴う遺構と特定できない。



第47図 池SX02遺構詳細図(7)

東張り出し部（第 47 図）

東張り出し部は SX02 の東部に所在する。東張り出し部本体は半円形に掘り残された半島状の高まりであり、その周囲には漆喰壁の護岸が施されその上位には土坑や大きな石材が配置されず、上部は小規模な白色の玉石が敷き並べられている他は施設が遺存しない。西張り出し部の南側は SK 100 によって破壊され、南壁部との接続状況は不明である。北側は土坑が 3 基と階段状遺構が存在する。階段状遺構の右手床面には巨石が据え付けられた状態が確認された。土坑と階段状遺構以外の壁は漆喰によって覆われ、そのまま北壁に連続している。

東張り出し部は西張り出し部と異なり、半分ほどが盛土されて構築されている。当初の掘肩は下端部で 1.3m ほど掘り残した状態であり、その後に粘土混じりの黒褐色細粒砂で高さ約 75cm、幅 2m 強、先端に向かって約 1.5m 盛土されていた。当初の掘肩ラインで池が機能していた可能性も考えられるが、この段階での土坑や石材は確認されなかった。

盛土の先端では漆喰壁が高さ約 30 ～ 50cm、厚さ約 20 ～ 30cm で残存していた。漆喰は上位が削られた可能性があるが、それほど高くはないと思われる。先端部中央部の漆喰壁には黒色の直方体状の石材が 3 個埋め込まれており、黄白色の壁面に四角い黒色石が浮かぶ形となっている。石材の下端は床面から約 20cm 上位に揃った状態であり、構築段階で想定された池の水位は黒色石に近似した 20cm くらいであったと想定できる。北部に行くに従い漆喰壁は高く遺存している。漆喰壁は少なくとも先端部では 2 段階に塗られていたことが判明している。これが床面の新旧に対応していた。

漆喰壁の上位には、白色シルトブロックを多量に含む土層で整地され、その上に白色の径 2cm 程度の玉石が敷き並べられていた。石の抜き取り

穴や大型の石材が存在しないことから非常に平板な構造を呈していたといえる。

階段状遺構（第 48 図）

階段状遺構は SX02 の東辺の北部にあり、段差が素掘りで 4 段設けられていた。周辺に土坑が 3 基存在する。巨石が据え付けられていたものではなく、土坑の設置位置も様々であった。

階段状遺構の北側は約 45 度の傾斜で池底に至り、階段状遺構は掘肩上位から設置されていた。上位から 1 段目の段差は明瞭ではなく、4 段目の段差は SX02SK11 のため正確な形状を把握できない。幅は上端部で約 1.1m、下端（段差）部で 0.7m を測る。段差部分では石材や石材が抜き取られた痕跡などを見出すことはできなかった。しかし、検出時点でも地盤が不安定な状態であったため、本来は石材が組まれていたと想定される。

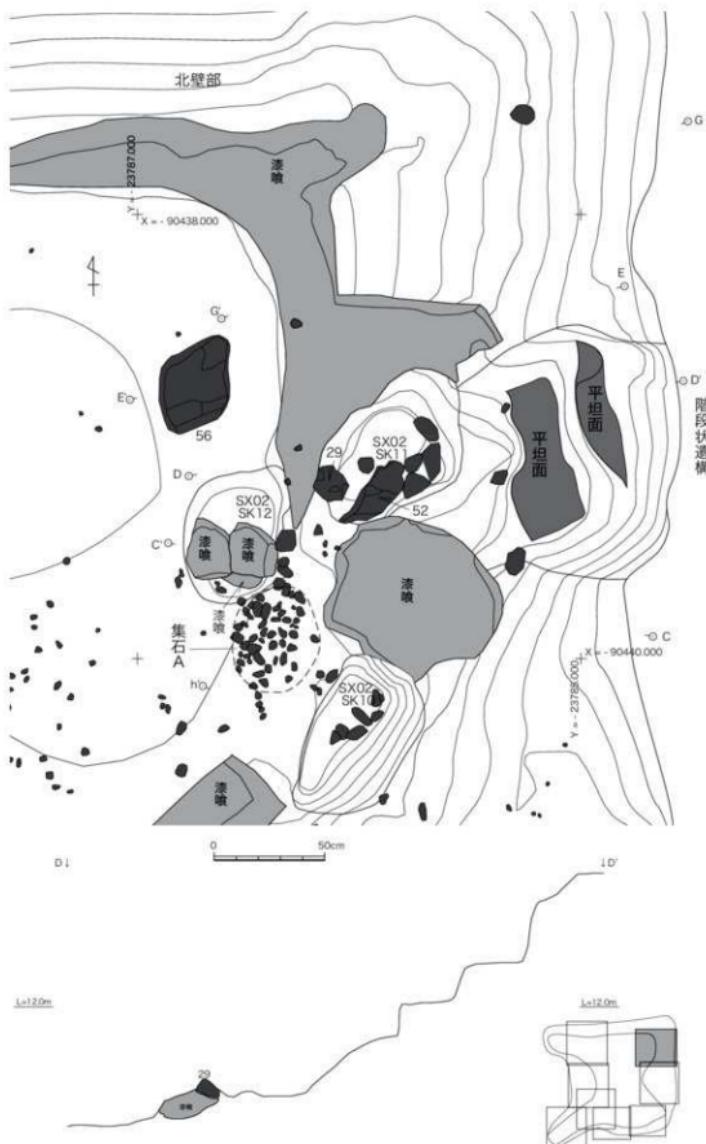
SX02SK11 は階段状遺構の下半部北寄りに所在する 82cm × 54cm の規模を持つ土坑である。土坑内で中小規模の石材が南側に偏って配置されており、庭石 1 石が配置されたと想定できる。

SX02SK12 は階段状遺構直下にある土坑で、58cm × 46cm の規模を持つ。土坑中央には漆喰片などが出土しており、石が抜き取られた後に漆喰を埋めたものと考えられる。

SX02SK10 は階段状遺構の南部に位置する土坑で、76cm × 46cm の規模を持つ。階段状遺構とは漆喰壁を挟んで約 60cm 離れた場所にあり、土坑中央には小石材が出土した。この土坑の存在で漆喰壁は分断されていた。

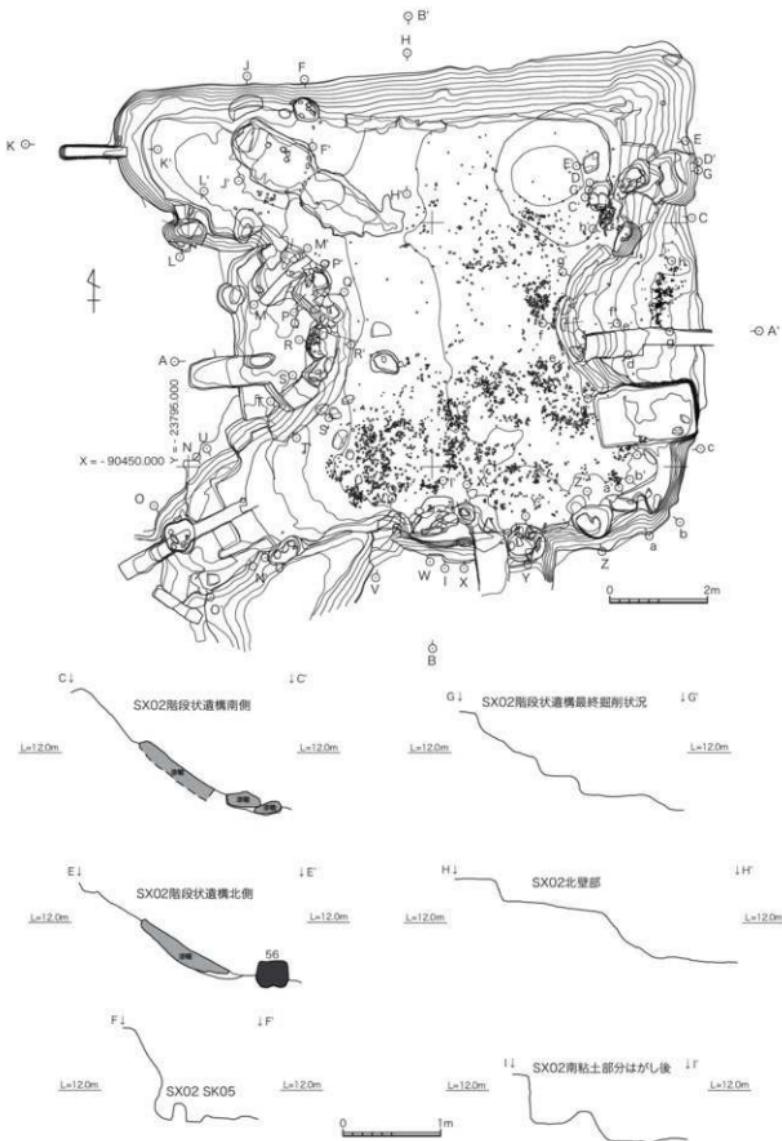
SX02SK10 と SX02SK12 との間の床面には玉石が集中して分布する部分（集石 A）が存在する。この集石も池を装飾するための施設の基礎の可能性がある。

SX02SK12 の北部には一辺が約 40cm の黄色チャートが床面に据え付けられる形で検出された。床面にわずかな窪みに石を置き周囲を床面を覆う黄褐色粘土で固められていた。階段状遺構に

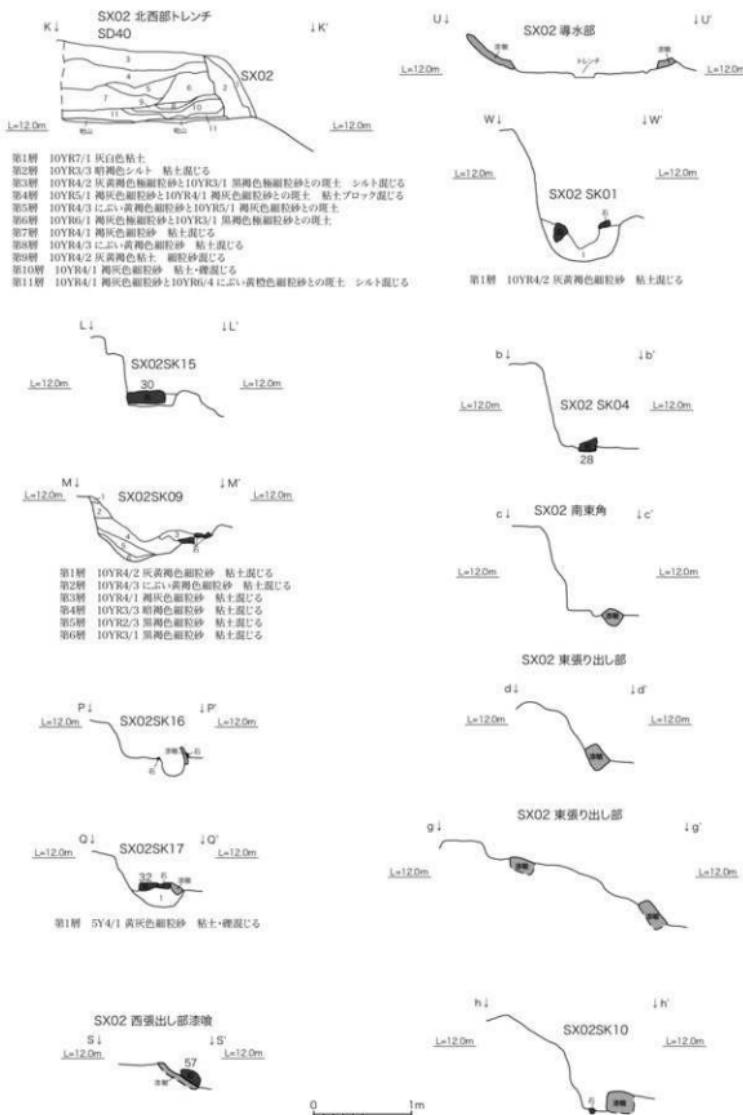


第48図 池SX02遺構詳細図(8)

名古屋城三の丸遺跡 VII



第49図 池 SX02 エレベーション図 (1)



第50図 池SX02エレベーション図(2)

近接するため手水鉢台用の石材の可能性も考えられる。

北壁部（第 46 図）

北壁部は池の直線的な北面を指し、西部に土坑が 2 基、東部に SD41 の排水口が設置されていた。これ以外の部分は約 50 度の傾斜で素掘りの地山が大きな平坦面を形成して露出し、下端部で一部漆喰壁が残存していた。この状態から見て本来は土坑と排水溝を除く部分は北壁全体が漆喰壁に覆われていたと想定される。

SX02SK06 は北壁西部に所在する土坑で 72cm × 38cm の規模を持つ楕円形土坑である。石材がほとんど出土しておらず、池よりも古い遺構である可能性も想定できる。

SX02SK05 は北壁西部にある土坑で、60cm × 48cm の規模を持つ。土坑中央には小規模な石材などが出土しており、石が抜き取られた後に漆喰を埋めたものと考えられる

排水部 SD41（第 52 図）

排水部 SD41 は S X02 北壁部の東部に所在する溝で、南北方向に走る。上端幅約 4.0m、下端幅約 2.5m、深さ約 1.2m の規模を持つ断面形が逆台形を呈する形状で、溝底は池の床面からは約 15cm 上位に存在した。内部は細粒砂やシルトの斑土で充填されており、廃絶の際に一気に埋め立てられたと考えられる。溝は池の状況からみて暗渠であった可能性が考えられ、おそらく石組暗渠が壊され抜き取られた後に整地されたのである。

なお、北壁土層断面では 29 層より上位に建物跡と思われる柱穴と根石が確認され、SD41 構築後に建物遺構が存在したことが予測される。

床面（第 51 図）

池の床面は南西部が最も高く北東部が最も低い。全体には西側が高く東側が低い傾斜となっている。床面は全部で 3 段階に分けることができる。

上位の床面は池廃絶時点までの最終床面に相当

し、表面が黄褐色粘土で覆われていた。黄褐色粘土層の上面には大量の黄色チャート製の自然石の玉石が敷かれていた。玉石は南部で多く認められ北西部では少ない傾向がある。この床面は東張り出し部先端の漆喰壁の表面と対応している。

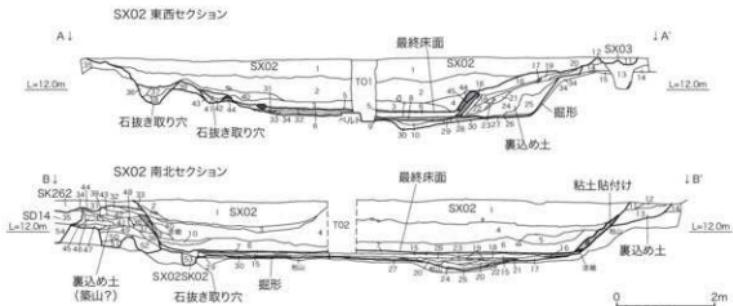
中位の床面は、厚さ約 5cm の黒褐色土が混じる細粒砂層を挟んで上位床面より下位に存在する面である。中位床面は部分的にしか確認されず、下位床面と区分できないところがある。表面は灰黄色細粒砂層で覆われているが、玉石はほとんど敷かれていないかった。初めから玉石が存在しなかったのか、上位床面構築段階で削り取られたのかは特定し得ない。この床面は東張り出し部先端の漆喰壁の塗り直し前の表面と対応している。

下位の床面は池の掘肩に相当する地山面である。この面が池として機能していたのかは明らかではない。表面は粘土や玉石などによる装飾は全く施されていない。

床面にはいくつかの浅い土坑が上位床面で 2 基、下位床面で 1 基確認された。SX02SK07 は全長 4.0m、幅 1.2m を計る溝状の土坑で、上位床面で構築されていた。SX02 の北西部に所在し斜め方向に走り、中部で括れを持ちそこに段差が生じている。土坑の北西端に大型の石材が据え付けられ、南東方向に向けて小規模な石材が散乱していた。SX02SK22 は直径約 2m の円形土坑で、上位床面から構築されていた。SX02 の北東部に所在し、緩やかな崖みを形作っていた。石材はほとんど確認できなかった。一方、SX02SK23 は下位床面から構築されていた。北西から南東方向に伸びる細長い形状で、SX02 の中央部に所在する。内部にはにぶい黄褐色シルトなどで充填され整地されていた。

SX03（第 52 図）

SX02 東辺上端に接する形で並走する溝状の砂利敷造構である。北端は調査区外に伸びるが、南端は池の南部付近で収束する。幅は約 1.05m、



東西セクション上層説明

- 10YR5/1 黄褐色細粒砂 シルト混じる、瓦多く混じる
- 2号 5Y4/1 土色細粒砂 粘土・白色シルトブロック混じる
- 3号 N4/ 黄褐色細粒砂 粘土ブロック混じる
- 4号 N5/ 黄褐色細粒砂 粘土を混じる、透徹状ブロック若干混じる
- 5号 N5/ 黄褐色細粒砂 粘土を混じる、透徹状ブロック若干混じる
- 6号 2.5Y6/2 黄褐色細粒砂
- 7号 2.5Y6/2 4号 黄褐色細粒砂 粘土・土混じる
- 8号 2.5Y6/2 黄褐色細粒砂 粘土・土混じる
- 9号 5Y6/2 黄褐色細粒砂 粘土を混じる
- 10号 2.5Y5/3 黄褐色細粒砂 粘土・土混じる
- 11号 7.5YR4/2 黄褐色細粒砂 3cmでの透水性を大量に含む
- 12号 7.5YR4/2 黄褐色細粒砂 粘土・土混じる
- 13号 2.5Y5/2 黄褐色細粒砂 黃褐色砂混じる
- 14号 5Y3/1 黑褐色細粒砂 粘土を混じる
- 15号 7.5YR2/1 黑褐色細粒砂 粘土を混じる
- 16号 2.5Y5/3 黄褐色細粒砂 粘土を混じる、透徹状ブロック多く混じる
- 17号 2.5Y5/4 黄褐色細粒砂 黄褐色土混じる
- 18号 2.5Y4/1 黄褐色細粒砂 粘土を混じる、白色シルトブロック多く混じる
- 19号 2.5Y5/1 黄褐色細粒砂 粘土を混じる、白色シルトブロック多く混じる
- 20号 7.5YR3/2 黄褐色細粒砂 黃褐色砂混じる
- 21号 10YR5/1 黄褐色細粒砂 白色シルト混じる
- 22号 7.5YR6/1 黄褐色細粒砂
- 23号 10YR5/1 黄褐色細粒砂 白色シルト・粘土・土混じる
- 24号 10YR5/1 黄褐色細粒砂 + 10YR4/1 黄褐色細粒砂
- 25号 SY1 黑褐色粘土
- 26号 2.5Y5/3 黄褐色細粒砂 黑褐色土混じる
- 27号 5Y4/3 黄褐色細粒砂 粘土・土混じる
- 28号 10YR5/1 (に) 黄褐色細粒砂
- 29号 7.5YR4/2 黄褐色シルト 黑褐色土混じる
- 30号 10YR7/3 (に) 黄褐色シルト 粘土を混じる
- 31号 7.5YR4/4 黄褐色細粒砂 下部に軟化部分有り
- 32号 10YR4/4 黄褐色細粒砂 粘土・土混じる
- 33号 10YR5/1 黄褐色細粒砂 粘土・赤色・黒色・黃色・土混じる
- 34号 10YR6/4 黄褐色細粒砂 (地山)
- 35号 2.5Y5/4 黄褐色粘土 (地山)
- 36号 N3/ 黄褐色粘土
- 37号 N5/ 黄褐色粘土 水化物有り
- 38号 N4/ 黄褐色粘土 硫酸塩混じる、粘土・水化物混じる
- 39号 5Y7/2 黄褐色中粒砂
- 40号 5Y5/1 黄褐色細粒砂 粘土混じる
- 41号 5Y5/1 黄褐色粘土 硫酸塗地帯と、白色粘土ブロック多く混じる
- 42号 N5/ 黄褐色粘土 硫酸塗地帯と、白色粘土ブロック多く混じる
- 43号 N4/ 黄褐色粘土 硫酸塗地帯と、硫化物地帯混じる
- 44号 希少 N8/ 白色 粘土混じる
- 45号 希少 7.5Y8/1 白灰色 粘土類い。

南北セクション上層説明

- 1号 10YR5/1 黄褐色細粒砂 シルト混じる、瓦多く含む
- 2号 10YR4/2 黄褐色細粒砂 シルト混じる
- 3号 10YR4/1 黄褐色細粒砂 粘土混じる
- 4号 2.5Y4/1 黄褐色細粒砂 粘土混じる、白色の粘土ブロック若干含む
- 5号 N5/ 黄褐色細粒砂 粘土を混じる、透徹状ブロック若干混じる
- 6号 N4/ 黄褐色細粒砂 粘土・土混じる
- 7号 5Y7/2 黄褐色細粒砂
- 8号 5Y7/1 黄褐色細粒砂
- 9号 10YR4/3 (に) 黄褐色細粒砂 粘土混じる
- 10号 10YR4/4 黄褐色細粒砂 粘土混じる
- 11号 10YR6/2 黄褐色細粒砂 黑色土・黄色土・白色シルトブロック混じる
- 12号 7.5YR2/2 黄褐色細粒砂 黄色土・白色シルトブロック混じる
- 13号 7.5YR3/2 黑褐色細粒砂 黄褐色土混じる、白色シルトブロック多く混じる
- 14号 10YR3/1 黑褐色細粒砂 粘土混じる、塊土せずかに混じる
- 15号 10YR4/2 黄褐色細粒砂 粘土・黑褐色土混じる
- 16号 10YR4/3 黄褐色細粒砂 上部に軟化部分有り
- 17号 2.5Y5/4 黄褐色無機砂 黑色土・白色シルト・粘土混じる
- 18号 10YR6/1 黑褐色無機砂 粘土・黑色土・白色シルトブロック混じる
- 19号 地上 (10YR2/6 明黄色無機砂混じる + 10YR7/1 白色無機砂)
- 20号 黄褐色土混じる
- 21号 2.5Y5/3 黄褐色無機砂 わずかに黄色土混じる
- 22号 10YR5/1 (に) 黄褐色無機砂
- 23号 7.5Y5/8 明黄色無機砂 粘土混じる、下部に軟化部分有り
- 24号 地上 (10YR6/1 黄褐色無機砂混じる + 2.5Y5/3 黄褐色無機砂 + 2.5Y2/1 黑色無機砂)
 - 粘土・白色シルトブロック混じる、黄褐色土・黑色土混じる
- 25号 2.5Y5/4 黄褐色無機砂 黑色土混じる 下部に軟化部分有り
- 26号 10YR4/1 黄褐色無機砂 粘土・黑色土・シルトブロック多く混じる
- 27号 2.5Y5/3 黄褐色無機砂 黑色土・シルトブロック混じる、黃褐色土わざかに混じる
- 28号 10YR6/1 黄褐色無機砂 粘土・灰白色・白色土・黑色土・白色シルトブロック混じる
- 29号 10YR3/4 黄褐色無機砂 粘土・灰白色・白色土・黑色土・白色シルトブロック混じる
- 30号 10YR6/1 黄褐色無機砂 粘土・灰白色・白色土・黑色土・白色シルトブロック混じる
- 31号 10YR6/1 黄褐色無機砂 粘土・灰白色・白色土・黑色土・白色シルトブロック混じる
- 32号 DT7/2 黄褐色細粒砂
- 33号 7.5Y7/2 黄褐色無機砂
- 34号 10YR5/2 黄褐色細粒砂
- 35号 10YR4/1 黄褐色無機砂 粘土混じる、塑地層
- 36号 2.5Y7/1 黄褐色細粒砂 硫酸物混じる
- 37号 2.5Y6/1 黄褐色細粒砂 粘土・土混じる
- 38号 2.5Y6/1 黄褐色粘土 粘土・土混じる
- 39号 10YR7/2 (に) 黄褐色粘土
- 40号 7.5Y7/1 黄褐色粘土 混疊層
- 41号 7.5Y7/2 黄褐色粘土 硫酸塩混じる
- 42号 2.5Y7/2 黄褐色シルト 白色シルトブロック混じる
- 43号 2.5Y7/3 浅黄色粘土
- 44号 2.5Y7/2 黄褐色粘土
- 45号 2.5Y6/1 黄褐色細粒砂 シルト混じる
- 46号 10YR8/1 黑白色粘土 黑色土・シルト混じる
- 47号 10YR2/1 黄褐色細粒砂 粘土混じる
- 48号 2.5Y7/1 黄褐色粘土
- 49号 10YR7/2 黄褐色粘土
- 50号 10YR5/2 黄褐色粘土 硫酸塩混じる
- 51号 10YR5/1 海浜色粘土 白色シルト混じる
- 52号 7.5YR6/1 黄褐色粘土 黑色土・シルトブロック混じる
- 53号 7.5YR4/1 黄褐色粘土 硫酸塩混じる
- 54号 10YR3/1 黑褐色粘土 硫酸塩・白色粘土ブロック混じる SD14理土。

第51図 池SX02土層断面図

深さは北壁土層断面で 65cm を測る溝であり、内部は砂利で充填されていた。この結果、遺構検出状態では幅約 1m の砂利敷き帶が南北に伸びる状態であった。SX03 は部分的に SX02 を切る地点が存在するために池とは関係が無い可能性が残されるが、ここでは遺構の配置からみて一連の遺構と考えておきたい。

石材

石材の同定結果については第 4 章第 4 節で詳述するが、ここでは本来据え付けられていた石材の配色と玉石の種類と規模についてまとめておきたい。

本来据え付けられていた石材の配色については、肝心の石材の大多数が抜き取られているため全容を解明することはできない。しかし限られた資料からでも一定の傾向を知ることができる。導水部や床面に埋め込まれた石材は緑色片岩、東張り出し部に埋め込まれた石材は黒色の砂岩が使用されていた。南壁の巨石は砂岩であったが、抜き取られた石材が同様であったか否かは疑問である。階段状遺構前の石材は単独で据えられていたため、黄色チャートが意図的に選択されていたと推測される。

一方、玉石の種類と規模については、採取さ

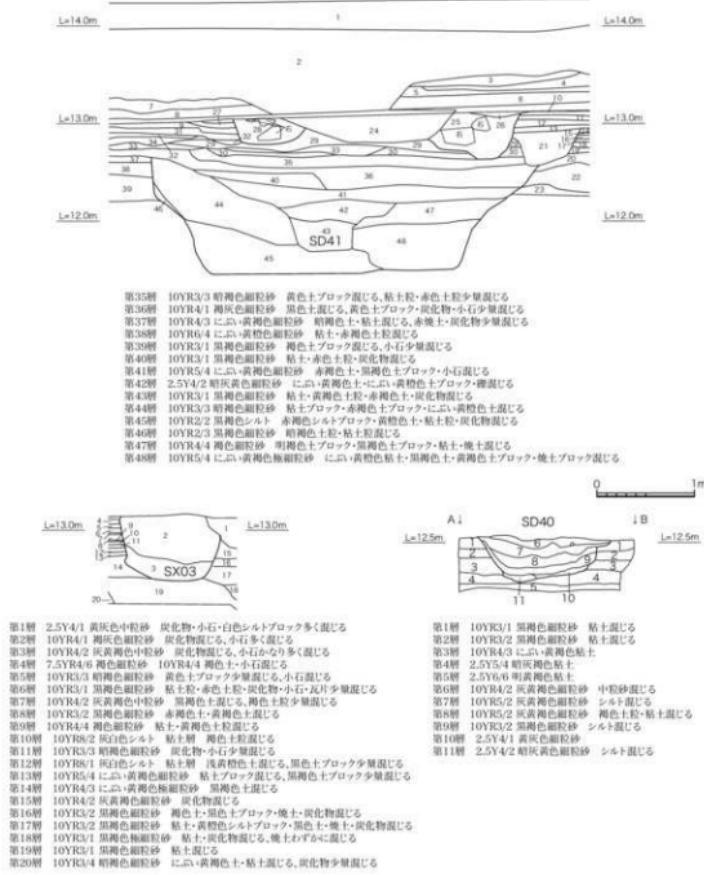
れた場所によって傾向が異なっている。床面は 4 地区に分割し、その他に東張り出し部表面、SX03、集石 5 箇所、玉石類が多く出土した池内土坑 3 箇所をサンプルとして分析した(第 54 図)。その結果が第 5 表である。

これをみると、床面では径 3 ~ 5cm 程度の亜円錐チャートが多用されている。東張り出し部表面では径 1 ~ 2cm 程度の円錐珪質岩が多用されている。SX03 では様々な大きさの様々な石種の玉石が用いられていた。角礫が多いことも特徴である。集石や池内土坑では大きさが多少ばらつく他は床面の玉石と同様な状況であった。

以上の結果から、石材は使用された部位によって意図的に選択されたことが判明した。

まとめ

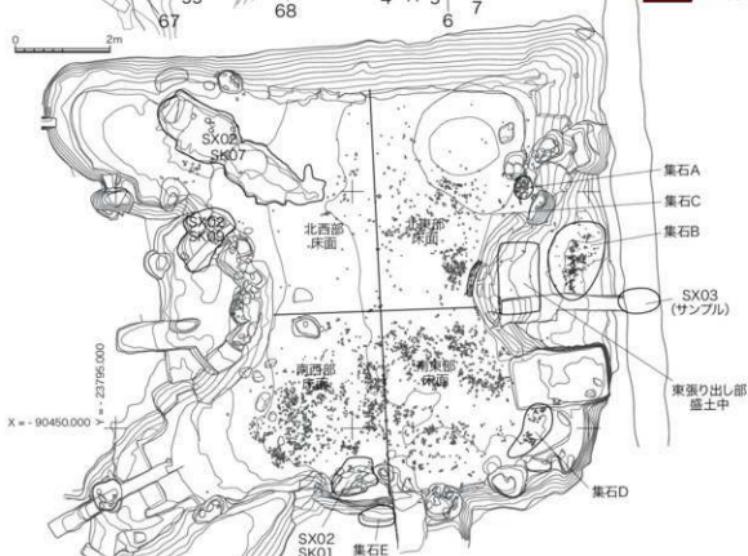
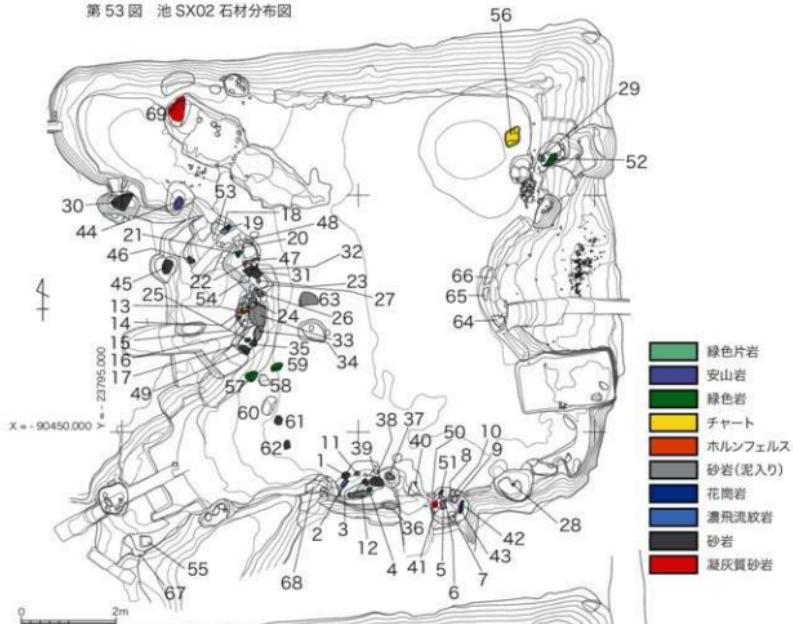
以上が池状遺構 SX02 の詳細である。全体として石の大部分が抜き取られるなど本来の形状をとどめていないが、その痕跡からは池構築が入念に行われていた雰囲気を読み取ることができた。江戸時代の庭園史を語る上で貴重な資料になることは相違ないだろう。なお、この結果から想定される本来あった池の形状(最終段階: 上位床面の時期)については第 5 章第 4 節で考察するので、そちらも参照されたい。



第52図 池関連施設 SD41・SX03・SD40 土層断面図

名古屋城三の丸遺跡 VII

第 53 図 池 SX02 石材分布図

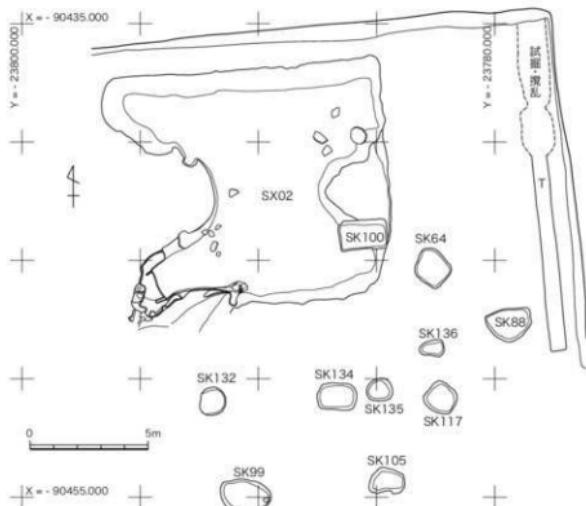


第 54 図 池 SX02 玉石区分図

地点	アブライト	チャート	ホルンフェルス	安山岩	珪質岩	砂岩	濃飛流紋岩	緑色岩	緑色片岩	その他	合計
床面(北西部)		80	6			1	2	1	1	8	99
床面(北東部)	21	450	30	2	6	11	7	6		20	553
床面(南西部)		287									287
床面(南東部)	18	361	23	2		2	3	1	5	22	437
集石A	3	65	14			16	1	1			100
集石B		17				509			2		530
集石C	9	124	6	4	2	4	1	1		2	153
集石D	188	15	8			12		1		4	228
集石E	1	46	26			13	2	1	4	10	115
東側出露盛土	7	117	34			5	15	4	6	9	211
SX02SK01		12				1	2		2		8
SX02SK07		24				4			2	6	43
SX02SK09		25	7			2	4		7	3	10
SX03		612				4	1	1	19		637

地点	~1g	1~2g	2~3g	3~4g	4~5g	5~10g	10~15g	15~20g	20~25g	25~30g	30~35g	35~40g	40~45g	45~50g	50~	合計		
床面(北西部)			2			11	4	19	6	19	6	11	3	9	9	99		
床面(北東部)	2	2				16	36	36	85	42	86	29	56	31	39	93	553	
床面(南西部)						7	36	1	79	4	54	2	47	1	31	25	287	
床面(南東部)			3			9	19	49	43	37	53	30	52	34	31	77	437	
集石A	4		5			6	1	1	5	2	7		3	2	10	54	100	
集石B	156	110	100	49	89	24	1		1								530	
集石C						9	5	7	15	11	15	12	14	4	7	54	153	
集石D						2	2	2	1		1	4	2		5	209	228	
集石E		1				9	17	4	14	2	6	3	8	1	2	48	115	
東側出露盛土						14	12	8	13	12	14	4	13	3	13	105	211	
SX02SK01						2	6	2	3	1				1	2	8	25	
SX02SK07	8	8	1			9	8		2		2	3	1				1	43
SX02SK09						9	14	7	5	3	3	3	1	1	2	10	58	
SX03	179	123	67	17	137	53	22	11	2	6	4	5		5	6		637	

第5表 SX02出土玉石組成表



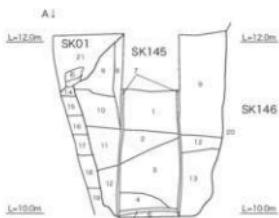
第55図 池SX02周辺土坑遺構図

第9項 埋桶遺構

C期に属する埋桶遺構と考えられるものは3基確認された。埋桶遺構とは底板を有する結物桶を埋設した遺構を指すが、今回確認されたものは、木製結物桶は遺存しなかった。土層断面などからうじて痕跡を認めることができたに過ぎない。

SK145（第56図）

調査区東北端で検出された埋桶遺構で、ほぼ円形の平面プランを持つ。結物桶は遺存しないが、平面および断面で、その形状を確認することができた。結物桶は円筒形で直径約68cm、深さ213cmを測る。結物が積み重ねられていたか否かは特定できないが、底板の痕跡は認めることができた。出土物から見てC-I期（17世紀前半）に属するものである。



- 10YRA/4 黄色粘土・細粒砂混じる
- 22YRA/2 黄色細粒砂・粘土混じる
- 22YRA/3 黄色細粒砂・粘土混じる
- 22YRA/4 黄色粘土・細粒砂混じる
- 22YRA/5 黄色粘土・細粒砂混じる
- 10YRS/3(2) 黄色細粒砂
- 22YRA/6 黄色粘土・細粒砂混じる
- 10YRA/4 黄色粘土
- 22YRA/7 黄色粘土 + 10YRS/1 黒褐色粘土・細粒砂混じる
- 22YRA/8 黄色粘土 + 2.5YR/1 黄白色粘土・細粒砂混じる
- 22YRA/9 黄色粘土 + 2.5YR/1 黄白色粘土・細粒砂混じる
- 22YRA/10 黄色粘土 + 2.5YR/1 黄白色粘土・細粒砂混じる
- 22YRA/11 黄色粘土 + 2.5YR/1 黄白色粘土・細粒砂混じる
- 22YRA/12 黄色粘土 + 2.5YR/1 黄白色粘土・細粒砂混じる
- 22YRA/13 黄色粘土 + 2.5YR/1 黄白色粘土・細粒砂混じる
- 22YRA/14 黄色粘土 + 2.5YR/1 黄白色粘土・細粒砂混じる
- 22YRA/15 黄色粘土 + 2.5YR/1 黄白色粘土・細粒砂混じる
- 22YRA/16 黄色粘土 + 2.5YR/1 黄白色粘土・細粒砂混じる
- 22YRA/17 黄色粘土 + 2.5YR/1 黄白色粘土・細粒砂混じる
- 22YRA/18 黄色粘土 + 2.5YR/1 黄白色粘土・細粒砂混じる
- 22YRA/19 黄色粘土 + 2.5YR/1 黄白色粘土・粘土混じる(砂)
- 22YRA/20 黄色粘土 + 2.5YR/1 黄白色粘土・粘土混じる(砂)
- 22YRA/21 黄色粘土 + 2.5YR/1 黄白色粘土・粘土・砂混じる
- 22YRA/22 黄色粘土 + 2.5YR/1 黄白色粘土・粘土・砂混じる

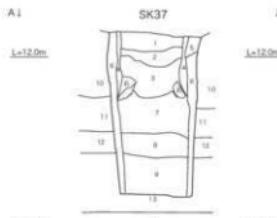
0 1m

SK37（第56図）

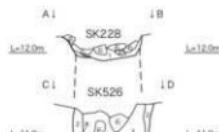
調査区南部で確認された埋桶遺構である。直径110cm、深さ185cmの円筒形の堀肩で、ほぼ、それにびったり重なるように結物桶が埋設されたものと考えられる。中位のレベルで石材が円形に配置されていた。内部からはヒメイエバエのサナギなどが多数認められ、埋桶内に何らかの発酵物が存在していた可能性がある。（第4章第2節参照）。出土遺物などからみてC3期（18世紀）に位置づけられよう。

SK228（第56図）

調査区中央部に位置する埋桶遺構で直径約75cm、深さ130cmを測る。内部には、多量の石材が投棄されていた。最下部で結物桶の痕跡を見出すことができた。C期に属する遺構と考えられるが詳細は不明である。



- 10YRA/4 黄色粘土・細粒砂混じる
- 2.5YR/1 黄色粘土・細粒砂混じる
- 2.5YR/2 黄色粘土・細粒砂混じる
- 2.5YR/3 黄色粘土・細粒砂混じる
- 2.5YR/4 黄色粘土・細粒砂混じる
- 2.5YR/5 黄色粘土・細粒砂・シルト混じる
- 2.5YR/6 黄色粘土・細粒砂・シルト混じる
- 10YRA/7(2) 黄色粘土・シルト混じる
- 10YRA/8 黄色粘土・シルト混じる
- 10YRA/9 黄色粘土・シルト・シルト混じる
- 10YRA/10 黄色粘土・粘土・シルト混じる
- 10YRA/11 黄色粘土・粘土・シルト混じる
- 10YRA/12 黄色粘土・粘土・シルト混じる
- 10YRA/13 黄色粘土・粘土・シルト混じる
- 10YRA/14 黄色粘土・粘土・シルト混じる
- 10YRA/15 黄色粘土・粘土・シルト混じる
- 10YRA/16 黄色粘土・粘土・シルト混じる
- 10YRA/17 黄色粘土・粘土・シルト混じる
- 10YRA/18 黄色粘土・粘土・シルト混じる
- 10YRA/19 黄色粘土・粘土・シルト混じる
- 10YRA/20 黄色粘土・粘土・シルト混じる
- 10YRA/21 黄色粘土・粘土・シルト混じる
- 10YRA/22 黄色粘土・粘土・シルト混じる



- 10YRA/2 黄色粘土・細粒砂・中粒砂・粘土や砂多く混じる
- 10YRA/3 黄白粘土・細粒砂・中粒砂・粘土や砂多く混じる
- 10YRA/4(2) 黄色粘土・細粒砂・中粒砂・粘土・石礫混じる
- 10YRA/5 黄灰粘土・シルト・粘土・石礫混じる
- 地山 10YRA/6 混青海色粘土

第56図 埋桶遺構 SK145・SK37・SK228 遺構図

第10項 地下室

今回の調査で確認されたC期に属する地下室は2基存在する。

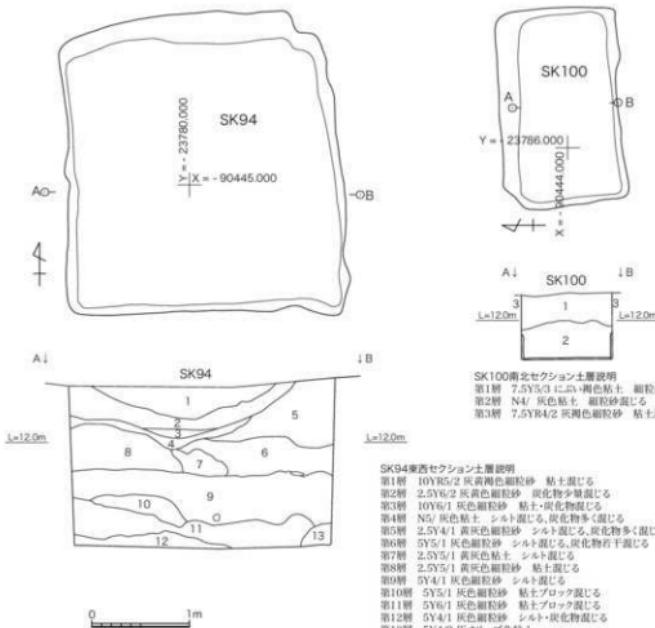
SK94（第57図）

調査区北半で検出された地下室である。3.05m×2.86mのほぼ正方形の平面形を持ち、深さ1.7mを測る。北面の一部が崩落していたものの、壁面は垂直に掘り下げられており、極めて規格的に製作された遺構である。壁面や床面には土坑などの他の施設は全く確認されなかった。埋土は灰色または黄灰色細粒砂の斑土が主体で、廃絶時に一気に埋め立てられたものと思われる。中からは肥前窯産磁器碗や土師器皿などが出土していた。これ

らの遺物は大半が17世紀末から18世紀初頭に位置づけられるが、廃絶した段階は遺物の最新資料からみて18世紀後葉と推定される。C-3期に属する遺構といえる。

SK100（第57図）

調査区北半で検出された地下室である。2.05m×1.20mの長方形の平面形を持ち、深さ0.93mを測る。池状遺構SX02の軟弱な埋土を掘り下げられたもので、土壁の崩落を防ぐため板目板材で護岸が施されていた。板材は遺存状態があまり良好ではなかったが、特別な組加工を持たず板を直方体に組み合わせるだけの簡単な構造であった。埋土は下層が灰色粘土、上層がにぶい褐色粘土で



第57図 地下室SK94・SK100遺構図

充填され、一気に廃絶されたものと推測される。中からはあまり遺物が出土しなかつたが、SX02との関係からC-4期（19世紀前半）の遺構と考えられる。

第11項 土坑

今回の調査で確認されたC期に属する土坑は多数存在するが、ここでは主要なものについて個別に記述する。

SK01（第59図）

調査区東部北半で検出された大型土坑である。複数の土坑が重複しており、SK47とSK67を切っている。SK01は中央部で直線的に走る土壁状の高まりがあり、SK01AとSK01Bに区分される。埋土からみると西接するSK63と一連の遺構と思われる。

SK01AはSK01東側部分で、規模は5.90m以上×2.35m、深さ1.37mを測る。南端部で巨石が出土した。SK147を切るためにB期の遺物が大量に出土したが、実際にはC-3期に属すると考えられる。

SK01BはSK01の西側部分で規模は6.92m以上×4.87m、深さ2.12mを測る。SK01Aが埋没した後に掘削し直された土坑で、SK01Aよりも深く掘り込まれていた。底部は平坦面を形成し下半は黒色粘土が堆積していた。遺物は最下層から大量の材木片が、その上層からは礫、切石、白色粘土および瓦類が大量に出土した。陶磁器類は比較的少ないことも考え合わせると、建築に伴う廃材が大量に投棄されたものと考えられる。SK01の掘削そのものも粘土などを採掘するための可能性も考えられる。遺物からC-3期に属すると考えられる。

SK01に西接するSK63も、規模が2.81m×1.17m以上、深さ2.15mと大型な土坑である。

SK01BとSK63は埋土が連動した形で堆積しており、両者が同時に存在して埋め立てられたと思

われる。C-3期に属する。

SK04・SK19（第61図）

SK04は調査区東部で検出された1.70m×1.62m、深さ0.66mを測る土坑である。SK04はSK19を掘り直した遺構と推測される。出土した遺物からSK04はC-3期、SK19はC-2期に属すると考えられる。

SK20

調査区中央部で確認された円形土坑で、規模は1.93m×0.78m以上、深さ0.26mを測る。内部から長さ10cm弱の白色の石材が多数出土した。石材は規模や形状が揃っており、意図的に集められたものと思われる。遺物からみてC-3期に属すると思われる。

SK26

調査区中央部に所在する土坑で、北半部は調査区外に伸びる。土坑内から砂岩の切石が4点出土した。C-3期に属すると考えられる。

SK60

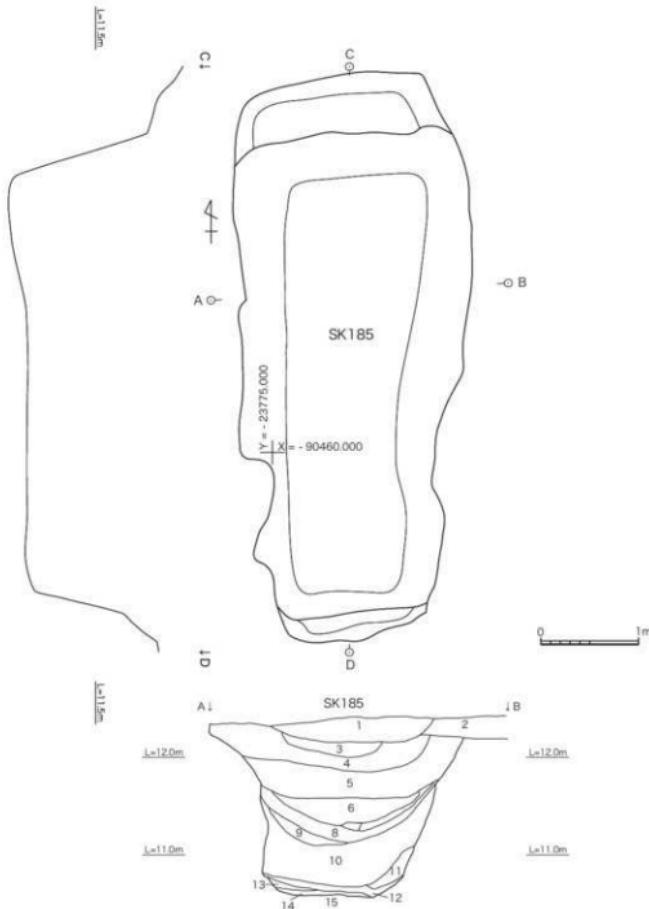
調査区中央部にある東西に長い隅丸長方形土坑である。規模は5.14m×2.20m、深さ0.19mを測る。土坑からは常滑窯産陶器甕などの遺物が比較的多数出土しており、廃棄土坑の可能性が高い。その遺物からみてC-3期と考えられる。

SK93

調査区中央部で検出された直径約0.53m、深さ0.30mの土坑である。土坑の中央には瀬戸美濃窯産陶器筒型容器（1590）が正位置に埋設された状態で出土した。容器内部には最下部に黒色石材が2個（1592、1593）、その上位に1590に伴う陶器蓋（1591）が存在した。容器1590の口縁部が欠損していることから、本来は黒色石材を入れた後に蓋をして埋置されていたと考えられる。C-3期に位置づけられる。

SK127

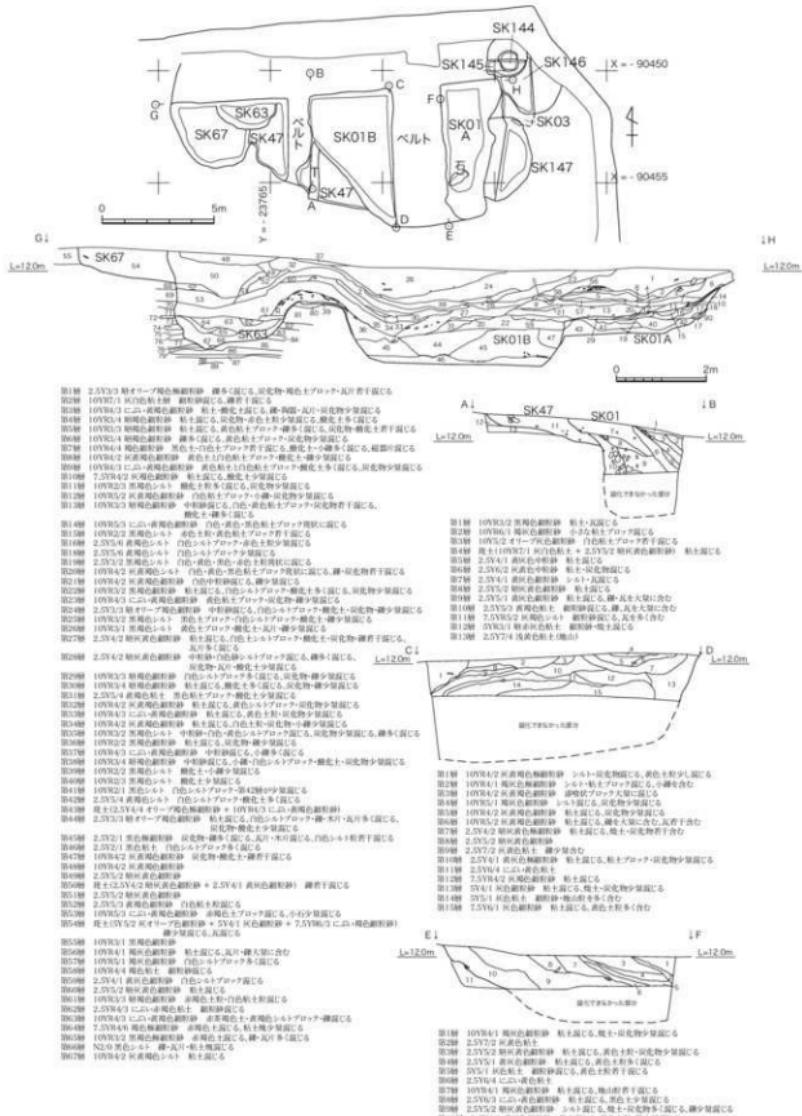
調査区中央部で確認された不定形な土坑で、規模は1.70×1.30m、深さ0.16mを測る。小規模



- SK185東西セクション断面図
- 第1層 10YR4/4 黃褐色細砂土
 第2層 10YX4/4 黃褐色無機粘土
 第3層 7.5YR3/4 黃褐色無機粘土・粘土少し混じる
 第4層 7.5YR2/3 黑褐色無機粘土・粘土混じる、炭化物少し混じる
 第5層 10YR4/4 黃褐色無機粘土・粘土多く混じる、砂・土少し混じる
 第6層 10YR3/1 黑褐色無機粘土・粘土多く混じる、シルト・炭化物・礫土混じる
 第7層 10YX3/1 黑褐色無機粘土・シルト・粘土多く混じる、炭化物・礫土混じる
 第8層 2.5YV1/1 黑褐色シルト・粘土・中砂混じる、炭化物・礫土少し混じる
 第9層 10YR4/2 黄褐色シルト・粘土・中砂混じる、炭化物多く混じる
 第10層 10YR4/2 黑褐色シルト・粘土・中砂混じる、シルト・炭化物多く混じる
 第11層 10YR4/1 黑褐色シルト・粘土・中砂混じる、炭化物多く混じる、白色土多く混じる
 第12層 7.5YR3/1 黑褐色粘土・炭化物少しある、シルト・黄色土粒・礫・白色土混じる
 第13層 10YR4/1 黑褐色粘土・炭化物少しある、シルト・黄色土粒・礫・白色土混じる
 第14層 10YR4/2 黄褐色粘土・シルト・灰色粘土・プロック混じる
 第15層 10YR5/6 黄褐色粘土・地土

第 58 図 土坑 SK185 遺構図

名古屋城三の丸遺跡 VII



第 50 回 七姑八怪 遺稿回

な廃棄土坑と思われる。遺物からC-3期に位置づけられよう。

SK156

調査区中央部で検出された方形の土坑である。規模は $3.15m \times 2.99m$ 、深さは $0.12m$ と浅い。中から古い時期の遺物片を大量に含む陶磁器類が出土しており、時期はC-2期に属する。

SK185（第58図）

調査区南部中央に所在する隅丸長方形土坑で規模は $4.89m \times 2.35m$ 、深さ $1.83m$ と大きい。北部はテラス状の低い段差がある。埋土からみて土坑は一気に埋め立てられていた。規模が大きく深いことから地下室の可能性が考えられるが、壁面が直立する形で維持されていなかったことから、今回は土坑として報告した。出土した遺物から

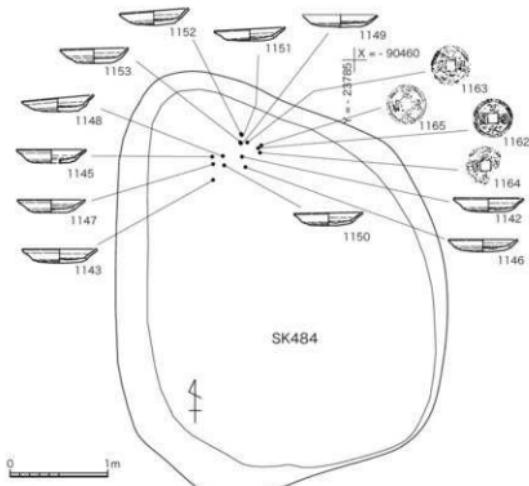
C-1期に属すると考えられる。

SK223

調査区北半で検出された土坑である。規模は $2.20m \times 1.05m$ 、深さ $0.30m$ を測る。出土した遺物からC-1期に属すると考えられる。

SK484（第60図）

調査区北半で検出された土坑で第3面で検出された。第1面で検出されたSK40と同一と思われる。規模は $4.30m \times 3.90m$ 、深さ $0.25m$ を測り、遺構の北半部から土師器皿と銭貨6枚が出土した。寛永通宝が6枚出土したことから墓坑に伴う六道銭の可能性が考えられるが、遺構の形状はそれほど深くない。ここでは何らかの祭祀遺構との評価に留めておく。出土遺物からC-1期に属する。



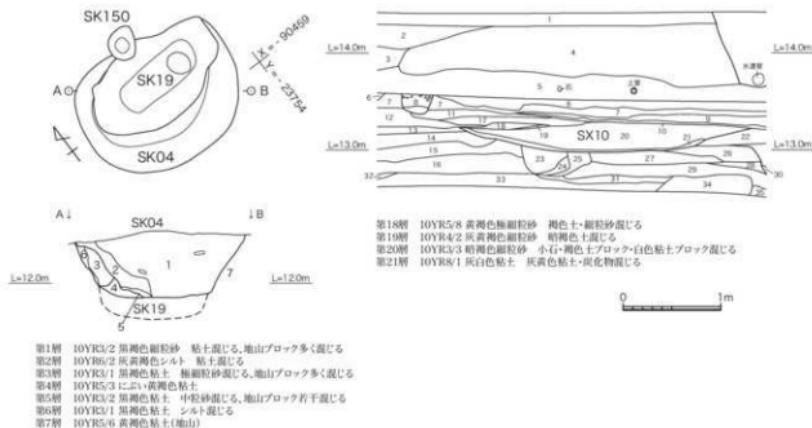
第60図 土坑SK484 遺物出土状態図

第12項 その他の遺構

SX10(第61図)

調査区南壁上層断面のみで検出された土坑で、規模は幅が2.95m、深さ0.30mを測る。浅い皿型の土坑で、最下層は灰白色粘土で覆われており

貯水施設と考えられる。池状遺構の末端部分を検出した可能性が考えられる。出土遺物がないが、C-3期の遺構面から掘削されていることからC-3～4期に位置づけられる。



第61図 土坑SK04・SX10遺構図

第5節 D期の遺構

第1項 概要

D期は明治時代以降の段階で、名古屋城三の丸城では武家屋敷が解体され、代わりに陸軍第三師団や官庁の諸施設が設置された。この段階の遺構は礎石建物跡と井戸・土坑などがある。現地表下約1.2mにある褐灰色砂の硬化面が陸軍東練兵場に相当する地面と推測され、D期の遺構はこの硬化面上に構築されたものと考えられる。しかし、調査当初にはD期を調査の対象としていなかったため、多くの遺構を見逃している可能性が高い。実際に、SB01以外の遺構は硬化面から約30cm下げた遺構検出面（第1面）で確認された。

この時期は、さらに3段階に細分が可能である。
D-1期：1870年代～1943年頃。遺構や遺物をほとんど確認することができなかつた時期である。陸軍東練兵場が構築された段階に相当する。

D-2期：1943年頃～1945年。遺物の多くはこの段階に属すると思われる。陸軍名古屋病院第二分院が急造された段階に相当する。

D-3期：1945年以降。太平洋戦争終戦後、当地はGHQの管轄となり、その後名古屋国立病院が設立され、現在に至る。

以下、種別に遺構について記述する。

第2項 掘立柱建物跡

D期に属する掘立柱建物跡は1棟存在する。

SB25（第62図）

調査区の北部で確認された2間以上×2間？の掘立柱建物跡で、東部は調査区外に展開すると推測される。建物規模は5.5m以上×7.5mである。柱穴には根石を持つもの（SK55、SK68、SK69）があるが、正確な構造は不明である。柱穴の出土遺物からD-2期（1943～1945年）と推定される。簡便な施設の基礎構造と思われる。

第3項 磂石建物跡

D期に属する礎石建物跡は1棟存在する。

SB01（第63～65図）

調査区の南西部で確認された28間以上×8間の礎石建物跡で、西部は調査区外に展開する可能性がある。建物規模は26.6m以上×7.2mである。礎石は陸軍東練兵場に相当する現地表下約1.2mにある褐灰色砂の硬化面の上に直接配置され、硬化面には柱穴部分が埋んだ状痕が残存した。礎石は全部で85箇所残存し、礎石の痕跡を示す小規模な窪みは40箇所確認された。礎石は89.75cmの方眼上に配置されたものと考えられ、これから位置がずれる礎石または痕跡は13箇所しかない（第64図）。方眼上で欠落する礎石も多数存在しており、特に北から第2列目の礎石は混乱が存在したことを考慮しても少ない。礎石は直径が20～30cmの円形で扁平な自然石が使用されていた。SB01南東部では硬化面上に多量の木屑が散乱しており、建物建設中に床下の廃材を十分に清掃していなかった可能性が考えられる。建物跡に伴う遺物は確認できなかつたが、陸軍東練兵場と思われる硬化面上に存在することからD-2期（1943～1945年）と考察される。

「第三師団司令部周辺軍事施設配置図」（第66図）によれば、D-2期（1943～1945年）の調査地点は第二名古屋陸軍病院の北部に立ち並ぶ病室に相当しており、検出されたSB01はこの病室の一つと推測される。第二名古屋陸軍病院の病室そのものの図面ではないが、名古屋衛戍病院の病棟平面図（第67図）を参考にすると、SB01の26.6m×7.2mという規模はちょうどその病室部分の規模に相当している。SB01の周間に廊下が巡っていたと仮定すればSB01は同様の規模の病棟と言えよう。ただし、注意しておきたい点は、礎石建物跡とはいえ非常に脆弱な構造を呈してお

名古屋城三の丸遺跡 VII

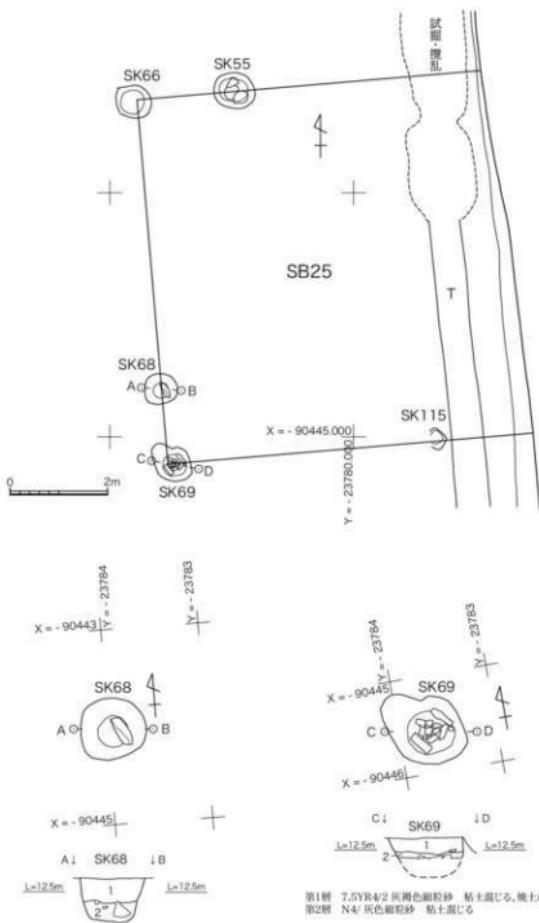
り、十分な資材が用いられず急造された様相が窺い知れる。放置しておくと虫が湧きかねない床下の廃材をそのままにしていたのも、慌しく建造された状況を示すものとして興味深い。

第4項 井戸

D期に属する井戸は1基存在する。

SK114

調査区中央部で確認された円形漆喰側式井戸で



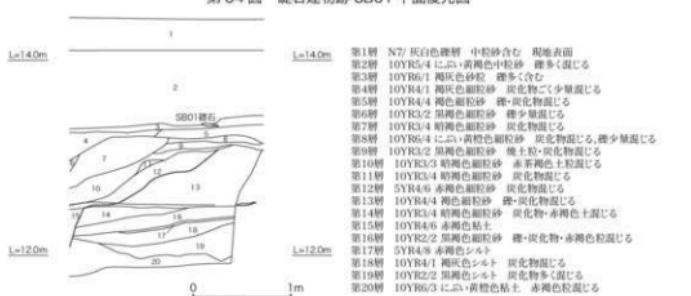
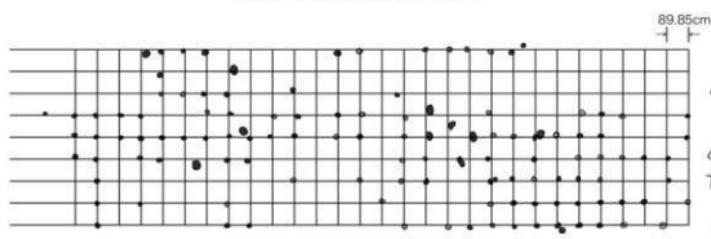
第62図 挖立柱建物跡 SB25 遺構図

あるが、下部の構造までは確認できなかった。直径約1.6mの円筒形に作られた厚さ約15cmの漆喰壁を井戸側としたものである。掘肩は漆喰側とほぼ同様の規模であり、裏込め土はほとんど確認されなかった。薬瓶などの出土遺物からD-2期(1943~1945年)に位置づけられる。

第5項 土坑

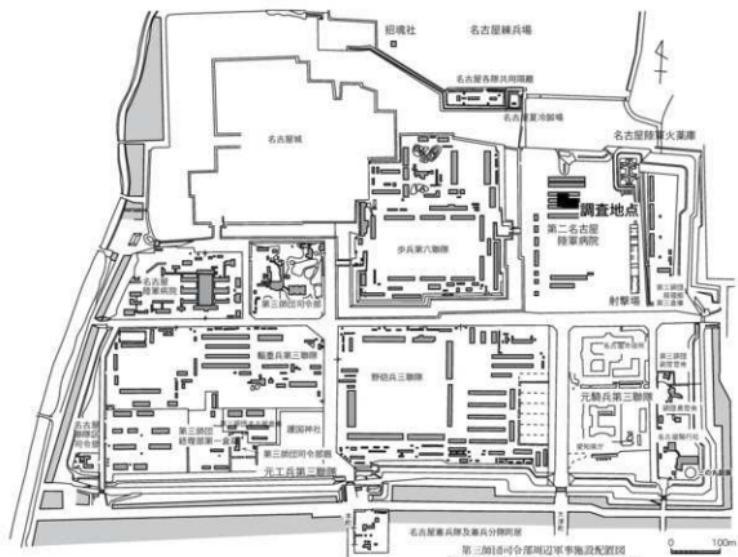
D期に属すると推測される土坑は数基存在する。ここでは主要な遺構を紹介することしたい。
SK24

調査区の中央部にある不定形な土坑で、深さは0.20mを測る。眼鏡レンズなどの出土遺物があ

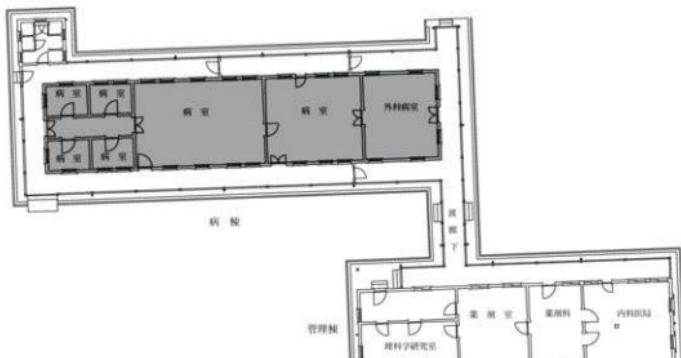


第65図 磚石建物跡SB01 土層断面図

名古屋城三の丸遺跡 VII



第 66 図 第三師団司令部周辺軍事施設配置図と調査区



第 67 図 名古屋衛戍病院病棟平面図

り、D-2期と推測される。

SK25

調査区中央部で検出された不定形な土坑で、内部から鉄製品や視力調整用レンズなどが出土した。D-2期に位置づけられる。

SK56

調査区北東部で確認された円形土坑で、規模は $1.13m \times 0.96m$ 、深さは $0.45m$ を測る。内部から、形状は特定できないが木製容器の痕跡が確認され、遺物として蝶番などが存在する。また革靴や帽子、ボタンなどが出土した。遺物からD-2期（1943～1945年）に位置づけられ、革靴などを容器に入れて埋納したものと推測される。

SK96

調査区西部で検出された長方形土坑で、規模は $1.46m \times 0.78m$ 、深さ $0.70m$ を測る。遺構内はほとんど土砂が無く、大量の陶磁器やガラス瓶が出土した。これらは土圧で破損したもの以外は大半が完全な形状を保っていた。土坑壁を護岸する構造などは確認されなかつたが、遺構の形状から

みて木製箱などに物品を収納し再利用することを前提に埋置されたものと推測される。出土遺物からD-2期（1943～1945年）に位置づけられる。

SK107（第68図）

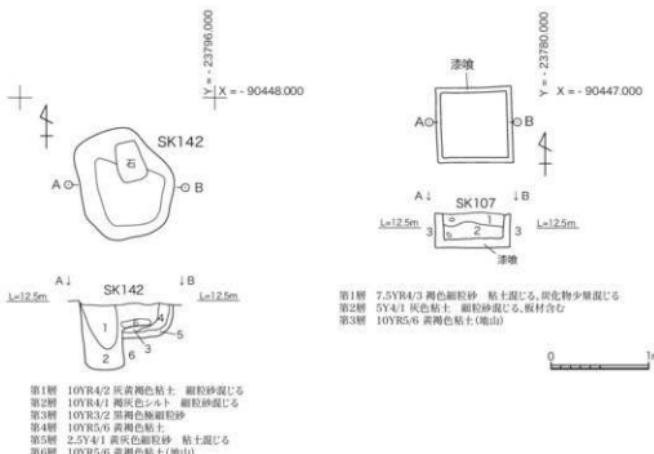
調査区の中央部で確認された一辺 $0.84m$ 方形土坑で、深さは $0.36m$ を測る。土坑は箱型に厚さ約 $10cm$ の漆喰壁に覆われており、枠状遺構と考えられる。下層埋土は灰色粘土であった。内部には口字状に組まれた木材が埋置されていた。状況から見てD-2期と考えられる。

SK142（第68図）

調査区西部に所在する円形土坑で、規模は $1.11m \times 0.99m$ を測る。内部は段差が設けられ、高い部分に根石が存在する。深い部分に本来は柱が建っていた可能性が考えられる。出土遺物からD-1期と推測される。

SK362

調査区の西部中央で確認された直径 $0.59m$ 円形土坑で、内部に根石が配置される。木製品などが出土した。D-1期に位置づけられよう。



第68図 土坑 SK142・SK107 遺構図

第3章 遺物

第1節 遺物の概要

今回の調査で名古屋城三の丸遺跡から出土した遺物は全部で、27t入りコンテナで約350箱を数える。接合作業を実施する前の總破片数は74,489点となっている。その内訳は、陶磁器・土器類、石製品、木製品、金屬製品、ガラス製品、革製品など多岐多様である。所属する時期も古墳時代から現代に至るまで幅広く存在している。

遺物の採取方法は、SK308 東西ベルトの土壤について1mm メッシュの篩別作業を実施した他は、全て掘削作業時に注意して遺物を採取する方法によった。遺物は厚く堆積する表土や包含層から多くの資料が出土したが、大部分は遺構内埋土から出土したものであり、中には人為的に一括して埋納あるいは廃棄されたと推測できるものも存在する。一方で比較的新しい時期の遺構内からは遺構の埋没時期よりも古い時期の遺物が多量に混在する事例も多く、また遺構の重複が激しく掘り間違いや掘り残しなどによる新しい時期の遺物が混入する事例もあったと考えられる。こうした事情があることから、出土遺物が少ない遺構出土資料においてはその時期を特定することが難しい場合が少なくない。一部を除き、遺構出土資料が必ずしも良好な一括資料とは言い切れないことをあらかじめ断っておきたい。

さて、遺物が材質と時期において多様性が存在していることから、ここでは時期を遺構の頂で区分した4期ごとにまとめ、遺構出土資料を基準にして記述を進めていきたい。時期区分は繰り返し記述すると下記のとおりである。

A期：古墳時代中期～平安時代（5世紀～12世紀）

B期：鎌倉時代～戦国時代（13世紀～16世紀）

C期：江戸時代（17世紀～19世紀中頃）

D期：明治時代～昭和時代前半（19世紀後半～20世紀前半）

なお、遺物については城ヶ谷和広、藤澤良祐、中野晴久、仲野泰裕に鑑定いただいている。遺物の編年については次の文献を参考にしている。

齊藤孝正他編 1995『須恵器集成図録 第3巻東日本I』雄山閣出版

藤澤良祐 1994『山茶碗研究の現状と課題』『研究紀要 第3号』三重県埋蔵文化財センター

赤羽一郎・中野晴久 1994『生産地における編年』『中世常滑窯をおとつ』資料集 日本福祉大学知多平島総合研究所

藤澤良祐 1991『瀬戸古窯址群II-古瀬戸後期様式の編年』『研究紀要』X 瀬戸市歴史民俗資料館

北村和宏 1996『尾張平野における鎌倉・室町時代の煮沸具の編年』『年報 平成7年度』（財）愛知県埋蔵文化財センター

鈴木正貴 1996『東海地方の内耳鍋・羽付鍋・釜』『鍋と甕 そのデザイン』東海考古学フォーラム
藤澤良祐 2002『瀬戸・美濃大窯の再検討』『研究紀要 第10輯』（財）瀬戸市埋蔵文化財センター

藤澤良祐編 1998『瀬戸市史陶磁史篇六』
九州近世陶磁学会 2000『九州近世陶磁学会10周年記念 九州陶磁の編年』
金子健一 1996『尾張・三河のホウロウ』『鍋と甕 そのデザイン』東海考古学フォーラム

種別	内訳			その他	合計
須恵器	杯身 840	杯蓋 747	高杯 286	袋物 1567	8494 11934
古式土師器	甕 1899	高杯 31			7200 9130
灰釉陶器	碗 1852	皿 476			528 2856
山茶碗	尾張型碗 1700	尾張型皿 358	尾張型鉢 75		1291 3424
常滑	中世 351	近世真綱 500	近世赤物 842		0 1693
戦国陶器	瀬戸美濃 1534				0 1534
中世土師器	皿 6059	鍋釜 1764			74 7897
輸入陶磁器	青磁 37	白磁 17	青花 49		0 103
近世陶器	瀬戸美濃 2013	肥前 184	京、信楽 127		54 2378
近世磁器	肥前 553	関西系 48	瀬戸 3		35 639
近世土師器	416				0 416
瓦器	34				0 34
近代	陶器 223	磁器 416	ガラス器 420		0 1059
瓦	平瓦 16847	丸瓦 2327	軒瓦 225	古代 3	531 19933
石材	自然石 6001	玉石 1875	割石 326	製品 172	0 8374
金属	製品 1875	関連資料 34			0 1909
木材	製品 62	加工材 670			0 732
その他不明					444 444
総合計					74489

第6表 出土遺物組成表（接合前破片数）

名古屋城三の丸遺跡 VII

		名古屋城三の丸遺跡 (御屋形地点) の時期区分		土師器皿	土師器鏡類	
				1期 1段階	1期 2段階	
				1期 3段階	400年	
	猿投塗			A-1期	1期 3段階	
第	第 1 小期 (+)					
I	第 2 小期 (H-111)					
期	第 3 小期 (H-48)					
	第 4 小期 (H-2)					
	第 5 小期 (H-11)			A-2期	1期 4段階	500年
第	第 1 小期 (H-1)					
II	第 2 小期 (+)					
期	第 3 小期 (H-44)			A-3期	1期 5段階	600年
	第 4 小期 (H-50)					
第	第 2 小期 (I-17)					
III	第 3 小期 (I-41)			A-4期	1期 6段階	700年
期	第 4 小期 (C-2)				1期 7段階	
	(H-25)					
第	第 2 小期 (NN-32)					
IV	第 3 小期 (O-10)					800年
期	第 4 小期 (IG-78)					
	第 1 小期 (K-14)			A-5期	1期 8段階	
V	第 2 小期 (K-90)					
期						900年
	第 1 小期 (O-53)					
VI	第 2 小期 (H-72)					
期	第 3 小期 (百代寺) 潟戸窯			A-6期 (B-0期)	1期 9段階	1000年
第	第 1 型式	第 3 型式				1100年
VII	第 2 型式	第 4 型式 潟戸美濃窯				
期		古瀧戸前 I 期				1200年
		第 5 型式	前 II 期			
		第 6 型式	前 III 期			
		第 7 型式	前 IV 期			
		第 8 型式	中 I 期	B-1期	1期 1段階	1300年
			中 II 期		2期 1段階	
			中 III 期			
		第 9 型式	中 IV 期	B-2期	1期 2段階	
			後 I 期		2期 2段階	
		第 10 型式	後 II 期			1400年
			後 III 期			
		第 11 型式	後 IV 期古	B-3期	1期 3段階	
			後 IV 期新		3期 1段階	
		第 12 型式 大窯	第 1 段階	B-4期	2期 1段階	1500年
			第 2 段階		3期 2段階	
			第 3 段階	B-5期		
			第 4 段階			
		登窯	第 1 小期	C-1期	2期 3段階	1600年
			第 2 小期		4期 1段階	
			第 3 小期			
			第 4 小期	C-2期	2期 4段階	
					2期 5段階	
			第 5 小期		4期 2段階	1700年
			第 6 小期		3期 1段階	
			第 7 小期	C-3期	3期 2段階	
			第 8 小期		4期 3段階	
			第 9 小期			
			第 10 小期	C-4期	3期 3段階	1800年
			第 11 小期		3期 4段階	
				D-1期		
				D-2期		1900年

第 7 表 時期区分対照表

第2節 A期の遺物

A期は古墳時代中期～平安時代（5世紀～12世紀）の段階である。遺物には須恵器・灰釉陶器・土師器などの焼物類の他、石製品なども存在する。須恵器はほとんど全て狼投窯系須恵器である。

第1項 SK308出土遺物

(第69～71図1～70)

SK308からは土師器小片734点、須恵器1211点など1952点の遺物が出土した。この中には中世の遺物が混入していた。須恵器には杯蓋(1～17)、杯身(18～29)、はそう(広口有孔壺30)、高杯(31～38)、広口壺(39・46)、瓶または鉢(47～51)など多様な器種が存在する。全て狼投窯系須恵器で大半は東山44号窯式期(H-44)に属し、一部に東山50号窯式期(H-50)に属するものがある。須恵器杯身外面に焼成前刻書が施されたもの(25～27・29・45)がある。土師器には杯類(52)、小型壺(53)、甕(54～64)などがあり、土製品として勾玉(65)、小玉(66～69)がある。土製勾玉や小玉は土壤篩別作業によって発見された遺物であり、本来はさらに多く存在した可能性がある。52は口縁端部が丸められたもので表面は橙色を呈する。甕は口縁端部を摘み上げるもの(54・55)と外反するもの(56・57・60)などがある。底部は平底のもの(61・62)と台付のもの(63・64)の両者がいる。A-3期に属する資料で7世紀中葉に位置づけられる。

第2項 SB02出土遺物(第72図71～98)

SB02からは土師器325点、須恵器206点など580点の遺物が出土した。この中には中世の遺物など49点が混入していた。須恵器には杯蓋(71～74)、杯身(75～79・81・83・84)、瓶(80・82)、壺(87)、甕(96)などがある。多くは高

藏寺2号窯式期(C-2)または折戸10号窯式期(O-10)に属するものである。土師器には甕(88～95・97・98)がある。甕は折り返された口縁部が肥厚し荒いハケ調整が施されるもの(89など)と屈曲した口縁部が直線的に伸びるもの(88・90)などがある。底部は平底のもの(97・98)ばかりである。A-4期後半に属する資料で8世紀後半に位置づけられる。

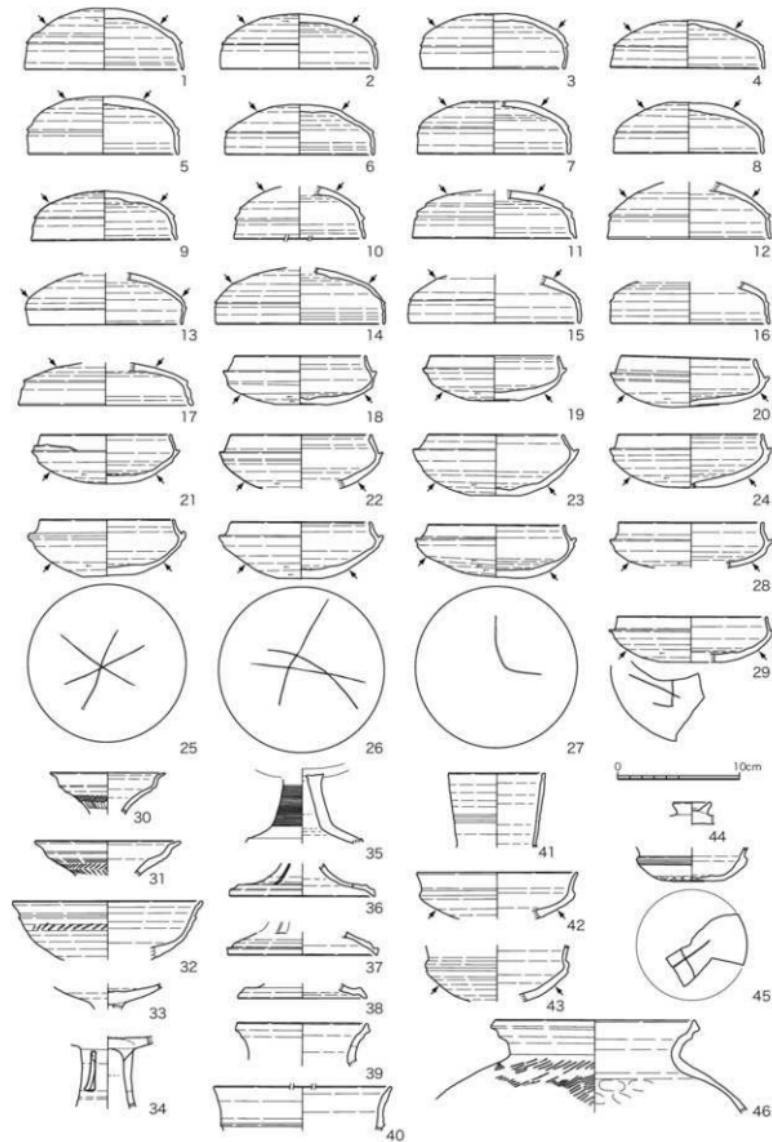
第3項 SB07出土遺物(第72図99～118)

SB07からは土師器280点、須恵器167点など482点の遺物が出土した。この中には中世の遺物など9点が混入していた。須恵器には杯蓋(99～101)、杯身(102～110)、鉢(111)、瓶(112)などがある。多くは岩崎17号窯式期(I-17)または高藏寺2号窯式期(C-2)に属するものである。土師器には甕(113～115・117・118)と製塙土器(116)がある。甕は折り返された口縁端部がやや摘み上げられたもの(114など)と屈曲した口縁部が直線的に伸びるもの(117・118)などがある。A-4期前半に属する資料で8世紀前葉に位置づけられる。

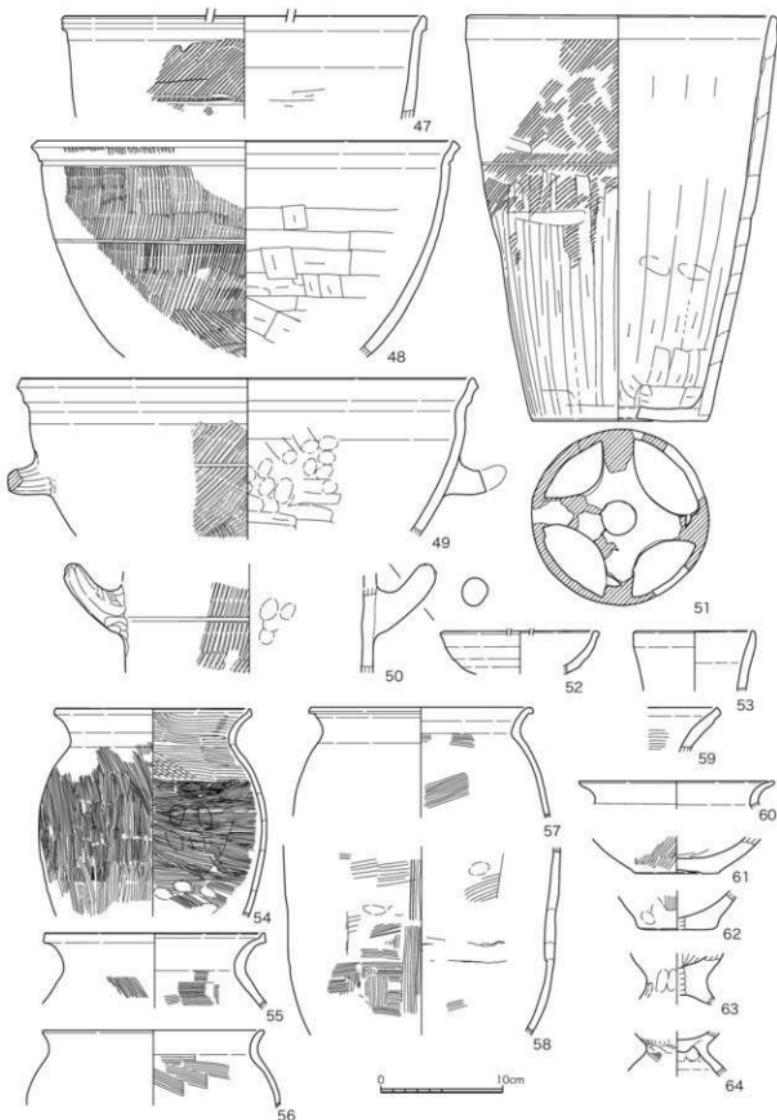
第4項 SB09出土遺物(第72図119・120)

SB09からは土師器11点、須恵器10点など22点の遺物が出土した。須恵器には壺蓋(119)、杯身(120)がある。前者は鳴海32号窯式期(NN-32)に属するもので、これを信用すればA-4期中頃(8世紀中葉)に位置づけられてしまう。遺構の重複が激しく遺物が少ないとから切り合ひ関係を重視して、遺構の時期はA-3期に属すると考えたい。

名古屋城三の丸遺跡 VII



第69図 A期の遺物実測図 (1) SK308 (1)



第 70 図 A 期の遺物実測図 (2) SK308 (2)

第5項 SB03 出土遺物**(第73図121～135)**

SB03からは土師器346点、須恵器261点など611点の遺物が出土した。須恵器には杯蓋(121)、杯身(122)、碗(123・124)、はそう(広口有孔碗125)、鉄鉢形鉢(126)、高杯(127～130)、壺(131・132)、瓶(133・134)などがある。遺物の時期は多様であるが概ね高藏寺2号窯式期(C-2)までに収まっている。土師器には甕(135)がある。A-4期前半に属する資料で8世紀前葉に位置づけられる。

第6項 SB05 出土遺物**(第73図136～145)**

SB05からは土師器128点、須恵器151点など280点の遺物が出土した。須恵器には杯蓋(136)、杯身(137・138)、高杯(139・140・143・144)、壺(141)、甕または鉢(142)、瓶(145)などがある。多くは東山44号窯式期(H-44)に属していることから、A-3期(7世紀前半)に位置づけられる。土師器には圓化に耐える資料は存在しなかった。

第7項 SB04 出土遺物**(第73図146～158)**

SB04からは土師器48点、須恵器90点など171点の遺物が出土した。この中には灰釉陶器皿(149)、東濃型山茶碗(157)、尾張型小皿(158)など新しい遺物が33点混入していた。柱穴など新しい時期の遺構が多数重複した影響かもしれない

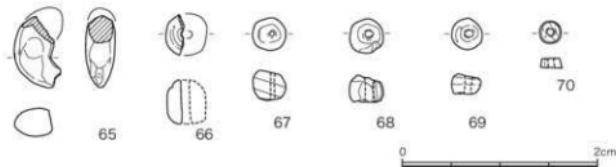
い。須恵器には杯蓋(146)、杯身(147・148)、高杯(150～153)、瓶(156)などがある。時期は多様であるが、最も多く存在するのは東山44号窯式期(H-44)に属するものであることから、A-3期(7世紀前半)に位置づけたい。土師器には甕(154)と高杯(155)がある。

第8項 SB08 出土遺物**(第73図159～175)**

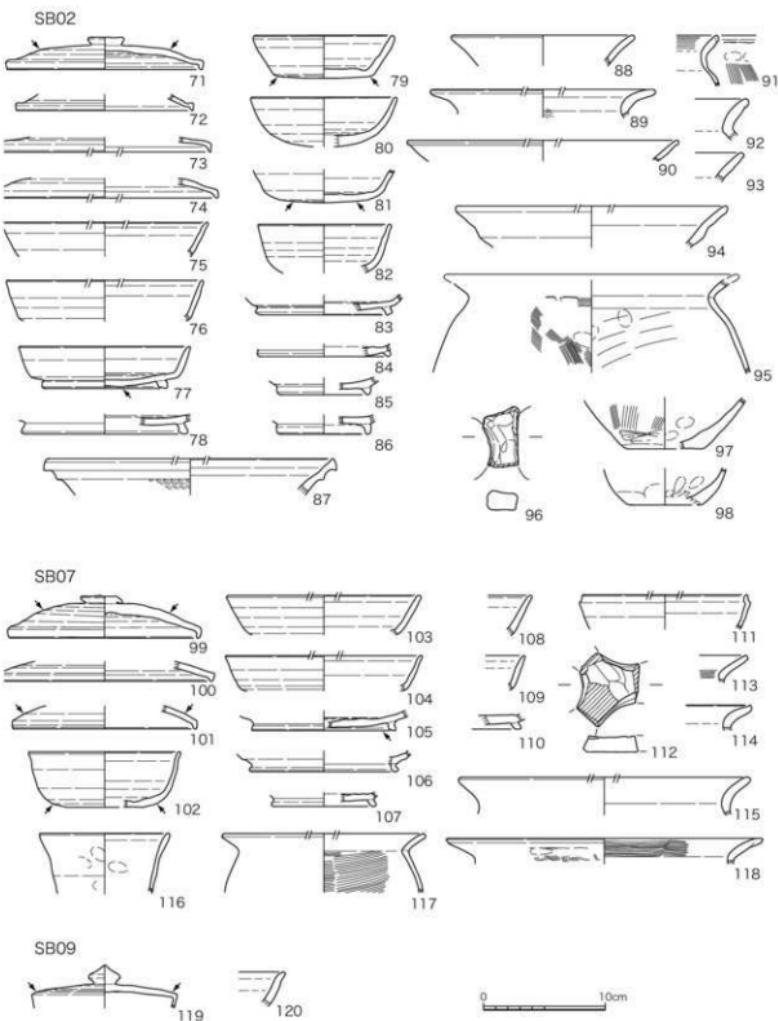
SB08からは土師器275点、須恵器215点など499点の遺物が出土した。須恵器には杯蓋(159～162)、杯身(165)、高杯(166・168・169)、壺(167)、甕(171)などがある。159は摘み付近で放射状に伸びるミガキによる施紋が存在する。灰釉陶器には甕(163・164)があり、これは黒窓9号窯式期(K-90)に属するものである。土師器には甕(172～175)と土鍾(170)がある。甕は折り返された口縁部の屈曲が急なもの(173)と丸みを持って屈曲するもの(174)などがある。前者は三河型、後者は尾張型に属し、両者とも8世紀から9世紀に属する資料である。古い時期のものが含まれるが、A-5期に属する資料(9世紀)に位置づけられる。

第9項 SB06 出土遺物**(第73図176～179)**

SB06からは土師器48点、須恵器28点など77点の遺物が出土した。須恵器には杯蓋(176)、杯身(177)、壺(178)などがある。杯類は東山61号窯式期(H-61)に属するものである。土師

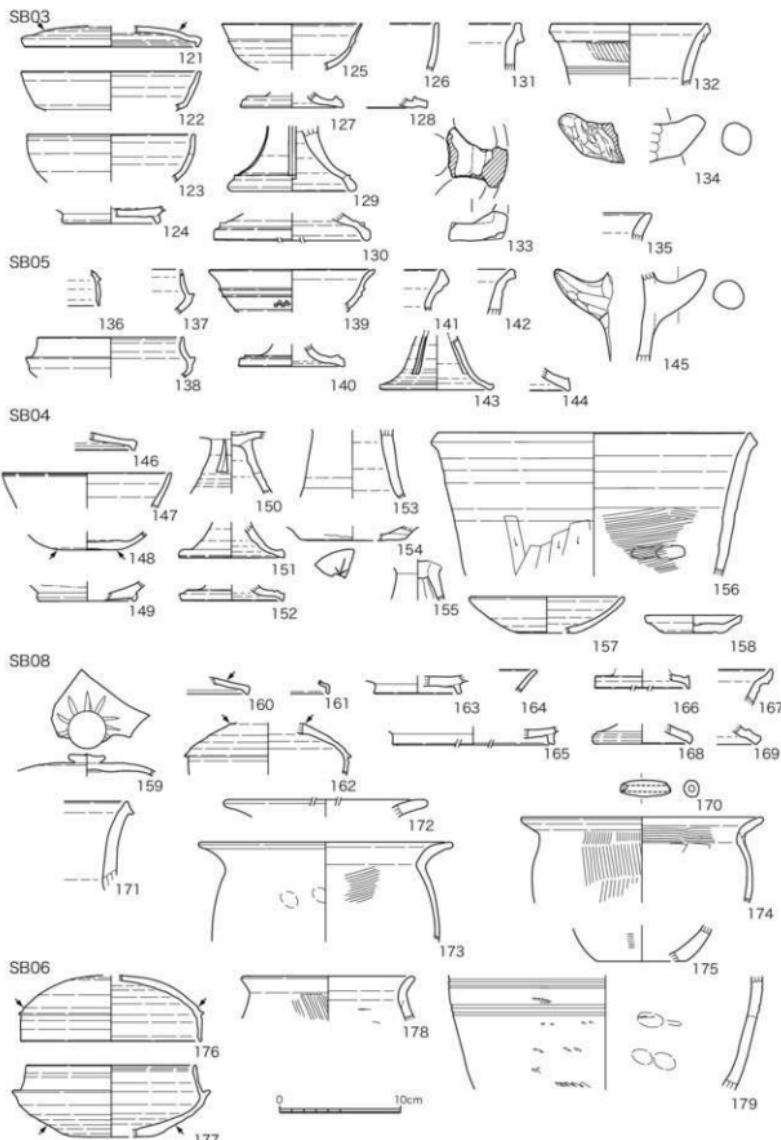


第71図 A期の遺物実測図 (3) SK308 (3)



第72図 A期の遺物実測図(4) SB02・SB07・SB09

名古屋城三の丸遺跡 VII



第73図 A期の遺物実測図(5) SB03・SB05・SB04他

器には甕（178）があり、緩やかに口縁部が屈曲し体部外面に荒いハケ調整が施されている。A-2期に属する資料で6世紀前半に位置づけられる。

第10項 土坑出土遺物

（第74図180～202）

180はSK331から出土した土師器小型壺で古墳時代中期に属する。181～183はSK339から出土した資料で、杯蓋は東山11号窯式期（H-11）に属するもの（181）と城山2号窯式期に属するものである。A-1期に属する資料で5世紀後半に位置づけられる。184はSK359から出土した杯蓋で東山50号窯式期（H-50）に、185はSX08から出土した高杯で東山11号窯式期（H-11）に属する。186～189はSK353から出土した資料で、土師器台付甕は松河戸II式に属する。190は器台の一部と思われる。191はSK425出土杯身で高藏寺2号窯式期（C-2）に位置づけられる（A-4期）。192はSK412から出土した土師器甕で口縁部が横に伸びる三河型に属するものである。193～195はSK589から出土した土師器甕で概ね8世紀代に属する。196と197はSK188から出土した灰釉陶器と白色軟質陶器で10世紀に属する。灰釉陶器段階の遺物は、他にSK582出土資料（198）、SD32出土資料（199）、SK235出土資料（200～202）などがあるが、SK235はB期の遺構である。

第11項 包含層など出土遺物

（第75～78図203～413）

今回の調査でA期に属する遺物の大部分は、B期以降の遺構や包含層から出土した資料である。これらは本来同時期の遺構や包含層に含有されていたものと推察されるが、B期以降の度重なる開発や搅乱により移動してしまったものと思われる。A期の遺構出土資料に比べると一括性においてその資料的価値が低くなるが、豊富な出土量を

誇るこれらの遺物を紹介しないのは遺跡全体の様相を考える上で適切ではない。ここでは種別に紹介していきたい。なお、埴輪と古代～中世の瓦については別に項目を設けて報告したい。

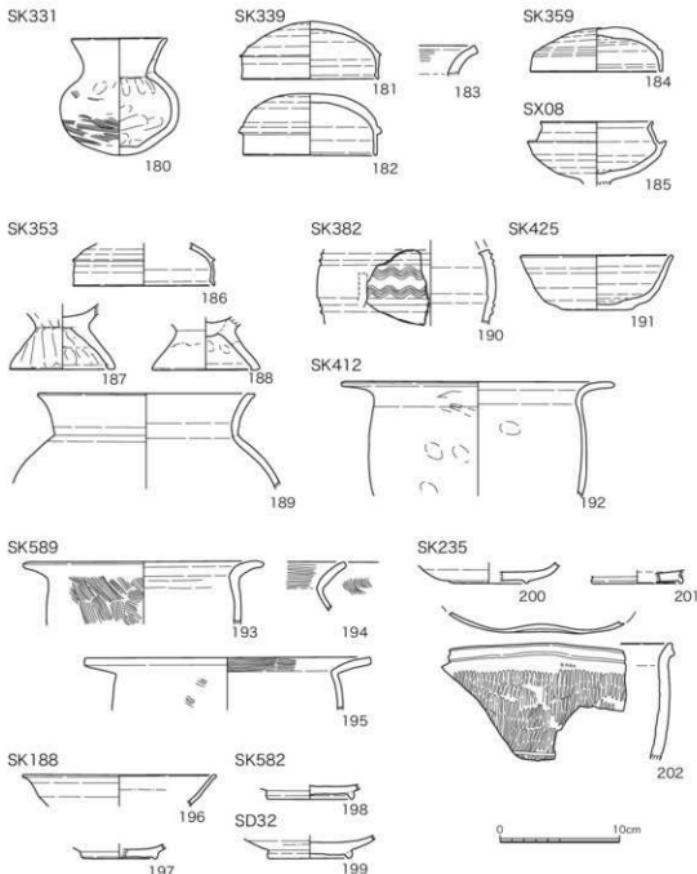
203～242はA期に属する土師器類である。この中で最も古い資料は高杯（217）、甕（220）、筒型製品（221）であり、弥生時代後期山中式期の新段階から遡間I式期に属する。203～206はいわゆるS字状口縁台付甕D類、207は宇田型甕、213～216は台付甕脚部、210～212は高杯で、いずれも松河戸II式期に属する。これら松河戸II式期の資料が、SK353以外にも一定量あることから、当地点ではこの段階から遺跡が本格的に機能していたことが考えられる。古墳時代後期以降の土師器は甕が主体となっている。6～7世紀代は口縁端部を擒み上げた伊勢型の甕（226等）、8世紀代は口縁部が肥厚し荒いハケ調整が残る尾張型（228等）と口縁部が直線的に横に開く三河型（231）が存在する。この他に支脚の一部と推測される粘土塊（239）、穿孔された擒みを持つ鐸状土製品（240）、製塙土器の脚部（241）、土鍾（242）などがある。240は下半が欠損し破断面が消耗しており、擒み部に線刻が施されている。

243～366は一部を除き須恵器類である。243～246と249は有蓋高杯蓋、247・248・250～255・269～291は杯蓋、256～268・292～309は杯身、310・311は碗、312～330は高杯、331は合子、332ははそう（広口有孔壺）、333は短頸甕、343は横瓶、348・349は擂鉢、354は甕、355～366は鉢または瓶である。336と子持器台などの杯部、353は装飾須恵器の造形部分の一部と想定される。351は外面に繩目紋が施された甕である。345～347・352は焼成が甘い白色軟質陶器に分類される陶器群である。時期は東山11号窯式期（H-11）から折戸10号窯式期（O-10）に概ね位置づけられ、特に時期的な偏りは認められない。

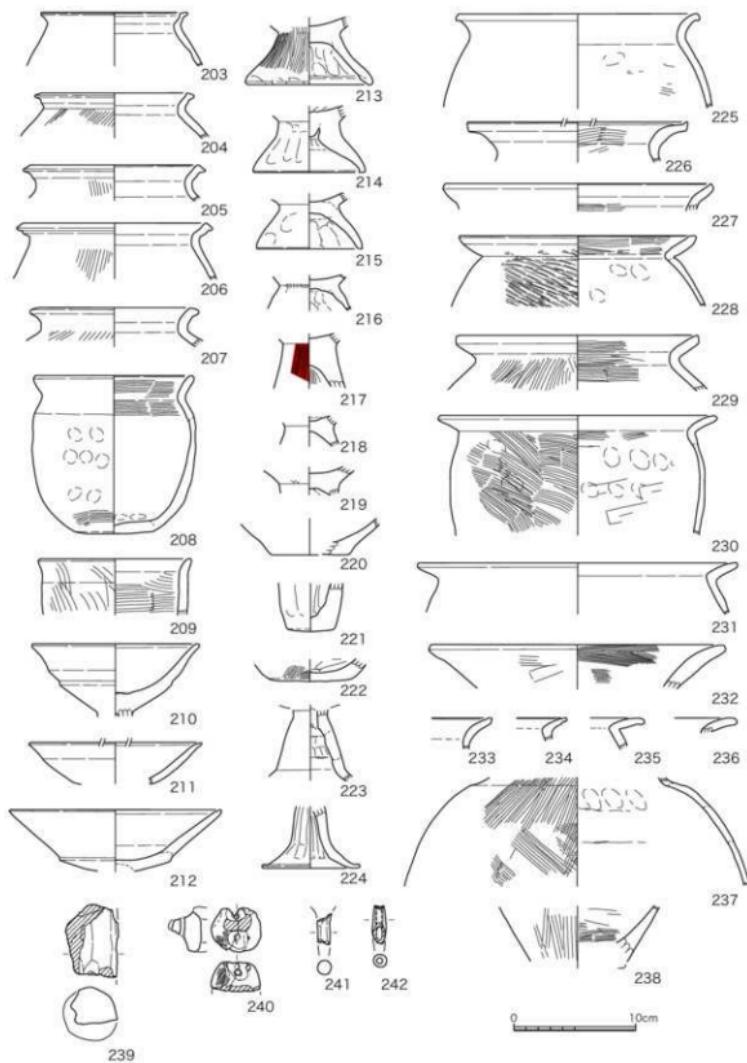
367～413は一部を除き灰釉陶器類である。大部分は碗と皿であり、373は小碗、388は耳皿、368は長頸瓶、367は壺類である。370は白色軟質陶器の皿で、口縁端部内面に沈線が、底部外面に刻線が施されている。413は緑釉陶器皿で黒窯90号窯式期（K-90）に属する。緑釉陶器は全部で10点が出土している。灰釉陶器を含む遺構

出土資料は、良好な堅穴建物跡や土坑に含まれる。

かったために、他に比べ非常に少ないので実情である。しかし、黒窯90号窯式期（K-90）から広久手72号窯式期（H-72）の資料が一定量存在することから、この時期でも一定程度遺跡が継続したことか推測される。一方、百代寺窯式期や山茶碗第3型式期の資料も存在するが少ない傾向が読み取れる。

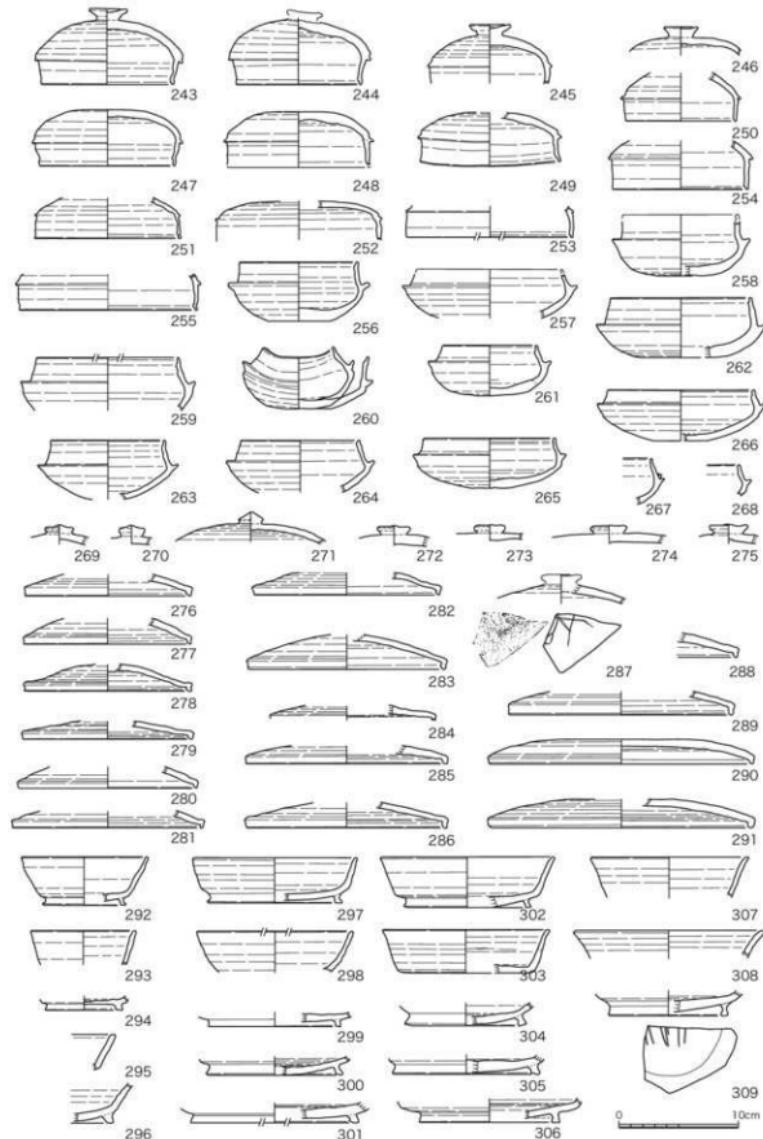


第74図 A期の遺物実測図(6) 土坑出土遺物



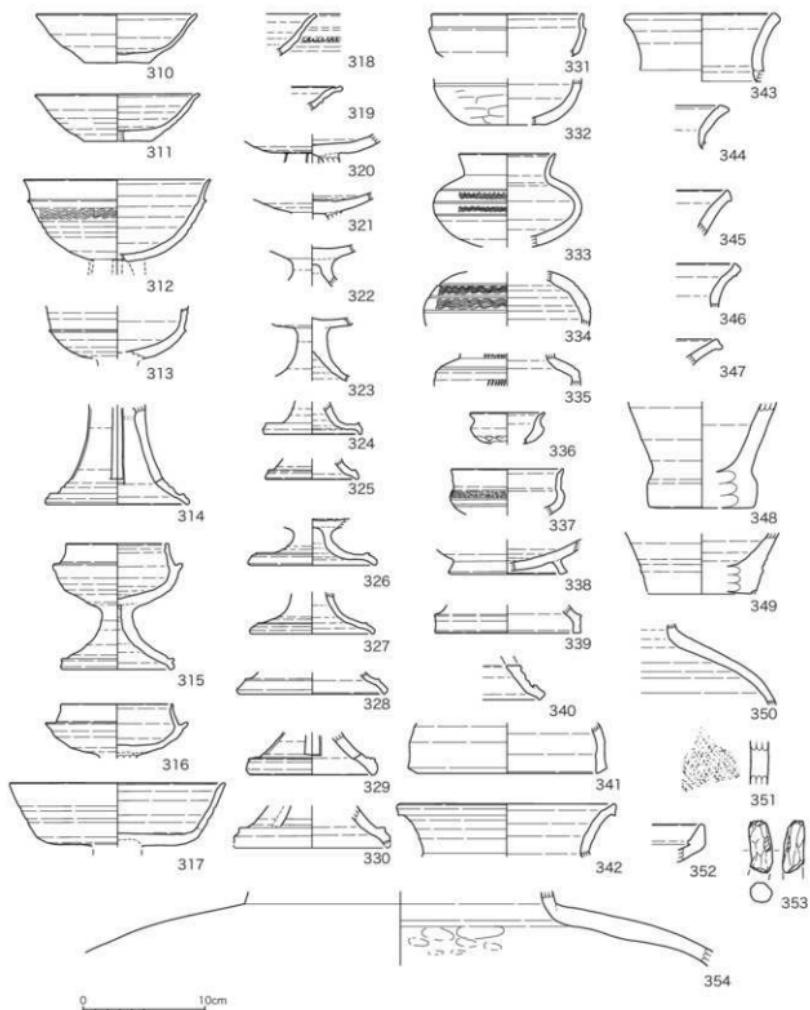
第75図 A期の遺物実測図(7) 包含層他出土遺物(1)

名古屋城三の丸遺跡 VII



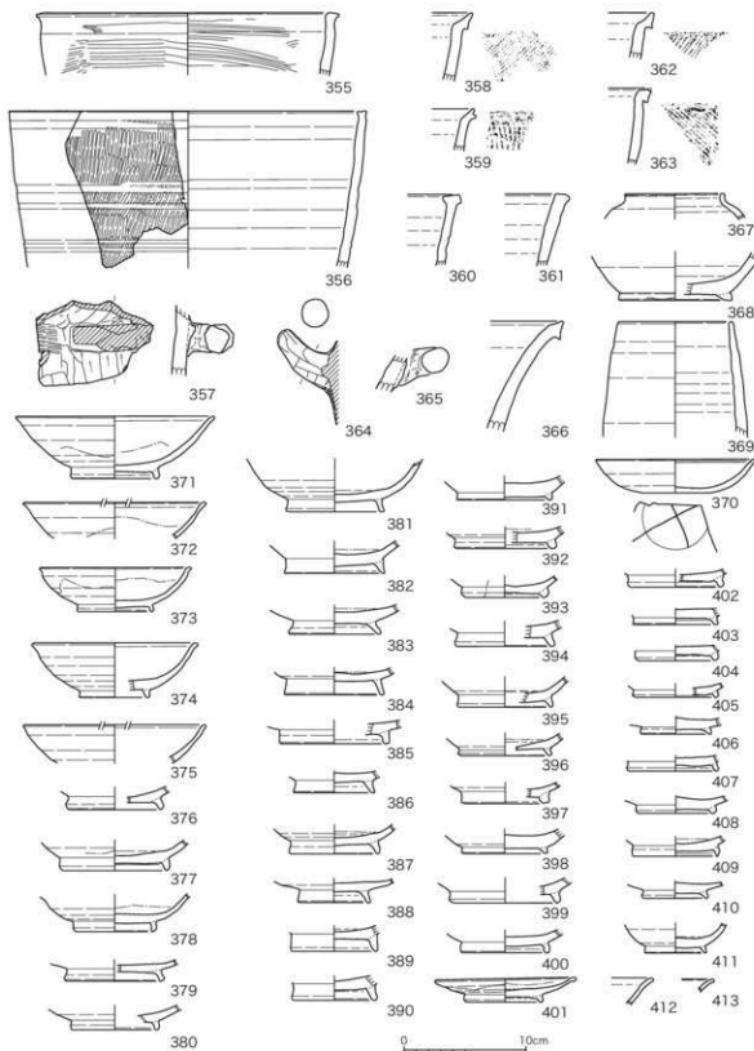
第 76 図 A 期の遺物実測図 (8) 包含層他出土遺物 (2)

遺物



第77図 A期の遺物実測図(9) 包含層他出土遺物(3)

名古屋城三の丸遺跡 VII



第 78 図 A 期の遺物実測図 (10) 包含層他出土遺物 (4)

第12項 墳輪（第79・80図414～452）

1 概要

埴輪はすべて無黒斑である。円筒埴輪が大部分で、器種を特定しえない形象埴輪がわずかに認められる。円筒埴輪は92点（接合前破片数）、4,588.3gが出土したが、2段以上遺存する個体がなく、基部、口縁部、突帯が確認できる個体を中心として39点を抽出、図化した。

2 資料

（1）円筒埴輪の分類

各個体に説明を加えるに際して、円筒埴輪を須恵器系、タテハケ系、ナデ系、ヨコハケ系の4系統に分類し、さらに須恵器系は須恵器系1～4類、ナデ系はナデ系1～2類、ヨコハケ系はヨコハケ系1～2類に細別した。分類においては、主として製作技法、突帯形状、器壁の厚さ、胎土を考慮した。以下、各分類に則して資料を提示する。

（2）須恵器系埴輪

須恵器系埴輪は、原則として外面に1次調整としてのタテハケ後、2次調整として回転ヨコハケを施すもので、出土した埴輪の多数を占める。ここでは、24点（414～437）を図示した。

須恵器系1類は2点（414・415）である。淡橙色系の色調を示し、胎土中に砂粒をほとんど含まない。器壁は薄手で、やや低平ながらも銳利な突帯を付す。3は基部で、底径が14cm前後と小さく、外面の回転ヨコハケは部分的に施されるのみ。底部調整としてのヨコケズリは、回転動作によらない曖昧なものである。

須恵器系2類は、基部2点（416・417）を抽出した。灰白～淡黄色系の色調で、砂粒をやや多く含む胎土である。重厚な器壁で、やや粗雑な印象を与える。外面には回転ヨコハケが施されるも、底部調整としてのヨコケズリは顕著でない。

須恵器系3類は19点（418～436）で、個体

数が最も多いと思われる。同一個体が少からず含まれると思われるが、接合しなかつたため、それぞれの破片を図化した。硬質に焼成され、赤～紫褐色を基調とする。色調からは、さらに418～425（赤褐色）と426～436（紫褐色）に分類される。胎土中には砂粒を多く含む。器壁はやや厚く、銳利で高く突出する断面M字形の突帯を付す。ほぼ例外なく外面に回転ヨコハケ、内面に直線的なヨコハケを全面に施す。418～420は基部で、底部調整としてヨコケズリを内外面に施す。418は底径18.8cmで、筒形の器形。421、431は口縁部で、421は内面が段状に肥厚する。

須恵器系4類としたものは1点（437）で、内面には細かいヨコハケを断続的に施す。須恵質に焼成され、色調は灰色を呈する。

タテハケ系埴輪

タテハケ系埴輪としたものは1点（438）で、外面2次調整としての回転ヨコハケを省略する。内面は断続的なナメハケ調整を施す。須恵質に焼成され、色調は灰色を呈する。突帯は幅平で銳利さを欠く。須恵器系埴輪の退化した型式と考えられる。

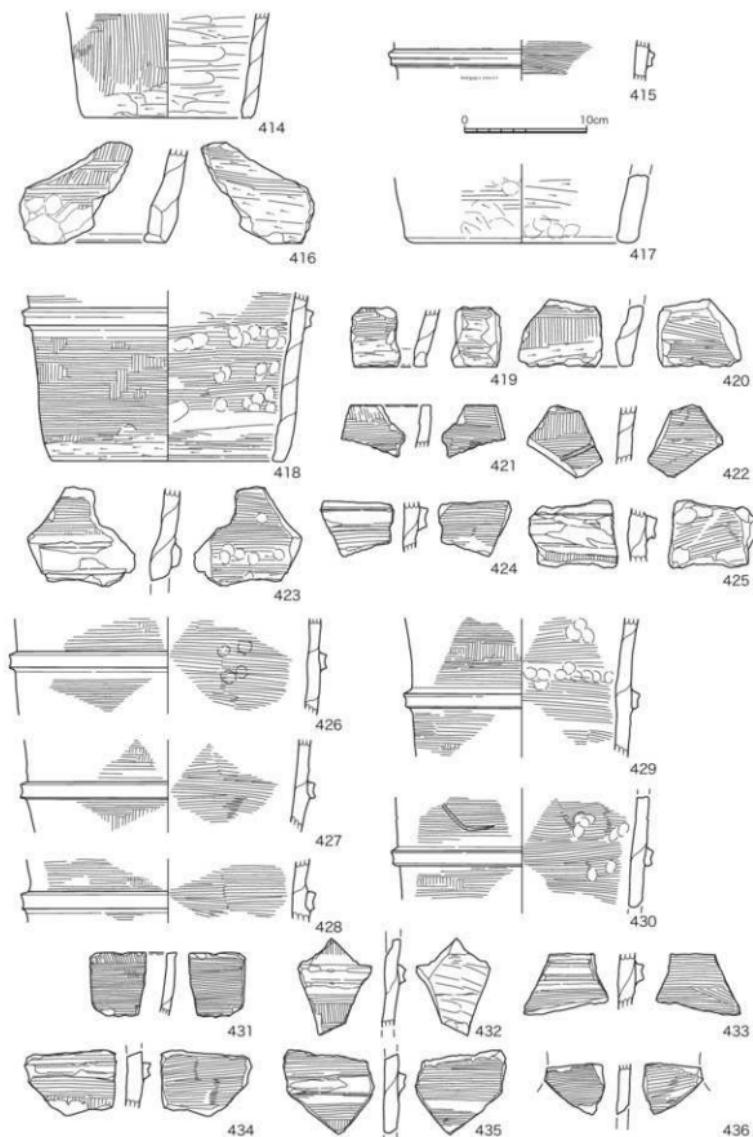
（3）ナデ系埴輪

ナデ系埴輪は、内外面の調整をナデ基調とするもので、6点（439～444）を図示した。

ナデ系1類は3点（439～441）で、灰白～淡黄色系の色調を基調とし、胎土中には砂粒をほとんど含まない。器壁は薄手で、低平な突帯を付す。26には径0.8cmの焼成前の小孔がある。ナデ系2類は3点（442～444）で、灰白～淡橙色系の色調を基調とし、胎土中に砂粒をやや多く含む。器壁はやや厚手で、高く突出する突帯を付すものの（442）と、低平な突帯を付すもの（443）がある。444は基部で、底部調整は認められない。

（4）ヨコハケ系埴輪

ヨコハケ系埴輪は、5点の破片（445～449）



第 79 図 A 期の遺物実測図 (11) 塗輪 (1)

を図化したのみで、ヨコハケの静止痕が確認できる個体はない。

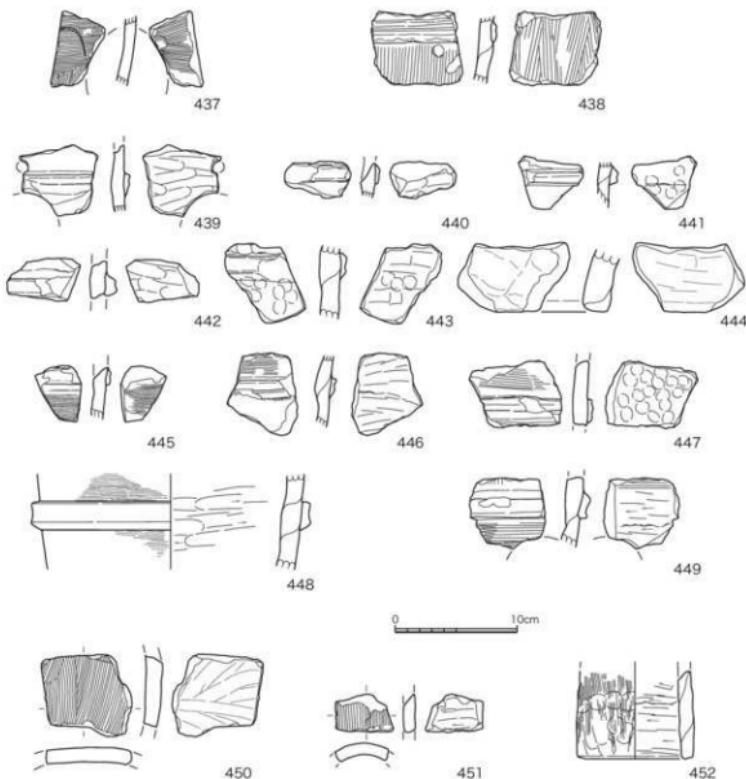
ヨコハケ系 1 類は 3 点 (445 ~ 447) で、外面上に細かなヨコハケを施す。淡黄～淡橙色系の色調で、断面の中間に黒色層を形成するものがある。胎土中には砂粒をほとんど含まない。器壁は薄手で、低平な突帯を付す。446 の外面にはベンガラを塗布した痕跡を残す。

ヨコハケ系 2 類は 2 点 (448・449) で、外面上

にやや粗いヨコハケを施す。色調は淡黄～橙色系で、1 類と類似する。1 類と比較して、器壁が厚く、突帯が突出する傾向にある。

(5) 器種を特定しえない形象埴輪

形象埴輪の可能性がある個体として 3 点 (450 ~ 452) を図示した。いずれも器種、部位の特定には及んでいない。450 は円弧を有さない破片で、外面をハケ、内面を丁寧なナデによって調整する。胎土や色調は須恵器系 3 類に共通する。451



第 80 図 A 期の遺物実測図 (12) 塩輪 (2)

は径が著しく小さい筒状の形状で、外面をハケ、内面をナデによって調整する。胎土や色調は450に共通する。452は筒状を呈する基部で、外面は細かいタテハケとナデによって調整する。灰白色の精良な胎土が特徴的である。

3 小結

(1) 各系統の関係

須恵器系1類は、ナデ系1類、ヨコハケ系1類と、須恵器系2類はナデ系2類とそれぞれに共通する属性も少なくない。この理解は、それぞれの系統の円筒埴輪が製作環境において相互に排他的ではなかったことを示す。この理解は、円筒埴輪の帰属時期を推測するうえでも重要な要素となりえよう。

(2) 帰属時期

ナデ系、ヨコハケ系、須恵器系1・2類と須恵器系3類は、前二者が古相、後者が新相の要素をそれぞれ内包する傾向にあるが、これらは總体として單一時期の製作と理解しても差し支えないと考えられる。推測される帰属時期は、須恵器系埴輪（なかでも須恵器系3類）を主体として、他系統の埴輪が混在する点、須恵器系埴輪の技法にやや不安定さが看取される点などから、赤塚次郎による円筒埴輪編年のIV期2段階、須恵器型式

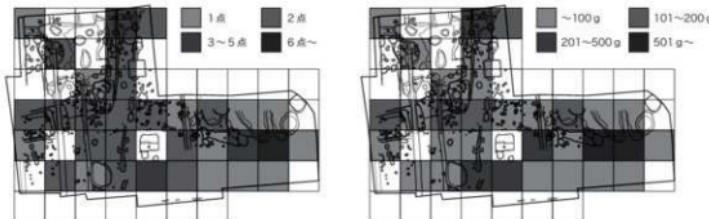
では城山2号窯期に相当する。底部設定技法が積極的には認められないこと、整形段階のタタキ調整が認められないことも、帰属時期を推測するうえで参考となる。また、この推測は、本報告が対象とする調査区から、城山2号窯期、東山11号窯期の須恵器が出土している事実、周辺調査区で検出された古墳の築造時期が、東山11号窯期～城山2号窯期に求められる点とも調和する。一方、須恵器系4類、タテハケ系の各1点は時期が下降する可能性が高く、円筒埴輪編年のV期、須恵器型式では東山11号窯期以降に位置づけておきたい。

(3) 出土分布

第81図に、グリッド別の出土点数と重量の分布を示した。埴輪は、二次的な移動の結果、調査区のほぼ全域に散漫に分布してはいるものの、相対的には調査区の東半から多く出土する傾向にある。すなわち、古墳群の痕跡は調査区の東半からより東に残されている可能性が指摘できる。

参考文献

- 齊藤孝正 1982「旗投窯立窯の様相」『名古屋大学文学部研究論集』LXXXVI (史学29) 名古屋大学文学部
赤塚次郎 1991「尾張型埴輪について」『池下古墳』愛知県理文化財センター調査報告書 第24集



第81図 墓出土分布図

第13項 古代～中世の瓦

SK155 からは古代～中世の瓦が若干数であるが出土した。内訳は古代の平瓦 1 点、中世の軒平瓦 1 点、平瓦 1 点、時期不明の丸瓦 2 点である。各破片で全く色調が異なる。

軒平瓦 (453) は、瓦当面の状態が不良であるが、紋様は唐草紋と判断される。もともと瓦当面の押し当てが充分でなかったようである。比較的単純化の進んだ唐草紋と考えられ、尾張地域で類例を探すと名古屋市・八事荒野古窯跡出土の軒平瓦と、同様とは言い切れないがほぼ同じ紋様であることが判明した（註）。素材は糸で切り出された粘土板で、凸型成形台で成形し、瓦当部を折り曲げる。頭部には粘土を付加し指ナデ調整をおこなう。凸面タタキ痕はみえない。瓦当面は面に対しややすれて押し当てられる。焼成は硬質で色調は赤褐色である。以上の製作技法上の特徴は八事荒野古窯跡出土の唐草紋軒平瓦と共通しており、当該瓦がこの窯の製品である可能性はきわめて高いといえる。

なお、八事荒野古窯の製品は、軒丸瓦に三巴紋 2 種と二巴紋 1 種の計 3 種類、軒平瓦に連続三巴紋 1 種と均整唐草紋 2 種の計 3 種類がある。灰釉の掛かる三巴紋軒丸瓦と連続三巴紋軒平瓦で組み合わせが想定でき、それ以外の無釉のものと区分される。唐草紋は仮に A・B・C 類とするが同じ製作技法である。そのうち 453 に近似する紋様は A 類（図 83-3）である。

唐草紋軒平瓦の年代であるが、抽象化された唐草紋と瓦当部の折り曲げ技法から、12世紀末～13世紀初頭の時期を考えることができよう。なお京都（平安京）での出土は確認されていない。

平瓦 (454) は凸面縄タタキの後に指ナデをおこない、凹面に桶状模骨の痕跡がある。焼成がやや軟質で厚み（2.3cm）もあるため古代のものと考えられる。455 は凸面縄タタキ。離れ砂はないが灰釉系陶器に近い焼成であるため、中世のもの

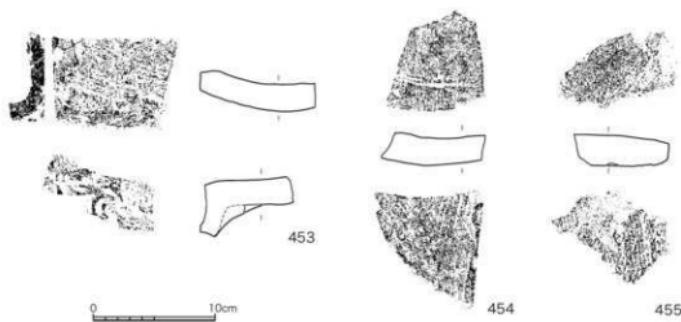
と考えられる。なお図示していない丸瓦は、古代とも中世とも判じがたい。

以上の瓦は SK155 以外の遺構や整地層・表土層からは出土していない。この状況は円筒埴輪のそれとは対称的で、後者が調査区近辺に古墳の存在を想定せしめるのに対し、古代～中世の瓦葺き建物の存在については否定的である。SK155 出土遺物は古瀬戸末期を下限とする複多な時期を示し、それ以前から存在した瓦礫を片付けた土坑とみられるが、瓦に関していえば、ここから離れた地点からもたらされたものと考えられる。なお、これまでの名古屋城三の丸遺跡の調査では、台地西縁に近い古代集落が確認された地点で古代～中世の瓦が出土しているが、台地の奥まった地点ではみられない。つまり分布に偏重がうかがえ、台地西縁に古代～中世の瓦葺き建物を想定することも可能であろう。これに関して、名古屋城三の丸には天王社があったが、その前身は中世の「安養寺」になる可能性があり、「尾張国風土記逸文」に記される古代の「福興寺」との関わりも指摘されている（三渡 1986）。名古屋城前史のひとつとして今後探索を続ける必要があろう。

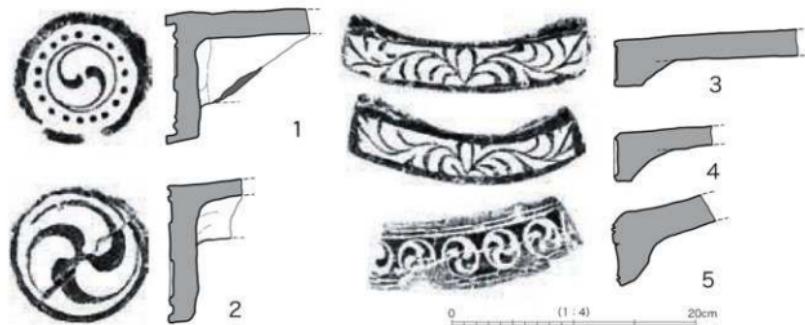
（註）八事荒野古窯跡出土資料の調査にあたっては名古屋市博物館鶴山鶴氏・瀬川貴文氏の御協力と御教示をいただいた。

参考文献

三渡俊一郎 1986 「千種・東・中区の遺跡」名古屋市文化財叢書第 88 集



第82図 A期の遺物実測図(12)古代～中世の瓦



第83図 八事萱野古窯出土瓦実測図

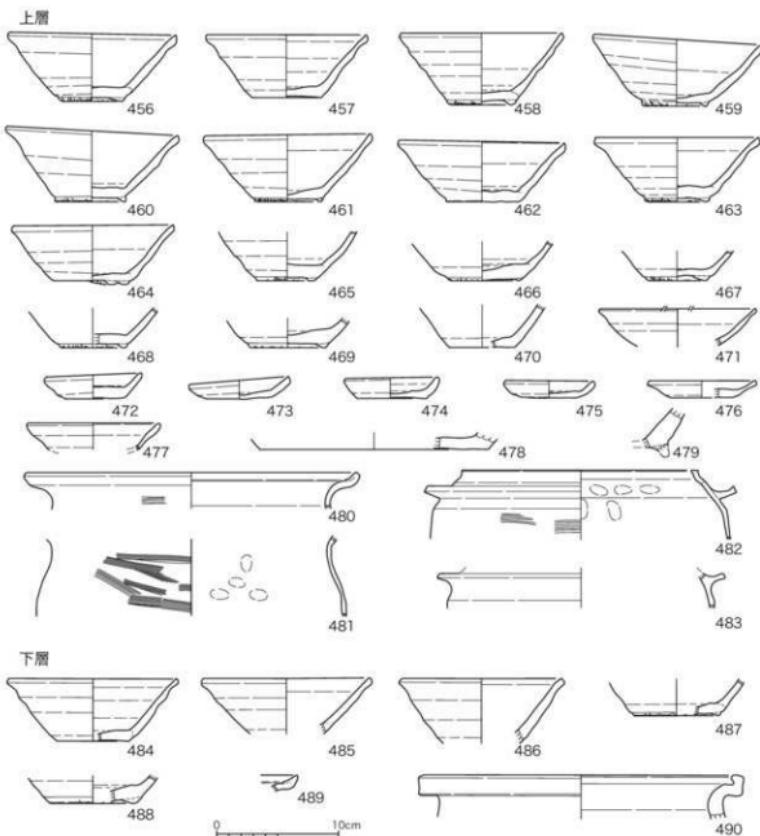
第3節 B期の遺物

B期は鎌倉時代中頃～戦国時代（13世紀～16世紀）の段階である。遺物には山茶碗類・瀬戸美濃窯産陶器・土師器などの焼物類の他、石製品や金属製品などがある。ここでは主要な遺構出土資料を中心に記述する。

第1項 SK226出土遺物

（第84図 456～490）

井戸SK226は上層をSK226、下層をSK310として掘削しており、ここでは両者を併記して報告する。SK226からは山茶碗類と土師器などが398点出土した。この中には一部近世に属する瓦類が混入していたが、大半は山茶碗類（134点）



第84図 B期の遺物実測図(1) SK226

である。須恵器や灰釉陶器など古い遺物も多数含まれていたが、古瀬戸製品は全く認められない。

上層出土の山茶碗類には尾張型 118 点と東濃型 16 点があり、尾張型は瀬戸窯産と推測される製品が多い。尾張型山茶碗（456～470）と小皿（472～475）は 466 を除き藤澤良祐編年の第 7 ～ 8 型式に属する。東濃型小皿（476）は明和 2 号窯式期に属する。この他に、尾張型鉢（478・479）、土師器非ロクロ調整皿（477）、土師器南伊勢系鍋（480・481）、土師器内輪型羽釜（鉢付鍋：482・483）などが存在する。482 は口縁部が内傾するがその長さは長く、北村編年 A3 類に属する。

下層出土の山茶碗類は尾張型が多く（484～488）、486～488 は上層よりも古い第 6 型式に属する資料である。490 は常滑窯産陶器甕で中野編年の 6a 期に属する。下層の方がやや古い段階

の山茶碗を含むものの、埋没時期がそれ程異なると思われる。B-1 期に属する資料で 13 世紀中葉に位置づけられる。

第 2 項 SD18 出土遺物

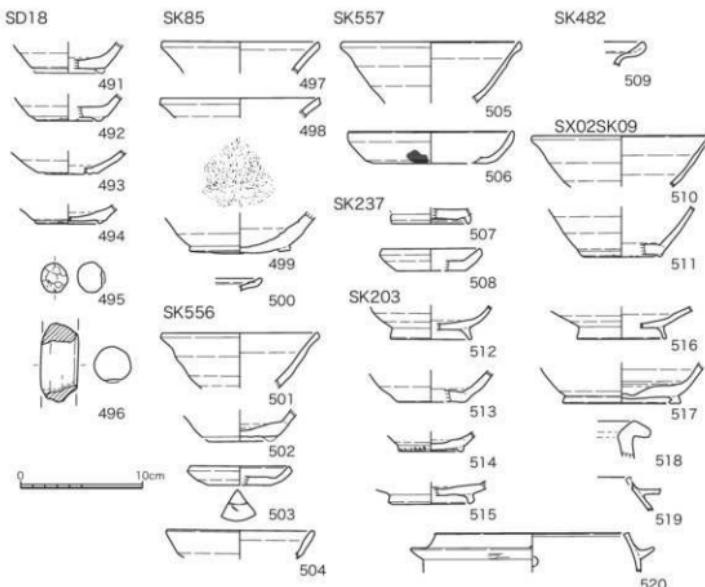
（第 85 図 491～496）

SD18 は SD17 に切られる東西方向に走る小規模な溝で山茶碗類などが出土した。山茶碗類は尾張型（491・492）と東濃型（493・494）があり、後者には大糸東窯式期に属する（493）。496 は棒状の土製品で支脚の一部かも知れない。B-2 期（14 世紀末から 15 世紀初頭）に位置づけられる。

第 3 項 B-1,2 期の土坑出土遺物

（第 85 図 497～520）

497～500 は SK85 から出土した資料で、尾張型山茶碗（497・498）は第 7 ～ 8 型式に属する。



第 85 図 B 期の遺物実測図 (2) 溝・土坑出土遺物

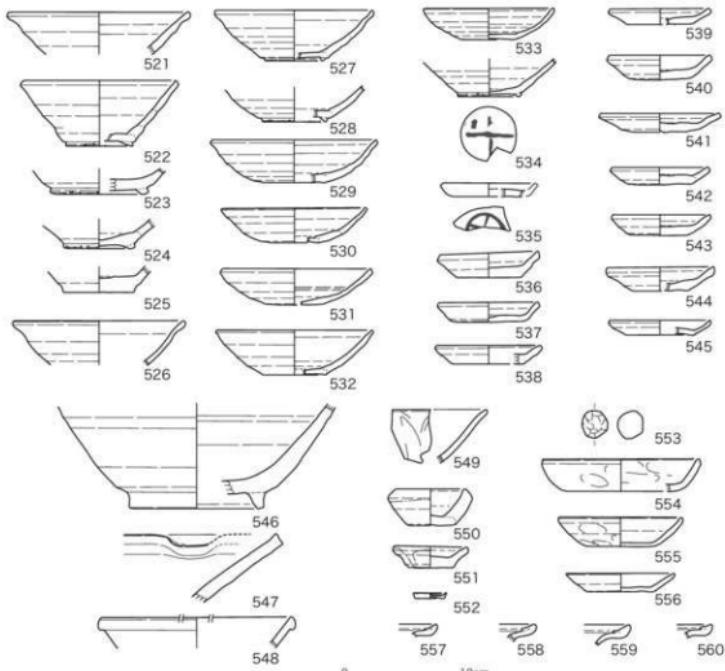
499は東濃型山茶碗の卸碗で、内面に刻線が施され自然釉がかかる。白土原窯式期に属する。501～504はSK556出土資料で、503の底部外面には墨書が記されている。505・506はSK557出土遺物で505は明和2号窯式期に属する東濃型山茶碗、506は白色で均質な胎土の土師器皿である。506は口縁部がやや肥厚しながら内側に底部に黒色のしみが存在する。507・508はSK237出土資料、512～520はSK203出土資料で、両者とも灰釉陶器類などの古い時期の遺物を含有する。518は灰釉陶器類の時期に属する土師器清郷型甕である。519と520は土師器内輪型羽釜(鉢付鍋)で鉢の状態から両者は別系統の製品と考えられる。

第4項 SK155出土遺物

(第87～89図 561～645)

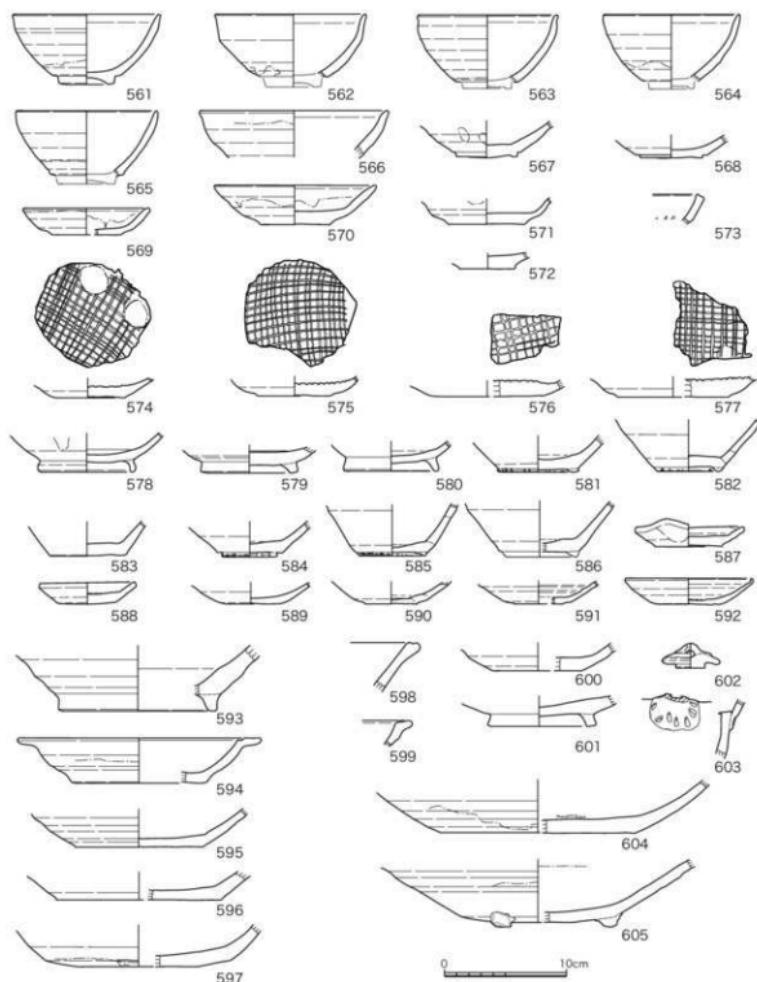
SK155からは瀬戸美濃窯産陶器や常滑窯産陶器、土師器などの遺物が761点出土した。遺構の時期はB期に属するが、須恵器230点、古代までの土師器59点など約半数がA期に属する資料であった。ここでは遺構の時期に近い資料を中心報告する。

瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗(561～565)、平碗(566・567)、緑釉小皿(568～572)、鉢皿(573～577)、折縁中皿(594)、折縁深皿(599～606)合子蓋(602)、水注(603・627)、擂鉢(607～611・616～618)、直縁大皿(612)、緒桶(613・614)、根来型広口瓶子(622)、祖母懐壺(623)、



第86図 B期の遺物実測図(3) 包含層他出土遺物

名古屋城三の丸遺跡 VII



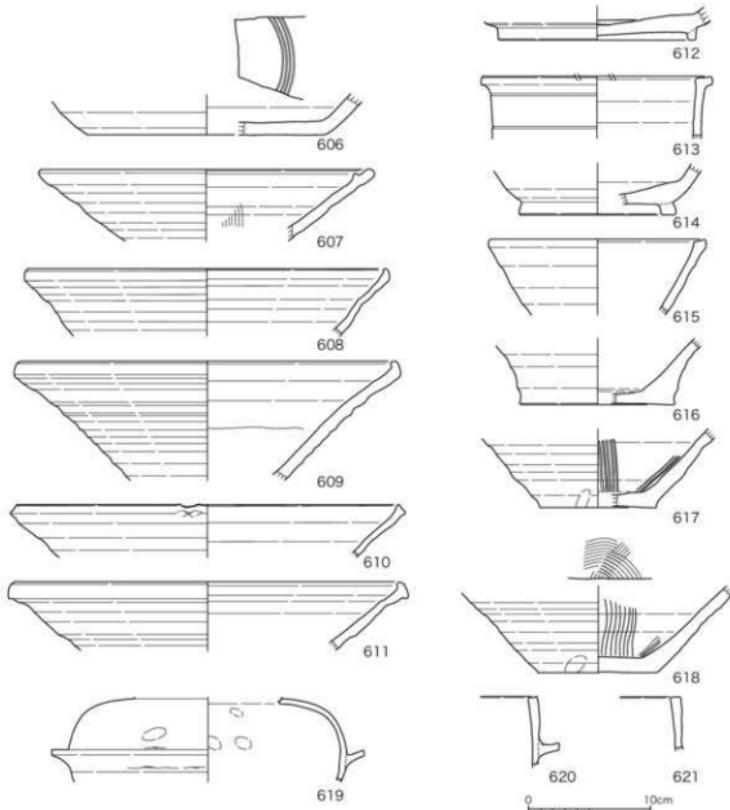
第87図 B期の遺物実測図(4) SK155(1)

四（三）耳壺（624～626）、花瓶（628）、瓶子（629～632・634～636）、燭台（637）など多様な器種が存在する。出土量は接合前破片数で碗・小皿類は25点、中皿・鉢類は25点、捕鉢は22点、壺・瓶類は55点、その他は24点であり、壺・瓶類の出土量が多い傾向が認められる。時期別に検討すると、古瀬戸前Ⅰb期の資料（603）が最も古く、古瀬戸後Ⅳ期新段階の資料が最も多くかつ最新資料である。

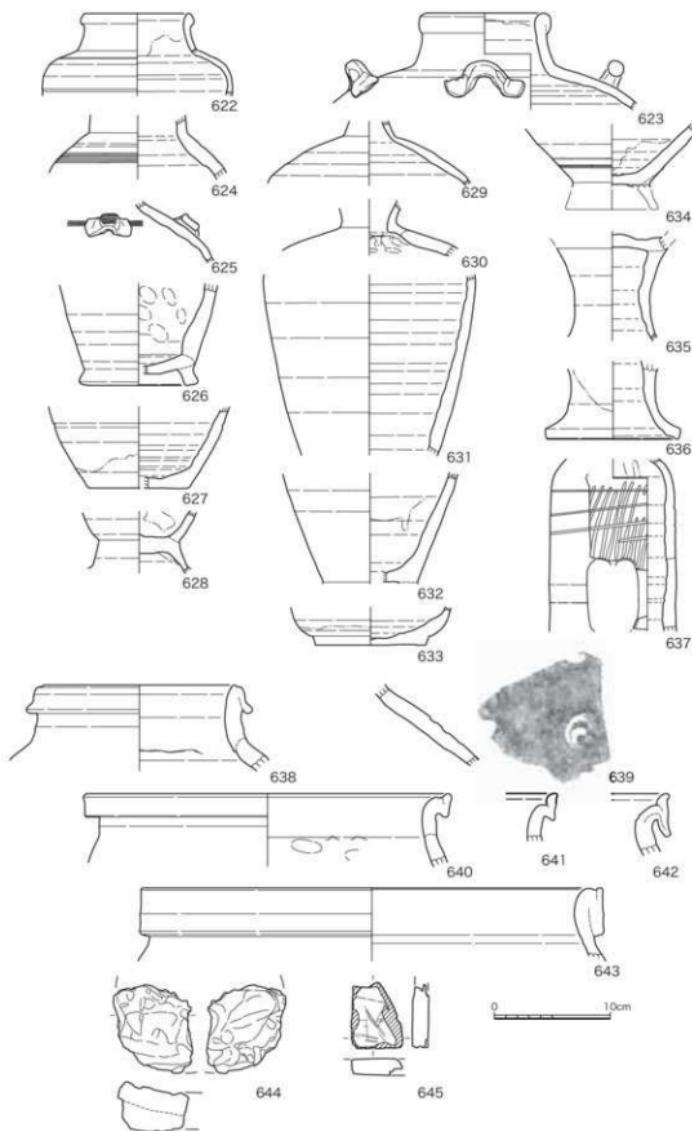
常滑窯産陶器は接合前破片数で81点出土し

ており、大半が壺または壺の破片と考えられる。638は10型式新段階の壺口縁部、640・641は5型式新段階の壺口縁部、642は7型式新段階の壺口縁部、643は9型式新段階の壺口縁部である。639は壺の肩部付近の破片で三つ巴紋の印が施されている。この他に陶器類では山茶碗類も72点が確認されている。尾張型山茶碗では第3～8型式が、東濃型山茶碗では浅間窯下窓式期から生田窯式期までが出土した。

土師器には皿と鍋・釜類が存在し、後者には羽



第88図 B期の遺物実測図 (5) SK155 (2)



第89図 B期の遺物実測図 (6) SK155 (3)

付鍋（620・621）と羽付釜（619）が認められる。羽付鍋は口縁部が高く直立することからこの種では最も古い資料と考えられる。この他に重複椀型鉄滓（644）や砾石（645）なども出土した。

古瀬戸後IV期新段階の資料と直立する羽付鍋の存在から、B-3期（15世紀後半）に位置づけられる。

第5項 SK147 出土遺物

（第90～92図 646～764）

SK147からは瀬戸美濃窯産陶器や土師器などの遺物が2671点出土した。このうち半数以上は土師器皿で全体の約73%（1940点）を占める。古い包含層などを壊したため混入したと思われる須恵器230点、古代以前の土師器187点、灰釉陶器57点、山茶碗類83点を除くと、土師器皿の占める割合は更に高く約91%と計算される。ここでは遺構の時期に近い資料を中心に記述を進めたい。

瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗（646～649）、仏龕具（650）、綠釉小皿（651・652）、重圓皿（東濃型山茶碗653）、水注（744）、四（三）耳壺（745）、擂鉢（746・750）、釜（748・749）などがある。接合前破片数では天目茶碗が25点、皿類が13点、擂鉢が16点、甕が21点、その他が14点である。甕は全ての破片が同一個体と思われる所以、天目茶碗の占める割合が高いことがいえよう。時期は古瀬戸前期から大窯第4段階まで分布するが、大窯第4段階の志野丸皿と大窯第2段階の擂鉢などを除くと、古瀬戸後IV期から大窯第1段階までに集中する傾向がある。

土師器には大量の皿類と内耳鍋がある。土師器皿は大きくロクロ調整皿と非ロクロ調整皿に分けられ、形状でさらに細分される。

ロクロ調整皿1類（661～686）は口径が11～14cmで体部を2段にナデて口縁端部を大きく外反させたものである。ロクロ調整皿2類

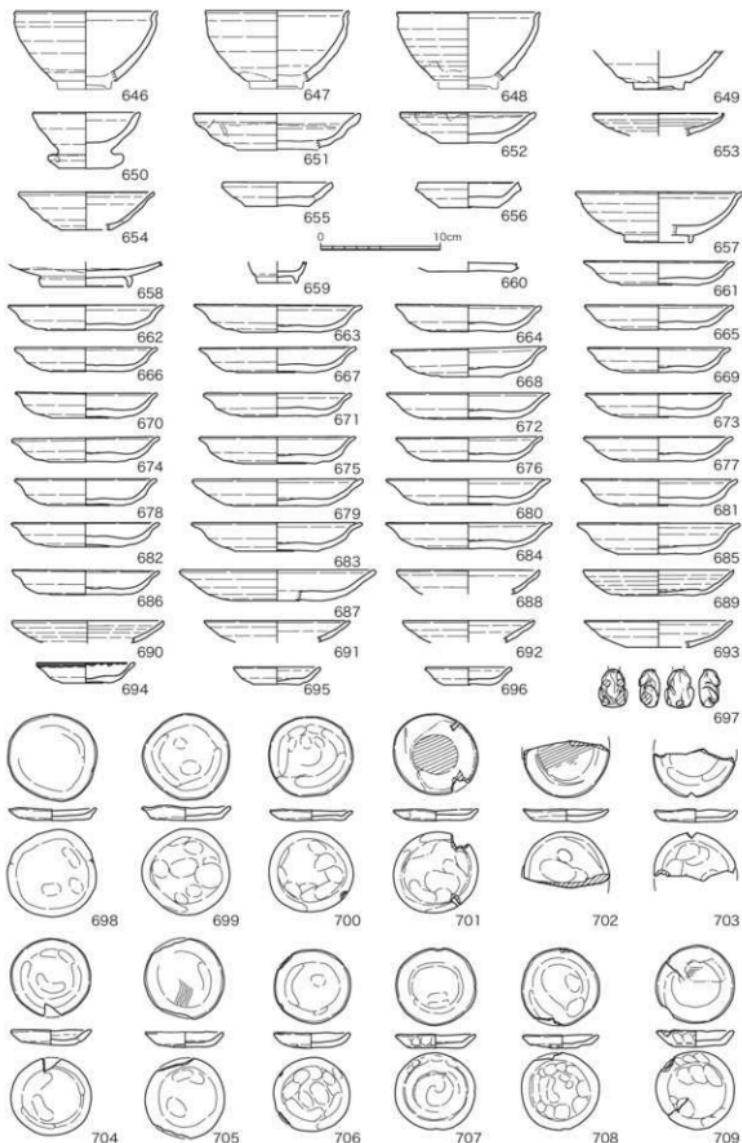
（687）は口径が約16cmで体部が逆ハ字状に開き口縁端部までおおよそ直線的になるものである。ロクロ調整皿3類（688～693）は口径が11～13cmで体部が逆ハ字状に開き口縁端部までおおよそ直線的になるものである。比較的器壁が薄く作られている。ロクロ調整皿4類（694～696）は口径が7～8cmで体部を2段にナデて口縁端部を外反させるものである。外反が弱いもの（695）も存在する。

非ロクロ調整皿1類（698～713）は口径が6.0～7.3cmで内外面ともに口縁端部に横ナデを施して体部を立ち上げさせたものである。底部内面には一方向にナデた痕跡や指頭圧痕が残り、底部外面には指頭圧痕または手掌痕が残存する。非ロクロ調整皿2類（714～743）は口径が6.8～7.6cmで口縁端部に全く横ナデ調整を施さないものである。内面全体に一方向にナデた痕跡が残るものが多く、底部外面には多数の指頭圧痕または手掌痕が残存する。円盤状の粘土板に椀形に加工するための切れ目を入れて繋ぎ合わせた痕跡が残るもの（727など）も認められ、指押さえが口縁端部に沿って円周上に巡る形で施されたものが多い。

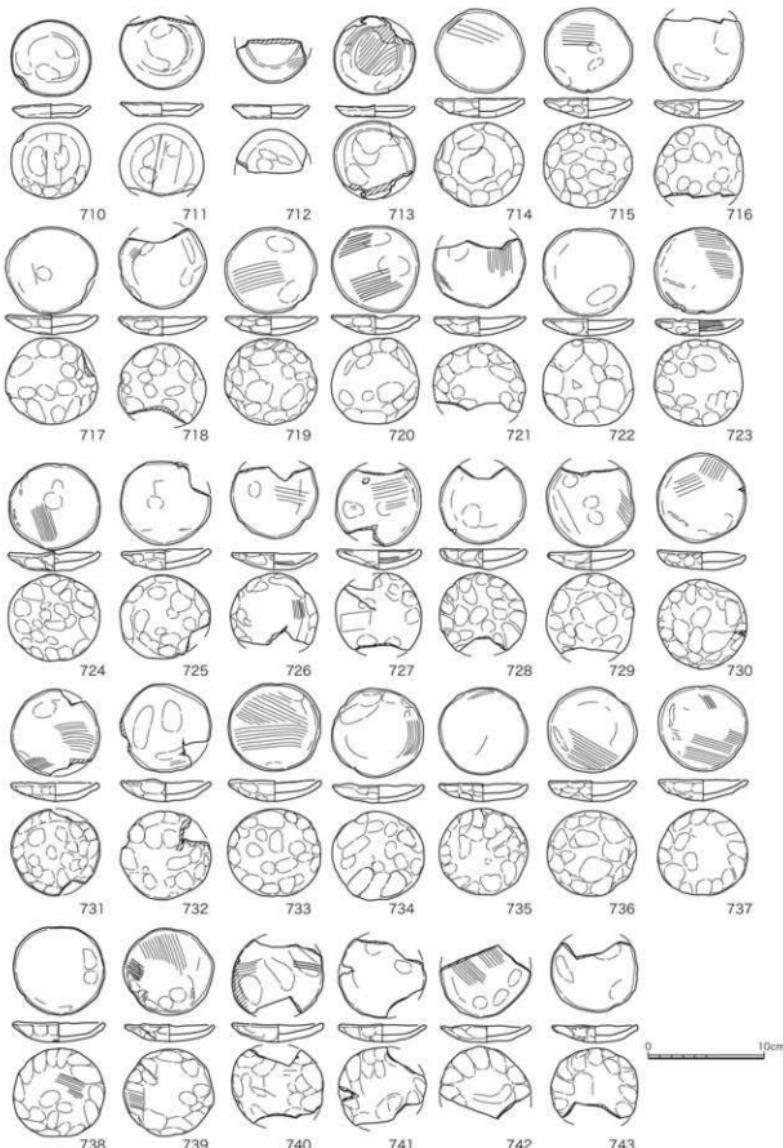
土師器内耳鍋（752～758）は全て半球形内耳鍋であり、体部はやや直立気味に直線的に立ち上がるるものである。口縁端部は方形に作られ、体部外面に1条の沈線が巡っている。この他に土製形代（697）、板材（759）、鉄鎌（760）、砾石（761～764）などがある。697は頸部が欠損する土製形代で座った姿勢が表現されている。尾を持つことなどから動物（猿）を模ったものと思われる。砾石は肌理が細かい石材が使用され薄いものが多いことから仕上げ砥と思われる。

この資料は、古瀬戸後IV期新段階と大窯第1段階の資料が多く存在し、土師器皿の形状などからみて、B-4期（15世紀末～16世紀前葉）に位置づけられる。

名古屋城三の丸遺跡 VII

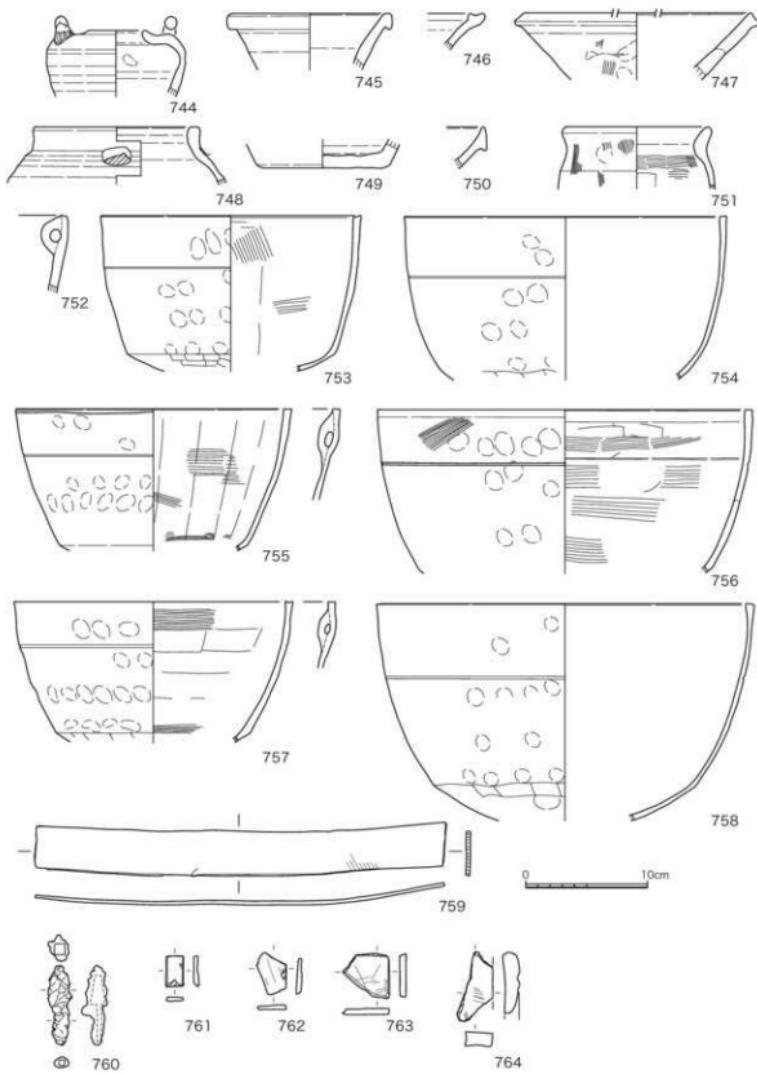


第90図 B期の遺物実測図(7) SK147(I)



第91図 B期の遺物実測図 (8) SK147 (2)

名古屋城三の丸遺跡 VII



第92図 B期の遺物実測図(9) SK147 (3)

第6項 SD39 出土遺物

(第93・94図 765~802)

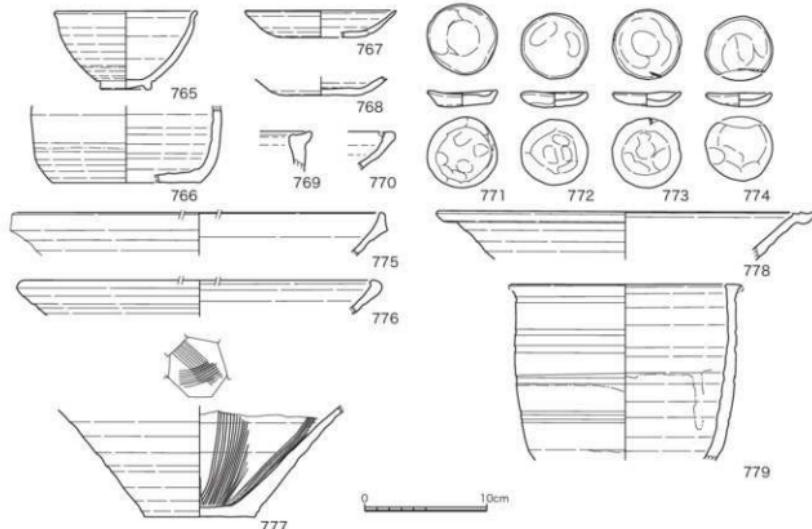
SD39からは瀬戸美濃窯産陶器や土師器などの遺物が807点出土した。このうち半数以上は土師器鍋で全体の約72% (583点) を占める。

瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗(765)、瓶(766)、緒桶(769・779)、擂鉢(770・775~777)、折縁深皿(778)などがある。図示しなかったが灰釉丸皿が最新資料で大窯第2段階に位置づけられ、この他は古瀬戸後IV期から大窯第1段階までに集中する傾向がある。

土師器には皿類と内耳鍋などがある。土師器皿は体部が直線的に逆ハ字状に開くクロコロ調整皿(767・768)と、内外面とも横ナデ調整が施された非ロクロ調整皿(771~774)がある。後者は口径が5.2~5.5cmに分布しSK147出土資料よりも小さい。土師器内耳鍋は全て半球形内耳鍋に属し、その形状から3類に分類できる。内耳鍋1

類(789~799)は体部が緩やかに湾曲し口縁部がやや内傾するもので、器高が高いものである。体部上位(体部と口縁部の境界)外面に浅い沈線が巡るもの(798・799)がある。また、特殊なものとして体部に2ヶ所穿孔されたもの(798)も存在する。内耳鍋2類(788)は体部が緩やかに湾曲し口縁部がやや急に折れ曲がり内傾するものである。内耳鍋3類(801)は体部が緩やかに湾曲し口縁部がやや内傾するもののうち、器高が比較的低いものである。これらの内耳鍋は口縁部外面は横ナデ調整、体部外面は指オサエ調整、底部周縁外面はヘラケズリ調整、内面上半はハケ調整が施される。この他に土師器釜(787)が存在し、口縁部がやや内傾するものである。

この資料は、土師器鍋・釜類は鈴木1996によればI-3期に属すること、大窯第2段階の資料をわずかでも含むことなどから、B-4期(16世紀前半~中頃)の資料と位置づけられる。



第93図 B期の遺物実測図 (10) SD39 (1)

第7項 SD06 出土遺物

(第95図 803~806)

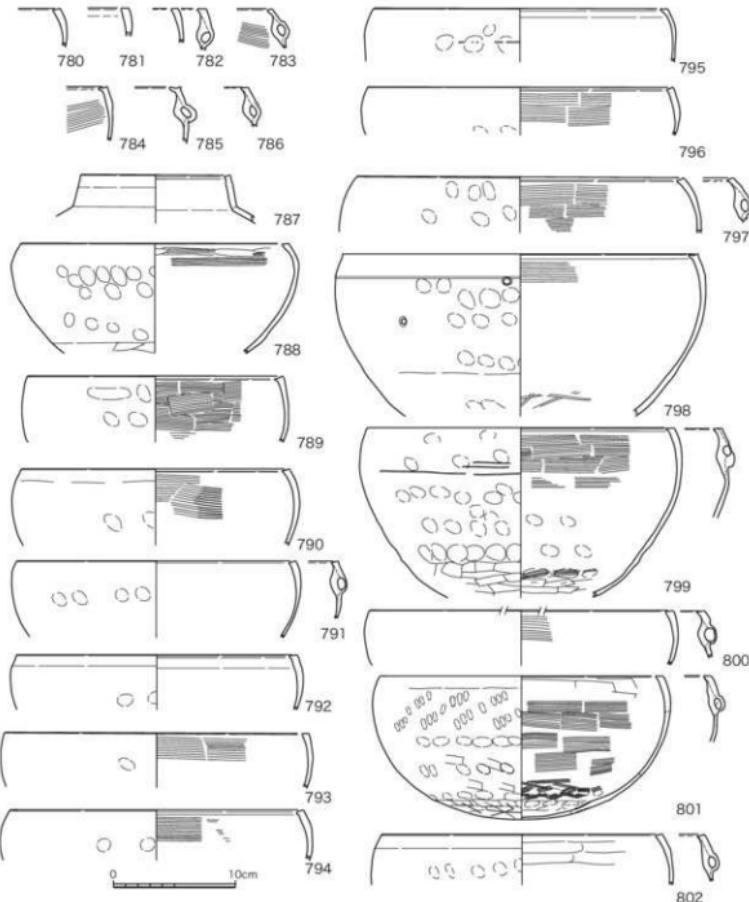
SD06 からは大窯第1段階までの瀬戸美濃窯産陶器や常滑窯産陶器、土師器などが出土した。804は中国龍泉窯系青磁蓮弁紋碗である。



第8項 SD17 出土遺物

(第95図 807~815)

SD17 からは大窯第2段階までの瀬戸美濃窯産陶器や土師器などが出土した。807は中国景德鎮窯系青花碗、808は大窯第2段階に位置づけられる鉄釉稜皿である。814は常滑窯産陶器鉢で焼



第94図 B期の遺物実測図(11) SD39(2)

成が甘い赤物製品で赤羽・中野編年の9型式に属する。

するタイプである。

第9項 SD29 出土遺物

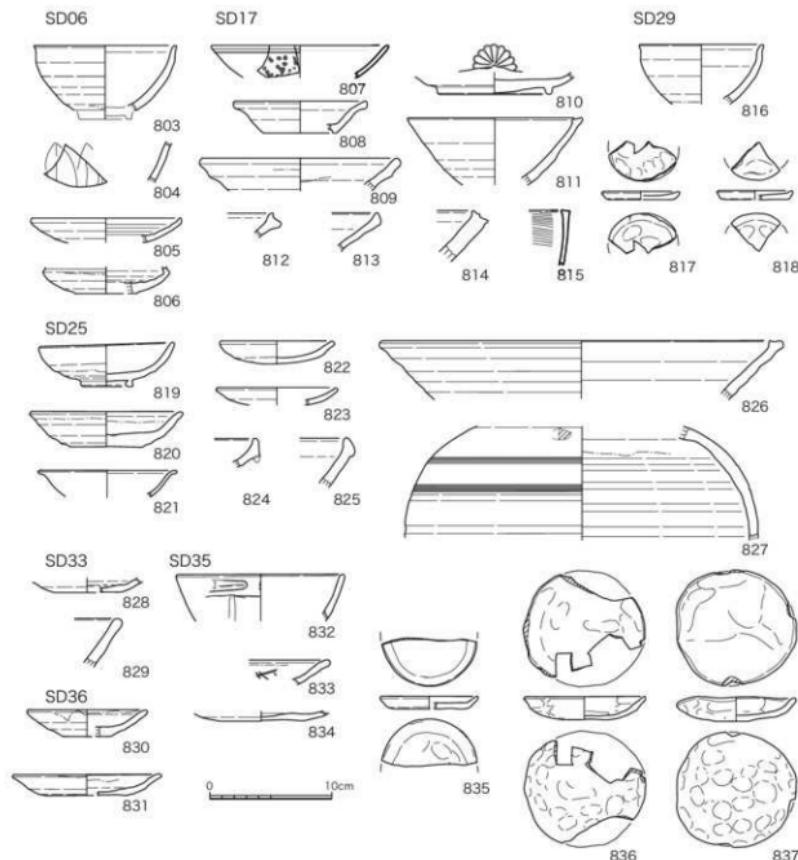
(第95図 816~818)

SD29からは瀬戸美濃窯産陶器天目茶碗(816)や土師器皿などが出土した。817・818は非クロロ調整土師器皿で、口縁部外面のみを横ナゲ調整

第10項 SD25 出土遺物

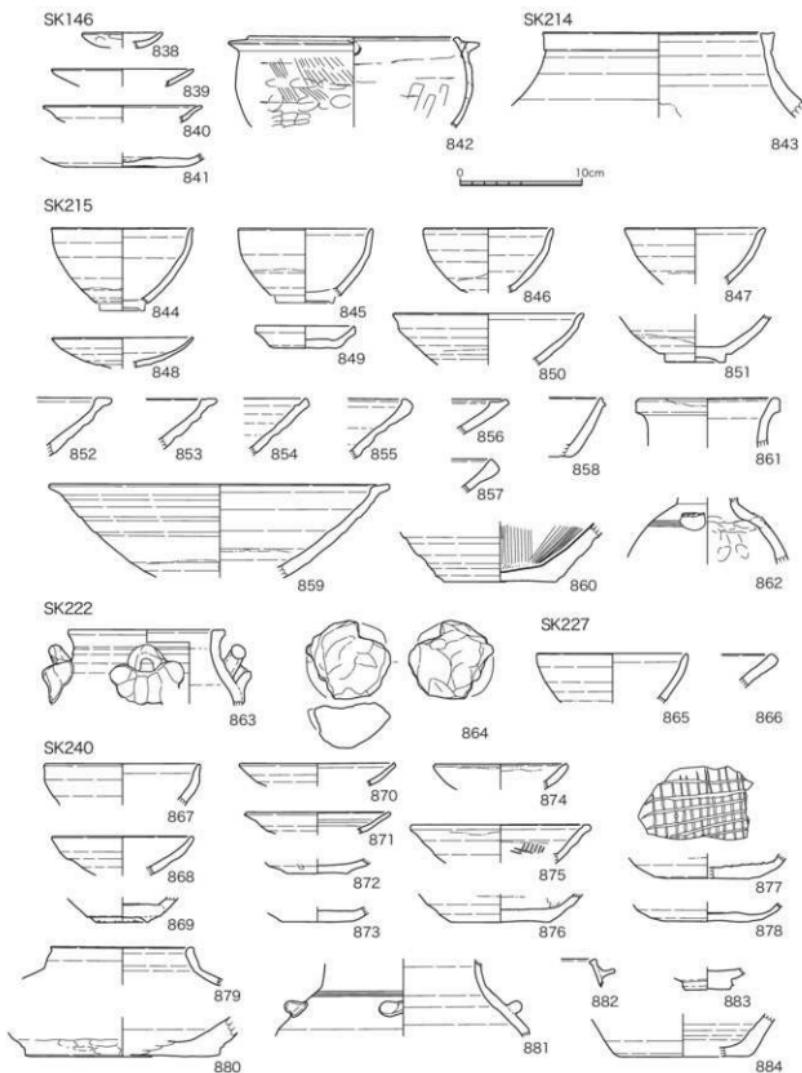
(第95図 819~827)

SD25からは瀬戸美濃窯産陶器や土師器などの遺物が出土した。819はほぼ完形の丸皿で高台は付高台で古瀬戸後IV期新段階に位置づけられる。この遺構における最新資料は大窯第2段階に位

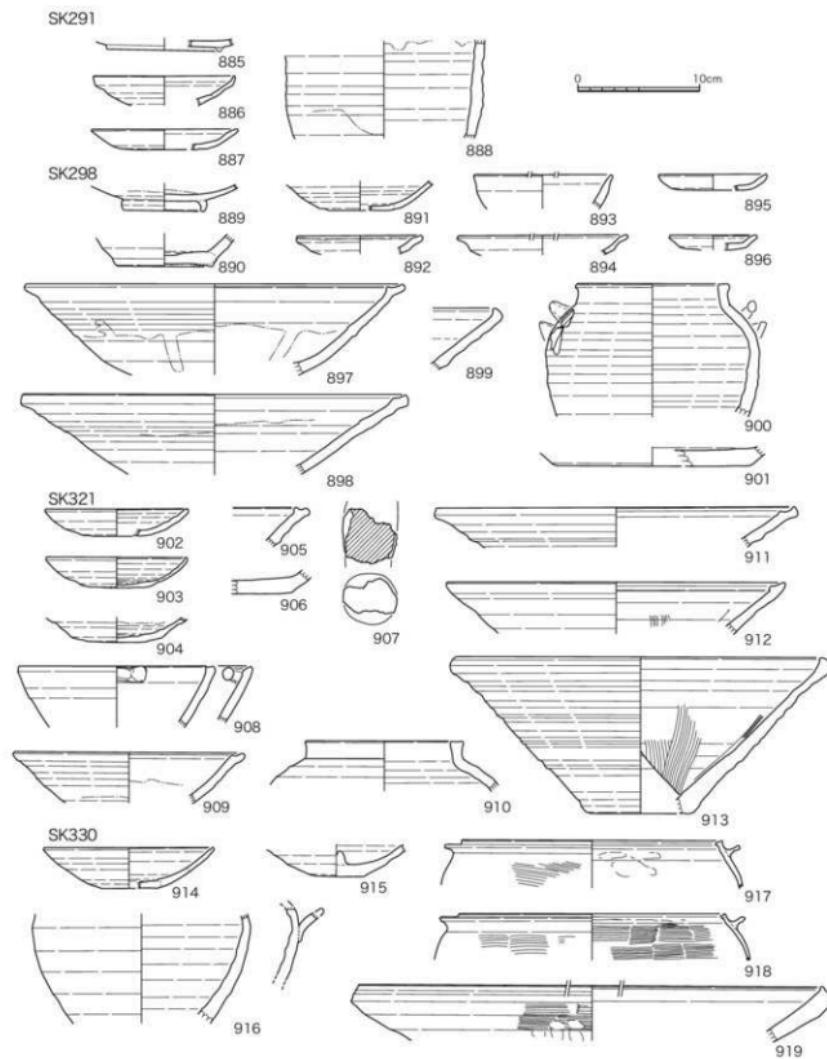


第95図 B期の遺物実測図 (12) 溝出土遺物

名古屋城三の丸遺跡 VII



第96図 B期の遺物実測図(13) 土坑出土遺物(1)



第97図 B期の遺物実測図(14) 土坑出土遺物(2)

名古屋城三の丸遺跡 VII

置づけられる捕鉢（824）である。821は中国産白磁端反皿、822・823は口縁部内外面に横ナデ調整が施された土師器非クロ調整皿である。捕鉢と土師器皿の時期は合わないかもしれない。

第 11 項 SD35 出土遺物

(第 95 図 832 ~ 837)

SD35 からは瀬戸美濃窯産陶器 9 点や土師器 60 点などの遺物が合計 176 点出土した。瀬戸美濃窯産陶器には古瀬戸後 IV 期古段階の縁軸卸皿（833）が存在する。土師器皿はロクロ調整皿（834）と非ロクロ調整皿があり、後者は口縁部内外面に横ナデ調整が施されたもの（835）と横ナデ調整が施されないもの（836・837）がある。836・837 は口径が 9 ~ 10cm を測る大きなものである。この他に中国龍泉窯系青磁碗も出土した。瀬戸美濃窯産陶器と土師器皿の特徴が SK147 より古いことから、B-3 期（15 世紀中頃）と位置づけられよう。

第 12 項 SK146 出土遺物

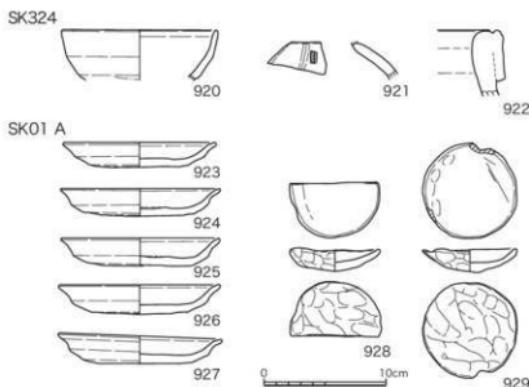
(第 96 図 838 ~ 842)

土師器ロクロ調整皿や土師器内彫型羽釜などの遺物が出土した。842 は焼成前に穿たれた孔が存在する。B-3 期（15 世紀中頃）と位置づけられよう。

第 13 項 SK215 出土遺物

(第 96 図 844 ~ 862)

SK215 からは瀬戸美濃窯産陶器や土師器などの遺物が 122 点出土した。瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗（844 ~ 847）、平碗（850・851）、折縁深皿（852・853・856・859）、捕鉢（854・855・857・860）、洗（858）、四耳壺（861）、水注（862）などがある。858 が古瀬戸前 III 期、862 が古瀬戸中期前半、844 が大窯第 1 段階に位置づけられる他は古瀬戸後 III 期～後 IV 期に属する資料である。B-3 期から B-4 期（15 世紀中頃～16 世紀中頃）の資料と位置づけられる。



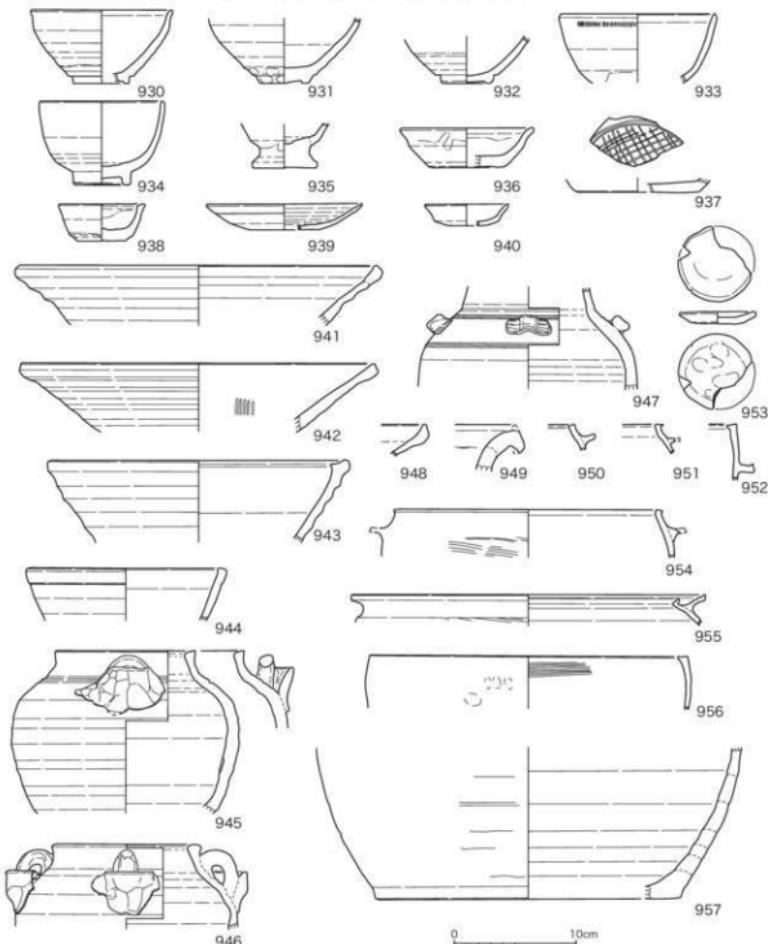
第 98 図 B 期の遺物実測図 (15) 土坑出土遺物 (3)

第14項 SK240 出土遺物

(第96図 867～884)

SK240 からは瀬戸美濃窯産陶器や土師器などの遺物が138点出土した。山茶碗類や灰釉陶器類を多数含んでいる。瀬戸美濃窯産陶器には浅碗(867)、緑釉皿(872・873)、はさみ皿(874)、

鉢皿(875・877)、折縁中皿(876)など多数の器種がある。図示しなかつたが灰釉丸皿が最新資料で大窯第2段階に位置づけられ、この他は古瀬戸後IV期から大窯第1段階までに集中する傾向がある。874が大窯製品である他は、多くは古瀬戸後期に属する。



第99図 B期の遺物実測図(16) 包含層他出土遺物

第 15 項 SK291 出土遺物

(第 97 図 885 ~ 888)

瀬戸美濃窯産陶器有耳壺 (888) や土師器ロクロ調整皿 (887) などの遺物が出土した。887 は口縁部がわずかに外反するもので、比較的新しいものと思われる。B-5 期 (16 世紀中頃以降) の資料と位置づけられる。

第 16 項 SK298 出土遺物

(第 97 図 889 ~ 901)

瀬戸美濃窯産陶器や土師器などの遺物が 179 点出土したが、最も出土量が多いのは須恵器であった。瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗 (893)、縁軸皿 (892)、卸目付大皿 (897・898)、捕鉢 (899)、釜 (888) などが出土した。時期は古瀬戸後 IV 期新段階までの遺物が含まれることから B-3 期 (15 世紀中頃) と位置づけられよう。

第 17 項 SK321 出土遺物

(第 97 図 902 ~ 913)

瀬戸美濃窯産陶器などの遺物が 69 点出土した。902 ~ 904 は東濃型山茶碗、908 は瀬戸美濃窯産陶器内耳鍋、909 は卸目付大皿、910 は釜である。陶器類は大窓段階に下るものは存在せず、B-3 期 (15 世紀中頃) と位置づけられよう。

第 18 項 SK330 出土遺物

(第 97 図 914 ~ 919)

瀬戸美濃窯産陶器や土師器などの遺物が 140 点出土したが、最も出土量が多い種別は須恵器である。瀬戸美濃窯産陶器には蓋 (915)、釜 (916) があり、古瀬戸後 IV 期に属する。土師器には内堀型羽釜 (917・918) があり、北村分類 A4 類に相当する。以上の所見から B-3 期 (15 世紀中頃) と位置づけられよう。

第 19 項 SK01 A 出土遺物

(第 98 図 923 ~ 929)

SK01 A からは近世に属する遺物の他に多くの土師器皿などの遺物が出土した。土師器皿には口縁部が外反するロクロ調整皿 (923 ~ 927) と口縁部に横ナデ調整が施されない非ロクロ調整皿 (928・929) が存在する。土師器の様相は SK147 と類似していることから、本来は SK147 に属する遺物が SK01 の開削により多量に混入したものと考えられる。

第 20 項 包含層出土遺物 (第 86・99 図 521

~ 560・930 ~ 957)

今回の調査で B 期に属する遺物の多くは遺構に伴うものであるが、C 期以降の遺構や包含層から出土した資料も多数存在する。これらは本来同時期の遺構や包含層にされていたものと推察されるが、C 期以降の度重なる開発や擾乱により移動してしまったものと思われる。このうちの一剖を紹介しておきたい。

933 は大窓第 1 段階に属する灰釉丸碗、937 は内面に灰釉がかかる卸皿で古瀬戸前 II 期に属する。瀬戸美濃窯産陶器の煮炊具には内耳鍋 (943) と釜 (945・946) がある。950 ~ 956 は土師器で 955 は口縁部が鶴部より下位に位置する内堀型羽釜で 15 世紀後半から 16 世紀に属するものである。957 は産地不明陶器の壺底部である。灰釉陶器類の可能性も考えられる。

第4節 C期の遺物

C期はおよそ江戸時代（17世紀～19世紀中頃）を通じた段階である。遺物には瀬戸美濃窯産陶磁器・肥前窯産陶磁器・土師器などの焼物類の他、木製品や石製品や金属製品など多様な種類の製品がある。ここでは主要な遺構出土資料を中心に記述するが、瓦類については記述の都合上別途項目を設けて報告したい。

第1項 SK185 出土遺物

(第100～101図958～1010)

SK185からは瀬戸美濃窯産陶器を中心に219点が出土した。この中には一部古い時期に属する遺物が混入しており、瓦類は10点が出土した。

瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗（958・959）、丸碗（960～967・969～971・973）、端反碗（968・972）、小杯（976・977）、志野丸皿（978～986）、蓋（990）、黄瀬戸鉢（996・998）、志野折縁鉢（997）、捕鉢（999）、茶入（1000）などがある。丸碗は口縁部に灰釉を流し掛けた鉄釉丸碗（961～966）が非常に多い。灰釉丸皿（987）と有耳壺（1005）は大窯段階に属する他は、大半が連房式登窯第1小期～第2小期に属する。961のみが登窯第3小期に属しこの資料群の最新資料と位置づけられる。この他には常滑窯産陶器の赤物製品（1001・1002・1006・1007）や土師器皿、焙烙、焼塩壺、中国産青花小杯・大皿などがある。土師器皿（988・989）は口縁部が内凹する器壁が比較的厚いものである。土師器焙烙（991～993）は体部が緩やかに彎曲しながら口縁部が逆ハ字状に聞く古いタイプのものである。土師器焼塩壺は蓋と身ともに手づくね成形である。青花は974が景德鎮窯系の他は漳州窯系の製品（975・1003・1004）である。これらはC-1期に属する資料で17世紀第2四半期に位置づけられる。

第2項 SK156 出土遺物

(第102図1011～1044)

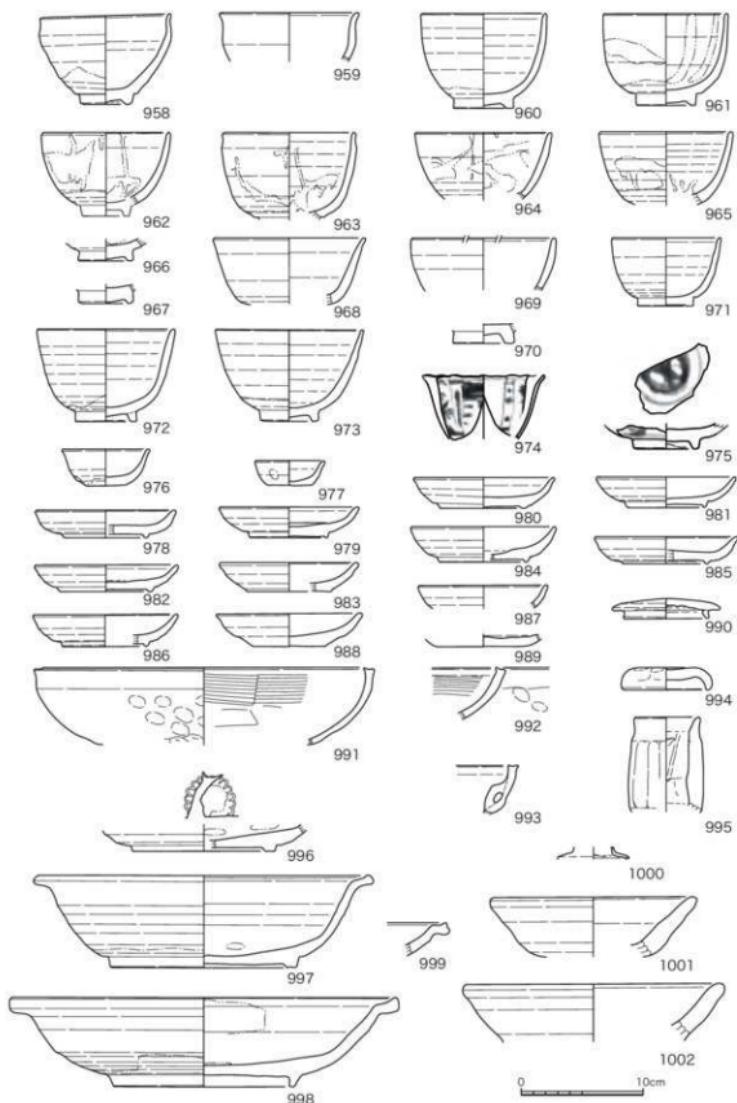
SK156からは瀬戸美濃窯産陶器75点を中心とする235点が出土した。近世に属する土師器は確認されなかった。瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗（1011・1012）、丸碗（1013）、小碗（1014）、志野丸皿（1018～1023）、反り皿（1024・1026）、折縁皿（1029）、志野大皿（1031）、捕鉢（1032・1033）、香炉（1039）、笠原鉢（1040・1041）などがある。大半が連房式登窯第1小期～第4小期に属する。1032のみが登窯第5小期に属しこの資料群の最新資料と位置づけられる。1030は白濁した灰釉が施された陶器蓋で、摘みは手づくね成形であるが、底部には回転糸切り痕が残存する。褐色の胎土を持つもので瀬戸窯または美濃窯の製品とはいえない。おそらく尾張国あるいはその周辺で生産された特産品である可能性が考えられる資料である。1015・1016・1037・1038・1042・1043など古瀬戸後期の製品も含まれているが、全体としてはC-2期に属する資料で17世紀第4四半期に位置づけられる。

第3項 SD12 出土遺物

(第103図1052～1086)

SD12からは瀬戸美濃窯産陶器や肥前窯産磁器、土師器など791点が出土した。このうち瓦類が557点を占めている（後述）。瀬戸美濃窯産陶器には筒形碗（1052）、丸碗（1053）、志野丸皿（1059～1061）、反り皿（1057・1062）、瓶類（1070・1071）、釜（1072）、土瓶（1073）、火鉢（1075）、志野鉄絵鉢（1076・1077）、笠原鉢（1078）などがある。これらは連房式登窯第1小期～第4小期に属するものが多いが、1072・1073・1075などは江戸時代後期に属する資料と考えられる。肥前窯産磁器には染付丸碗（1054・

名古屋城三の丸遺跡 VII



第100図 C期の遺物実測図 (1) SK185 (1)

1055)などがある。土師器には皿、焰壺、釜、焼塙壺が存在する。土師器皿は口縁部が内側するロクロ調整皿(1068・1069)と口径が約3.5～4.2cmを測る横ナデ調整を施さない非ロクロ調整皿(1063～1067)がある。土師器釜(1079)は体部と口縁部の境界部の屈曲が緩くなつたもので、やや内傾気味に直立する口縁部は比較的長い。17世紀か。土師器焰壺は口縁部が内傾するタイプで18世紀のものかもしれない。土師器焼塙壺はロクロ調整による蓋(1082)と手づくね成形による身(1083)があり、前者の上面には「イツミ 花 ツタ」の刻印が残存す。

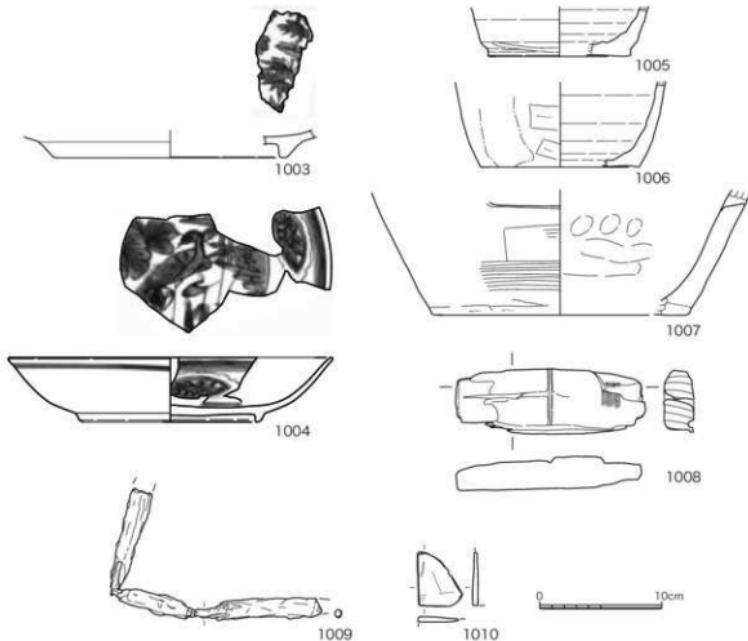
資料の多くはC-2期に属する資料で17世紀第4四半期に位置づけられるが、最終的に遺構が埋没した年代を示す資料としてはC-4期(19世紀

初頭)に属する一群が存在する。

第4項 SD14出土遺物

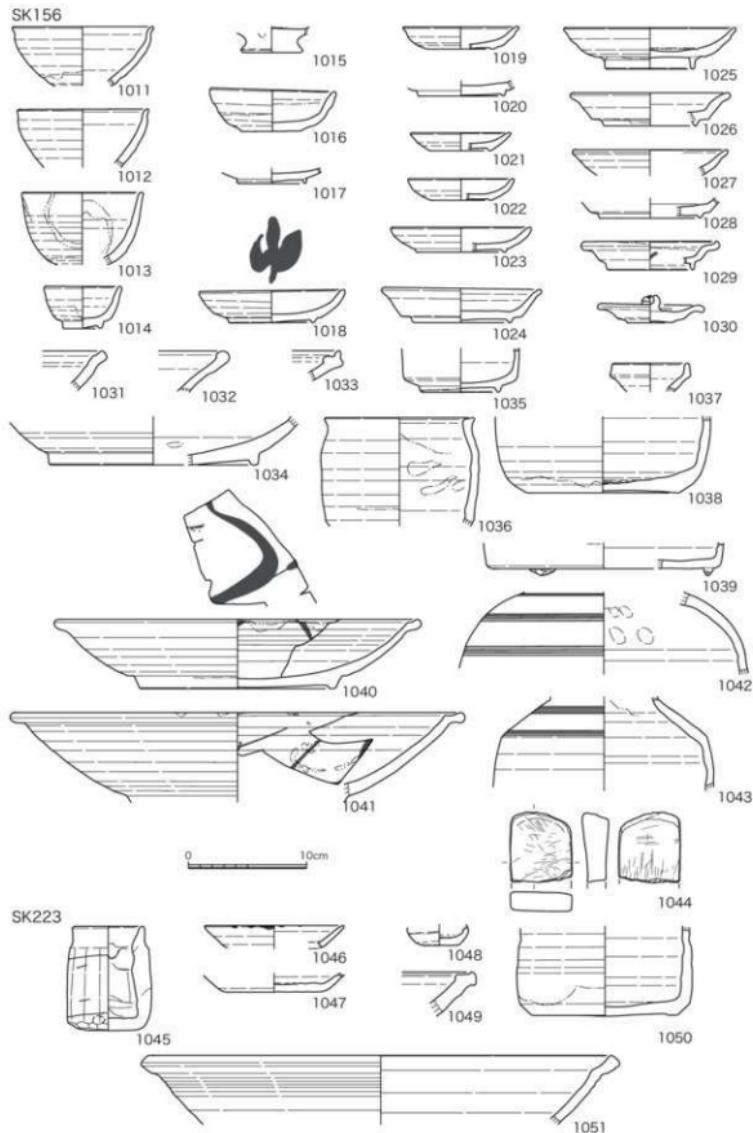
(第104図 1087～1106)

SD14から瀬戸美濃窯産陶器74点や瓦類121点を中心に370点が出土した。瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗(1088)、丸碗(1087・1089)、小碗(1090)、志野丸皿(1092)、輪禿げ皿(1093・1094・1097)、反り皿(1096)、志野鉄絵皿(1098)、志野鉄絵鉢(1099)、笠原鉢(1100)、捕鉢(1103・1104)などがある。大半が登房式登窯第1小期～第3小期に属し、一部に登窯第4小期に属する可能性があるものがある。肥前窯産磁器には染付香炉(1091)などが、土師器には皿と焼塙壺身などがある。土師器皿に



第101図 C期の遺物実測図(2) SK185(2)

名古屋城三の丸遺跡 VII



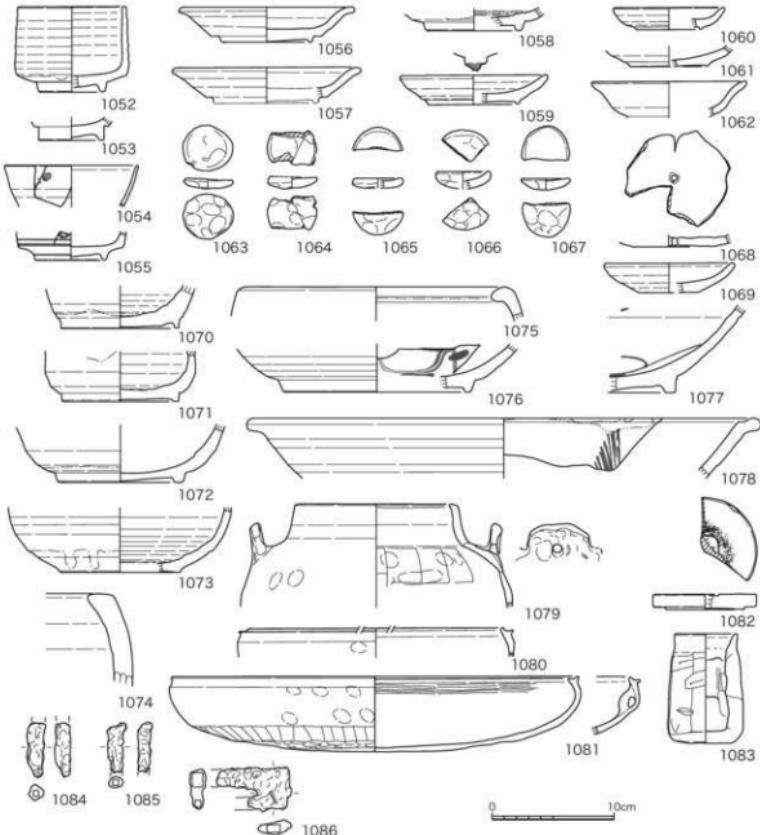
第102図 C期の遺物実測図 (3) SK156・SK223

は、横ナデ調整を施さない非ロクロ調整皿(1101)の他に、瀬戸美濃窯産陶器反り皿の形状に類似したロクロ調整皿(1095)がある。1095は素焼き(無釉)で口縁部が玉線状に作られており、形状から見て速戸式登窯第3または4小期のものを模倣したものと考えられる。1105は椀型鉄滓、1106は用途不明の板状鉄製品である。これらの資料群はC-2期に属する資料で17世紀第3または4四半期に位置づけられる。

第5項 SK163出土遺物

(第105図 1107~1143)

SK162はSK163の陥没部分の堆積であったが、ここではSK162とSK163を合わせてその出土遺物をSK163出土遺物として報告する。SK163からは616点の遺物が出土した。瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗(1107・1108)、丸碗(1109~1111)、志野丸皿(1118)、反り皿(1117)、蓋(1134)、鉢類(1135~1137)、黄瀬戸鉢(1138)、



第103図 C期の遺物実測図(4) SD12

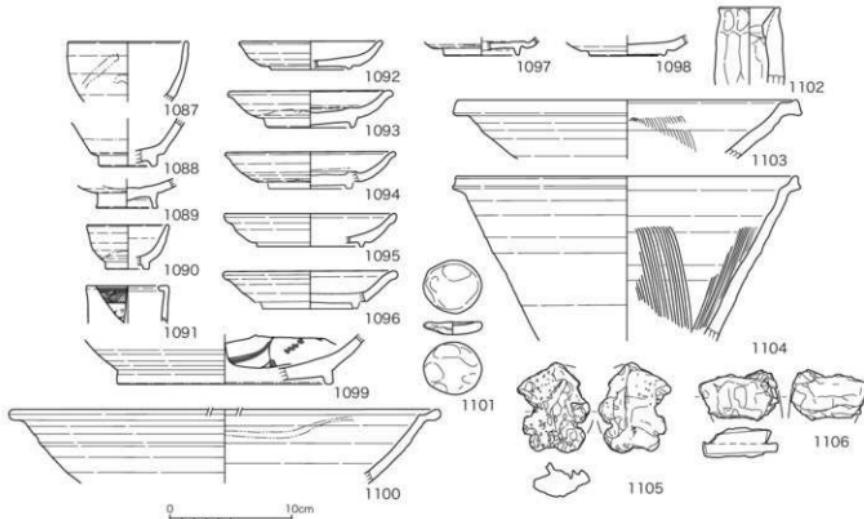
笠原鉢（1139）、擂鉢（1140・1141）などがある。多くが連房式登窯第1小期～第4小期に属する。肥前窯産陶磁器には染付丸碗（1115～1116）、陶器鉄絵丸碗（1112）が、中国産磁器には白磁小杯（1113・1114）などがある。土師器には皿や焼塙壺、鍋類などがある。土師器皿は破片数で284点が出土しており、次の5類に分類できる。1類は口径が10.5cm前後で体部から口縁部にかけて丸みを持つもの（1119・1120）、2類は口径が10.5cm前後で体部が直線的に開き口縁部がわずかに外折するもの（1121）、3類は口径が8cm前後で体部から口縁部にかけて丸みを持つもの（1122～1124）、4類は口径が13cm前後で体部がやや急に立ち上がり深いもの（1125）、5類は口径が13cm前後で体部が直線的に開き口縁部がわずかに外折するもの（1126・1127）である。焼塙壺は手づくね調整の製品ばかりである。内耳鍋は口縁部が内擣する半球形内耳鍋であるが、詳細な時期は特定できない。1142は高台

が低いタイプの木胎漆器椀で外面に草花紋が描かれている。

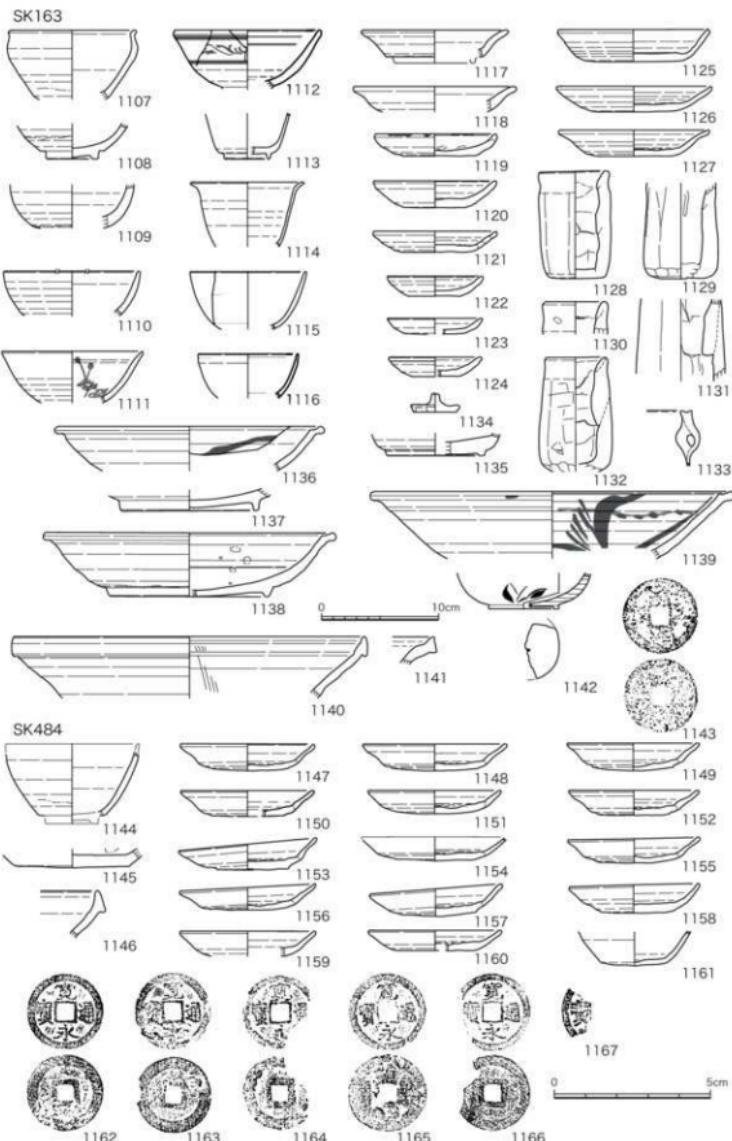
第6項 SK484 出土遺物

（第105図 1144～1167）

SK484からは土師器皿768点を中心とする885点が出土した。江戸時代に属する陶磁器類はわずかしか存在しなかった。瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗（1144）、折線中皿（1145）、擂鉢（1146）などがあり、1144が連房式登窯第1小期～第2小期に属するものである。土師器皿は形状を確認できるものは全てロクロ調整であり、4類に区分できる。1類は口径が11～12cmで体部が直線的に開き口縁部がわずかに外折するもの（1147～1157・1159）であり、大半の土師器皿はこのタイプであった。2類は口径が11～12cmで口縁部がやや内擣するもの（1158）、3類は口径が11～12cmで体部が直線的に開き器高が低いもの（1160）、4類は口縁部が残存しないが器高



第104図 C期の遺物実測図(5) SD14



第105図 C期の遺物実測図(6) SK163・SK484

名古屋城三の丸遺跡 VII

SK40



1168



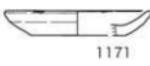
1169



SK49



1170



1171



1172

10cm

1174



1175

SK90



1176



1177

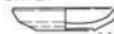


1178



1179

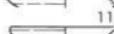
SK127



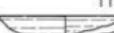
1180



1184



1181



1182



1183



1186

SK202



1187

SK224



1188

SK270



1189

SK296



1190



1191

SK454



1193

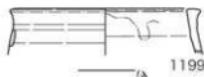
SD22



1196



1198



1199

SD21



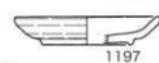
1194

1195

1197



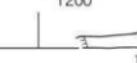
1195



1197

1198

1199



1200



1201

第 106 図 C 期の遺物実測図 (7) 土坑・溝出土遺物 (1)

が高いもの（1161）である。土師器皿は破片数では多いが、多くは小破片であり実際には30～40個体が存在したに過ぎないと思われる。錢貨は古寛永通宝で全部で6点が確認された。二次的に被熱されたためか脆く小破片に割れている。SK484は遺構としては墓坑としての形状を呈していなかったが、6枚の錢貨と土師器皿の組み合わせからみて、墓またはその他の宗教的な施設の可能性も考慮される。土師器皿の形状と寛永通宝の存在からみて、C-2期に属する資料で17世紀第3四半期に位置づけられる。

第7項 SK94 出土遺物

（第107～109図1202～1295）

SK94からは瀬戸美濃窯産陶器92点、肥前窯産磁器94点、瓦251点などを中心に873点が出土した。多様な産地の製品が含まれている点が特徴となっている。

瀬戸美濃窯産陶器には御室茶碗（1223）、型打菊皿（1240）、蓋（1249・1250）、汁次（1277）、鍋（1280）、双耳小壺（1281・1282）、御深井大皿（1283）、美濃伊賀水指（1284）、黄瀬戸大皿（1286）、こね鉢（1287）、土瓶（1288）、桶鉢（1289～1293）などがある。碗や皿などの供膳具が非常に少なくやや大型の製品が占める割合が高い点が特色である。連房式登窯第8小期に属するもの（1280・1288・1291・1293など）まで存在する。

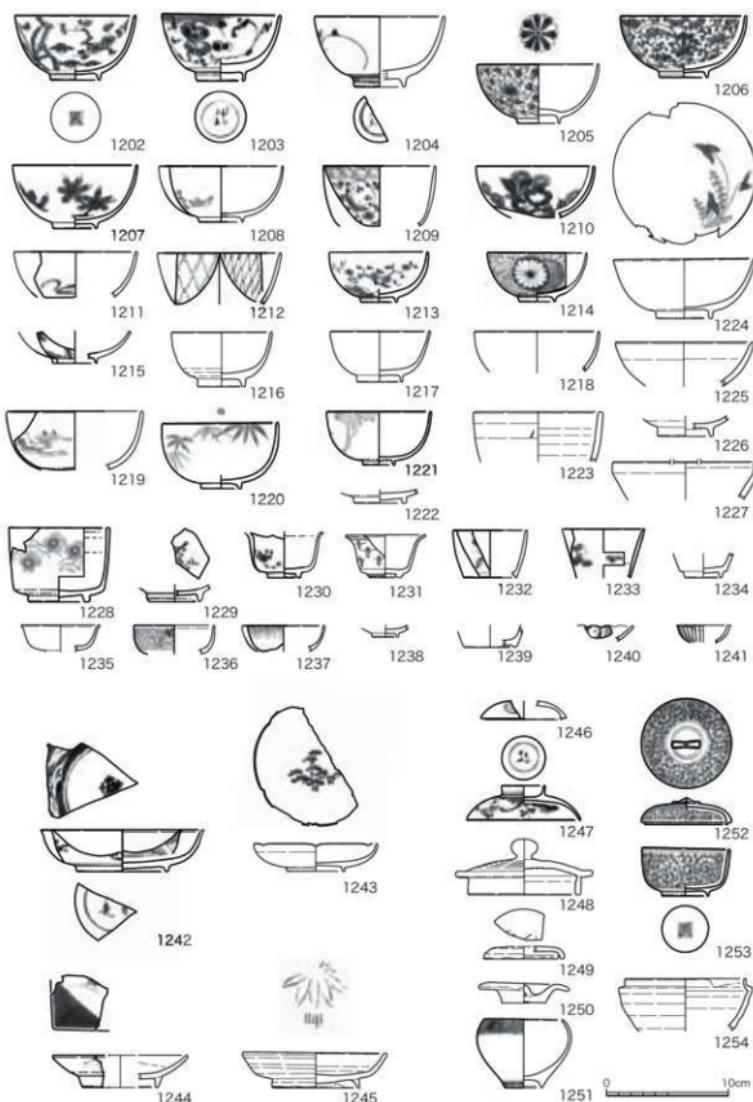
一方、肥前窯産磁器には染付丸碗（1202～1215）、白磁小碗（1216・1217）、染付小杯（1230～1233）、白磁小杯（1234・1238・1239）、染付仏飯具（1236・1237）、白磁紅皿（1241）、染付皿（1242・1244）、染付蓋（1246・1247）、染付無頭壺（1251）、染付合子（1252・1253）などがある。大半は肥前窯磁器編年のIII期からIV期に位置づけられ、概ね17世紀末から18世紀前半に属する。全体に法量が小さく薄手の有田窯の

製品であり、波佐見窯の製品（1203・1204）もわずかに認められる。

陶磁器類にはこの他に、肥前陶器京焼風丸碗（1219）、刷毛目丸碗（1224）、京焼風蓋物（1228）、京焼陶器丸碗（1221）、信楽窯産陶器丸碗（1220）、京・信楽系陶器丸碗（1222）、輪花皿（1243）、中国産天目茶碗（1227）、青花碗（1229）などがある。いずれも繊細な作風の製品が多い点が特色となっている。

土師器には皿と焰烙が存在する。土師器皿は大きく、ロクロ調整で胎土が橙色を呈するAタイプと非ロクロ調整で胎土が灰白色になるBタイプの2種に分けられる。大多数の皿はAタイプに属しており、これらは法量によって1類（口径が17cm前後：1255・1256）、2類（口径が12.5cm前後：1257～1259）、3類（口径が11cm前後：1260～1264）、4類（口径が10cm前後：1265～1267）、5類（口径が8.5cm前後：1268～1271）、6類（口径が6.2cm前後：1272～1274）の6類に細分される。いずれも体部が逆ハ字状に直線的に開くものである。一方、Bタイプは非常に少なく2点のみが確認された。1275は内面に「寿」字が陽刻状に型打ちされた皿で、口縁部はやや内彎する。1276は口縁部のみ残存する大皿状の製品で口縁部は強く内彎している。

全体としては、肥前窯産陶磁器や京焼製品などの資料はC-2期からC-3期前半に属する年代が与えられ、一方瀬戸美濃窯産陶器ではC-3期後半に位置づけられる資料が多い。前者は破損の度合いが低いことなどから見て、17世紀末から18世紀前半に属する供膳具を中心とした遺物がC-3期後半（18世紀第4四半期）頃に廃棄されたものと考えられる。



第107図 C期の遺物実測図 (8) SK94 (1)

第8項 SK01 出土遺物（第110～120図
1296～1512）

SK01は巨大な廃棄土坑で、下位でSK01AとSK01Bに区分された。遺物の取り上げは上位ではSK01一括で行い、途中からAとBに区分した。しかし、状況からみてSK01とした遺物の大半はSK01Bに属するものと考えられ、ここではSK01とSK01Bで出土した資料をSK01として一括して報告することとした。

SK01から出土した遺物は13173点と遺構一括出土資料としては最も多い。このうち瓦類（5213点）、木製品・木材片（7048点）などが含まれている。

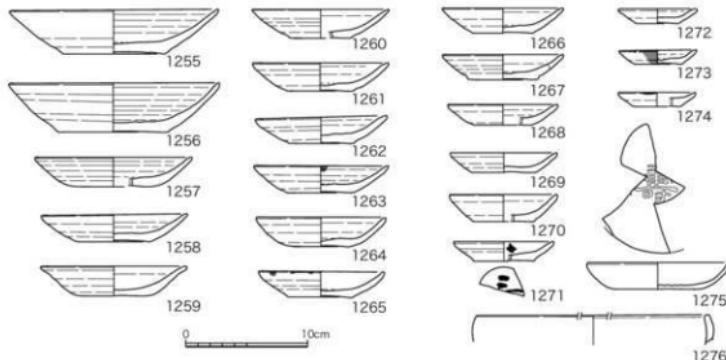
瀬戸美濃窯産陶器には天目茶碗（1296～1298）、尾呂茶碗（1299～1300）、端反碗（1301）、腰鉗茶碗（1302～1304）、御室茶碗（1305・1400）、丸碗（1306～1309）、染付丸碗（1315）、志野丸皿（1337～1340）、型打皿（1345）、御深井鉢（1349）、織部向付（1351・1352）、笠原鉢（1353～1355）、壺（1358）、香炉（1359）、捕鉢（1361～1363）、練り鉢（1364）、などがある。これらは連房式登窯第1小期から第8小期に至る各段階の遺物が存在している。

一方、肥前窯産陶器には灰釉丸碗（1311～1314・1316～1320・1322・1323）、染付丸碗（1324）、白磁丸碗（1325・1326）、染付小杯（1329～1332・1334・1335）、白磁小杯（1333）、染付皿（1347・1348）、青磁大皿（1365・1378）、三島手大皿（1373）、白磁鉢（1377）などがある。大半は肥前窯器編年のⅢ期からⅣ期に位置づけられ、概ね17世紀末から18世紀前半に属する。

この他の陶器類には京焼系の軟質施釉陶器碗（1321）や中国漳州窯系青花大皿（1372）、備前窯産陶器小瓶（1375）、常滑窯産陶器赤物皿（1392～1395）、赤物火鉢（1396・1397）などがある。一方、土師器にはロクロ調整皿、半球形内耳鉢（1385・1386）、焼塙蓋（1387）と身（1388～1390）などがある。ロクロ調整皿は橙色の胎土を持つものでSK94出土資料と類似する。法量は口径が16cm前後のもの（1381～1384）と11cm前後のもの（1379・1380）に区分できそうである。

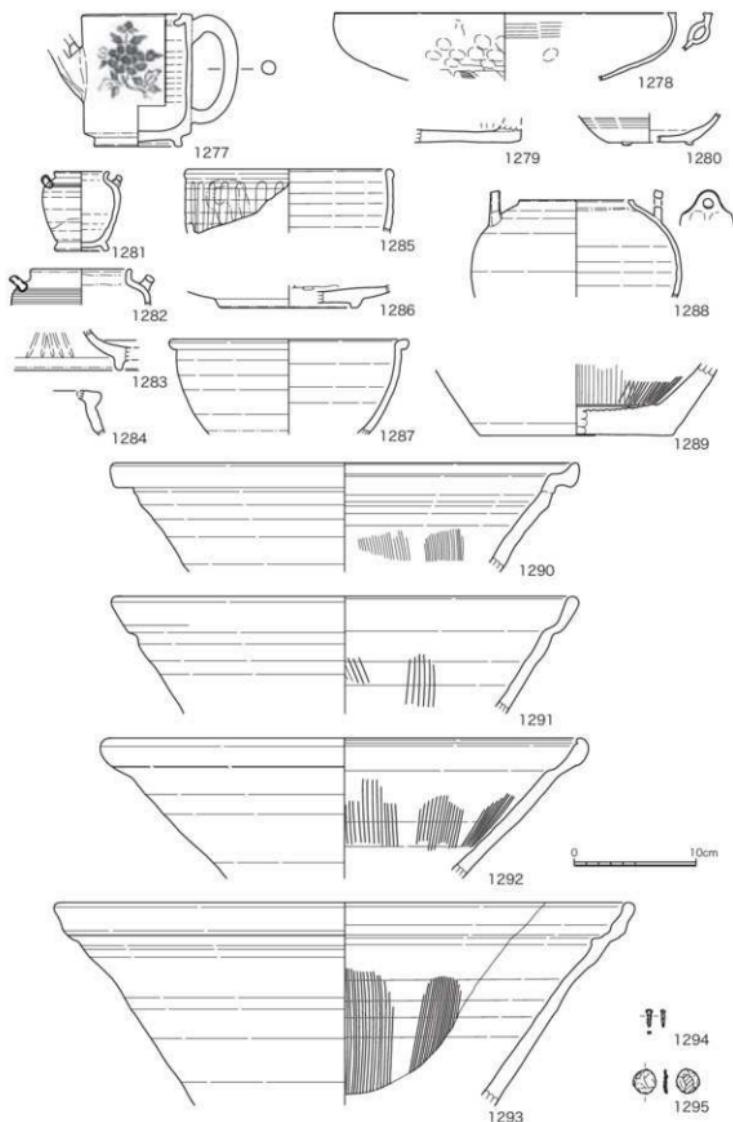
金属製品には銅製品の錢貨（1401）、鉄製品釘（1402～1405）などの他に、弧状に彎曲した棒状鉛製品（1407）も存在する。

SK01からは木製品および木片が大量に出土し



第108図 C期の遺物実測図(9) SK94(2)

名古屋城三の丸遺跡 VII

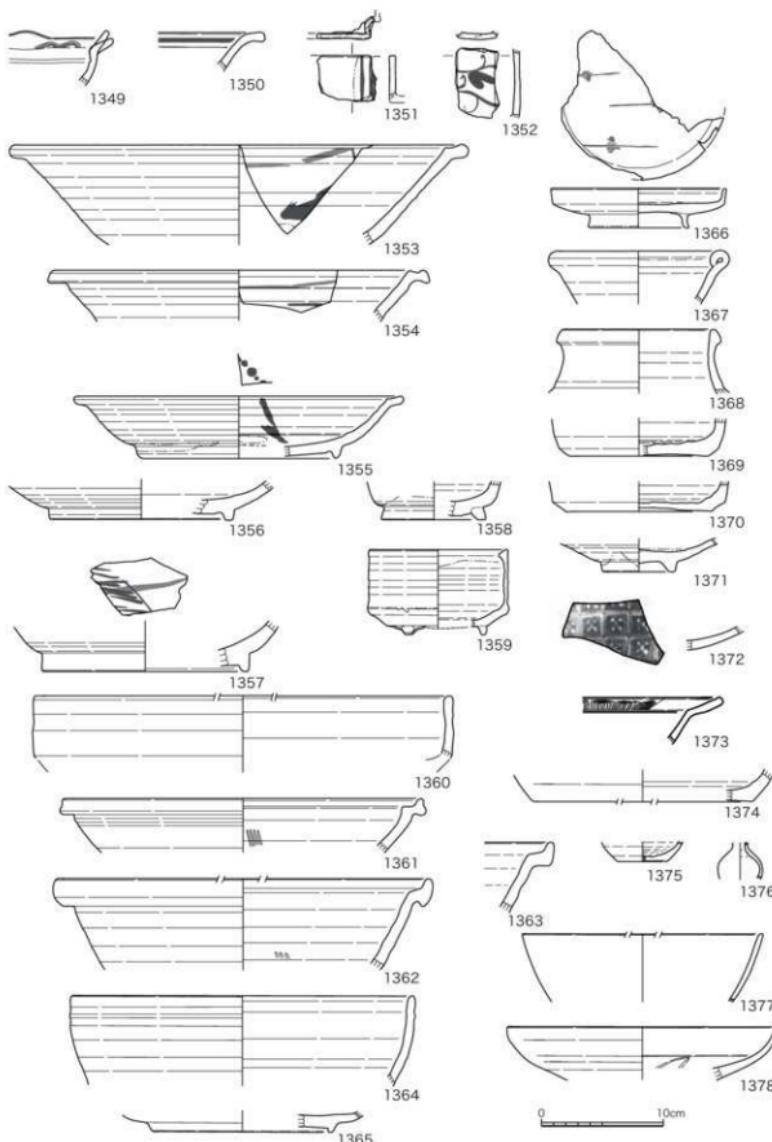


第109図 C期の遺物実測図 (10) SK94 (3)



第110図 C期の遺物実測図(11) SK01 (1)

名古屋城三の丸遺跡 VII



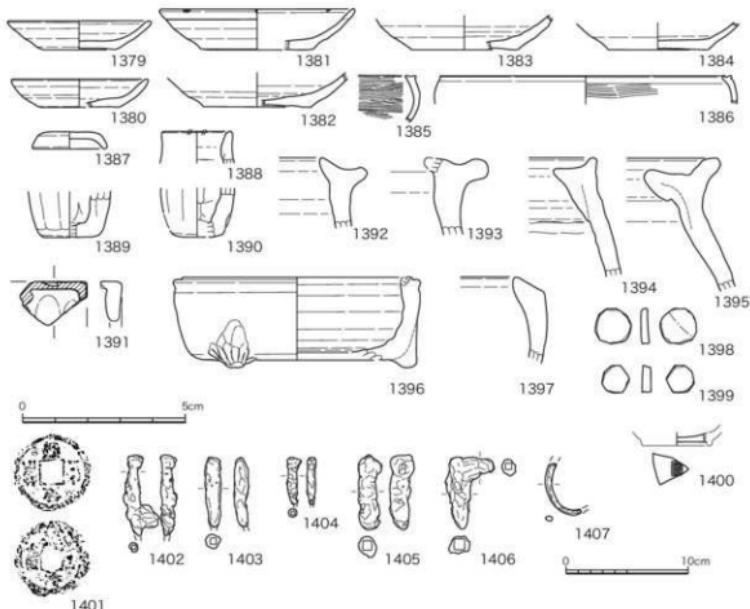
第111図 C期の遺物実測図 (12) SK01 (2)

ている。木製品およびその部材としては楔(1408～1421)、結桶底板(1422・1423)、結桶側板(1424)が存在する。楔は横断面形が正方形に近い角材の一端を斜めに削り取ったもの(1408～1417・1419・1420)と横断面形が長方形の板材の一端を斜めに削り取ったもの(1418・1421)に区分できる。この他には用途を特定できない加工された板材や角材(建築部材片)と、木材加工の過程で産出された端切れ材などが大量に認められる。後者の端切れ材にはチョウナやノミなどで削り取られた木片(1425～1427)と台カンナ屑(1428・1429)がある。また、特別なものとして植物質の纖維を編んだ組状のもの(1501・1502)も認められる。

建築部材片は大きく角材系と板材系に大別で

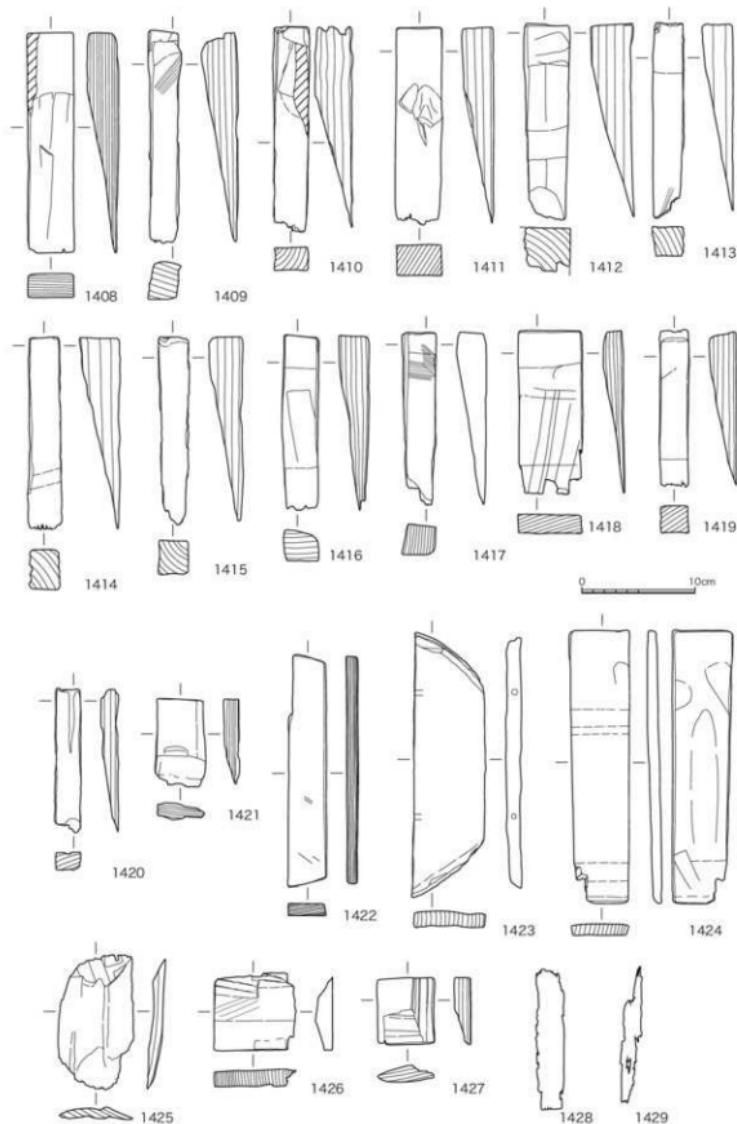
き、形状から細分できる。角材系1類は1～数ヶ所に穿孔が認められるもの(1436・1442・1444・1447・1453)である。多くは平面形が長方形の孔が設けられている。角材系2類は一方の先端を尖らせた杭状のもの(1439)、角材系3類は一方の先端を斜めに削り取った楔状のもの(1441・1453)、角材系4類は両端の先端にほど加工が施されたもの(1431)、角材系5類は鉄釘が打ち込まれたもの(1455)である。この他の特別な特色がない角材を角材系6類として一括しておく。これらの角材系建築部材片の多くは表面にノコギリ痕が残存している。また、例外としてL字状の角材に孔が設けられたもの(1499)も存在する。

一方、板材系建築部材片は4類に分類できる。

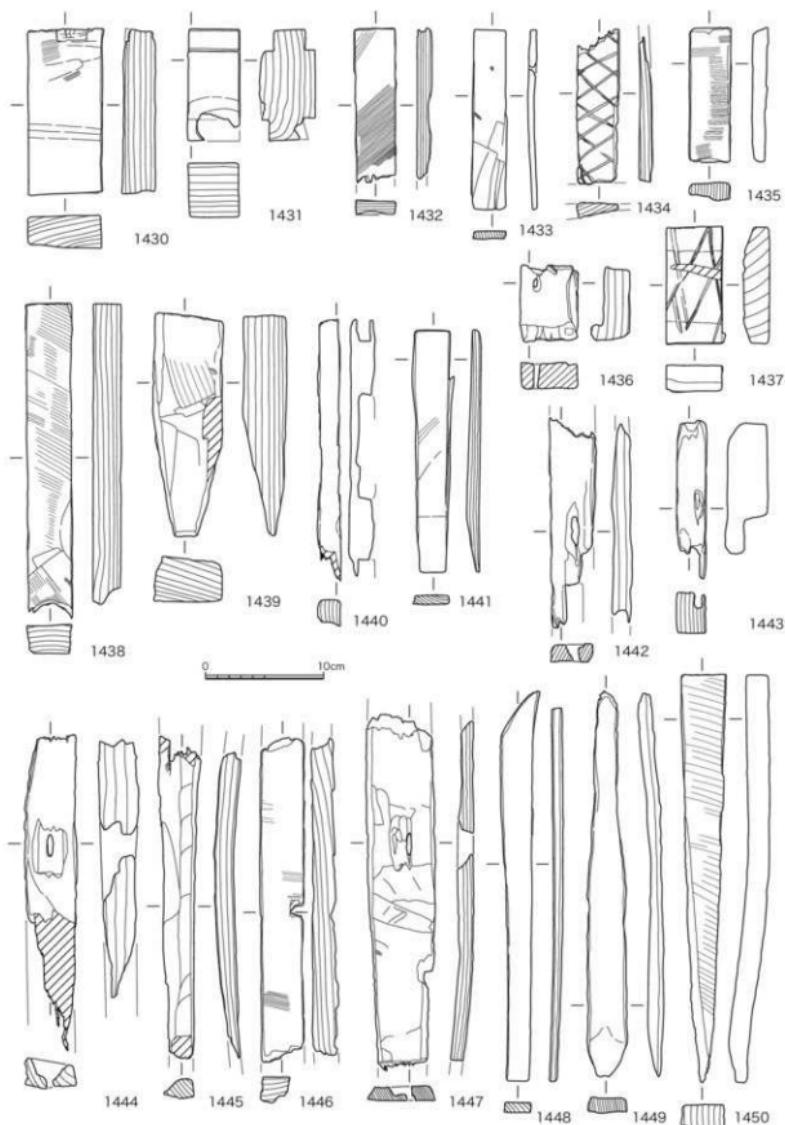


第112図 C期の遺物実測図(13)SK01(3)

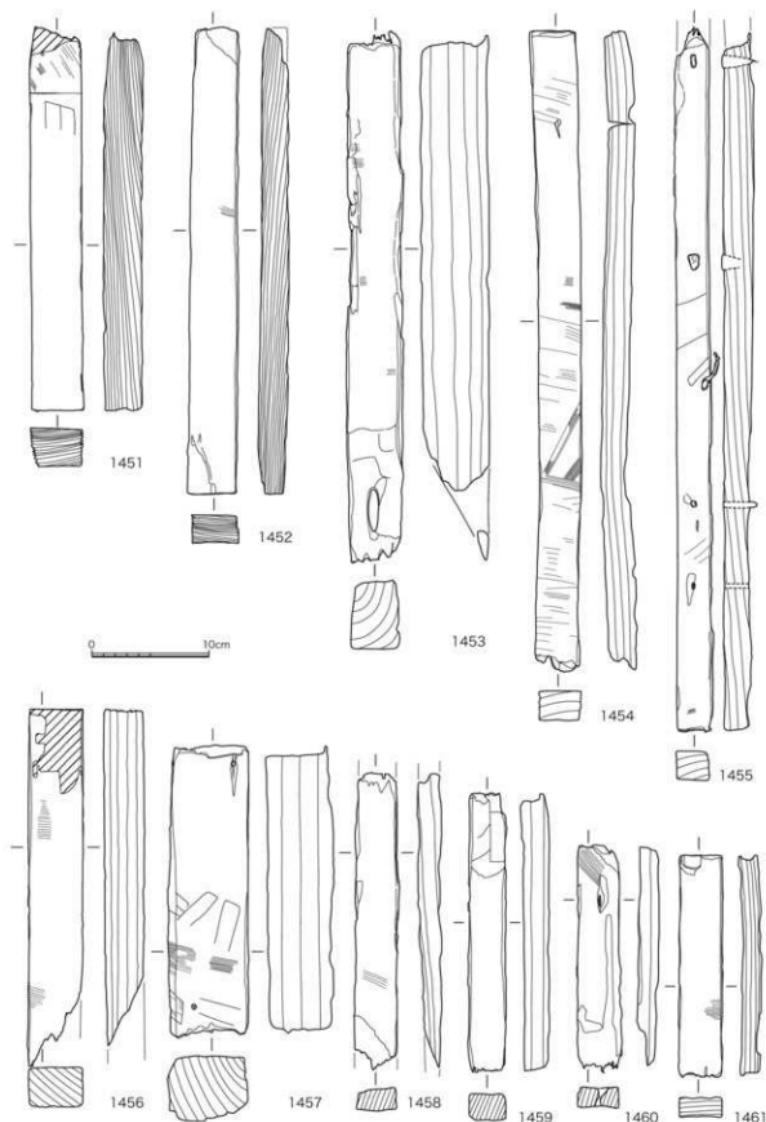
名古屋城三の丸遺跡 VII



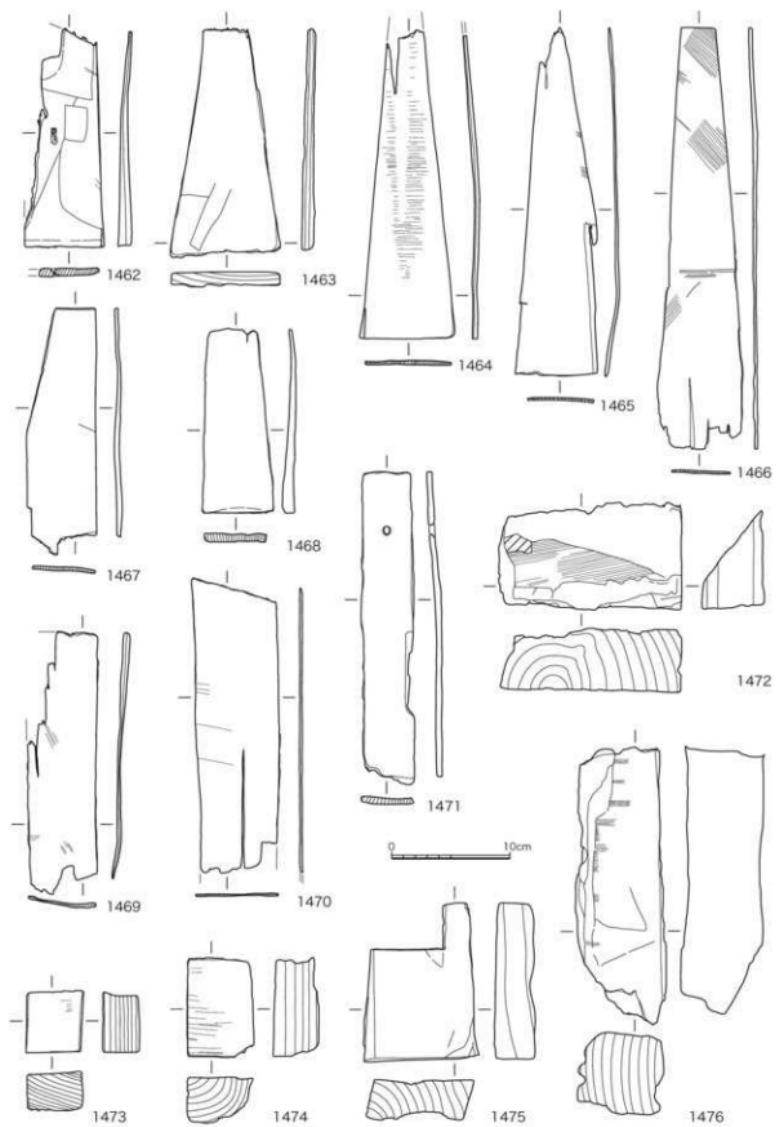
第113図 C期の遺物実測図 (14) SKO1 (4)



第114図 C期の遺物実測図(15) SK01(5)

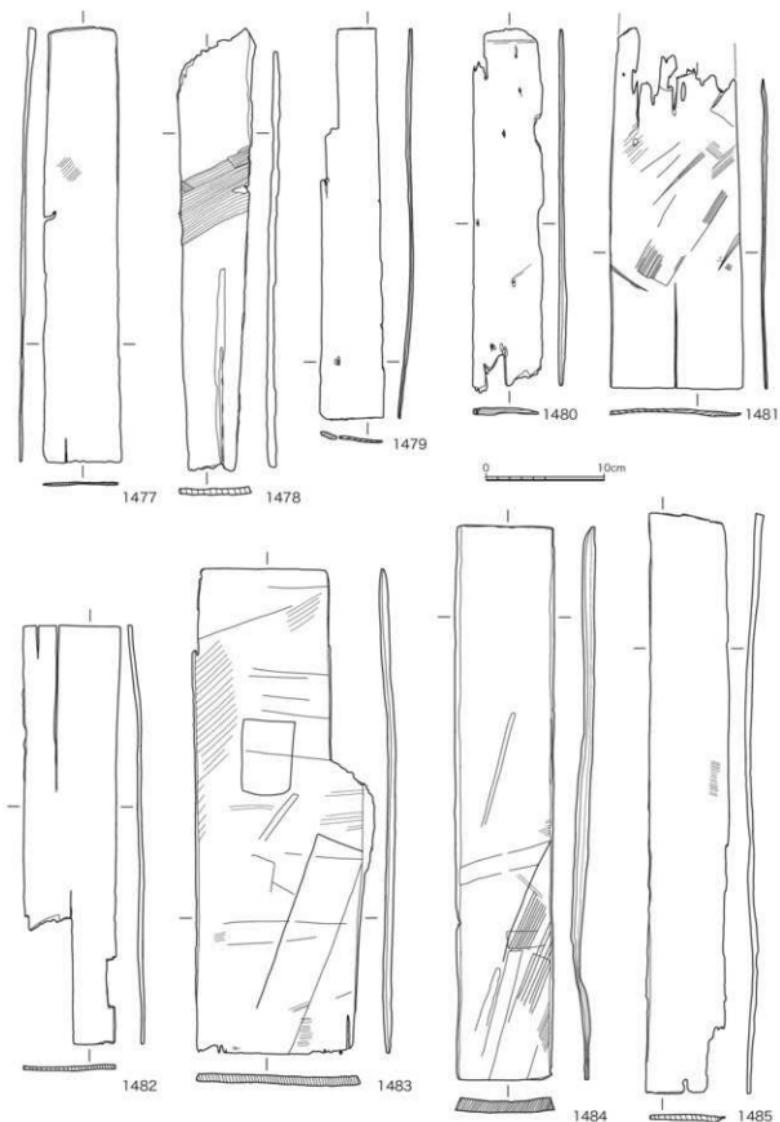


第115図 C期の遺物実測図 (16) SK01 (6)



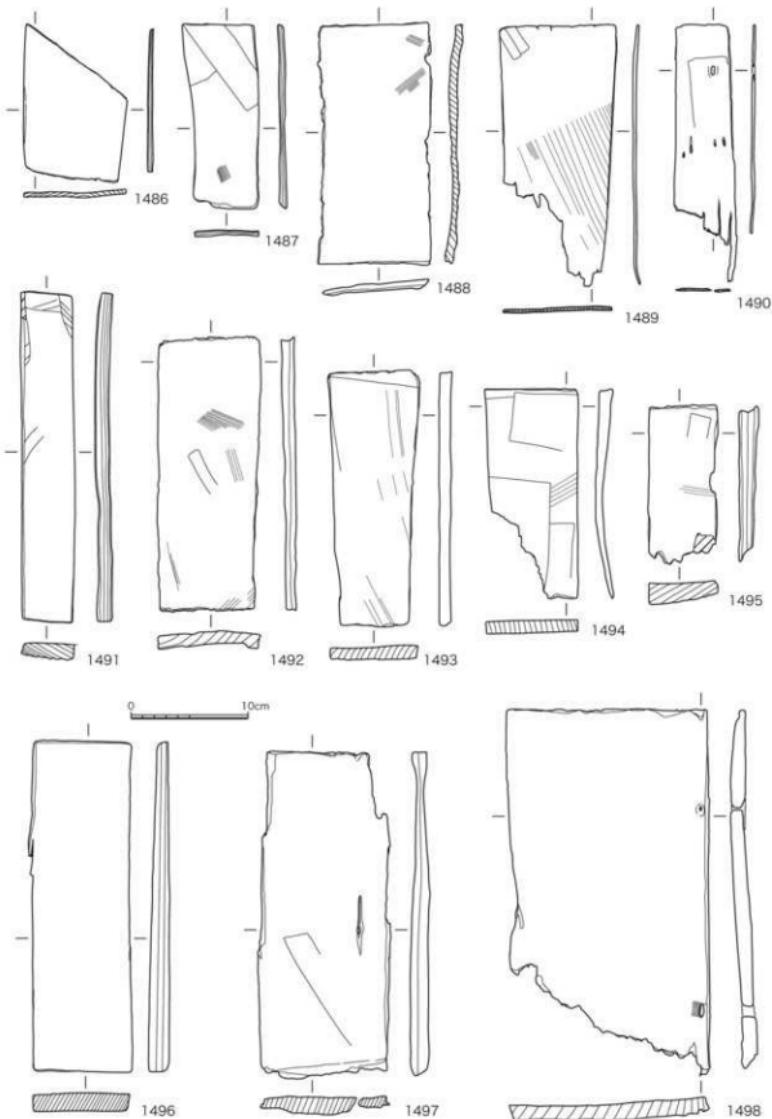
第116図 C期の遺物実測図(17) SKO1 (7)

名古屋城三の丸遺跡 VII

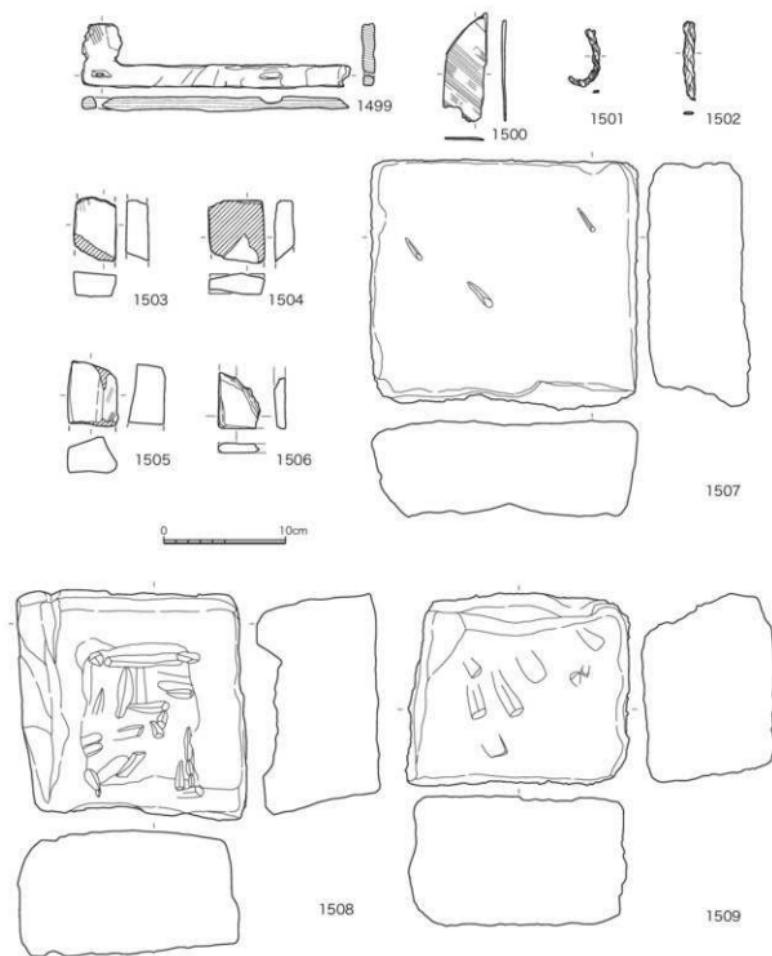


第117図 C期の遺物実測図 (18) SK01 (8)

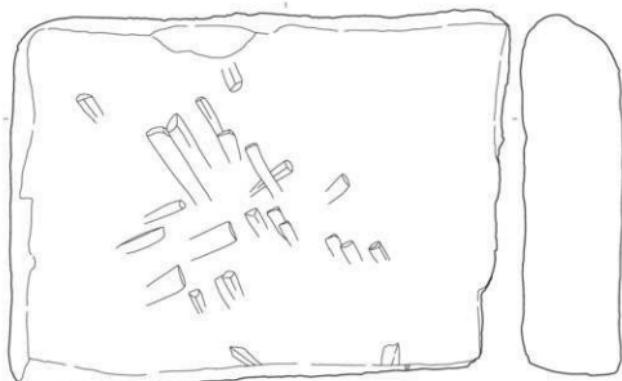
遺物



第118図 C期の遺物実測図 (19) SKO1 (9)

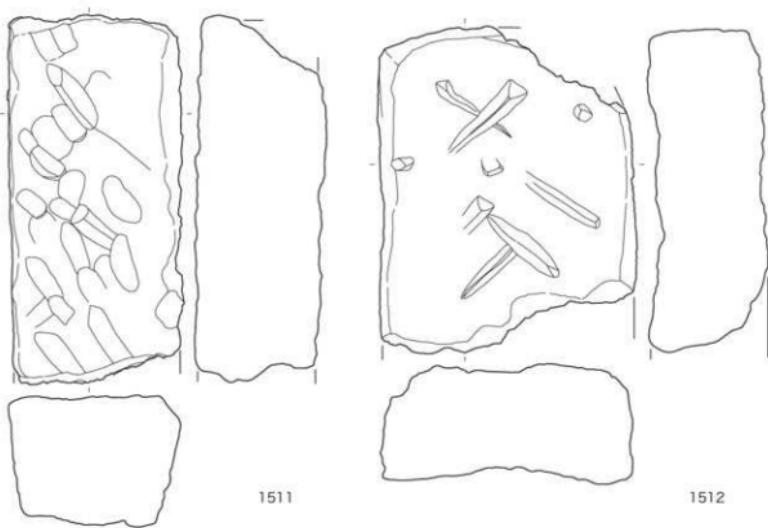


第119図 C期の遺物実測図 (20) SK01 (10)

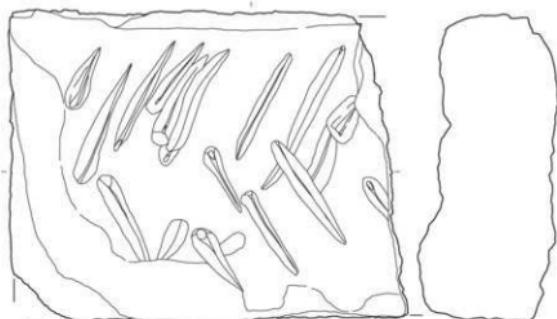


1510

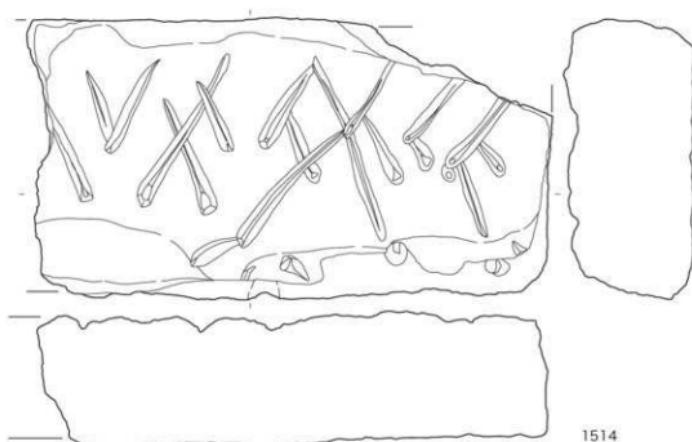
0 10cm



第120図 C期の遺物実測図 (21) SK01 (11)



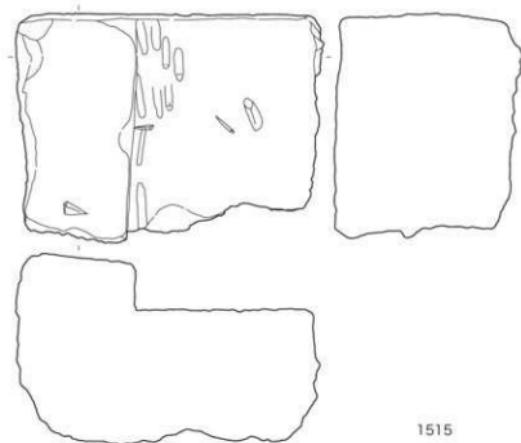
1513



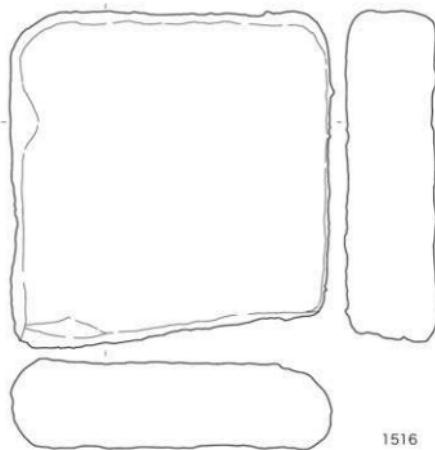
1514

0 10cm

第121図 C期の遺物実測図 (22) SX09



1515



1516

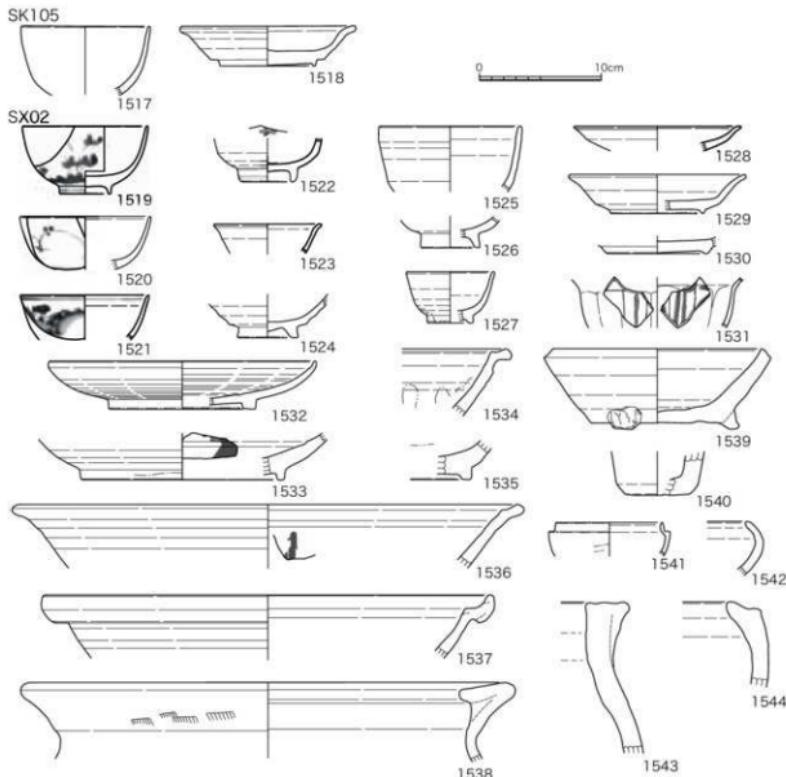


第122図 C期の遺物実測図 (23) SK47・SK63

板材系 1 類は平面形が高さの高い台形状の板材 (1462 ~ 1468) である。これらは本来二等辺三角形を形成していた可能性も考えられる。板材系 2 類は多数の小さな孔が穿たれたもの (1479 ~ 1481・1490) である。孔は木釘や竹釘の痕跡と思われる屋根板などの部材の可能性がある。板材系 3 類は材の長辺に沿う形で穿孔されたもの (1497・1498) である。この他の特別な特色がない板材を板材系 4 類として一括しておく。これらの板材は長さが 50cm を超える大型のもの

は少なく、製材の方法はノコギリ法と割裂法の両者がある。

石製品には砥石と切り石がある。砥石は凝灰質泥岩などで作られた中砥または仕上げ砥と見られるもの (1503 ~ 1506) である。切り石は凝灰岩または凝灰質砂岩を直方体に切り出して建築用資材として利用されたものと想定される。表面にノミ痕が残存するものが多い。平面形が正方形に近い厚手のもの (1507 ~ 1509) と平面形が長方形で大きく厚さはやや薄いもの (1510 ~



第 123 図 C 期の遺物実測図 (24) SK105・SX02 (1)

1512) に区分できる。

この資料群は陶磁器や土器類からみてC-3期に属する資料で18世紀に位置づけられる。陶磁器類は相対的に少なく、瓦や建築部材片が多く、建築用資材と思われる切り石などの存在からみて、この資料群は何らかの普請に付随する施設を処理したものと考えられる。

第9項 SX02 出土遺物

(第123～124図 1519～1550)

SX02からは瀬戸美濃窯産陶器を中心とする2837点が出土した。最も多い資料は近世に属する瓦で2382点で全体の約84%を占めている。

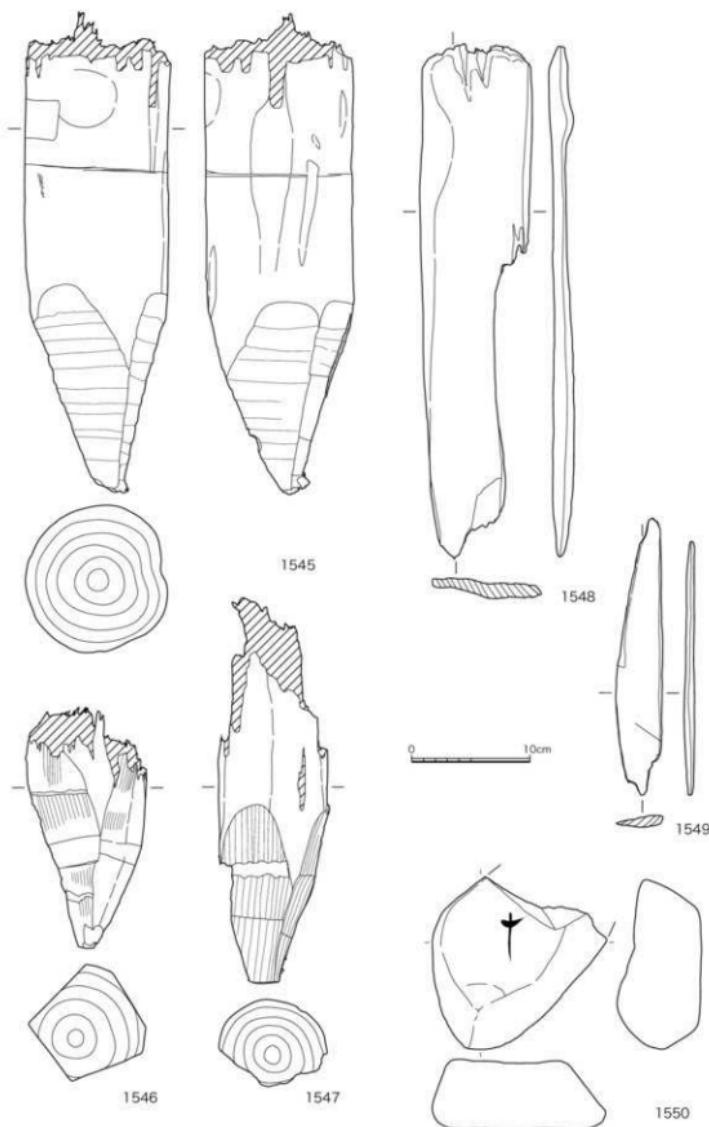
瀬戸美濃窯産陶器には丸碗(1524)、小碗(1526)、志野皿(1529・1530)、中皿(1532)、鉢(1533・1535)、笠原鉢(1534・1536)、擂鉢(1537)、棗茶入(1541)、火鉢(1542)などがある。最新資料は1532で連房式登窯第7小期～第8小期に属する。一方、肥前窯産磁器には染付丸碗(1519～1522)、灰釉丸碗(1525・1527)、染付小杯(1523)、染付皿(1528)などがある。大半は肥前磁器編年III期からIV期に位置づけられ、概ね17世紀末から18世紀前半に属する。この他の陶磁器類には中国景德鎮窯系青花輪花鉢(1531)、常滑窯産陶器真焼壺(1538)、真焼火鉢(1539)、赤物壺(1543)・赤物火鉢(1544)などがある。一方、土師器は皿や鍋類は比較的少なく、他に焼壺壺身(1540)がある。この他に木製品杭や用途不明の板材などがある。このうち少なくとも杭についてはSX02が埋積した後に打ち込まれたものと考えられ、本来のSX02の埋積段階に伴う資料ではない。この資料群全体としては以前の段階の資料を多く含むもののC-3期に属する資料で18世紀に位置づけられる。

第10項 SD01 出土遺物

(第125～127図 1551～1630)

SD01からは瀬戸美濃窯産陶器108点や瓦類1053点を中心に2226点が出土した。中でも鉄製品釘の出土量(239点)が非常に多い点がこの資料の特色となっている。瀬戸美濃窯産陶器には平碗(1564)、碗(1557・1560・1563・1565・1566)、志野丸皿(1569・1570)、擂鉢(1586・1587)、煙硝壺(1572)、匣鉢(1582)、笠原鉢(1583)、内耳鉢(1581)などがある。大半が連房式登窯第1小期～第6小期に属するが、1581は第8小期に属する。一方、肥前窯産陶磁器には染付丸碗(1551・1552・1554)、上絵付丸碗(1553)、鉄釉丸碗(1556)、灰釉丸碗(1562)、染付皿(1567)、染付蓋(1568)、青磁皿(1573)、灰釉水指(1585)などがある。大半は肥前磁器編年IV期に位置づけられ、概ね18世紀代に属する。この他の陶磁器類には中国景德鎮窯系青花碗(1555)・青花小杯(1558)、常滑窯産陶器真焼壺(1593)・真焼火鉢(1580)、赤物壺(1592)、産地不明陶器碗(1559・1561)などがある。1593はほぼ完形のものが破損して出土した。土師器はロクロ調整皿や焰烙、焼壺壺などがある。ロクロ調整皿は橙色の胎土を持つ部が直線的に開くものである。口径は約16cmのもの(1574)、約13cmのもの(1575)、約12cmのもの(1576)などに分けられる。1590と1591は瓦器の大型筒状製品である。内面は非常に摩滅して白色の胎土が露出しており、外面には格子紋状の刻線が施されている。用途は特定できないが、おそらく井戸側の部材であった可能性がある。

SD01から出土した資料にはこの他に大量の鉄製品釘がある。長さは10cmを超えるものはなく小型の製品ばかりである。頭部は平たく伸びた後折り曲げた形状である。軸部上位の錆膨れした部分に繊維状の痕跡が付着したものが多く、木材に打ち込まれた状態で錆びたものと考えられ



第124図 C期の遺物実測図 (25) SX02 (2)

る。織維痕の方向は釘の主軸と約30度斜めとなっていることから、釘は材に対して斜めに打ち込まれたことが想定される。

全体的に見ると、C-3期に属する資料で18世紀第3四半期頃に位置づけられる。

第11項 SD03出土遺物

(第127図 1631～1647)

SD03はSD01と連続する溝であり、SD01と遺物の様相はそれほど相違しない。ロクロ調整皿は橙色の胎土を持つ体部が直線的に開くものである。口径は約12cmのもの(1634)、約11cmのもの(1635)、約8cmのもの(1636)などに分けられる。美濃窯産陶器灯明皿(1633)が連房式登窯第8小期に属することから、C-3期に属する資料で18世紀第4四半期に位置づけられる。

第12項 SK23出土遺物

(第128図 1648～1692)

SK23からは瀬戸美濃窯産陶器75点を中心に235点が出土した。近世に属する土師器は確認されなかった。瀬戸美濃窯産陶器には碗(1662)、丸碗(1663)、箱型湯呑(1664)、蓋(1682・1683)、徳利(1685)、擂鉢(1686～1688)、火鉢(1690)、箸置(1684)などがある。大半が連房式登窯第5小期～第8小期に属する。1683は再興窯の製品で19世紀初頭に位置づけられる。肥前窯産陶磁器には染付丸碗(1649～1660)、染付蓋物(1661)、京焼風丸碗(1668)、染付猪口(1670)、染付皿(1671～1676)、染付蓋(1681)などがある。大半は18世紀代に属する。この他の陶磁器類には関西系?磁器染付丸碗(1648)、信楽窯産陶器丸碗(1665)、常滑窯産陶器真焼甕(1689)などがあり、产地不明陶器も一定量存在する。土師器は皿や焼塙甕などがある。土師器ロクロ調整皿は橙色の胎土を持

ち、口径は10～12cmを測る(1677・1678・1680)。非ロクロ調整皿も橙色の胎土を持つもの(1679)である。C-4期に属する資料で19世紀第1四半期に位置づけられる。

第13項 SK93出土遺物

(第129図 1702～1705)

SK93からは正位置に設置された瀬戸美濃窯産陶器水指(1703)が出土した。水指内部から水指に伴う蓋(1702)と石材(1703・1704)が出土した。水指と蓋は連房式登窯第8小期に属し、C-3期(18世紀第4四半期)に位置づけられる。

第14項 SK60出土遺物

(第130図 1718～1735)

SK60からは常滑窯産陶器233点や瓦529点を中心に1023点が出土した。瀬戸美濃窯産陶器には丸碗(1720)、皿(1721)、擂鉢(1722)、匣鉢(1731)、肥前窯産陶磁器には染付丸碗(1719)、京焼風丸碗(1718)などがあるが、他の構造に比べ出土割合は少ない。連房式登窯第6小期までに属する資料群である。常滑窯産陶器には真焼甕(1733～1735)や赤物甕(1732)がある。土師器ロクロ調整皿は胎土が橙色を呈する体部が逆ハ字状に開くもので、口径は17.5cm前後のもの(1724・1725)、14cm前後のもの(1726)、12cm前後のもの(1727)の3種に区分できる。C-3期に属する資料で18世紀中頃に位置づけられる。

第15項 C期の遺構出土遺物

1170～1175はSK49から出土した遺物であり、このうち1173は体部に自然釉がかかる信楽窯産陶器甕である。1513と1514はSX09を構成する石材である。直方体を形成する切り石で表面に多数のノミ痕が残存する。1515はSK47、1516はSK64から出土した切り石である。1755

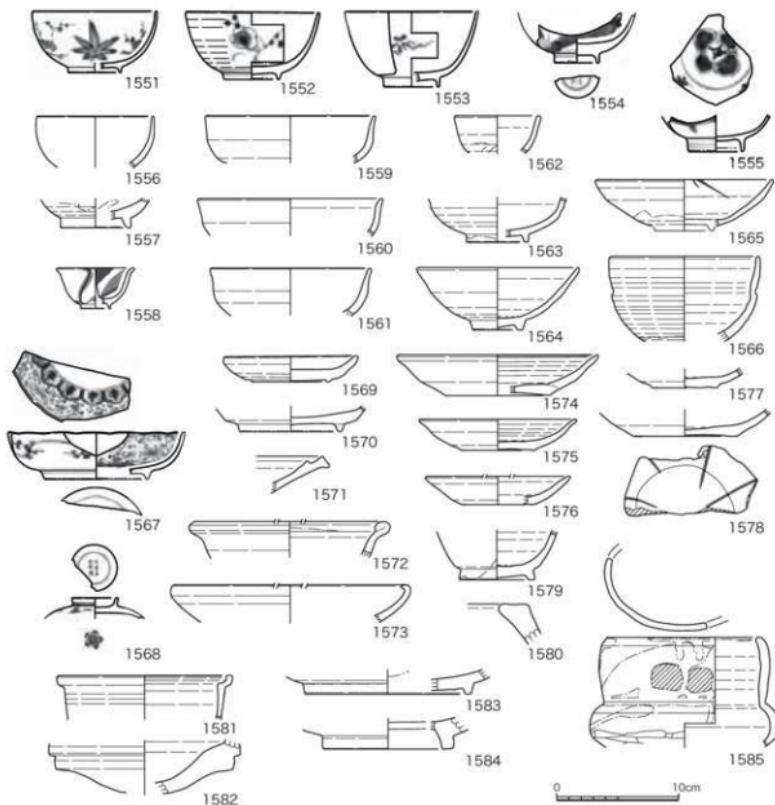
～1765はSD13出土資料である。1758は美濃窯産陶器の破片で葉状の装飾の一部であるが器種は特定できない。1759は瓦器の灯火具と推測される。1762は常滑窯産陶器赤物製品で、内面に「井」字状に線刻が施されており鉢状の製品と推測される。

第16項 包含層出土遺物

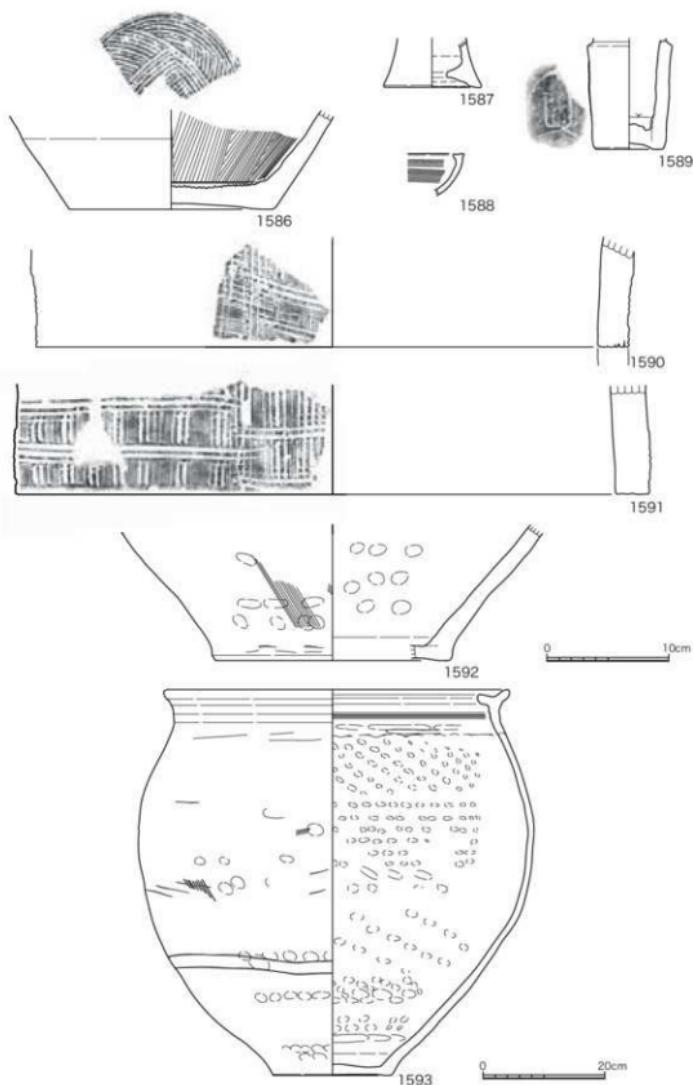
(第132図 1766～1814)

上記で説明した以外にも、C期の遺構に伴わないC期の資料も多数存在する。このうち主要なもの一部を紹介しておきたい

1766は瀬戸美濃窯産陶器白天目茶碗で登窯第2小期に、1767は同じく黒織部香茶碗で登窯第1小期に、1769は同じく京焼写しの碗で登窯第



第125図 C期の遺物実測図 (26) SD01 (1)

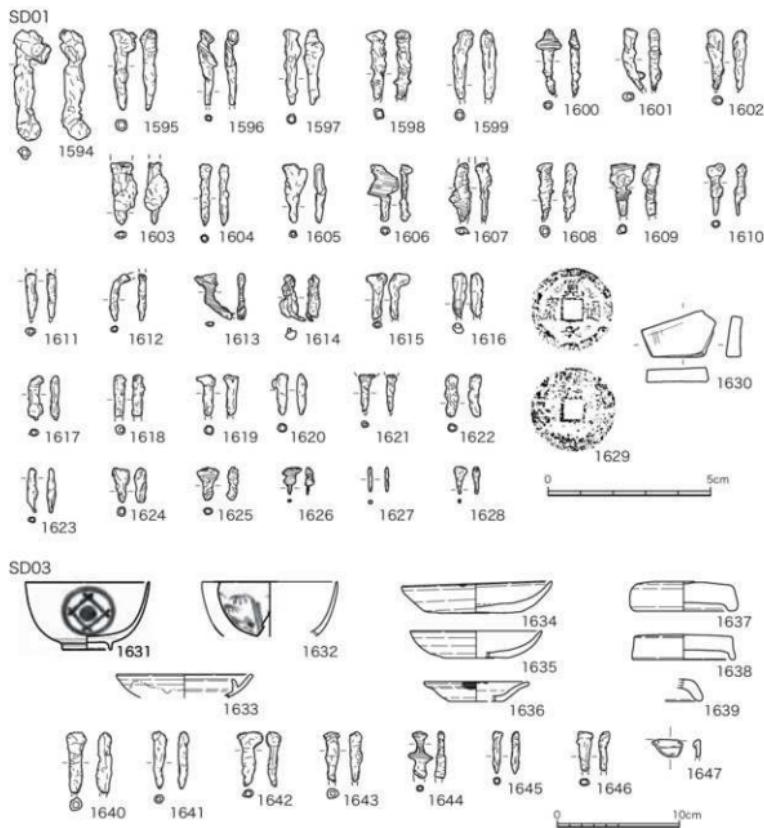


第126図 C期の遺物実測図 (27) SD02 (2)

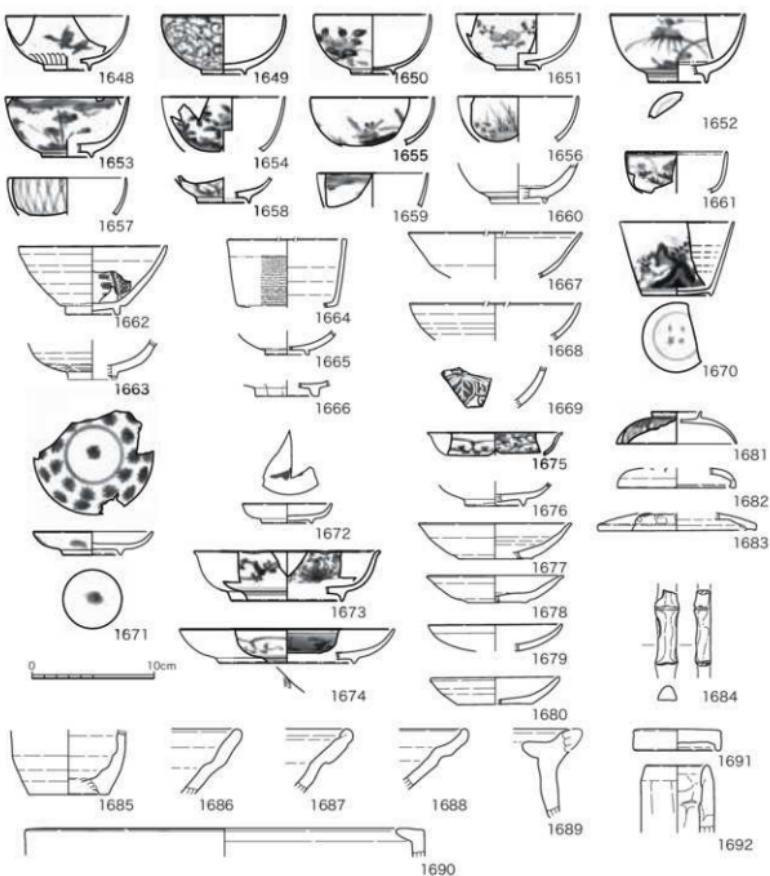
名古屋城三の丸遺跡 VII

5小期に属する。1781は瓦器（瓦質土器）の腰折皿で瀬戸美濃窯産陶器の製品を模倣したものと考えられる。1786は土師器ロクロ調整皿で口縁部が内凹するタイプである。焼成後に穿孔され口

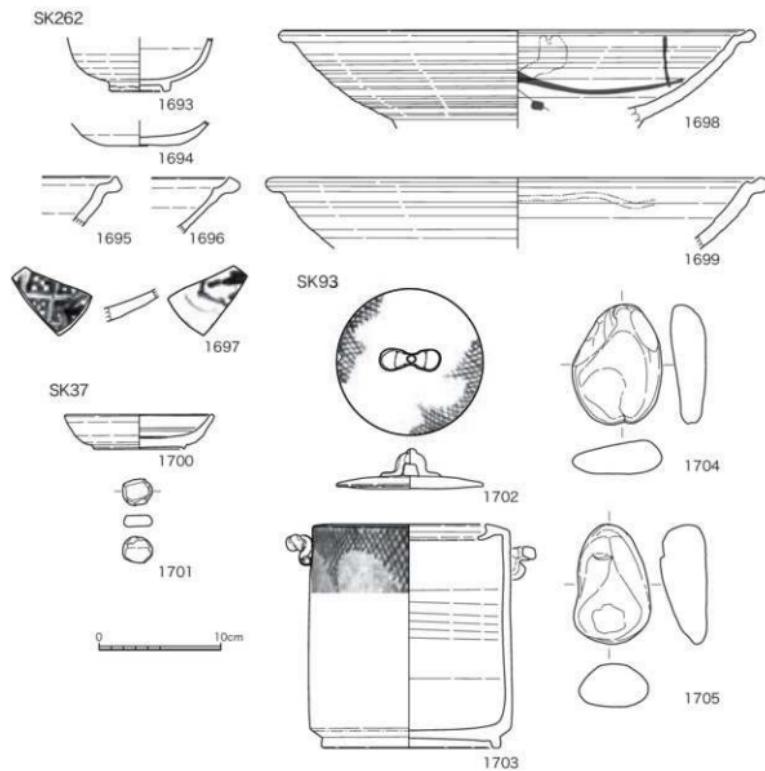
縁部付近が煤けている。1789は肥前窯産磁器染付皿で17世紀中頃に位置づけられる古い資料である。1809は土人形で鳥形である。



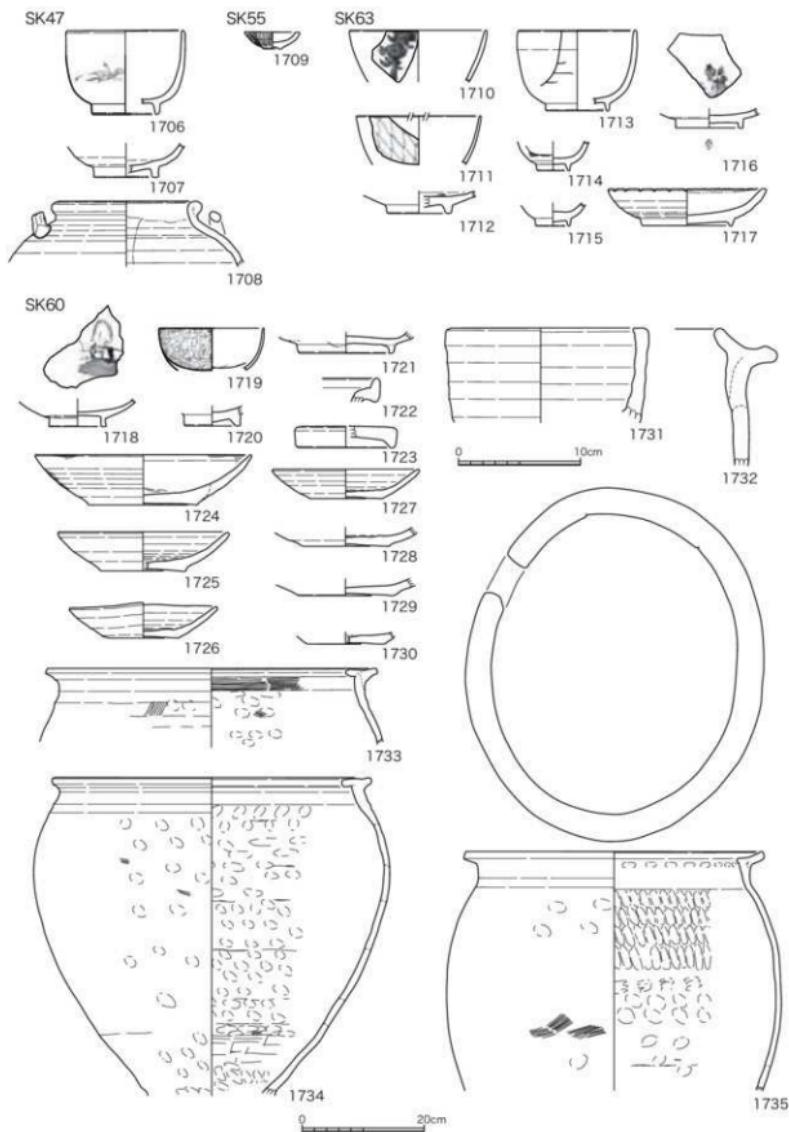
第127図 C期の遺物実測図 (28) SD01 (3) · SD03



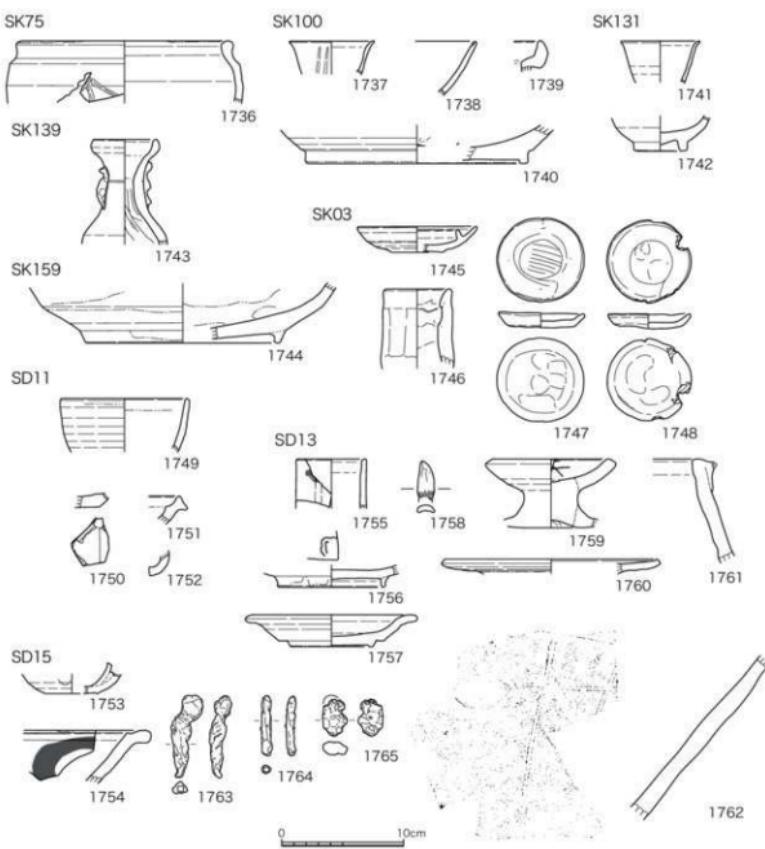
第128図 C期の遺物実測図 (29) SK23



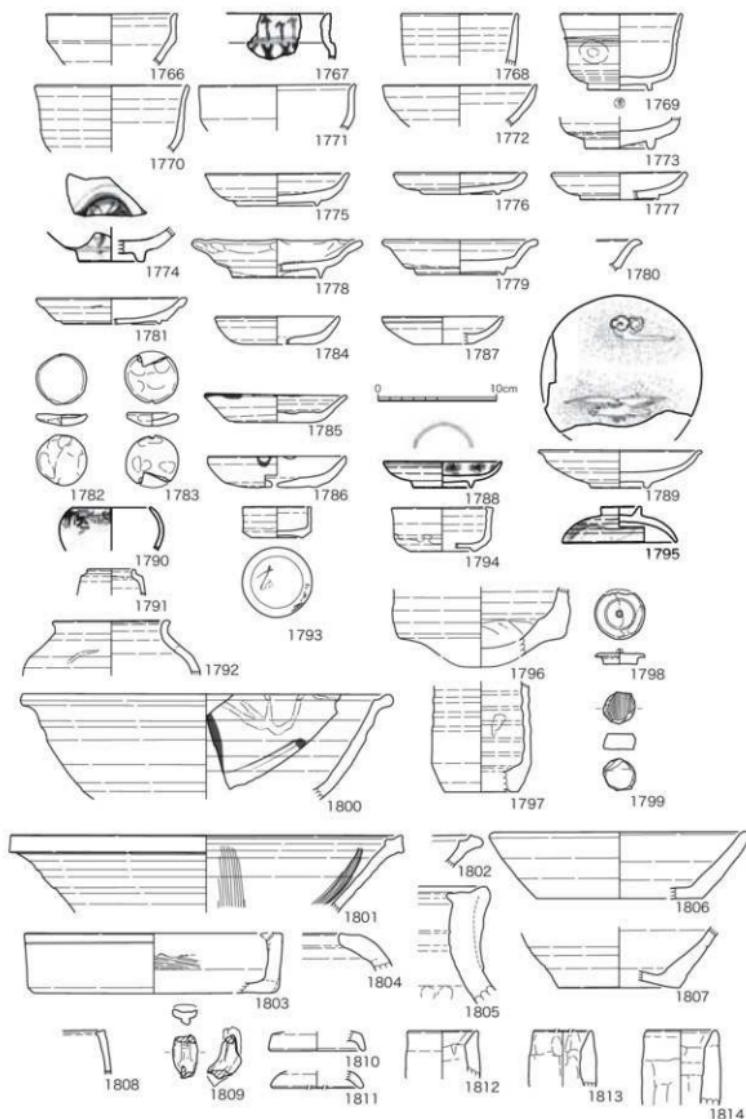
第 129 図 C 期の遺物実測図 (30) SK262・SK37・SK93



第130図 C期の遺物実測図 (31) SK47・SK55・SK63・SK60



第131図 C期の遺物実測図(32)土坑・溝出土遺物(2)



第132図 C期の遺物実測図(33) 包含層他出土遺物

第 17 項 軒丸瓦

(第 133 ~ 136 図 1815 ~ 1858)

この項目から C 期に属する瓦類を種類ごとに紹介する。瓦類は 27 リットル入りコンテナで約 176 箱、19930 点、約 2500kg 出土し、軒丸瓦、軒平瓦、軒棟瓦、丸瓦、平瓦、棟瓦、鬼瓦、飾瓦、輪違い瓦、面戸瓦、道具瓦などが存在する。軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦などの本瓦葺きの瓦類が圧倒的多数を占め、棟瓦葺きの瓦類が少ないとが江戸時代の瓦としてはやや異質な出土状況を呈している。分析や計量の方法は「清洲城下町遺跡 VII」に準拠した。

軒丸瓦と分類されたものは全部で 103 点が出土した。この中で瓦当面が残存する程度瓦当面の紋様が特定できるものが 66 点存在する。瓦当面に金箔押などの装飾が施されたものは 1 点も存在しなかった。ここでは瓦当面の紋様構成により分類を行い、その類別ごとに特徴を記述する。これまで名古屋城関連遺跡出土瓦の分類はいくつかの報告書ごとに行われているが、今回は独自に分類を設定した。分類の方法は瓦当面径により大分類を行い、紋様構成により細分類を実施した。瓦当面径はおよそ、直径 17.5 ~ 19cm 前後、直径 14.5cm 前後、直径 11cm 前後の 3 類に区分できる。この瓦当面径による分類は瓦当面周縁幅が異なる場合があるため範の規模と必ずしも一致しないが、およそ丸瓦部の規模と連動すると考えられる。ここでは瓦当面径の規模の大きいものから順にそれぞれ 00 番台、10 番台、20 番台と名づけ、特定できないものを 90 番台とした。また、瓦当面径が特定できない資料の中で紋様構成が巴紋と珠紋の組み合わせでないものが若干量存在し、これらを特別に 30 番台の一群として括しておきたい。紋様構成による分類は統一的な分類方式は用いず大別ごとに個別に実施することとした。このレベルの分類では下 1 桁の番号を付けて表記した。なお、同紋および同範囲係によ

る細分類は出土量がそれほど多くないため今回は実施することを見合せた。

M01 型式 (左巻三巴紋に 12 珠紋軒丸瓦 :

第 133・134 図 1815 ~ 1824)

瓦当面径が約 18cm で、紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を 12 個配置するものである。巴の形状が円形の体部に尾部が取り付くよう形となっており、巴の内側外郭線が鋭角に屈曲している。圓線を持たず、珠紋はそれほど大きくなはない。今回の調査では 9 点が出土した。丸瓦部裏面の調整痕にはコビキ B 手法の痕跡が確認される (1815・1816・1821)。丸瓦部には釘孔の存在が確認できるものもある (1815・1821)。

M02 型式 (左巻三巴紋に 12 珠紋軒丸瓦 :

第 135 図 1828 ~ 1835)

瓦当面径が約 19cm で、紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を 12 個配置するものと推定される。巴の形状が全体としてなだらかであり、特に巴の内側外郭線が弧状になっている。圓線を持たず、珠紋はそれほど大きくなはない。今回の調査では 8 点が出土した。丸瓦部裏面の調整痕にはコビキ B 手法の痕跡が確認されるものがある (1829)。

M03 型式 (右巻三巴紋に 12 珠紋軒丸瓦 :

第 135 図 1836 ~ 1841)

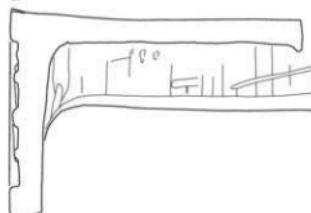
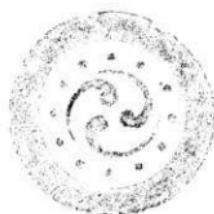
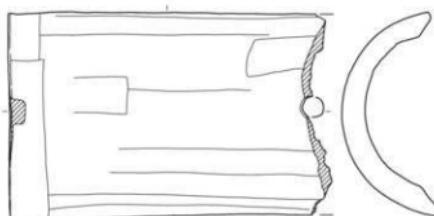
瓦当面径が約 18cm で、紋様構成は中心に右巻三巴紋、外区に珠紋を 12 個配置するものである。巴の形状が円形の体部に尾部が取り付くよう形となっており、巴の内側外郭線が鋭角に屈曲している。圓線を持たないが、尾部先端が別の巴紋と近接している。珠紋はあまり大きくなはない。今回の調査では 6 点が出土した。

M04 型式 (左巻三巴紋に 12 珠紋軒丸瓦 :

第 134 図 1825・1826)

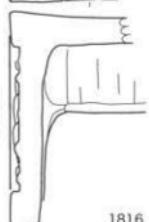
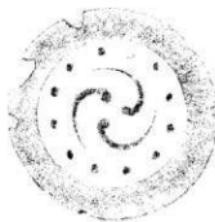
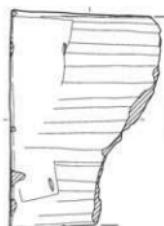
瓦当面径が約 18cm で、紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を 12 個配置するものである。巴の形状が円形の体部に尾部が取り付くよう

M01型式

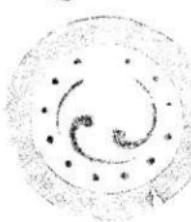


1815

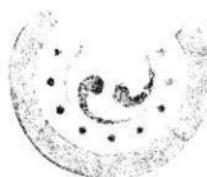
0 10cm



1816



1817



1818



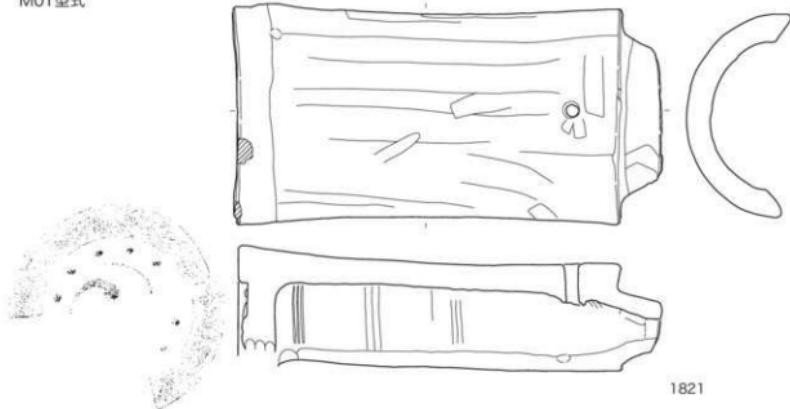
1819



1820

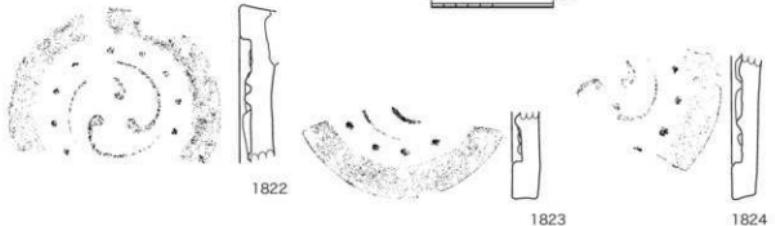
第133図 C期の遺物実測図 (34) 軒丸瓦 (1)

M01型式



1821

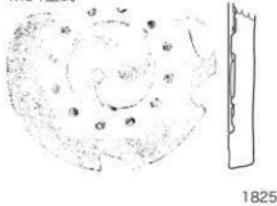
0 10cm



1823

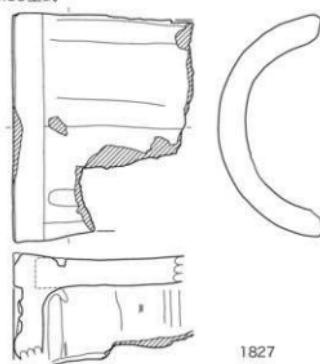
1824

M04型式



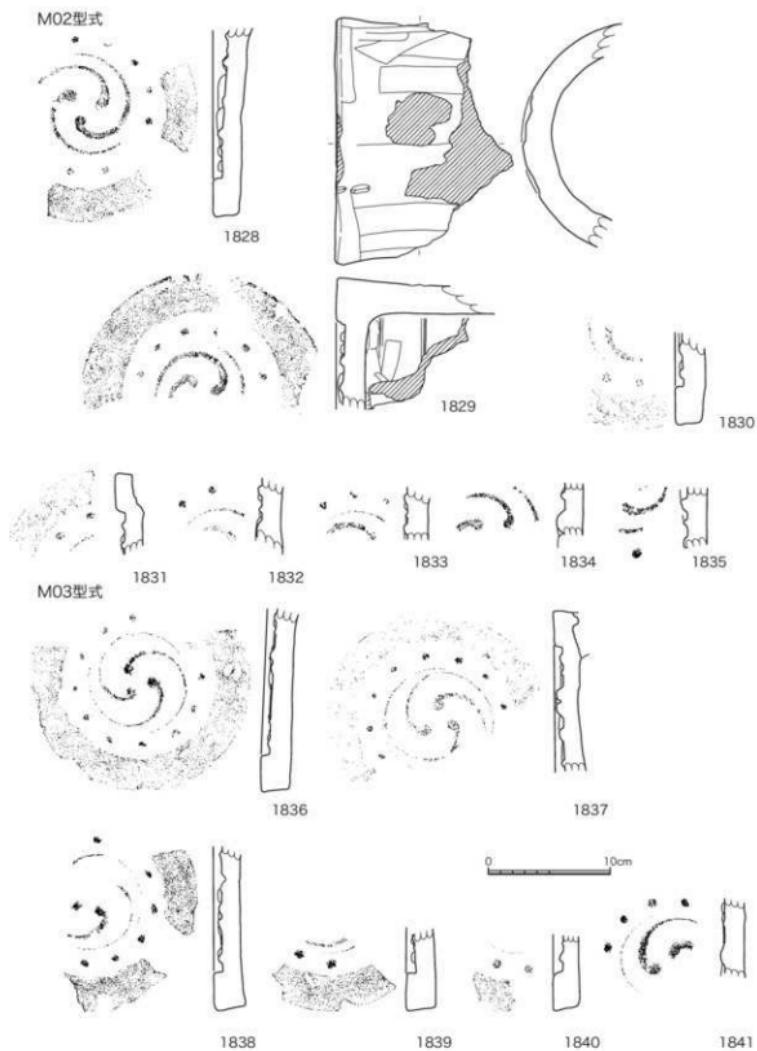
1825

M05型式



1827

第134図 C期の遺物実測図(35)軒丸瓦(2)



第135図 C期の遺物実測図 (36) 軒丸瓦 (3)

名古屋城三の丸遺跡 VII

な形で、巴の内側外郭線がほぼ直角に屈曲している。尾部の先端が別の巴に接続し、團線を形作っている。珠紋は直径が大きく高い。今回の調査では2点が出土した。

M05型式（右巻三巴紋に12珠紋軒丸瓦：

第134図1827）

瓦当面径が約18cmで、紋様構成は中心に右巻三巴紋、外区に珠紋を12個配置するものと思われる。巴の形状は特定が難しいが全体としてなだらかであり、特に巴の内側外郭線が弧状になっ

ている。團線を持たず、珠紋は直径が14mmと大きめである。今回の調査では2点が出土した。

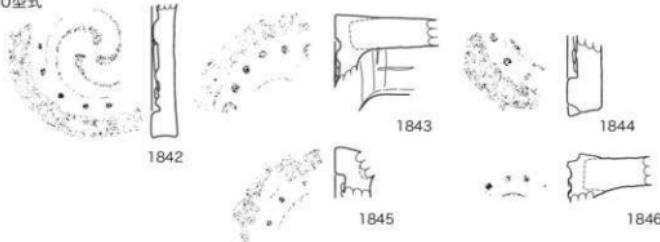
M09型式

瓦当面径が約17～19cmで紋様構成が特定しがたいものを09型式として一括した。図示はしなかった。今回の調査では30点が出土している。

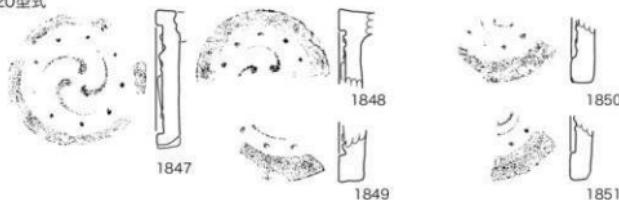
M10型式（第136図1842～1846）

瓦当面径が14cm前後のものをここでは一括してM10型式群として報告する。1842（M11型式）の紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠

M10型式



M20型式



M30型式



その他



第136図 C期の遺物実測図(37)軒丸瓦(4)

紋を12個配置するものと思われる。巴の形状は全体としてなだらかである。1843(M12型式)の紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を16個?配置するものと思われる。珠紋が大振りな点が特徴である。1844(M13型式)の紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を12個配置するものと思われる。巴紋の先端が別の巴に極めて近接し、珠紋が大振りである。1845と1846は残存状況が不良で紋様構成を推測することが難しいものである。M10型式群は今回の調査では9点が出土した。

M20型式(第136図1847~1851)

瓦当面径が11cm前後のものをここでは一括してM20型式群として報告する。1847(M21型式)の紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を9個?配置するものである。巴の形状は全体としてなだらかである。1848(M22型式)の紋様構成は中心に左巻三巴紋、外区に珠紋を9個?配置するものと思われる。1849~1851は残存状況が不良で紋様構成を推測することが難しいものである。M20型式群は今回の調査では5点が出土した。

M30型式(第136図1852~1855)

中心に三巴紋、外区に珠紋を配置するもの以外のものをここでは一括してM30型式群として報告する。1852(M31型式)は花弁状の紋様が残存しており、紋様構成は外区を持たないものと思われる。1853(M32型式)の瓦当面径は比較的大きく、紋様構成は全体に桐紋を配置したものと思われる。五五桐紋あるいは五三桐紋と推定される。1854と1855(M33型式)は円形紋に直線が接続する花紋状の紋様構成を持っている。M30型式群は今回の調査では4点が出土した。

M99型式(第136図1856~1858)

瓦当面径が特定できず紋様構成も推測しがたいものを一括して99型式とする。99型式の丸瓦部裏面の調整痕にはコビキB手法の痕跡が確認

される。

第18項 軒平瓦

(第137~140図1859~1909)

軒平瓦と分類されたものは全部で82点が出土した。この中で瓦当面が残存する程度瓦当面の紋様が特定できるものが47点存在する。瓦当面に金箔押などの装飾が施されたものは1点も存在しなかった。ここでは瓦当面の紋様構成により分類を行い、その類別ごとに特徴を記述する。分類の方法は瓦当面幅により大分類を行い、紋様構成により細分類を実施した。瓦当面幅はおおよそ、28cm前後と、21cm前後の2類に区分できる。この瓦当面幅による分類は瓦当面幅区の幅が異なる場合があるため範の規模と必ずしも一致しないが、おおよそ平瓦部の規模と連動すると考えられる。ここでは瓦当面径の規模の大きいものから順にそれぞれOO番台、10番台と名づけ、特定できないものを90番台とした。紋様構成による分類は統一的な分類方式は用いず大別ごとに実施することとした。このレベルの分類では下1桁の番号を付けて表記した。なお、同紋および同範囲による細分類は出土量がそれほど多くないため今回は実施することを見合せた。なお、今回の資料の中には鱗や棗がつく製品は確認されなかつた。

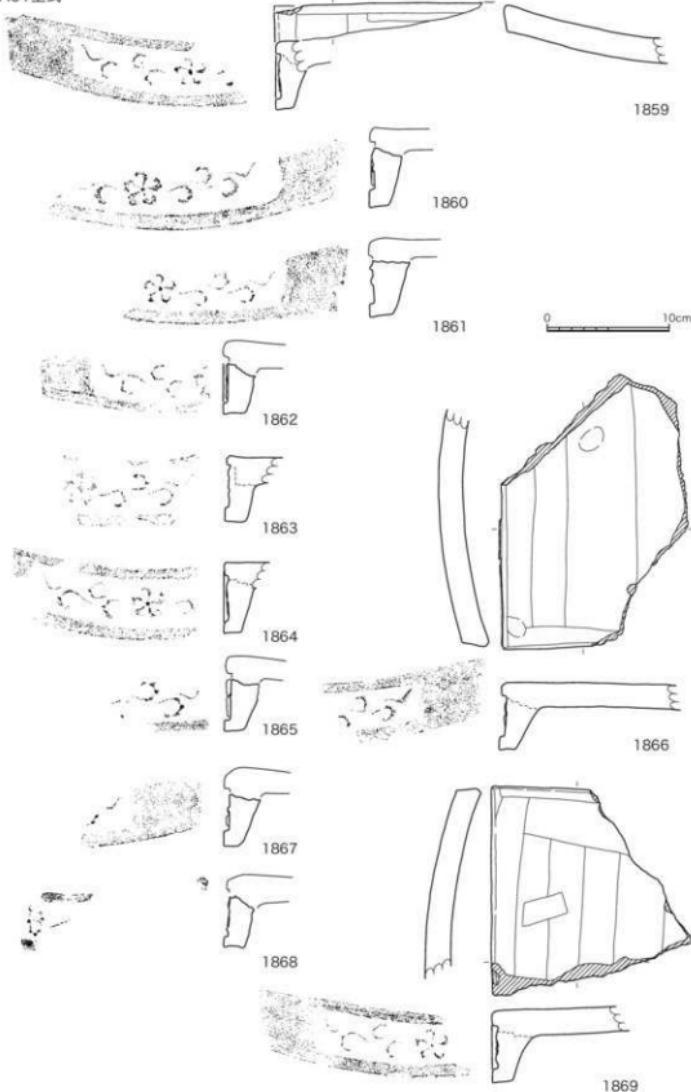
H01型式(花紋に4反転均整唐草紋軒平瓦)

(第137図1859~1869)

瓦当面幅が約28cmと思われ、紋様構成は花紋の中心飾りに4反転の均整唐草紋を配置するものである。花紋は中心の珠紋に5枚の唐草紋状の花弁が放射状に取り付く構成で左巻きとなっている。均整唐草紋は上下2段に交互に配置され、内側3つの唐草紋は内側に大きく巻き込み、4番目の唐草は先端が外反する。今回の調査では11点が出土した。このうち瓦当面に木目痕が残存するものが5点存在する。11点は細部にわたり類

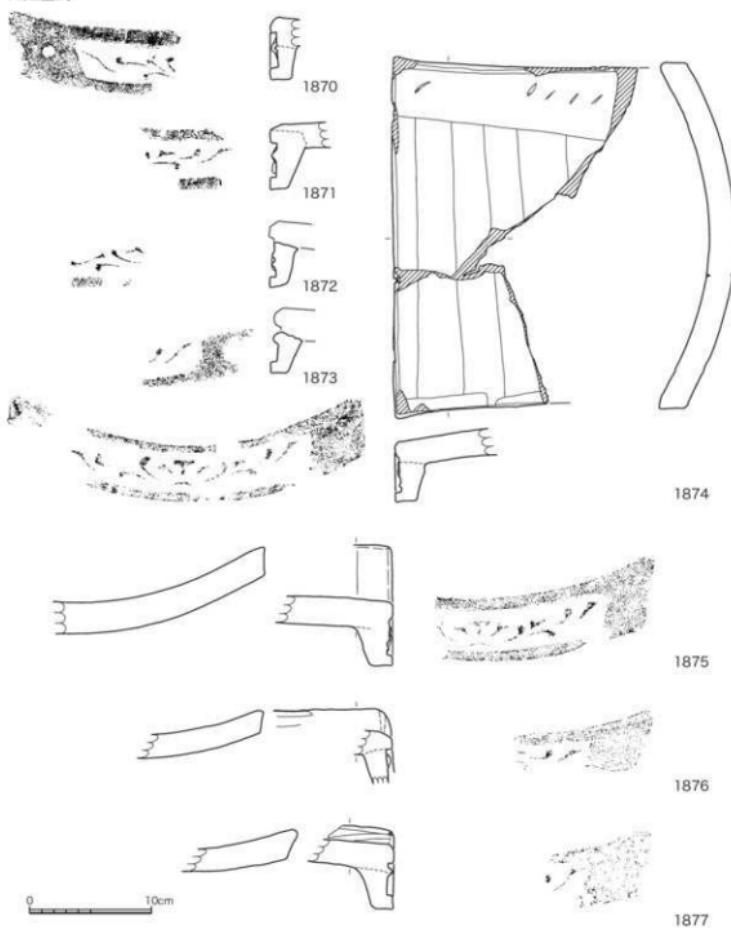
名古屋城三の丸遺跡 VII

H01型式



第137図 C期の遺物実測図(38)軒平瓦(1)

HO2型式



第138図 C期の遺物実測図 (39) 軒平瓦 (2)

名古屋城三の丸遺跡 VII

似することから同紋あるいは同範である可能性が高い。

H02 型式（三子葉紋に 4 反転均整唐草紋軒平瓦：

第 138 図 1870～1877)

瓦当面幅が約 28cm と思われ、紋様構成は三子葉紋の中心飾りに 4 反転の均整唐草紋を配置するものである。三子葉紋の中心の葉は T 字状を呈し、唐草紋は短く折れる形状となっている。1 番目と 2 番目の唐草紋の間には上方に伸びる葉紋が存在する。今回の調査では 8 点が出土した。このうち瓦当面に木目痕が残存するものが全く存在しない。8 点は細部にわたり類似することから同紋あるいは同範である可能性が高い。

H03 型式（三子葉紋に均整唐草紋軒平瓦：

第 139 図 1878～1880)

瓦当面幅は特定できないが 28cm 前後と推測されるもので、紋様構成は三子葉紋の中心飾りに均整唐草紋を配置するものである。唐草紋が順転するのか反転するのか、あるいは唐草紋の数は特定できない。三子葉紋は下位に配置された珠紋から子葉が伸び、外側の子葉は外折する。唐草紋は内側に大きく巻き込む。今回の調査では 3 点が出土した。

H04 型式（3 反転均整唐草紋？軒平瓦：

第 139 図 1881～1884)

瓦当面幅は特定できないが 28cm 前後と推測されるもので、中心飾りは遺存しなかった。均整唐草紋は 3 反転以上を有し、最も外側の唐草紋の下位には小規模の唐草紋が付随する。中心に近いほど唐草紋は内側に大きく巻き込む傾向がある。今回の調査では 4 点が出土した。

H05 型式（3 反転均整唐草紋軒平瓦：

第 139 図 1885～1887)

瓦当面幅は特定できないが 28cm 前後と推測されるもので、中心飾りは遺存しなかった。横一列に配置された均整唐草紋は 3 反転以上を持ち、内側に大きく巻き込んでいる。今回の調査では 3

点が出土した。このうち瓦当面に木目痕が残存するものが 1 点存在する。

H06 型式（反転均整唐草紋軒平瓦：

第 139 図 1888・1889)

瓦当面幅は特定できないが 28cm 前後と推測されるもので、中心飾りは遺存しなかった。均整唐草紋は 2 反転以上を持ち、内側に大きく 1 回転以上巻き込んでいる。今回の調査では 2 点が出土した。このうち瓦当面に木目痕が残存するものが 1 点存在する。

H07 型式（唐草紋軒平瓦：第 139 図 1890)

瓦当面幅は特定できないが 28cm 前後と推測されるもので、中心飾りは遺存しなかった。唐草紋は太くて短く折れ曲がるものである。今回の調査では 1 点が出土した。

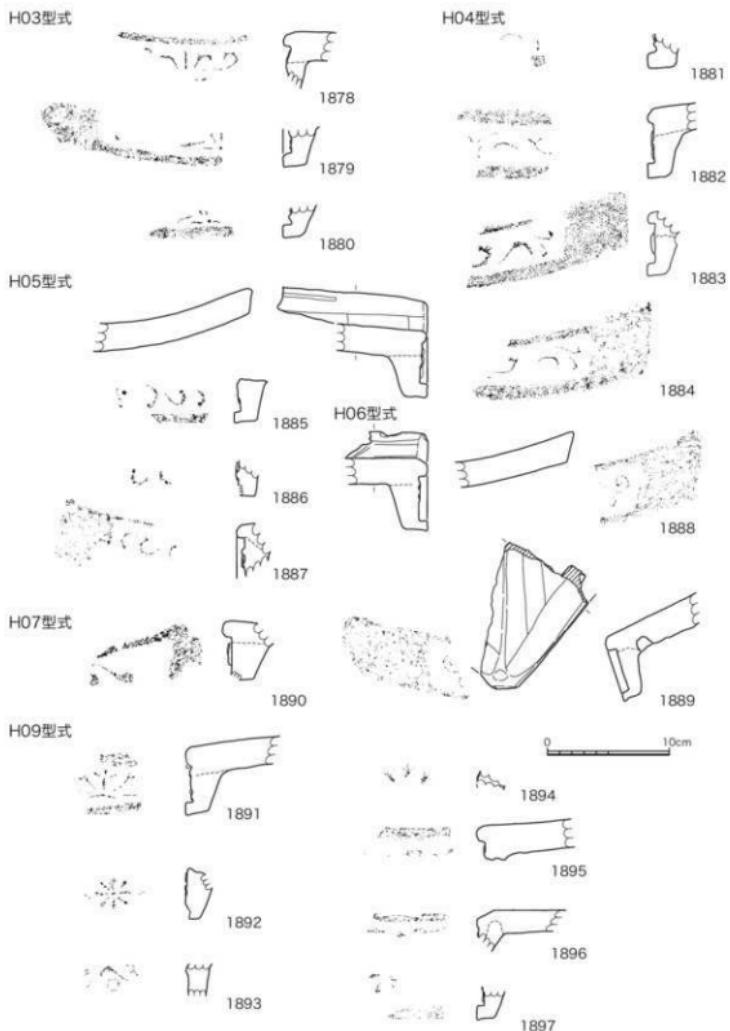
H09 型式（第 139 図 1891～1897)

瓦当面幅が 28cm 前後と推測されるもののうち型式を特定できないものを一括して報告する。H04～07 型式は両脇の唐草紋を中心に区分をしたが、ここでは中心飾り部の資料が主体となる。おそらく H04～07 型式には H09 型式のいずれかが組み合わさるものと思われる。1891 と 1894 は三子葉紋の中心飾りをもつもので、各子葉は先端が明瞭に三叉に分岐している。ただし両者の子葉先端の形状は異なっており、別型式である。1892 は 8 枚の花弁が直線的に伸びる花紋を中心飾りに持つものである。

H11 型式（三子葉紋に 3 反転均整唐草紋軒平瓦：

第 140 図 1898～1900)

瓦当面幅が約 20cm を測り、紋様構成は三子葉紋の中心飾りに 3 反転の均整唐草紋を配置するものである。子葉紋は珠紋状となり、唐草紋は上下に交互に配置され先端はやや弱く巻き込んでいる。今回の調査では 4 点が出土した。このうち瓦当面に木目痕が残存するものが 1 点存在する。



第139図 C期の遺物実測図 (40) 軒平瓦 (3)

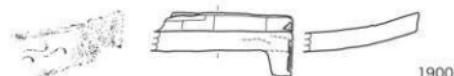
H11型式



1898

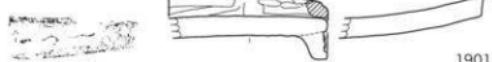


1899



1900

H12型式



1901



1902

H13型式



1903

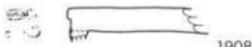


1904

H19型式



1905



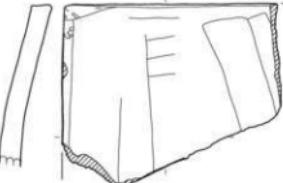
1908



1906



1907



1909

0 10cm

第140図 C期の遺物実測図(41)軒平瓦(4)

H12型式（三子葉紋に3反転均整唐草紋軒平瓦：

第140図1901・1902）

瓦当面幅が約21cmと思われ、紋様構成は三子葉紋の中心飾りに3反転の均整唐草紋を配置するものである。三子葉紋はH11型式と同様の形状であるが規模が小さい。今回の調査では2点が出土した。このうち瓦当面に木目痕が残存するものが1点存在する。

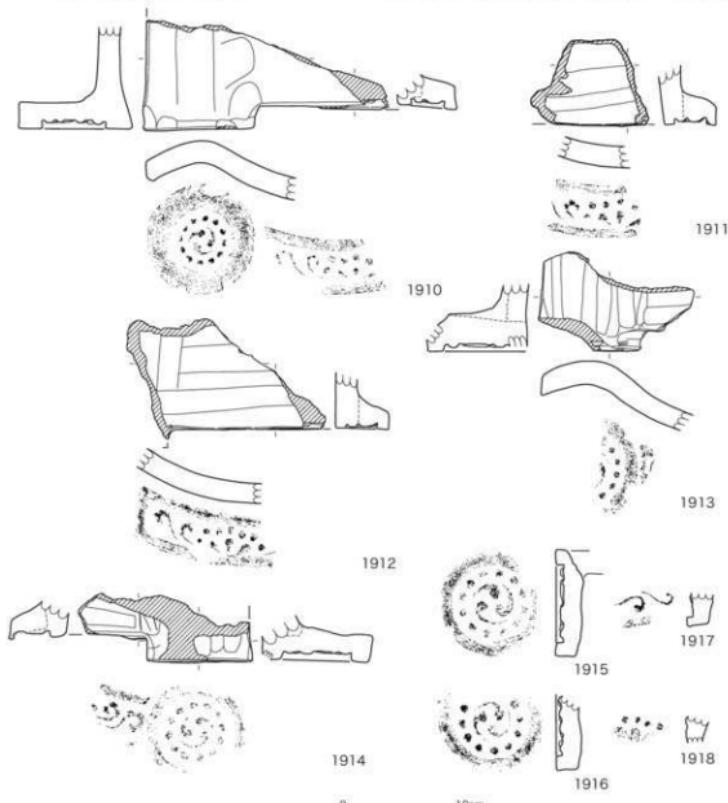
H13型式（3反転唐草紋？軒平瓦：

第140図1903・1904）

瓦当面幅が約21cmと推測されるもので、中心飾りは残存していない。唐草紋は上下2段に配置され大きく巻き込むものである。今回の調査では2点が出土し、全て瓦当面に木目痕が残存する。

H19型式（第140図1905～1909）

瓦当面幅が約21cmと思われるが、上記の紋様構成に属さない一群を一括して報告する。1909は中心飾りが不明であるが3反転の唐草紋を配置するもので、唐草は大きく巻き込み一列に配置



第141図 C期の遺物実測図(42)軒瓦

される。これは軒棟瓦に属するものかもしれない。

第19項 軒棟瓦（第141図1910～1918）

軒棟瓦と分類されたものは全部で9点が出土した。これらは瓦当面（特に丸瓦部）の紋様構成により分類を行い、その類別ごとに特徴を記述する。

S01型式（第141図1910～1912）

丸瓦部は左巻三巴紋に12珠紋が配置され、平瓦部は三子葉紋に2反転唐草紋が組み合わされたものである。丸瓦部の紋様部分が直径約5cmと小さい点が特徴である。今回の調査では3点が確認された。

S02型式（第141図1913）

丸瓦部は左巻三巴紋に16珠紋が配置されると推定されるもので、平瓦部の紋様構成は不明である。今回の調査では1点が確認された。

S03型式（第141図1914）

丸瓦部は右巻三巴紋に12珠紋が配置され、平瓦部は中心飾りは不明だが2反転唐草紋が施されたものである。今回の調査では1点が確認された。

S04型式（第141図1915・1916）

丸瓦部は左巻三巴紋に12珠紋が配置され、平瓦部の紋様構成は不明である。丸瓦部の紋様部分が直径約7cmと大きい点が特徴である。今回の調査では2点が確認された。

第20項 丸瓦

（第142～145図1919～1927）

丸瓦と分類できたものは、接合前破片数で1484点、総重量で約253kgが出土した。この中には軒丸瓦の丸瓦部や丸瓦に類似した形態の道具瓦などが含まれている可能性が高い。大多数の丸瓦は玉縁を有する丸瓦であり形態的なバリエーションは少ない。ここでは代表的な事例を数点取り上げて報告とする。

丸瓦は内面（裏面）に残存する調整痕で分類が可能である。まず、粘土塊から粘土板を成形する際の切断方法には、糸を張った弓状工具で切断し弧状の糸切り痕が残存するコビキA手法と鉄線を張った張力の強い工具で切断し平行する直線状の痕跡が残るコビキB手法の二者がある。コビキA手法はわずかに2点存在するのみで、コビキB手法は460点存在し圧倒的多数を占めている。これは江戸時代の瓦として通有の状況を呈している。次に、粘土板を丸瓦の形状にするために用いる成形台と粘土板との脱着を容易にするために成形台に布を被せるが、その被せ方によって分類が可能である。丸瓦の玉縁側の布には吊り紐を刺しここにためてその痕跡が丸瓦内面に残存するものの（1921・1924）と、残存しないもの（1919・1920・1922・1923・1925～1927）がある。両者の比率は今回算定しなかったが、残存しないものの方が多いと思われる。また、布を補強するために糸を刺したもの（1919・1923）や、太い糸で縦方向に比較的緊密に刺して蔓草状の痕跡が残存するもの（1920・1926）もある。成形台から粘土板を外した後はほとんど手を加えられていないものと考えられ、一部のわずかな資料に棒状工具によるタタキ痕が残存するものがある。

一方、外側は最終的に縦方向に丁寧に磨くようにならげられ調整が施されており、それ以前の作業工程の痕跡を見出すことは困難である。側端部は2段にねらげられ調整が施されて側端面と側部裏側面が形成される。側端面は瓦を葺く際に平瓦と接触する部分で、その内側にある胴部裏側面よりも幅は狭い。尻小口面裏面は幅広く面取りされ下位に葺かれる丸瓦玉縁部とうまく重なるようになっている。この面取りの幅は約40mmであり、清須城下町から出土する織豊期の資料よりも狭い傾向がある。

丸瓦の規模は、筒部の長さは23～33cmに分布し、平均約28cmを測る。筒部径について

合計：破片 簡部様

遺構	11	13	15	17	19	不明	総計
SD01		2	30	45	10	32	119
SD02			1	2		2	5
SD03	1	5	22	24	3	34	89
SD12		3	18	22	3	22	68
SD13			2	14	4	10	30
SK01, SK47	1	27	164	334	34	149	709
SK127			2			28	30
SK163		2	2	12		11	27
SK23	1	8	43	36	1	51	140
SK262			5	7	2	2	16
SK60		3	15	33	3	18	72
SK63	1	2	11	26	1	16	57
SK94			10	9	1	5	25
SX02	5	30	83	116	22	95	351
SX04		1	5	25	3	19	53
他の遺構		13	66	88	8	131	306
検出等	1	18	53	83	13	85	253
総計	10	114	532	876	108	710	2350

合計：重量 (g) 簡部様

遺構	11	13	15	17	19	不明	総計
SD01		335	5095	11025	3625	1530	21610
SD02			205	400		60	665
SD03	40	560	5155	7615	920	1175	15465
SD12		305	3095	7880	800	970	13050
SD13			215	3615	3100	375	7305
SK01, SK47	85	3200	29805	105180	21180	7980	167430
SK127			310			1880	2190
SK163		170	155	2270		525	3120
SK23	215	1250	6840	5775	145	2170	16395
SK262			505	1340	385	110	2340
SK60		140	2765	11300	2055	785	17045
SK63	40	105	1155	7610	115	1095	10120
SK94			1155	1600	270	280	3305
SX02	670	3095	12335	15995	10555	3985	46635
SX04		60	800	8345	1240	1315	11760
他の遺構		1095	7930	13070	1260	4600	27955
検出等	35	1895	9620	17935	5805	3460	38750
総計	1085	12210	87140	220955	51455	32295	405140

第8-1表 丸瓦出土量一覧表(1)

名古屋城三の丸遺跡 VII

合計：破片 背部厚

遺構	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	不明	総計
SD01				4	1	6	8	6	16	11	15	10	6	4	5		1	26	119
SD02					1		1		1									2	5
SD03			3	3	5	4	11	15	8	11	4	2	1				22	89	
SD12			2	1	3	4	7	9	8	8	5	3	2			1	15	68	
SD13						4	2	5	3	2	4	1	1				8	30	
SK01, SK47	1	3	4	7	13	34	68	97	117	96	79	39	27	8	5	2		109	709
SK127						1	1	2	2	1		1	1					21	30
SK163					1		3	2	2	6	1	1	1	2		1		7	27
SK23	1	1	1	2	14	22	25	14	9	5	9	5				1	31	140	
SK262						2	5	2	1		3	1	1					1	16
SK60			2	1	4	5	12	13	3	5	10	1	2	1	1			12	72
SK63			2	3	3	5	6	7	5	9	4	1	1					11	57
SK94						5	6	2	3	2		1	1	1				4	25
SX02	1		7	8	13	18	15	41	50	32	46	13	9	1	3	1		93	351
SX04						3	2	2	5	12	3	1	2	1	1			21	53
他の遺構	1	2	4	4	19	19	40	26	29	22	12	7	6			1		114	306
検出等			1	3	6	16	23	18	42	23	21	15	9	3	2	1		70	253
総計	2	5	19	35	52	133	191	289	326	248	227	125	76	32	14	7	2	567	2350

合計：重量(g) 背部厚

遺構	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	不明	総計
SD01			365	35	1280	1420	1405	6345	2635	1840	1475	1090	1530	895		195		1100	21610
SD02				205		105		295										60	665
SD03				215	200	285	530	2640	3690	840	4240	875	1080	315				555	15465
SD12				100	120	195	320	1985	2065	1025	1370	2410	2020	305			410	725	13050
SD13						1505	340	2320	1045	545	835	79	465					240	7305
SK01, SK47	55	145	185	505	1455	5495	12255	27340	36540	23080	25970	15455	10010	1680	1415	565		5280	167430
SK127						40	200	200	160	40		700	60					790	2190
SK163					70	150	225	295	730	110		60	70	950		200		260	3120
SK23		80	15	80	210	1085	2745	5410	1475	1430	745	1230	485			120	1285	16395	
SK262						175	625	245	120		570	355	190				60	2340	
SK60			90	50	605	385	2165	4580	1395	2160	4485	175	365	70	140		380	17045	
SK63			85	430	370	565	1230	2120	515	3545	470	140	160				490	10120	
SK94						395	1395	175	455	150		300	150	70			215	3305	
SX02	15		495	895	1180	2155	2610	5625	8155	4450	12805	2565	865	115	595	130		3980	46635
SX04						325	310	750	995	4395	360	2160	780	385	245			1055	11760
他の遺構	35	85	435	505	1330	1660	4925	2895	4235	3680	2420	1060	935		50		3705	27955	
検出等		100	215	475	4065	2975	2010	9550	5865	4890	2760	1165	1745	390	130		2415	38750	
総計	70	260	1245	2930	5905	17695	28815	62900	78500	50720	62565	37880	20880	7455	2985	1210	530	22595	405140

第8-2表 丸瓦出土量一覧表(2)

合計：破片 厚さ

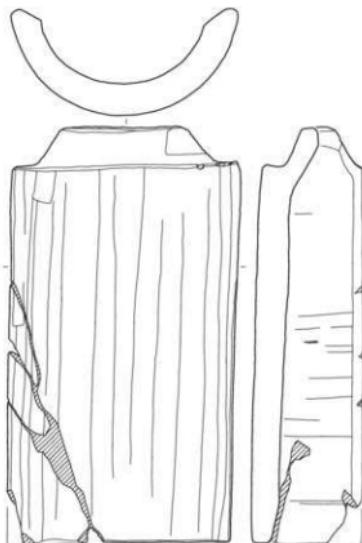
遺構	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	不明	総計
SD01					2	9	26	30	71	110	179	152	77	38	16	4	4				1									225	944	
SD02					1	4	1	6	6	11	15	4	1								1									22	72	
SD03					2	7	6	12	18	21	35	37	16	12	2	1	1	1											46	217		
SD12					3	9	18	30	58	78	63	31	19	8	3	2												113	435			
SD13						3	8	18	30	32	12	6	6	2	1														107	226		
SK01, SK47		2	3	24	47	95	252	529	1141	1001	552	246	63	21	11	1	1											562	4611			
SK127						1		3	5	24	17	11	6	4															155	220		
SK163					3	3	5	18	17	21	15	11	4	2	1													10	110			
SK23	1	1	3	16	17	19	50	62	112	803	41	18	3	4													208	658				
SK262	1				9	24	47	34	34	26	11	4	1		2													103	296			
SK60		1			11	17	23	42	83	45	53	24	9	2	1	1											113	445				
SK63		1	4	6	2	22	56	75	74	31	11	5	1														86	374				
SK94		3	5	4	15	23	36	31	20	5	2	2															77	223				
SX02	3	8	23	66	106	162	239	326	520	186	84	30	17	9	1	1		1	1		1	1				484	2069					
SX04			1	2	8	20	37	109	106	62	22	16	2	2												210	593					
他の遺構	1	18	34	77	126	148	204	276	295	170	96	38	20	7	2	1	1									919	2433					
検出等	1	4	29	67	119	138	176	264	241	118	52	26	9	8	2										1	535	1790					
総計	2	2	6	42	157	356	589	1031	1637	2834	2655	1496	648	225	90	49	8	3	1	1	1	1	1	1	3975	15722						

合計：重量(g) 厚さ

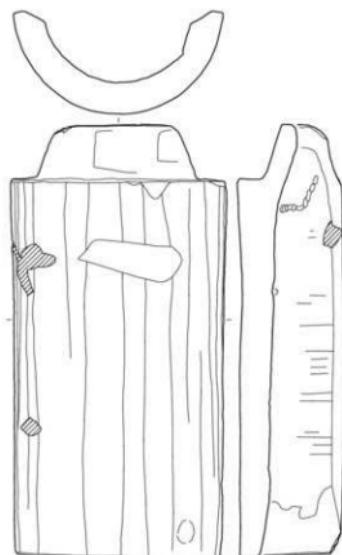
遺構	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	不明	総計
SD01					175	1295	3200	4465	9070	19605	33730	32800	16065	8620	3550	1230	640				65									4098	138508	
SD02					110	285	60	1175	385	1370	2115	565	100																380	6915		
SD03		40	905	1000	1850	2135	2205	5105	6290	3290	2880	220	215	215	150													1170	27670			
SD12					315	780	2360	5215	11605	16445	15580	9330	5485	2735	810	255												1545	72660			
SD13						545	495	3120	3700	6420	2010	540	1625	450	128													1605	20030			
SK01, SK47		125	130	2495	6625	12085	43170	104205	240001	246855	118775	52465	14300	4630	4645	330	545											10778	662219			
SK127						30		270	1650	2680	1910	1665	2070	900													2735	13910				
SK163					505	155	265	2910	1920	3250	1970	1500	525	345	145												275	12835				
SK23	40	45	280	1605	1580	1295	5365	8665	13550	11175	5540	3560	375	1025												3410	57610					
SK262	125					940	3240	6785	6170	4025	5365	2630	950	460		1295											2525	35430				
SK60		260			1505	5355	3630	10200	20830	21600	12790	7295	1629	120	215	195										1860	87475					
SK63		25	200	630	270	3225	6810	13815	12610	5445	4825	725	245													1405	52380					
SK94			100	190	740	2600	3155	4030	5566	4260	1220	765	250													1610	25130					
SX02	60	740	1400	6795	10105	19135	31335	3845	45105	36850	13860	4900	3940	1780	125	140		415	325	9017	218802											
SX04			65	155	830	3180	4020	18695	20300	13300	4290	1915	330	700											4820	73500						
他の遺構	40	1215	2185	5765	10740	12285	19110	29695	18820	11215	4915	2460	2000	600	190	15									10852	167948						
検出等	40	725	3140	9445	15815	15880	21845	34885	32775	18340	7500	4285	1560	765	280										22	6471	173773					
総計	165	125	185	3500	14790	39070	70120	13625	256405	487621	504005	265255	127400	43035	17410	13000	1680	975	65	15	415	325	22	65547	2046855							

第9表 平瓦厚さ別出土量一覧表

名古屋城三の丸遺跡 VII



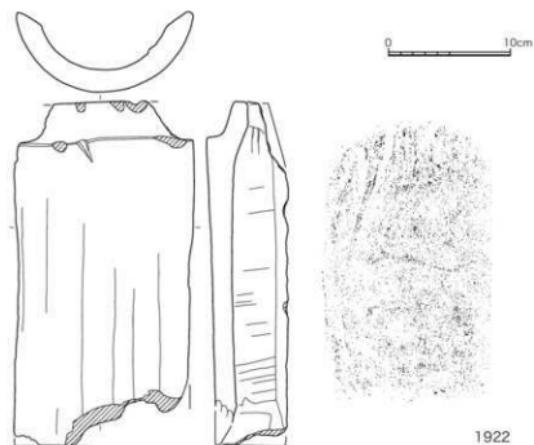
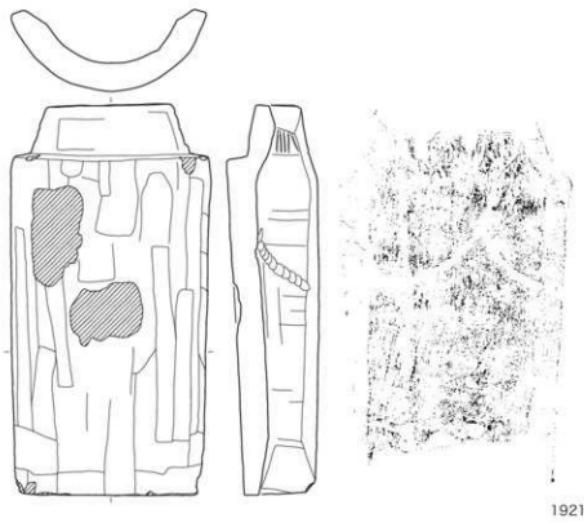
1919



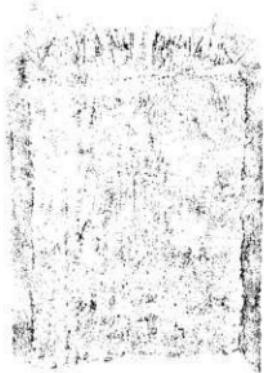
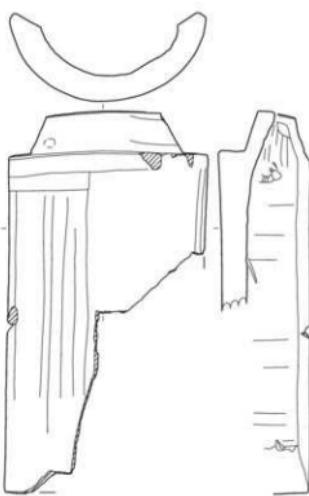
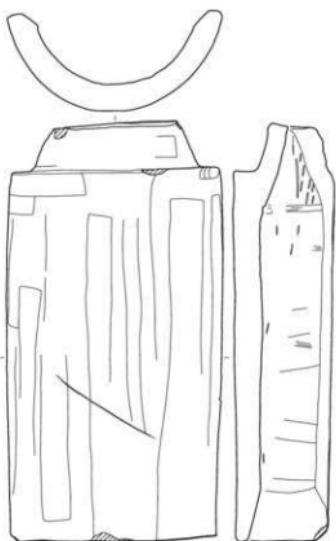
1920



第142図 C期の遺物実測図 (43) 丸瓦 (1)



第143図 C期の遺物実測図 (44) 丸瓦 (2)

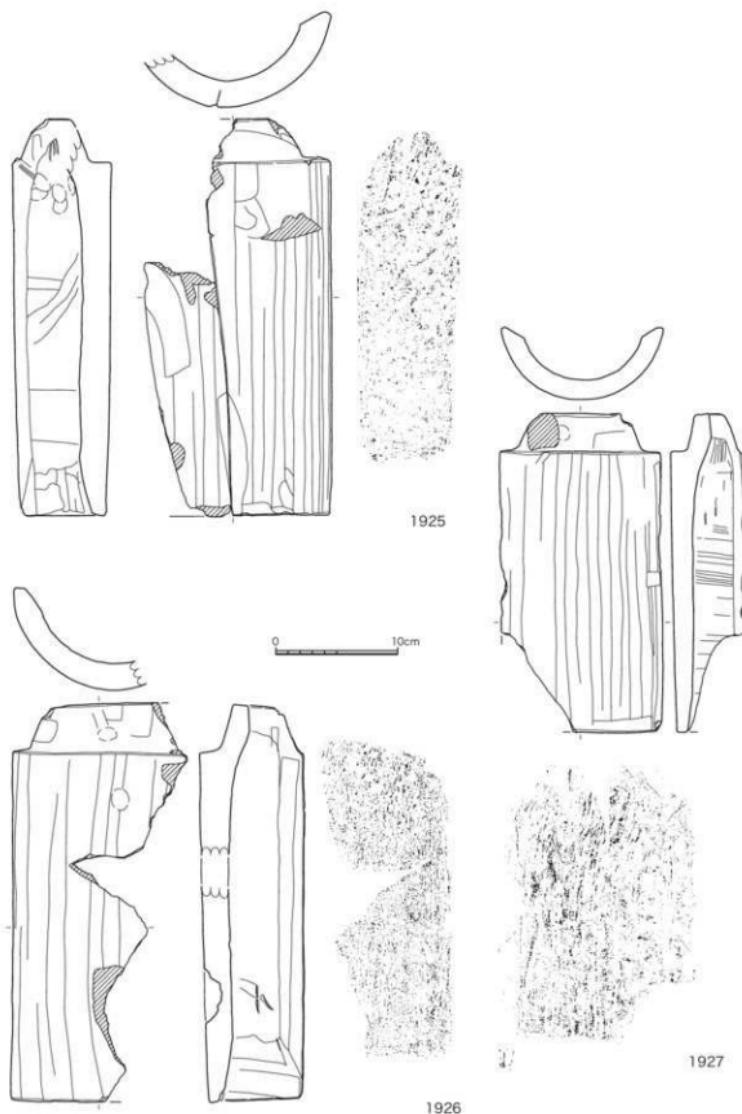


0 10cm

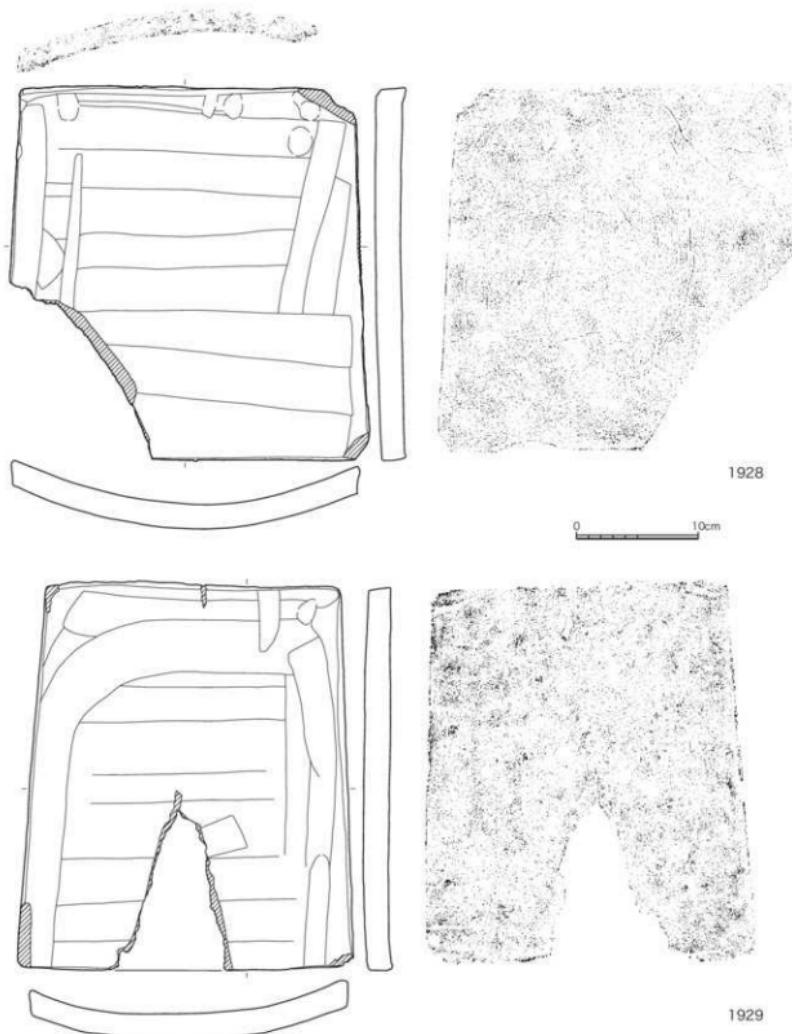
1923

1924

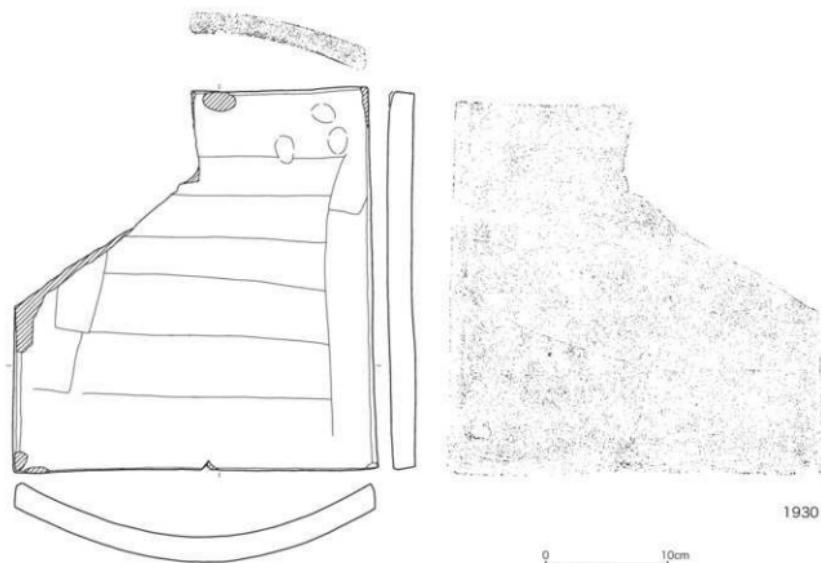
第144図 C期の遺物実測図 (45) 丸瓦 (3)



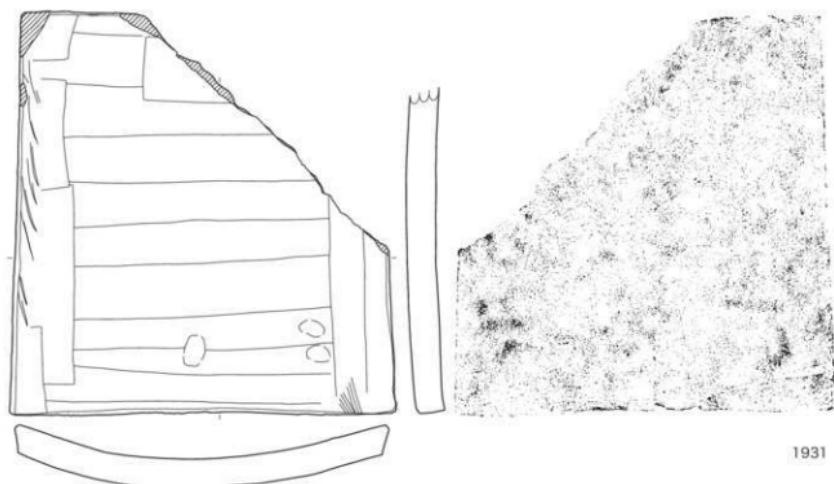
第145図 C期の遺物実測図(46)丸瓦(4)



第 146 図 C 期の遺物実測図 (47) 平瓦 (1)

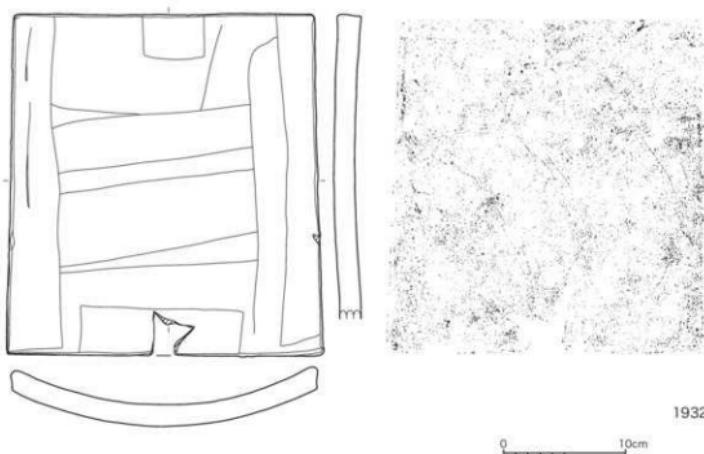


0 10cm



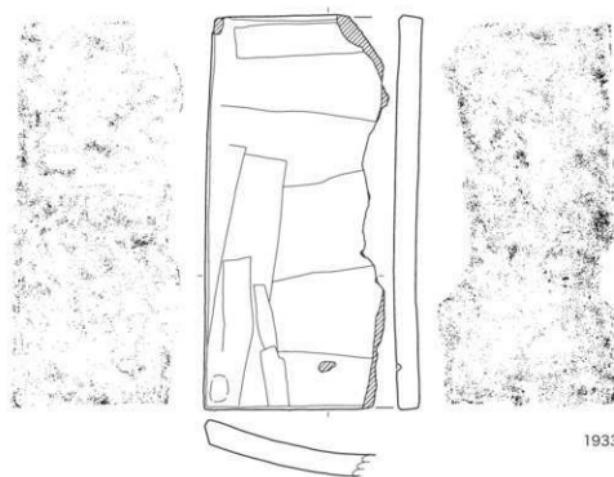
第 147 図 C 期の遺物実測図 (48) 平瓦 (2)

名古屋城三の丸遺跡 VII



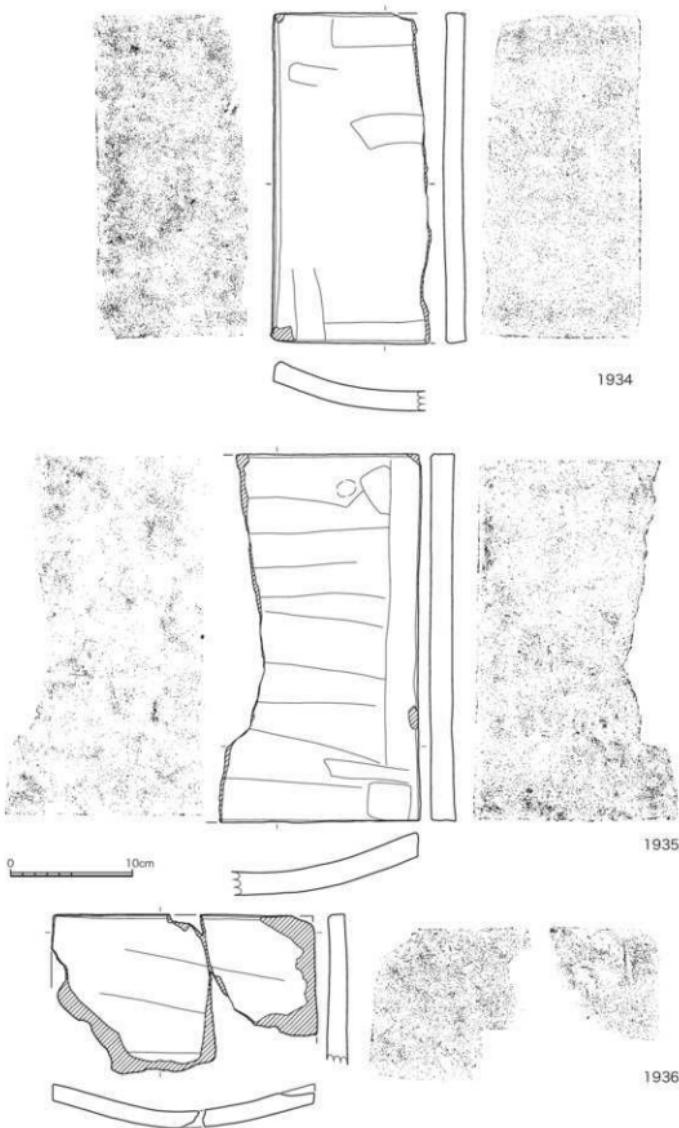
1932

0 10cm

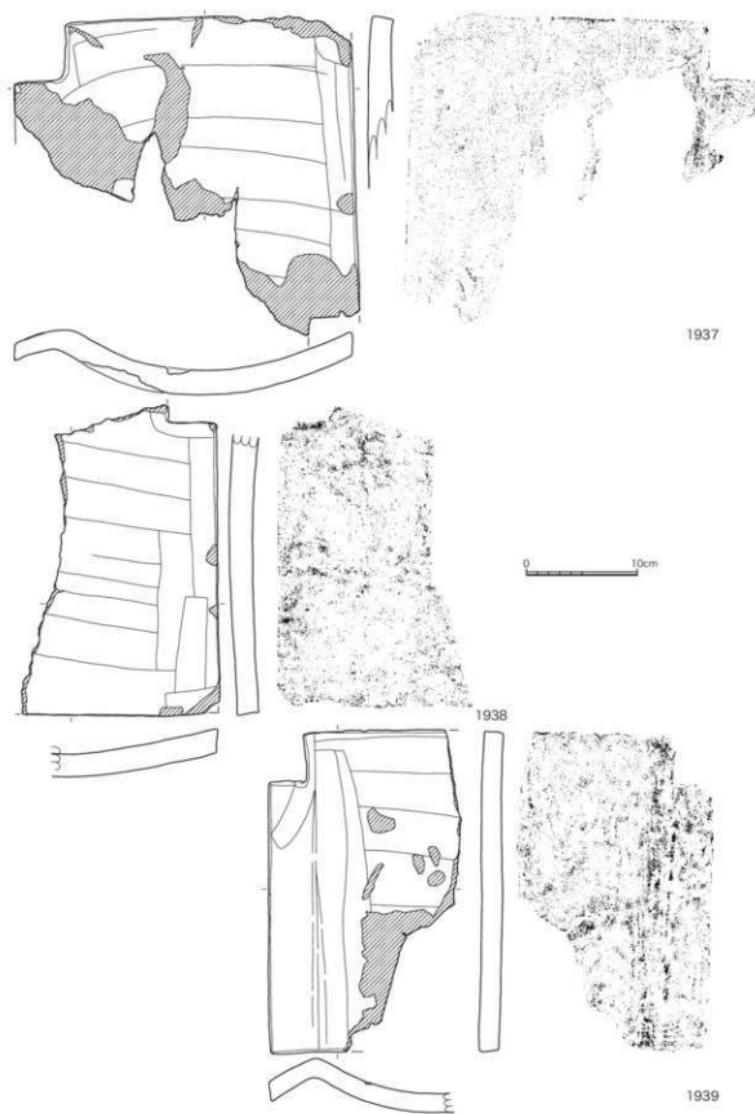


1933

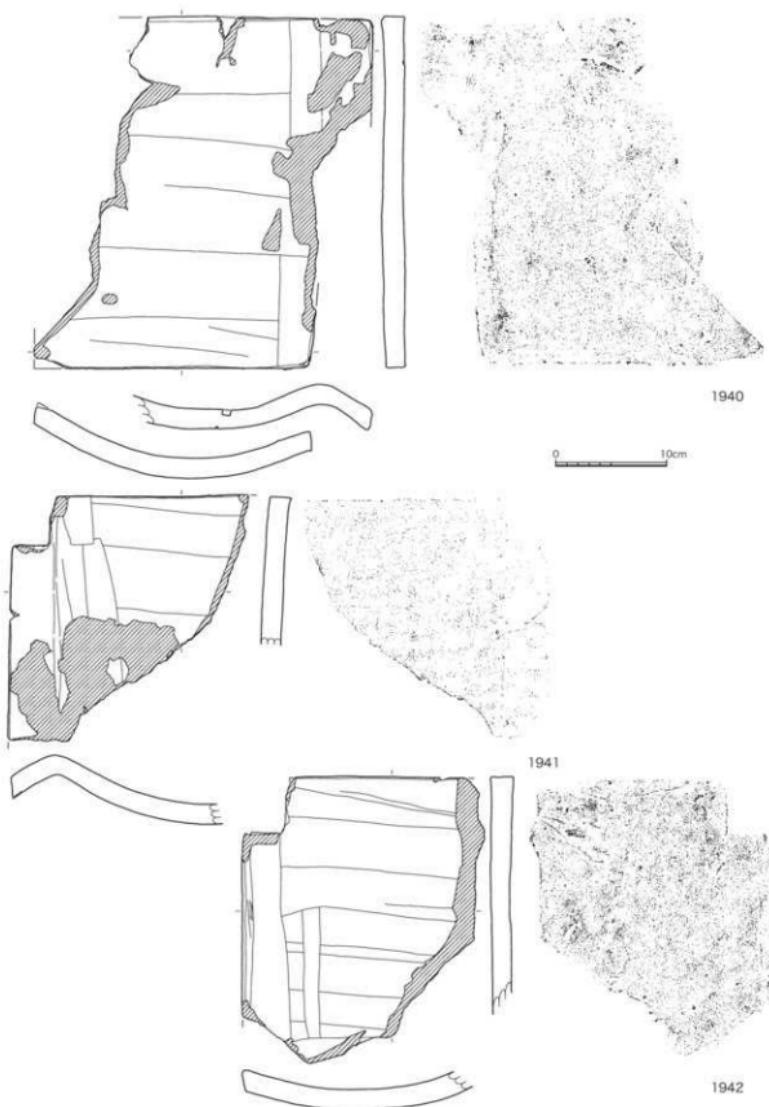
第 148 図 C 期の遺物実測図 (49) 平瓦 (3)



第149図 C期の遺物実測図(50) 平瓦(4)



第150図 C期の遺物実測図 (51) 棱瓦 (1)



第151図 C期の遺物実測図(52)棟瓦(2)

名古屋城三の丸遺跡 VII

は『清洲城下町遺跡VII』と同様に型枠による測定で11cm以下、13cm、15cm、17cm、19cm以上の5種に区分してその出土量を算定した。結果、11cm以下は6点(0.67kg)、13cmは68点(7.65kg)、15cmは338点(55.27kg)、17cmは529点(141.36kg)、19cm以上は56点(26.69kg)となっている。筒部径と厚さの関係は一定程度の相関関係が認められ、厚いものほど筒部径が大きくなる傾向を読み取ることができる。

第21項 平瓦

(第146～149図 1928～1936)

平瓦と分類できたものは、接合前破片数で15722点、総重量で約2047kgが出土した。この中には軒平瓦の平瓦部や平瓦に類似した形態の道具瓦、場合によっては飾瓦や棟瓦などが含まれている可能性が高い。大多数の平瓦は彎曲した方形板状の形態を持ち、バリエーションは少ない。ここでは代表的な事例を数点取り上げて報告とする。

平瓦は、表面に磨くようにヘラケズリ調整が施され、裏面には離れ砂が付着しているものが多い。表面のヘラケズリ調整は、まず全体を横方向に削った後に側端部を削る手法がとられている。表面上端部には平瓦を重ね置くために面取りするといった織豊期の資料によく見られる加工は施されていない。また、裏面には上端部または下端部に弧状沈線が残存するものがある。側面および上下端面はヘラケズリ調整痕が残り、一部の資料で「○」の刻印が存在するもの(1930)も認められる。

丸瓦の規模は、長さは26～33cmに分布し平均約30cmを測る。また頂幅は平均約26cm、厚さは平均約21cmを測る。厚さ別に出土量を検討すると、20～21cmの厚さで分布のピークを持つほぼ正規分布となっていることがわかる。

第22項 棟瓦

(第150・151図 1937～1942)

棟瓦と分類できた資料は、接合前破片数で165点、総重量で約30.8kgが出土した。実際には平瓦に誤って分類されたものも少なからずあると考えられ、実際にはもっと多く出土した可能性がある。ただし、丸瓦や平瓦などの本瓦葺きの瓦に比べると、胎土が緻密で灰色が濃い傾向が認められ、分類が可能な場合も存在する。

棟瓦は四隅のうち対角線の位置にある二隅に切り込みがある。表面は磨くように丁寧なヘラケズリ調整が施され、裏面は離れ砂が付着している。規模は長さと幅が両者とも31cm前後を測るもの(1937・1940)と29cm前後を測るもの(1939)がある。

第23項 飾瓦

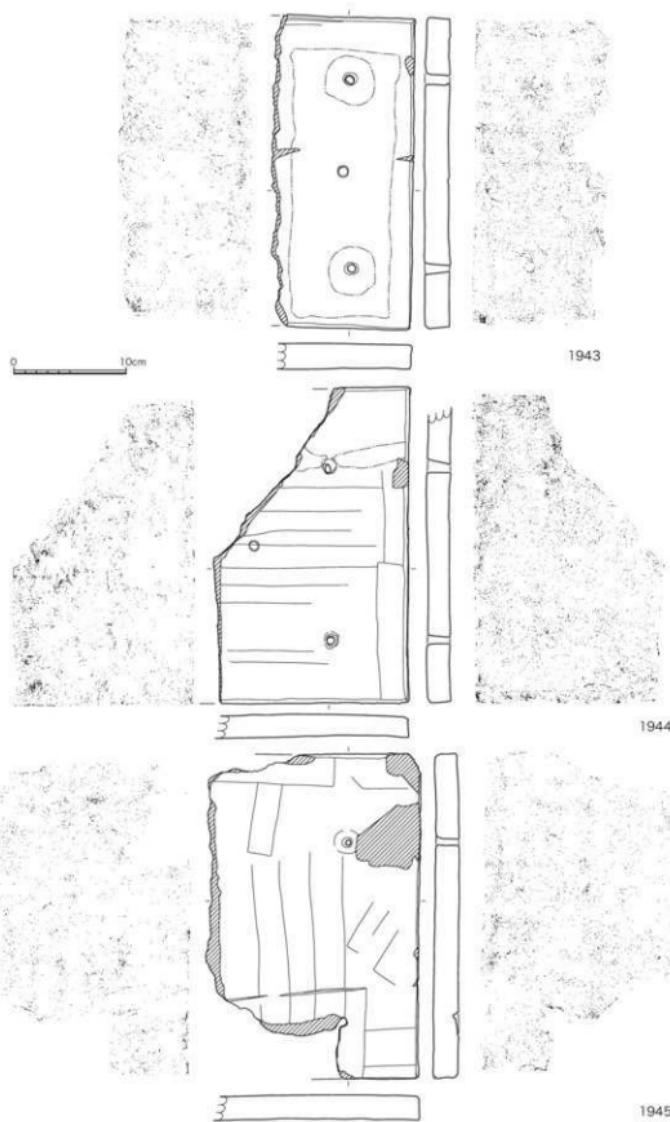
(第152～161図 1943～1980)

飾瓦と分類できたものは、接合前破片数で150点、総重量で約57.0kgが出土した。紋様が施されたものは少なく、大部分は瓦博やタイルのような使用方法が想定されるものである。表面に金箔などが施されたものは認められなかった。飾瓦はその形状から4型式に大別できる。

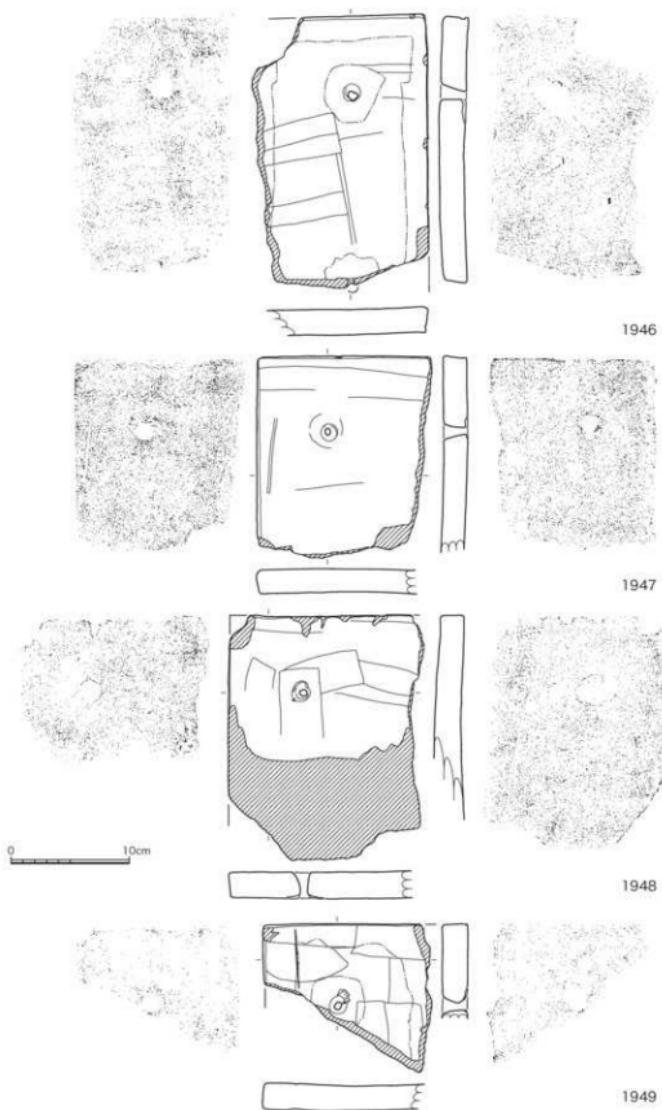
KO1型式(第152～155図 1943～1955)

平面形が方形または長方形の板状瓦で厚さが20mm前後のものである。残存状況が良好な資料で見ると長さは約28cmを測る。幅は全部が遺存する資料が無く不明であるが、多くの資料は一辺が焼成後直線的に破断された状態となっており、その状態での幅は12～19cmを測る。表面の状態からみて破断された状態で使用されたものと推測される。今回の調査では93点が確認された。1953は破断面からみて屈曲した粘土板が折損したものと考えられる資料である。

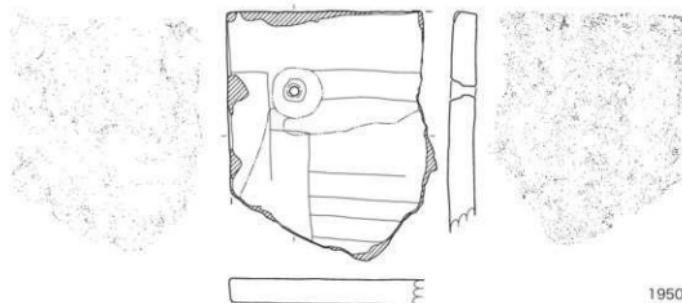
このKO1型式には上下一对の位置に孔が穿たれている。表面には黒灰色に植された部分と植さ



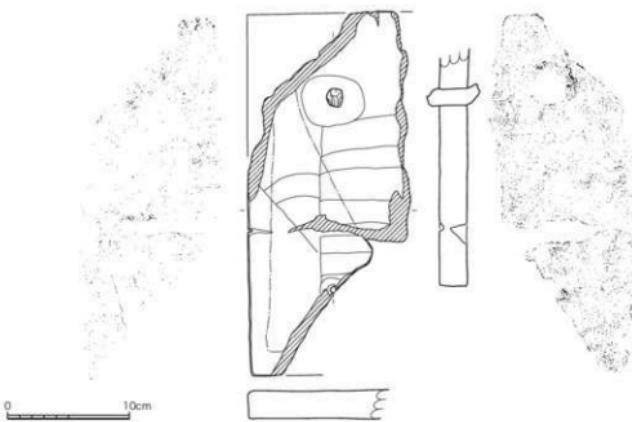
第152図 C期の遺物実測図(53) 飾瓦(1)



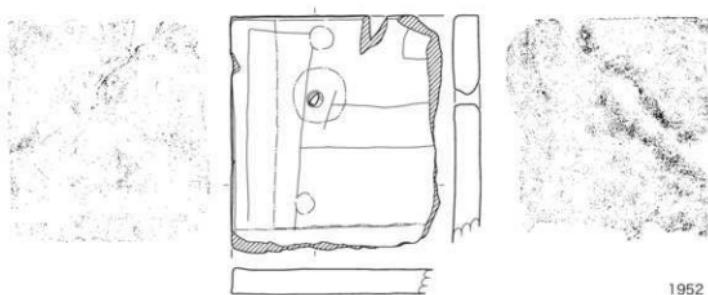
第153図 C期の遺物実測図 (54) 飾瓦 (2)



1950



1951



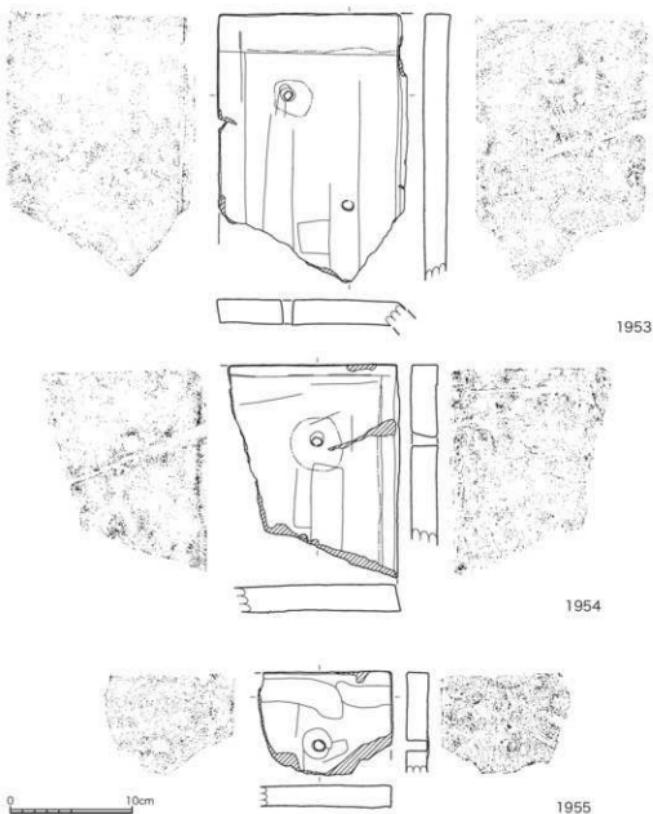
1952

第154図 C期の遺物実測図(55) 飾瓦(3)

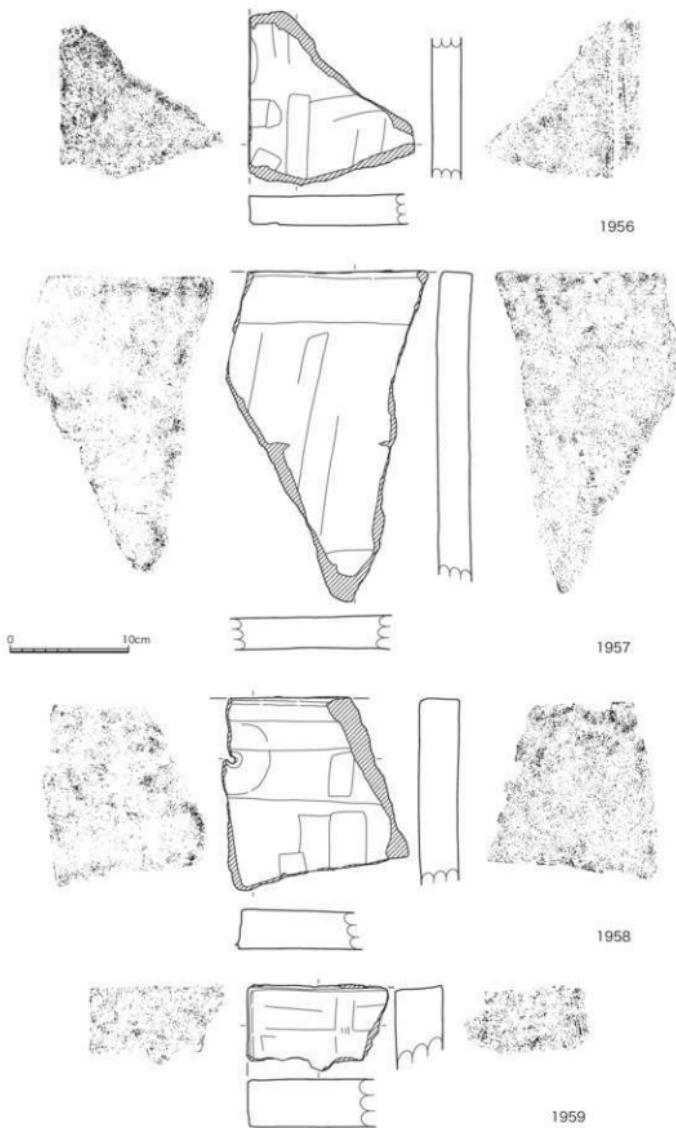
れていない灰色に発色した部分が意図的に明瞭に区分されているものが多い（図では一点破線でその境界を表記した）。1943は表面の外周部と孔の周囲のみが黒灰色に焼されている資料で、「○」の刻印が残存する。1953も表面の外周部と孔の周囲のみが黒灰色に焼されている資料であるが、外周部の色分けされた部分に刻線が認められるものである。1955は孔が貫通せず途中で止まっているものである。

K02 型式（第 156・157 図 1956～1965）

平面形が方形または長方形の板状瓦で厚さが24mm 以上のものである。残存状況が不良なものばかりで全体の形状は不明である。この型式に分類したものは厚さが様々で本来はさらに細分が必要と思われる。K01 型式のような焼し範囲を分けたものは存在せず、紋様も全く存在しない。1964 と 1965 は厚さが 4cm を超えるもので裏面が斜めに削られた形状を呈している。今回の調査

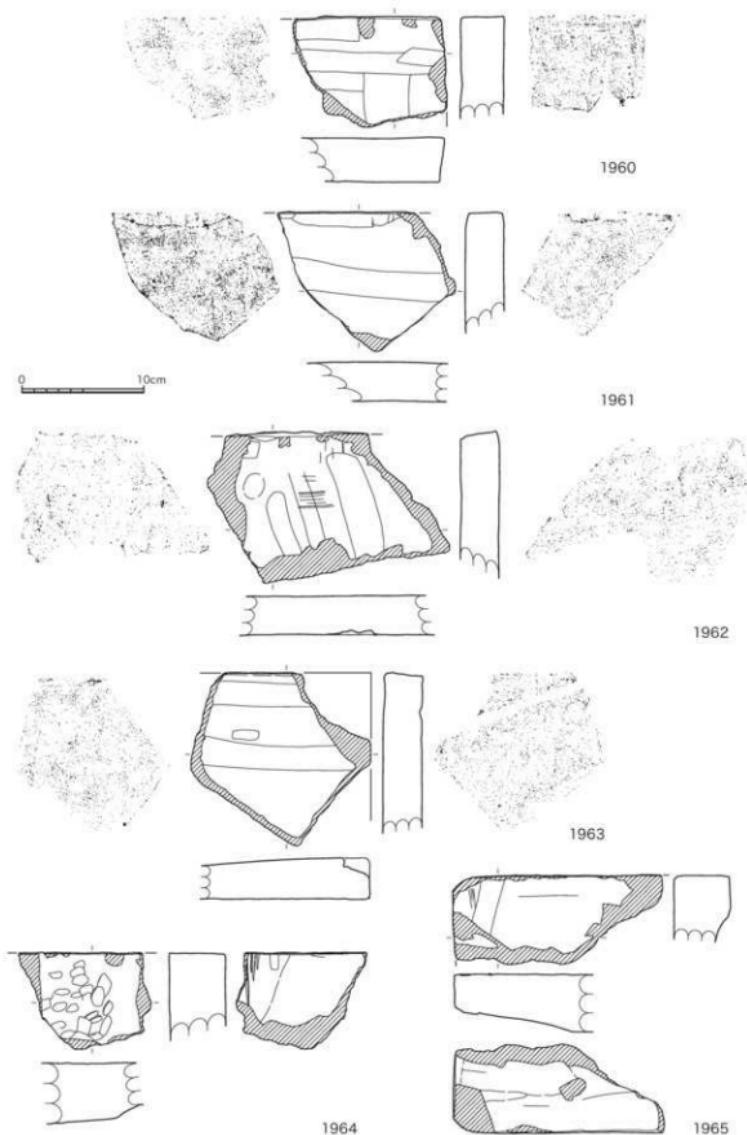


第 155 図 C 期の遺物実測図 (56) 飾瓦 (4)



第156図 C期の遺物実測図 (57) 飾瓦 (5)

名古屋城三の丸遺跡 VII

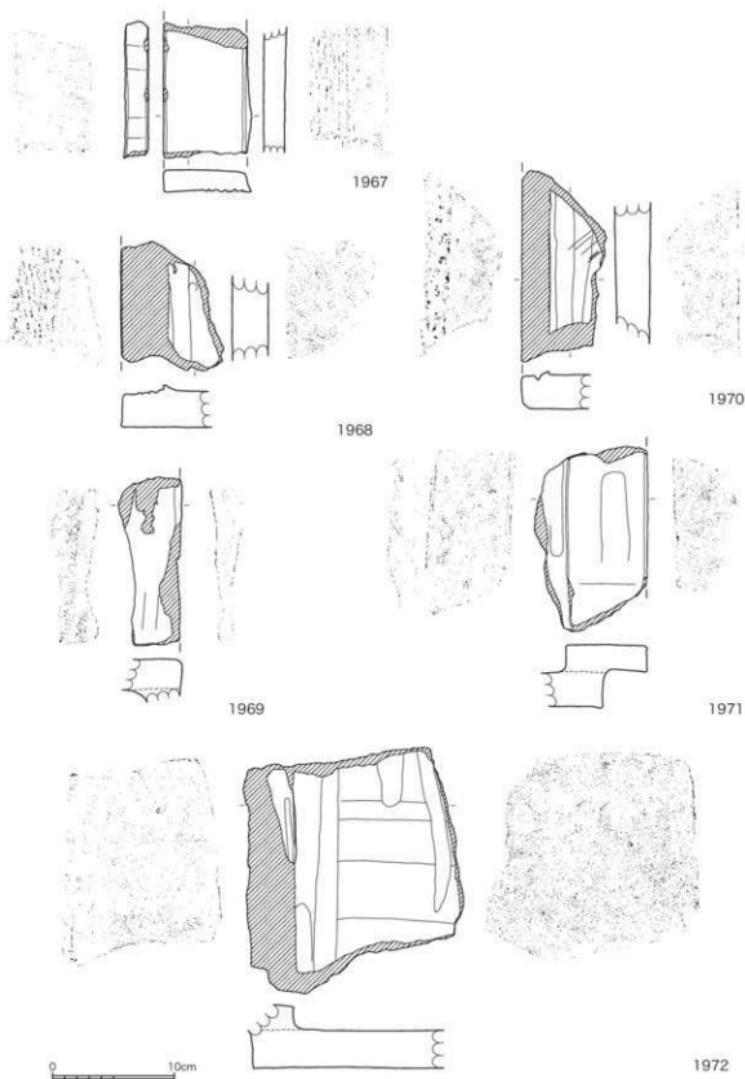


第157図 C期の遺物実測図 (58) 飾瓦 (6)



第158図 C期の遺物実測図(59) 飾瓦(7)

名古屋城三の丸遺跡 VII



第159図 C期の遺物実測図 (60) 飾瓦 (8)

では32点が確認された。

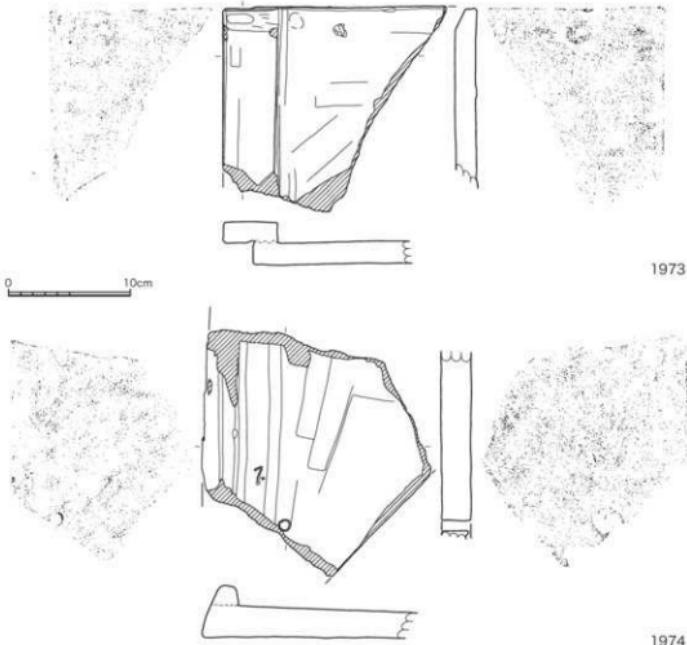
K03型式(第158～160図 1966～1974)

横断面がクランクする形状のもので、平面形は方形または長方形と推測される。板状粘土の一辺上面に細長い長方形板状粘土を繰り合わせたもので、接合面に接合を容易にするための傷(刻線)が施されている(1967・1968・1970)。K01型式のような焼し範囲を分けたものは存在せず、紋様も全く存在しない。今回の調査では16点が確認された。1966はK03型式の中で最も残存状況が良好なもので、2箇所に穿孔が認められる。側端面には弧状に焼し範囲が分かれた部分が存在しており、平瓦系統の瓦と重ね焼かれたものと推測される。1974はK03型式とは異なり端辺に突帯が取り付いている。穿孔が認められ、「下」と記

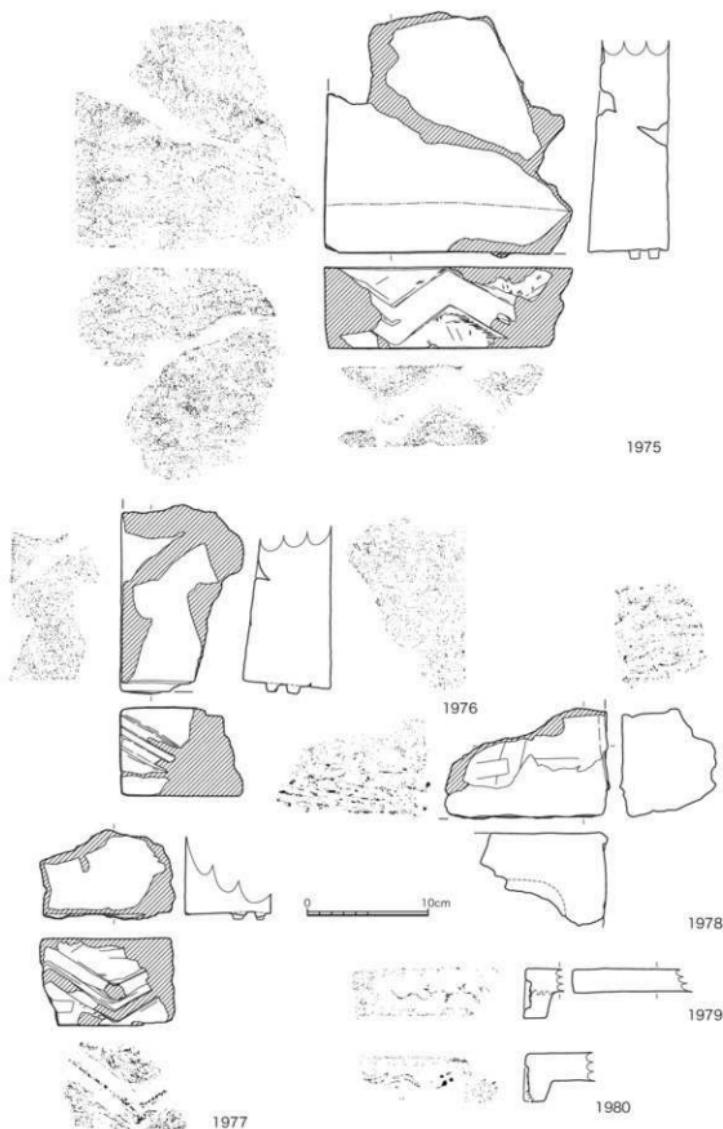
された刻書が存在する。

K04型式(第161図 1975～1980)

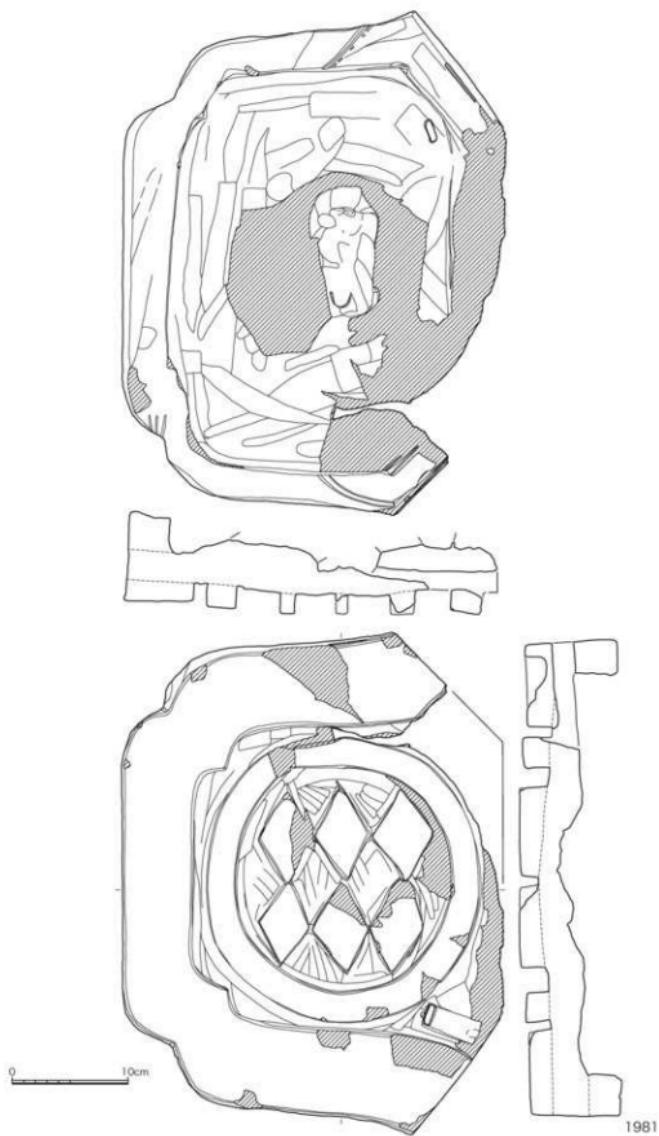
側面に紋様が施されたタイプの飾瓦をK04型式と分類する。このタイプは2種類が存在し、厚さが6cm前後の粘土板の側面に二重線の鋸歯紋が施されたもの(1975～1977)と、板状粘土の一辺に軒平瓦状の頭を付けて側面を内区と外区に分け内区に紋様が施されたもの(1979・1980)がある。前者は粘土を貼り付けて二重突帯を形成している。一方、1979は中心飾りが不明であるが4反転の唐草紋が施されている。1980も中心飾りが不明であるが、唐草紋が上下に多数存在するものである。



第160図 C期の遺物実測図(61) 飾瓦(9)



第161図 C期の遺物実測図 (62) 飾瓦 (10)



第162図 C期の遺物実測図(63)鬼瓦(1)

第 24 項 鬼瓦

(第 162 ~ 164 図 1981 ~ 1993)

鬼瓦と分類できたものは総数で 14 点を数える。紋様の全体が判明するものは少なく、大部分は小破片となっている。これらはほとんどが、粘土板の表面に紋様を貼り付け裏側には外周部に厚い突帯を付けたものと考えられる。結果として、外周部端部の断面形は L 字状に屈曲する形となっている。

1981 は SD12 から出土したほぼ完形の鬼瓦である。粘土板の表面に粘土を貼り付けて外区と内区の紋様を形成し、裏面外周部に厚い突帯を付けている。表面の中心に丸に六菱紋を形作り、下部に釘孔が設けられている。丸に六菱紋は調査区付近に屋敷が存在したといわれる寺西藤左衛門の家紋である。1982 は鬼瓦右袖端部の破片、

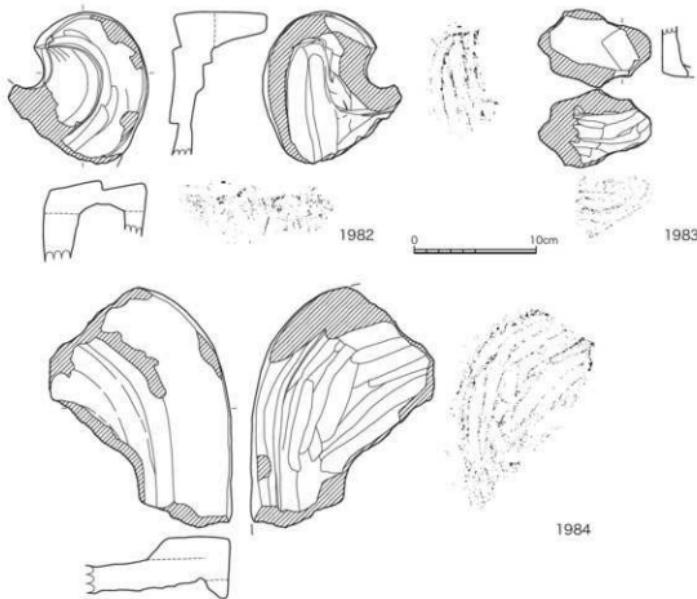
1989 は鬼瓦左袖端部の破片と推測されるもので、それぞれ雲紋（渦巻き状紋）が形成されている。1984 と 1988 は鬼瓦右上部の破片、1993 は鬼瓦左上部の破片で、裏面はノミ状工具で削られており。1985 は表面に大きな珠紋が、1987 は表面に葉紋が施されている。1990 は突起を有する粘土板で表面に波状の刻線が施されている。

第 25 項 菊丸瓦 (第 165 図 1994 ~ 2002)

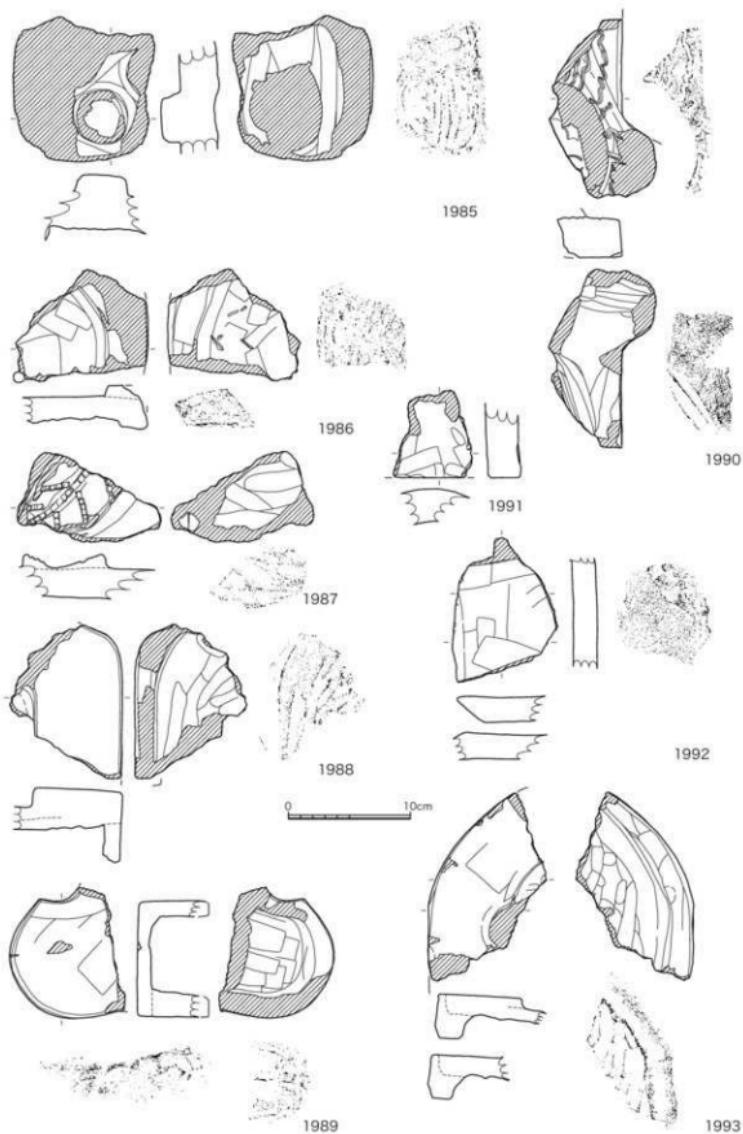
菊丸瓦は棟込瓦の一種で、紋様の存在する瓦当面と棟に差し込まれる筒部によって構成される。全て瓦当面の直径は約 9cm を測り、16 花弁の菊花紋が施されている。この瓦当面の菊花紋の中心部の円紋の形状から 3 類に分類が可能である。

Z01 型式 (第 165 図 1994 ~ 1998)

16 花弁の菊花紋の中心にある円紋に 9 個の凹



第 163 図 C 期の遺物実測図 (64) 鬼瓦 (2)



第164図 C期の遺物実測図 (65) 鬼瓦 (3)

部を持つものである。円紋の直径は約2cmを測る。今回の調査では5点が出土した。

Z02型式（第165図1999～2001）

16花弁の菊花紋の中心にある円紋に4個の方形凹部を持つものである。円紋の直径は約1.5cmを測る。今回の調査では3点が出土した。

Z03型式（第165図2002）

16花弁の菊花紋の中心にある円紋に1個の凹部を持つものである。円紋の直径は約1cmを測る。今回の調査では1点が出土した。

第26項 面戸瓦（第165図2003・2004）

面戸瓦は瓦を葺いた場合に地葺瓦（平瓦）と棟瓦の間にできる隙間を埋める瓦の総称である。今回の調査では、横長の蟹面戸瓦が1点出土した（2003）。この他に、表面に櫛目紋を持つ板状瓦（2004）があり、これも面戸瓦の可能性がある。

第27項 輪違い瓦

（第166・167図2005～2018）

輪違い瓦は棟込瓦の一種で、丸瓦の形態を短く小型にしたものである。今回の調査では44点が出土した。これらは大きく4類に分類できる。

輪違い瓦A類（第166・167図2005～2007・2012～2015）

平面形が台形状になるものである。上部の高さが低く下部が高くなっている。23点が存在する。裏面にはほとんどがコビキB手法の調整痕が残存する。最大幅が約14cmを測るもの（2005など）と約10cmを測るもの（2015）がある。2014は中央部に細長い孔が穿たれたものである。

輪違い瓦B類（第166・167図2011～2016～2018）

丸瓦胴部のみを切断したような形のものである。斜めにヘラケズリ調整された頭部を持つ、小口裏面のみに面取りが施されている。12点が存在する。裏面にはコビキB手法の調整痕が残

存する。

輪違い瓦C類（第166図2009）

平面形が六角形状になるものである。裏側面のヘラケズリ調整の範囲が広くなっている。4点が存在する。

輪違い瓦D類（第166図2008・2010）

平面形が平行四辺形状になるものである。丸瓦胴部のみを斜めに平行な形で切断したような形となる。5点が存在する。裏面にはコビキB手法の調整痕が残存する。

第28項 丸瓦系道具瓦

（第168図2019～2026）

輪違い瓦などを除く、丸瓦の形状をベースにした様々な形態の瓦を丸瓦系道具瓦として一括り報告する。

丸瓦系道具瓦1類（第168図2019・2020・2025）

丸瓦を斜めに切断した形のものである。裏面に残された調整痕は丸瓦とほぼ同様なものが残存しており、基本的に丸瓦を焼成前に切断して製作されたものと考えられる。

丸瓦系道具瓦2類（第168図2023）

丸瓦の裏面に粘土板で仕切りを設けたものである。いわゆる谷丸瓦と呼ばれるものである。

丸瓦系道具瓦3類（第168図2021）

通常の丸瓦よりも器壁が著しく薄いものである。

丸瓦系道具瓦4類（第168図2024・2026）

丸瓦の形状に穿孔が施された形のものである。2024は行基葺丸瓦の頭部を持つと思われる丸瓦の形状に細長い孔が穿たれているものである。2026は比較的大きな円形の孔が存在するものと考えられる。

第29項 平瓦系道具瓦

（第169・170図2027～2038）

平瓦の形状をベースにした様々な形態の瓦を平瓦系道具瓦として一括し報告する。全体の形状を明らかにできる資料は少なく、実際には分類は難しい。

平瓦系道具瓦 1 類 (第 169・170 図 2027 ~ 2029・2034)

平瓦を斜めに切断したものの中で、切断された辺に粘土板で仕切りを設けたものである。仕切り部の下端は直線的に作られている。

平瓦系道具瓦 2 類 (第 170 図 2035・2038)

平瓦を斜めに切断したままの形態のものである。基本的には平瓦を焼成前に切断して製作され

たものと考えられる。

平瓦系道具瓦 3 類 (第 169 図 2030・2033)

平瓦の一辺が緩やかに彎曲し上面に突帯を取り付けた形状のものである。2033 には穿孔が認められる。

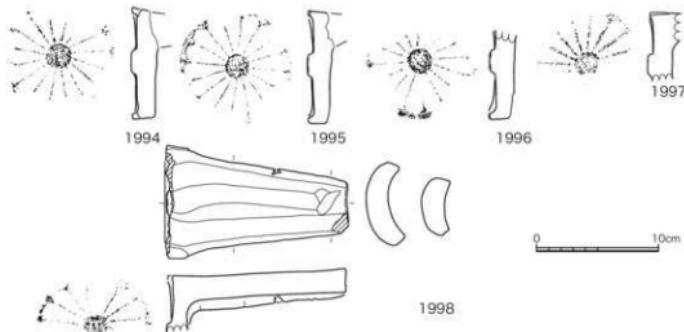
平瓦系道具瓦 4 類 (第 170 図 2037)

平瓦の上面に粘土を貼り付けて突帯を設けて水返しにしたものである。軒平瓦の一部である可能性も考えられる。

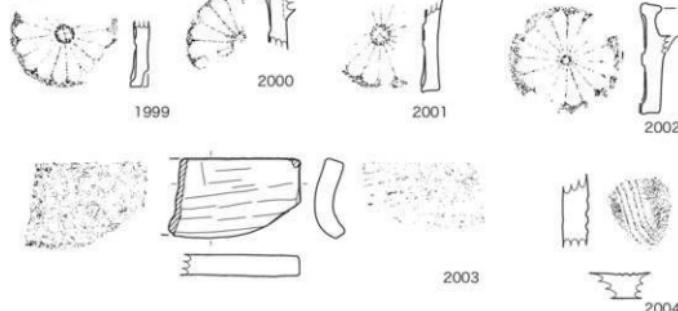
平瓦系道具瓦 5 類 (第 170 図 2036)

通常の平瓦に比べ器壁が非常に薄いものである。

Z01型式



Z02型式



Z03型式

第 165 図 C 期の遺物実測図 (66) 菊丸瓦

平瓦系道具瓦 6 類（第 169 図 2031・2032）

全体の形状は不明であるが、横断面形が八角形の筒状になるものである。穿孔が施されている。

第 30 項 陶器瓦（第 171～172 図 2039～2059）

今回の調査では、大量の桶し瓦の他に瀬戸窯産と推定される陶器瓦が 29 点出土している。ここではこれら陶器瓦を一括して報告したい。

陶器瓦は 1 点のみ白色の長石釉が施された（2056）。他は全て緑釉が施された緑釉陶器瓦である。器種は丸瓦、平瓦、飾瓦（瓦塙）などがある。2039～2048 は緑釉陶器丸瓦である。頭部は玉縁を有するもの（2039・2040）であり、尻部の横断面形は方形となっている（2046～2049）。瓦を葺いた時に表に見える部分のみが施釉され、側面や裏面は露胎となっている。裏面の露胎部には墨書が存在するものがあり、2041 は「中」、2042 は「西カ」と読める。2050～2054 は緑釉陶器平瓦である。2055 と 2056 は部位が特定できない資料であるが、2055 は軒平瓦の棟である可能性が考えられる。2057～2059 は飾瓦（瓦塙）である。2057 はわずかに曲面となっており、鬱斗瓦の可能性も捨てきれない。2058 は平面形が長方形の板状瓦で表面は緑釉が約半分塗布されている。2059 は平面形が直角二等辺三角形の厚手の飾瓦で、床面に敷き並べられた敷瓦と考えられる。表面に緑釉が施され、裏面は露胎で「水野

久之丞（花押）」と記された墨書が存在する。

水野久之丞正勝は寛永 19（1642）年から寛文 12（1672）年まで御林奉行に任じられた人物である。瀬戸上水野村にある穴田窯では様々な陶器瓦が生産されていることが判明しており、穴田 1 号窯跡から出土した灰釉無紋の飾瓦（敷瓦 II 類）にも「水野久之丞」と記されたものがある。このことから敷瓦 II 類は水野久之丞の注文によって穴田窯の陶工が焼成したと考えられ、瓦類の生産に水野久之丞が大きく関与した可能性は否定できないだろう。藤澤良祐はさらに検討を進め、水野久之丞が上水野村の窯業生産の直接の管掌者であった可能性が極めて高いと論じている（藤澤 1998）。したがって、今回出土した墨書瓦は水野久之丞の注文により穴田窯で生産されたものである可能性が高く、逆に穴田窯で生産された瓦類の一部が御屋形などにも利用されていたことが推測される。既に、穴田窯で生産された瓦類は尾張藩関係の建造物に使用されたことが判明しており、穴田窯の御用窯的な性格が推定されてきたが、今回の事例はそのことを追認する形となったといえる。

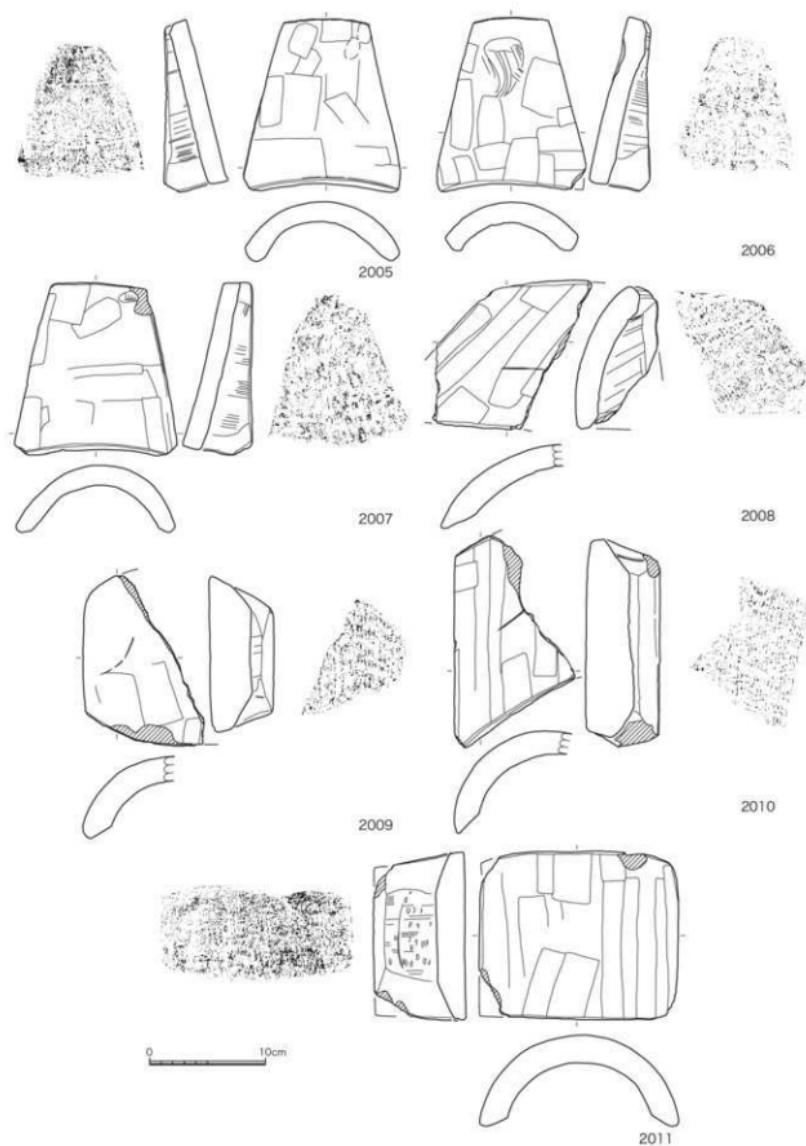
引用文献

鈴木正貴編 2002『清洲城下町遺跡 VII 愛知県埋蔵文化財

センター調査報告書 第 99 集

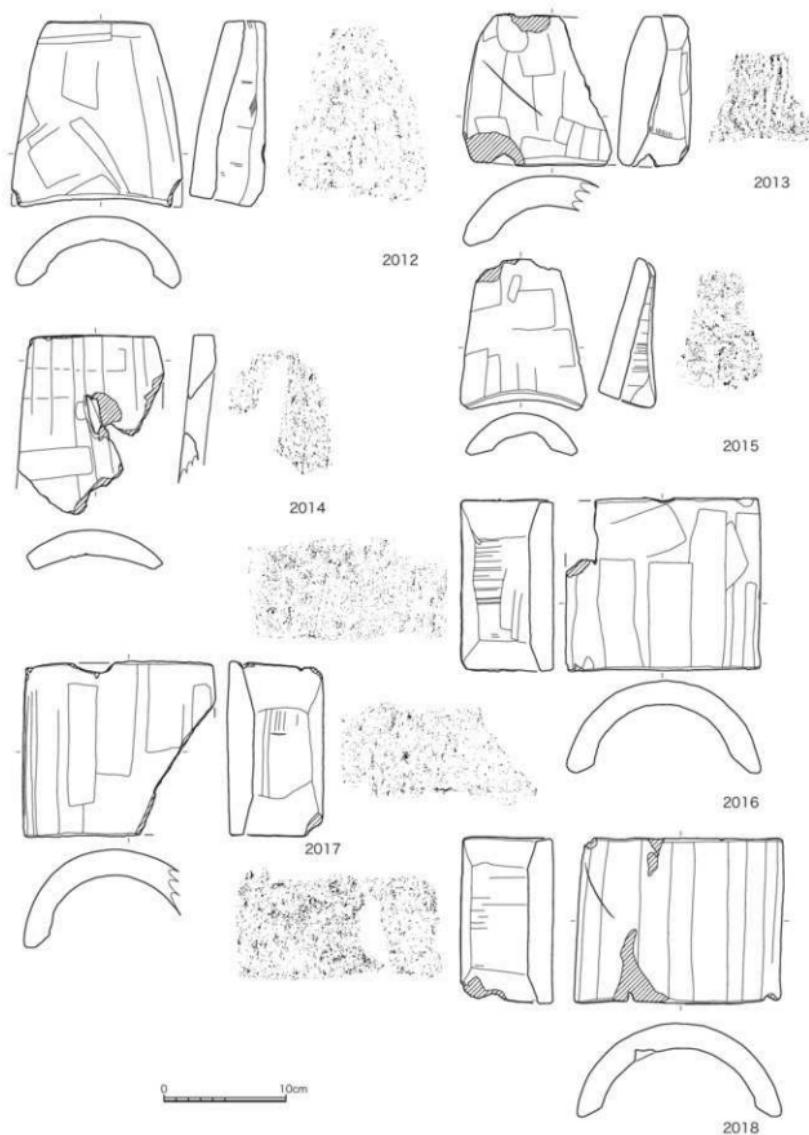
藤澤良祐編 1998『瀬戸市史 陶磁史篇六』

遺物

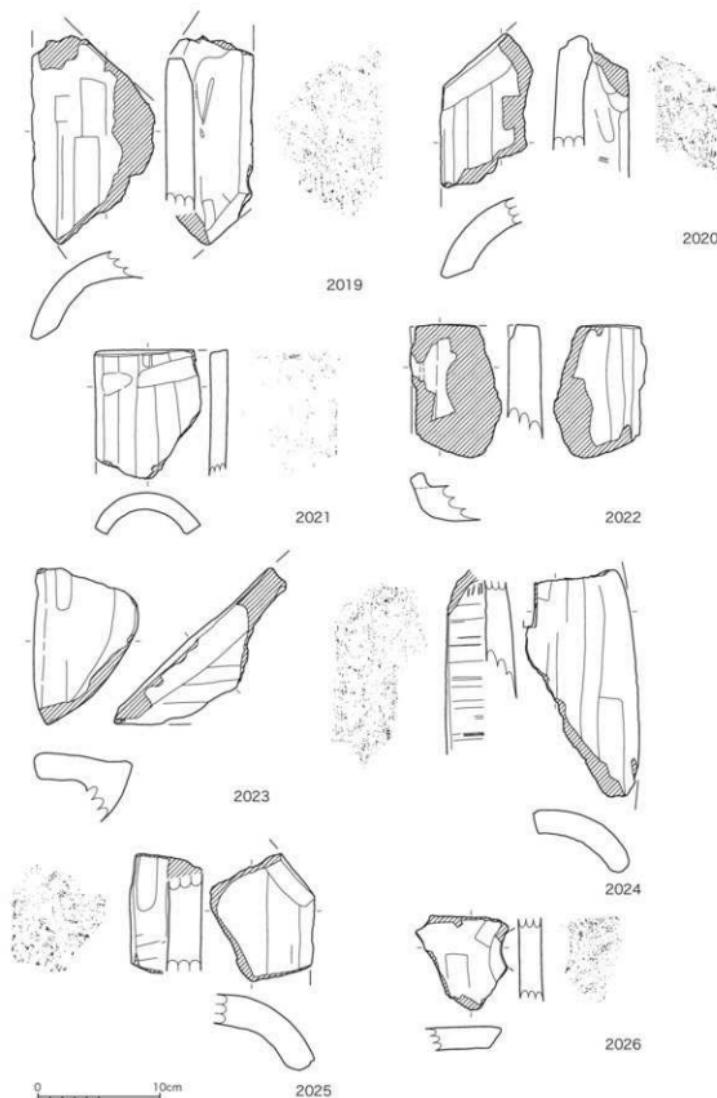


第166図 C期の遺物実測図(67) 輪走い瓦(1)

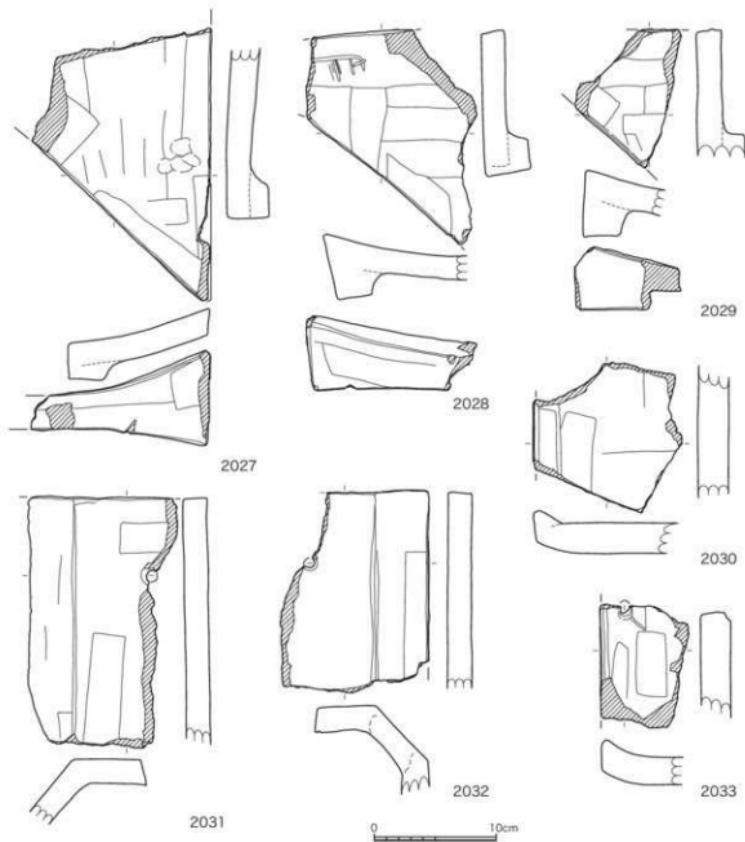
名古屋城三の丸遺跡 VII



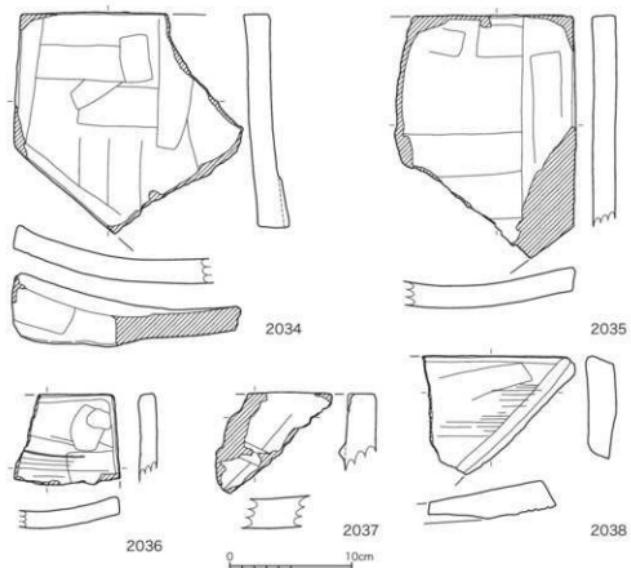
第167図 C期の遺物実測図 (68) 輪廻い瓦 (2)



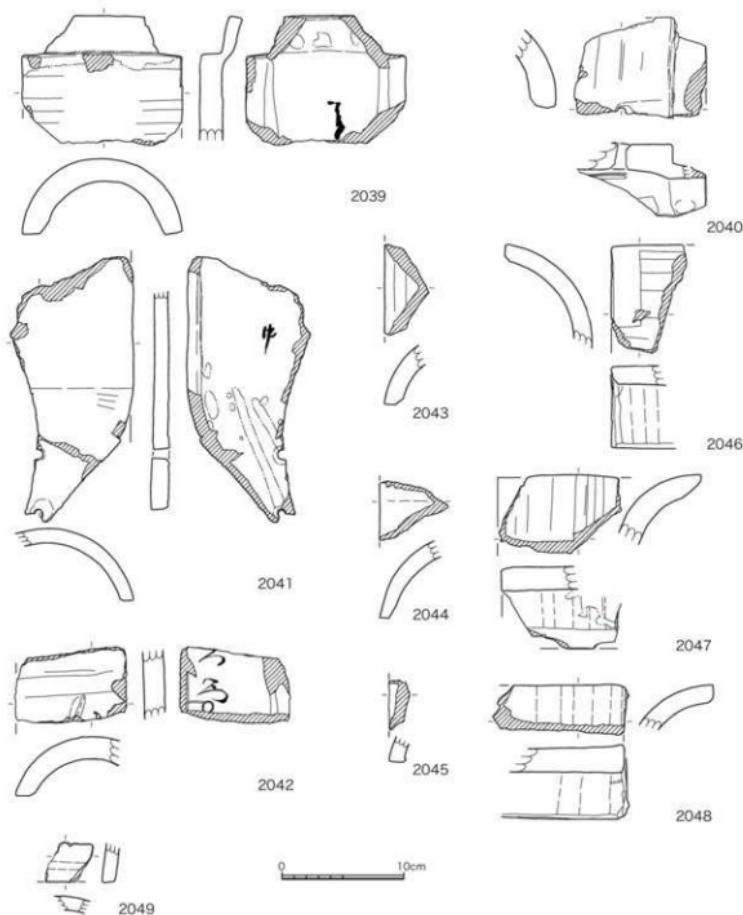
第168図 C期の遺物実測図 (69) 丸瓦系道具瓦



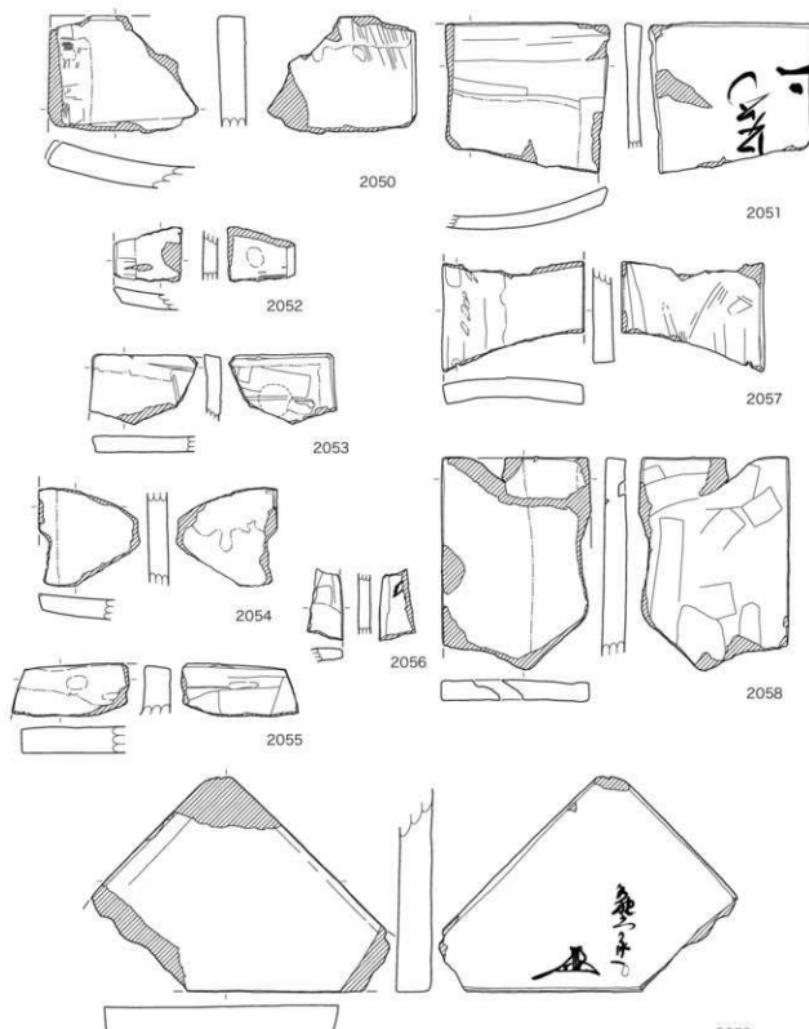
第169図 C期の遺物実測図 (70) 平瓦系道具瓦 (1)



第170図 C期の遺物実測図(71) 平瓦系道具瓦(2)



第171図 C期の遺物実測図 (72) 緑釉陶器瓦 (1)



0 10cm

第172図 C期の遺物実測図 (73) 緑釉陶器瓦 (2)

第5節 D期の遺物

D期は明治時代から昭和時代中頃まで（1874年頃～1945年頃）の段階である。遺物には瀬戸美濃窯産陶磁器・常滑系窯産陶器などの焼物類の他に、ガラス製品や石製品や金属製品など多様な種類の製品がある。ここでは主要な遺構出土資料を中心に記述するが、包含層中出土遺物に注目すべき一括資料が存在するので、これについても項目を設けて報告したい。

第1項 SK96 出土遺物

（第173～176図 2060～2182）

SK96からは瀬戸美濃窯産磁器やガラス製品を中心に433点が出土した。金属製品や板ガラスなどを除く大部分の製品が完形品であることが、この資料群の最大の特徴となっている。状況からみて、埋納時点では遺物は全く破損していなかつたと思われる。

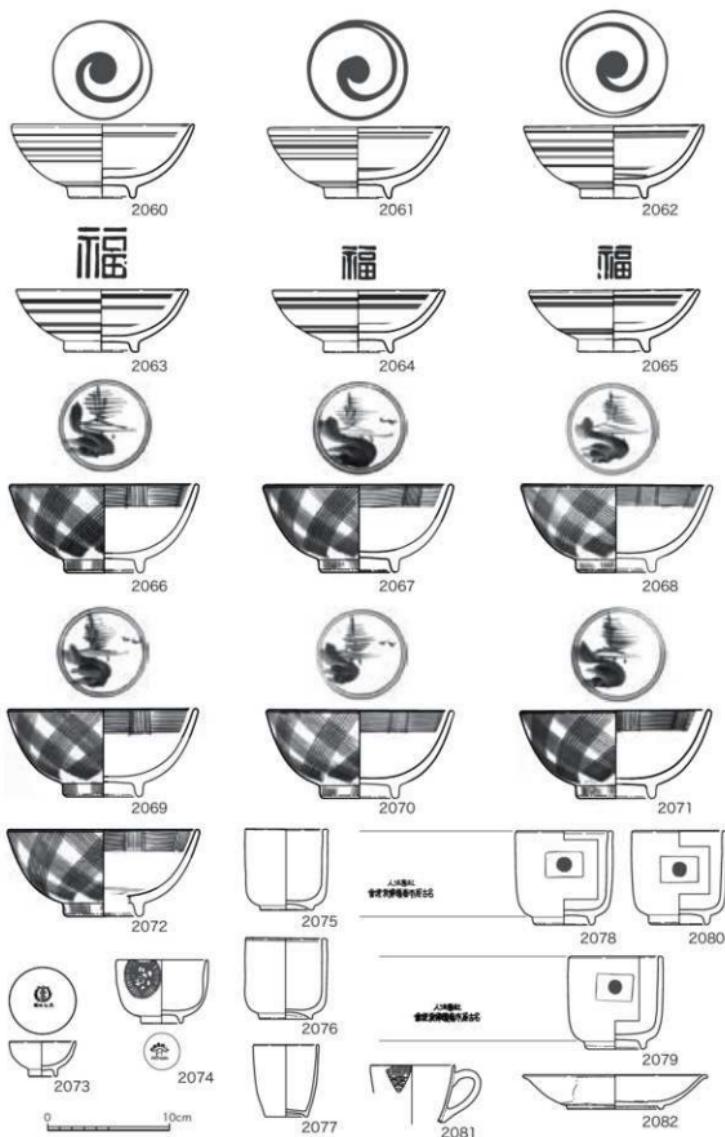
磁器には大碗（井戸：2060～2072）、湯呑碗（2075・2076・2078～2080）、小碗（2073・2074）、小杯（2077）、ティーカップ（2081）、白磁受皿（2082）、色絵徳利（2086）、青磁灰皿（2093）、白磁汚物入れとその蓋（2094・2095）などがある。大碗は口径が15cm前後を測るもので3種存在する。大碗1類（2060～2062）は体部内外面にコバルト・鉄・酸化クロムで囲線が描かれ、見込み（底部内面）に酸化クロムで巴紋が施されているものである。大碗2類（2063～2065）は体部内外面にコバルトと酸化クロムで囲線が描かれ、見込みにコバルトで福字紋が施されているものである。大碗3類（2066～2072）はコバルトで体部内外面が施紋され、見込み（底部内面）もコバルトで山水紋が施されているものである。湯呑碗は白磁のもの（2075・2076）と上絵付けのもの（2078～2080）がある。後者は赤色上絵で日の丸紋を、青色上絵で「社

團法人名古屋市看護婦救援会」と記されている。2073は内面に上絵で「正宗 高田吟醸」と記され、2074は体部外面に上絵で印刷された施紋があり、高台裏には「不二硬質陶器 FT. FUJICHIU」と書かれている。

硝子製品にはノップ硝子（2083）と栓（2084・2085）があり、後者は蝶子が切られている。陶器には植木鉢が存在する。2087は瀬戸美濃窯産の製品でなまこ釉が施されている。2088～2092は常滑窯系の植木鉢で機械ロクロにより成型されている。規模から口径が10.4cmのもの、12.0cmのもの、15.4cmのもの、26.6cmのものに区分できる。2088の口縁部外面に墨書きで「西七番病室」と記されており、陸軍名古屋病院の病室で使用された植木鉢と特定できる。現在は入院病室での植木鉢は「根付く」というイメージから忌避される傾向があるが、この資料では植木鉢が一定量使用されていたことを窺い知れる。

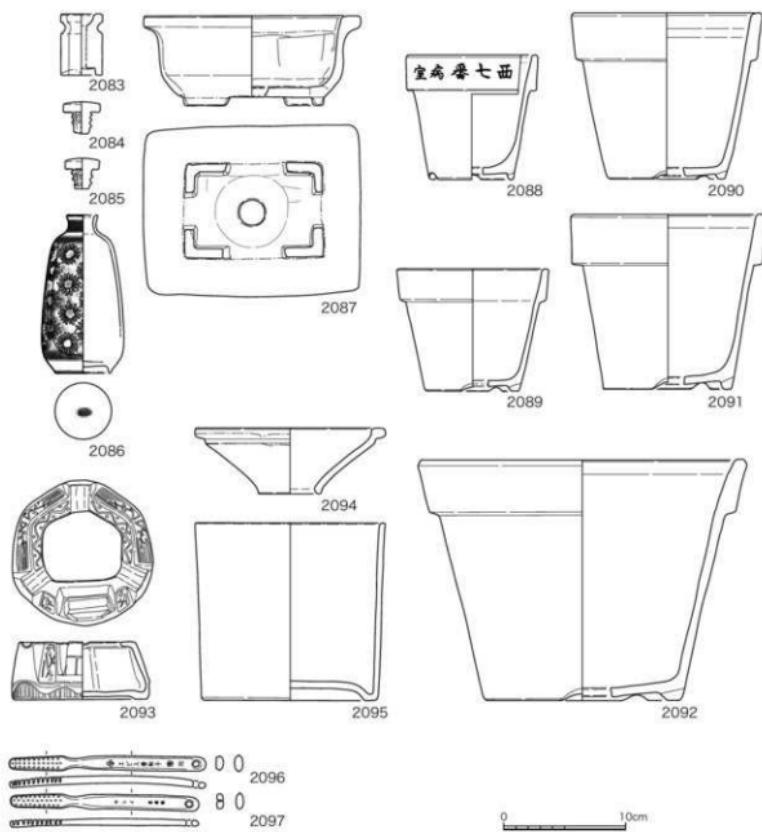
ガラス製品は陶磁器類よりも多種多様で量も多く、瓶類、コップ（2126・2127）、試験管、スライドガラス、板ガラスなどがある。これらは無色透明なガラスから青色や緑色に発色した半透明なガラスで作られたものがある。これらはガラスに含有された金属元素によって異なる。

ビン類にはビール瓶（2098～2100）、ウィスキー瓶（2101）、牛乳瓶（2102～2104）、みかん水瓶（2105）、ラムネ瓶（2107）、インク壺（2109・2113）、食卓壜瓶（2114）、糸瓜コロン瓶（2116）、薬瓶（2106・2110～2112）、軟膏壺（2117～2124）などがある。ガラス瓶類は型作りで製作されたと考えられ、体部の上端から下端まで対の位置に2本の型の合わせ目の突線が残存するものが大半を占める。この特徴からこれらの瓶はその外形を縦に半分に割った状態の型で成形されたと思われる。例えば2128～2142

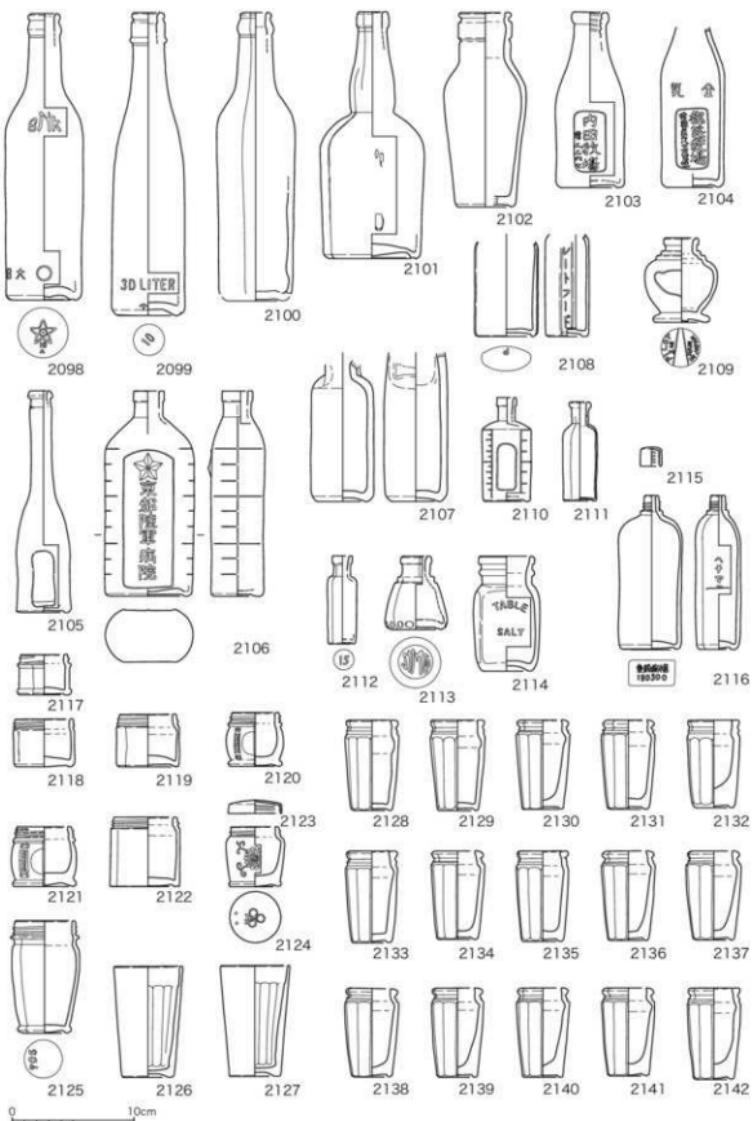


第173図 D期の遺物実測図(1) SK96(1)

名古屋城三の丸遺跡 VII



第174図 D期の遺物実測図 (2) SK96 (2)



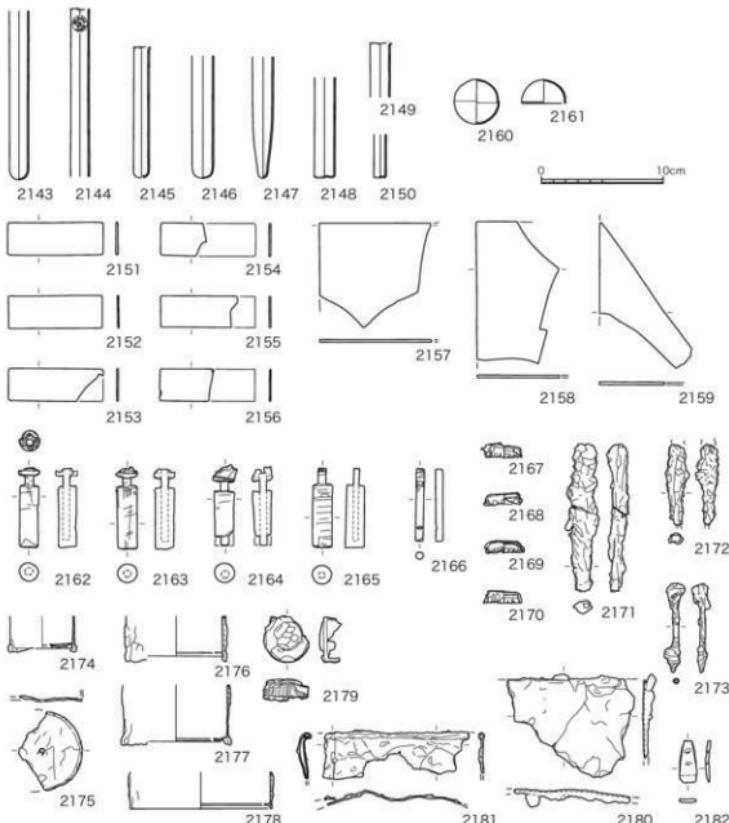
第175図 D期の遺物実測図(3) SK96(3)

名古屋城三の丸遺跡 VII

は用途を特定できない小壺で、体部が多角柱状に面取りされておりほぼ同じ形状の合わせ型で成形されているが、器壁の厚さは各々異なっている。2132などは図の右側にガラスが著しく偏っていて底部の厚さは均一ではない。また、口縁部と底部が体部とは別の型もしくは別の製法で製作されたものがあり、これに着目して分類することができる。1つは底部が別型で製作されたもの

(2098など)、もう1つは口縁部と底部が別型で製作されたもの(2117など)である。

2098は「大日本麦酒株式会社」と陽刻されている。この会社は1943年～1945年まで操業されていた企業で製造年が特定される。2103は「内田牧場」、2104は「都築牧場」と記されるが、この報告では牧場を特定するまで至ることができなかった。2106は「京都陸軍病院」と陽刻された



第176図 D期の遺物実測図(4) SK96(4)

薬瓶である。陸軍病院間での物資の流れを窺い知ることができる資料である。2109は陽刻からバイロット製インク壺と思われる。2116は側面に「ヘチマコ」、底部に「登録商標」と記されている。試験管は底部が球形の丸底となるもの(2143・2145・2146)、先端が緩やかに尖り丸底となるもの(2147)、平底のもの(2148・2150)に分類できる。2144の口縁部付近には白色インクによるプリントが存在する。2151~2156は縁が透明な無色の板ガラスで作られたスライドガラスである。

プラスチック製品には、ガラス瓶の蓋(2115・2123)、蓋(2179)、歯ブラシの柄(2096・2097)、ピンポン球(2160・2161)がある。2096には「エビス歯刷子」と記されている。金属製品には、鉄製王冠(2167~2170)、鉄製釘(2171~2173)、鉄製円筒容器(2174~2178)、鉄製箱(2181・2182)がある。王冠は2098などのビール瓶に伴うものと推測される。鉄製円筒容器は電池の外周部である可能性が考えられる。この他の素材の製品としては、2162~2166は黒色の心棒に黒色の物質が円柱状に取り巻くもので、物質の素材同定を行っていないか乾電池の中身と想定される。2182は革製品で鞆の留め具と考えられる。

これらSK96出土遺物は多様な種類の遺物がほぼ完全な形で一定量存在していることから、再利用を前提とした埋納遺構に保管された一括資料とみることができる。資料の内容は大碗やコップや歯ブラシなど日常生活用品、薬瓶や試験管やスライドガラスなど病院に直接関連する物品、汚物入れや墨書き木鉢など病室の生活を窺わせる資料など、1943年頃に急造された名古屋陸軍病院第二分院の病室に関連する一括資料として位置づけられる。

問題はこうした物品が埋納された経緯と再利用されなかった事情である。当時、軍の諸施設での

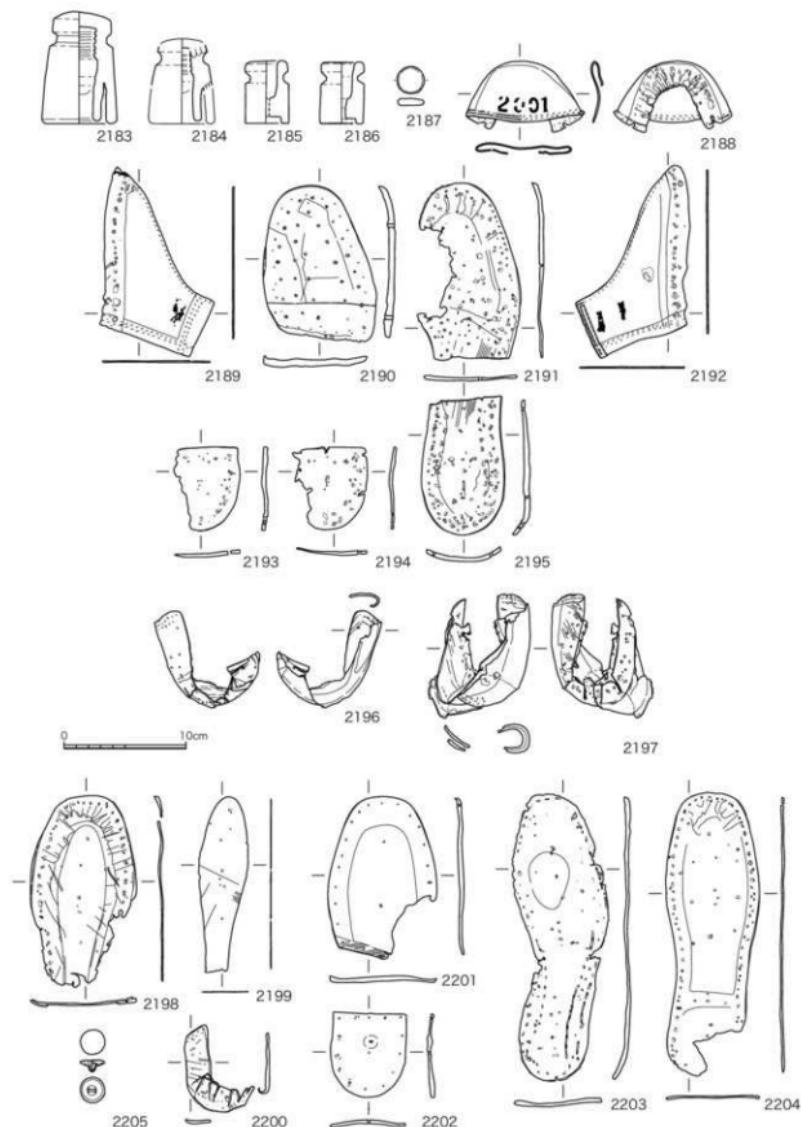
物品は戦況が逼迫する中相当に厳しく管理統制されていたと思われ、上官による抜き打ちの持ち物検査が頻繁に行われていたといわれる。品物が欠落すると厳しい処分が下されるため品物の不足が生じた時のため員数外の備品や持ち物をなんとか確保しておき、検査の際にその余分に確保した品物を一時的に隠匿したことが様々な証言によって明らかになっている。SK96は検査の時に地下に穴を穿ち物資を隠匿した土坑で、物資を隠匿した隊が急遽移動などしたためその存在が忘れ去られたものと推測される。こうした事情を鑑みると、1943~1945年の一括資料と推測される。

第2項 SK56出土遺物

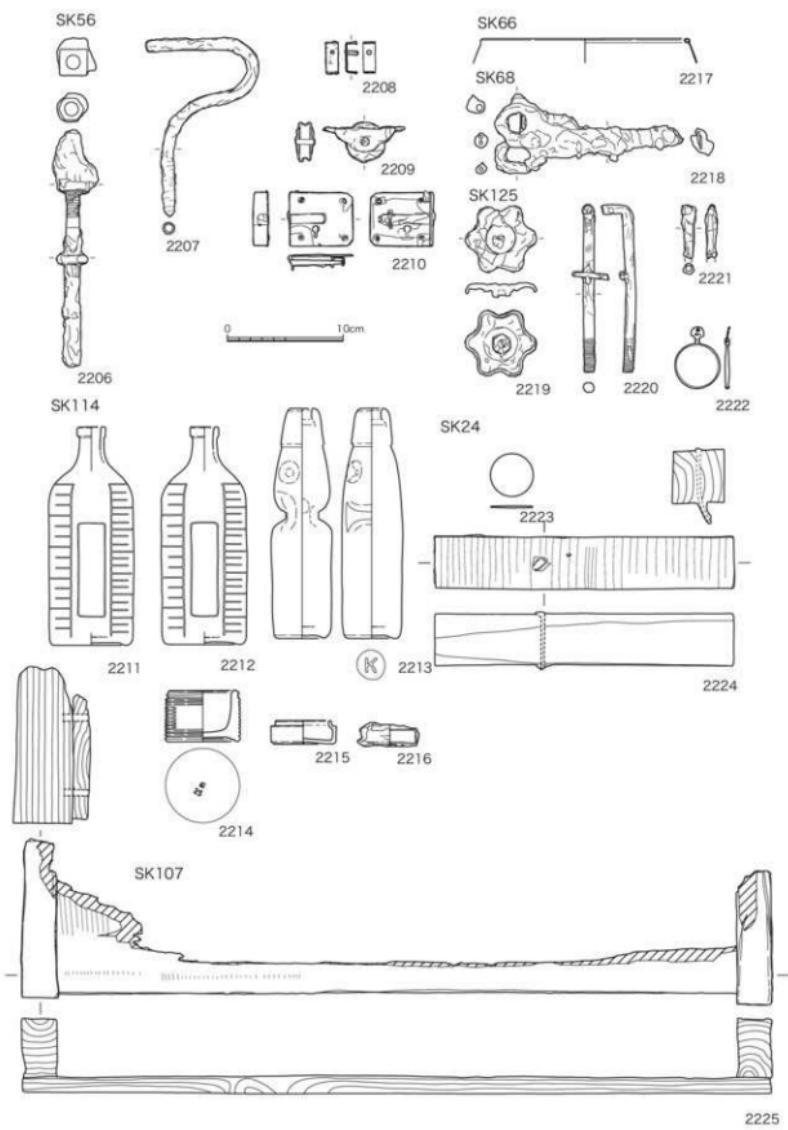
(第177~178図2183~2210)

SK56からは革製品を中心に175点が出土した。

革製品は全て革靴であり、外履きである編上靴と上履きである宮内靴が存在する。2188は豚革製の宮内靴であり墨書で「2001」と記されている。この数字は病室番号や医師などの部屋番号の可能性が高い。2190・2191は昭五式編上靴で前の痕跡が認められる。革は厚く毛穴が見られないことから牛革と推測される。2189・2192は豚革製編上靴の側面部分で、革1枚の面積が小さい粗製品である。裏面(内面)に赤色塗料が認められるが、これは縫製工場で部分を示すために記入された記号と思われる。2193・2194・2197は牛革製編上靴の踵部分で、2193・2194は5~6枚を重ねて踵部分を作ったものである。2197は革の裏を使用するバックスキンのものである。2195・2196は牛革製宮内靴で、2195は踵部の一番内側の部分で編上靴の可能性も捨てきれない。2196はつま先部分で牛の裏革を利用している。2198は宮内靴の一種で足幅が狭いことから、女性(看護婦)用の上履きの可能性が考えられる。2199は牛革製の靴中敷が縮んだもの、2200は



第177図 D期の遺物実測図(5) SK56(1)



第178図 D期の遺物実測図 (6) SK56 (2) 他

牛革製つま先、2201は牛革製宮内靴の前半分でスリッパ状のものである。2202は豚革製幅上靴の踵部分であるが、この種の豚革製の製品は珍しい。2203・2204は牛革製宮内靴の底全体で直接足が触れる部分と考えられる。今回出土した革靴はパーツが小さく細かく組んで製作されたものが多く、豚革が使用された事例も多い。これらのことから、大半は物資が乏しい昭和19～20年に製作された可能性が高い。

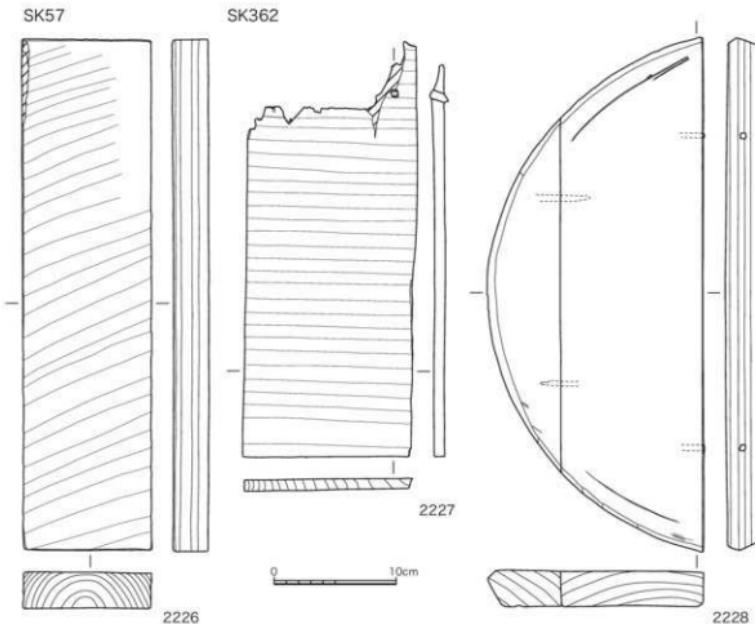
この他には碁子製品(2183～2186)、石製品(2187)、金属製品などがある。2205は真鍮製と思われる兵用軍服のボタンである。2208は留金具、2209は戸車、2210は銅製鏡の一部と思われ、木製箱物に付随する部品と考えられる。箱物そのものは遺存状態が不良で形状を復元できない。

SK56 出土資料は靴やボタンなど身に付ける品物が多い特徴がある。遺物として取り上げることはできなかったが、土坑内には纖維状炭化物の存在が視認されていたことや、金属製金具から木製箱物が存在した可能性が考えられることなどから、想像を逞しくすれば木製箱に衣類などの装身具を納めて埋納したこととも推測できる。時期は革靴の特徴から太平洋戦争末期の資料と位置づけられ、SK96 の事例と同様、持ち物検査の際に一時的に隠匿された物品と推測される。

第3項 SK114 出土遺物

(第178図 2211～2216)

SK114 からはガラス瓶や鉄製品などが出土した。ガラス瓶には目盛入り薬瓶(2211・2212)



第179図 D期の遺物実測図(7) SK57・SK362

とラムネ瓶(2213)と筒型容器(2214)がある。瀬戸窯産磁器には白石合子身(2215)、鉄製品には鉄製の小型筒型容器がある。時期は詳細には特定できないが、SK96とあまり変わらないものと思われる。

第4項 SK25 出土遺物

(第178図2219～2222)

SK25からは鉄製品やガラス製品などが出土した。2219は鉄製蛇口摘み部、2222はガラス製レンズで外周は銀色金属で縁取られ一端に突起を持っている。突起部に「+8.50」と陰刻されており眼鏡視力検査用レンズと思われる。

第5項 活字関連出土遺物

(第180～187図2229～2515)

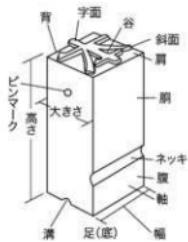
調査区西部中央の包含層中から鉄製箱形容器(2252)が出土した。出土状況について詳細な記録が無いが、近代に属する堆積層から出土したものと思われる。鉄製容器は長さ14.6cm×幅9.2cm×高さ11.1cmの規模を持ち、蓋が銷び付いて固定してしまっている。側面の一部が破損しており、内部から活字312本などの遺物を採取することができた。しかし、まだ容器内に固定したまま取り出せない資料も相当量存在しており、ここでは取り出せた資料のみを分析した。

金属性活字は鉛とアンチモンと錫の合金で製作されたものである。活版印刷に使用された活字で、大きさや形状など様々な要素から分類が可能である。まず、字面はおよそ正方形となっているが、その規模は一边が約2.8mm、3.7～4.0mm、4.2～4.7mm、4.9～5.0mm、約6.0mm、約7.4mmの6類に区分できる。このうち一边が3.7～4.0mmのものが大多数を占めており、この規模は五号活字（鯨尺1分角大で約3.79mm四方）に対応し、ディードー式ポイント活字で10Pに相当する。高さ（活字の最大長）は23.3～

24.0mmに分布するものが多く、これはJIS規格23.45mmに近似する。

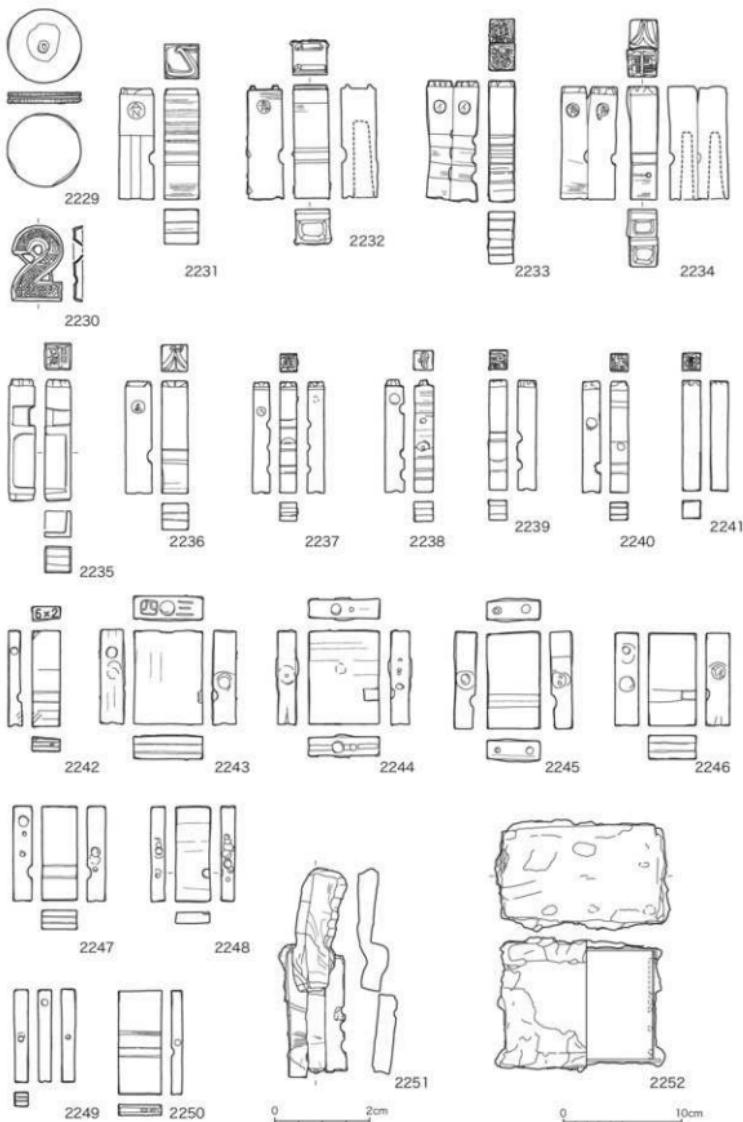
また、活字の腹（一側面）に設けられた溝「ネック」の状態から4類に分類ができる。1類は一つの側面に3本の溝がほぼ等間隔に配置されるもの（2237など）である。2類は一つの側面に3本の溝が間隔を置いて配置されるもの（2238など）である。3類は一つの側面に2本の溝が配置されるもの（2239など）である。4類は一つの側面に1本の溝がほぼ等間隔に配置されるもの（2240など）である。ネックのある側面に隣接する側面に円形の穴（ピンマーク）を有するものがあり、その中に「AN」（2231など）、「青」（2232など）、「イ」（2233など）などの文字が入るものがある。字面の反対の面である足には溝が存在するものが多いが、内部が空洞の状態になったものの（2232など）もいくつか存在する。

字面の字体は全部が明朝体であり、その書体は築地5号の字体に類似する。このうち「年」や「第」など同じ文字の活字が複数本出土した文字が存在し、明瞭に書体が異なるものがある。第182～186図は字面を顕微鏡写真で撮影し、この画像をモノクロ二階調にし、左右反転および白黒反転処理した後に大きさを画面上で合わせたものである。これをみると、例えば「年」の場合、2416は一画目の「ノ」の角度が2449よりも急であり、2404は3本の横棒の間隔が広くなっていて、3



第180図 活字模式図

名古屋城三の丸遺跡 VII



第181図 D期の遺物実測図(8) 活字(1)他



第182図 D期の遺物実測図(9) 活字(2)

名古屋城三の丸遺跡 VII



第183図 D期の遺物実測図(10) 活字(3)

0 1cm



第184図 D期の遺物実測図(11)活字(4)

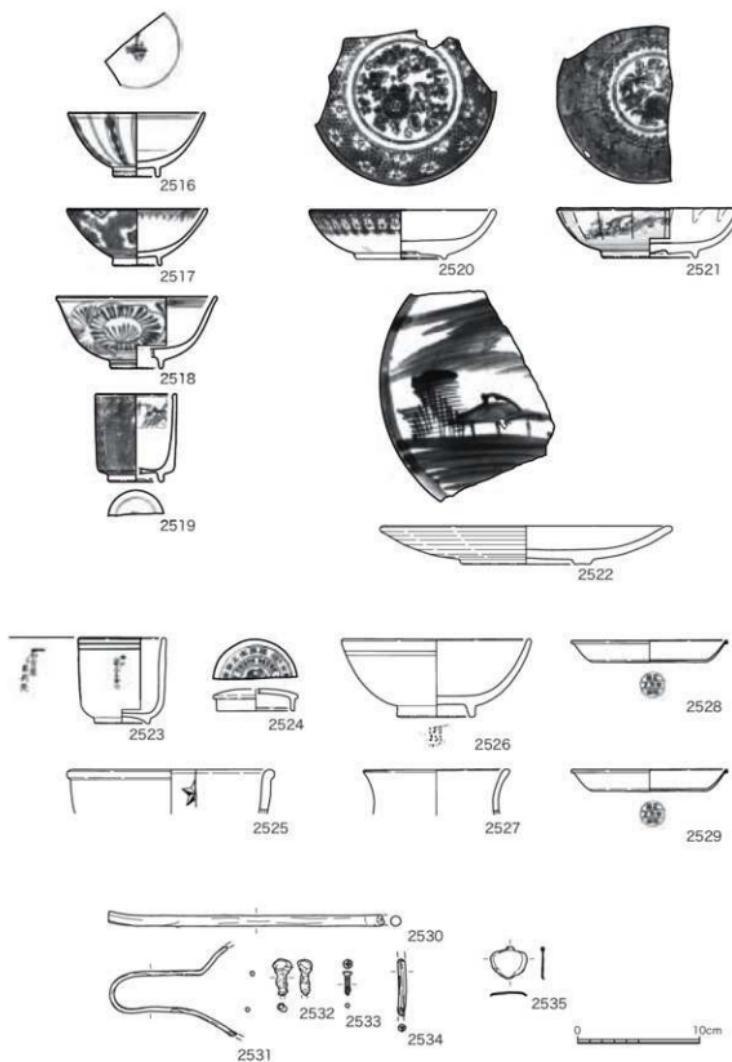
名古屋城三の丸遺跡 VII



第185図 D期の遺物実測図(12) 活字(5)



第186図 D期の遺物実測図(13) 活字(6)



第187図 D期の遺物実測図(14) 包含層他出土遺物

点の書体は明瞭に異なる。これら書体の相違は、上述のネッキによる分類におおよそ対応すると思われるが、必ずしも全てが該当するわけではない。

2251は4本の活字は溶着して重複したものである。高温に晒され活字は変形していた。

2508～2513は記述記号や数学記号などの文字を字面とする約物と呼ばれるものである。「()」(2509など)や句読点(2513など)が見られる。一方、2242～2250は「込めもの」で空白を埋めるためのものである。通常の場合は高さが活字より低く、今回の事例も高さは20mm前後を測り活字よりも3mmくらい低い。平面形の大きさは様々であり、溝やビンマークも多様な位置に設けられていた。大半は字間調節のための「スペース」と思われる。2242には「6×2」、2243には「四三」の文字が認められる。

活字以外には銅製円板(2229)や徽章(2230)などがあるが、他の製品はごく少量である。2230は軍服の襟などに着用した人物の所属(連隊番号)を示すための徽章と考えられ、「2」と造形されている。孔を利用して衣服に縫い込まれた縫い付け式のものと考えられ、全部で2点出土した。

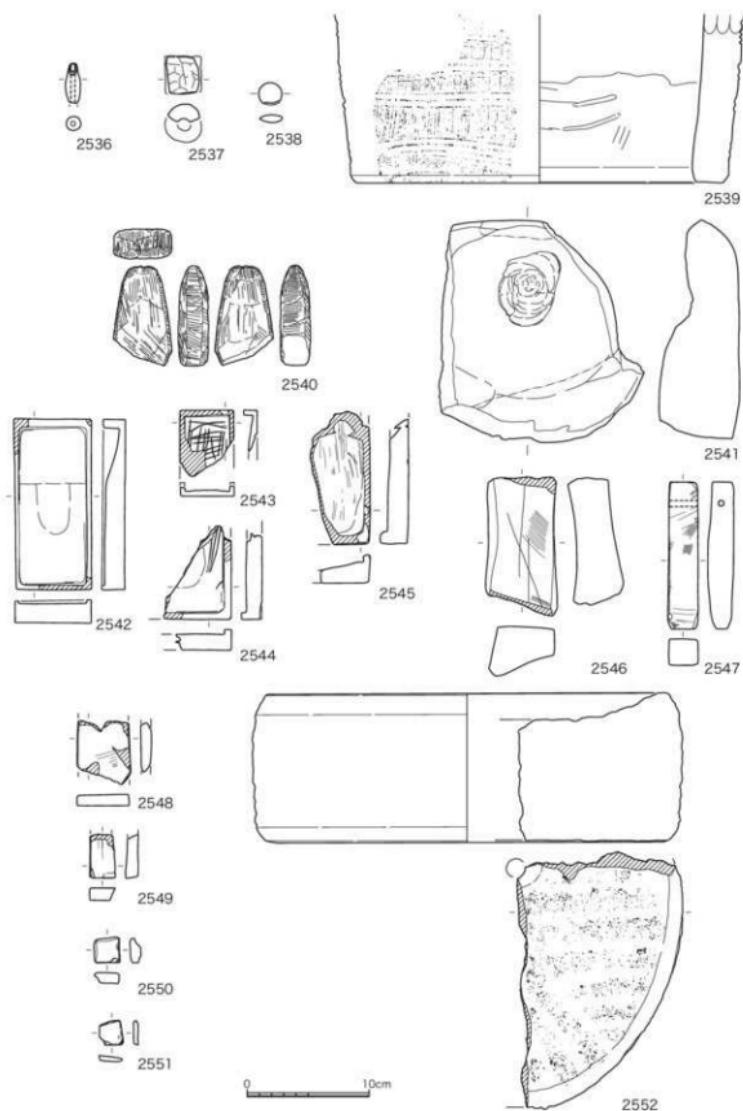
これらの鉄製箱物に収納された活字は300点以上を数えるが、まとまった文章を作成するにし

ては字数が少なすぎる。文字の内容は、「衛」「醫」「藥」「骨」などの病院関連文字、「軍」「陸」「兵」「歩」「佐」などの軍隊関連文字、「區」「亞」「哈」「週」「昭」「和」などの地名や時間を示す文字、「庶務」「人事」「部」「特」「官」「勤」「號」「免」「乙」などの職制や文書に使用される文字などがあり、総体的に考慮すると陸軍病院に関連する内部印刷物に使用されたものと推察される。文字数が少なすぎる点とかな文字や約物が少ない点を考慮すると、名刺や軍用備品ラベルなど小型印刷に用いられた活字の可能性が考えられよう。

第6項 包含層出土遺物

(第188図 2516～2535)

表土掘削や遺構検出の際に出土した近代遺物のうち代表的なものを取り上げ報告する。2516～2522は瀬戸窯産磁器染付碗皿類で、コバルトで紋様が施されている。2516～2518は明治10年～20年くらいまでの時期に属し、2519～2521は型紙刷りで施紋された製品である。2523・2524はクロム線軸で施紋されたもので、2524は型紙刷りで明治20年代～大正くらいに位置づけられよう。2528・2529はアルミ製食器皿で裏面に「名古屋国立病院」と隠刻されている。太平洋戦争後の資料である。



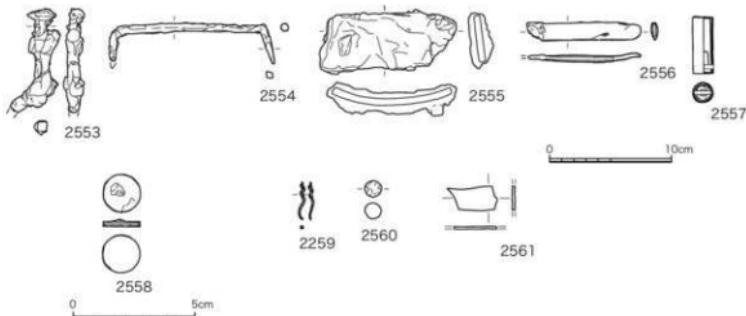
第188図 時期不明の遺物実測図（1）

第6節 時期不明の遺物(第189図 2536~2552)

良好な遺構一括資料として認識できなかった資料のうち時期を特定できないもの、その他の時期のものをここで報告する。

2536・2537は土鍤、2538は碁石状土製品で時期は特定できない。2539は瓦質製品で内面は著しく磨耗し外面は刻線が施された円筒状遺物である。井戸側の可能性が高くC期以降のものと

推測される。2540は石斧の可能性も考えられたが、細かな擦痕が全面に存在することから砥石と推定しておきたい。2541は中央付近が瘤む平坦な石であるが、原始時代のものではないと推測される。2542~2545は硯、2546~2551は砥石、2552は石臼で、中世以降と思われる。



第189図 時期不明の遺物実測図(2)

第4章 自然科学的分析

第1節 名古屋城三の丸遺跡地下の層序、堆積環境と地形解析

鬼頭 剛（愛知県埋蔵文化財センター）・古澤 明（古澤地質調査事務所）

はじめに

名古屋城三の丸遺跡では、その地下層序について 2001 年に行なった調査結果が既に報告されている（鬼頭ほか, 2003）。今回、2002 年に実施された調査区において地下層序を観察する機会を得た。その層序解析と放射性炭素年代測定から新たな知見が得られたので報告する。

試料および分析方法

調査地周辺における現在の詳細な等高線図作成のため、財團法人名古屋都市整備公社発行の 1/5,000 「用途地域指定図」にプロットされた標高値を用い、等高線図を作成した（第 190 図）。等高線図上には伊藤・川合（1993）、安達（1997）、川添（2000）、伊藤（2003）を参考にして、調査地周辺の主要な縄文時代遺跡をプロットした。図の作成は鬼頭が行なった。

名古屋城三の丸遺跡の地下層序解析のため、調査区の南端において構造検出面からバックホーにより掘削し、層序断面を露出させ、柱状図の作成と放射性炭素年代測定の試料を採取した。柱状図の作成にあたり、層相・粒度・色調・堆積構造・化石の有無などの特徴を詳細に記載した。層序断面からはテフラ分析として 16 試料、放射性炭素年代測定に有効な植物片や土壌を 7 試料採取した（第 10 表）。また、庄内川沖積低地の地下層序解析のため、都市基盤整備公団と愛知県建設技術研究所から調査地周辺のボーリング・データを得た。柱状図の作成と分析試料の採取は鬼頭が行なった。

テフラ分析の試料は洗浄・篩別し、極細粒砂サイズ（1/8 ~ 1/16）に粒度調整し、この粒度調整試料中の火山ガラスおよび自形で新鮮な角閃石や斜方輝石の含有率を測定した。粒子組成の把握には通常の 200 粒子の観察とともに、微量含まれる特徴的なテフラ起源鉱物を識別するため、2000 粒子中のテフラ起源鉱物含有量も把握した。屈折率の測定には液浸の温度を直接測定して屈折率を求める温度変化型測定装置 MAIOT（古澤, 1995）を使用した。測定精度は火山ガラスで ± 0.0001、斜方輝石および角閃石で ± 0.0002 程度である。分析は古澤が行なった。

放射性炭素年代測定は加速器質量分析（AMS）法により測定を行なった。分析方法は 125 μm の篩により湿式篩別を行ない、篩を通過したものを酸洗浄し不純物を除去した。石墨（グラファイト）に調整後、加速器質量分析計にて測定した。測定された ¹⁴C 濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した ¹⁴C 濃度を用いて ¹⁴C 年代を算出した。¹⁴C 年代値の算出には、¹⁴C の半減期として Libby の半減期 5,568 年を使用した。¹⁴C 年代の曆年年代への較正には CALIB4.3 を使用した。測定は株式会社パレオ・ラボ（Code No.; PLD）に依頼した。

分析結果

調査地周辺の等高線図

作成した現在の等高線図を第 190 図に示す。等高線間隔は標高 8m までが 0.5m（一部では 1.0m）、標高 8 ~ 14m までは 1m、標高 14m 以

上では 0.5m である。標高 8m 以上で等高線間隔が狭い部分は急傾斜であり、急崖を形成する。この標高 8m 以上を示す範囲には第四紀更新統の熱田層が分布し、熱田台地（あるいは名古屋台地）とよばれる。台地の北西端頂部は標高約 10m で、東へ向かい標高 16m ないしは 17m まで徐々に標高をあげる。現在、名古屋城の南には東西方向に出来町通（主要地方道白壁・三の丸線）が、名古屋城の東には南北方向の大津通がある。それらの道路が交差する北側に調査地点は位置し、調査地点周辺（名古屋市中区丸之内 4 丁目）では標高 8m から 13m に谷地形が認められる。周囲よりも低いこの谷地形部分に大津通がのびている。また、先の出来町通と国道 41 号線とが交差する名古屋市東区白壁 4 丁目では、標高 10m から 15m に谷地形が認められる。さらに東側、名古屋市東区芳野 2 丁目には標高 16m から 17m の小丘状を呈する地形の間に標高 10m から 15m で谷地形が認められる。標高 16 ~ 17m の小丘状の上には長久寺貝塚や片山神社遺跡といった縄文時代遺跡が知られている。熱田台地の北縁に沿って北区大杉一丁目（標高 6.0m）から西区城西三丁目（標高 3.5m）にいたる明瞭な谷部が認められる。名古屋城三の丸遺跡の深掘層序

名古屋城三の丸遺跡 02 区においてバックホールにより遺構検出面（標高 11.96m）から深度約 3.5m までの地下層序断面を得た（第 191 図）。下位層より、標高 8.50 ~ 8.85m までは粗粒砂層からなる。風化の程度が進行し、含まれる鉱物粒子は指や手刈り等により容易に破碎される。標高 8.85 ~ 9.58m までは全体に粘土層からなり、標高 8.85 ~ 8.94m は紫灰色を呈する塊状かつ均質な粘土層である。標高 8.94 ~ 9.22m はともに層厚約 1cm の黒褐色と紫灰色を呈する粘土層の互層からなる。標高 9.22 ~ 9.58m は灰褐色を呈する塊状・均質な粘土層である。植物片が混じる。

標高 9.58 ~ 9.76m は粗粒砂層からなり、標高 9.58 ~ 9.63m は黒褐色の粘土ブロックが混じる粗粒砂である。本層下底面には下位層を削剥した浸食面がみられる場合もある。標高 9.63 ~ 9.76m は淘汰良好な粗粒砂層からなる。全体に黄褐色を帯びており、含まれる鉱物の風化の程度も著しい。

標高 9.76 ~ 10.20m は塊状・均質な灰褐色を呈する粘土層からなり、植物片を含む。標高 10.00 ~ 10.20m も塊状・均質な灰褐色を呈する粘土層であるが、植物の根跡が認められる。標高 10.20 ~ 10.35m ともに層厚約 1cm の黒褐色と灰褐色を呈する粘土層の互層である。標高 10.35 ~ 10.60m は黒褐色粘土層とシルト層との互層からなり。平行層理を基本とするが、一部シルト層にレンズ状の部分もみられる。

標高 10.60 ~ 10.78m は黒褐色粘土層、標高 10.78 ~ 10.98m は粘土ブロックの混在層である。粘土ブロックは黒褐色あるいは黄褐色を呈するものがみられる。基質は粘土からなる。

標高 10.98 ~ 11.96m は全体に粘土層からなり、標高 10.98 ~ 11.37m は塊状・均質な灰色粘土層、標高 11.37 ~ 11.77m は褐色粘土層であり、土壤化の程度が著しい。標高 11.77 ~ 11.96m は黒褐色粘土層で、土壤化の程度が著しく、近世の遺物・遺構が確認される。

テフラ分析

深掘層序断面から計 16 試料を採取した。分析結果を第 192 図に示す。試料 1（標高 8.52m）～14（標高 11.08m）には光沢を帯びた緑褐色普通角閃石が微量含まれる。この角閃石の屈折率は 1.682-1.697 である。また、試料 1～14 にはさまざまな形態の火山ガラス・斜方輝石・单斜輝石および角閃石が含まれる。火山ガラスの屈折率は 1.500-1.5090 とプロードで明瞭なモードはみられない。斜方輝石の屈折率も 1.701-1.721 とプロードで明瞭なモードが識別できない。試料番号 16（標高 11.89m）にはバブルウォールタイ

ブの火山ガラスが1%程度含まれる。このガラスの屈折率は1.495-1.500である。

放射性炭素年代測定

深掘層序断面から計7試料の放射性炭素年代値を得た(第10表)。下位層では標高8.94~9.23mの黒褐色粘土と紫灰色粘土の互層で採取した土壤(標高9.00m)で5725 cal yrs BP(PLD-2147), 上位層では標高11.77~11.96mの黒褐色粘土層から採取した木片(標高11.95m)で650, 575 cal yrs BP(PLD-2153)であった。

考察

2001年調査区地下の熱田層

深掘層序断面の粒度組成をみると、層序全体では粘土粒子が卓越し細粒堆積物により構成され、標高8.50~8.85mと標高9.58~9.76mに粗粒砂層が認められるのみである。対して、今回の調査地点から南西方向へおよそ900m隔たった2001年の調査区(第190図)において、深掘層序(標高7.97~11.20m)には粗粒砂層が卓越していたことと比べると、あきらかに層相を異にしている。

ところで、名古屋市および周辺地域の地下地質は全体として砂礫・泥互層からなり、下位より東海層群(第三紀)、海部・弥富累層(中部更新統)、熱田層下部(上部更新統)、熱田層上部(上部更新統)、第一疊層(上部更新統)、濃尾層(最上部更新統)、南陽層(完新統)などの第四系の累層から構成される。それらの自然地理学的分布は、丘陵~高位段丘が中部更新統、中・低位段丘は上部更新統、沖積低地は上部更新統最上部~完新統より構成される。名古屋城三の丸遺跡は熱田台地上に立地し、熱田台地は上部更新統の熱田層により構成されている。この熱田層および周辺地域の地形・地質に関しては松澤・嘉藤(1954)による詳しい記載以来、多くの研究・報告が行なわれてきた(総理府資源調査会、1956; 桑原、1968,

1975; 名古屋地盤調査会、1969; 濃尾平野第四系研究グループ、1977; 桑原ほか、1982; 坂本ほか、1984)。桑原(1975)は熱田層を最下部層・下部層・上部層に区分した。熱田層最下部層は濃尾平野の中央部の地下にのみみられる砂層である。下部層は濃尾平野の地下全域に分布し、地表では熱田台地にのみ露出する海成粘土層である。熱田海進(濃尾平野地下第四系研究グループ、1977)とよばれる最終間氷期の海進堆積物と考えられる。本層上限面の深度は濃尾平野西縁部では-140mにおよぶが、熱田台地では10m以下である。上部層も濃尾平野の地下全域に分布する。地表では熱田台地と守山台地に露出する。主に砂層からなり、シルト・粘土層やレンズ状の疊層も挟まれる。層厚は濃尾平野西縁部で60m以上、熱田台地で30~40mであるという特徴をもつ。

さて、名古屋城三の丸遺跡の2001年の調査では標高7.97~11.20mまでに、粗粒砂層と粘土層からなる深掘層序が得られ、堆積相解釈から河川流路(チャネル)と後背湿地とをくり返す河川卓越環境が推定された(鬼頭ほか、2003)。また、堆積年代の推定のためテフラ分析を行ない、標高7.97~8.30mにみられる粗粒砂層中の標高8.01mの層準からは阿蘇4テフラ(Aso-4)が、その直上の標高8.18mの層準からは大山生竹テフラ(DNP)が識別できた。それらの降灰年代について、阿蘇4テフラは86~90 ka(kaは10³年前を表す地質年代単位)、大山生竹テフラは木村ほか(1999)により80±40 kaとされた。このことから砂層は9~8万年前以降に堆積したと思われる。とくに大山生竹テフラの識別できる層準からは斜方輝石および单斜輝石を主体として角閃石を含む御岳火山起源の御岳・奈川(On-Ng)も含まれる。標高8.18m付近の(中村ほか、1992)砂層上部は5万年前以降に堆積したものと思われる。

標高8.47~9.63mにも粗粒砂層が認められ、

標高 8.70m と標高 9.18m の層準からは御岳火山起源のテフラ（御岳・奈川(On-Ng), 御岳辰野(On-Tt), 御岳三岳(On-Mt)）の岩石記載（町田・新井, 1992）に類似することから、5 万年前以前のテフラを混在した木曾川泥流堆積物と考えられた。

標高 11.11 ~ 11.20m は黒褐色シルト質粘土層で、標高 11.14m の層準からは屈折率 1.495~1.500 のバブルウォールタイプの火山ガラスが含まれた、この火山ガラスの屈折率と木曾川泥流堆積物の層準よりも上位にあるというその層位関係から、始良 Tn テフラ (AT) 起源と考えられた。その年代は村山ほか (1993) により 24,330 yrs BP とされ、約 2 万 4 千年前以降に堆積したことがわかった。本層では放射性炭素年代測定も実施し、標高 11.19m で 10890-10755 cal yrs BP (PLD-1594) であった。

熱田層で確認される広域テフラについて、熱田層上部には鬼界・葛原テフラ (K-Tz) が挟まれており（諏訪ほか, 1995）、木曾川御岳起源の On-PmI (Pm-I), On-Tt (Pm-III) などを含む（小林ほか, 1967; 水野, 1996）という報告がある。また、その堆積環境について森 (1980) や Mori (1986) は珪藻分析に基づいて、熱田層の最下部砂泥互層は泥炭湿地の発達した河川下流域での堆積が考えられ、海進の証拠は得られていない。下部層では、その下部で海成種が急激に増加し、下部から中部にピークがあり、上部へ漸減していく。盆地の縁辺よりの甚目寺・稻沢では上部層準で小海退・小海進がみられた。上部層では淡水性群集がみられ、泥炭湿地の発達した河川下流域での堆積環境が推定された。また、砂礫層の

発達が少なく、縁辺部に限られることから、このときの海水準低下はそれほど大きくなかったと推定した。さらに名古屋地盤調査研究会 (1969) は、熱田層下部の第 5、第 4 粘土層には貝化石が含まれるもの、第 4 粘土層の中・北部の地域では海成層の証拠に乏しいこと、熱田層上部では砂層と泥層が交互に堆積しており、海水準の変化が反映していると考えられること、また、最上部の砂層は浅海～海浜または三角州ないし河床性の砂層であると考えられることを述べている。

2001 年実施の調査では、標高約 8 ~ 11m までに約 8 ~ 9 万年前から約 2 万年前までの河川卓越環境が推定できた。その結果は上で述べたような既に報告されている熱田層上部の特徴と一致しており、2001 年の調査区地下には典型的な熱田層上部層が分布することがわかった。

2002 年調査区の地下層序に記録される堆積環境

2001 年の調査区では堆積相解釈とテフラ分析、放射性炭素年代測定から、調査区の地下は熱田層上部層の分布域であることがわかった。

2002 年の調査でも、いわゆる熱田台地として区分される台地上に調査区が立地することから、その地下には熱田層上部層の分布が予想された。ところが、7 試料から得られた結果は、標高 9.00m の土壌が 5725 cal yrs BP (PLD-2147), 標高 9.60m の土壌が 5705, 5695, 5675, 5660 cal yrs BP (PLD-2149) を示した。また、標高 9.10m の土壌で 6445, 6420, 6410 cal yrs BP (PLD-2148), 標高 9.60m の土壌で 5705, 5695, 5675, 5660 cal yrs BP (PLD-2149), 標高 11.90m で 6170, 6140, 6110, 6065, 6060, 6065, 6065 cal yrs BP (PLD-2153) であった。

標高 (m)	堆積物	試料の種類	¹⁴ C 年代 (yr BP)	^δ -CPDB (‰)	層年代校正値 (± 1 σ, cal yrs BP)	¹⁴ C 年代範囲 (± 1 σ, cal yrs BP)	Lab Code No.(method)
9.00	黒褐色土・上部灰褐色土との互層	土壌	6965 ± 30	-23.0	6725	5745-5665(99.0%)	PLD-2147AMS
9.10	黒褐色土・上部灰褐色土の互層	土壌	5665 ± 35	-23.5	6445, 6420, 6410	6475-6410(93.0%)	PLD-2148AMS
9.60	黒褐色土・上部灰褐色土の互層	土壌	4970 ± 30	-22.8	5705, 5695, 5675, 5660	5725-5650(100%)	PLD-2149AMS
10.25	黒褐色土・上部灰褐色土の互層	土壌	5165 ± 30	-23.2	5920	5935-5905(98.3%)	PLD-2150AMS
10.60	黒褐色土	土壌	5260 ± 30	-23.1	5930	5950-5920(98.2%)	PLD-2151AMS
11.00	黒褐色土	土壌	5330 ± 30	-22.8	6130	6075-6000(94.7%)	PLD-2152AMS
11.95	黒褐色土	木片(セラワ)	655 ± 30	-22.2	650, 575	595-565(67.2%)	PLD-2153AMS

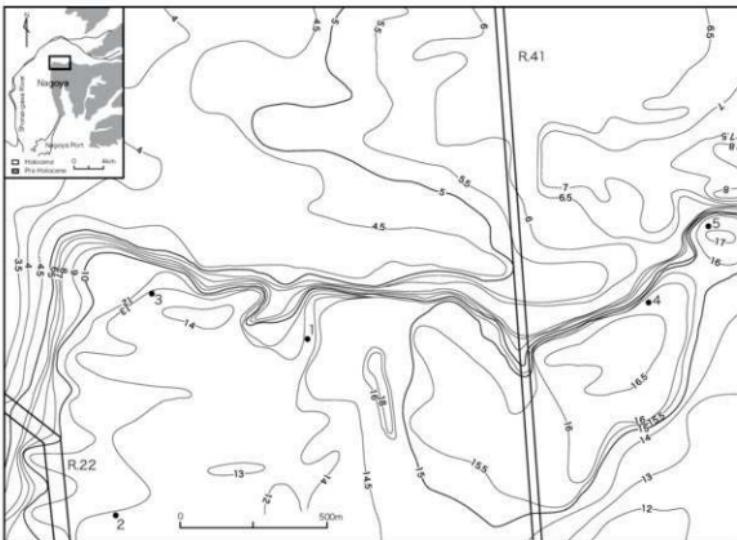
第 10 表 名古屋城三の丸遺跡 02 区深堀地点のテフラ分析結果

6005 cal yrs BP(PLD-2152)と、一部では年代値の逆転が生じている。

ところで、現在の地形解析のため等高線図を作成したが、先にも述べたように今回の調査地点付近には標高8mから13mに谷地形が認められた。いっぽう、テフラ分析からは標高8.52m（試料1）から標高11.08m（試料14）までにはさまざまな形態の火山ガラス、斜方輝石、单斜輝石および角閃石といった多量のテフラ起源粒子を混在した。また、火山ガラスの形態から本曾川泥流堆積物のそれと一致した。最上部の標高11.89m（試料16）からは屈折率1.495-1.500のバブルウォールタイプの火山ガラスが検出された。この火山ガラスは屈折率から始良Tnテフラ(AT)起源と考えられる。

さて、テフラ分析からは御岳火山起源のテフ

ラと始良Tnテフラが検出された。御岳火山起源のテフラは約5万年前（中村ほか、1992）、始良Tnテフラから約2万4千年前（村山ほか、1993）の噴出年代が報告されている。いっぽう、放射性炭素年代測定では約5000～6000年前の値が得られ、テフラ分析と放射性炭素年代測定との分析結果には相違がみられる。違いの生じた原因について、作成した等高線図の調査地点にみられる標高8～13mの谷地形に注目したい。谷地形の推定される場所には現在、南北方向にのびる大津通があり、道路は現在でも低角度で北へ傾斜する様子が観察できる。この傾斜は、大津通を建設する際に、台地面を開削してできたものとも考えられる。しかし、もし熱田層上部層が露出する台地を削って道路建設が行なわれたとすれば、その地下には2001年に調査したときと同様な層序



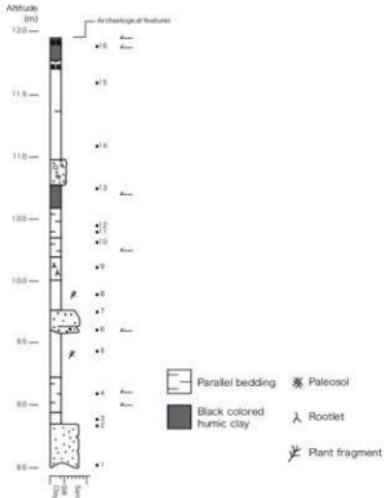
断面の露出が期待されよう。ところが、実際にそれはそれとは異なる層序を示した。また、数値年代も5000～6000年前を示し、あきらかに熱田層上部層とは年代を異にする堆積物であるといえる。以上のことから、2002年の調査地区付近にみられる標高8～13mの谷地形は、現在の道路建設といった人工的な要因で形成されたものではなく、もともと本地点に生じていた原地形であつた可能性が指摘できる。深堀層序の最下位層で5725cal yrs BP(PLD-2147)を示したことから、少なくとも約5700年前以前に当地には谷が存在しており、その谷を細粒堆積物が埋積していったものと推定できる(第193図)。また、今回の調査区で標高8.52m(試料1)から標高11.08m(試料14)までの層準で木曾川泥流堆積物に同定できる火山ガラスが混在した事実は、周囲と比較して地形的に低い場所に、台地上や谷壁に露出していた木曾川泥流堆積物が削剥され二次的に堆積したものと考えれば、上位層から下位層までの各層

準で検出された理由として矛盾なく説明できる。

熱田台地北西端部の人工改変地

今回、等高線間隔0.5mないし1mで標高3.5～17mまでの等高線図を作成し、標高8m以上を示す熱田層の台地縁辺部には小規模な谷地形が存在することがわかった。

ところで、熱田台地の北西端に突き出た形の尾根部分が、名古屋城築城の際に盛り土された人工改変地の可能性があるとの指摘があった(鈴木正貴氏私信)。このことについて、名古屋城に関する史料のひとつである絵図「御城取大体之図」をみると、直線の組み合わせのみで境される城の範囲と、それを囲む道路の様子がみてとれる。それらの直線や道路と交点をもなながら、絵図の南西側から北側を通って東側にいたる曲線がみられる。この曲線が描く形状は、本論の等高線図で示した標高8m以上で示される熱田台地と沖積低地との境界線に類似しており、沖積低地と台地との境界を描いたものと推定できる。いっぽう、現在の等高線図(第190図)には名城公園の南西側にあたる名古屋市西区堀場町と同市西区樋の口町に、標高8～10mで北西方向へ張り出した熱田台地の尾根部分がみられる。ところが、絵図ではこの尾根の存在が予想される範囲に「ふけ」という文字の記載とともに、直線で境された城の範囲と思われる境界線が描かれるのみである。絵図において熱田台地と沖積低地との境界線と推定した曲線は、今回作成した等高線図と比較すると、台地の北西端部分でのみ大きな相違が認められる。その理由について、熱田台地の縁辺を掘削した堀川や名古屋城築城の際に掘りだされた堆積物を、熱田台地の北西側に人工的に盛り土したため、現在の等高線図に表現されるような尾根状の張り出し部分となつたと推定できるようである(鈴木正



第191図 名古屋城三の丸遺跡O2区における深堀柱状図

黒丸はテフラ分析、矢印は放射性炭素年代測定の試料採取層準を示す。

貴氏私信)。この推定について、地質学側からは提示できるデータがまったくなく、今のところ肯定も否定もできない。台地北西端部付近のボーリングコア資料の検討や、人工改変地との解釈が妥当であれば熱田層との境界面の発見が必要であると思われる。いずれにせよ、自然科学的には予想されなかつたたいへん興味深い問題であり、今後の課題としたい。

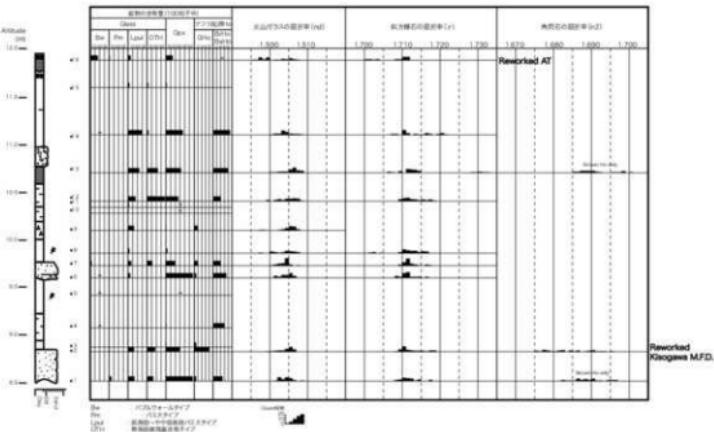
謝辞

本論を作成するにあたり、放射性炭素年代測定では株式会社パレオ・ラボ東海支店の山形秀樹氏にお世話をなった。愛知県建設技術研究所の滝本守氏、都市基盤整備公団の由見慎一氏には名古屋市北区地域のボーリング・データを供与していた。愛知県埋蔵文化財センター調査研究員の鈴木正貴氏には名古屋城の築城に関わる問題提議と参考文献をご紹介いただいた。図面の整理では愛知県埋蔵文化財センター研究補助員の尾崎和美氏・上田恭子氏、トレイス作業では研究補助員の阿部佐保子氏、試料の整理・保管では元整理補助員の服部恵子氏・宇佐美幸子氏・山口きみ代氏、

整理補助員の服部久美子氏・村上志穂子氏にお手伝いいただいた。記して厚くお礼申し上げます。

文献

- 安達厚三, 1997, 繩文時代, 新修「名古屋市史 I」, 名古屋市, 45-165.
- 古澤 明, 1995, 火山ガラスの屈折率測定・形態分類とその統計的な解析, 地質学雑誌, 101, 123-133.
- 伊藤正人・川合 剛, 1993, 特別展名古屋の縄文時代資料集, 名古屋市見晴台考古資料館, 147p.
- 伊藤正人, 2003, 縄文時代の名古屋 - 地形変遷と遺跡立地 -, 名古屋市見晴台考古資料館研究紀要, 5, 1-16.
- 川添和暉, 2000, 愛知県の縄文遺跡(1)- 尾張北部地域について-, 研究紀要 第1号, 愛知県埋蔵文化財センター, 1-8.
- 木村純一・岡田昭明・中山勝博・梅田浩司・草野高志・麻原慶憲・館野満美子・檀原 徹, 1999, 大山および三瓶火山起源テフラのフィッショントラック年代とその火山活動史における



第192図 名古屋城三の丸遺跡O2区深堀地点のテフラ分析結果

- 意義, 第四紀研究, 38, 145-155.
- 鬼頭 剛・森 勇一・上田恭子, 2003, 第VI章
自然科学分析 名古屋城三の丸遺跡地下で確認された熱田層最上部層の層序と古環, 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第115集「名古屋城三の丸遺跡(VI)」, 愛知県埋蔵文化財センター, 46-56.
- 小林国夫・清水英樹・北沢和男・小林武彦, 1967, 御岳火山第一浮石層・御岳火山第一浮石層の研究その1, 地質雑誌, 73, 291-308.
- 桑原 徹, 1968, 濱尾盆地と傾動地塊運動, 第四紀研究, 7, 235-247.
- 桑原 徹, 1975, 濱尾傾動盆地の発生と地下の第四系, 愛知県地盤沈下研究会報告書, 愛知県, 109-182.
- 桑原 徹・松井和夫・吉野道彦・牧野内 猛, 1982, 热田層の層序と海水準変動, 第四紀, 第四紀総研連絡紙, 22, 111-124.
- 町田 洋・新井房夫, 1992, 火山灰アトラス [日本列島とその周辺], 東大出版会, 276p.
- 松沢勲・嘉藤良次郎, 1954, 名古屋及び付近の地質・同地質図, 愛知県建築部.
- 中村俊夫・藤井登美夫・鹿野勘次・木曾谷第四紀巡回会, 1992, 岐阜県八百津町の木曾川泥流堆積物から採取された埋没樹木の加速器^{14C}年代, 第四紀研究, 31, 1.
- 水野清秀, 1996, 6 TB-I コア中の火山灰・軽石分析, 名古屋港西地区ボーリングコア分析調査報告, 名古屋市総務局, 35-37.
- 森 忍, 1980, 濱尾平野下の熱田層のケイソウ群集, 瑞浪市化石博物館研究報告, 7, 73-83.
- Mori, S. 1986, Diatom Assemblages and Late Quaternary Environmental Changes in the Nobi Plain, Central Japan, The Journal of Earth Sciences, 34, 109-138.
- 村山雅史・松本英二・中村俊夫・岡村 真・安田尚登・平 朝彦, 1993, 四国沖ビストンコア試料を用いたAT火山灰噴出年代の再検討・タンデトロン加速器質量分析計による浮遊性有孔虫の^{14C}年代, 地質雑誌, 99, 787-798.
- 名古屋地盤調査研究会, 1969, 「名古屋地盤図」, コロナ社, 東京, 279p.
- 濱尾平野第四系研究グループ, 1977, 濱尾平野第四系の層序と微化石分析, 地質学論集, 14, 161-183.
- 坂本 享・桑原 徹・糸魚川淳二・高田康秀・脇田浩二・尾上 享, 1984, 名古屋北部地域の地質, 地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所, 64p.
- 總理府資源調査会事務局, 1956, 水害地域に関する調査研究 第1部, 資源調査会資料, 46, 97p.
- 諏訪 齊・森 忍・中村俊夫・木曾谷第四紀研究会, 1995, 名古屋市瑞穂区新瑞橋地下鉄工事現場の熱田層, 大加速器質量分析計業績報告, VI, 196-200.
-
- The figure is a geological cross-section diagram titled 'Present topography' at the top. It shows two vertical profiles, labeled 1 and 2, representing different excavation areas. Profile 1 is located in the northern part (NE) and profile 2 is in the southern part (SW). The vertical axis represents 'Altitude (m)' from 8.0 to 14.0. The diagram includes several layers and features:
 - A layer labeled 'Modern deposits and/or Artificial reclamation' is shown near the surface.
 - A thick layer labeled 'INCISED VALLEY' is depicted between altitudes 11.0 and 12.0 m.
 - A layer labeled 'Late Pleistocene (Upper Assemblage)' is shown above the incised valley.
 - A layer labeled 'Kamegai MTD (0.6ha)' is shown below the incised valley.
 - Various depth markers are indicated along the profiles, such as 11.0, 10.0, 9.0, 8.0, 7.0, 6.0, 5.0, 4.0, 3.0, 2.0, and 1.0 meters.
 - A scale bar at the bottom indicates 100m horizontally and 10m vertically.
 - A legend on the left side provides additional information about the symbols used in the diagram.

第193図 名古屋城三の丸遺跡における地下層序模式断面図

1は02区、2は01区(鬼頭ほか, 2003)の深層柱状図と分析結果を示す。

第2節 名古屋城三の丸遺跡の埋桶の埋土より産出した双翅目のサナギについて

森勇一（愛知県立明和高等学校）・上田恭子（同）

1.はじめに

昆虫は、発生の過程で変態をする節足動物として知られる。キチン質で構成された昆虫（とくに成虫）の外骨格は化学的にきわめて安定であり、酸に侵されることが少ない。このため、日本のように雨が多く湿潤で、酸性に傾いた土壤中には昆虫化石は鞘翅目 Coleoptera を中心によく保存されている。昆虫の体サイズが適度に小さく、外骨格が多くの間節で連結しており、そして、これが死後まもなくバラバラに分離することも昆虫の体節が土圧による破壊を免れる要因となっている。

双翅目 Diptera に属するハエ類では、羽化の際、サナギ Puparium の殻が環状に割れて成虫を生ずる。サナギは3齢幼虫の外皮が硬化したものであり、外見的には米俵状で通常黒褐色である。サナギの皮殻はキチン質に似た化合物によって造られており、團飴 Coarctate pupa と呼ばれる。双翅目の團飴も鞘翅目の体節片と並んで、遺跡中より検出される可能性が高い昆虫化石の一群である。

2.分析試料

本報告に述べる名古屋城三の丸遺跡（II NS02区）の試料は、2002（平成14）年4月より9月にかけて実施された国立名古屋病院看護婦養成所大型化整備のための事前調査に際し、採取されたものである。本遺跡は、名古屋台地の北西端に位置し、弥生時代・古代・中世から近世に至る複合遺跡である。調査地点の現地表面の標高は約13mであり、遺跡の基盤層は第四紀更新世末に堆積した熱田層上部に由来する非海成の砂層である。調査面積は1,100 m²である。

分析試料は、調査地点の南端に掘削された江戸時代前期から後期にかけての埋桶（SK37）を埋積する堆積物中より採取されたものである。埋桶は直径1.1m、深さ約3mにわたって基盤層を掘り窪め、内部に板材を配置して桶状にしたものであり、従来の見解ではこの種の構造物は「井戸」と解釈してきた。

本分析試料は、埋桶の下底にたまつた黒褐色疊まり砂質シルト層を水洗浮遊選別したもの（試料A）と、これに先だってブロック割り法にて検出したもの（試料B）の2試料に分類される。なお、分析に供した試料の湿潤重量は、27リットル入りコンテナ2箱、計21.2kgであった。

3.分析結果

試料A

（標本の状況）

分析試料のうち試料Aは、2003年5月より7月の約3ヶ月間にわたり、この当時愛知県埋蔵文化財センター研究補助員であった上田恭子氏（現在明和高校非常勤講師）により、水洗浮遊選別法にて抽出されたものである。抽出後の昆虫化石は、40×50mmの小型シャーレに並べられ、エチルアルコールと蒸留水を等量ませた液体に浸して冷暗所にて保存されている。これらのシャーレには、同一種と考えてよい中型のサナギが多数含有され、これ以外にサイズを異にする小型のサナギ、および大型のサナギのほか、甲虫目に分類される複数種の体節片が検出されている。

試料A中のサナギの総個体数は、ほぼ完形のものについてのみ顕微鏡下で計数した結果、計1,092点であり、うち暗褐色の中型のサナギ（サ

ナギ1) が 729 点、黄褐色の小型のサナギ (サナギ2) が 234 点、黒褐色の大型のサナギ (サナギ3) が 95 点、これ以外に微小なサナギ (サナギ4) が 34 点確認された。甲虫目の検出点数は、計 246 点であった。

(標本の記載)

以下に、試料A中より検出された双翅目の團蛹 (サナギ1~3) について、その形態的特徴などについて述べる。

(1) 双翅目の團蛹

標本1 (II NS02K-01: サナギ1)

長さ 6.2mm、最大幅 2.8mm の暗~黄褐色の標本である。体は紡錘形であり、背および腹方向に扁平につぶれた形状を呈する。体表に多数の長い突起を有する。第2節には前端に 1 対、第3節には背面に長短各 1 対、側面に長短各 1 対、腹面に微小な 1 対、第4節から第11節までは背面に 1 対、側面に 2 対、腹面に微小な 1 対、第12節(末節)には 3 対の突起を有し、腹面には微小な 1 対の突起を備える。各突起の基部にはさらに小棘を有し、突起は全体として針状を呈する。環節には腹側の環節後部に疣状の匍匐隆 (素木、1958) を生じている。匍匐隆は、各節とも一列に計 6 個ずつ配されており、これらは幼虫が匍匐運動する際利用される (河田、1959)。

前方気門は第2節に 1 対認められ、5~8 個の分岐を有する。後方気門は末節背面基部に 1 対認められ、これらは長く突出し先端が 3 つに分岐している。咽頭骨格は不明瞭で小さい。

標本2 (II NS02K-02: サナギ2)

長さ 6.8mm、最大幅 3.1mm で、標本は黄褐色ないし褐色である。後方にやや膨らんだ長卵形を呈する。標本は、9ないし 10枚の環節と、頭部および尾部により構成される。頭部後方の 2~3 節は、本来胸部に相当するものと考えられるが、

鏡下では胸部と腹部との区別が困難であり、本論では腹部環節として一括して扱った。高倍率で観察すると、環節に背側および腹側とともに直線的に平行して配列する短刺状の微刺列が認められる。微刺列は、標本1に述べた匍匐隆同様、幼虫の運動器官として重要である。

尾端には、斜め後方に向かって強く突出する 1 対の後気門が認められる。他の標本には、頭部付近に前気門が認められるものも存在する。頭部付近より第2環節ないし第3環節にかけての部分には、咽頭骨格が皮殻を通して透けて観察される。咽頭骨格は黒化しており、後方で 4 裂し湾曲して鋭い針状となる。うち 2 本は細く長大であり、残る 2 本は太くて短い。

標本3 (II NS02K-03: サナギ3)

長さ 12.5mm、最大幅 5.8mm、黒褐色の大型のサナギである。著しく圧密が進み、中央部が膨らんだ俵形を呈する。12 節からなり、1 節が頭部、2~4 節が胸部、5 節以下が腹部とみなすことができる。腹部の環節には、多数の微刺列が配され、これらが集合し鱗状を呈する。この鱗状の環節を地面に押し当てるにより、匍匐運動することを可能にしている。

前気門に相当する部分には、痕跡的な小突起が認められる。また、末端節後面に 6 対の輪状突起を有し、これらに囲まれた中央部付近には 2 個の後気門が配される。後気門は円形であり、この内部に 3 条の平行する裂孔と 1 個の明瞭なボタンを有している。

(標本の同定)

平嶋ほか (1989) によれば、双翅目は長角 (カ) 亜目 Nematocera と短角 (ハエ) 亜目 Brachycera に分類され、うち短角亜目は團蛹を形成し羽化に際して團蛹殼の先端が環状に裂ける環縫群 Cyclorrhapha と、團蛹を作らず

裸蛹のまま背面中央部が縦裂して羽化する直縫群 Orthorrhapha とに区分される。環縫群は、世界で計 93 科を含む大群であり、これらは 73 科からなる無弁翅類 Acalyptrata, 16 科からなる有弁翅類 Calyptrata, 4 科からなる蛹生類 Pupiparia に 3 分されている（平鷲ほか、1989）。なお、短角胚目環縫群の終令幼虫の形態的分類については、Okada(1968), Smith(1989)などの研究がある。

試料 A から得られたサナギ 1 は、各環節に 6 個の疣状の匍匐隆が認められ、体表上に多数の長い突起を配するという特徴的な形状より、ハナバエ科 Anthomyiidae のヒメイエバエ *Fannia canicularis* に同定される。

また、サナギ 2 は、環節上に短刺状の明瞭な微刺列を有し、尾端に斜め後方に向かって強く突出する 1 対の後気門と気門周囲の環節上に一列の乳頭状突起が認められること、頭部付近に短い指状突起を有する 1 対の前気門が存在する特徴から、ショウジョウバエ科 Drosophilidae のキヨロショウジョウバエ *Drosophila melanogaster* かこの近縁種に分類される可能性が高い。

サナギ 3 については、長さ 12.5mm, 最大幅 5.8mm と大型であり、かつ末端節後面に 6 対の輪状突起に囲まれた 2 対の後気門が認められ、後気門に 3 条の平行する裂孔と 1 個の明瞭なボタンが配されることから、クロバエ科 Calliphoridae のオオクロバエ *Calliphora lata* ないしはケブカクロバエ *Aldrichina grahami* に同定される。なお、微小なサナギ 34 点（サナギ 4）については、詳細な同定作業を行っていないが、ショウジョウバエ科 Drosophilidae に属するものである可能性が高い。

(2) 甲虫類など

試料 A より検出された双翅目の團蛹以外の昆虫片は、以下のとおりであった。

マグソガムシ *Pachysternum haemorrhoum* 計

125 点

ハネカクシ科 Staphylinidae 計 45 点

オサムシ科 Carabidae 計 3 点

エンマコガネ属 *Onthophagus* sp. 計 1 点

アリ科 Formicidae 計 1 点

ゾウムシ科 Curculionidae 計 8 点

コクゾウ Sitophilus zeamais 計 32 点

ハムシ科 Chrysomelidae 計 4 点

コガネムシ科 Scarabaeidae 計 3 点

オトシブミ科 Attelabidae 計 2 点

不明甲虫 Non identified beetles 計 22 点

試料 B (ブロック割り法で得られた昆虫化石)

次に、試料 B より産出した昆虫化石について述べる。ブロック割り法により得られた昆虫化石は、以下のようなものであった。

サナギ 1 と同一種→ヒメイエバエ *Fannia canicularis* 24 点

サナギ 3 と同一種→オオクロバエ *Calliphora lata* かケブカクロバエ *Aldrichina grahami* 19 点

コアオハナムグリ *Oxycetonia jucunda* 2 点

ヒメコガネ *Anomala rufocuprea* 1 点

コガネムシ科 Scarabaeidae 2 点

オサムシ科 Carabidae 4 点

ハネカクシ科 Staphylinidae 3 点

ゾウムシ科 Curculionidae 1 点

4. 考 察

名古屋城三の丸遺跡の埋桶（江戸時代前期～後期）の理土中より発見された昆虫片には、ヒメイエバエ（サナギ 1）、ショウジョウバエ科のキヨロショウジョウバエ（サナギ 2）、およびクロバエ科のオオクロバエかケブカクロバエ（サナギ 3）の 3 タイプのサナギが多数含有されることが明らかになった。中でも、サナギ 1 のヒメイエバエが試料 A の 66.8% を占め圧倒的に多かった。この

ほか、水洗浮遊選別法およびブロック割り法を通じて、マグソガムシ・ハネカクシ科・オサムシ科・ゾウムシ科・コクゾウ・ハムシ科。コガネムシ科などの昆虫片が検出された。

最も多く認められたヒメイエバエは、近似種のイエバエとともに主に人家内に生息し、イエバエが食卓上や畳の上で日中活動するのに対し、ヒメイエバエは部屋内の空間をたえず輪舞する習性が観察されている（鈴木・緒方、1968）。日本国内では北日本に多く、また市街地や住宅地にとくに多い。季節的には春秋に多く認められるという（鈴木・緒方、1968）。

ハエ類は人間生活に深く関わる生活をしているため、比較的自然環境の影響を受けることが少なく、また交通機関の発達によりハエ類の普通種は世界共通種が多い。日本でも大部分のハエは全土に分布する。しかし、密度は必ずしも均一ではなく、ヒメイエバエが北海道に多いのに対し、イエバエは九州に多いなど、分布には偏りが見られる（鈴木・緒方、1968）。また、市街地と農村部を比較してみると、市街地ではヒメイエバエが90.8%、イエバエが5.8%、その他のハエが3.7%，半農半住宅地ではヒメイエバエが78.3%、イエバエが16.8%，その他のハエが4.9%，農村部ではヒメイエバエが22.5%、イエバエが76.1%，その他のハエが1.4%（鈴木・緒方、1968）と、ヒメイエバエは市街地に多く、市街地に適応したハエであるといふことができる。

発生源についての嗜好性をみると、他のハエ類が生ゴミや糞尿・動物の死体などに誘引されるのに比べ、ヒメイエバエ・オオイエバエの2種はこれらに集まることが少なく、たくあん漬けのぬかに特徴的に発生することが知られる（鈴木・緒方、1968；林・篠永、1979）。なお、ヒメイエバエは少し黒く腐りかかった表層のぬかの部分に多く、オオイエバエは表面よりやもぐった水っぽいぬかのところに発生する傾向があるとい

う（鈴木・緒方、1968）。一般家庭や商業利用などの場面において、漬物桶や漬物樽などの減少に伴って、近年ではヒメイエバエの発生は鶏舎や鶏舎付近の施設に移ってきてているという（日本家屋害虫学会編、1995；田中、2003）。

また、2番目に多く産出したキヨロショウジョウバエについては、ショウジョウバエ科に属する双翅目幼虫の祖先種が主として樹液に適応していたとされ（西治、1978），その後ショウジョウバエ類の仲間は腐敗したり発酵したりした食物中のイーストやバクテリアなどを食べるべく進化したと考えられている（森木、1958；Okada, 1968；安富・梅谷、1983；平嶋ほか、1989；Smith, 1989；松崎・武衛、1993）。昆虫分析試料内より各種発酵物に集まるキヨロショウジョウバエを多産したことから、本遺跡の埋桶内には何らかの事情で発酵食品が存在した可能性がきわめて高いと考えられる。

その他の昆虫のうち、獣糞に多いマグソガムシ（試料Aで計125点）や同じく人糞や獣糞に誘引されるエンマコガネ属（同じく試料Aより1点）などは、昆虫分析試料を産出した周辺環境の人为的汚染について、またハエ類のウジやサナギを捕食することが多いハネカクシ科（試料Aで45点、試料Bで3点）やオサムシ科（試料Aで3点、試料Bで4点）などの食肉ないし食屍性甲虫は、発酵物にたかだかヒメイエバエやキヨロショウジョウバエ、あるいはこれより大型のオオクロバエ・ケブカクロバエなどの幼虫を求めて集まってきたいたものと考えればよく理解される。

また、穀類に特徴的なコクゾウ（試料Aで32点）は、この埋桶内に穀物や米ぬかなどが認められたことを示唆している。

本分析試料に、ヒメコガネ（試料Bで1点）やコアオハナムグリ（試料Aで2点）、ハムシ科（試料Aで4点）、コガネムシ科（試料Aで3点、試料Bで2点）、オトシブミ科（試料Aで2点）な

ど、人為度の高い畑作地に生息する食植性昆虫が認められたことは、名古屋城三の丸遺跡を取り巻くバックグラウンドの植生環境を考察するうえで興味深い。

5.まとめ

名古屋城三の丸遺跡の埋桶の埋土より発見された双翅目のサナギの中に、たくあん漬けをはじめ発酵した漬け物に特有のヒメイエバエが多数認められたことより、本遺跡の埋桶内に何らかの発酵物が存在した可能性が考えられる。こうした推定は同じ試料中に発酵食品に集まるショウジョウバエ属のサナギが相当数検出されたことからも支持される。

謝 辞

昆虫分析にあたり、愛知県埋蔵文化財センターの鈴木正貴および鬼頭剛の両氏に大変お世話になった。記してお礼申しあげる。

文 献

河田 薫 (1959) 日本幼虫図鑑、北隆館、
712p.
林 晃史・篠永 哲 (1979) バエ-生態と防除-,
文永堂、228p.

- 平嶋義宏・森本 桂・多田内修(1989)昆虫分類学、川島書店、597p.
松崎沙和子・武衛和雄 (1993) 都市害虫百科、朝倉書店、236p.
素木得一 (1958) 衛生昆虫、北隆館、1966p.
日本家屋害虫学会編 (1995) 家屋害虫事典、井上書院、468p.
西治 敏(1978) ショウジョウバエの食性と進化、遺伝、32(10), 12-20.
Okada Toyohi(1968) Systematic study of the early stages of Drosophilidae. Bunka Zugeisya, 188p.
Smith K.G.V.(1989) An introduction to the immature stages of British flies. Royal entomological society of London, Handbooks for the identification of British insects, 10, 280p.
鈴木 猛・緒方一喜 (1968) 日本の衛生害虫-その生態と防除-, 新思想社、245p.
田中和夫 (2003) 屋内害虫の同定法 (3) 双翅目の主な屋内害虫、家屋害虫-日本家屋害虫学会誌、67-111.
安富和男・梅谷献二 (1983) 衛生害虫と衣食住の害虫、全国農村教育協会、310p.

第3節 名古屋城三の丸遺跡出土の漆喰等の科学分析

堀木真美子・小村美代子(バレオ・ラボ)

1.はじめに

名古屋城三の丸遺跡の2002年度調査区は、17世紀中頃から幕末まで尾張徳川家の親族らが居住したといわれる「御屋形」と考えられている(鈴木2003)。この発掘調査において「御屋形」の庭園に伴うと思われる池状遺構(SX02)が検出された。この池状遺構SX02は周囲に石を配置し、その隙間に漆喰が充填されていた。

ここでは、池状遺構SX02で検出された漆喰を中心に、蛍光X線分析およびX線回折分析を行った。比較試料として、名古屋城三の丸遺跡と同じ尾張の清洲城下町遺跡の本丸の渡櫓等の建物に付随したと推測される建物壁、三河の西尾城下級武家屋敷または町屋と推定される和泉町遺跡(西尾

市)の漆喰について分析した。

2. 試料と方法

試料は名古屋城三の丸遺跡池状遺構出土の漆喰とその床壁18点(No.1~18)、SK114より出土した井戸(近代)の円筒形側材の漆喰1点(No.19)、大型廃棄土坑(SK01)より出土した漆喰塊1点(No.20)、清洲城下町遺跡本丸東側の瓦溜まり(SX01)より出土した建物壁2点(No.21・22)、和泉町遺跡(西尾市)より出土した漆喰や廃材4点(No.23~26)の計26点である。名古屋城三の丸遺跡は江戸時代中期頃(1点のみ江戸時代後期以降)、清洲城下町遺跡は戦国時代末期~江戸時代初期、和泉町遺跡は江戸時代末期(1点のみ

No.	遺跡名	遺跡番号	内容	時期
1	名古屋城三の丸	02区SX02	北西入江部壁の粘土、漆喰裏の粘土壁か?	江戸時代中期頃
2	名古屋城三の丸	02区SX02	北西入江部壁の裏込めの粘土塊	江戸時代中期頃
3	名古屋城三の丸	02区SX02	西張り出し部壁の漆喰本体	江戸時代中期頃
4	名古屋城三の丸	02区SX02	南西導水部北壁の漆喰のうち表層部分	江戸時代中期頃
5	名古屋城三の丸	02区SX02	南西導水部北壁の漆喰のうち奥層部分	江戸時代中期頃
6	名古屋城三の丸	02区SX02	南西導水部床壁の漆喰本体	江戸時代中期頃
7	名古屋城三の丸	02区SX02	南西導水部南壁の漆喰本体	江戸時代中期頃
8	名古屋城三の丸	02区SX02	南壁西端引石直上の漆喰本体	江戸時代中期頃
9	名古屋城三の丸	02区SX02	東張り出し部壁の新段階漆喰壁本体	江戸時代中期頃
10	名古屋城三の丸	02区SX02	東張り出し部壁の中段階漆喰壁本体	江戸時代中期頃
11	名古屋城三の丸	02区SX02	東張り出し部壁の新段階床壁本体	江戸時代中期頃
12	名古屋城三の丸	02区SX02	東張り出し部の古段階床壁本体	江戸時代中期頃
13	名古屋城三の丸	02区SX02	北東入江部壁の漆喰本体、階段脇部分	江戸時代中期頃
14	名古屋城三の丸	02区SX02	北壁直下の新段階床壁本体	江戸時代中期頃
15	名古屋城三の丸	02区SX02	北壁漆喰裏本体、中段階か?	江戸時代中期頃
16	名古屋城三の丸	02区SX02	中央部床壁裏上位、新段階か?	江戸時代中期頃
17	名古屋城三の丸	02区SX02	中央部床壁中位、中段階か?	江戸時代中期頃
18	名古屋城三の丸	02区SX02	中央部床壁下位、吉段階か?	江戸時代中期頃
19	名古屋城三の丸	02区SK114	近代井戸の円筒形側材の漆喰	江戸時代後期以降
20	名古屋城三の丸	02区SK01	大型廃棄土坑中出土の漆喰塊?	江戸時代中期頃
21	清洲城下町	96区SX01-1層	本丸東側の瓦溜り中、建物壁か?	戦国時代末期~江戸初期
22	清洲城下町	96区SX01-1層	本丸東側の瓦溜り中、建物壁か?	戦国時代末期~江戸初期
23	和泉町(西尾市)	SK30	廃棄土坑中から出土、廃材投棄?	江戸時代末期
24	和泉町(西尾市)	SE06	井戸の円筒形側材の漆喰	江戸時代末期
25	和泉町(西尾市)	SX05	漆喰で成された腰状容器が埋設される近代井戸の円筒形側材の漆喰、エンビの意抜	明治以降
26	和泉町(西尾市)	井戸	*「内容」中の「古段階、中段階、新段階」の表記は、塗り重ねと推測したもの。 *「表層、奥層」は同時に作られたものの非難の使い分けが想定されることを示す。	

第11表 漆喰の分析試料一覧

名古屋城三の丸遺跡 VII

明治以降)に属する試料である。試料の詳細については第 11 表に示す。

a. 成分分布

各試料をおおむね 2 × 3cm の小片に切り出し、エボキシ樹脂で硬化させた後、#3000 のカーボランダムを用いて表面を研磨した。分析装置は光学および偏光顕微鏡、蛍光 X 線分析装置(エネルギー分散型、堀場製作所(株)製 XGT-5000)である。測定条件は管電圧 30kV、管電流 1.00mA。分析は著者の一人樋木が行った。

b. X 線回折分析

試料は分析する前に、スサ・石灰粒子と思われる白色粒子の量・砂粒の量等について肉眼観察による記載を行った(第 12 表)。その後、各試料の平均的な箇所を約 1g 採取し乳鉢で粉末化した。

この粉末をプレパラート上にアルコールで溶きな

がら乾燥させ測定用試料を作成した。分析装置は、リガク(株)製の X 線回折装置 MiniFlex である。測定条件は、X 線発生部の管球は銅(Cu)、電流 15mA、電圧 30kV、走査モードは連続、スキャンスピード 5.000°/min、サンプリング幅 0.020°。分析は同じく著者の一人である小村が行った。

また、X 線回折分析で方解石の検出限界を把握する為に実験を行うことにした。試料は石灰岩と砂質土の 2 点である。この 2 点を適量粉末化し、先述と同様の X 線回折分析測定用試料を作成して石灰岩からは方解石のピークを確認する。その後、砂質土粉末に石灰岩粉末を 3%・5%・10% の割合で混ぜたものを用いて X 線回折分析測定用試料を作成し、どの程度の石灰岩の割合で方解石と同定する事が可能かを検討した(第 13 表)。

c. 成分分析

試料は X 線回折分析に用いたものと同じ粉末

No	遺跡名	スサ(痕跡も含む)	石灰粒子	砂粒	備考
1	名古屋城三の丸	—	—	—	シルト質土の塊
2	名古屋城三の丸	—	—	—	粘土塊
3	名古屋城三の丸	+	++	++	
4	名古屋城三の丸	—	+++	++	
5	名古屋城三の丸	—	+++	++	
6	名古屋城三の丸	—	++++	++	
7	名古屋城三の丸	—	++++	++	
8	名古屋城三の丸	—	++++	++	
9	名古屋城三の丸	—	++++	+	
10	名古屋城三の丸	—	+++	+	
11	名古屋城三の丸	—	+	+	
12	名古屋城三の丸	—	+	+	
13	名古屋城三の丸	—	++++	+	
14	名古屋城三の丸	—	+	+	
15	名古屋城三の丸	—	++++	+	
16	名古屋城三の丸	—	—	+	
17	名古屋城三の丸	—	—	+	
18	名古屋城三の丸	—	—	+	粘土質
19	名古屋城三の丸	+	++++	+++	硬質
20	名古屋城三の丸	—	—	—	硬質、岩石か
21	清洲城下町	—	—	—	白色粘土塊
22	清洲城下町	+++	—	—	白色粘土塊
23	和泉町(西尾市)	—	++	+++	
24	和泉町(西尾市)	—	++	+++	硬質
25	和泉町(西尾市)	—	—	+++	
26	和泉町(西尾市)	—	+++	+++	硬質

*「石灰粒子」とは内眼観察で石灰と思われる白色の粒子を指す。

*「石灰粒子」と「砂粒」の割合は内眼観察による相対評価で+の数が多いほど、その割合が多いことを示す。

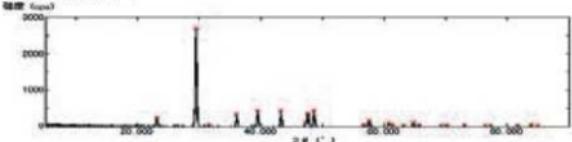
第 12 表 肉眼観察結果

である。これら粉末を、直径2cmの堀場製のリングに無水四ホウ酸リチウム(Li₄B₄O₇)を詰めて10tの圧力をかけたものの上に約0.2gの試料を薄く展開して、更に20tの圧力をかけてブリケットを作成した。蛍光X線分析装置（エネルギー分散型、堀場製作所（株）製 XGT-5000）である。測定条件は管電圧30kV、管電流1.00mA、測定時間100秒。またこの装置は大気中で測定することから、測定値の平均値および分散を把握するために、1サンプルにつき50点の測定点を設定した。分析者は堀木である。

石灰岩と砂質土の化学組成(単位: %)

試料	Al ₂ O ₃	SiO ₂	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃
石灰岩	0.00	1.31	0.00	98.61	0.00	0.00	0.09
砂質土	14.55	79.17	2.50	0.63	0.44	0.04	2.67

石灰岩のX線回折チャート



方解石のX線回折強度(一部)

相対強度	100	18	18	17	17	14	12	8	5
2θ	29.404	39.399	43.143	47.487	48.510	35.964	23.021	57.398	47.121

石灰岩と砂質土の混合試料による方解石の検出強度及び同定の不可

試料	相対強度 2θ	相対強度 100		相のビーチ 同定
		100	18	
石灰岩3%		172		確認不可 不可
石灰岩5%		198		確認不可 不可
石灰岩10%		364		確認可 可

方解石の同定基準の設定

相対強度17以上を同定基準に設定したのは、相対強度100のビーカが360cps付近の場合、相対強度14以下のビーカはバックグラウンドと同程度で識別が困難なためである。

相対強度	100	18	18	17	17
2θ	29.404	39.399	43.143	47.487	48.510
強度(cps)	360以上			3つ以上が約100cps以上	

第13表 X線回折結果

3. 分析結果

a. 成分分布

第 198 ~ 200 図に測定試料および Ca の分布図を示す。No.3, 11, 12, 14 においては、Ca が粒状をなしている。No.1, 4, 5, 6, 7, 8, 13, 15 は、部分的に濃縮した状態で分布している。また No.9, 19, 26 では鉱物等以外の部分を占めるように分布している。No.20, 21, 22 は、ほぼ全体に均一に分布している。なお No.2, 25 では Ca の分布を把握することができなかつた。また、No.16, 17, 18 は試料の調整ができなかつた。

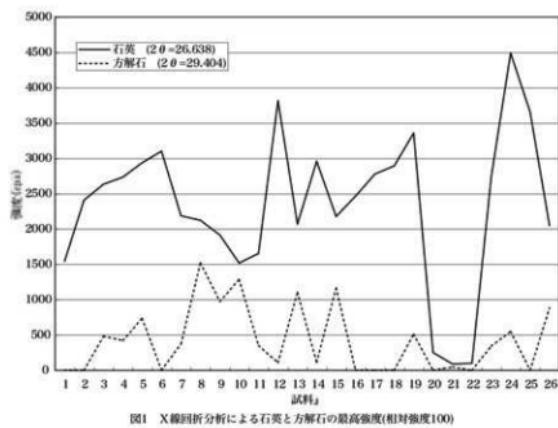
b. X 線回折分析

第 12 表には肉眼観察による試料の状態を示す。肉眼観察では貝片は全ての試料で確認されなかつた。石灰粒子と思われる白色粒子は、No.1, 2, 16 ~ 18, 20 ~ 22, 25 では確認されず、No.4 ~ 7 の漆喰は石灰粒子の割合が相対的に高い。また、スサと思われる草本植物の痕跡は No.3, 19, 22 で確認され、No.19 では稻藁と思われる草本植

物が付着していた。砂粒は、No.23 ~ 26 が全体の中で相対的に高く含まれる。次いで No.4 ~ 7 が砂粒の割合が多い。また、No.19, 24, 26 は砂粒の割合が多く硬質であった。No.20 は非常に硬質で一般的な漆喰や石灰の塊のような外観を示さないものであった。

第 13 表には X 線回折分析における方解石の検出限界実験結果を示す。この実験において石灰岩 10% 中の方解石の相対強度 100($2\theta = 29.404$) のピークは 364cps で、ほかに相対強度 18($2\theta = 39.399$) や相対強度 17($2\theta = 47.487, 48.510$) のピークも確認できた。X 線回折分析の鉱物同定は 1 本のピークのみで判断すると別の鉱物ピークと誤認する恐れがあるため、複数のピークと照合する必要がある。このため、方解石の相対強度 100($2\theta = 29.404$) のピークが 360cps 以上で、この他に相対強度 18($2\theta = 39.399, 43.413$) や相対強度 17($2\theta = 47.487, 48.510$) のピークのうち 3 つ以上のピークが約 100cps

No.	石英強度	方解石強度
1	1543	0
2	2407	0
3	2632	482
4	2733	421
5	2935	735
6	3099	0
7	2185	375
8	2123	1520
9	1913	973
10	1518	1286
11	1652	348
12	3817	108
13	2068	1102
14	2959	110
15	2175	1166
16	2465	0
17	2778	0
18	2890	0
19	3356	509
20	249	0
21	90	44
22	97	0
23	2733	343
24	4487	548
25	3654	0
26	2046	882



第 14 表 石英と方解石の最高強度

以上確認されれば方解石と同定することにした。また、石灰岩 3%・5% 中の方解石の相対強度 100 (2θ = 29.404) は 172 cps・198 cps 確認されたが、これ以外のピークはバックグラウンドと同程度のため確認できなかった。このことは 10% 未満しか石灰が含まれない漆喰は、今回の X 線回折分析では検出限界をこえ同定不能であること示している。

以上の同定基準に基づき試料から方解石が同定されたのは No.3 ~ 5・7 ~ 10・13・15・19・24・26 である。これら以外の試料では方解石は同定されなかった。石英は土壤や砂粒の主要鉱物であるため全ての試料から同定された。方解石と同じ化学組成の霰石 (化学式:CaCO₃、英名: aragonite) や石灰 (化学式 CaO、英名: lime) や石

膏 (化学式:CaSO₄ · 2H₂O、英名: gypsum) 等は全ての試料で確認されなかった。この他にクリストバライド・灰長石・曹長石・正長石等が確認された。特定の鉱物を同定したものは「○」、同定されなかったものは「—」と記載した (第 15 表)。

また、試料に含まれる方解石の割合を大まかに把握する為に、石英の相対強度 100 (2θ = 26.638) と方解石の相対強度 100 (2θ = 29.404) の強度 (cps) を比較した。この結果、No.8 ~ 10, 13, 15 が方解石の検出強度が高いことが確認された。

c. 成分分析

第 195 ~ 197 図に各試料の代表的なスペクトル図を示す。また第 16 表には Na, Mg, Al, Si, S, K, Ca, Ti, Mn, Fe について、それぞれのピーク

記号 ○：同定、—：未検出または同定不可

J	遺跡名	方解石	石英	クリストバライド	灰長石	曹長石	正長石
1	名古屋城三の丸	—	○	○	○	○	○
2	名古屋城三の丸	—	○	○	—	—	—
3	名古屋城三の丸	○	○	○	—	○	—
4	名古屋城三の丸	○	○	—	—	○	○
5	名古屋城三の丸	○	○	○	—	○	—
6	名古屋城三の丸	—	○	○	—	○	○
7	名古屋城三の丸	○	○	—	—	○	○
8	名古屋城三の丸	○	○	○	—	○	○
9	名古屋城三の丸	○	○	—	—	○	○
10	名古屋城三の丸	○	○	—	—	○	○
11	名古屋城三の丸	—	○	○	—	○	○
12	名古屋城三の丸	—	○	○	—	—	—
13	名古屋城三の丸	○	○	—	—	○	○
14	名古屋城三の丸	—	○	○	—	○	—
15	名古屋城三の丸	○	○	—	—	○	○
16	名古屋城三の丸	—	○	○	—	—	○
17	名古屋城三の丸	—	○	○	—	○	○
18	名古屋城三の丸	—	○	○	—	—	—
19	名古屋城三の丸	○	○	—	—	—	○
20	名古屋城三の丸	—	○	○	○	○	—
21	清洲城下町	—	○	—	—	—	—
22	清洲城下町	—	○	—	—	—	—
23	和泉町(西尾市)	—	○	—	—	—	○
24	和泉町(西尾市)	○	○	—	—	—	○
25	和泉町(西尾市)	—	○	—	—	—	○
26	和泉町(西尾市)	○	○	—	—	—	○

和名	英名	化学式
方解石	calcite	CaCO ₃
石英	quartz	SiO ₂
クリストバライド	cristobalite	α-SiO ₂
灰長石	anorthite	mCaAl ₂ Si ₂ O ₇ · nNaAl ₂ Si ₂ O ₇
曹長石	albite	mNaAl ₂ Si ₂ O ₇ · nCaAl ₂ Si ₂ O ₇
正長石	orthoclase	Ca ₂ Mg(SiO ₃) ₂

第 15 表 方解石の検出限界実験結果

名古屋城三の丸遺跡 VII

の大きさを示したものである。Tr. はからうじてビーグをとらえることができたものである。「+」および「++」などはビーグの大きさを表している。

これらの結果より、いずれの試料においても Si, Al, K, Ca, Ti, Fe のビーグが確認することができた。特に、No.8, 9, 10, 13, 15, 21, 22, 26 では Ca のビーグが、No.11, 12, 14, 20, 16, 17, 18, 21, 22 では Fe が、No.26, 24, 25, 26 では K がそれぞれ特徴的に大きなビーグとしてとらえられている。

4. 考察

a. 各試料の分析結果

No.1, 2 : 成分分布による Ca の分布も明瞭ではなく、X 線回折においても方解石が確認できず、Al が多いことから漆喰ではなく、土壌であると判断。

No.3, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 13, 14, 15, 19, 24,

25, 26 : 粒状もしくは濃縮した Ca と方解石が確認されたことから、漆喰試料と判断。No.10 は成分分布が測定できなかった。

No.6 : 粒状もしくはレンズ状に濃縮した Ca が確認された。X 線回折による方解石は確認されなかつたが、Ca の分布状態から漆喰を含むと判断。X 線回折において方解石が確認されなかつたのは、Ca が分布が著しく偏っているため、X 線回折用の試料に方解石が含まれなかつたと考えられる。

No.11, 12 : レンズ状に濃縮した Ca が確認されているため漆喰試料と判断。X 線回折においては方解石は確認されない。

No.16, 17, 18 : 成分分布の試料が作成できなかつたもの。肉眼観察により、土壌と判断された。

No.20, 21, 22 : Ca がほぼ均一に分布する試料。方解石は確認されていない。21, 22 では他の鉱物

名古屋城三の丸遺跡	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃
3 池状遺構 西張出し部壁	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	++	+	+	++
4 池状遺構 南西導水部北壁(表層)	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	++	+	TR.	++
5 池状遺構 南西導水部北壁(奥層)	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	+++	+	TR.	++
7 池状遺構 西部南壁	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	++	+	TR.	++
8 池状遺構 西部南壁	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	++++	+	TR.	++
9 池状遺構 東張出し部壁(新段階)	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	++++	+	TR.	++
10 池状遺構 東張出し部壁(中段階)	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	++++	+	TR.	++
13 池状遺構 北東入江部壁	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	++++	+	TR.	++
15 池状遺構 北壁(中段階)	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	++++	+	TR.	++
19 近世井戸 円筒形側材	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	+++	+	TR.	++
6 池状遺構 南西導水部床	TR.	TR.	+	+++	Tr.	+	+	+	TR.	++
11 池状遺構 東張出し部床(中段階)	TR.	TR.	++	+++	Tr.	+	++	+	+	+++
12 池状遺構 東張出し部床(古段階)	TR.	TR.	++	+++	Tr.	+	+	+	TR.	+++
14 池状遺構 北壁直下床(新段階)	TR.	TR.	++	+++	Tr.	+	+	+	TR.	+++
20 大型廻廊土坑	*	*	+	+++	Tr.	Tr.	++	+	*	+++
1 池状遺構 北西入江部 側粘土	TR.	TR.	++	+++	Tr.	+	+	+	TR.	++
2 池状遺構 北西入江部 裏込粘土	TR.	TR.	++	+++	Tr.	+	Tr.	+	TR.	++
16 池状遺構 中央部(新段階)	TR.	TR.	++	+++	Tr.	+	Tr.	+	+	+++
17 池状遺構 中央部(中段階)	TR.	TR.	++	+++	Tr.	+	Tr.	+	TR.	+++
18 池状遺構 中央部(古段階)	TR.	TR.	++	+++	Tr.	+	Tr.	+	TR.	+++
清洲城下町遺跡	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃
21 本丸東 瓦葺まり出土壁材	TR.	+	+	+++	Tr.	Tr.	+++	+	+	+++
22 本丸東 瓦葺まり出土壁材	TR.	+	*	+++	Tr.	Tr.	+++	+	TR.	+++
和泉町遺跡	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃
23 瓦葺土坑出土漆喰片	TR.	TR.	+	+++	Tr.	++	++	+	TR.	++
24 近世井戸 円筒形側材	TR.	TR.	+	+++	Tr.	++	+++	+	TR.	++
25 近世 瓦状容器	TR.	TR.	+	+++	Tr.	++	Tr.	+	TR.	++
26 近世井戸 円筒形側材	TR.	TR.	+	+++	Tr.	++	+++	+	TR.	++

第 16 表 蛍光 X 線分析結果

類も観察することができなかつた。

No.23：成分分布の試料が作成できなかつた。
方解石は確認されなかつた。

b. 名古屋城三の丸遺跡 池状遺構 側壁と床壁の相違について

側壁（No.3, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 13, 15）と床壁（No.6, 11, 12, 14, 16, 17, 18）の比較を行うと、側壁の試料にはいずれも粒状もしくは濃縮したCaと方解石が確認されるが、床壁については多様である。

No.6は池の導水部の床壁の試料であり、X線回折で方解石が確認されなかつたが、表面の特徴やCaの分布状況が同じ導水部の南側壁試料のNo.7とよく似ていることから、ともに同一素材で作成された可能性が考えられる。ただし、試料中にCaが全く含まれない部分もあることから、側壁と床壁の差がなかつたとは断言できない。No.11, 12は東張出し部の段階の異なる床壁試料、No.14は北壁直下の床壁である。No.12の方が古い段階の床壁と判断されるが、分析の結果においてはNo.11と12に大きな違いは認められなかつた。No.11, 12, 14のいずれもCaがレンズ状の分布を示す。これら床壁（No.6, 11, 12, 14）の試料について、側壁試料に比べてCaが少なく方解石の強度が低いという共通した特徴が挙げられる。このことは側壁と床壁の材料を違えていた可能性を示していると考えられる。

No.16, 17, 18はいずれも漆喰ではなかつた。

c. 名古屋城三の丸遺跡 池状遺構

側壁の相違について

側壁（No.3, 4, 5, 7, 8, 9, 10, 13, 15）の試料について、No.5, 9以外のものでは、共通して以下の特徴が認められる。成分分布をみるとCaが粒状に分布し、肉眼においても白色角礫状のものを観察することができる。No.5, 9については、

肉眼において白色角礫状のものを観察することができず、Caの分布も他と異なつてゐる。

No.5はレンズ状の粘土部分が存在している。No.5は南西導水部北壁の漆喰でNo.4の奥に存在したものである。No.4と比較すると、表層部のNo.4にはレンズ状の粘土部分は含まれない。粘土以外の部分はNo.4, 5ともによく似た組織を呈する。またNo.5とよく似た組織を持つ試料は、今回の試料中には含まれていない。No.9は東張出し部の新段階の漆喰側壁。他の側壁と異なりCaが粒状ではなく全面に均等に分布している。

また、X線回折において方解石の強度の違いを見てみると、No.3, 4, 5, 7はNo.8, 9, 10, 13, 15よりも強い。No.3は西張出し部側壁の試料、No.4, 5, 7は南西導水部の側壁試料。No.8は南側壁試料。No.9, 10は東張出し部側壁試料。No.13は北東入り江部の側壁。No.15は北側壁試料。つまり南西導水部および西張出し部の試料について、方解石の強度がやや弱い傾向が認められた。

d. 名古屋城三の丸遺跡 池状遺構 塗り重ねと推測される各段階による相違について

塗り重ねと推測される試料は、No.4, 5（南西導水部の表層と奥層）およびNo.9, 10（東張り出し部側壁の新段階と中段階）、No.11, 12（東張り出し部床壁の新段階と古段階）、No.16, 17, 18（中央部床壁の新段階、中段階、古段階）である。

これらのうち、No.4, 5については、先述のとおりNo.5にはレンズ状の粘土が認められた以外に、大きな相違は認められなかつた。またNo.9, 10やNo.11, 12についても先述の通り大きな相違は認められなかつた。No.16, 17, 18についてには土壤であることから、相違を確認することはできなかつた。

名古屋城三の丸遺跡 VII

e. 名古屋城三の丸遺跡 池状遺構とその他の遺構について

No.19は近代井戸の円筒形側材の漆喰試料。No.20は大型廃棄土坑から出土した試料。このうちNo.19は含まれる元素の割合では他の試料と違いが認められないが、Caが小岩片を取り囲むように分布している様子はこれまでの試料と大きく異なる。この試料は近代井戸の円筒形側材の漆喰で江戸時代後期以降のものとされ、No.1～18(SX02)の漆喰とは用途も時期も異なる。No.20ではCaが少なく、Mn, Feが多い。

f. 名古屋城三の丸遺跡の池状遺構と清洲城下町遺跡の試料について

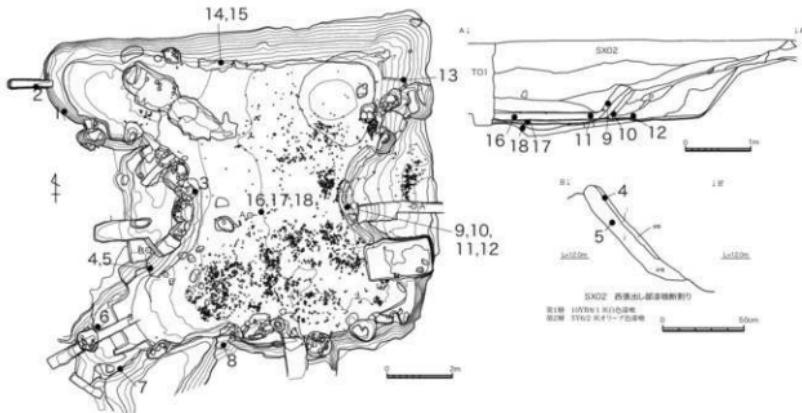
No.21, 22は清洲城本丸東側の調査区において、大量の瓦とともに出土した建物の壁と推測される試料である。製作時期は戦国時代末期から江戸時代初期と考えられる。まずCaなどの成分分布をみると均一に分布しており、名古屋城三の

丸遺跡の試料ではみられなかった分布を示す。また、X線回折では共に方解石は同定されず、全体的な検出強度そのものが低かった。これは試料中の鉱物の殆どが風化等の影響で結晶構造を持たなくなってしまったものと考えられる。成分分析のスペクトルをみると2試料ともCaとFeのピークが大きくなっている。なおNo.22からは多数の草本植物の痕跡が確認された。

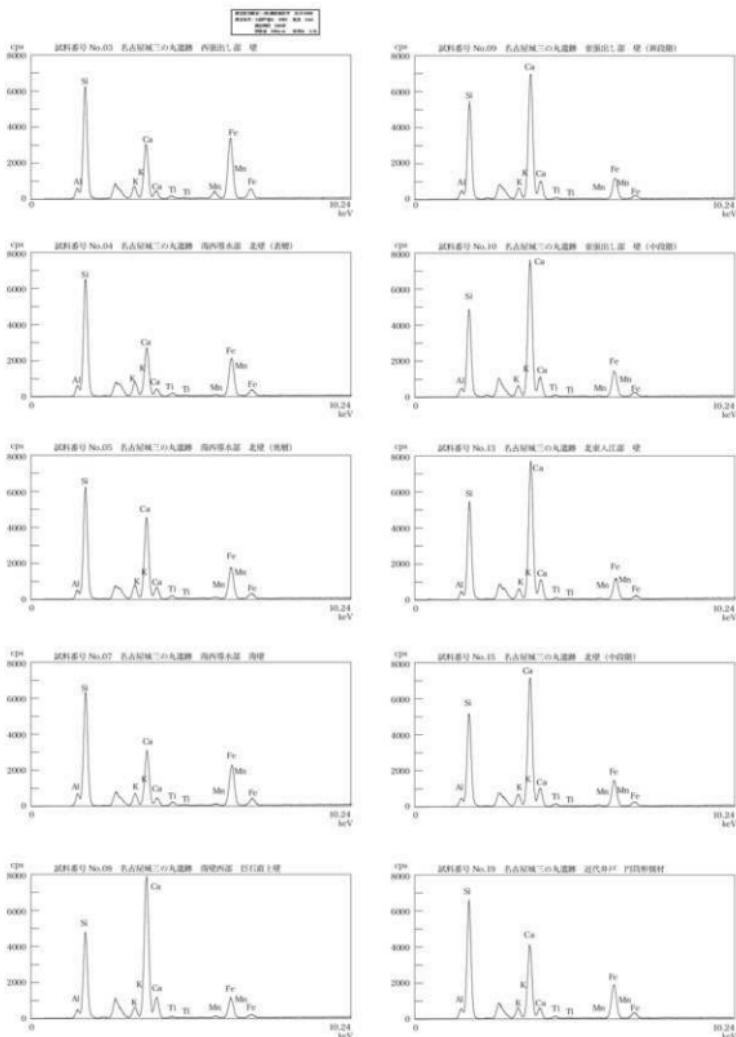
g. 名古屋城三の丸遺跡の池状遺構と和泉町遺跡の試料について

No.23～26は和泉町遺跡の試料である。和泉町遺跡は下級武家屋敷または町屋が存在したと考えられる江戸時代末期の遺跡である。No.23は廃棄土坑より出土した廃材と考えられる。No.24は井戸の円筒形側材の漆喰。No.25は漆喰製の甕状容器の試料。No.26は近代の円筒形側材の井戸の壁。

これらの試料のうち、No.23については、成分

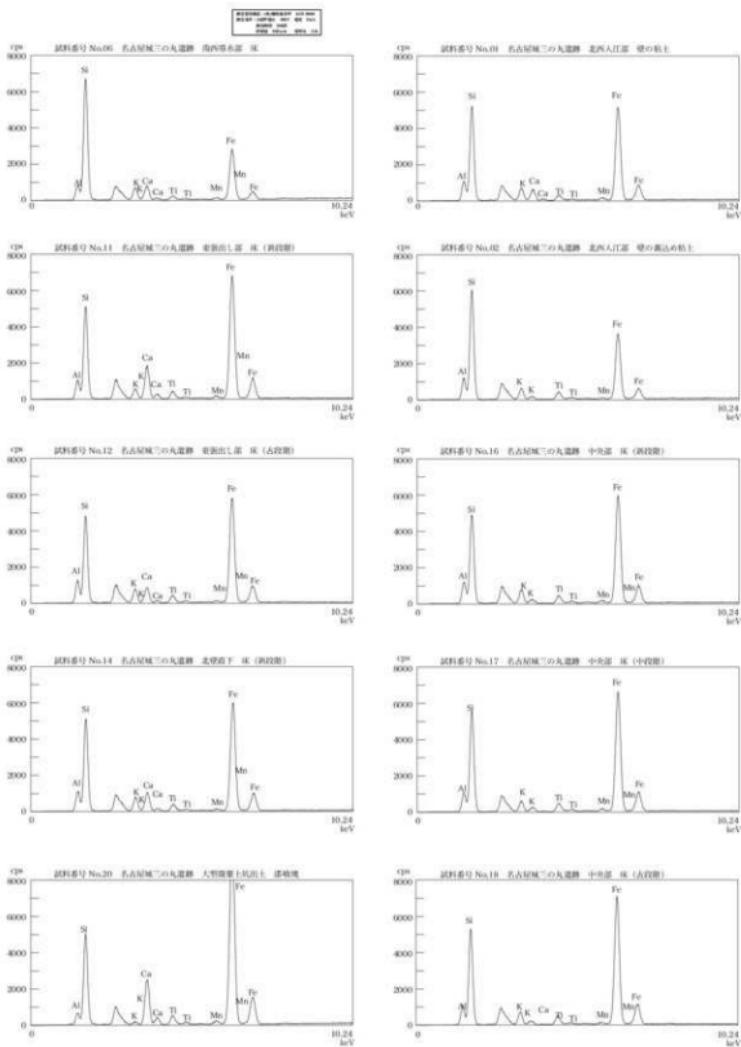


第194図 試料採取位置



第195図 蛍光X線スペクトル(1)

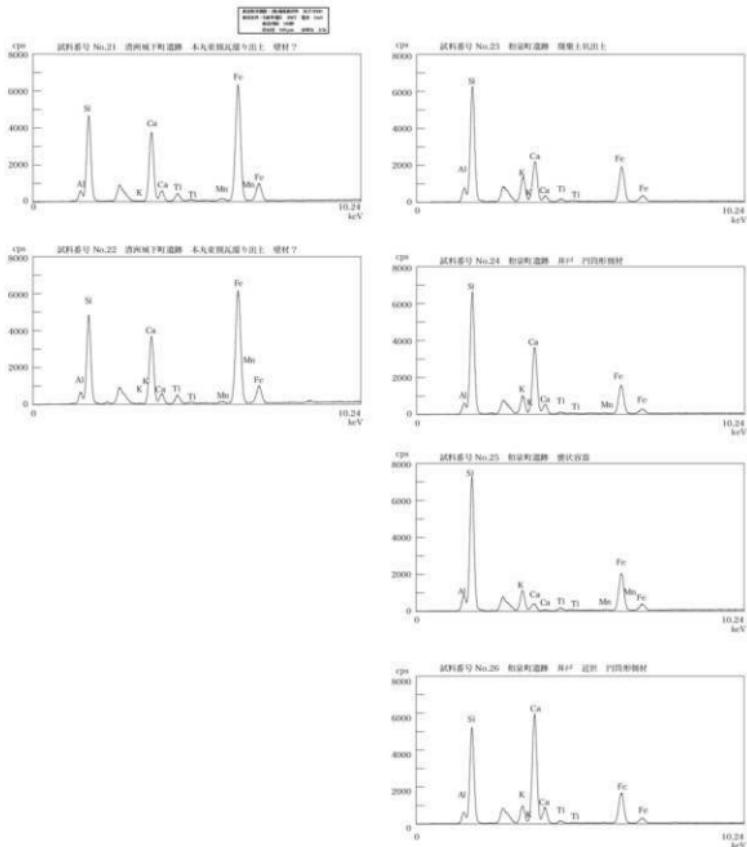
名古屋城三の丸遺跡 VII



第196図 蛍光X線スペクトル(2)

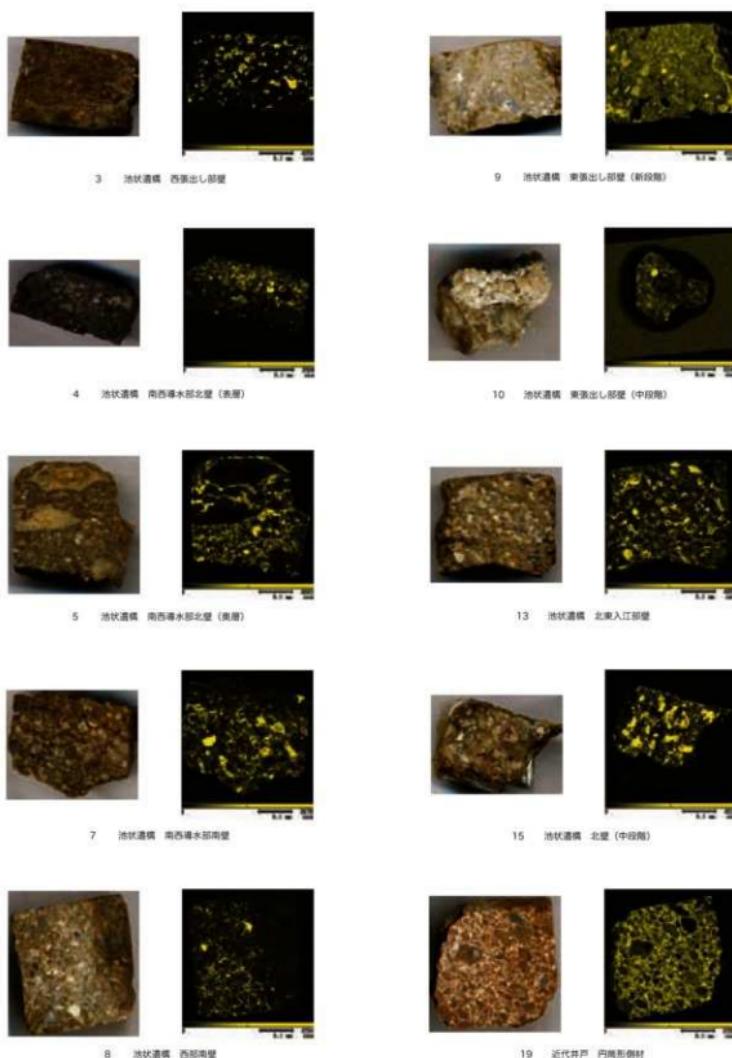
分布が実施できなかった。他の試料における成分分布の結果を見ると、いずれの試料も Ca は砂礫を取り囲むように分布している。また X 線回折では、No.24, 26 で方解石が同定され、No.23・25 では同定されなかった。ただし、No.23 からは方解石の相対強度 100 のピークが 343cps 確認されている(第 14 表)。これ以外の方解石のピークは確認されず同定には至らなかったが、わずか

に石灰が含まれている可能性はある。肉眼観察では、和泉町遺跡の試料は名古屋城三の丸遺跡の試料に比べ砂粒の割合が多い(第 12 表)。No.25 は漆喰で作成された壺状容器とされるが、肉眼観察では石灰粒子は確認されず X 線回折分析でも方解石は同定されず漆喰と判断することはできなかった。定性分析のスペクトルをみると、Ca と K, Fe のピークが他の試料と異なっている。

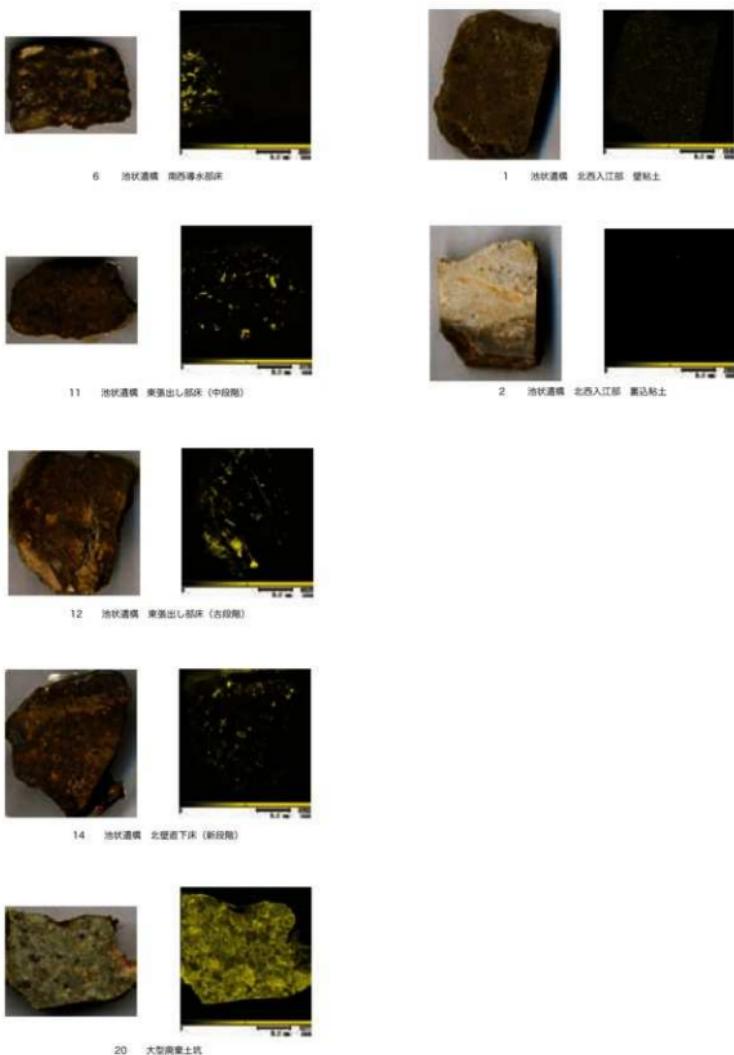


第 197 図 蛍光 X 線スペクトル (3)

名古屋城三の丸遺跡 VII



第198図 Ca の分布状況 (1)



第199図 Caの分布状況(2)

5.まとめ

今回の分析では、名古屋城三の丸遺跡の池状構造から出土した漆喰試料を中心に清洲城下町遺跡、和泉町遺跡の試料を取り扱った。名古屋城三の丸遺跡における池状構造の漆喰試料の相違について、漆喰と認識されたものに成分やCaの分布状況に大きな違いは認められなかった。また、時期による差も認められなかった。しかし、清洲城下町遺跡や和泉町遺跡などとの比較のように時期や地域が異なると、漆喰試料にCaの分布の様子やMn, Feなどの成分の違い、砂礫の入り方など明確な違いがあることが確認された。

今後、漆喰の分析試料数を増やすことにより、漆喰の利用法の歴史が解明されると期待される。

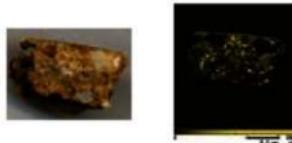
なお、今回の分析を行うにあたり、和泉町遺跡

出土漆喰については、西尾市教育委員会から試料の提供を受けた。記して感謝します。

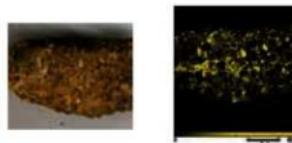
引用文献

馬渕久夫・杉下龍一郎・三輪嘉六・沢田正昭・三浦定後編(2003)、文化財科学の事典、朝倉書店、522p.

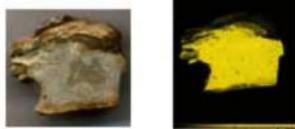
鈴木正貴(2003)名古屋城三の丸遺跡、愛知県埋蔵文化財センター年報 平成14年度、8-15。



2.3 興風土坑出土漆喰片



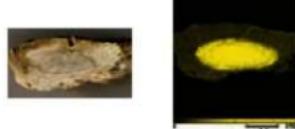
2.4 近世井戸 円筒形物



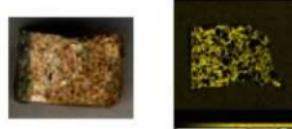
2.1 本丸東 瓦塗まり出土壁材



2.5 近世 塵状容器



2.2 本丸東 瓦塗まり出土壁材



2.6 近世井戸 円筒形物

第200図 Caの分布状況(3)

第4節 名古屋城三の丸遺跡出土の石材について

堀木真美子

名古屋城三の丸遺跡の2002年度の調査区は尾張徳川家の親族らが居住した「御屋形」と考えられている（鈴木2003）。今回の分析は「御屋形」の庭園に伴うと考えられる池状遺構および他の遺構から出土した岩石類について、岩石学的な観察を行い、その入手先を推測することを目的とした。

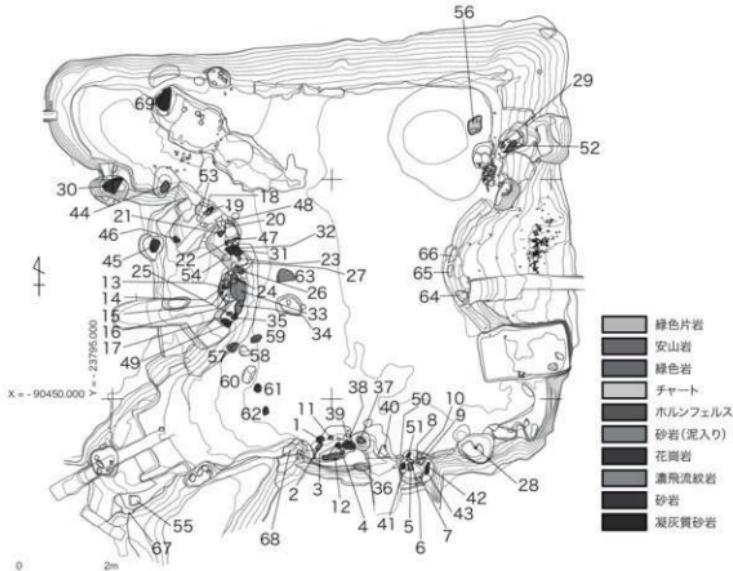
1. SD01～04出土の岩石

SD01～04は、調査区の南部にはば東西に走る石組溝（SD01）とそれにつながる石組溝（SD02～04）である。SD01は内法幅が約65cmで、内法面が平面をなすように岩石を削って成形された溝である。江戸時代前期～後期にかけての建物

に伴う遺構と考えられている。

SD01～04遺構を形成していた岩石は、内法面より観察できるものとしては2点をのぞき、すべて同一の岩石であった。その岩石は、5～10mmの長柱状～レンズ状の泥のチップ1%程度含んでいる硬砂岩である。残る2点は、黒雲母と角閃石を含む粗粒の花崗閃緑岩であった。

石組溝の内法面および裏込めの岩石を観察したところ、内法面は人工的に砕石された面であり、裏側には自然面が残されていた。また裏込めには同一の硬砂岩の破片や、拳大の亜角～亜円錐状のチャートがつめられていた。裏込めの硬砂岩の破片の一つが内法面の一つに接合できることや、内



第201図 池状遺構の巨礫の配置

法面が比較的新鮮な砕石された面であることから、溝を形成している硬砂岩は、長径 50cm 程度の亜角礫として現地に搬入され、溝の形成時に砕石されたものと考えられる。花崗閃緑岩については砕石された形跡は認められなかった。

この溝を形成した岩石類を遺跡近隣で入手されたものと仮定すれば、硬砂岩およびチャートはいずれも美濃帯に産するものであり、濃尾平野の西部へ北東部にかけて広く分布していることから、木曽川などの河川を利用して搬入された可能性が考えられる。花崗岩の供給岩体は不明である。

硬砂岩の産地について、今回は近隣の産地として考察を行ったが、他地域からの搬入である可能性を否定しきれない。硬砂岩という岩石が堆積岩である上、火成岩のように特徴的な鉱物や組織を持つことは考えにくいため、産地を特定するのは困難である。

2. 池状遺構 (SX02) にみられたおもな巨礫

調査区の北部において約 10m 四方で深さ 1.2m を測る池状の遺構が検出された。この池は、底部および側面を漆喰で塗り固め、所々に異なる岩石を意図的に配した様子がうかがえるものであった。池状遺構より出土した巨礫を第 17 表に示し、主な岩石について記載とその産地の推定を試みる。

a. 緑色岩

導水部と考えられる南西部分の底部には緑色岩および緑色片岩が使用されている。これらの岩石は全体が灰緑色を呈し、部分的に石英もしくは方解石の白色脈が入る。肉眼で観察できる鉱物類はない。亜角～角礫。平均径約 25cm。出土個数 10 個。現在でも庭石としてよく利用されているものと同様の岩石と思われる。この岩石は三波川帯に産するものと考えられ、現在においては山梨県や三重県で採取されたものが造園資材として流

通している。

b. ホルンフェルス

池状遺構の南の側壁には直径 60cm ほどの亜角礫がはめ込まれていた。長径 5mm 程度の董青石がみられる泥岩を原岩とする黒色のホルンフェルスである。ホルンフェルスは、名古屋城三の丸遺跡の北部を流れる庄内川の上流部に分布していることから、比較的近隣よりもたらされたと推測できる。他に長径 15cm 程度の角礫が 4 点出土している。

遺構番号	石材名	長径	薄の形状	側面	整理番号
SX02 9-01	砂岩	10	菱形	1	5-1
SX02 9-02	運営高角岩	20	菱形	1	5-02
SX02 9-03	砂岩	30	菱形	1	5-03
SX02 9-04	砂岩	20	角	1	5-04
SX02 9-05	砂岩(奥入り)	18	菱形	1	5-05
SX02 9-11	砂岩(奥入り)	20	菱形	1	5-11
SX02 9-12	砂岩(奥入り)	50	菱形	1	5-12
SX02 9-13	チャート	13	菱形	1	5-13
SX02 9-14	ホルンフェルス	15	菱形	1	5-14
SX02 9-15	ホルンフェルス	10	菱形	1	5-15
SX02 9-16	チャート	12	菱形	1	5-16
SX02 9-17	ホルンフェルス	12	菱形	1	5-17
SX02 9-17	ホルンフェルス	30	菱形	1	5-17
SX02 9-18	砂岩(奥入り)	20	菱形	1	5-18
SX02 9-19	花崗閃緑岩	17	角	1	5-19
SX02 9-20	砂岩	30	角	1	5-20
SX02 9-21	砂岩	30	角	1	5-21
SX02 9-23	砂岩	25	角	1	5-23
SX02 9-23	砂岩	12	角	2	5-23
SX02 9-24	ホルンフェルス	15	菱形	1	5-24
SX02 9-25	砂岩(奥入り)	18	角	1	5-25
SX02 9-26	砂岩(奥入り)	30	菱形	1	5-26
SX02 9-27	砂岩	17	角	1	5-27
SX02 9-28	砂岩(奥入り)	20	角	1	5-28
SX02 9-29	砂岩(奥入り)	18	角	1	5-29
SX02 9-30	花崗岩	30	角	1	5-30
SX02 9-32	砂岩	25	菱形	1	5-32
SX02 9-33	砂岩	50	菱形	1	5-33
SX02 9-34	砂岩	30	菱形	1	5-34
SX02 9-35	砂岩	40	角	1	5-35
SX02 9-36	砂岩(奥入り)	12	角	1	5-36
SX02 9-37	砂岩(奥入り)	40	角	1	5-37
SX02 9-38	砂岩	28	菱形	1	5-38
SX02 9-40	砂岩(奥入り)	20	菱形	1	5-40
SX02 9-41	砂岩	30	菱形	1	5-41
SX02 9-42	砂岩	35	菱形	1	5-42
SX02 9-43	運営高角岩	20	菱形	1	5-43
SX02 9-45	砂岩	40	菱形	1	5-45
SX02 9-46	砂岩	25	菱形	1	5-46
SX02 9-47	砂岩	30	菱形	1	5-47
SX02 9-48	砂岩	30	菱形	1	5-48
SX02 9-49	砂岩	20	菱形	1	5-49
SX02 9-50	砂岩(奥入り)	30	菱形	1	5-50
SX02 9-51	砂岩(奥入り)	30	菱形	1	5-51
SX02 9-52	砂岩	25	菱形	1	5-52
SX02 9-53	砂岩	25	角	1	5-53
SX02 9-54	砂岩	30	菱形	1	5-54
SX02 9-55	砂岩	40	菱形	1	5-55
SX02 9-56	砂岩	20	菱形	1	5-56
SX02 C-01	砂岩	20	角	1	5-1
SX02 9-57	砂岩	30	角	1	5-57
SX02 9-58	砂岩	20	菱形	1	5-58
SX02 9-59	砂岩	30	菱形	1	5-59
SX02 9-60	砂岩	40	菱形	1	5-60
SX02 9-61	砂岩	30	菱形	1	5-61
SX02 9-62	砂岩	30	菱形	1	5-62
SX02 9-63	砂岩	30	菱形	1	5-63
SX02 9-64	砂岩	20	菱形	1	5-64
SX02 9-65	砂岩	40	菱形	1	5-65
SX02 9-66	砂岩	25	菱形	1	5-66
SX02 C-02	砂岩	40	菱形	1	5-67
SX02 9-67	砂岩	20	菱形	1	5-68
SX02 9-68	砂岩	30	菱形	1	5-69
SX02 9-69	砂岩	20	菱形	1	5-70
SX02 9-70	砂岩	30	菱形	1	5-71
SX02 9-71	砂岩	30	菱形	1	5-72
SX02 9-72	砂岩	30	菱形	1	5-73
SX02 9-73	砂岩	20	菱形	1	5-74
SX02 9-74	砂岩	30	菱形	1	5-75
SX02 9-75	砂岩	30	菱形	1	5-76
SX02 9-76	砂岩	20	菱形	1	5-77
SX02 9-77	砂岩	30	菱形	1	5-78
SX02 9-78	砂岩	30	菱形	1	5-79
SX02 9-79	砂岩	30	菱形	1	5-80
SX02 9-80	砂岩	20~30	菱形	1	5-81
SX02 A巨石サンブル	運営高角岩	30	角	1	SS-8

第 17 表 SX01 より出土した巨礫

c. 硬砂岩

池状遺構の南部および西部に、亜角～角礫が碎石された状態の硬砂岩が多数出土した。これらの硬砂岩は、溝状遺構を形成していたものと同様に泥のチップを含むもので、美濃帯に属する硬砂岩と推測される。平均粒径 30cm 程度の角～亜角礫が 14 個出土。

d. 砂岩

前述の硬砂岩と同様に平均粒径 30cm 程度の角～亜角礫の砂岩が 18 個出土した。これらの砂岩には泥のチップは含有されておらず、前述の硬砂岩とは異なるものと考えられる。供給地を近隣

に求めるならば、美濃帯の古生層に含まれるものと思われる。

e. 凝灰質砂岩

池状遺構の各所に、平均粒径 30cm 程度の凝灰質砂岩が 4 点出土している。亜角～角礫。この凝灰質砂岩は先の硬砂岩および砂岩よりも形成時期の新しい第三紀堆積層中の凝灰質砂岩と考えられる。その供給地は瑞浪層群に求められると考ええる。

f. 凝灰岩？

池状遺構の東張出し部の壁面に漆喰に塗り込

遺構	石材	長径	横形	個数
SX02 床 1 層	チャート	3~5	亜角	多數
SX02 南東床 1 層	チャート	5	亜角	多數
SX02 床	チャート	4	亜角	多數
SX02 床 1 層	ホルンフェルス	3~7	亜角	39
SX02 南東床 1 層	ホルンフェルス	5	亜角	多數
SX02 床	ホルンフェルス	5	亜角	多數
SX02 床 1 層	緑色岩	1~3	亜角～角	9
SX02 南東床 1 層	緑色岩	5	亜角	5
SX02 床	緑色岩	5	亜角	1
SX02 床 1 層	緑色岩	1~3	亜円～亜角	9
SX02 南東床 1 層	緑色岩	3	亜角	5
SX02 床	緑色岩	3	亜角	多數
SX02 床 1 層	濃灰色軟岩	3~5	亜円～亜角	32
SX02 南東床 1 層	濃灰色軟岩	4	亜角	4
SX02 床	濃灰色軟岩	4	亜角	5
SX02 床 1 層	アブライト	3~5	亜円～亜角	28
SX02 南東床 1 層	アブライト	5	亜角	10
SX02 床	アブライト	5	亜角	2
SX02 床 1 層	砂岩	3~5	亜円～亜角	12
SX02 南東床 1 層	砂岩	4	亜角	4
SX02 床 1 層	凝灰質砂岩	3~5	亜角～角	6
SX02 南東床 1 層	凝灰質砂岩	4	亜角	4
SX02 床	凝灰質砂岩	3~5	亜角	5
SX02 床 1 層	灰質灰岩	1~3	亜角	8
SX02 床 1 層	珪質岩	3	亜円～亜角	1
SX02 南東床 1 層	珪質岩	3	亜円	2
SX02 床	珪質岩	3	亜円	1
SX02 床 1 層	泥岩	1~3	亜円	7
SX02 南東床 1 層	泥岩	3	亜円	1
SX02 床	泥岩	3	亜円	多數
SX02 床 1 層	花崗岩	3	亜角～角	6
SX02 南東床 1 層	花崗岩	3	角	2
SX02 床	花崗岩	5	角	1
SX02 床 1 層	安山岩	3	亜円～亜角	4
SX02 床	安山岩	3	亜円	1
SX02 床 1 層	凝灰質安山岩	3	亜角	1
SX02 南東床 1 層	凝灰質安山岩	6	亜円	1
SX02 床	凝灰質安山岩	4	亜角	1
SX02 床 1 層	砂質凝灰岩	7	亜角	1
SX02 床 1 層	砾石	3	亜円	1
SX02 南東床 1 層	砾石	4	角	1
SX02 床	砾石	3	亜円	3
SX02 床 1 層	礫岩	3	亜角	1
SX02 南東床 1 層	石灰岩	2	角	2
SX02 南東床 1 層	結晶片岩	5	亜角	1

第 18 表 池状遺構の床面より出土した礫

遺構	石材	長径	横形	個数
SX02 東張り出し・李着中 D	凝灰岩	30	亜角	多數
SX02 東張り出し・李着中 C	凝灰岩	30	亜角	1
SX02 東張り出し・李着中 B 5-5	凝灰岩	20	亜角	1
SX02 東張り出し	チャート	20	亜角	多數
SX02 東張り出し	ホルンフェルス	20	亜角	多數
SX02 東張り出し	砂岩	10	亜角	1
SX02 東張り出し	緑色岩	15	亜角	1
SX02 東張り出し	濃灰色軟岩	17	亜角	1
SX02 東張り出し	砂岩	20	亜角	1
SX02 東張り出し	硬砂岩	20	角	1
SX02 東張り出し	チャート	3~12	亜角	多數
SX02 東張り出し	珪質岩	3~12	亜円～亜角	多數
SX02 東張り出し	ホルンフェルス	3~12	亜円～亜角	35
SX02 東張り出し	アブライト	3~7	亜円～亜角	21
SX02 東張り出し	泥岩	1	亜円～亜角	11
SX02 東張り出し	砂岩	3~12	亜円～角	9
SX02 東張り出し	緑色岩	0.5~3	亜円～亜角	7
SX02 東張り出し	凝灰質砂岩	2~5	亜円～亜角	4
SX02 東張り出し	濃灰色軟岩	3~7	亜角	4
SX02 東張り出し	花崗岩	5	亜円～角	2
SX02 東張り出し	玄武岩	3	亜角	1

第 19 表 池状遺構東張出し部より出土した礫

遺構	石材	長径	横形	個数
SK20 アブライト	6~10	亜円	多數	
SK20 チャート	5	亜円～亜角	5	
SK20 硅質岩	3	亜角	3	
SK20 濃灰色軟岩	3	亜角	2	
SK20 ホルンフェルス	5	亜角	2	
SK20 凝灰質安山岩	3	亜角	1	
SK20 砂岩	12	亜角	1	
SK20 泥岩	3	亜円	1	
SK20 緑色岩	3	亜円	1	

第 20 表 SK20 より出土した礫

名古屋城三の丸遺跡 VII

まれた状態の亜角礫 3 点が出土した。この岩石は保存状態が不良で岩石薄片などの作成もできなかつたため、造岩歴物などは不明である。しかし、石基部分が凝灰質であることや灰色の異質岩（泥岩？）片を含んでいることから凝灰岩と判断した。産地は不明である。

g. その他の岩石

上記以外に池状遺構でみられた巨礫には、濃飛流紋岩（長径約 20cm、亜円礫、1 個）および花崗岩（長径 20 ~ 40cm、角礫、3 個）、安山岩（長径 30cm、亜円礫、1 個）が挙げられる。

3. 玉石

池状遺構および SK20 からは、亜円～円礫（いわゆる玉石）がまとまった状態で出土した。

a. 池状遺構 (SX02) の東張出し部

この地区では、拳大程度の亜角礫と長径 3cm

程度の亜角礫が多数出土した。また池の側面には漆喰で張り込められた巨礫が 3 点認められた。

拳大の亜角礫の石材はチャートが大半を占め、次いで珪質岩および泥岩起源のホルンフェルスが多く、砂岩や濃飛流紋岩、緑色岩、硬砂岩などが含まれていた。

大半を占めているチャートは長径 3cm 程度の亜角礫である。珪質岩は白色で直径 3cm 程度の亜円～亜円礫である。黒色のホルンフェルスは亜角～角礫、泥岩、砂岩、緑色岩、濃飛流紋岩などは亜円～亜角礫である。またチャートの色調は、赤褐色、黄褐色、灰色など多様である。

b. 池状遺構 (SX02) の床面

池状遺構の床面からは長径 3 ~ 5cm 程度の亜角～亜円礫が大量に出土した。石材はチャート、ホルンフェルスが多く、次いで緑色岩、緑色片岩、濃飛流紋岩、アブライト、砂岩などである。長径が大きいものほど亜角礫が多くなっている。層ご

堆積岩

- 新新世
- ▨ 新新世
- ▨ 第三紀～第四紀堆積岩類 (四十万年堆積層上部)
- ▨ 古第三紀～新第三紀堆積岩類 (四十万年堆積層下部)
- ▨ 白堊紀～第四紀堆積岩類 (四十万年堆積層下部)
- ▨ シュラ紀 堆積岩
- ▨ 二叠紀～中生代中期 堆積岩

火成岩

- ▨ 新第三紀～完新世 火山岩類
- ▨ 新第三紀～火成岩類
- ▨ 白堊紀～古第三紀堆積岩類
- ▨ 白堊紀堆積岩類
- ▨ 古生代～中生代前期 花崗岩類 (名古屋花崗岩類)
- ▨ 古生代～中生代前期 青銅質岩類 (名古屋青銅岩類)

変成岩 (古生代以前)

- ▨ 新第三紀～完新世 花崗岩類 (白堊紀)
- ▨ 三波川変成岩類 (シュラ紀～白堊紀)
- ▨ 魚鱗変成岩類 (二叠紀)



第 202 図 愛知県周辺の地形図と礫採取推定地

との石材を比べてみると、SX02 床 1 層・南東床 1 層ではチャートや緑色片岩、アブライトが多いのに対し、SX02 床では緑色岩およびホルンフェルス、泥岩が多数出土している。

c. SX03

長径 5 ~ 7cm 程度の角～亜角礫が多数出土した。石材はチャートが大半を占め、緑色岩、砂岩、凝灰質砂岩、凝灰質泥岩などが数点確認された。

d. SK20

この遺構からは鶏卵大のアブライトが大量に出土した。長径 10cm 程度の亜円礫で円磨度は良い。石英や長石に縞状の配列が確認できるものもある。黒雲母やざくろ石を含有しているものもある。アブライトの他には、長径 5cm 程度の亜円～亜角礫のチャートや長径 3cm 程度の珪質岩、ホルンフェルス、漂飛流紋岩などが数点づつ確認された。

e. 玉石類の入手先について

池状遺構からは、3cm 程度の亜円礫で、茶褐色、緑色、黒色など色彩豊かな小さな玉石類、同様に 3cm 程度の亜円礫で白色の珪質岩ばかりの玉石類、鶏卵大のアブライトの亜円礫からなる大きめの玉石、長径 5cm 程度の亜角礫と大きく分けて 4 種類の玉石類が出土した。それぞれの玉石の产地について、若干の考察を試みた。

まず色彩豊かな小さな玉石類について考察する。これらの玉石類は池状遺構の SX02 の床面よりもまとまって出土している。これら色彩豊かな小さな玉石の石材をみるとチャートやホルンフェルスに混じり、白色の珪質岩、泥岩および緑色岩、緑色片岩が含まれている。全体の淘汰度は良好で円磨度も高いことから、河川の下流域もしくは海岸付近の砂利であると推測される。また緑色片

岩および緑色岩の礫を含むことから、外帯と呼ばれる地域に深く関わる地域より産出したものと考えられる。

そこで、これらの岩石が含まれる河川もしくは海岸を推測した場合、東海地域での採取地を推定するならば、三重県熊野市の七里御浜が候補地として挙げられる。熊野市周辺の地質をみると、中古生界では四十万累層が、中新統では熊野層群および尾鷲層群、熊野酸性岩類が分布している。このうち四十万累層中には緑色片岩および緑色岩が、熊野層群には那智黒と呼ばれる泥岩や、礫岩砂岩などが含まれる。尾鷲層群にはチャートや砂岩を礫とする大曾根層や砂岩やシルト岩からなる行野浦層が含まれている。また熊野酸性岩類と呼ばれるものには、神ノ木流紋岩および凝灰岩類、花こう斑岩が含まれている。これらの地質の情報から、色彩豊かな亜円～円礫類が入手できる地域と推測される。また、熊野市の七里御浜海岸は玉砂利の海岸でよく知られている。現地において採取した小礫の種類および礫形、石材などの観察を行うと、発掘調査で得られた小礫とよく似ていることが確認された。

次に白色の珪質岩の長径 3cm ほどの亜円～亜角礫の供給地の推定を試みる。ここでいう珪質岩とは大理石やアブライト、石英、長石などいわゆる珪質な岩石の総称として用いているが、現在の地質図より珪質岩のみの亜円礫を産する地域は存在しない。つまり、出土した礫類は自然状態では存在せず、人為的な行為により白色のものだけを取り集めた状態であると考えられる。

鶏卵大のアブライトの採取地について述べる。これらは SK20 より、多数がまとまって出土したものである。大きさは鶏卵大のものから長径 10cm 程度であり、円磨度は高い。このような礫の形状より、採取地点は大きな河川の下流域もしくは海岸と推測される。そこで近隣の河川より観察を行ってゆくと、静岡県の天竜川においてよく

似た礫を採取することができた。採取地は静岡県浜松市新貝町の河川敷である。この河川敷ではアブライトや花崗岩、緑色片岩、凝灰岩、安山岩など多様な岩石を採取することができる。礫形は円～亜角礫で、様々な大きさのものが得られるが、20cm程度の亜円礫が最も多くみられる。この地で採取できるアブライトは石英や長石に配列がみられ、まれに黒雲母やざくろ石が含まれているなど、遺跡で出土したアブライトによく似ている。天竜川は長野県駒ヶ根市付近に源流を持ち、駒ヶ根花崗岩や太田切花崗岩、天竜峡花崗岩など、複数の花崗岩体を割りながら、太平洋へ注ぎ込んでいる。この地においてアブライトだけを採取したと仮定することは可能であろう。ただし、天竜川の礫を造園に利用したとの資料を発見するには至っていないため、今回は採取候補地の一つとして提示するにとどめたい。

最後に池状遺構の床面より出土した5cm程度の亜角礫について、入手地域を推測する。これら

の亜角礫の石材はチャートおよびホルンフェルス、緑色岩、緑色片岩、濃飛流紋岩、泥岩、砂岩である。これらの礫は淘汰があまり良くなく、円磨度もばらつきが大きいことから、遺跡周辺の礫層中より採取された可能性が高いと推測される。

以上遺跡より出土した玉石類について、それぞれの採取地の推定を行った。しかしここで挙げた採取地が必ずしも、最有力な候補地であるとは限らない。今回は遺跡に近い地域に限り採取できる箇所を地質背景から推測したにすぎない。今後は江戸時代の造園技術および造園材料についての文献資料などとの比較検討が必要となるであろう。

参考文献

- 原色玉石図鑑(2001)建築資料研究社.CONFORT
No.50, 49-63.
日本の地質5 中部地方II(1988) 共立出版社.310pp.



1 池状遺構 SX01 底部出土礫

*長径 3 ~ 5cm の亜角 ~ 亜円礫。石材はチャート、ホルンフェルス、泥岩など

2 緑色岩
(長径 21.7mm)3 緑色岩
(長径 22.8mm)4 緑色岩
(長径 33mm)5 砂岩
(長径 29.5mm)6 砂岩
(長径 23mm)7 砂岩
(長径 23mm)8 泥岩
(長径 28.4mm)9 泥岩
(長径 21.7mm)10 泥岩
(長径 24.7mm)11 アブライト
(長径 28.8mm)12 アブライト
(長径 71.2mm)13 アブライト
(長径 72mm)14 アブライト
(長径 52.7mm)15 アブライト
(長径 61mm)16 アブライト
(長径 73.1mm)

第 203 図 池状遺構より出土した礫

第5節 名古屋城三の丸遺跡出土木製品の樹種同定

植田秀生(バレオ・ラボ)

1.はじめに

ここでは、調査区東側の大形廃棄土抗群(SK01ほか)から出土した木製品(主に廃材)78点の樹種同定結果を報告する。出土した木製品は、板材・薄い板材(屋根)・角材などの建築廃材が多く、そのほかに箱物・折敷・曲物・結桶など容器類も検出された。

大形廃棄土抗群は、有力家臣たちが居住した武家屋敷時代(江戸時代初期:1610年~1650年頃)の後に、藩主一族や側室の屋敷などが存在した御屋形時代(1650年頃~幕末)の遺構である。御屋形時代の遺構には、庭園に伴う池・石組溝・地下室・掘立柱建物・井戸・礎石などが検出されている。調査区東側に位置する大形廃棄土抗群からは、大量の瓦・石材・大工仕事に伴う廃材などが出土し、建物の増改築時の廃棄土抗と推測されている。今までの調査では、木製品などが検出される機会はほとんどなかったので、今回の廃棄土抗群の検出により名古屋城内の藩主一族や側室などの居住区で、使用された木材利用に関する資料を得る目的で、この調査は実施された。

2. 試料と同定方法

木製品から材の3方向(横断面・接線断面・放射断面)を見定めて、剃刀を用いて各方向の薄い切片を剥ぎ取り、スライドガラスに並べ、ガムクローラーで封入し、永久プレバロート(材組織標本)を作成した。この材組織標本を、光学顕微鏡で40~400倍に拡大し観察した。

なお試料は針葉樹材がほとんどであった。針葉樹材の樹種同定には、放射断面の分野壁孔の観察が重要である。従って特に放射断面については、異なる部分から、また安定した形質が発現されて

いる年輪幅の広い部分を選び、複数の破片を採取するよう心掛けた。また、観察時には早材部の分野壁孔の特徴や、多数の分野壁孔を観察するように心掛けた。

材組織標本は、愛知県埋蔵文化財センターに保管されている。

3. 結果

同定結果の一覧を第21表に示し、第22表では検出樹種と器種ごとに集計した。検討試料数は81点であるが、実測番号97結桶底板と実測番号99大型箱物?に木釘があり、合計数が2点多く、83点となっている(第22表)。

主に板材・薄い板材(屋根)・角材などの建築廃材と、箱物・折敷・曲物・結桶など容器類などから検出された樹種は、ヒノキ(29点)・サワラ(16点)・ヒノキ属(1点)・アスナロ(8点)・ネズコ(5点)・ヒノキ科(4点)・モミ属(9点)・ツガ属(4点)・スギ(3点)の針葉樹材と、単子葉類のタケ亜科(1点)であった。材はすべて針葉樹材であった。ヒノキ(30点)が最も多く全体の約30%を占め、ヒノキとサワラを含めヒノキ属(48点)としてみると全体の約60%を占め、特にヒノキ科(ヒノキ・サワラ・ヒノキ属・アスナロ・ネズコ・ヒノキ科)に属する材は66点と全体の約80%弱を占めていた。ヒノキ属と同定したものは、ヒノキまたはサワラであるが、保存が悪く特定できなかったものであり、ヒノキ科も保存が悪いため科の同定レベルに留めた。タケ亜科の木釘は、いわゆる竹類の桿(茎)から作られたものであり、桶底の板を繋ぐ木釘によく使用されているものである。

以下に同定根拠とした材組織の特徴を記載し、

3方向の材組織写真を提示した。なお、針葉樹材の同定には、分野壁孔の特徴が重要であるが、判断に迷うことが多い難しい。従って、横断面や接線断面は同定根拠の決定にあまり重点がないと思われる分類群については写真掲載を省略し、その代わりにより多くの試料の放射断面を掲載した。

樹種記載

(1) モミ属 *Abies* マツ科 第204図 1a-1c

(図版番号 1446)

仮道管・放射柔細胞からなり、樹脂細胞はない針葉樹材。概して早材から晩材への移行はゆるやかである。放射柔細胞の壁は厚く、放射断面において接線壁に数珠状肥厚が見られ、上下端の細胞はときに山形になる。分野壁孔は小型のスギ型やヒノキ型が雖然と配置し、1分野に1~6個ある。放射組織の細胞高は比較的高い。

モミ属は常緑高木で、暖帯から温帯下部の山地に普通に見られるモミ、温帯上部の高山に生育するウラジロモミ・シラベ・アオモリトドマツ、北海道の山地に生育するトドマツの5種がある。いずれの材も組織は類似しており区別はできない。材質はやや軽軟で加工は容易であるが保存性は低い。

(2) ツガ属 *Tsuga sieboldii* Carr. マツ科

第204図 2a-2c (図版番号 1495)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞・放射仮道管からなる針葉樹材。放射柔細胞の壁は厚く、放射断面において接線壁に数珠状肥厚がみられる。放射断面において、放射柔組織の上下端に、有縁壁孔を持つ放射仮道管がある。分野壁孔は小型で2~4個ある。

モミ属の材と類似するが、ツガ属には樹脂細胞と放射仮道管がある点が異なる。

ツガ属には本州の福島県以南の暖帯から温帯下部の山地に普通のツガと、本州・四国・九州の温帯上部の深山に生育するコメツガがあるが、材組

織からは2種を区別することはできない。材は重硬で割理性も大きく耐久性もよい。

(3) スギ *Cryptomeria japonica* D.Don

スギ科 第204図 3a-3c (図版番号 2228)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量はやや多く、晩材の仮道管壁も肥厚している。樹脂細胞は年輪の後半に散在する。分野壁孔は大型、孔口は大きく開いたスギ型、開口の幅は壁孔縫の幅より広く、1分野に2~3個が水平に並ぶ。

スギは本州以南の暖帯から温帯下部の温氣のある谷間に生育する常緑高木である。材はやや軽軟で加工は容易である。

(4) ネズコ *Thuja standishii* Carr. ヒノキ科

第205図 4a-4b (図版番号 1458) 5

(図版番号 1427) 6 (図版番号 1437)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は比較的少ない。分野壁孔はヒノキ型、1分野に2~6個あり、ヒノキ属(ヒノキやサワラ)に比べ分野壁孔数が多い。

ネズコ(別名クロベ)は本州・四国の温帯上部の山中に生育する常緑高木であり、特に中部地方以北に多く分布する。材は耐朽性・切削性・割理性にすぐれる。

(5) アスナロ *Thujopsis dolabratia* Sieb. et

Zucc. ヒノキ科 第205図 7a-7b (図版番

号 1421) 8a-8b (図版番号 1432) 9 (図

版番号 1457)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は概して少ない。分野壁孔は小型のヒノキ型やスギ型、1分野に2~5個、やや雖然と配置している。実測番号26では、数箇所で放射仮道管の出現が観察された。

アスナロは日本特産で1属1種である。本州・四国・九州の温帯の山中に生育する常緑高木である。材質は良く建築材として有用であるがヒノキよりやや劣る。

(6) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa Endl.*

ヒノキ科 第 206 図 10a-10b (図版番号
1459)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は少ないが、早材から晩材への移行は緩やな材と急な材がある。分野壁孔は孔口がやや斜めに細く開いた典型的なヒノキ型、1 分野に主に 2 個が水平に配列する。

ヒノキは本州の福島県以南・四国・九州のやや乾燥した尾根や岩上に生育し、材は耐久性・切削性・割裂性にすぐれ、建築材・曲物などによく使われる。

(7) サワラ *Chamaecyparis pisifera (Sieb.
et Zucc.)* ヒノキ科 第 206 図 11 (図版
番号 1464) 12a-12c (図版番号 1477)

13a-13b (図版番号 1461) 14 (図版番号
759)

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材。晩材の量は概して少ないが、早材から晩材への移行は緩やな材と急な材がある。分野壁孔はヒノキよりやや大きく、ヒノキよりも孔口は大きく開いたヒノキ型（開口の幅は、壁孔線の幅より少ない）、1 分野に主に 2 個、時に 3 個が水平に配列する。実測番号 58 では、数箇所で放射仮道管の出現が観察された（写真 13b）。

サワラはヒノキより分布域は狭くおもな分布域は東北南部から中部地方の沢沿いの岩上に生育する。材はヒノキよりやや軽軟で劣るといわれる。

4.まとめ

名古屋城三の丸遺跡の御屋形時代の大形廃棄土抗群から出土した建築廃材などの樹種は、ヒノキ・サワラ・アスナロ・ネズコ・モミ属・ツガ属・スギの針葉樹材であった。ヒノキ科に属する材が全体の 80% を占め、次にマツ科（モミ属・ツガ属）が多く、スギは意外と少なく、マツ属複維管束亜属（アカマツとクロマツ）は検出されなかった。

特にヒノキが多く、板材・角材・楔・削り屑・端切れ材？・容器類（箱？・折敷・曲物など）・造構建築材（地下室？）など、様々な用途に使用されおり、ヒノキ材が強く選択使用されていた傾向が認められた。ヒノキの次に多いサワラも、ヒノキと同様に様々な木製品から検出された。しかし屋根材にはヒノキよりサワラの方が多く、サワラの方が選択使用されていた傾向が見られた。現在でも屋根材の搏板は、木曾産のサワラが主に使われるようである。名古屋城三の丸遺跡の屋根板材は、板より厚い板材であるが、やはりサワラが選択使用されていたようである。東京江戸では地下室の構築材は、文献ではアスナロが主に使われていた記録があり、近世江戸の遺跡でも地下室の構築材にはアスナロが多い。地下室と推定される SX100 の側板と底板は、当遺跡ではヒノキであった。

県内では、街道筋の集落遺跡である菊安賀遺跡（一宮市）において江戸時代の漆椀や箸などの樹種調査結果がある。漆椀はトチノキ・ブナ属・カエデ属などの広葉樹材がほとんどである。それ以外の多くは箸であるが、ヒノキとサワラがほとんどである（愛知県埋蔵文化財センター、2001）。また大雜把な比較ではあるが、近世江戸城周辺の遺跡においても、ヒノキ科の材が多く、特にヒノキは様々な製品で多く使われ、サワラは桶・木桶などから多く検出されている（松葉、1999 など）。権威ある特別な区域の城内遺跡であっても、時代的な樹種利用の傾向はおおよそ同じようであつたことが判った。

引用文献

- 小沢詠美子 1998『災害都市江戸と地下室』吉川弘文館
松葉礼子 2001『飯田町遺跡』千代田区飯田町遺跡調査会
愛知県埋蔵文化財センター 2001『菊安賀遺跡』

樹種分析番号	回収番号	グリット	遺構	種別	樹種	本取り	備考
1	2226	8d	SK57	無い板材	サクランボ	板目	年輪歯密
2	1451	11b	SK01B 下部	木材	アメニ	板目	実測3と同一?
3	1452	11b	SK01B 下部	木材	モミ属	板目	実測2と同一?
4	1422	11b	SK01B 下部	曲面板材?	ヒノキ	板目	
5	1475	11b	SK01B 下部	加工板材(部分)	ヒノキ	斜め板目	年輪歯密
6	1426	11b	SK01B 下部	面切られ材?	ヒノキ	夏目	
7	1421	11b	SK01B 下部	櫻	アメニ	板目	年輪歯密
8	1464	11b	SK01B 下部	面高(板材(尾根))	サクランボ	斜め	平面三角形状
9	1448	11b	SK01B 下部	加工板材	ヒノキ	斜め	
10	1447	11b	SK01B 下部	加工板材(部分)	サクランボ	夏目	
11	1449	11b	SK01B 下部	加工板材	ヒノキ	夏目	
12	1483	11b	SK01B 下部	加工板材(解体)	モミ属	板目	
13	1484	11b	SK01B 下部	面高(板材(解体))	ヒノキ	斜め	
14	1477	11b	SK01B 下部	面高(板材(解体))	サクランボ	夏目	
15	1466	11b	SK01B 下部	面高(板材)	アメニ	斜め	
16	1420	11b	SK01B 下部	面高(板材)	ヒノキ	板目	
17	1411	11b	SK01B 下部	面高(板材)	ヒノキ	斜め	年輪歯密
18	1408	11b	SK01B 下部	櫻	ヒノキ	板目	年輪歯密
19	1434	11b	SK01B 下部	加工板材(部分)	モミ属	斜め	
20	1467	11b	SK01B 下部	面高(板材(尾根))	ヒノキ	夏目	
21	1441	11b	SK01B 下部	面高(板材?)	ヒノキ	板目	
22	1412	11b	SK01B 下部	櫻	ヒノキ	斜め	年輪歯密
23	1482	11b	SK01B 下部	面高(板材(尾根))	サクランボ	夏目	
24	1466	11b	SK01B 下部	面高(板材(尾根))	サクランボ	斜め	平面三角形状
25	1481	11b	SK01B 下部	面高(板材(尾根))	サクランボ	斜め	
26	1432	11b	SK01B 下部	面高(板材)	アメニ	板目	年輪歯密
27	1410	11b	SK01B 下部	櫻	アメニ	斜め	
28	1472	11b	SK01B 下部	面高(板材)	ヒノキ	板目	年輪歯密
29	1493	11b	SK01B 下部	面高(板材)	ヒノキ	斜め	
30	1473	11b	SK01B 下部	角材片	ツガ属	斜め	
31	1450	11b	SK01B 下部	角材	モミ属	夏目	
32	1459	11b	SK01B 下部	角材	ヒノキ	斜め	
33	1443	11b	SK01B 下部	加工角材(部分)	モミ属	夏目	
34	1491	11b	SK01B 下部	加工板材	ヒノキ	斜め	
35	1433	11b	SK01B 下部	加工板材	ヒノキ	夏目	
36	1474	11b	SK01B 下部	角材片	ヒノキ	1/4分類	
37	1446	11b	SK01B 下部	角材	モミ属	板目	
38	1457	11b	SK01B 下部	角材	アメニ	斜め	
39	1458	11b	SK01B 下部	面高(板材)	モミ属	斜め	
40	1435	11b	SK01B 下部	面高(板材)	ヒノキ	夏目	
41	1425	11b	SK01B 下部	面高(板)	ヒノキ	斜め	
42	1496	11b	SK01B 下部	植物?	ヒノキ	夏目	
43	1328	11b	SK01B 下部	角材(部分)	モミ属	板目	
44	1476	11b	SK01B 下部	角材片	ヒノキ科	板目	
45	1461	11b	SK01B 下部	角材	サクランボ	夏目	
46	1453	11b	SK01B 下部	加工角材	ヒノキ	斜め	
47	1444	11b	SK01B 下部	加工角材	ヒノキ属	斜め	
48	1423	11b	SK01B 下部	植物(板材?)	サクランボ	夏目	
49	1465	11b	SK01B 下部	面高(板材(尾根))	サクランボ	夏目	平面三角形状
50	1439	11b	SK01B 下部	加工角材	ヒノキ	斜め	枝状
51	1431	11b	SK01B 下部	加工角材	ヒノキ	板目	鈍加工
52	1424	11b	SK01B 下部	植物(板)	アメニ	夏目	
53	1440	11b	SK01B 下部	加工角材(捷合)	ヒノキ	夏目	
54	1463	11b	SK01B 下部	角材	サクランボ	板目	平面三角形状
55	1436	11b	SK01B 下部	角材片	ヒノキ	斜め	
56	1454	11b	SK01B 下部	角材	ヒノキ	板目	
57	1455	11b	SK01B 下部	角材(片)	ヒノキ	板目	
58	2224	11e	SK24- (ルート)	角材(斜)	スピ	板目	
59	759	11b	SK147	面高(板材)	サクランボ	夏目	
60	1008	12f	SK185	角材片	モミ属	夏目	
61	104	SK212	過渡?	ヒノキ科	夏目		
62	2226	10b	SK362	筋脈紙板	スピ	板目	
63	2227	10b	SK362	筋脈紙板の木釘	タガバ科		
64	2225	10d	SK362	大型筋脈紙板?	スピ	夏目	
65	1548	8c	SX02 北東	大型筋脈?	ヒノキ科	夏目	
66	1549	8c	SX02 北東	手形材	アメニ	斜め	
67	1547	8c	SX02 北西	板	ヒノキ科	芯打ち曲取り	
68	1546	8c	SX02 北西	板	サクランボ	芯打ち丸木	
69	1545	8c	SX02 北西	板	サクランボ	芯打ち丸木 斜面付	
70	SB01		無り屑?	サクランボ			
71	1442	11b	SK01B 下部	加工角材	モミ属	斜め	
72	1460	11b	SK01B 下部	加工角材	サクランボ	斜め	
73	1497	11b	SK01B 下部	面高(板材(尾根))	アメニ	夏目	
74	1427	11b	SK01B 下部	加工角材	モミ属	板目	少し厚い
75	1445	11b	SK01B 下部	加工角材	モミ属	斜め	
76	1437	11b	SK01B 下部	角材片	モミ属	夏目	
77	1456	11b	SK01B 下部	角材	ツガ属	斜め	
78	1495	11b	SK01B 下部	角材	ツガ属	斜め	
年代確定		13e	SK39	樹板(スコカ?)	サクランボ		PLD-2153
9c		SX100	動物標本(地下室内)	ヒノキ			
9c		SX100	床物標本(地下室内)	ヒノキ			

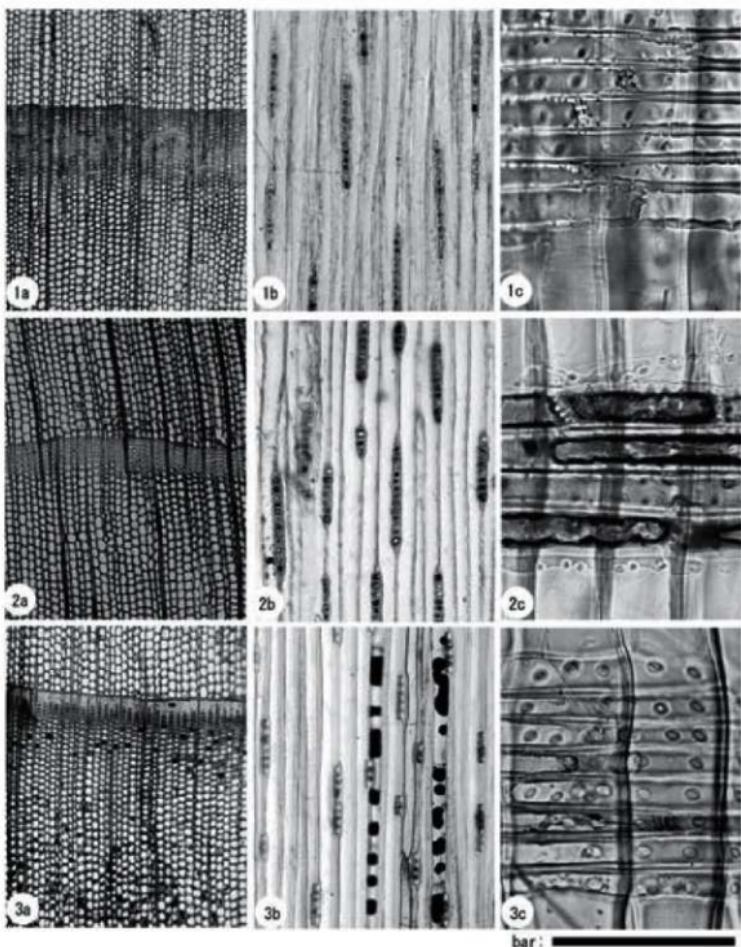
第 21 表 名古屋城三の丸遺跡出土木製品の樹種同定結果一覧

名古屋城三の丸遺跡 VII

松葉礼子 1999「溜池遺跡・汐留遺跡・墨田区三
遺跡から出土した木製品の樹種から類推される
近世江戸城周辺の木材消費」59-70『植生史研
究 第7卷第2号』日本植生史学会。

樹種別	ヒノキ科						マツ科		スギ科		合計
	ヒノキ	サワラ	ヒノキ属	アヌナコ	ネズコ	ヒノキ科	モミ属	ツガ属	スギ	タケアシ科	
厚い板材	3	1		2			1				7
板材		1									1
薄い板材	1	1									2
薄い板材（屋根）	2	6		1	1						10
加工板材	5	1					1				7
加工角材	4	1	1		2		3				11
角材	3	1		1			3	2	1		11
角材片	2					1	1	1	1		6
楔	3			2							5
杭			2				1				3
削り屑？	1	1									2
端切れ材？	1										1
部材								1			1
礎板？							1				1
不明材					2						2
箱物？		1									1
大型箱物？	本体					1					1
	木釘						1				1
大型箱物底板？									1		1
折敷底板		1									1
曲物桶底板？		1	1								2
結桶	側板				1						1
	底板								1		1
	底板の木釘									1	1
造構構築材	側板（井戸枠か？）		1								1
	箱物側板（地下室？）	1									1
	箱物床板（地下室？）	1									1
合計	30	17	1	9	5	4	9	4	3	1	83

第 22 表 名古屋城三ノ丸遺跡出土木製品の種別の樹種集計

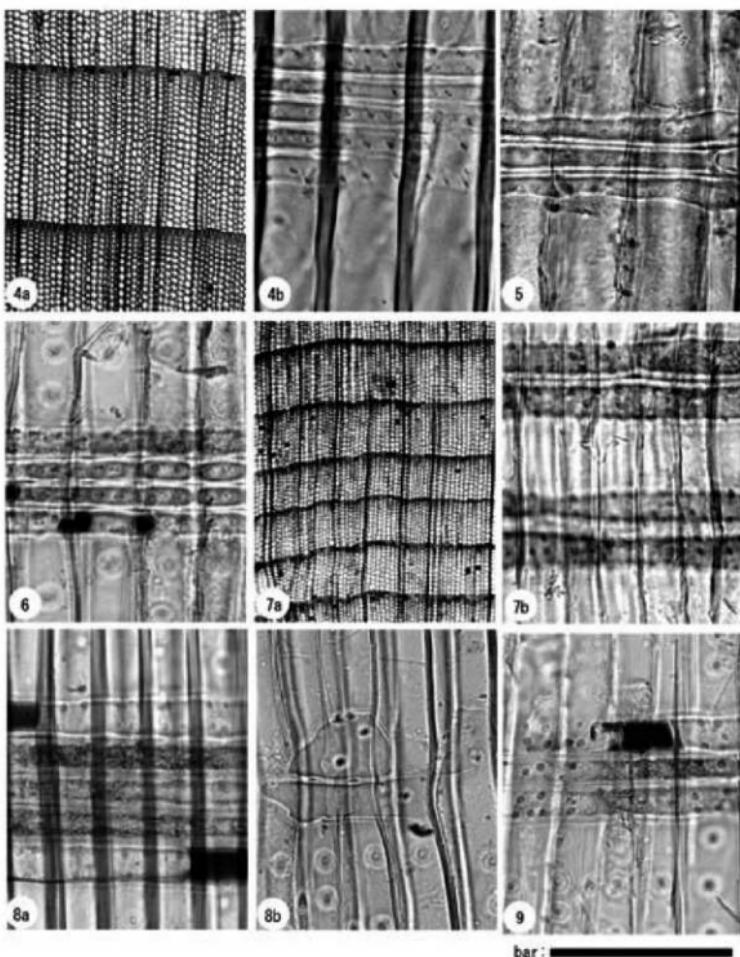


第204図 名古屋城三の丸跡出土木製品材組織の光学顕微鏡写真(1)

1a-1c: モミ属(国版番号1446) 2a-2c: ツガ属(国版番号1495) 3a-3c: スギ(国版番号2228)

1a・2a・3a: 横断面 1b・2b・3b: 接線断面 1c・2c・3c: 放射断面

bar: 横断面 = 1mm, 接線断面 = 0.4mm, 放射断面 = 0.1mm

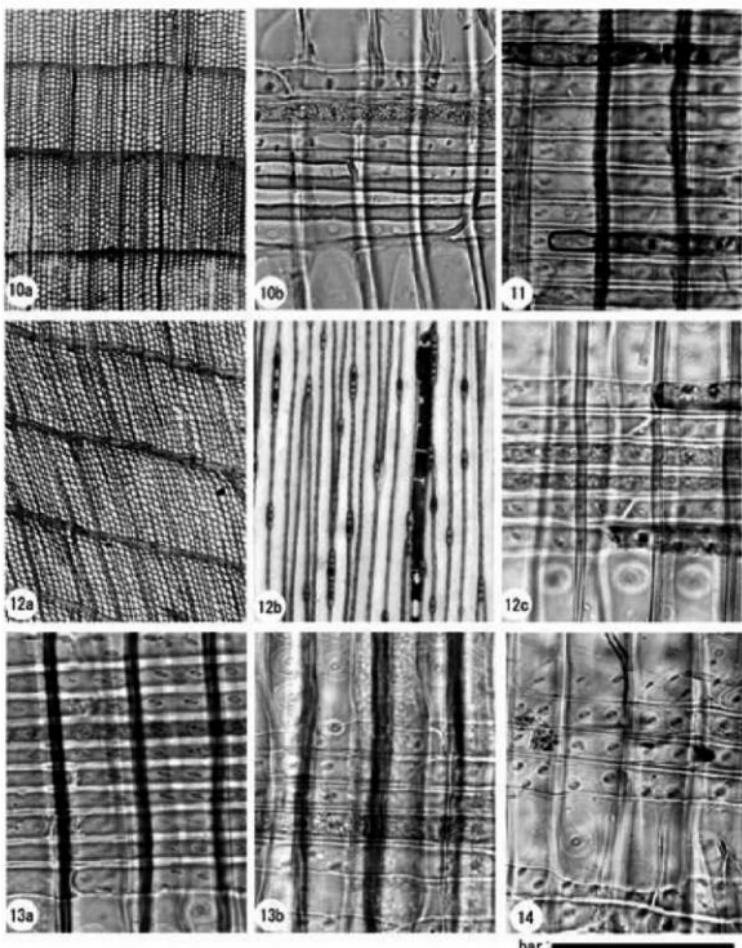


第205図 名古屋城三の丸遺跡出土木製品材組織の光学顕微鏡写真(2)

4a-4b: ネズコ(国版番号1458) 5: ネズコ(国版番号1427) 6: ネズコ(国版番号1437)

7a-7b: アスナロ(国版番号1421) 8a-8b: アスナロ(国版番号1432) 9: アスナロ(国版番号1457)

4a・7a: 横断面 4b・5・6・7b・8a・9: 放射断面 bar: 横断面 = 1mm, 放射断面 = 0.1mm



第206図 名古屋城三の丸遺跡出土木製品材組織の光学顕微鏡写真(3)

10a-10b:ヒノキ(国版番号1459) 11:サワラ(国版番号1464) 12a-12b:サワラ(国版番号1477)

13a-13b:サワラ(国版番号1461) 14:サワラ(国版番号759)

10a・12a:横断面 12b:接線断面 10b・11・12c・13a・13b・14:放射断面

bar: 横断面=1mm, 接線断面=0.4mm, 放射断面=0.1mm

第5章 考察とまとめ

第1節 文献から見た御屋形の歴史

はじめに

今回の調査区は名古屋城三の丸の北東隅、「御屋形」と呼ばれた屋敷地の一部である。御屋形は慶安4(1651)年名古屋に迎えられた廣幡忠幸の屋敷を嚆矢とし、藩主の一族・側室らが居住したことで古くから知られている。御屋形およびその周辺については、江戸末期奥村得義により編纂された『金城温古錄』に区画および居住者の変遷に関する記事があり、詳細な検討が行われている。その後大正5(1916)年に編纂された『名古屋市史』地理編などに御屋形の記述があるものの、具体的に検討されてきたとは言いたい。また近年三の丸の居住者の変遷(伊藤、1995)や名古屋城下絵図に関する検討(山本、1993)が試みられており、それらの成果を探り入れた御屋形の新しい研究が求められている。

そこで小稿では、御屋形及びその周辺の区画の形成過程について、蓬左文庫が所蔵する御屋形絵図、および名古屋城下絵図を題材に検討する。また御屋形の居住者の変遷を整理し、御屋形がどのように利用されてきたかを検討する。

1 御屋形成立以前

名古屋城は慶長15(1610)年に築城が始まり、初代藩主徳川義直が本丸御殿で居住を始める元和2(1616)年までには城下の整備が進んだ。「清須越」により家臣団・町人等の移住が行われ、大身の家臣は三之丸、それ以外の家臣には曲輪の周辺に屋敷地が与えられた。また『金城温古錄』所載「三之丸内邸宅古図」(以下、「邸宅古図」と略す)によると、御付家老である成瀬隼人正と竹腰山城

守は二之丸、志水甲斐守は二之丸のうち西之丸に屋敷地を与えられたが、志水家は寛永3(1626)年に、成瀬・竹腰両家は寛文3(1663)年にそれぞれ三之丸に移った。

さて「邸宅古図」によると、御屋形が位置した東^(北)鉄門の東には武家屋敷が展開しており、南北に1筋、東西に1筋小路が通じていたとされる。東鉄門に面して寺西藤左衛門、石川市正、津田太郎左衛門が屋敷を構え、その裏手には一色竜雲、栗生将監の名を見出すことができる。南北の小路をはさんで東側には普請奉行の小屋場と御藏があったが、その後武家屋敷となっている。

2 御屋形空間の形成

慶安2(1649)年義直の娘京姫と八条宮智仁親王の第二王子幸丸との婚礼が決まり、「石川伊賀屋敷替被仰付 御厩之内差添御作事」(『福年大略』)が行われた。この記事により、石川伊賀守正光らを屋敷替えの上、御屋形の区画の原型が成立したことがわかる。義直の逝去ははさんで慶安4(1651)年正月、京都より幸丸が迎えられ、翌2月に京姫との婚礼が執り行われた。幸丸の屋敷は東鉄門向屋敷と呼ばれ、「金城温古錄」によると、門は幸丸・京姫別々に設けられていたが、内部は一続きになっていたといわれている。また万治3(1660)年には東北隅の区画で屋敷替えが行われ、新たな屋敷の作事が行われた。義直の側室貞松院が二之丸から移り住んだため、貞松院屋敷あるいは東御屋敷と呼ばれるようになった。

寛文3(1663)年、幸丸は清华に列せられた上廣幡忠幸を名乗り京都に戻ることになったが、

京姫と4人の娘は上京せず、向屋敷にそのまま留まった。忠幸の明屋敷には寛文4(1664)年松平出雲守義昌が「御城内ニ而火之元等如何敷」(「御国御領分御殿・御屋敷等當時存亡吟味之留」、旧蓬左文庫所蔵資料一三九一三〇)ため、二之丸より移り住んだ。義昌は向屋敷に寛文6(1666)年まで住み、城の西南に新たに設けられた廣井屋敷に移り住んだ。また京姫はのちに普峯院と呼ばれ、寛文13(1673)年に廣井下屋敷へ移った。このため向屋敷はしばらく空館となった。

延宝3(1675)年、2代藩主光友の嫡子綱誠が部屋住の身分で入国することになり、これに伴い向屋敷が東隣の武家屋敷を取り込んで拡張・整備された。綱誠は同年5月向屋敷に入り、諸文献によるとこの時点で御屋形の称が始まったとされる。また『金城温古録』によると、御屋形の区画は貞享2(1685)年に「御春屋」ほかの武家屋敷を組み込む形で拡張されている。一方東御屋敷は貞松院が貞享元(1684)年に逝去し、翌2年に光友の末子六郎友重が二之丸から移り住んだ。六郎は貞享4(1687)年春日井郡水野村へ蟄居となり、翌元禄元(1688)年には松平根津守義行の仮の館として、同5(1692)年まで利用された。

元禄6(1693)年4月、光友は幕府に自らの隠居と綱誠への家督相続を願い出、許しを得た。この間御屋形に東御屋敷を組み込む作事が行われ、8月に完成した。御屋形・東御屋敷は一続きの区画となった。光友は翌9月に名古屋に入国して御屋形へ入り、夫人の松壽院も二之丸から移り住んだ。こうして御屋形は元禄8(1695)年、大曾根下屋敷が完成するまでの間、隠居所として利用された。

3 御屋形区画の変遷

前節では御屋形の区画が形成される過程を文献から確認したが、ここでは御屋形及び周辺の区画

の変遷を、名古屋城下絵図と蓬左文庫が所蔵する御屋形絵図の検討を中心に、「金城温古録」の記述と照らしあわせて試みる。

名古屋城下絵図のうち慶安2年以前における三之丸の区画を示す絵図としては、正保4(1647)年作成とされる徳川美術館所蔵「名古屋城絵図」(以下、「正保4年絵図」と称す)がある。「正保4年絵図」は尾張藩が幕府に提出した城絵図の控とされ、現存最古のものである(『新修名古屋市史』第3巻付図解題)。絵図の性格上墨の深さ・幅や石垣の高さを記し、隅櫓・枡形なども立体的に描かれている。しかし三之丸やその周辺の武家地は重臣の屋敷を除いて「侍町」「鷹帥町」とのみ記され、1軒ごとの区画も省略されている。

慶安2年の東鉄門向屋敷の時代の城下絵図としては、名古屋城管理事務所蔵「万治年間名古屋城下絵図」(以下、「万治年間絵図」と略す)がある。同図は記入内容から寛文8(1668)年から延宝3年の間に描かれたと考えられ、向屋敷には「普峯院様」「出雲守様」の名が、東隅には「貞松院様」の名も見られる。また「厩」は清水門の北いわゆる土居下に描かれており、『金城温古録』の記述を裏付ける。

前節でも述べたように、東鉄門向屋敷は延宝3年綱誠の入国により御屋形と呼ばれ、区画は周辺の武家屋敷を囲い込むように拡張する。この時期における区画の変化を、蓬左文庫所蔵の絵図のうち、次の3点について検討を進めることにする。

「三之丸絵図」(蓬左文庫 図444)

御屋形・武家屋敷の区画を描写し、土居・道筋を貼紙で表現している。土居・道筋は黄色の貼紙で表しているが、「貞松院様」と「御春屋」の間に新たに設ける道筋は青色の貼紙で表している。区画の大きさを1軒ごとに間数で表し、「御屋形」・「御馬屋」・「御春屋」の名称や、武家屋敷の居住者が記されている。

「御屋形并東御殿御絵図」(蓬左文庫 図417)

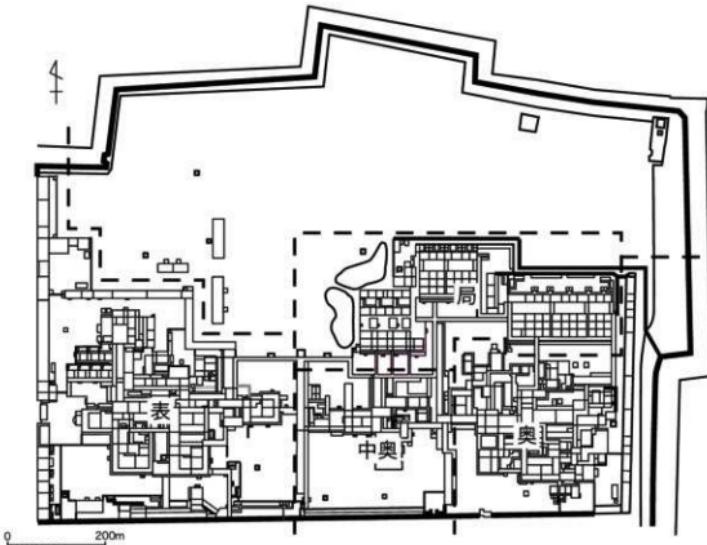
指図であり、1間を3分(約0.9cm)で描く三分計の図である。御屋形・東御殿と長屋を黄色の貼紙、腰を青色の貼紙で表す。間取りの表現は詳細であるが、外堀は簡略化されている。御屋形の北に「御厩」および「別当屋敷」があり、武家屋敷の区画を1軒ごとに表現し、「南御屋敷」、「御春屋」や居住者が記されている。

「御屋形御絵図」(蓬左文庫 図416)

御屋形の区画を描く2枚の絵図からなり、袋には「御屋形御差図」と表記する。1間を8分(約2.4cm)で描く八分計の図である。部屋は黄色・青色の貼紙で色分けして表し、部屋の名称を付箋で表している。また板張・畳敷の区別が描かれている。3点の中ではもっとも詳細な情報を持つ。

まず「御屋形御絵図」は「御屋形」を1区画

で描いていること、御土居東北隅に描かれた社殿が「荒神社」であることから、同図が元禄6年に完成した光友隠居所の指図である可能性が高い。残る2点の前後関係は、「御春屋」とその周辺の区画に注目して検討することができる。「三之丸絵図」では、「御春屋」は「貞松院様」の西に隣接している。これに対し「御屋形并東御殿御絵図」では、「御春屋」は「御屋形」の南「南御屋敷」に隣接している。また「金城温古録」の記述によると、「御春屋」は貞享2年2月に取扱された後評定所へ一時的に寓居し、5月に松平図書の屋敷南に移転したとある。さらに同書「御屋形御曲輪 其三 延宝三卯年以後変化」では、松平図書の屋敷が延宝6(1678)年に移転し、跡地は「南御屋敷」となっている。これらのことから、「三之丸絵図」は貞享2年以前に、「御屋形并東御殿御絵図」は貞享2年以降、元禄6年までに作成されたと考えるのが自然となる。したがって



第207図 御屋形の機能(『御屋形御絵図』をトレースして編集・改変を加えたものである)

御屋形の区画は「万治年間絵図」の段階、「三之丸絵図」の段階、「御屋形并東御殿御絵図」の段階、「御屋形御絵図」の段階の順で拡張されたと考えられる。

次に、御屋形の内部空間について概略する。本丸御殿・二之丸御殿は先行研究でも明らかにされている通り、公的機能を持つ「表」と住居に相当する「中奥」「奥」「奥」に隣接し女中の居住空間である「局」の大きく3種類の空間から成り立つ(『新修名古屋市史』第3巻)。第208図は「御屋形御絵図」をトレースしたものである。御屋形は東西2棟の建物を中核に、間に1棟の建物をはさんで構成される。先に述べたように同絵図は部屋を2色の貼紙で表しているが、部屋の名称を検討すると次のようなことがわかる。まず西側の建物には「表御門」「御広間」「御書院」「御墨絵之間」のほか、家老・用人・書院番・小姓の「休所」があり、西側の建物が「表」の機能を有していたことがわかる。一方東側の建物には「御口部屋」「片岡部屋」など、「奥」を表す名称が目立つ。間にある建物は「御座之間」「御湯殿」「御持仏堂」など「中奥」の機能を有すると言え、したがって西から「表」「中奥」「奥」と並ぶことになる(第207図)。また、「奥」の北隣には「長御局」「中御局」「奥御局」が位置する。したがって2色の貼紙は「表」「奥」を黄色で、その他の部屋を青色で表したことがわかる。

4 その後の御屋形

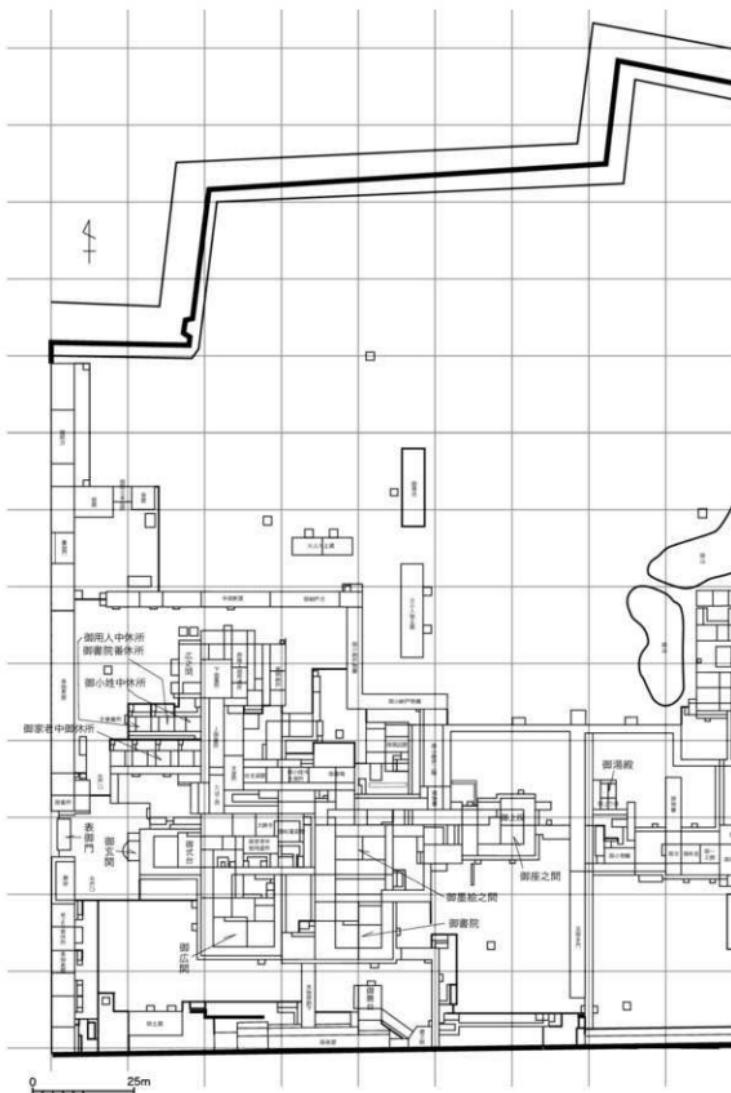
2節でも述べたように、光友は元禄8(1695)年3月御屋形を離れ、新たに完成した大曾根下屋敷に移り住んだ。しかし松濤院は御屋形に留まり、宝永2(1705)年に逝去するまで東側の建物で暮らした。西側の建物はしばらく居住者がなく空館となるが、「表」としての機能を有していたため、しばしば利用されていることが文献からわかる。一例を挙げると、元禄12(1699)年3代藩

主綱誠逝去の際、光友と出雲守義昌は幕府の弔喪使黒田甲斐守を御屋形で迎えたとある(『尾瀬世記』五)。またこの時期に内寄合の場として利用されていたことが特筆される。内寄合とは、評定所のメンバーが評議以外におこなった内輪の会合である(林、1956)が、元禄14(1701)年「年寄役、月番宅寄合を廃止し、向後屋形に於て会合候様」申し達した(『尾瀬世記』六)とあり、文中の「月番宅寄合」が内寄合を指すと考えられる。その後内寄合は正徳3(1713)年に瑞祥院が御屋形に居住することになったため、以後は評定所で行われるようになったとされる(林、同上書)。

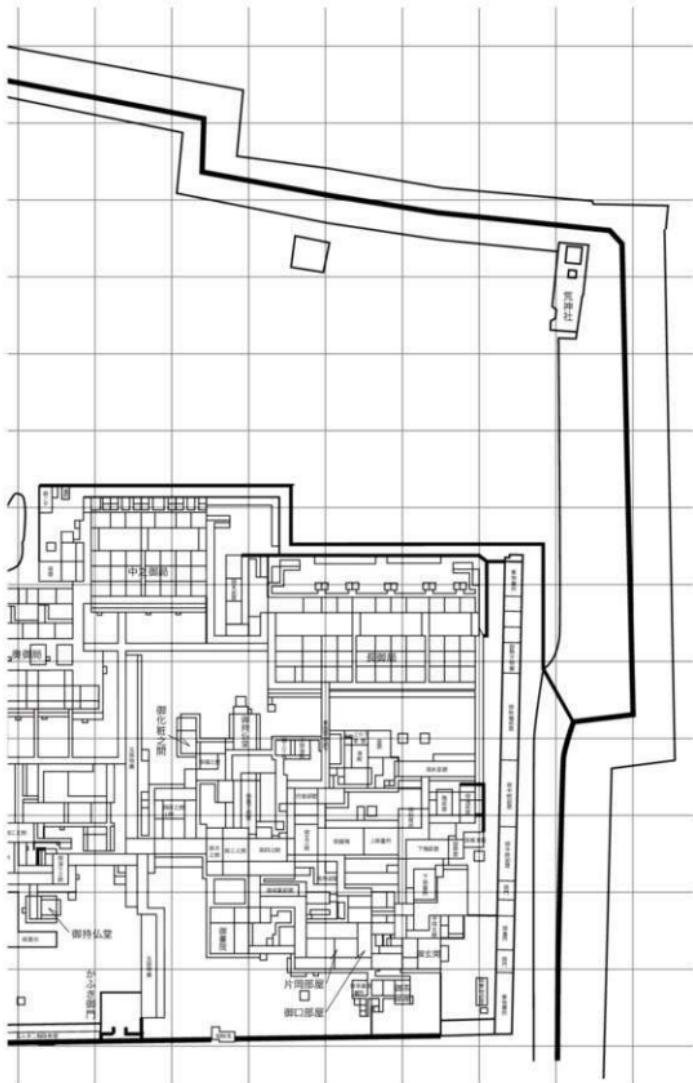
元禄15(1702)年、4代藩主吉通との婚礼のため九条輔寔の娘輔子が江戸に下向するが、途中3月18日から25日にかけて名古屋を訪れ、御屋形に滞在した。正徳3(1713)年吉通が逝去し、落飾して瑞祥院と呼ばれた輔子は翌4(1714)年9月娘千姫とともに御屋形に入り、少なくとも享保8(1723)年まではここで暮らした可能性がある。また東の建物には宝永6(1709)年吉通の側室梅昌院が二之丸から移り、享保15(1730)年の逝去まで暮らしている。梅昌院の後には7代藩主宗春の生母宣揚院が享保16(1731)年に移り住んだが、元文5(1740)年4月には宗春の娘博姫(頼姫)が8代藩主宗勝の養女となり、同年10月に「尾州へ御登、宣揚院様御殿に御同居」したとある。宣揚院は寛保3(1743)年に逝去するが、博姫は近衛内前との婚礼のため上京する延享3(1746)年ごろまで、ここで過ごしたと考えられる(『尾張徳川家系譜』所収「御系譜」)。

5 御屋形の終焉

延享3年以降の御屋形がどのように利用されたか、文献から確認できることは少なくなる。『金城温古録』によると、東の建物は藩主が江戸へ参勤中、御城女中の仮居の局になったとされ、この



第 208 図 御屋形の内部空間（『御屋形御絵図』をトレースして編集・改変したものである）



ことは名古屋市鶴舞中央図書館蔵「寛政前後 名古屋城三の丸図」で確認できる。なお建物は嘉永年中に「毀取」られた（『金城温古録』）。一方西側の建物では、享和2（1802）年松平治行の夫人聖院院が「源明様、源白様御廟江御參詣被成度旨」（「御系譜」）として、文化元（1804）年に逝去するまで御屋形で過ごした。また文化5（1808）年、高須松平家松平勝富の娘維姫が近衛基前との婚礼のため京都に向かう途中、宿館として利用した。天保7（1836）年、近衛忠惣の妹福君が11代藩主齊温の夫人となるため江戸に向かう途中、御屋形を宿館として利用している。福君は天保10（1839）年齊温が逝去すると落飾して俊恭院と号し、翌11（1840）年に逝去するまで御屋形で過ごした。

天保14（1843）年12代藩主齊莊は御屋形をお供の江戸定府衆および御広敷付役人の詰所として利用した（『金城温古録』）。この時点で御屋形は藩主一族の居館、および宿館としての機能を失ったとみなすことができるが、同書の「御屋形曲輪 後」によると、御屋形を隠居所として使用した人物が居る。15代藩主茂徳である。彼は14代藩主慶勝の弟にあたり、慶勝が安政の大獄に連座して隠居した安政5（1858）年、藩主の座に就いた。しかし文久3（1863）年隠居して玄同を名乗り、御屋形へ移ったと考えられる。玄同は幕末の混乱した政局の中慶応2（1866）年一橋家を相続して御屋形を離れ、御屋形は空館となつた。

明治4（1871）年廃藩置県により、16代藩主義宜をはじめ尾張徳川家の人々は名古屋を離れ、東京へ移り住んだ。翌5（1872）年東京鎮台第3分営が名古屋城に置かれ、御屋形をはじめ三之丸の武家屋敷は取り壊された（『新修名古屋市史』第5巻）。

6まとめ

前節まで文献・絵図から御屋形の変遷をたどってきたが、御屋形の区画は両者の検討をまとめるとして、次のように変遷する（第209図）。

武家屋敷期（空間A） 1610年～1651年

東鉄門向屋敷成立以前の状況。名古屋開府当初は武家屋敷のほかに普請奉行の小屋場・御蔵が並んだ。その後小屋場・御蔵も武家屋敷として利用される。

東鉄門向屋敷期（空間B） 1651年～1675年

廣輔忠幸・京姫の屋敷（東向屋敷）および貞松院屋敷の普請に伴い、武家屋敷の移転が始まる。

御屋形Ⅰ期（空間C） 1675年～1684年

徳川綱誠の入国に伴って御屋形の称が始まり、区画も東側に拡張される。向屋敷の北側は厩として利用される。残った武家屋敷も御春屋を除いて移転が進む。

御屋形Ⅱ期（空間D） 1684年～1693年

御春屋が御屋形南に移転し、御屋形の拡張が進む。

御屋形Ⅲ期（空間E） 1693年～1695年

御屋形・貞松院屋敷が一統きの区画となり、一体化。光友の隠居所として利用される。

御屋形Ⅳa期（空間F） 1695年～18世紀半ば

御屋形の機能が分化。瑞祥院が居住した時期を除き、御屋形の公的施設の性格が強まる。一方とも貞松院屋敷の部分は藩主の側室らが居住する。

御屋形Ⅳb期（空間F） 18世紀半ば～1872年

御屋形の機能が衰退する過程。貞松院屋敷の部分は嘉永年中（1850年前後）に取り壊され、御屋形も福君の逝去とともに事实上役割を終える。

ただし、時期区分については残された課題も多い。江戸中・後期（御屋形IV a期、IV b期）の御屋形については、『金城温古録』その他の文献でも記述が少ないため、特に18世紀後半の状況が明らかにできなかった。また今回の検討は御屋形の区画に重点を置いたため、御屋形III期に成立した東御殿や御用地について十分検討を進めなかつた点などが挙げられる。さらに城下絵図にはいくつかのバリエーションがあり、絵図が作成された目的を含め、検討の対象を三之丸全体に広げる必要があるといえる。今後さらに検討を進めたいと思う。

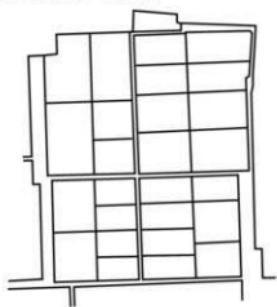
最後になったが、蓬左文庫職員の下村信博氏には絵図の閲覧を含め、数多くの助言をいただいた。厚く感謝の意を表する次第である。（鶴剣雅弘）

参考文献

- 伊藤秀紀 1995「三の丸に居住した人々」『名古屋城三の丸遺跡（V）』愛知県埋蔵文化財センター
- 山本祐子 1993「名古屋城下図の年代比定と編年について」『名古屋市博物館研究紀要』第17
- 太田尚宏 2003「尾張藩邸・御殿の概略・変遷に関する史料」『金城叢書 史学美術論集』第三十輯 德川黎明会
- 林董一 1962『尾張藩公法史の研究』日本学術振興会
- 濱島正士 1992『設計図が語る古建築の世界 もうひとつの「建築史」』彰国社
- 『新修名古屋市史』第三巻 名古屋市 1999
- 『新修名古屋市史』第五巻 名古屋市 2000
- 『日本名城集成 名古屋城』小学館 1985
- 『蓬左文庫名古屋市移管五十周年 尾張徳川家の絵図 - 大名がいだいた世界観 -』名古屋市博物館 2000
- 『太陽コレクション 城下町古地図散歩2 名古屋・東海の城下町』平凡社 1995
- 『名古屋叢書続編 十六 金城温古録 四』名古屋市教育委員会
- 『名古屋叢書三編 一 尾張徳川家系譜』名古屋市教育委員会
- 『名古屋叢書三編 四 尾藩世記 上』名古屋市教育委員会

名古屋城三の丸遺跡 VII

空間 A (1610~1651)



空間 B (1651~1675)



空間 C (1675~1684)



空間 D (1684~1693)



空間 E (1693~1695)



空間 F (1695~1872)



*文化14年以降は御屋形南の区画が
再び武家屋敷となる

第209図 御屋形の変遷

時期区分	空間	居住者		絵図	藩主	
		御屋形	東御屋敷			
1651 武家屋敷期	A	広瀬幸丸(生没) (1651~63)	京姫(普寧院) (1651~73)	『金城温古録』所収「邸宅古図」 「御屋形曲輪 麗安以前」 正保四年 名古屋城下図 德	義直	
1675 東鉄門向屋敷期	B	出雲守義昌 (1664~66)	貞松院(1660~84)	万治年間 名古屋城下図 城	光友	
1684 御屋形Ⅰ期	C	徳川綱誠 (1675~93)	既	三之丸絵図 蓬	綱誠	
1693 御屋形Ⅱ期	D		六郎(1684~86) 攝津守義行 (1688~92)	御屋形并東御殿御絵図 蓬 延宝名古屋絵図 岩	吉通	
1695 御屋形Ⅲ期	E	光友邸居所(1693~95)		御屋形御絵図 蓬 名古屋城下図 鶴 名古屋城下図 德	五郎太 繼友 宗春 宗勝 宗睦	
1700年代 半ば	F	九条輔子宿館(1702) 瑞祥院(築子、1714~23?)	松寿院(1693~1705) 梅昌院(1707~30) 宣揚院(1731~43) 傳姬(築子、1740~46)	尾府名古屋図 蓬 名古屋城三之丸図 鶴 享保十四年名護屋絵図 圓	吉通 五郎太 繼友 宗春 宗勝 宗睦	
1800 御屋形Ⅳb期		理聰院(1802~04) 雑姫宿館(1808) 福君宿館(1836) 後慈院(福原、1839~40) 江戸定府衆御広敷役入詰所 徳川玄同(生没、1863~66)	二之丸女中左在居 毀取(嘉永年中)	名古屋井熱田図 德 名古屋図 岩 名古屋城三之丸図 鶴 名古屋三之丸諸役所持場分図 鶴 名古屋図 岩 尾府全図 鶴	齊朝 齊溫 齊莊 慶誠 慶勝 茂栄 義宣	

※御屋形Ⅳa,Ⅳb期は機能の違いにより分けた

参照絵図一覧(所蔵機関別)

徳川美術館(德)	名古屋城下図	正保4年	名古屋市鶴舞中央図書館(鶴)	元禄7年
	名古屋城下図	元禄13年頃	名古屋城下図 元禄	享保元年~6年
	名古屋井熱田図	寛延元年~宝曆13年	名古屋城三之丸図	寛政前後
名古屋城管理事務所(城)	名古屋城下図	寛文7年~延宝元年	名古屋城三之丸図	文政6年
万治年間名古屋城下絵図	名古屋城下図		名古屋三之丸諸役所持場分図	明治元年~2年
蓬左文庫(蓬)	三之丸絵図		西尾市岩瀬文庫(岩)	
	御屋形并東御殿御絵図		延宝名古屋絵図	延宝9年~元禄2年
	御屋形御絵図		名古屋図	天明6年~寛政6年
	尾府名古屋図	正徳4年	名古屋図	弘化2年
			愛知県図書館(國)	
			享保十四年名護屋絵図	享保14年

※絵図の年代は山本祐子「名古屋城下図の年代比定と編年について」
内藤昌ほか「日本名城集成 名古屋城」を参照した

第23表 三の丸御屋形居住者の変遷

第2節 名古屋城三の丸遺跡の土師器皿の変遷 (御屋形地点出土資料を中心に)

1 はじめに

今回の発掘調査では古墳時代から現代に至るまで連続と遺跡が継続していたことが判明している。ここでは、数多くある遺物のうち土師器製品について概観しその変遷を明らかにしたい。ここでは、まず土師器皿類の変遷を検討する。

2 ロクロ調整土師器皿の分類

土師器皿類は大きくロクロ調整土師器皿と非ロクロ調整皿に区分できる。

このうち、ロクロ調整皿は底部外面に回転糸切り痕が残存するもので、形状と規模から9類に大別され、それぞれについてさらに細区分が可能である。

ロクロ調整皿 A類：口径が11～14cmで口縁端部を外反させたものである。体部外面を2段にナデ調整を施し口縁端部が大きく外反するもので、今回の資料では細分できなかった。SK147 ロクロ調整皿 I類などが該当する。

ロクロ調整皿 B類：口径が10～16cm前後で体部が逆ハ字状に開き口縁端部までおおよそ直線的になるものである。底部と体部との境界部の形状から3型式に細分できる。

ロクロ調整皿 B類第1型式：底部と体部との境界部内面がやや凹むものである。SK147 ロクロ調整皿 2類などが該当する。

ロクロ調整皿 B類第2型式：底部と体部との境界部がやや緩やかに屈曲するものである。SD39 ロクロ調整皿などが該当する。

ロクロ調整皿 B類第3型式：底部と体部との境界部が屈曲し体部がやや短いものである。SK223 ロクロ調整皿などが該当する。

ロクロ調整皿 C類：口径が10～13cm前後で体部が逆ハ字状に開いて内脣するものである。細部の形状から3型式に細分できる。

ロクロ調整皿 C類第1型式：底部がやや突出し器壁が厚く、体部から口縁部にかけて緩やかに内脣するものである。SK185 ロクロ調整皿などが該当する。

ロクロ調整皿 C類第2型式：底部は突出せず器壁がやや薄く、体部から口縁部にかけて緩やかに内脣するものである。SK484 ロクロ調整皿 2類などが該当する。

ロクロ調整皿 C類第3型式：底部と体部との境界部が屈曲し、体部から口縁部にかけてわずかに内脣するものである。SK163 ロクロ調整皿 1類などが該当する。

ロクロ調整皿 D類：口径が7～8cm前後の小型皿を一括してD類とする。体部から口縁部の形状から2型式に細分できる。しかし、本来はもう少し多くの型式が存在したと推測されるが、実際には資料的な制約のため確認できなかった。

ロクロ調整皿 D類第1型式：口縁部が外反するものである。SK147 ロクロ調整皿 4類などが該当する。

ロクロ調整皿 D類第2型式：口縁部がやや内脣するものである。SK163 ロクロ調整皿 3類などが該当する。

ロクロ調整皿 E類：口径が11～13cm前後で体部が逆ハ字状に直線的に開き口縁部が外折するものである。細部の形状から2型式に細分できる。

ロクロ調整皿 E類第1型式：外折した口縁部がやや長くわざかに受け口状になるものである。SK484 ロクロ調整皿 1類などが該当する。

ロクロ調整皿 E類第2型式：外折した口縁部

が短いものである。SK163 ロクロ調整皿 F 類などが該当する。

ロクロ調整皿 F 類：ロクロ調整皿 F 類から I 類までは体部が逆ハ字状に直線的に開き口縁部に向けて緩やかに内彎するもので、橙色を呈する胎土を持つものである。このうち口径が 15 ~ 18cm の規模を持つ大型サイズのものをロクロ調整皿 F 類とする。この F 類は G 類から I 類までと比べて器高が高い傾向がある。口径と口縁端部などの細部の形状から 4 型式に細分できる。

ロクロ調整皿 F 類第 1 型式：口径が 17.5cm 前後の規模を持つもので、口縁端部はやや内彎ぎみに尖るものである。SK60 ロクロ調整皿の大型タイプなどが該当する。

ロクロ調整皿 F 類第 2 型式：口径が 17.2cm 前後の規模を持つもので、口縁端部は直線的に尖るものである。SK94 ロクロ調整皿 I 類などが該当する。

ロクロ調整皿 F 類第 3 型式：口径が 15.8cm 前後の規模を持つもので、口縁端部が尖らず面を持つものである。SK01 ロクロ調整皿の大型タイプなどが該当する。前二者に比べると横ナデ調整が難で粘土紐積み上げ痕跡も認められるほどである。

ロクロ調整皿 F 類第 4 型式：口径が 12.2cm 前後となるもので、ロクロ調整皿 F 類の定義には該当しないが、型式的な変遷を考慮してこの類に含めて分類しておきたい。口縁端部は尖り器高がやや高いものである。SK23 ロクロ調整皿などが該当する。

ロクロ調整皿 G 類：体部が逆ハ字状に直線的に開き口縁部に向けて緩やかに内彎する橙色を呈する胎土を持つもののうち、口径が 11 ~ 14cm 前後の規模を持つ中型サイズのものである。細部の形状から 4 型式に細分できる。

ロクロ調整皿 G 類第 1 型式：口径が 13.8cm 前後の規模を持つもので、口縁端部がやや尖るも

のである。SK60 ロクロ調整皿の中型タイプなどが該当する。

ロクロ調整皿 G 類第 2 型式：口径が 12.6cm 前後の規模を持つもので、口縁端部はやや尖り器高がやや低いものである。SK94 ロクロ調整皿 2 類などが該当する。

ロクロ調整皿 G 類第 3 型式：口径が 11.5cm 前後の規模を持つもので、口縁端部が尖らないものである。SK01 ロクロ調整皿の小型タイプなどが該当する。

ロクロ調整皿 G 類第 4 型式：口径が 11.0cm 前後の規模を持つもので、口縁端部が尖らないものである。SK23 ロクロ調整皿などが該当する。

ロクロ調整皿 H 類：体部が逆ハ字状に直線的に開き口縁部に向けて緩やかに内彎する橙色を呈する胎土を持つもののうち、口径が 10 ~ 12cm 前後の規模を持つ小型サイズのものである。細部の形状から 2 型式に細分できる。

ロクロ調整皿 H 類第 1 型式：口径が 12.0cm 前後の規模を持つもので、口縁端部がやや尖るものである。SK60 ロクロ調整皿の小型タイプなどが該当する。

ロクロ調整皿 H 類第 2 型式：口径が 10.8cm 前後の規模を持つもので、口縁端部はやや尖るものである。SK94 ロクロ調整皿 3 類などが該当する。

ロクロ調整皿 I 類：体部が逆ハ字状に直線的に開き口縁部に向けて緩やかに内彎する橙色を呈する胎土を持つもののうち、口径が 6 ~ 10cm 前後の規模を持つ小型サイズのものを一括する。今回の調査では SK94 出土資料のみが確認された。

ロクロ調整皿は上記の 9 類に大別されたが、このうち A 類から E 類までは胎土がにぶい黄橙色を呈するもの、F 類から I 類までは橙色を呈するものである。

3 非ロクロ調整皿の分類

次に、非クロクロ調整皿を分類する。非クロクロ調整皿は底部外面に回転糸切り痕が残存しない手づくり成形のもので、形状と規模から 6 類に大別され、それぞれについてさらに細区分が可能である。

非クロクロ調整皿 A 類：口径が 12～14cm を測り、体部が直立ぎみに立ち上がり、口縁端部がやや内凹するものである。底部が残存する良好な資料は存在しないが、白色の均質な胎土が特色くなっている。口径と細部の形状から 2 型式に細分できる。

非クロクロ調整皿 A 類第 1 型式：口径が 13.4cm 前後を測り、口縁端部がやや尖るものである。SK557 非クロクロ調整皿などが該当する。

非クロクロ調整皿 A 類第 2 型式：口径が 12.8cm 前後を測り、口縁端部に面を持つものである。遺構から良好な状態で出土した資料は存在しない。

非クロクロ調整皿 B 類：口径が 10～11cm 前後で体部から口縁部にかけて 2 段にナデ調整が施されたものである。口縁部の形状から 2 型式に細分できる。

非クロクロ調整皿 B 類第 1 型式：口径が 10.8cm 前後を測り、口縁端部がやや肥厚し外折するものである。SK226 非クロクロ調整皿が該当する。

非クロクロ調整皿 B 類第 2 型式：口径が 10.0cm 前後を測り、口縁端部があまり外折しないものである。遺構から良好な状態で出土した資料は存在しない。

非クロクロ調整皿 C 類：口径が 5～9cm 前後を測り、体部から口縁部にかけて 1 段にナデ調整が施されたものである。細部の形状から 4 型式に細分できる。

非クロクロ調整皿 C 類第 1 型式：口径が 8.8cm 前後を測り、口縁部が逆ハ字状にやや長く開くものである。遺構から良好な状態で出土した資料は存在しない。

非クロクロ調整皿 C 類第 2 型式：口径が 7.8cm

前後を測り、口縁部は逆ハ字状に聞くがその長さが短いものである。SD35 非クロクロ調整皿の一部などが該当する。

非クロクロ調整皿 C 類第 3 型式：口径が 6.0～7.3cm 前後を測り、口縁部は横ナデ調整により短く直立ぎみに立ち上がるるものである。SK147 非クロクロ調整皿 1 類が該当する。

非クロクロ調整皿 C 類第 4 型式：口径が 5.4cm 前後を測り、口縁部が横ナデ調整により短く直立ぎみに立ち上がるが、横ナデ調整は弱く底部と体部の境界部は不明瞭なものである。SD35 非クロクロ調整皿などが該当する。

非クロクロ調整皿 D 類：口径が 3.5～10cm 前後を測り、体部から口縁部にかけてナデ調整が全く施されないものである。外面には指頭圧痕や掌圧痕などが残存するのみで、底部と口縁部の境界は不明瞭となっている。細部の形状から 4 型式に細分できる。

非クロクロ調整皿 D 類第 1 型式：口径が 9～10cm を測る大きなもので、口縁部が逆ハ字状にやや長く聞くものである。底部と体部の境界を認識することができるものである。SD35 非クロクロ調整皿の一部 (836・837) などが該当する。

非クロクロ調整皿 D 類第 2 型式：口径が 6.8～7.6cm を測り、口縁部は逆ハ字状に聞くものである。底部は丸底となっている。SK147 非クロクロ調整皿 2 類が該当する。

非クロクロ調整皿 D 類第 3 型式：口径が 4.0cm 前後を測り、体部をほとんど形成しないものである。中央部がわずかに窪み皿の形状を作り出している。SD14 非クロクロ調整皿などが該当する。

非クロクロ調整皿 D 類第 4 型式：口径が 3.8cm 前後を測り、体部をほとんど形成せず、中央部もほとんど窪まない平坦な円盤状のものである。SD12 非クロクロ調整皿などが該当する。

非クロクロ調整皿 E 類：口径が 11.6cm を測り、内型成形で丁寧に製作されたものである。内面に

「寿」が陽刻されており、SK94出土資料でのみ確認された。

非クロロ調整皿は上記の5類に大別されたが、このうちA類とE類は胎土が灰白色を呈するもの、B類からD類までは胎土がにぶい黄橙色を呈するものである。

4 土師器皿の変遷

上記のように、クロロ調整皿と非クロロ調整皿を14類に大別し、それぞれに型式区分を試みた。各々の型式区分は、法量の小規模化や形状のシャープさが無くなるなどの傾向を考慮すると、概ね第1型式から第2型式、第3型式へと順に変化していくものと想定される。これを遺構からそれぞれの型式が共存して出土する事例を集めて順に配列し、同じく共存して出土するその他の陶磁器類を参考にして検討した結果、以下の3期12段階に変遷をまとめることができた（第210図）。

その概要を記すと、1期は非クロロ調整皿のみで構成される段階、2期はクロロ調整皿と非クロロ調整皿の両者で構成される段階、3期は非クロロ調整皿がわずかに存在するが基本的にはクロロ調整皿のみで構成される段階とまとめることができる。特に2期から3期への変遷においては、土師器皿の胎土がにぶい黄橙色を呈するものから橙色を呈するものへ変化するという、見た目の大いな相違を見出すことができる。以下、各段階の詳細を説明していく。

1期1段階：非クロロ調整皿A類第1型式と非クロロ調整皿B類第1型式が伴う段階。ただし、実際に共存して出土した事例は無いので時期は相前後する可能性は捨てきれない。SK226・SK557出土資料などを基準とする。山茶碗第7・8型式が共存する。

1期2段階：非クロロ調整皿A類第2型式・非クロロ調整皿B類第2型式・非クロロ調整皿

C類第1型式が伴う段階。これらは遺構に伴う良好な資料は存在しないので、詳細な様相は不明である。1期1段階と1期3段階の間を埋める時期として設定しておきたい。このため、山茶碗第9～11型式が共存する段階と推測しておく。

1期3段階：非クロロ調整皿A類とB類は認められず、非クロロ調整皿C類第2型式と非クロロ調整皿D類第1型式が伴う段階。SD35出土資料などを基準とする。瀬戸窯産陶器古瀬戸後IV期古段階が共存する。

2期1段階：クロロ調整皿A類第1型式・クロロ調整皿B類第1型式・クロロ調整皿D類第1型式、非クロロ調整皿C類第3型式・非クロロ調整皿D類第2型式が伴う段階。数量的にはクロロ調整皿A類と非クロロ調整皿C類と非クロロ調整皿D類が多い。SK147出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器古瀬戸後IV期新段階と大窯第1段階が共存する。

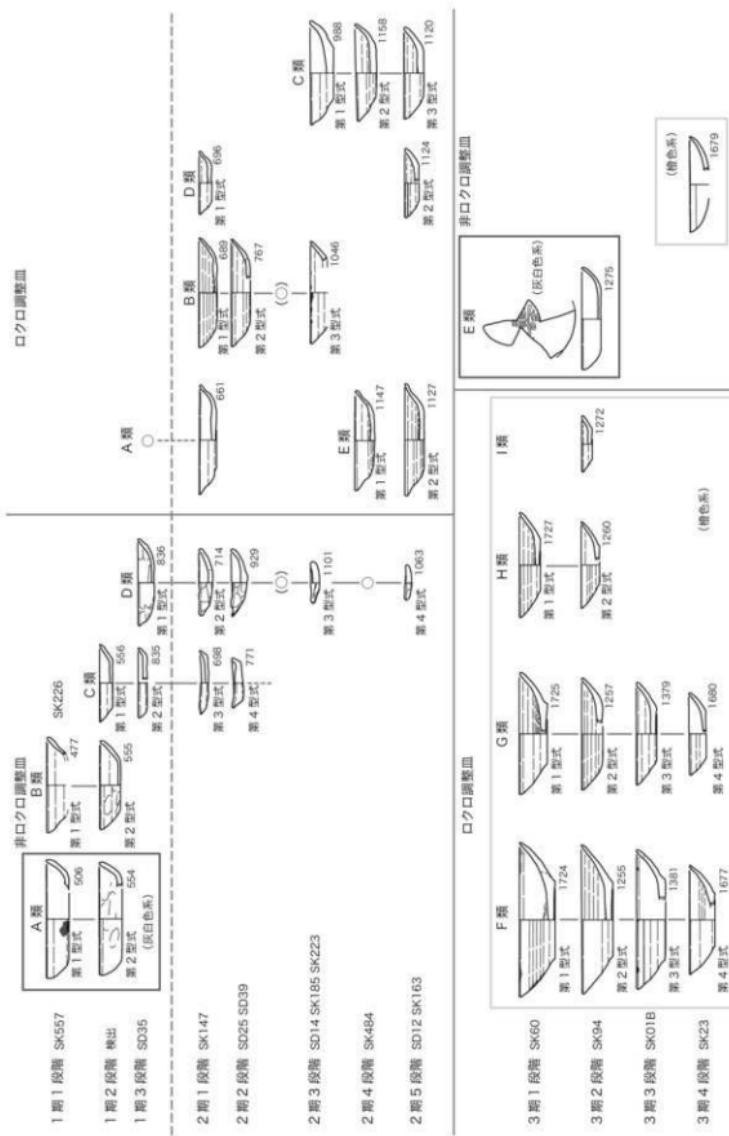
2期2段階：（クロロ調整皿A類第1型式・）クロロ調整皿B類第2型式、非クロロ調整皿C類第4型式（・非クロロ調整皿D類第2型式）が伴う段階。SD25やSD39出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器大窯第2段階が共存する。

2期3段階：非クロロ調整皿D類第3型式とクロロ調整皿B類第3型式・クロロ調整皿C類第1型式が伴う段階。SK223・SK185・SD14出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器登窯第1・2小期が共存する。

2期4段階：（非クロロ調整皿D類第3型式・）クロロ調整皿C類第2型式・（クロロ調整皿B類第3型式・）クロロ調整皿E類第1型式が伴う段階。SK484出土資料などを基準とする。古窓永通宝が共存する。

2期5段階：非クロロ調整皿D類第4型式とクロロ調整皿C類第3型式・クロロ調整皿D類第2型式が伴う段階。SK163・SD12出土資料な

名古屋城三の丸遺跡 VII



第210図 名古屋城三の丸遺跡（御園形地点）の土師器皿の変遷

どを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器登窯第4小期が共伴する。

3期1段階：ロクロ調整皿F類～H類の各第1型式が伴う段階。SK60出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器登窯第6小期が共伴する。

3期2段階：ロクロ調整皿F類～H類の各第2型式・ロクロ調整皿I類と非ロクロ調整皿E類が伴う段階。SK94出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器登窯第8小期が共伴するが、土師器皿はもう少し前の段階に属する可能性もある。

3期3段階：ロクロ調整皿F類・G類の各第3型式が伴う段階。SK01B出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器登窯第8小期が共伴する。

3期4段階：ロクロ調整皿F類・G類の各第4型式が伴う段階。SK23出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器登窯第9小期が共伴する。

以上3期12段階に区分したが、これらは必ず連続的に変遷が追えるものではないことを念頭に置く必要があるだろう。前述したように1期2段階の様相は資料的な制約のため詳らかにできない。また2期2段階と2期3段階の間には、土師器皿の形状の変遷から見ても共伴資料の編年的検討からみても、資料的な空白が存在する可能性がある。

これらを勘案した上で、その他の共伴する陶磁器の年代観を用いて年代を比定すると、以下のように想定できる。また、遺構の時期区分との対応関係は以下のとおりである。

土師器皿：遺構：年代

1期1段階：B-1期：13世紀後葉

1期2段階：B-2期：14世紀～15世紀中葉

1期3段階：B-3期：15世紀後葉

2期1段階：B-4期前：16世紀第1四半期

2期2段階：B-4期後：16世紀第2四半期

2期3段階：C-1期：17世紀前半

2期4段階：C-2期前：17世紀第3四半期

2期5段階：C-2期後：17世紀第4四半期

3期1段階：C-3期前：18世紀前葉

3期2段階：C-3期中：18世紀中葉

3期3段階：C-3期後：18世紀後葉

3期4段階：C-4期：19世紀前葉

5 土師器皿にみる画期の意義

以上の分析の結果、土師器皿の変遷には15世紀末と17世紀末の2つの大きな画期が存在することが明らかとなった。これらの画期の意義について次に考察したい。

まず、前者の15世紀末の画期について検討したい。この画期は非ロクロ調整皿のみで構成される1期からロクロ調整皿が加わる2期への変化といえる。今回の調査資料の中ではSD35出土資料を基準とする段階までがロクロ調整皿が認められないことから、この時期を1期とした。しかし、SD35出土資料を基準とする段階を1期に含めて1期3段階に位置づけることについては若干の問題が存在していることも指摘しておかなくてはならないだろう。

問題点は2点に要約される。まず、第一はSD35出土資料の土師器皿出土量が少ないとから、正しく1期3段階の様相を示した一括資料と認定できるかという問題である。偶然にロクロ調整皿の存在が欠落した可能性が捨てきれないことである。第二は非ロクロ調整皿の組成と形状が1期2段階よりも2期1段階に近似していることである。1期3段階と2期1段階はともに非ロクロ調整皿はC類とD類で構成されており、型式学的な形状の変化は認められるものの組成は近似する。加えて尾張平野の土師器皿編年（佐藤1986）やこれまでの名古屋城三の丸遺跡における土師器皿の変遷の分析結果（尾野1997）から見ると、ロクロ調整皿の出現は15世紀後半に位置づけられているという成果が得られている。これらのことから、名古屋城三の丸遺跡全体で見た

場合、ロクロ調整皿が出現する1期から2期への画期は15世紀中頃に位置づけられ、今回の調査における1期2段階と1期3段階の間に設定すべきであろう。ただし、ここではこうした事情を承知した上で、出土資料に忠実に検討した結果を提示しておくこととしたい。

さて、土師器皿における15世紀末（全体としては15世紀中頃）の画期は、既に多くの研究者によって検討が進められ、京都系土師器の影響を受けた第二波であると位置づけられている。この説を覆す新たな資料や情報はなく、この見解を今回も引き継いで行きたい。

次に、後者の17世紀末の画期について検討したい。これは、ロクロ調整皿と非ロクロ調整皿の両者で構成される2期から、非ロクロ調整皿が激減し基本的にはロクロ調整皿のみで構成される3期へと変化する画期である。この画期は15世紀末の画期よりも大きな断絶が認められる画期であった。15世紀末の画期と17世紀末の画期との間で異なる点は次の2点である。

その第一は、3期の土師器皿に2期から継続する形式が存在しないことである。ロクロ調整皿のみならず、わずかに存在する非ロクロ調整皿も2期の皿とは全く異なる形状のものが存在するのである。第二は、胎土が2期と3期の両者で大きく異なる点である。大部分の土師器皿の胎土がにぶい黄橙色を呈する2期から、大部分の土師器皿が橙色を呈する3期への変化は、使用者の見た目において大きな相違として認識されたに相違ないと思われる。

この画期の意義を考えるために、新たに出現した土師器皿の出自を検討することが重要であると思われる。3期に突然出現したロクロ調整皿F類～I類は旧来存在した土師器皿とは大きく相違し、体部から口縁部にかけて直線的に比較的長くかつ高く伸び、胎土が橙色を呈するものである。この種の土師器皿に類似したものを見隣の地域

で17世紀以前に認められるのは、西三河の中世段階のロクロ調整皿がある。体部から口縁部にかけて直線的に比較的長くかつ高く伸びる形状は比較的近似するが、胎土は橙色となっていない点が異なる。むしろ、江戸遺跡群で出土するロクロ調整皿が形状と胎土の色調とも近似しているといえる。（江戸陶磁土器研究グループ1992, 1996など）江戸時代の土師器皿を通観して検討していない現在において即断をするのは非常に危険ではあると考えられるが、ここでは江戸遺跡群で出土する土師器皿の影響を受けて、名古屋城三の丸遺跡（御屋形地城）でロクロ調整皿F類～I類が出現したものと理解しておきたい。

もしこの想定が正鵠を射ているのであれば、3期の画期は江戸系土師器皿を受容した結果成立した土器様相と評価することができる。これは2つの意味で重要な意義を持つと考えられる。一つは、尾張地域において中世前期と後期の2回にわたり大きく影響を受けたといわれる京都系土師器皿の系譜を絶ち、新たに江戸系土師器皿を受容したという、モデルの源泉の大きな変換を認めることがある。土師器皿という文化の中でのわずかな一局面で、その規範が京都から江戸へ転換していることであり、この中において京都的な文化を脱して新たな武家文化の一様相を確立したものと評価することもできるのである。そしてもう一つは、そのような大きな変革が名古屋（名古屋城三の丸遺跡）においては17世紀初頭に成立するのではなく、17世紀末にならないと成立しないことである。江戸幕府が開府して約100年を経ないと京都の影響を脱し得ないことは注目に値することであろう。

以上、名古屋の土師器皿の理解について、極めて重要な問題を提起したが、他の調査地点の成果を未だ十分に咀嚼していない段階での仮説にしか過ぎないことを最後に断っておきたい。

6 土師器皿にみる地域性

先に今回出土した土師器皿をロクロ調整皿と非ロクロ調整皿を14類に大別し、それぞれに型式区分を試み変遷を3期12段階に整理した。ここでは、このうち2期の土師器について、同時期の尾張地域の遺跡と比較し、その分布状況を検討する。その結果、尾張地域において土師器皿の様相が異なるいくつかのエリアを設定することができ、土師器皿の研究はこうした細かい地域ごとに検討していくことが必要であることを検証してみたい。

まず、今回の調査で出土した土師器皿の分類を用いて、これと近似する土師器皿が他の遺跡でどのように出土しているかを検討する。

ロクロ調整皿A類は体部外面を2段にナデ調整を施し口縁端部が大きく外反するものである。このタイプは清須城下町で出土事例がある他に、名古屋台地に分布する遺跡で認められるケースが多い。主に15世紀後半から16世紀前半までに属する遺構や遺跡から大量出土する事例が多い。

ロクロ調整皿B類は体部が逆ハ字状に開き口縁端部までおおよそ直線的になるものである。このタイプは清須城下町や岩倉城など尾張平野部でまとまって出土する事例が多い。一方、このタイプの土師器皿は今回の調査でも少しだけ出土しておらず、名古屋台地に分布する遺跡ではあまり認められないものである。

ロクロ調整皿C類は体部から口縁部にかけて内彎するものである。このタイプは清須城下町で出土事例がある他に、名古屋台地に分布する遺跡で認められるケースが多い。主に16世紀後半から17世紀前半までに属する遺構や遺跡から大量出土する事例が多い。

ロクロ調整皿D類は小型皿を一括しており、本来的には体部や口縁部の形状から細分して検討する必要がある。資料的な制約もあるため、ここでは分析の対象としないこととした。

ロクロ調整皿E類は体部が逆ハ字状に直線的に開き口縁部が外折するものである。このタイプは清須城下町など尾張平野部でまとめて出土する事例が多い。一方、名古屋台地に分布する遺跡でもそれなりに認められるものである。主に16世紀後半から17世紀前半までに属する遺構や遺跡から大量出土する事例が多い。

非ロクロ調整皿C類は体部から口縁部にかけて1段にナデ調整が施されたものである。このタイプは清須城下町など尾張平野部でまとめて出土する事例が多い。一方、名古屋台地に分布する遺跡でもそれなりに認められるものである。主に15世紀後半から16世紀中葉までに属する遺構や遺跡から出土する事例が多い。

非ロクロ調整皿D類は体部から口縁部にかけてナデ調整が全く施されないものである。このタイプは15世紀後半から16世紀中葉までは清須城下町など尾張平野部で出土する事例が存在しない。むしろ、名古屋台地や知多半島に所在する遺跡で主体的に認められる土師器皿である。その後、16世紀後葉になると清須城下町など尾張平野部を含めた尾張の広い範囲で出土する事例が多くなる。

以上の結果を、次は地域ごとに整理すると次のようになる。なお、ここで提示する土師器皿はそれぞれの地域で主体となる形状を抽出したものであり、少量しか出土しないものは除外していることを断つておく（第211図）。

知多：非ロクロ調整皿D類が主体となる。

名古屋台地：ロクロ調整皿A類と非ロクロ調整皿D類が主体となる。非ロクロ調整皿C類も認められ、16世紀後半からはロクロ調整皿A類が減少しロクロ調整皿C類が出現する。

尾張平野北部：ロクロ調整皿B類・非ロクロ調整皿C類などが主体となる。16世紀後半からはロクロ調整皿B類が減少しロクロ調整皿E類が出現する。

清須：ロクロ調整皿 A 類・ロクロ調整皿 B 類・非ロクロ調整皿 C 類が主体となる。16世紀後半からはロクロ調整皿 A 類・ロクロ調整皿 B 類が減少しロクロ調整皿 C 類・ロクロ調整皿 E 類非ロクロ調整皿 D 類が出現する。ただし、ロクロ調整皿 A 類とロクロ調整皿 B 類は共存する事例もあるが、遺構によってはいずれかのみが偏在して出土するケースが多い。

このように、尾張地域において土師器皿の様相が異なるいくつかのエリアを設定し得る可能性を指摘することができた。今回は各地域の範囲の特定と、各地域ごとの編年作成を行うことができず、非常に中途半端な状態となってしまったが、土師器皿の研究はこうした細かい地域ごとに検討していくことが必要であることを強調しておきたい。

7まとめ

今回出土した土師器皿を素材に 14 類に分類し 3 期 12 段階に変遷を把握して、そこから派生する諸問題を若干考察した。しかし、分析の素材はあくまで今回の調査地点のデータを基準にしたものであり、周辺の資料やデータを十分に見渡した検討ではない点が最大の問題となっている。ここで導かれた論点を批判的に検討した上で大方のご叱正とご教示を賜りたく思う。

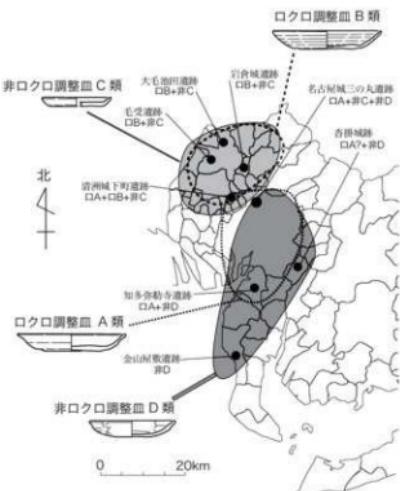
江戸陶磁器研究グループ 1992・1996『シンポジウム江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅰ・Ⅱ』

尾野善裕 1997『中世食器の地域性—4 東海・濃飛—』『中世食文化の基礎的研究』国立歴史民俗博物館研究報告書 第 71 集

佐藤公保 1986, 1987『中世土師器研究ノート(1)・(2)』

『年報和 60-61 年度』(財)愛知県埋蔵文化財センター
名古屋市教育委員会 1995『名古屋城三の丸遺跡 第 4・5

次発掘調査—遺物編一』



第 211 図 尾張における戦国時代の土師器皿の地域性

15世紀後葉から16世紀前葉の主要な土師器皿の分布範囲をイメージとしてまとめた。

第3節 名古屋城三の丸遺跡の土師器鍋類の変遷 (御屋形地点出土資料を中心に)

1 はじめに

今回の発掘調査では古墳時代から現代に至るまで連続と遺跡が継続していたことが判明している。先の考察で土師器皿を検討したので、次は土師器鍋類（ここでは甕や釜などを含む煮炊具全般を指す）の変遷を検討する。

本来は土師器皿と同様に初めに分類を行いそれから段階区分などの検討を実施するのが順当な分析方法であるが、ここでは、説明の煩雑さを避けるためにあえて結果のみを提示していくこととする。

2 土師器鍋類の変遷

今回の調査で出土した土師器の鍋類は、以下の4期17段階に変遷をまとめることができる。

その概要を記すと、1期は口縁部が屈曲する土師器甕のみで構成される段階、2期は鍔を持つ羽釜などで構成される段階、3期は鉢形の内耳鉗などで構成される段階、4期は浅鉢の焰烙が主体となって構成される段階とまとめることができる。以下、各段階の詳細を説明していく（第212図）。

1期1段階：S字状口縁台付甕D類（204）が伴う段階。遺構に伴う良好な資料は存在しない。

1期2段階：宇田型甕（207）が伴う段階。遺構に伴う良好な資料は存在しない。

1期3段階：口縁部に跳ね上げ口縁を持つ甕（183）が伴う段階。SK339出土資料などを基準とする。東山11号窯式期前後の須恵器が共伴する。

1期4段階：口縁部が緩やかに屈曲し体部外面に荒いハケ調整が施される甕（178）が伴う段階。SB06出土資料などを基準とする。東山61号窯式期の須恵器が共伴する。

1期5段階：口縁部が緩やかに屈曲する甕（56）の他に、口縁端部が断面三角形状に摘み上げる伊勢系甕（54）などが伴う段階。SK308出土資料などを基準とする。東山44号窯式期前後の須恵器が共伴する。

1期6段階：伊勢系甕（114）の他に、口縁部が肥厚する濃尾系甕（115）や口縁部が屈曲して外折する甕（117）などが伴う段階。SB07出土資料などを基準とする。岩崎17号窯式期前後の須恵器が共伴する。

1期7段階：体部外面に荒いハケ調整が施された濃尾系甕（193）の他に、口縁部が鋭角に折れる三河系甕（195）などが伴う段階。SK589・SB02出土資料などを基準とする。折戸10号窯式期前後の須恵器が共伴する。

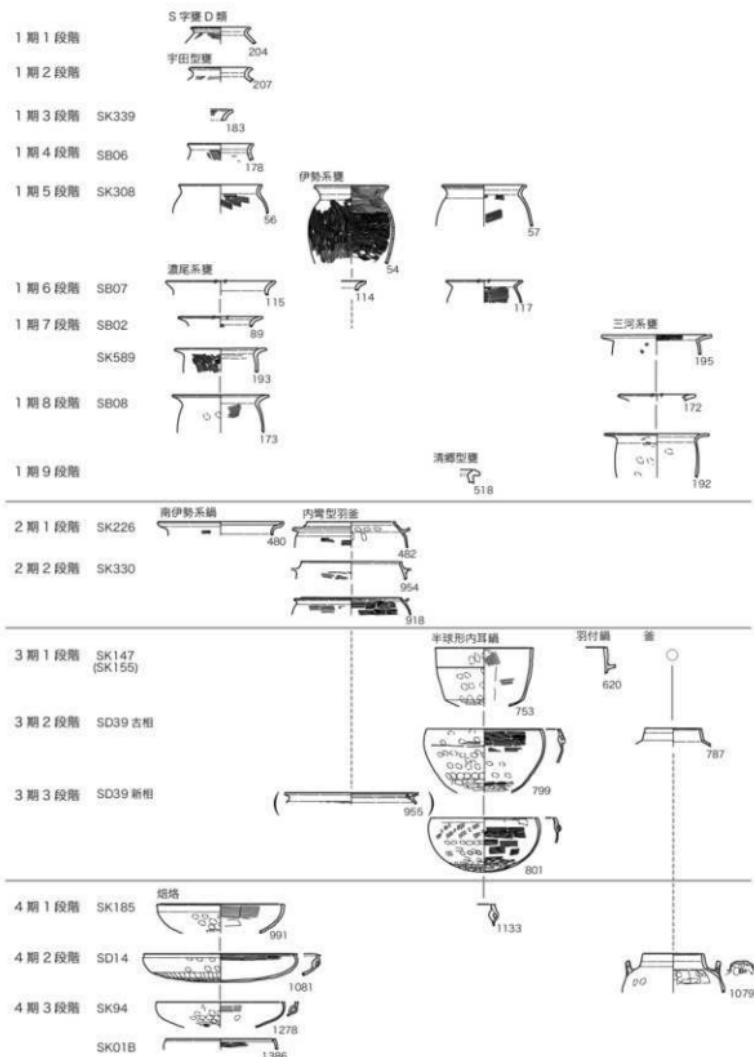
1期8段階：口縁部が屈曲し緩やかに外反する甕（173）などが伴う段階。前代の濃尾系甕の変化したものと推測したい。SB08出土資料などを基準とする。黒窓90号窯式期前後の灰釉陶器などが共伴する。

1期9段階：口縁部が厚くて短く屈曲する清郷型甕（518）が伴う段階。遺構に伴う良好な資料は存在しない。

2期1段階：口縁端部を内側に折り返した南伊勢系鍋（480）と口縁部が内傾する内弯型羽釜（482）が伴う段階。内弯型羽釜は鍔の端部径と胴部最大径がほぼ同じとなるものである（北村羽釜A2類）。SK226出土資料などを基準とする。山茶碗第7・8型式が共伴する。

2期2段階：内弯型羽釜が伴う段階。内弯型羽釜は短く上方に突出した鍔が付くものである（918：北村羽釜A4類）。SK330出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器古瀬戸後IV期が共

名古屋城三の丸遺跡 VII



第212図 名古屋城三の丸遺跡（御屋形地点）の土師器鉢類の変遷

伴する。

3期1段階：半球形内耳鍋（753）と戦国型羽付鍋（620）と釜（787）が伴う段階。半球形内耳鍋は体部から口縁部が直立気味に直線的に立ち上がるるものである（鈴木尾張内耳鍋A類）。SK147出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器大窯第1段階が共伴する。

3期2段階：前代と同様、半球形内耳鍋と戦国型羽付鍋と釜が伴う段階。半球形内耳鍋は体部から口縁部が内側して丸みを帯びるもので、口縁部直下に沈線を持つものである（799：鈴木尾張内耳鍋B1類）。SD39出土資料古段階などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器大窯第2段階が共伴する。

3期3段階：前代と同様、半球形内耳鍋と戦国型羽付鍋と釜が伴う段階。半球形内耳鍋は体部から口縁部がさらに内側して浅くなり、口縁部直下に沈線を持たないものである（801：鈴木尾張内耳鍋B2類）。SD39出土資料新段階などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器大窯第2段階が共伴する。

4期1段階：焰烙と釜が伴う段階。半球形内耳鍋（1133）も残存している。焰烙は口縁部が逆ハ字状に開くもの（991：金子分類B類）である。SK185出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器登窯第2小期が共伴する。

4期2段階：前代と同様、焰烙と釜が伴う段階。焰烙は口縁部が緩やかに屈曲し内傾するもの（1081：金子分類J類？）である。SD14出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器登窯第4小期が共伴する。

4期3段階：焰烙が伴う段階。おそらく釜は著しく減少するか消滅するものと推測される。焰烙は口縁部が緩やかに屈曲するタイプ（1278・1386）であるが、形態的な変化はこの資料では不明な点が多い。SK94・SK01出土資料などを基準とする。瀬戸美濃窯産陶器登窯第8小期が

共伴する。

3 各段階の年代と遺構時期区分との対応関係

以上4期17段階に区分したが、これらは土師器皿と同様に、必ずしも連続的に変遷が追えるものではないことを念頭に置く必要があるだろう。1期8段階から2期1段階にはかなり時間的な空白が存在しており、その他の段階でも連続的な土器様相の変化を辿ることができない部分は随所で認められる。もとより資料的な制約のため完全な形で構成できないことを承知していただきたい。その上で、その他の共伴する陶磁器の年代観を用いて年代を比定すると、以下のように想定できる。また、遺構の時期区分との対応関係は以下のとおりである。

土師器鍋類：遺構：年代

1期1段階：A期以前：4世紀後葉？
1期2段階：A期以前：5世紀前半？
1期3段階：A-1期：5世紀後半？
1期4段階：A-2期：6世紀前半
1期5段階：A-3期：7世紀
1期6段階：A-4期前：8世紀前葉
1期7段階：A-4期後：8世紀後半
1期8段階：A-5期：9世紀
1期9段階：：10世紀
2期1段階：B-1期：13世紀中葉
2期2段階：B-2期：15世紀前半
3期1段階：B-3期前：15世紀後葉
3期2段階：B-3期後：16世紀前葉
3期3段階：B-4期：16世紀中葉
4期1段階：C-1期：17世紀前半
4期2段階：C-2期：17世紀後半
4期3段階：C-3期：18世紀

4まとめ

以上のように、土師器鍋類の変遷を概観した。この結果、13世紀代が一部判明するものの10

世紀から 15 世紀の間、および 19 世紀以降で土師器鍋類の様相が今ひとつ判然としない状況が読み取れる。

19 世紀以降については、陶器鍋の存在が大きくなることや鉄鍋との関係などから土師器鍋類が減少する理由を提示することは可能である。一方、10 世紀から 15 世紀の間の空白は、特に 10 世紀から 13 世紀の間においては他の種類の遺物もほとんどの認めることができないことからみて、遺跡の空白期が存在したものとしてみてよいと思われる。これに対し、良好な資料が認められる 13 世紀中頃から 15 世紀前半までの空白については、なお検討を要する。空白期に該当する内縛型羽釜が良好な状態ではないとは言え少なからず存在するからである。これまで名古屋台地では、東濃

型山茶碗が流通しない地域であることが災いして 13 世紀中頃から 15 世紀前半までの集落遺跡の存在が認められにくい状態が続いている。今回の調査でも同様の結果が得られることとなったが、認められにくいからといって集落が存在しなかつたと即断することは危険であると考えたい。おそらくわずかに出土する内縛型羽釜や東濃型山茶碗や瀬戸窯産陶器古瀬戸段階などの資料からみて、13 世紀中頃から 15 世紀前半に集落としての断絶が存在したと決めつけるわけにはいかないと思われる。

主要参考文献

東海考古学フォーラム 1996『鍋と甕—そのデザイン—』

第4節 御屋形庭園の意義

1はじめに

今回の調査で18世紀に位置づけられる庭園に伴う池SX02が発見された。名古屋城三の丸遺跡ではこれまでに20箇所前後の発掘調査が行われてきたが、今回の事例が初めての資料となった。ここでは、名古屋城およびその城下や関連する地域における庭園も合わせて検討し、今回発見された御屋形庭園の位置づけと発見の意義を明らかにしていきたい。

2御屋形庭園の復元

庭園に伴う池SX02は、少なくとも19世紀には廃絶・埋没したものであり、発見された時点では遺構は主要な石材や構築物および植生は全く残存しない状態であった。また、この庭園に関連する文献や絵図は全く残存しておらず（つまり今回存在が初めて明らかになった庭園遺構である）、庭園の全貌を明らかにすることは難しい。しかし、全く手がかりが無いわけではなく、少ない資料を基に大胆に景観の復元を試みたい。

（1）池SX02の復元

まず、池SX02そのものの復元について検討を加える。池SX02の検出状態は、主要な石材が抜き取られており、その痕跡が抜き取り穴という土坑の状態で残存するに過ぎないものである。しかし、一部で石材や漆喰壁と玉石などが良好な状態で残存する部分もあり、また石材の抜き取り穴についてもその分布や規模などからある程度本来配置されていた石材の様子を想定することが可能である。庭園制作における作法や流儀を加味して行けば、実際に近い形で池の構造を復元することができる可能性が高いといえる。

そこで仲隆裕のご指導を受け、筆者が想定した池復元案を提示する。復元案の具体的なグラ

フィック表現は朝日航洋株式会社の協力を得た。

（第213図）

池は南西に所在する導水部から水を引き入れ、北壁東側のSD41に排水する構造である。導水部は漆喰壁に覆われ、所々に緑色石などの石材を配置して装飾されていた。SK20・21はその抜き取り穴と考えられる。導水部の末端（池本体と接する部分）漆喰壁が直線的に壊されている部分があり、ここにわずかな段差を有しており石材が配置されたものと想像される。池本体の床は漆喰ではなく粘土で覆われチャートを中心とした玉石が敷かれていた。池正面に相当する南壁部では、中央部に規模の大きな抜き取り穴が数個存在し背後が粘土の盛土で充填されていたことから、築山が構築されその前面に三尊石が配置されていた可能性が高い。おそらくSK03は裏込めの石材も充実していることからそこに主石が配置されていたのだろう。三尊石の両脇にある抜き取り穴に配置された石材は、南西部に残存する巨石と同様に、漆喰壁に埋め込まれその天場は高く設定されていかっただろう。東西両張り出し部の前面部分は北側に書院を設定すると裏側に相当して見えない部分であるため、西張り出し部では漆喰壁のみが残存していた。東張り出し部はSK100で破壊され不明であるが、西張り出し部と同様特別な構造を持たず漆喰壁で覆われていたものと思われる。

導水部に接する西張り出し部はその先端に多くの抜き取り穴が残存しており、池岸部分には石材が隙間無く配置されていたと考えられる。西張り出し部中央にも土坑があり高い部分にも数個の石材が配置されていたのだろう。石材が配置されていない部分は芝生または苔などが生えていたのではないかろうか。このように規模の大きな石材を配置した西張り出し部（岬）はその先端を中心に

は磯浜が表現されていると考えられる。

対する東張り出し部では、その先端に黒色の切石を整然と配置して漆喰壁に埋め込まれていた状態が確認され、抜き取り穴となる土坑は階段状遺構の付近以外では確認されていない。東張り出し部の上位でも抜き取り穴となる土坑は発見されず、白色の玉石が敷かれていた状態が確認された。このことから、東張り出し部では規模の大きな石材は一切使用されず、上面に玉石が敷き並べられ先端が整然とした石材が埋め込まれた漆喰壁で覆われていた状態と復元される。従って、東張り出し部では州浜（洲浜）が表現されているものと理解でき、東西の岬で相対する浜の表現が施されたことが判明する。

池 SX02 の東側に接する部分で石敷遺構 SX03 が存在しており、これは池に伴う装飾あるいは通路などと想定される。東張り出し部北端には階段（階段状遺構）が設置されており、周囲には石材が数個配置されていたと思われる。階段の先にはチャートの巨石が底面に組み込まれて配置されており、その上に手水鉢などが置かれていた可能性も考えられる。これらの想定を勘案すると、石敷遺構 SX03 は通路と考えられよう。

池底の大部分は玉石が敷かれている状態であったが、部分的に浅い土坑が存在する。これらの土坑は鰐などの魚を休ませる施設や池底に蓮などの植物を生育させる施設などの可能性がある。

総体的に見て、池 SX02 は南西の導水部から磯浜と州浜を経由して手前の排水溝に水を流す池と復元され、北側から鑑賞するために構築され、東北部で手水鉢を利用し得る構造となっている。座観式池泉庭園と位置づけられ、書院庭園の一部を構成すると評価される。

2 (2) 池周囲の復元

次に池 SX02 に関連する周辺遺構を検討し、池 SX02 を中心とした庭園全体の構造を復元する。まず、庭園に関連する遺構の分布範囲について検

討する。

池 SX02 の西側と南側は同時期の遺構である石組溝 SD01 ~ 04 によって囲まれたエリアが庭園に関わる空間であったと思われる。また、池 SX02 の北側は未調査区域が広がるが、池 SX02 の北壁の状態からみて書院などの建造物が存在し、北側から庭園を眺める形態であったことが想定される。東側については様相を明らかにし得ない部分があり、検討を要する。ここでは次の理由により、地下室 SK94 などの遺構を含んでしまうものの石組溝 SD01 が終焉する部分までと想定したい。その理由の第一は池 SX02 の周辺に分布する土坑群の範囲と一致することである。第二はその外側では大型の廃棄土坑 SK01 など明白に庭園とは関わらない遺構が展開することである。この結果、池 SX02 の北肩および石組溝で囲まれた約 25m × 30m の空間が庭園に関連する遺構が分布するエリアであり、すなわち庭園の範囲そのものである可能性が高いといえよう。

このように設定された区域に池 SX02 と同時期と考えられる遺構は多数存在するが、前述したように不定形の土坑群の存在が特徴的である。第 55 図で示したように、SK64、SK88、SK99、SK105、SK117、SK132、SK134、SK135、SK136 は平面形が梢円形などが崩れた不定形な形状となり、深さはそれほど深くなく斑状が充填されている。確証は全く存在しないが植生痕である可能性もあり、注目される。これらの土坑は池 SX02 の東側や導水部付近に展開しない点も注意したい。

また、今回の池 SX02 の最大の問題点は水の供給源である。直接の導水施設は、導水部との接合部分の状況が残存していないため明確にはし得ないが、最終的にはおそらく SK23 によって破壊された石組溝 SD03 の延長部分であったと思われる。石組溝 SD03 に流れる水については、現状のところではその供給源は明らかにできないが、地

形的に見て安定した水源は存在しなかったと思われる。御屋形が存在する名古屋台地北縁部が近隣では比較的高くなっている、そこへ水を供給できるほどの背後の高い地形が存在しないのである。また、御屋形近辺では上水道施設の遺構は全く確認されていない。こうした状況からみて、池 SX02 は雨水を上手に利用したか、あるいは必要な場合のみ人力で水を汲み入れたかのいずれかではないかと思われる。このことは、同様の地形的条件に所在する名古屋城二の丸庭園が本来は池泉庭園として構築されているながらも現在は枯山水庭園となっている点からも背説できよう。そして、池 SX02 を含めた御屋形庭園が短期間に存在した後にすぐ消滅してしまうのも、こうした水利問題が影響したのかもしれない。

さて、先に設定した区域は石組溝で囲まれた範囲を根拠としたが、実際の庭園遺構が機能した段階で視覚的に境界を示した施設は石組溝ではなく、おそらくそれに平行して構築された柵や柵あるいは建物であったと考えられる。石組溝の外側に御屋形に関連する建物群が展開したと仮定してみると、池 SX02 の北側に所在した書院からみえる風景は次のようになるだろう。御屋形御殿などの建物群を背景にして約 25m 四方程度の範囲に木々が植えられ、手前には約 10m 四方の方形の池が設置され、右手奥の上流から下流へ水が流れる景色の変化を楽しんだといえよう。

3 尾張藩徳川家の庭園における御屋形庭園の位置づけ

御屋形庭園は近世大名尾張藩徳川家の一族が居住した御屋形に所在する庭園であり、大名庭園の一種と位置づけられる。しかし、一口で大名庭園といつてもその機能や形態・規模は様々なものがある。ここでは、御屋形庭園の尾張藩徳川家の庭園における位置づけを明らかにするために、他の伝来する庭園遺構を検討し、御屋形庭園の性格と意義を考察したい。

今まで存在が確認される尾張藩徳川家における庭園のうち主要なものを紹介する。

1) 名古屋城二の丸庭園

(国指定特別名勝 第 215 図)

名古屋城二の丸庭園は文字通り名古屋城二の丸に所在し、元和 3(1617) 年に徳川義直が完成させた二の丸御殿に付随するものである。当主の居所「中奥」の中心的な座敷である「御座之間」を挟んで南庭と北庭があり、二の丸庭園はこの両者を指す。義直在世時の二の丸御庭を描いた『中御座之間北御庭想絵図』や十代朝智により改変された様子を描いた『御城御庭絵図』などの絵図が残されている。明治初頭の版籍奉還の際に二の丸御殿取り払いの結果、南庭と北庭の東一部が撤去となり、現在は北庭の一部が往時の姿を偲ばせる形で残され特別名勝に指定されている。南庭の一部は陸軍将校集会所（後の名古屋偕行社）の



第 213 図 池 X02 の復元想定イメージ

庭として移築したと伝えられ、現在は名古屋城三の丸庭園として残されている。この二の丸庭園は1977年から1978年にかけて名古屋市教育委員会によって発掘調査が行われ、多くの成果が発見されている。残念ながらその成果は概要報告書(名古屋市教育委員会 1976)に一部が報告されていて過ぎず、その全貌を知ることは難しい。

二の丸庭園のうち北庭の規模は1554坪に及び、北庭の池の全長は約40m、南庭の池の直径は約35mの規模を持つ。現在残る北池の石組は勇壮で高さが高く、猛々しい印象を受けるものである。残存する北池の側壁を観察すると石組の隙間を埋める形で漆喰状の壁面を観察することができる。名古屋市教育委員会の発掘調査の結果でも、

北池と南池ともに池側面は厚い漆喰壁で覆われていたことが判明している(第214図)。このような特徴は今回発見された御屋形庭園に伴う池でも確認することができ、共通点が高いといえよう。両者とも水を供給することが難しい立地であることから、汲み入れた水をできるだけ漏らさないように維持するための工夫ではないかと想定しておきたい。

2) 名古屋城三の丸庭園

名古屋城三の丸庭園は現在名古屋市公館の南側に残存する庭園遺構である。三の丸庭園そのものは陸軍時代に名古屋偕行社の庭園として構築されたもので、尾張藩徳川家とは全く関係がない。ただし、構築に際しては名古屋城二の丸庭園の石材



1



2



3



4



5

1：南池全景（北東からみる）

2：南池護岸の巨石と漆喰

3：北池東端部（東から見る）

4：北池東端部の漆喰壁

5：南池中島の漆喰壁

第214図 名古屋城二の丸庭園の発掘調査状況

写真は所蔵者である名古屋市見晴台考古資料館から提供を受けた。

が使用されたと伝えられており、この一点において関係があるといえる。石材が二の丸庭園のものを使用したため江戸初期まで三の丸庭園を廻らせる見解が散見されるが、誤解であるといえる。念のため確認しておきたい。

3) 名古屋城下御深井庭園（第216図）

名古屋城に北接して所在する庭園で、初代義直が造営され十代斎朝により改造されたといわれる。現在は名城公園となっており、往時の光景を偲ばせるものは少ない。十代斎朝の改修後の様子が『源順様御代下御庭園面』に描かれている。広大な蓮池に併い茶屋や社、門前町「達磨町」や宿場町「杉股町」なども設けられていた。

名古屋台地が崖を形成して終り沖積低地になる部分でこの下御深井庭園は構築されており、水を豊富に蓄えた池泉を構築しやすい立地である。加えて御用水の水も導入されており、當時池泉回遊式庭園として楽しめたものと思われる。池泉の規模は非常に大きく東西長は100m近くに及ぶ。

4) 名古屋城下御下屋敷庭園（第217図）

名古屋市東区の名古屋城下に二代光友が休息と饗応の場として、延宝7（1679）年に御下屋敷を設けた。そこには池を中心とする池泉回遊式庭園が存在したという。現在はその往時の姿を思われる遺構は全く残存していない。宝暦元（1751）年に描かれた『御下屋敷圖』が大いに参考になる。

64000坪の広大な敷地に設けられた庭園は、数奇屋風の御殿をはじめとする町屋があり、御葉園や御人參番なども存在した。江戸にある尾張藩下屋敷の戸山屋敷にある庭園と趣向は共通するものがあるという。庭園に伴う池の水源については明らかではないが、十分に水を供給する水源が存在したものと思われる。

5) 名古屋城下大曾根御屋敷庭園（第218図）

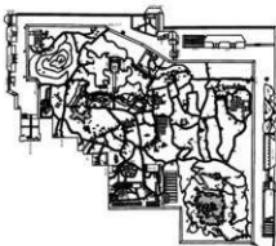
名古屋市東区に所在する大曾根御屋敷庭園は、現在「徳川園」として新規に庭園が築造されている。往時の正確な庭園の様相は現地ではうかがい

ることは非常に難しいが、『大曾根屋敷之図』などの絵画資料である程度復元できる。二代藩主徳川光友が元禄7（1693）年に家督を譲ると隠居所として大曾根御屋敷を構えた。当初は総面積13万坪という広大な敷地を持ち、庭園は大池を中心とした郊外の風情あるものであったという。現在の徳川美術館や蓬左文庫や徳川園は大曾根御屋敷の極一部にあたる。

広大な敷地に設けられた庭園は名古屋台地の縁辺部の崖を利用した起伏に富んだ趣向を凝らしたものと想定される。庭園に伴う池は崖下の低地部に存在していたと思われ、水は安定して供給されたものと推察される。平成11年に徳川園の整備に伴い、トレンチ調査が行われ、滝口部分の石組や土管などが確認された。他の地点では大正時代から戦前にかけての宅地整備工事等のために往時の状況があまり残っていないかったという（水野2001）。

6) 江戸市ヶ谷屋敷

東京都新宿区にある市ヶ谷屋敷は江戸における尾張徳川家当主が居住する上屋敷として機能していた。総面積は78000坪を持ち、「樂々園」と呼ばれる御庭が存在した。樂々園は東御殿と西御殿の間に所在し御泉水と呼ばれる大池を中心とした庭園である。



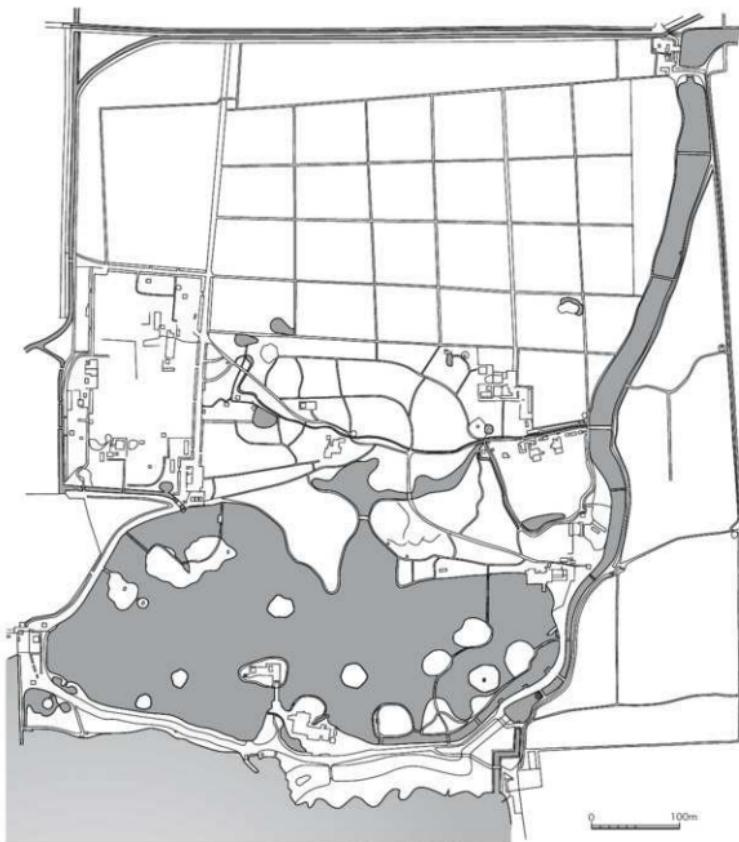
第215図 名古屋城二の丸庭園
『御城御庭絵図』（蓬左文庫蔵）をトレースして
改変した。

現在は防衛庁の諸施設が設置されたこの屋敷は、東京都埋蔵文化財センターにより発掘調査が行われております。屋敷の様相が明らかになってい。注目すべき点は、楽々園以外にも小規模な池状造構が数基確認されており、石組みで護岸されたものや漆喰壁で覆われたものなどがある。これらの小規模な庭園に伴う池が、今回確認された御屋形庭園と類似するものかもしれない。

7) 江戸戸山屋敷

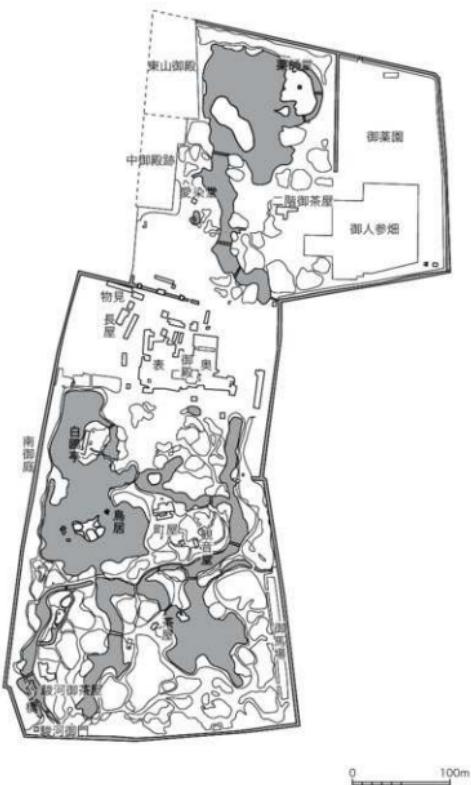
尾張徳川家の江戸屋敷の中で最も規模が大きい屋敷が戸山屋敷である。総面積は136000坪余りを誇り、当主の休息と饗応の場として機能していた。中央に大規模な池を配置し、江戸で一番高い築山「玉円峰」や宿場町などが構築された。

この他に尾張徳川家が所持する御屋敷には、領国内に「熱田御殿」「小牧御殿」「横須賀御殿」な

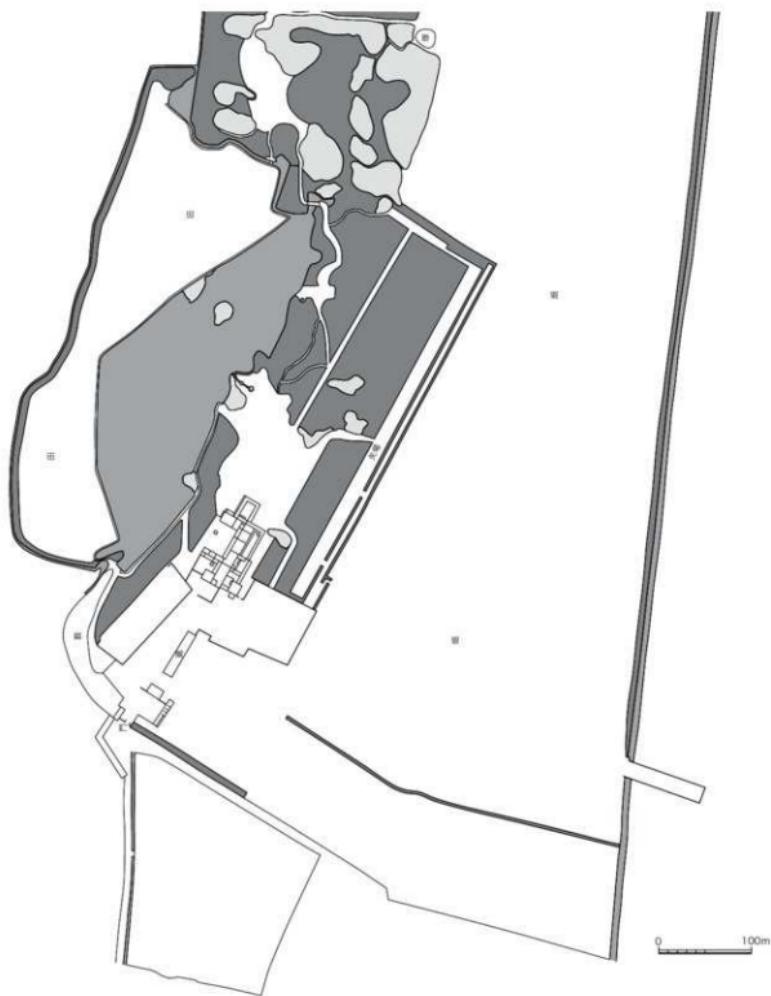


第216図 名古屋城御深井庭園

『源順様御代下御庭図面』(徳川林政史研究所蔵)をトレースして改変した。



第217図 名古屋城下御下屋敷庭園
『御下屋敷御殿奥表御庭繪図』(徳川林政史研究所蔵)をトレースして改変した。



第218図 名古屋城下大曾根屋敷庭園
『成瀬隼人正上ヶ屋敷絵図』および『石河大和守・渡辺半蔵上ヶ屋敷絵図』(ともに蓬左文庫蔵)を
トレースして改変した。

ど、江戸に「築地御殿」「麹町御殿」などがあり、京都や大阪にも御屋敷が存在したという。これらの御屋敷にも庭園があったと考えられる。

さて、このように検討していくと、尾張藩の大名屋敷には庭園遺構が付随し規模や用途も様々であることがうかがい知れる。大きな池を作り町屋の再現など大掛かりな趣向を凝らした大規模な庭園が一般的には著名であるが、それ以外にも中庭的なもので小規模な庭園遺構も一部では発見されている。ここで庭園の機能と規模などから次のようく分類して整理してみたい。

A類）表御殿に伴う庭園：尾張徳川家当主が居住し政治や外交の場として機能した御殿に付随する庭園遺構をこの種に含める。名古屋城二の丸庭園や江戸市ヶ谷屋敷樂々園がこれに相当する。規模は中規模であったと考えられ、名古屋城二の丸庭園でみると勇壮な石組を持つ庭園が多いのではないかと想像される。

B類）郊外にある屋敷に伴う大規模庭園：尾張徳川家当主が休息や饗応の居住の場として活用した屋敷に付随する庭園遺構をこの種に含める。名古屋城御深井庭園、名古屋城御下屋敷庭園、名古屋城大曾根屋敷庭園や江戸戸山屋敷庭園がこれに相当する。規模は大規模であったと考えられ、規模が大きいが故に変化に富み趣向を凝らした庭園が多いと思われる。

C類）屋敷の一角に伴う中庭の庭園：尾張徳川家当主およびそれに近い方の屋敷のみに付隨する小規模な庭園遺構をこの種に含める。今回確認された名古屋城御屋形庭園はこれに該当すると考えられる。庭園遺構が現在も残存するケースが少な

く、絵図などの記録にも残されないケースが多いため、不明な点が多い。発掘調査によりその遺構の痕跡が発見される場合が多いだろう。

4 まとめ

以上の考察により、今回確認された池状造構を主体とした御屋形庭園は、中庭的な池泉鑑賞式書院庭園と位置づけられよう。最後に確認しておきたい点は、こうした庭園遺構は名古屋城三の丸遺跡では初めて発見された点である。つまり、徳川家に従属する武家屋敷の中ではこれまで庭園遺構が発見されていないのである。未発見の遺構が本当に存在しなかったことを証明することはできないが、せいぜい大身の家臣が有することができた程度ではないかと思われる。庭園遺構の有無においても武家の身分的格差が如実に反映していることがうかがい知れる。

最後に、庭園遺構の解釈については仲隆裕氏に多大なご教示を得た。また、名古屋城二の丸庭園の状況については小島一夫氏と野口泰子氏のご教示とご協力を得た。記して感謝したい

白幡洋三郎 1997『大名庭園 江戸の豪華』

徳川美術館 2004『江戸のワンダーランド 大名庭園』

名古屋市教育委員会 1976『名古屋城二ノ丸庭園発掘調査

概要報告書』

名古屋市博物館 2000『尾張徳川家の絵図—大名がいだい

た世界観』

名古屋城振興協会 1967『名古屋城叢書3. 増補新版 名

勝史蹟 名古屋城の庭園』

水野裕之 2001『徳川園』『愛知県埋蔵文化財情報 16』

第5節 遺構の変遷

本節では、今回確認された遺構の変遷を、出土遺物の変遷と遺構の検出状況などから推測し、今回の調査地点の歴史的な変遷を考察したい。

既に第2章遺構で詳述したように、今回の調査で確認された遺構と遺物は大きくA期からD期の4期に大別されている。さらに、既存の研究で明らかになっている須恵器・灰釉陶器・山茶碗・瀬戸美濃窯産陶磁器などの編年と、本章第2節や第3節で検討した土師器皿・鍋類の変遷を考慮した結果、これらは16小期に細別できた。この時期区分を用いて、各時期に同時に存在したと推測された遺構の主要なものを集め編集したものが、第219～222図である。

A-1期（5世紀代）

東山11号窯式期前後の須恵器を伴う段階である。これ以前の宇田型甕などを伴う段階も含めて、確認された遺構は少なく、SK339やSK353などの小型の土坑が数基存在する程度である。遺物には城山2号窯式期から東山11号窯式期の須恵器杯類などの他に、この段階に属する円筒埴輪が約90点出土している。埴輪の出土分布の検討から、調査区東側に円筒埴輪を伴う古墳の存在が予測される。こうした状況から、わずかに認められた小型の土坑の存在は集落に伴うものではないと評価しておきたい。

A-2期（6世紀前半）

東山61号窯式期前後の須恵器を伴う段階で、土師器鍋類1期4段階に相当する。確認された遺構は少なく、SB06が確認される程度である。このSB06は柱穴を持たない小型の竪穴状遺構であり、建物跡と認定できない可能性もある。従って、この段階では何らかの人々の存在した痕跡を認めることができるもの、居住域であったとは評価できない状況である。

A-3期（7世紀前半）

東山44号窯式期前後の須恵器を伴う段階で、土師器鍋類1期5段階に相当する。この段階では確認された遺構が増加し、竪穴建物跡SB04・SB05・SB09、掘立柱建物跡SB11・SB13および土坑SK308などが存在する。建物の方位は、東半部に存在するものはおよそN-70°-Wを、西半部に存在するものはおよそN-80°-Eを測る。土坑SK308の性格の特定は難しいが、玉類や比較的完形に近い須恵器を大量に伴うことから、ごみ処理の廃棄土坑とは考えにくい。竪穴建物と掘立柱建物の登場からみて、居住域として機能を始めた段階といえる。

A-4期（8世紀代）

岩崎17号窯式期から折戸10号窯式期までの須恵器を伴う段階を一括する。岩崎17号窯式期前後（土師器鍋類1期6段階）の前半と、折戸10号窯式期前後（土師器鍋類1期7段階）の後半に分離することも可能であるが、ここでは合わせて表記する。この段階では、前段階に比べ遺構の数は減少し、竪穴建物跡SB02・SB03、掘立柱建物跡SB10・SB14などが存在する。小型の土坑類は建物跡に付随する遺構の可能性もある。居住域として機能は依然として継続していたと考えられる。

A-5期（9～10世紀）

黒笹14号窯式期から折戸53号窯式期までの須恵器や灰釉陶器を伴う段階を一括する。本来は時期をさらに細区分すべきと思われるが、遺構出土遺物は小破片が多いため区分できなかった。この段階では、前段階に比べ遺構の数は減少し、竪穴建物跡SB08、掘立柱建物跡SB12・SA02や小規模な土坑などが存在する。小型の土坑は建物跡の柱穴である可能性も考えられる。居住域として

機能はかろうじて継続していたと考えられる。

B-1期（13世紀後半）

山茶碗第7・8型式に属する陶器を作う段階である。土師器皿1期1段階、土師器鍋類2期1段階に相当する。この時期では掘立柱建物跡SB15・SB16、井戸SK226、溝SD18など多くの遺構が存在する。調査区東部では、東西方向にSD18などの溝が存在し空間を区画しているが、これ以外に区画施設は見当たらない。溝と掘立柱建物跡SB15が重なることと掘立柱建物の方位がバラバラであることなどから、これらが同時期に存在しなかった可能性もある。これらの状況から見て、建物跡や井戸が明瞭な区画施設で区切られない形で展開するものと見られる。溝などで囲まれない屋敷が散在していたものと思われる。

なお、A-5期とB-1期の間、すなわち広久手72号窯式期から山茶碗第6型式期までに属する遺構はほとんど存在せず、該当する遺物も僅少である。12世紀末から13世紀初頭の唐草紋軒平瓦がわずかに出土したことから、その時期の瓦葺き建物が付近に存在した可能性を考えることもできるが、基本的には居住域の機能はいったん途絶えたものと理解しておきたい。

B-2期（14世紀～15世紀中頃）

山茶碗第9～11型式に属する陶器を作う段階で、土師器皿1期2段階に相当する。この時期に属する遺構は希薄で、掘立柱建物跡、井戸、溝などの遺構は全く存在しない。土坑類が調査区中央部に散在する程度である。これらの土坑の一部は掘立柱建物跡の柱穴と考えることができ、B-2期の遺構や遺物を識別しにくい状況を考慮すればこの段階も少なからず居住域であった可能性がある。ただし、現状の検出状況からみると、やはりB-1期よりも遺構密度が低かったと言わざるを得ないだろう。少なくとも溝などの明瞭な区画施設で屋敷が囲まれていたとは考えにくい。

B-3期（15世紀後半）

古瀬戸後IV期古段階に属する瀬戸窯産陶器を作う段階で、土師器皿1期3段階に相当する。この時期では掘立柱建物跡は確認されなかったが、井戸SK146、溝SD34・SD35・SD38など多くの遺構が存在する。調査区中央部では、方形地割を形成するようにほぼ東西方向と南北方向に走る溝群（方位はおよそN-6°-E）が展開し、一定程度の区画割が行われていたことを予感させる。建物遺構を確認することができないものの、井戸や廃棄土坑と思われる土坑群（SK155など）の存在から居住域であった可能性が高く、溝によって区画された屋敷が展開したものと想定できる。これらの状況から見て、建物跡や井戸が明瞭な区画施設で区切られない形で展開するものと見られる。溝などで囲まれない屋敷が散在していたものと思われる。

B-4期（16世紀前葉）

古瀬戸後IV期新段階から大窯第2段階に属する瀬戸美濃窯産陶器を作う段階である。土師器皿2期1・2段階、土師器鍋類3期1・2段階に相当する。土師器などにより時期を細分することも可能と考えられるが、具体的な遺構の展開を説明しくいためここでは合わせて検討したい。この段階では、掘立柱建物跡SB17、井戸SK147、溝SD17・SD25・SD27・SD29・SD36・SD39などの遺構が存在する。溝群はおよそN-10°-Eの方位で方形地割を形成するように走り、区画01～04を作る。特にSD17・SD25・SK222は規模がやや大きく、これらで囲まれた区画04は他の区画に比べ区画施設が強固であると評価できる。区画内部の構造は不明である。区画02では井戸SK147や建物跡SB17が展開したことが判明する。建物跡SB17はその配置と規模からみて主屋とは考えにくい。こうした状況からみて、B-4期はB-3期と同様に、溝による方形地割によって区画された屋敷群が展開したと復元される。B-3期と異なる点は、やや規模の大きな区画

施設で囲まれた屋敷が登場し、そこに見られる格差が生じた可能性があることである。ただし、今回の調査区域では屋敷の規模そのものの比較はできなかった。

B-5期（16世紀中葉）

大窯第2段階以降に属する瀬戸美濃窯産陶器を伴う段階で、土師器鍋類3期・3段階に相当する。この段階の遺物は意外と少なく遺構の時期は他の遺構との重複関係などを参考にしているケースも多い。B-5期では、掘立柱建物跡SB18・SB19、溝SD06・SD24・SD31、掘立柱櫛列跡SA03・SA05などの遺構が存在する。溝群はおおよそN-6°-Eの方位で平行して走り、区画05～08を形成する。東西方向に走る溝を検出することはできなかった。SD31とSD24の間は約22m、SD24とSD06の間は約13mを測る。SD24には門SB20が付随することから、SD24の西側が道路であった可能性も存在する。ただし、道路を想定するとSB19の存在が矛盾しており、SB19の時期あるいはSB20の性格を検討し直す必要もあるだろう。区画07はSA05により区画07aと区画07bに細分できる。

上述のように、区画05～08は平行する溝により計画的に構築されたもので、基本的には屋敷地であったと推定される。ただし、それぞれの区画には必ずしも井戸や建物跡が確認されておらず、遺物の出土量も少ない印象があることからみて、生活感や常住性を感じさせない様相を呈していると思われる。

C-1期（17世紀前半）

登窯第1・2小期に属する瀬戸美濃窯産陶器を伴う段階である。土師器皿2期・3段階と土師器鍋類4期・1段階に相当する。この時期は、SD22とSK185が重複することやSD12とSD14の間に井戸SK163などが存在することなどから、遺構変遷を細分する必要があると思われるが、実際に遺構の時期細分を全体に行うことが困難である

るために便宜上一括して様相を説明することしたい。この段階では、掘立柱建物跡SB22、溝SD12・SD14・SD22、掘立柱櫛列跡SA08など多くの遺構が存在する。溝群はおおよそN-3°-Wの方位またはこれに直交する方位に展開し、大きく区画09～11を形成する。SD12とSD14の間は約4mを測り、道路状の遺構であったと推測される。SD27の東側は区画施設の延長を確認することができず、その様相は不明である。溝群は遺構の重複関係からみると、C-1期の初頭から存在したもの（特にSD22）が途中で消えている可能性も考えられる。SD14とSD22で囲まれた区画10の内部には多くの土坑類が分布している。明瞭な建物跡の存在はSA08がある程度で、それより南側では建物遺構は展開せずに廃棄土坑群が掘削された場所であったと想定しておきたい。

区画溝が屋敷を囲む施設かあるいは屋敷内部を区分する施設かを識別することは難しいが、ここでは南北方向の区画施設については屋敷を囲む溝と考えておきたい。C-1期の遺構全体としてみると、B-5期の方向と同様の方向を持つ方形地割の中に屋敷地が展開していたと評価できよう。

C-2期（17世紀後半）

登窯第3・4小期に属する瀬戸美濃窯産陶器を伴う段階である。土師器皿2期4・5段階と土師器鍋類4期2段階に相当する。この時期も、SD12・SD14・SA06などの区画施設が近接して平行する形で存在していることなどから、遺構変遷を細分する必要があると思われるが、実際に遺構の時期細分を全体に行うことが困難であるために便宜上一括して様相を説明することしたい。この段階では、掘立柱建物跡SB21、溝SD12・SD14、掘立柱櫛列跡SA06、井戸SK163・SK49など多くの遺構が存在する。溝はC-1期に存在したもの引き継いで存在したものと推測され、SD14は南方向に伸びる形に変更された可能性がある。SA06を含めてこれらの区画施設はおおよ

そ N-3°-W の方位を持つ。区画施設群の東部には掘立柱建物跡や廃棄土坑群が展開し、屋敷を形成していたと考えられる。SD12 は C-2 期末期(あるいは C-3 期初頭) には池 SX02 に接続し導水部として利用された可能性も存在する。

区画溝や柵列跡の性格ははわかには判別し難いが、これらの区画施設に近接して井戸が展開することを考慮すると屋敷を囲む施設とは考えていく。従って、調査区は大きく広がる屋敷の一部分である可能性が高い。広大な屋敷のどのような位置に相当するかについては今回の調査成果のみでは読み解くことは難しい。

C-3 期 (18 世紀)

登窯第 5 ~ 8 小期に属する瀬戸美濃窯産陶器を伴う段階である。土師器皿 3 期 1 ~ 3 段階と土師器鍋類 4 期 3 段階に相当する。この時期は一部の遺構について着目すると遺構変遷を細分することができるが、説明の煩雑さを避けるためえて一括して様相を説明することとしたい。この段階では、池 SX02、石組溝 SD01 ~ 04、地下室 SK94、巨大廃棄土坑 SK01、石列 SX09 など多くの遺構が存在する。石組溝群で囲まれた空間は池 SX02 を中心としていくつかの不定形土坑とセットになって庭園遺構を形成していたと考えられる。庭園遺構と地下室との関係は今ひとつ明らかではない。調査区東部には非常に巨大な廃棄土坑 SK01 が存在しており、他の遺構はほとんど認められない。SK01 からは瓦や石材や木材などの廃材が大量に投棄されていたことから普請や作事に伴うものと推測され、屋敷内では建造物などは存在しない空白地を利用した作業場的な用途を想定しておきたい。石組溝群の外側の様相は調査区外に当たり不明な点が多いが、建物遺構の周囲に並べられたものと想定される石列 SX09 の存在から恒久的な建造物があったことが想定される。SK01 などから大量に本瓦葺きの瓦類が出土したことからみて、建造物は瓦葺きの礎石建物であつ

たものと思われる。

調査区は大きく広がる屋敷の一部分と考えられ、本格的な建造物すなわち御殿などの北端部に隣接する石組溝と庭園などが展開した地点であると評価できる。庭園の規模は非常に小さくこじんまりとしたもので、表の庭園遺構とは考えにくく建物群の空隙にできた中庭的な書院庭園であった可能性が高い。さらに付け加えるべき点は、これらの遺構は部分的には約 80cm の盛土を行った上で全く新たに構築された点であり、今回の調査地点の遺構変遷の中では最も大きく変貌を遂げた段階の一つと評価できよう。

C-4 期 (19 世紀前半)

登窯第 9 ~ 11 小期に属する瀬戸美濃窯産陶器を伴う段階で、土師器皿 3 期 4 段階に相当する。該当する時期の遺物が少ないとからこの時期の遺構は少ない。掘立柱柵列跡 SA09 や石組溝の石材を抜き取った廃棄土坑 SK23 などの遺構が存在する程度である。池 SX02 は埋め立てられ、地下室 SK100 が構築された。この他の遺構は調査上のミスもあって不明な点が多いと言わざるを得ない。石列 SX09 は C-4 期まで存在したものと推測され、引き続き南側に御殿状の建造物が存在したのだろう。大きくは C-3 期の遺構展開と変わらないが、今回の調査地点で見ると遺構と遺物は希薄で低調な段階と評価される。

D-1 期 (19 世紀後葉~20 世紀前葉)

この段階は遺構や遺物は非常に少ない。遺構は土坑が数基存在する程度である。この時期の遺構面は人工的に展張された硬化面を形成しており、固い地盤が広大に広がる広場であったと推測される。陸軍第三師団が入部した際に調査地点は東鍾兵場に相当することが判明しており、その地面が検出されたといえる。

D-2 期 (1945 年直前)

この段階は遺構や遺物は D-1 期に比べると増加している。遺構は礎石建物跡 SB01、掘立柱建

物跡 SB25、井戸 SK114、土坑 SK96 などが存在する。建物の方位は、C 期の遺構と同様の方位を持つ。建物跡は近代以降のものとしては脆弱な基礎構造であり、急速建造された感が否めない。建物の構造などからみて陸軍名古屋病院第二分院の病棟と推測される。また、土坑の一部には完形の遺物が埋蔵されたものがあり、物資を隠匿するための土坑と思われる。遺物ではガラス瓶や磁器類や活字などに陸軍名古屋病院に関連する製品を認めることができることからも、調査地点が陸軍名古屋病院第二分院に相当することを証明できよう。

以上の遺構変遷を考察した結果、今回の調査地点の歴史的な変化を復元すると、次のようにまとめることができる。

1、4世紀の遺物が散見されることから、4世紀には付近に人々の活動が行われるようになったといえる。それ以前における人間の活動の痕跡は確認することができなかった。

2、5世紀には小規模の土坑が散見され、埴輪の存在から付近に古墳があったと推測される。

3、6世紀には確実な居住地とは評価できないが、遺構や遺物が散見されることから、少なくとも付近に人々の活動が存在したといえる。

4、7世紀前半から10世紀までは竪穴建物と掘立柱建物の両者が混在する集落が展開した。特に7世紀から8世紀にかけて遺構が多いが、建物遺構の密集度はそれほど高くないと考えられる。

5、11世紀から13世紀前半までは遺構や遺物はほとんど見られず、集落は存在しない。人々の活動もあまり感じられない。

6、再び調査地点に人々が居住し始めるのは、13世紀後半からである。掘立柱建物と井戸がセットになって認められる集落が展開した。

7、14世紀から15世紀中頃までは遺構や遺物が

散見される状態であるが、おそらくは掘立柱建物を中心とした集落が継続していたと想像される。

8、15世紀後半になると、溝で区画された空間が設定され井戸などが存在するようになる。建物は確認できなかつたが、おそらく掘立柱建物を中心とした屋敷が散在する集落が展開し始めたものと思われる。溝はほぼ東西南北の方位で展開する。今川那古野荘の段階に当たると思われ、荘園に関連する村落の一部を確認したものであろうか。

9、上記のような遺構のあり方は16世紀前葉でも継続するが、部分的に区画溝の規模がやや大きくなるものが登場する。なお、15世紀後半の地割と16世紀前葉の地割は異なっていることから、地割の変更という二期が認められる。今川氏が那古野城を築城した段階に相当しており、地割の変更はその影響を受けたものであろうか。

10、16世紀中葉には、再度地割の変更が行われて長方形の屋敷が展開したものと思われる。織田氏が那古野城に入城した際に城下の構成を変更した可能性も考えられよう。

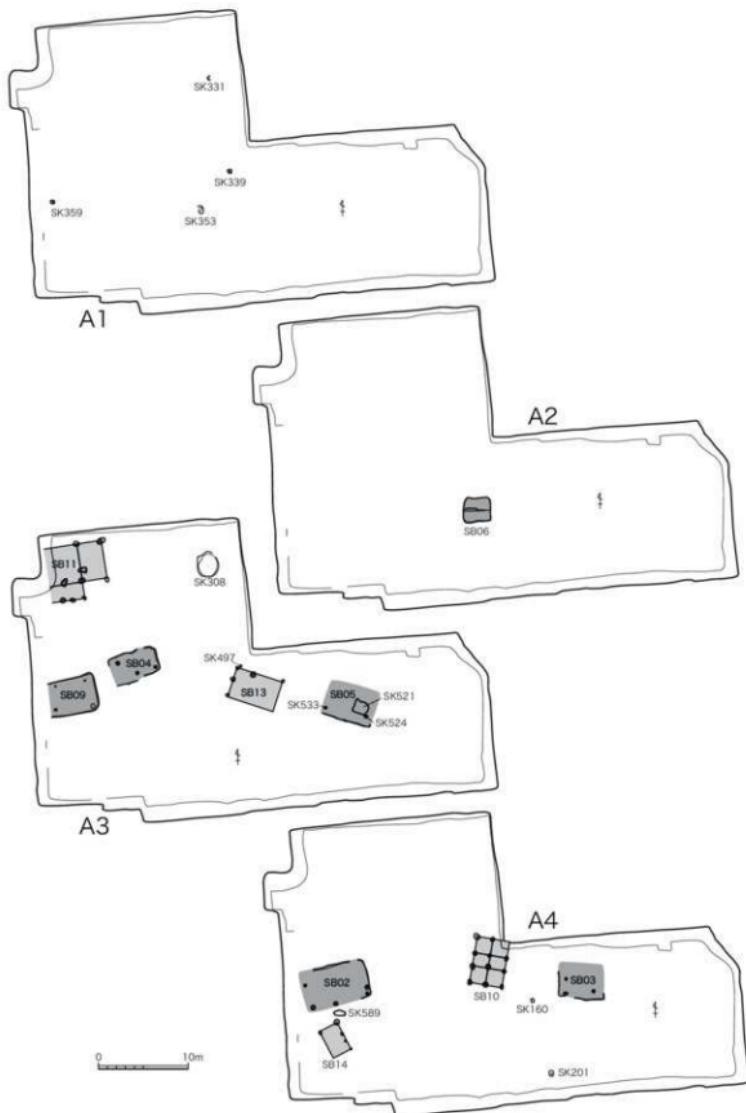
11、16世紀後葉では遺構や遺物が激減し様相は不明であり、人々の活動がほとんど感じられない状態と評価される。1582年頃には那古野城は廃城になったと推測されており、その状況を示したものと評価できる。

12、17世紀前半には、方位は共通するものの新たに溝による区画が設定され、屋敷が展開したものと推定される。調査地点は『金城温古録』によると石川光忠、栗生将監、一色竜雲が居住した名古屋城三の丸の武家屋敷が展開したと思われる。

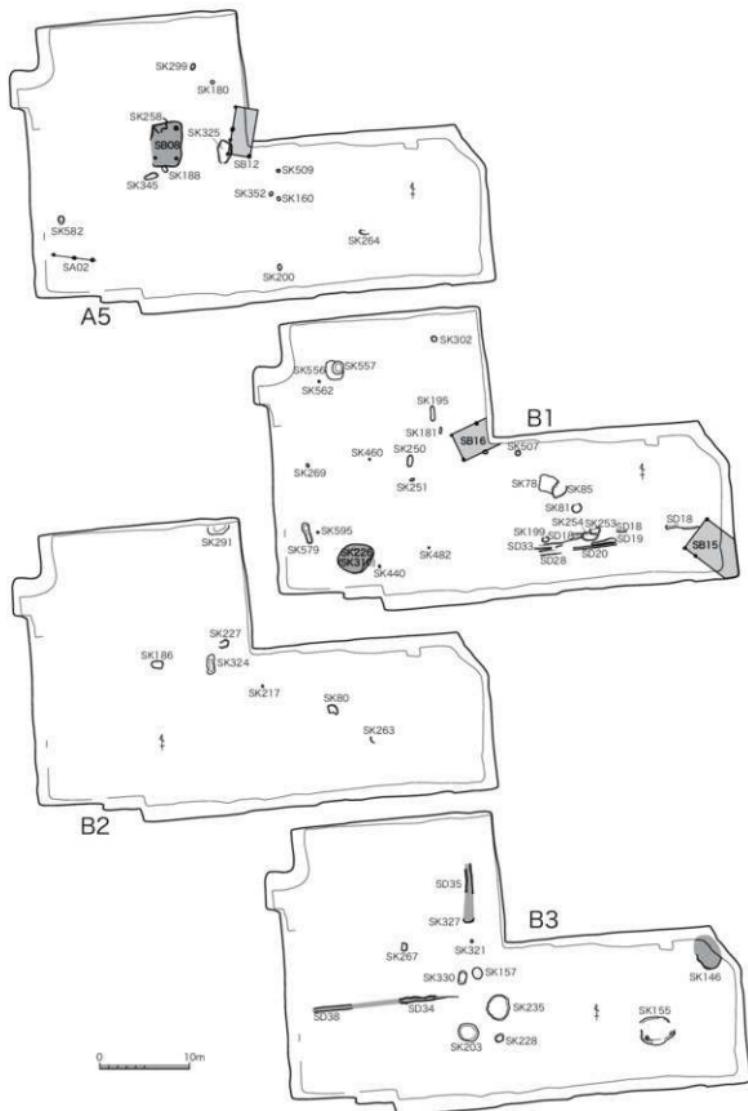
13、17世紀後半では地割が変更され、区画施設が存在するものの、調査区全体が広大な屋敷の一部であった可能性が高いと評価された。調査

- 地点は、慶安2（1649）年に御屋形区画の原型が成立して以来、徳川義直娘婿広輔忠幸、松平義昌、徳川綱誠らが居住した屋敷が展開したことが判明しており、その一部が確認されたものと考えられる。
- 14、18世紀になると、17世紀に存在した区画溝が廃絶され、厚い盛土による整地が行われ石組溝や庭園が構築された。調査地点は広大な屋敷の一角に相当すると思われ、中庭的な場所が想定された。文献などの検討から、この段階は御屋形の機能が分化して御屋形の公的施設の性格が強まった時期と考えられている。
- 15、19世紀には入ると、広大な屋敷の一角である様相は変わらないと思われるが、遺構や遺物が減少している。このことは、文献などの検討から18世紀半ば以降は御屋形の機能が衰退する過程と位置づけられれていることと符合するといえる。
- 16、19世紀後葉から20世紀前葉では、遺構や遺物は激減し硬化した地盤のみが確認された。1872年に入部した陸軍第三師団の東鍊兵場として機能していたといえる。
- 17、太平洋戦争終戦の1945年直前では、当時は脆弱な建物が建造され、部分的に物資を隠匿した土坑なども確認された。建物の規模や形状から病室に相当するものと考えられ、陸軍名古屋病院に関連する遺物も豊富に出土していることなどから、陸軍名古屋病院第二分院の病棟とそれに隣接する遺構が展開したと推定される。
- 18、その後の状況については、考古学的なデータを採取していないが、1m以上の厚い盛土整地を経た上で国立名古屋病院（現独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター）が建造され、2004年には調査地点に看護婦養成所が新規建設されて今日に至る。

名古屋城三の丸遺跡 VII

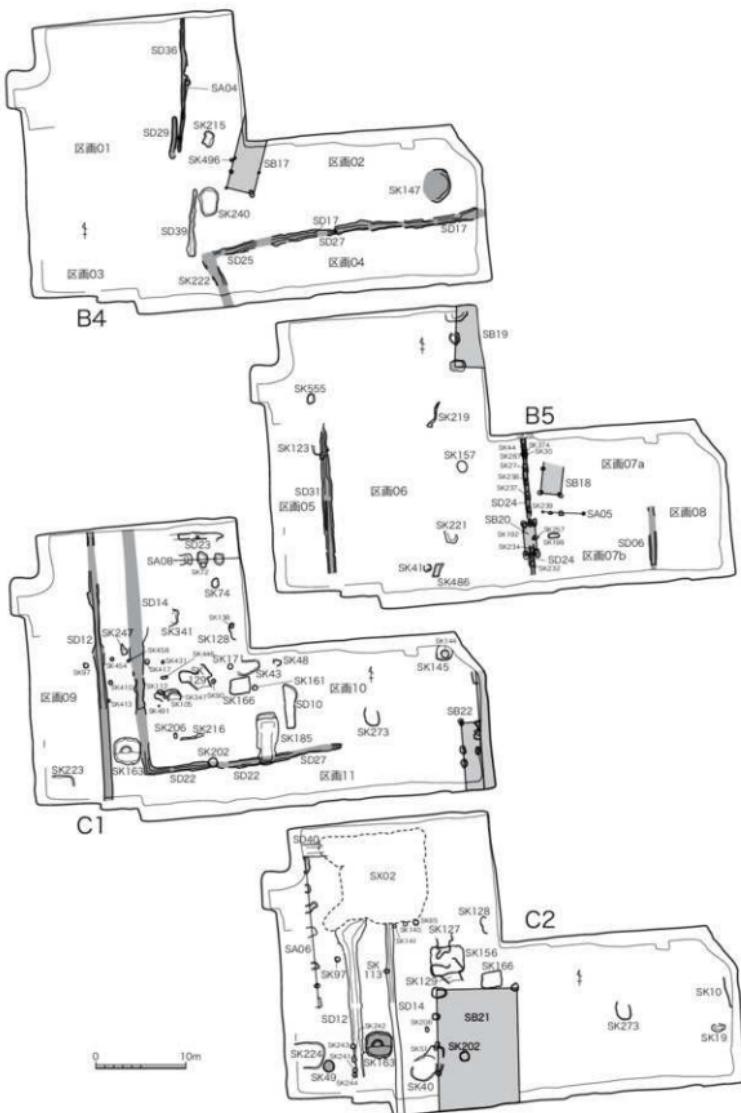


第219図 遺構変遷図(1)

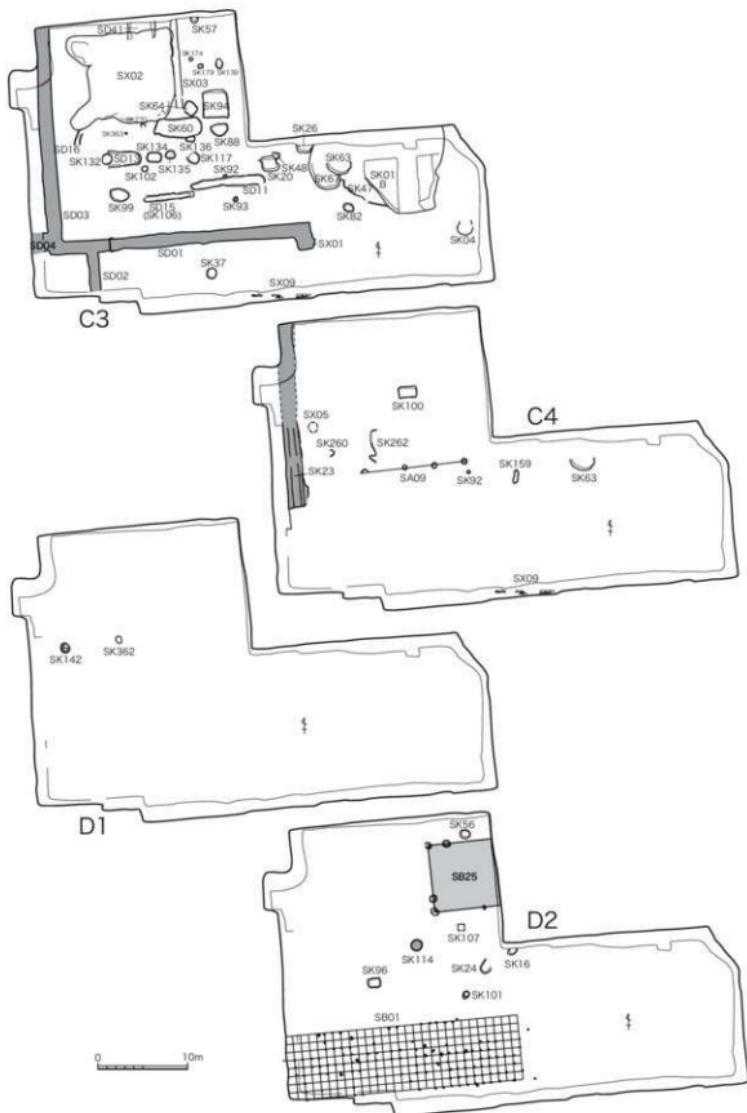


第220図 遺構変遷図(2)

名古屋城三の丸遺跡 VII



第 221 図 遺構変遷図 (3)



第 222 図 遺構変遷図 (4)

第6節 まとめ

今回の調査の結果、古墳時代から昭和時代前半までの遺構や遺物を確認し、当地点における約1600年間の歴史的な変遷を明らかにすることができた。最後に、名古屋城三の丸遺跡とその周辺を含めた範囲で遺跡の変遷を若干考察し、まとめとしたい。

今回の調査地点は名古屋台地の北端部に当たるため、古墳時代以降から遺跡は継続していた。同じ名古屋城三の丸遺跡の中でも、名古屋台地の縁辺部から離れた奥部には古い時期の遺構や遺物が希薄になっていることとは対照的である。ただし台地の北側という立地のためか古墳時代以前においては人々の活動を窺わせる資料はない。ようやく5世紀に至っておそらく古墳が築造されたことが本地点での遺跡の始まりといえる。既に名古屋台地西縁部に古墳群が築造されていることが

判明しており、想像を逞しくすれば名古屋台地の北西縁部にも近世名古屋城築城により破壊された古墳群が展開していたことが想定されよう。

6世紀に入り名古屋台地の北端部にも人々が居住した痕跡を見い出すことができるようになり、いくつかの断絶が認められるものの16世紀までその状態は継続するといえる。しかし、遺構や遺物の密度からみると大規模な拠点的集落が展開したとはいえない。15~16世紀に今川氏や織田氏が当地を拠点にするとになると、堀状の溝で区画された屋敷が登場し様相は一変する。今回は紙幅や時間の制約のため那古野城とその城下の景観復元の新たな試みを行うことはできなかつたが、既に松田訓や尾野善裕らが指摘している正方位溝群の出現が15世紀後葉段階まで遡る地点であることが明らかとなり、那古野城主郭(居館)

SK226	尾張型										東濃型										総計		
	3 型 式	4 型 式	5 型 式	6 型 式	7 型 式	8 型 式	9 型 式	10 型 式	11 型 式	不明	合計	谷	足	浅	高	白	明	大	大	大	細	生	合計
接合面破片数																							
山系裡	5				26	6					44	102	1			2						16	118
				6		48										3							
小畠			3		1	2	4					12					2					2	14
片口跡					1						1	2										0	2
裏											1	1										0	1
不明											1	1										0	1
合計	5	0	3	7	28	10	0	0	0	47	118	0	1	0	0	2	2	0	0	0	0	18	136
				57												5							
																	17						

第24表 SK226 出土山茶碗類組成表

考察とまとめ

SK155	古窯口初期				古窯口中期				古窯口後期				大 窯				窓 窯				空白 ~	總計								
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
接合面破片数													古	新																
天目系碗													8															8		
平瓶													1	2														3		
平鏡？ 7種類小組													2															2		
綠釉小瓶													3															7		
鉢皿													4																	
鉢皿													1															5		
折縁深盤													1															2		
折縁中盤													1															1		
中盤													2															4		
鉢													1															1		
植鉢													14																	
													3															22		
盤類													1																	
													4																	
盤類 大盤？ 直線													2															2		
粗母燒器													11															11		
四(三)耳壺													1	1														2		
四耳壺													2															2		
四耳壺、瓶													1															1		
四耳壺合瓶子													1															1		
壺													1															1		
壺？													1															1		
粗米型 底口瓶子													5															7		
													5															7		
粗米型 壺子													4															11		
壺子													3															14		
花瓶													6															1		
水注													2															3		
合子瓶													1															1		
龜背													6															6		
網紋													2															2		
蓋													4															4		
罐・釜													9															9		
蓋													2															2		
	0	2	3	0	1	1	0	0	0	3	0	2	3	35		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
總計	2	5	4	4	0	11	80			0			63			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	151
	13									131																		0		

SK155	尾 瓶 型										東 瓶 型										總計					
	3 横式	4 横式	5 横式	6 横式	7 横式	8 横式	9 横式	10 横式	11 横式	平 型	合計	谷 開 口	透 滴 空	瓦 石 3	密 刻	白 土 陶	明 類	大 瓶 大 創 口	大 瓶 東	器 之 無	生 田	平 明				
接合面破片数												5	32	1	3	1	1		4	6	1	17	49			
山茶碗	3	1	8	9	4	15																0	1			
小瓶		1																				0	4			
小瓶					4																					
片口杯					1																	0	11			
不明					5																	5	7	7		
合計	3	1	1	8	10	4	0	0	0	5	48	0	1	0	5	1	1	0	0	4	6	1	5	24	72	
	5			38						6								2		11						

第 25 表 SK155 出土陶器類組成表

名古屋城三の丸遺跡 VII

SK147	古窯口前期				古窯口中期				古窯口後期				生出 古 新	大 窯				登 室								不明 統計		
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV		1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
														前		後		前		後		前		後				
接合面破片数																												
天日茶碗															18	5											25	
緑釉皿																	4										4	
緑釉小皿																2	3										5	
折縁深皿																1											1	
重麗皿																1											1	
志野丸皿																		1									1	
細皿																1											1	
楕円																		4	1								16	
蟹殻																	11											
小皿または合子																1											1	
水注?																3											3	
四耳壺																1											1	
瓶子																1											1	
私物具																												1 1
筆																	2										2	
硝瓶																	1										1	
内耳皿																	1										1	
甕																21											21	
不明																												2 2
統計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	29		5	1	0	0	0	1						3 89	
	1		2						1		51	1				6		1										
	1		3						74												7							

SK147	尾 陶 型												東 陶 型												統計			
	3 壺式	4 壺式	5 壺式	6 壺式	7 壺式	8 壺式	9 壺式	10 壺式	11 壺式	不明	合計	谷 盆	浅 口	瓦 瓦	黑 蒜	白 土 壺	明 和	大 朝 大 刀 斧	大 刀 斧	輪 之 烏	生 田	不明	合計					
接合面破片数																												
山茶碗																1	3										58	
																	12											
小皿																1	2	1									0 4	
片口鉢																		3	4								0 4	
統計	0		1	5	1			0	0	0	26	47	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	2	4	9	19 66	

第 26 表 SK147 出土陶器類組成表

考察とまとめ

SD39	古墳Ⅰ前期				古墳Ⅱ中期				古墳Ⅲ後期				大 常				費 常								総計		
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
接合面破片数									古 新				前 後	前 後													
天日茶碗													2														2
折縁深皿									1																		1
中皿										1																	1
はさみ皿													1														1
灰陶丸皿													1														1
灰陶盤反皿													1														1
擂鉢													3														7
													4														
四耳甌					1																						1
壺類										1																	1
桶													3														3
瓶													1														1
総計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	6	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	
	0	1	0	0						0	9					0	0										
	1		0						1		16						0										
	1									19																	

SD39	尾 製 類										東 濃 類										総計		
	3型式	4型式	5型式	6型式	7型式	8型式	9型式	10型式	11型式	不明	合計	谷道窓	筒窓	丸石3	黑 刷	白土原	明 和	大輪大鉢	大輪	葛之島	生 田		
接合面破片数			古 新																				
山茶碗						4					4			1							2	6	10
														3		1							
小皿						1					1											0	1
総計	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	11
						5								3		1							

第27表 SD39 出土陶器類組成表

名古屋城三の丸遺跡 VII

SD17	古墳I前期				古墳II中期				古墳III後期				大 番				登 番									總計				
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ~				
接合面破片数													古 破		前 破	後 破	前 破													
天日茶碗													1															1		
綠釉小皿													1	4														9		
湖口付大皿																													1	
灰釉小皿																													2	
直線大皿																													1	
直線小皿																													1	
使頭																													1	
皿																													1	
鉢																													2	
楕鉢																													6	
四耳壺													4																4	
瓶子													1																1	
薇小瓶																														2
不明																														3
蓋																														3
接合面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	8	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38	
接合面	0	0	4	0	1	16							11				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38
接合面	1	5	26										3				0											0		
接合面	6	32																												

SD17	尾 旗 重												東 旗 重												總計				
	3型式	4型式	5型式	6型式	7型式	8型式	9型式	10型式	11型式	平 明	合計	谷追印	浅 刻	丸 石	席 刺	白 土 原	明 和	丸 輪 大 銅 鏡	丸 輪 大 銅 鏡	鷹 之 島	生 田	平 明	合計						
山茶碗					5	4					89						1	1	2	1	22	34	123						
山茶碗					5	4					89						4	4	5										
小皿					1						11																0	11	
片口鉢					3						3																	0	3
統計	0	0	0	0	5	6	4	0	0	0	103	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	1	22	34	137				
統計	4	4	95														4	5											

第 28 表 SD17 出土陶器類組成表

に近い場所であったことが想定される。15～16世紀における遺構の変遷を那古野城の景観復元にどう位置付けるかは、多くの難しい問題を孕んでおり今後の課題としたい。

本来の遺跡の名称である近世名古屋城三の丸が展開する17世紀になると、当地点は17世紀前半までは武家屋敷が、それ以降は御屋形が構築されていたことが判明した。しかし、文献などから判明する屋敷割りの変遷を具体的な遺構で確実に把握することは意外と難しい。17世紀前半の武

家屋敷の段階で検出された区画施設が、具体的に『金城温古録』などにみられる屋敷割りとの位置に対応するかの特定は、調査範囲内では決め難い状態であった。また、遺構からみる御屋形形成過程の復元や、御屋形を描いた絵図のどの部分に調査地点が対応するかという問題も決手に欠けており、課題を多く残す結果となった。但し、他の名古屋城三の丸地点との比較を行うと、御屋形が存在していた段階では庭園遺構や石組溝の存在が際立っており、遺物の組成においても雑器類が

SK185	古瀬戸前期				古瀬戸中期				古瀬戸後期				大衆				食器									総計	
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
	接合面破片数												古	新	前	後	前	後	10	~							
天日茶碗																	1	1									3
志野丸皿																		1									1
丸皿																	2	6	1							23	
縦反脚																	4	3									8
志野小杯																	1										1
小杯																	1										1
重圓盤																	1										1
灰釉丸皿																	1										1
志野丸皿																		1	2								9
志野皿																		6									
黄瀬戸抹																		1	4								10
志野折線鉢																		5									
楕鉢																		2									2
蓋																		1									8
茶入																		7									
祖母娘壺																		1									1
有耳壺																		1									1
エングロ																		1									1
不明																		3									3
総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	69	2	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3		71		0						80
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5				72						

第29表 SK185 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表

名古屋城三の丸遺跡 VII

SK156	古墳/Ⅰ前期				古墳/Ⅱ中期				古墳/Ⅲ後期				大正				昭和									総計				
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
接合面破片数													古	新	前	後	曲	直												
天日茶碗													2	2														4		
灰釉罐反側																												2		
丸瓶																												3		
小瓶																												1		
鉄軸丸瓶																												1		
卯口付大皿													1	1														2		
灰釉丸瓶																												1		
丸皿																					2	1						7		
志野丸皿																		8	5									17		
																			4											
志野皿																				1									1	
志野大皿																				1									1	
折線皿																				2									2	
灰釉反り皿																			1									1		
反り皿																				1									2	
縁皿																		1										1		
笠																			1									1		
笠原体																				3									3	
吉七田 錦部 笠原体																			3									3		
錦																				2									2	
																		3	1	1	1						11			
綿体																				4									1	
																													1	
楕瓶																		1										1		
磁瓶																			4										4	
香炉																				1									1	
仮供																			1										1	
祖母彌彌																			1										1	
鉄軸壺小瓶																		4											4	
壺小瓶																		1											1	
根乳型 壺子													3	1															4	
水指																			1										1	
内耳漏																			2										2	
筆																		3											3	
御深井不明																				1									1	
鉄軸不明																				4									4	
不明																				10									10	
总计	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	2	2	0	0	12	9	4	3	1	0	0	0	0	0	0	
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24		4	0	35	14	1	0	0	0								104
	0		0										28		6		54			1									70	
													34																	

第30表 SK156出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表

少ない傾向が読み取れよう。具体的な論評はできないが、主要な遺構における瀬戸美濃窯産陶磁器や肥前窯産磁器などの組成を藤澤良祐氏の協力を得て算定したので、第24～37表に示しておく。

近代についての良好な遺構や遺物が確認されたことも、今回特筆すべき成果であるといえよう。病院の建物遺構や物資を隠匿した状態で確認され

た一括出土遺物は、太平洋戦争終戦直前の紧迫した状況を示す資料として貴重である。

多くの課題を残した点は、編者の力量不足によるものである。大方のご叱正ご教示を賜りたく思う。また、発掘調査期間中に急逝された調査支援を行った朝日航洋株式会社統括責任者岩崎直也氏のご冥福を祈り、筆を擱きたい。

SK163	古瀬戸前期				古瀬戸中期				古瀬戸後期				大室				後奈									総計					
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
接合崩破片数													古	新																	
天目茶碗													1	1	1													4			
丸瓶																												1			
志野丸瓶																												4			
織部碗？																												3			
尾呂茶碗																												1			
志野組																												1			
反り組																												1			
端反組																	1											2			
鉄鎌中盤																												2			
鉢皿	1	1																										2			
笠形鉢																												2			
高麗/引抜																												1			
鉄込鉢																												1			
植鉢																	2	2										18			
																	1	3	1												
																	5														
鉢皿																												2			
盤皿													1															1			
蓋																												1			
瓶子		1																										1			
仏頭具														1														1			
灰被不明																												1			
不明																												6			
総計	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	4	1	2	0	1	0	0	0	0	57
	1	2	0	0	1	0	5										7		16	5	2	0	0								
	3		0		1												17		24		2										
					21																	36									

第31表 SK163出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表

名古屋城三の丸遺跡 VII

SK94	古瀬戸前期				古瀬戸中期				古瀬戸後期				大瀬戸				登録							総計					
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV'	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
接合面破片数									占	新	前	後	前	後	前	後													
丸鏡																											1	1	
小鏡																											1	1	
御室茶碗																											5	5	
高瀬戸大皿																		1										1	
型打菊皿																											1	1	
志野皿																	1											1	
深澤井大皿																			1										1
側松皿																					6							6	6
こね跡																											6	6	
鉢																			3								3	3	
鍋鉢																			2	4	5						12		
蓋物の身																											2	2	
蓋																			1								1	2	
水注	1																											1	
美濃伊賀水注																	1											1	
双耳小壺																												2	
縦割																		1										1	
土瓶																											4	4	
升次																			1									1	
鍋																											2	2	
不明																					1						1	2	
総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	7	0	12	7	0	0	56	
	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	14	26	0							
	1		0														1		4		46								
																	2				53								

第32表 SK94 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表

考察とまとめ

SK01	古瀬戸前期				古瀬戸中期				古瀬戸後期				大窯				豊窯								?	総計						
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10						
接合崩壊片数													古	新	崩	後	崩	後	崩	後	崩	後	崩	後	崩	後						
天目系鏡																												8				
平鏡										2		1																4				
丸鏡													1															37				
小鏡																				1								2				
端反鏡																				4								4				
尾呂茶碗																					3								14			
鏡頭茶碗																					1	10							5			
御室系鏡																													11			
その他の鏡																					1	10							11			
折縁深皿													1																1			
中盤													1																1			
反り鏡																				1	3								4			
丸盤																						1							1			
志野皿																			8	8	12	1						38				
その他の盤																			16	2									1			
高麗川鉢																			3										3			
笠原鉢																			5										8			
笠原鉢																			1	4									5			
その他の鉢																			1	2									1			
植鉢																			8		2								29			
植鉢																			14		1								67			
埋硝箱																													1			
盤類																			1	3									5			
舟付																			1	4	1	3							9			
香炉																			2										7			
雄別																				1									2			
四耳壺	1																												2			
粗母焼壺													1																1			
その他の壺																			2										10			
土瓶																													1			
蓋																					1								1			
火入れ																					1								1			
びんだらい																				1									1			
エンブロ																					2									2		
不明																			1										40			
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	14	15	6	1	15	8	1	4	0	0
總計	1	0	0	0	0	2		4						0	0	1	1	1	1	72	40	71		5				1		336		
	1	0	0	0	0	13		0						0	2				137	83	5											
					14										8														313			

第33表 SK01 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表

名古屋城三の丸遺跡 VII

SD01	古瀬戸前期				古瀬戸中期				古瀬戸後期				大窯		菅窯									総計							
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9						
接合面破片数													古	新	前	後	曲	後													
天目																	1	1	4							6					
天目茶碗小丸網																				1							1				
平綱																			4								4				
灰釉大綱																											1				
灰釉綱																			2								6				
長石繩反綱																		3									3				
鉄釉丸綱																			1								1				
鉄釉綱																				1							1				
御室茶碗																				1							1				
綱																			1		10						11				
灰釉反り綱																			2								2				
丸綱																				1							1				
志野丸綱																		4	1							5					
志野？？																			1								1				
黄緋引跡																		3									3				
笠原跡																			1								1				
鉄繪跡																		5									5				
(こね)跡																				1								1			
																	1		2		2	1									
綱跡																	1										19				
																	1														
																	1										10				
綱跡？																		2									2				
綱跡？不明																	1										1				
埋硝薙跡																			1								1				
蓋物身																				4								4			
志野内付																		1									1				
志野縁部内付																		1									1				
縫糸																				2								2			
四耳壺																	1										1				
行耳壺																				2								2			
側深井花生																		1									1				
硝柄																	1										1				
内耳壺																				1								1			
匣																				2								2			
灰釉不明																					13								13		
鉄釉不明																					17								17		
不明																	1										1				
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	8	3	1	0	3	1	0	0	0		
總計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2			24	12	18	1	0	0	124									
	1		0							6			2			42			31												
										9									115												

第 34 表 SD01 出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表

考察とまとめ

SK23	古瀬戸前期				古瀬戸中期				古瀬戸後期				大変				登壇						総計						
	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	~		
接合前破片数													占	新			個	種	病	疊									
天目														1				1									2		
灰釉丸綱																		1	1	1							3		
鉄釉鏡																												1	
丸綱																												1	
鐵鏡																												1	
鏡																												7	
灰釉圓凸																												1	
和型海舟																												3	
輪花組																												1	
黃面円跡																		4		1							5		
綠釉跡																												1	
指跡																		1		1	4						16		
火跡？																												10	
脂垢																												1	
鉄釉錦桝																												1	
錦押																												1	
鉄釉香炉																												1	
びんだらい																												1	
灰釉火入れ																												2	
蓋物の蓋																												1	
円側鏡深蓋																												1	
箬置？ 不明																												1	
エンドロ																												1	
錦深舟不明																		1									1		
鍋物不明																												2	
不明																												51	
総計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	1	16	1	0	113
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	1	12		21						
																			10								36		
																												111	

第35表 SK23出土瀬戸美濃窯産陶器類組成表

名古屋城三の丸遺跡 VII

SD01	I期	II期	III期	IV期	V期～	近代	不明	総計
接合面破片数			6	15	1			
鏡			1				19	42
小鏡		1					4	5
小杯		2					1	3
皿			1			1	1	3
鉢							1	1
私物具							1	1
不明						2		2
総計	0	0	9	16		1	3	27
			26					57

SK94	I期	II期	III期	IV期	V期～	不明	総計
接合面破片数			4	2			
鏡			3			7	16
小鏡			1				1
小杯			1				1
皿			1				1
総計	0	0	4	5		0	7
			12				19

SK01	I期	II期	III期	IV期	V期～	不明	総計
接合面破片数			11	3			
鏡			9			22	45
		2	4				
小杯			2				9
		1					
大皿			5	1			6
中皿			2	1			3
			5				
型打皿						1	1
皿			1			2	3
皿?						1	1
鉢			3			2	5
蓋						1	1
蓋?						2	2
人形?						1	1
不明						3	3
総計		2	26	5		0	35
			47				
			50				85

SK23	I期	II期	III期	IV期	V期	近代	不明	総計
接合面破片数			3	24			15	42
鏡					2			2
端反鏡								1
凹鏡			1					1
箱掛合			1					1
唐口			1					1
中皿			1			2	3	
紅皿			1					1
皿			1			4	5	
蓋				1				1
鉢							1	1
瓶?							3	3
不明						2	2	4
総計	0	0	3	30	3		27	65
		0		36				

第36表 主要遺構出土肥前窯産磁器類組成表

付 表

遺構一覧表

遺構番号	グリッド	1面	2面	3面	面積 (cm)	周囲 (cm)	測定 (cm)	プラン	西面	埋主	備考	時期
SK01	11b, 11c, 12b, 12c	x	○	○	8-500 B-692	A-235 B-487 B-212	137	椭円形 楕円形	画面に記入	東西にSK 0 1 A, 880 IB に分かれる。 両方とも調査区外北に伸びている。	C3	
SK02	11g	x	x	x	249	168	23	椭円形 楕円形	7.5V3/2 椭円, 中幹砂鉄, 削化物, 砂 土, 砂利混入。	SK01番を切っている。	C4?	
SK03	11j	x	○	x	311	125	55	直角形 矩形	SY01/1 扇柱, 2.5V7/2 植生アーチ、 削化物等それに混入。植生わずかに乱 トレンチ。掘立の可能性が高い。	SY01/1 扇柱, 2.5V7/2 植生アーチ、 削化物等それに混入。植生わずかに乱 トレンチ。掘立の可能性が高い。	D3	
SK04	12j	x	○	x	170	162	66	円形 楕円形	10V4/2 中幹砂鉄, シルト層, 墓山ブロッ ク若干個。	10V4/2 中幹砂鉄, シルト層, 墓山ブロッ ク若干個。	C3?	
SK05	12j	x	○	x	230	119	34	直角形 矩形	10V4/2 中幹砂鉄, シルト層, 墓山ブロッ ク若干個。	10V4/2 中幹砂鉄, シルト層, 墓山ブロッ ク若干個。	D	
SK06	13b	x	○	x	97	60	—	直角形 直角形	2.5V3/2 植生アーチ、植生乱立。	2.5V3/2 植生アーチ、植生乱立。	B3	
SK07	13j	x	○	x	73	50	45	直角形 円形	10V3/3 植生, 磨耗砂鉄。	柱穴の可能性高い。SB22 柱穴。	C1	
SK08	13j	x	x	x	150	70	6	不整角形 矩形	10V4/2 植生, 磨耗砂鉄, 植生乱立。	明るいプランと土, 調査区外へ伸びる。 SD05を切っている。	D1	
SK09	11j	x	○	x	328	45	91	円形 直角形	10V3/3 植生, 地面アーチ多く混入。	調査区外へ伸びる。SB22 柱穴。	C1	
SK10	11j, 12j	x	○	x	130	50	51	円形 直角形	2.5V3/2 植生, 地面アーチ多く混入。	調査区外へ伸びる。	C2	
SK11	12j	x	○	x	105	660	77	直角形 楕円形	画面に記入	丸, 追加土層, 調査区外へ伸びる。 SH22 柱穴。	C1	
SK12	12j, 13j	x	○	x	70	33	56	直角形 矩形	10V3/2 植生, 磨耗砂鉄。	丸, 小さな丸, 墓山, 調査区外へ伸びるのびる。 SH22 柱穴。	C1	
SK13	12j	x	○	x	99	60	55	直角形 直角形	10V3/3 植生, 磨耗砂鉄, 墓山ブロッ ク多く混入。	SD07を切っている。SB22 柱穴, SK04 に切られている。	C1	
SK14	12j	x	○	x	91	41	70	直角形 直角形	10V4/2 植生, 小枝砂鉄。	調査区外へ伸びるのびる。SB22 柱穴。	C1	
SK15	13j	x	○	x	80	45	32	椭円形 直角形	10V3/3 植生, 磨耗砂鉄, 墓山ブロッ ク多く混入。	SD05との表面接続は手札, SB22 柱穴, C1	C1	
SK16	10e, 10f, 11e, 11f	○	○	x	89	75	14	不整形 矩形	10V4/1 中幹砂鉄, 植生乱立。	調査区外へ北にのびる。	D2	
SK17	11f	○	x	x	180	14	55	椭丸形 直角形	10V5/2 シルト, 磨耗砂鉄。	SD17を切っている。SB22 柱穴, SK04 に切られている。	D	
SK18	11e	○	○	x	62	52	22	直角形 直角形	10V5/2 中幹砂鉄, シルト層。	SD03に石を撒き割った後の遺構	C4	
SK19	12j	x	○	x	—	—	—	直角形	—	SD25に切られている。	C2	
SK20	11f	○	○	x	193	78	26	椭円形 直角形	10V4/2 植生砂鉄, シルト, 墓山アーチ 多く混入。	SK16, 17, 30に切られる。白色土系 G1。	C3	
SK21	11e	x	x	x	28	28	—	直角形 直角形	10V5/1 植生砂鉄。	?	?	
SK22	11f	x	x	x	—	—	—	直角形	—	SK20 束穴	D	
SK23	10e, 11a, 12b	○	○	○	1800	118	43	直角形 直角形	画面に記入。	SD03に石を撒き割った後の遺構	C4	
SK24	11e	○	x	x	(206)	100	20	直角形 直角形	10V3/2 中幹砂鉄, 植生, 削化物少量混 入。	SD25に切られている。	D2	
SK25	10e, 11e	○	x	x	162	122	20	直角形 直角形	—	ガラス, コンクリート含む。	D3	
SK26	10d, 10g, 11f, 11g	○	○	x	130	90	30	直角形 直角形	10V4/3 中幹砂鉄, 植生乱立, 墓山砂 鉄, 削化物少量混入。	SD04に切られる。	C3	
SK27	11f	○	○	x	80	43	16	直角形 直角形	10V4/2 シルト, 磨耗砂鉄。	SK17に切られている。SA03 柱穴。	C	
SK28	11f	○	○	x	224	43	25	椭丸形 直角形	画面に記入。2.5V3/1 磨耗砂鉄, 2.5V2/3 植 生。	SO24 が部分的についたもの。調査区 外へ北に伸びる。丸, 破片, 墓山。	B3	
SK29	11f	x	x	x	72	66	6	椭丸形 直角形	10V4/2 植生, 磨耗砂鉄, 植生わずか に混入。	SA03/?。	B?	
SK30	11f	○	x	x	23	13	—	椭円形 直角形	—	柱根を遺構としている。南北では斜傾 になっていた。後にSK22の柱根として偏 倒した。	B3	
SK31	11e	○	x	x	30	(21)	2	直角形 直角形	—	北をSK43に連絡する。	?	
SK32	11e	x	x	x	25	25	2	直角形 直角形	10V5/2 植生砂鉄。	SK33を切っている。	?	
SK33	11e	x	x	x	30	28	1	直角形 直角形	10V5/1 植生砂鉄。	SK33に切られている。	?	
SK34	11e	○	x	x	26	23	1	直角形 直角形	10V5/1 植生砂鉄。	—	?	
SK35	13d	○	○	○	80	76	4	直角形 直角形	2.5V3/1 シルト, 削化物わずかに混 入。	SK41を切る。SB21 柱穴。	C3	
SK36	13d	x	x	x	143	90	6	椭円形 直角形	2.5V3/1 シルト, 磨耗砂鉄。	鼠足野・瓦, SK38を切っている。	C3, 4	
SK37	13d	○	○	x	112	109	186	直角形 直角形	画面に記入。画面に記入。	円筒石に配器, 理想道場。	C3	
SK38	13d, 13e	○	○	x	650	285	20	直角形 直角形	上層: 1/2 植生砂鉄, 削化物を含む。 堆積土層。	堆積土層。	C3	
SK39	13c	x	x	x	87	80	13	手円形 直角形	通山形	柱根有り。	C3	
SK40	13c, 13d	○	○	x	285	263	29	直角形 直角形	10V5/1 シルト, 植生乱立。	SK40の時点では取り残りで残った部分 が最初の所でSK40Aと書き残され削除さ れていた。	C1	
SK41	13d	x	○	x	80	70	20	椭丸形 直角形	右側: 2.5V3/1 シルト, 中幹砂鉄, 墓山 ブロッカミ。左側: 10V3/2 手円形。	SK35に切られる。SA03 柱穴。	B4?	
SK42	13d	x	x	x	100	41	10	椭丸形 直角形	2.5V3/2 磨耗砂鉄, 植生乱立。	—	?	
SK43	11e	○	x	x	242	142	20	椭丸形 直角形	10V3/2 植生砂鉄, 植生乱立, 削化物若干量。	SK24, SK16に切られている。	C1	
SK44	10e, 11f	○	○	x	125	42	30	椭丸形 直角形	10V4/2 植生砂鉄, 植生乱立。	SK28の下から出る。SA03 柱穴。	R3	
SK45	13e	x	x	x	62	58	4	直角形 直角形	7.5V3/4 シルト, 磨耗砂鉄。	柱根のあります。瓦, SK38に切っている。	C4?	
SK46	12e	x	x	x	61	58	32	直角形 直角形	7.5V3/4	SK28を切っている。遺構の集まり。	C4?	
SK47	11g, 11h, 12b	○	○	x	61(30)	379	32	直角形 直角形	画面に記入。	SK01を切る遺構。	C1	
SK48	11f	○	○	x	91	61	23	椭丸形 直角形	7.5V3/1 磨耗砂鉄, 植生乱立。	SA03 柱穴。	C1	
SK49	13e, 13b	x	x	x	127	125	185	直角形 直角形	画面に記入。	遺構り井戸。	C2	
SK50	13f	x	x	x	296	171	18	直角形 直角形	10V3/2 シルト, 植生乱立。	SK38に切られている。	C2	
SK51	13d	x	○	x	181	(22)	15	—	画面に記入。	SK40を切っている。	C2?	

名古屋城三の丸遺跡 VII

遺構番号	アリット	1面	2面	3面	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	プラン	断面形	埋土	備考	時期
SK52 13e		x	x	x	—	—	—	—	—	現土, SYCR1 錆鉄砂, 粘土層, 砂土マロッカ? 2.SY7/4 扇土。	SD22を部分的に掘ったもの。	?
SK53 8d		○	x	x	65	50	9	扇門形	圓形	10Y9/12 中砂質, 粘土層。	C	
SK54 8d		○	x	x	104	100	11	円形	圓形	7.SYR4/2 錆鉄砂, 粘土層	SK58を切っている。	C
SK55 8d		○	○	x	80	71	45	円形	圓形	上層: 10Y9/2 錆鉄砂, 下層: N3/1 扇土。	樹石有り, SB25柱穴。	D2
SK56 8d, 8e		○	○	x	113	96	56	扇門形	圓形	10Y9/2/1 中砂質, 粘土層。	樹石有り。	D2
SK57 8d		○	○	x	96	90	39	扇門形内側	圓形	2.SY4/2 錆鉄砂, 滝山マロッカ層。	SB24柱穴。	C3
SK58 11b, 11c		○	x	x	134	66	—	—	—	—	—	?
SK59 8d		○	○	x	121	101	70	方形	圓形	2.SYR4/2 錆鉄砂, 滝山マロッカ層。	SAG9柱穴。	C1
SK60 10c, 10d		○	x	x	214	220	19	直方形	圓形	10Y9/5 錆鉄砂, 粘土層, 砂分层, 壤土少部分。	瓦砾有り	C1
SK61 8d		x	x	x	25	24	5	円形	圓形	2.SY7/2 扇土。	樹石有り。	A5
SK62 8d		x	x	x	38	37	10	円形	圓形	10Y9/4/1 錆鉄砂, 粘土層。	C1	
SK63 11g, 11h		x	○	x	281	(117)	215	扇門形	圓面に記入	圓面に記入。	調査区外へ北へ移がる。	C3, 4
SK64 9d, 10d		○	x	x	147	130	21	扇形	圓形	9.SYR4/1 錆鉄砂, 粘土層。	C1	
SK65 10c		○	x	x	56	55	22	円形	圓形	10Y9/4/3 中砂質。	SK60に接続している。樹石有り。	C2?
SK66 8d		○	○	x	72	63	31	円形	圓形	2.SYR4/2 錆鉄砂。	SN01を切っている。	02
SK67 11g		○	○	x	241	225	64	扇形	圓面に記入	圓面に記入。	調査区外へ北へ移がる。	C3
SK68 8d		○	○	x	66	58	45	扇門形	圓形	圓面に記入。	SN01を切っている。	02
SK69 8d		○	○	x	76	67	40	扇門形	圓面に記入	圓面に記入。	SN01を切っている。	02
SK70 8d, 9d, 9e, 9e		x	x	x	—	—	—	—	—	—	—	00
SK71 8d		○	○	x	59	60	41	円形	圓形	圓面に記入。	SAG9柱穴。	B3
SK72 8d		○	○	x	50	140	24	扇門形	圓形	SYR4/1 シート。	SK73の補助土札。	C1
SK73 8d		○	○	x	125	113	7	直方形	圓形	10Y9/4/1 錆鉄砂, シート層。	SAG9柱穴。	C1
SK74 8d, 9e		○	x	x	107	74	7	扇形	圓形	10Y9/4/2 シート。	—	C1
SK75 8e		○	○	x	124	114	23	扇門形	圓形	10Y9/4/1 扇土, 樹脂砂, 滝山マロッカ層。	SAG9柱穴。	C1
SK76 8d		○	x	x	97	75	7	扇門形	圓形	10Y9/4/1 シート。	—	B3
SK77 11f		○	○	x	75	74	16	円形	圓形	10Y9/4/2 錆鉄砂, 粘土層, 土面上石子層。	SD11を切る, SB21柱穴。	C3
SK78 11f, 11g, 12g		○	○	x	150	182	9	扇門形	圓形	10Y9/4/2 錆鉄砂, 粘土層。	SK85を切る。	B1
SK79 12f, 12g		○	○	x	168	160	25	円形	圓形	10Y9/4/2 錆鉄砂, 粘土層。	—	B3
SK80 12g		x	x	x	90	80	15	直形	V字形	10Y9/5 錆鉄砂, 粘土層。	—	B2
SK81 12g		x	x	x	102	101	9	円形	圓形	7.SYR4/1 錆鉄砂, 粘土層, 滝山マロッカ層。	—	B1
SK82 12g, 12h		x	x	x	107	89	20	扇門形	圓形	2.SYR4/1 錆鉄砂, 粘土層, 砂化物少量。	—	C3
SK83 12h		x	x	x	20	20	12	円形	圓形	10Y9/2 錆鉄砂。	—	?
SK84 12h		x	x	x	30	27	12	扇門形	圓形	10Y9/2/1 錆鉄砂, 粘土層。	—	?
SK85 11g, 12g		○	○	x	150	140	14	扇門形	圓形	10Y9/2/1 扇土, 樹脂砂, 滝山マロッカ層, 砂化物少量。	SK67に接続する, SK78を切る。	B1
SK86 10e		x	x	x	56	42	4	方形	圓形	2.SYR4/1 錆鉄砂, 粘土層, 砂化物少量。	SK94を切る。	C4
SK87 10e		x	x	x	68	29	7	扇形	圓形	—	SK94を切る。	C4
SK88 10d, 10e		○	x	x	184	144	28	圓丸形	圓形	2.SYR4/1 錆鉄砂, 粘土層, 砂化物少量。	—	C3
SK89 11d		x	x	x	71	56	5	圓丸形	圓形	10Y9/2/2 錆鉄砂。	—	?
SK90 11d, 11e		○	x	x	45	43	13	円形	圓形	10Y9/2/2 錆鉄砂, 粘土層。	—	C1
SK91 11e		○	x	x	90	25	13	扇門形	圓形	10Y9/2/2 錆鉄砂, 粘土層。	—	C1
SK92 11e		○	x	x	39	36	12	円形	圓形	2.SYR4/1 小砂質, 粘土層。	SD11を切っている。	C3, 4
SK93 12e		○	x	x	54	51	17	円形	圓形	2.SYR4/1 樹脂砂, 粘土層。	樹脂砂層。	C3
SK94 9d, 9e, 10d, 10e		○	○	x	287	279	165	正方形	圓形	10Y9/4/2 錆鉄砂, 粘土層。	—	C3
SK95 11e		○	x	x	66	63	47	円形	圓形	2.SYR4/2 錆鉄砂, 粘土層。	近代遺物出土, SAG9柱穴。	C4
SK96 11h, 11e		○	x	x	146	78	70	直形	圓形	SYR4/2/1 錆鉄砂, 砂化物少量。	—	D2
SK97 11b		○	x	x	68	60	21	扇門形	圓形	10Y9/4/1 錆鉄砂, 粘土層。	SK123を切る。	C1, 2
SK98 11b		x	x	x	70	65	23	円形	圓形	10Y9/0/2 扇土。	—	?
SK99 11b, 11c, 12c		○	x	x	206	149	15	扇門形	圓形	10Y9/1/2 錆鉄砂, 粘土層, 滝山マロッカ層, 亂泥質地。	SK78を切る。	C3
SK100 9c, 9d		○	○	x	190	94	25	直方形	圓形	上層: 2.SYR4/2 錆鉄砂, 下層: NA/ 粘土層。	SN02を切っている, 地下室。	C4
SK101 11d, 11e		○	x	x	95	62	31	扇門形	圓形	2.SYR4/2 錆鉄砂, 粘土層。	—	D2
SK102 11c		○	x	x	70	68	56	円形	圓形	10Y9/2/1 錆鉄砂, シート層。	集石遺構。	C3
SK103 11b		x	x	x	72	65	17	扇門形	圓形	10Y9/0/4	—	?
SK104 11b		○	x	x	65	60	25	扇門形	圓形	2.SYR4/2 錆鉄砂, 粘土層。	前面をSK96に切られる, SAG9柱穴。	C4
SK105 11c, 11d		○	x	x	147	98	16	扇形	圓形	GYR4/1 錆鉄砂, シート層, 粘土層。	—	C1
SK106 12c		○	x	x	114	70	33	直方形	圓形	10Y9/2/1 錆鉄砂, 粘土層, 砂化物少量。	—	C3
SK107 10d		○	○	x	94	84	30	直方形	圓面に記入	圓面に記入。	漆喰で覆われている。	D2
SK108 11d		○	x	x	40	33	2	扇門形	圓形	2.SYR4/1 錆鉄砂, 粘土層。	—	?
SK109 11d, 12d		○	x	x	30	25	2	扇門形	圓形	2.SYR4/1 錆鉄砂, 粘土層。	—	?
SK110 11d		○	x	x	65	53	3	圓丸形	圓形	10Y9/4/2 錆鉄砂, 砂化物少量。	樹木立らずに空洞, シリト層。	?
SK111 10e		x	x	x	69	53	18	直方形	圓形	2.SYR4/2 錆鉄砂, 粘土層, 砂化物少量。	—	B3
SK112 11c		○	x	x	32	31	3	円形	圓形	10Y9/5/2 錆鉄砂, シート層, 砂化物少量。	—	C1
SK113 11c		○	x	x	56	45	25	扇門形	圓形	10Y9/4/1 錆鉄砂, 粘土層。	漆喰を切っている。	C2
SK114 10c		○	○	x	190	190	80	円形	圓形	2.SYR4/1 錆鉄砂, 粘土層, 砂化物少量。	漆喰状門道構, 井戸。	D2
SK115 9c, 10c		○	x	x	38	34	8	直方形	圓形	10Y9/4/2 錆鉄砂。	本井が新規な。本井が新規な。	D
SK116 11d		x	x	x	62	53	16	扇門形	圓形	7.SYR4/1 扇土, 樹脂砂含む。	SK117を切っている。	C3
SK117 11d		○	x	x	140	130	9	圓丸形	圓形	10Y9/2/2 シート。	SK116に接続する。	C3
SK118 11c		○	x	x	34	33	9	円形	圓形	10Y9/4/2 錆鉄砂, シート層。	—	?
SK119 11c		○	x	x	51	49	3	円形	圓形	10Y9/4/2 シート。	SAG9柱穴。	C4
SK120 11b		○	x	x	33	32	28	円形	圓形	10Y9/5/2 錆鉄砂, シート層。	砂岩の内包含む。	?
SK121 11a		○	x	x	98	89	28	扇門形	圓形	SY5/1 錆鉄砂, 砂化物少量。	SAG9柱穴。	C1

遺構一覧表

遺構番号	グリッド	1面	2面	3面	封緘(cm)	厚輪(cm)	深さ(cm)	プラン	断面	埋土	参考	時期
SK122 11a		○	×	×	59	40	9	圓形	断面	2.5Y4/1 線状砂、粘土層。漆喰わずかに	SA09 柱穴。	C1
SK123 11a		○	×	×	82	77	9	圓形	断面	2.5Y6/3 私井。		B4
SK124 8d, 9d		○	○	×	61	(55)	53	圓形	断面	2.5Y7/1 シルト。鉢合若干含む。	SK59 に切られる。SK59 延続。	B3
SK125 11a, 12a		○	○	×	94	72	24	圓形	断面	2.5Y6/2 線状砂、地山にロック合不合む。	SK23 に切られる。SA06 H.田。	C1
SK126 8e		○	×	×	(59)	50	12	圓形	断面	10Y4/2 線状砂、粘土層。	北側調査区外に伸びる。	B2
SK127 10d, 11d		○	×	×	170	130	16	不整形	断面	2.5Y5/1 線状砂、粘土層。炭化物少量混入。		C2
SK128 10e		○	×	×	172	(53)	11	不整形	断面	2.5Y4/2 粘土、線状砂混入。	東トレンチに切られる。	C1, 2
SK129 11d		○	×	×	293	280	17	不整形	断面	2.5Y5/1 線状砂、シルト混入。		C1, 2
SK130 10d		○	×	×	24	22	5	圓形	断面	10Y4/2 線状砂、シルト混入。		?
SK131 11d		○	×	×	60	52	12	圓形	断面	2.5Y5/2 線状砂。	SK129 を切っている。SA09 柱穴。	C4
SK132 11b		○	×	×	114	(34)	15	圓形	断面	1層: 5Y6/2 粘土層。下層: 2.5Y6/1 線状砂、粘土層。	SD13, SD12 に見られている。	C3
SK133 11c		○	×	×	110	80	4	不整形	断面	2.5Y5/2 線状砂。	SD14 に切られている。	C
SK134 11c		○	×	×	161	109	13	圓形	断面	1層: 5Y6/2 粘土層。下層: 10Y4/5/1 線状砂、粘土層。炭化物少量混入。		C3
SK135 11c, 11d		○	×	×	107	104	9	圓形	断面	A 層: 7.5Y6/4 粘土。右斜: 5Y6/1 線状砂、粘土層。炭化物少量混入。		C3
SK136 11d		○	×	×	93	53	7	圓形	断面	2.5Y4/2 粘土。線状砂混入。		C3
SK137 11c		○	×	×	32	25	5	圓形	断面	2.5Y 4/1 粘土、線状砂混入。	SK127 に切られている。	C
SK138 10e		○	×	×	48	37	11	圓形	断面	2.5Y 4/1 粘土、線状砂混入。炭化物多く含む。	SK128 に切られている。	C1
SK139 8e, 9e		○	×	×	113	73	41	圓形	断面	10Y4/4/1 線状砂、粘土層。	SB24 柱穴。	C3
SK140 10e		○	○	×	52	48	13	圓形	断面	2.5Y4/1 線状砂、シルト混入。	SK141, SK140, SK65 と同様の可能性。	C2
SK141 10e		○	×	×	49	47	14	圓形	断面	2.5Y4/1 線状砂、シルト混入。	鉢合有り。	C2
SK142 10a		○	○	×	111	99	66	圓形	断面	2.5Y4/2 粘土。線状砂混入。地山にロック合有り。	鉢合有り。	D1
SK143 10a		○	×	×	105	98	4	方形	断面	4.5H/2 粘土层。	西側が SKZ3 によって明らか。SA06 柱穴。	C1
SK144 10		○	○	×	88	80	—	—	断面	国面上に記入。10Y4/1 粘土層。	SK145 の隣内。	C1
SK145 10e, 10d, 11c, 11j		○	○	×	(187)	(93)	214	圓形	断面	国面上に記入。10Y4/1 粘土層。	SK61 に切られる。埋植。	C1
SK146 10, 11j		○	○	○	343	268	470	圓形	断面	国面上に記入。	青瓦。	B3
SK147 11i, 11j, 12b, 12c		○	○	○	391	371	(424)	圓形	断面	国面上に記入。10Y4/2 粘土層。	青瓦。	B3
SK148 12b		○	×	×	81	62	4	圓形	断面	2.5Y5/2 線状砂、シルト層。黄色土粘土。		C3
SK149 12c		○	○	○	(36)	(25)	20	圓形	断面	既定範囲内の未記入。		?
SK150 12		○	○	○	(32)	(29)	16	圓形	断面	既定範囲内の未記入。	SB15 柱穴。	B1
SK151 13		○	○	○	22	19	19	圓形	断面	2.5Y5/1 線状砂、粘土層。	SB15 柱穴。	B1
SK152 13		○	○	○	28	25	5	圓形	断面	2.5Y4/1 線状砂、粘土層。黄土千層。	SB15 柱穴。	B1
SK153 13		○	○	○	69	(49)	9	不整形	断面	10Y4/2 粘土層。		?
SK154 12c, 13		○	○	○	119	60	33	不整形	断面	5Y6/1 線状砂、粘土層。		?
SK155 12b, 12c, 13b		○	○	○	323	311	58	圓形	断面	10Y4/3 線状砂、粘土層。		B3
SK156 10d, 11d		○	○	○	315	290	12	正方形	断面	国面上に記入。		C2
SK157 11e		○	○	○	133	105	7	圓形	断面	10Y4/2/1 シルト。施設状砂混入。		B3, 4
SK158 11e		○	○	○	150	63	4	圓形	断面	10Y4/2 線状砂、シルト層。	SK166 を切る。	C1
SK159 11f		○	○	○	153	49	8	圓形	断面	10Y5/2 中砂層、粘土層。		C4
SK160 12f		○	○	○	46	33	9	圓形	断面	10Y4/2 中砂層、粘土層。炭化物少量混入。		A4, 5
SK161 11e		○	○	○	58	57	16	圓形	断面	5Y6/1 線状砂、粘土層。		C1
SK162 12b, 12c, 13c		○	○	○	124	124	67	圓形	断面	国面上に記入。	SK163 の影響による。SD01 の落ち込み。	C1, 2
SK163 12b, 12c, 13c		○	○	○	294	292	(41)	不規則形	断面	国面上に記入。	青瓦。	C1, 2
SK164 12g		○	×	×	84	50	16	圓丸形	断面	2.5Y4/1 線状砂、粘土層。		B4
SK165 13g		○	○	○	63	59	19	圓形	断面	2.5Y4/2 不規則形、粘土層、鉄分層。		C
SK166 11e		○	○	○	229	177	3	圓形	断面	2.5Y4/1 線状砂。		C1, 2
SK167 13g		○	○	○	30	29	5	圓形	断面	10Y3/2 線状砂、粘土層。		A5
SK168 13g		○	○	○	31	31	9	圓形	断面	7.5Y5/2 粘土層、中砂層。		?
SK169 13g		○	○	○	31	25	13	圓形	断面	10Y4/2/1 中砂層、シルト層、白色粘土層。		B1
SK170 12e		○	○	○	—	—	—	—	—	—	矢番	—
SK171 11e		○	○	○	39	37	13	圓形	断面	2.5Y4/2 シルト。圓形砂混入。		C1
SK172 11e		○	○	○	86	23	11	圓形	断面	2.5Y4/4 施設状砂、黒色土ブロック混入。		?
SK173 11e		○	○	○	31	27	9	圓形	断面	10Y4/2/1 線状砂、粘土層。		A
SK174 8d		○	○	○	38	38	7	圓形	断面	10Y4/3 施設状砂、シルト層、白色土層。	SB24 柱穴。	C3
SK175 9d		○	○	○	63	53	9	不整形	断面	10Y4/4/1 線状砂、シルト層。		B
SK176 9d		○	○	○	46	42	5	圓丸形	断面	2.5Y4/1 線状砂、シルト層。		?
SK177 9d		○	○	○	36	35	12	圓形	断面	2.5Y4/1 線状砂、粘土層、白色土粘土層。		B3
SK178 9d		○	○	○	28	35	10	圓形	断面	10Y4/2 線状砂、粘土層。		?
SK179 9d		○	○	○	58	23	42	圓形	断面	10Y5/5/2 線状砂、シルト層、粘土層。		C3
SK180 9d		○	○	○	46	39	9	圓形	断面	10Y3/2 線状砂、粘土層、黄土わずかに混入。		A5
SK181 10d		○	○	○	109	29	2	圓形	断面	10Y3/2 線状砂、粘土層、炭化物わずかに混入。		B1
SK182 10d		○	○	○	96	32	25	圓形	断面	10Y4/2/1 線状砂、粘土層、白色土粘土層。		A
SK183 10d		○	○	○	32	30	13	圓形	断面	10Y3/2 線状砂、粘土層。		A
SK184 10d		○	○	○	46	43	4	圓形	断面	10Y4/2 線状砂、粘土層。		C
SK185 12c, 13f		○	○	○	489	235	183	圓丸方型	断面	国面上に記入。	地下空状遺構。	C1
SK186 11c		○	○	○	123	78	8	圓丸方型	断面	2.5Y3/2 線状砂、粘土層や多孔質。		B2

名古屋城三の丸遺跡 VII

遺跡番号	アリット P	1面	2面	3面	片持(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	プラン	断面形	地主	備考	時期
SK187 11c	x	○	x	—	95	65	3	楕円形	圓形	10Y3/4 亂刷紋、粘土少し混。	A	
SK188 11c	x	○	x	—	68	45	40	楕円形	圓形	7,5YR2/2 網目砂、粘土や少く混。	A5	
SK189 11d	x	○	x	—	90	86	11	不整形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、粘土多く混。	C	
SK190 10d	x	x	x	—	—	—	—	—	—	無清く芯跡のみ。遺構とせず。矢轟	—	
SK191 12f	x	○	x	—	82	41	10	楕円形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、粘土少し混。	SB20 桁元。	B3
SK192 12f	x	○	x	—	85	41	22	楕円形	圓形	圓形に記入。	SA601 桁元。	B3
SK193 12f	x	○	x	—	70	58	73	円形	V字形	圓形に記入。	SB20 桁元。	B3
SK194 13f	x	x	x	—	70	39	19	楕円形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、粘土、シート混、粘土、漆吸少し混。	B1	
SK195 10d	x	○	x	—	170	42	11	楕円形	圓形	7,5YR2/2 網目砂、粘土、漆吸少し混。	矢轟	—
SK196 10d	x	○	x	—	70	65	14	円形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、粘土少し混。	SA604 桁元。	B3
SK197 —	x	x	x	—	—	—	—	—	—	矢轟	—	
SK198 13f, 13g	x	○	x	—	98	56	7	楕丸形	圓形	圓窓のため未記入	布履りか?	B4
SK199 12g, 13f, 13g	x	○	x	—	73	59	4	楕円形	圓形	圓窓のため未記入	B1	
SK200 13f	x	○	x	—	70	41	7	楕円形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、粘土少し混。	A5	
SK201 13f	x	○	x	—	62	43	54	楕円形	圓形	10Y3/2/2 網目砂、粘土少し混、中粘砂少し混。	A4, 5	
SK202 13d, 13e	x	○	x	—	106	103	(289)	円形	圓窓に記入	圓窓に記入	C1, 2	
SK203 12d, 12h	x	○	x	—	227	196	(264)	楕円形	圓窓に記入	圓窓に記入	舟形。	B3
SK204 12d	x	○	x	—	67	25	50	円形	圓形	2,5YR2/2 中粘砂、シート混、粘土層、黃色土。	SB21 桁元。	C3
SK205 12d	x	○	x	—	52	49	2	楕円形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、粘土や少く混。	A	
SK206 12d	x	○	x	—	58	34	16	楕円形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、粘土少し混。	C1, 2	
SK207 12e	x	○	x	—	52	56	8	円形	圓形	2,5Y3/2/2 網目砂、粘土や少く混。	—	
SK208 12d	x	○	x	—	22	21	1	不整形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、粘土少し混。	—	
SK209 12d	x	○	x	—	34	32	5	不整形	圓形	10Y3/2 亂刷紋。	—	
SK210 13f	x	○	x	—	89	49	90	楕円形	V字形	圓窓に記入	SB20 桁元。	B3
SK211 13f	x	○	x	—	103	58	25	円形	圓形	圓窓に記入	SB20 桁元。	B3
SK212 9d, 10d	x	○	x	—	130	103	20	半椭円形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、粘土層、黃色土和、粘土上少し混。	SB20 桁元。	B3
SK213 10d	x	○	x	—	58	55	15	円形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、粘土多く混、粘土少し混。	B3	
SK214 10d	x	○	x	—	48	45	7	円形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、粘土少し混。	SA604 桁元。	B3
SK215 10d, 10e	x	○	x	—	155	105	35	不整形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、粘土、黃色土和。	B3	
SK216 12g, 12h	x	○	x	—	262	10	6	楕円形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、粘土、粘土層、黃色土和。	遺跡でいる。	C1
SK217 11e, 11f	x	○	x	—	25	22	11	円形	圓形	圓窓のため未記入	B2	
SK218 10d	x	○	x	—	145	45	23	楕円形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、粘土、粘土上少し混。	—	
SK219 10d	x	○	x	—	210	23	10	不整形	圓形	10Y3/2 亂刷紋。	B4	
SK220 12d	x	○	x	—	120	67	19	円形	圓形	2,5Y3/2 亂刷紋、粘土少し混。	—	
SK221 12d, 13e, 13d, 13e	x	○	x	—	110	(93)	50	円形	圓形	10Y3/4 亂刷紋、シート混。	B4	
SK222 13d, 13e	x	○	x	—	286	112	110	楕円形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、粘土混。	SK202に記されている。SK17 (SK025) が二字型に延長した部分をSK222としていた。	B3
SK223 13a	x	○	x	—	220	165	30	方形	圓形	2,5Y3/2 中粘砂、粘土、圓柱砂混。	C1	
SK224 13a	x	○	x	—	290	290	23	方形	圓形	10Y3/2/2 中粘砂、粘土少し混。炭化物、粘土、黃色土和少し混。	C2	
SK225 13d	x	○	x	—	108	47	14	方形	圓形	10Y3/2 亂刷紋。	SD01のものと同材料質。SD01の落込跡部分か?	C3
SK226 13b, 13c	x	○	x	—	382	355	43	円形	圓形	2,5Y3/1 亂刷紋、粘土混。	SD12, SK103, SK103に記される。月印。下部はSK310。	B1
SK227 10e	x	○	x	—	95	72	10	楕円形	圓形	圓窓のため未記入	西をSK213と切り合ひ。	B2
SK228 12e, 13e	x	○	x	—	88	85	27	円形	圓形	7,5Y3/4 亂刷紋、粘土混。中粘砂、炭化物少し混。	木棧に石の大量に入る。SK01とは石材が異なる。河原などなどが在。下段をSK320とした。	B3
SK229 13f	x	○	x	—	146	144	40	楕円形	圓形	圓窓のため未記入。	SD17及びSK207と切り合ひ。SA603の記述。	B3
SK230 12a	x	○	x	—	95	70	21	円形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、白色シートプロック、炭化物少しあ。	SD03に切られている。	—
SK231 12f	x	○	x	—	46	39	10	楕円形	圓形	10Y3/2/1 粘土上、シート混、粘土少し混。	B3	
SK232 13f	x	○	x	—	88	54	41	楕円形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、粘土、シート混、黄土若干。	SA603 桁元。	B3
SK233 13e	x	○	x	—	48	46	22	円形	圓形	圓窓のため未記入。	—	
SK234 13f	x	○	x	—	89	49	54	楕円形	V字形	圓形に記入。	SA603 桁元。	B3
SK235 11e, 12e	x	○	x	—	303	263	41	円形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、粘土、シート混、白色シートプロック混。	西に落暢跡のかたまり有り。	B3
SK236 12d	x	○	x	—	40	50	11	円形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、粘土少し混。白色シートプロック混。	B	
SK237 12f	x	○	x	—	71	49	48	楕円形	圓形	圓形に記入。	SA603 桁元。	B3
SK238 11f	x	○	x	—	68	38	48	楕円形	圓形	圓形に記入。	SA603 桁元。	B3
SK239 12f	x	○	x	—	70	26	38	楕円形	圓形	圓形に記入。	SA603 桁元。	B3
SK240 11d, 11e, 13d, 13e	x	○	x	—	307	203	32	楕丸形	圓形	7,5Y3/1 亂刷紋、白色土和多く混。	B3	
SK241 13b	x	○	x	—	50	49	58	円形	圓形	SY4/1 粘土、繊維砂、白色シートプロック混。	C2	
SK242 13b	x	○	x	—	62	52	62	楕円形	圓形	SY4/1 粘土、繊維砂、白色シートプロック混。	C2	
SK243 13b	x	○	x	—	58	55	78	円形	圓形	SY4/1 粘土、繊維砂、白色シートプロック混。	C2	
SK244 13b	x	○	x	—	48	46	31	円形	圓形	SY4/1 粘土、繊維砂、細化粧多。	SA607 桁元。	C2
SK245 11b, 11c	x	○	x	—	80	50	14	円形	圓形	10Y3/2 中粘砂、粘土混。	A	
SK246 11b, 11c	x	○	x	—	59	34	9	円形	圓形	10Y3/3 粘土、粘土混。	B	
SK247 10b, 10c	x	○	x	—	58	30	5	不整形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、黄色土和、粘土少し混。	C1	
SK248 11c	x	x	x	—	54	45	4	円形	圓形	10Y3/2 亂刷紋、粘土、粘土少し混。	A5	

造構一覧表

造構番号	グリッド	1面	2面	3面	封緘(cm)	軸輪(cm)	深さ(cm)	プラン	地盤面	埋土	参考	時期	
SK249	10c	x	○	x	269	97	8	多面形	地盤	10YR4/3 緩衝砂、粘土、地土少し混、黄色シルトプロック混。	D		
SK250	11c, 11d	x	○	x	115	67	20	偏円形	地盤	10YR5/3 緩衝砂、粘土、黄色土粘土。	B1		
SK251	11c, 11d	x	○	x	50	250	14	偏円形	地盤	10YR5/3 緩衝砂。	B1		
SK252	13f	x	○	x	30	20	3	偏円形	—	未完のため未記入	SD24 - SD27 が変化する場所に存在。	B1	
SK253	12b	x	○	x	111	80	24	多面形	地盤	7.5YR1/2 緩衝砂、粘土混。	B1		
SK254	12g, 12h 13g, 13h	x	○	x	168	100	20	多面形偏円形	地盤	10YR3/3 緩衝砂、粘土、黄色土粘土。	B1		
SK255	11d	x	○	x	69	25	11	偏円形	地盤	10YR4/3 緩衝砂。	B3		
SK256	11d	x	○	x	162	112	20	多面形丸形方形	地盤	10YR4/2 緩衝砂、シルト少し混。	C8		
SK257	13f	x	○	x	73	29	10	偏円形	地盤	10YR2/2 シルト、粘土、緩衝砂、黄色土粘土。	B3		
SK258	10c	x	○	x	162	100	12	多面形	地盤	10YR5/2 緩衝砂、粘土混。	SN02 に切られる。	A5	
SK259	13d	x	○	x	55	38	13	多面形丸形	地盤	10YR5/2 緩衝砂、粘土混。白色シルトプロック混。	SH21 に穴。	C8	
SK260	11b	x	○	x	115	100	19	偏円形	地盤	10YR5/2 シルト、粘土混。	C4		
SK261	11b	x	○	x	28	21	6	偏円形	地盤	10YR5/3 中砂粘土、緩衝砂混。	SD31 が切っている。	C	
SK262	10c, 11e	x	○	x	260	179	22	多面形	地盤	砂利に人。	SDH4 上の瓦礫をSK262 した。	C4	
SK263	12b	x	○	x	67	42	14	偏円形	地盤	10YR4/2 シルト、粘土混。	B2		
SK264	12b	x	○	x	75	53	18	偏円形	地盤	10YR4/2 緩衝砂、粘土少し混。黄色シルト混。	A5		
SK265	11a	x	○	x	40	20	4	偏円形	地盤	7.5YR3/2 緩衝砂、黄色土粒、白色シルト混。	—		
SK266	11a	x	○	x	63	48	11	偏円形	地盤	10YR4/2 緩衝砂。	A1		
SK267	10c	x	○	x	87	60	26	多面形	地盤	10YR4/2 緩衝砂、粘土、地土、黄色土粒、混合物なし。	B3		
SK268	11a	x	○	x	49	43	6	偏円形	地盤	10YR2/2 中砂粘土、粘土、緩衝砂混。	—		
SK269	11a	x	○	x	69	38	2	偏円形	地盤	10YR4/2 緩衝砂、シルト混。	B1		
SK270	10c	x	○	x	43	30	11	偏円形	地盤	10YR2/2 緩衝砂、粘土混。	SN02 内のビット。SN02 異常剥離で断面。	C8	
SK271	10c	x	○	x	125	57	14	多面形	地盤	10YR3/1 緩衝砂、粘土混。	CL_2		
SK272	11g, 12g	x	○	x	185	98	8	偏円形	地盤	10YR2/1 緩衝砂、粘土混、地土多く混。	A3		
SK273	12b	x	○	x	178	157	25	多面形偏円形	地盤	10YR2/2 緩衝砂、粘土混。地土、地化物多く混。	SK47 に切られる。	C4_2	
SK274	11g	x	○	x	31	25	6	偏円形	地盤	10YR5/2 緩衝砂、化合物少含む。	—		
SK275	11g	x	○	x	38	36	10	偏円形	地盤	土壤上(10YR3/1 + 10YR6/0)緩衝砂、粘土混。	B3		
SK276	11g	x	○	x	20	20	2	偏円形	地盤	10YR3/2 緩衝砂、粘土混。	B1		
SK277	12f	x	○	x	50	42	6	偏円形	地盤	10YR3/1 粘土シルト。	SB18 に穴。	B4	
SK278	12g	x	○	x	76	62	9	方形	地盤	10YR3/2 粘土シルト。地の底に土、緩衝砂含む。	A		
SK279	12f	x	○	x	44	37	7	偏円形	地盤	10YR2/2 粘土シルト。炭化物、飛土若土含む。	A		
SK280	12f	x	○	x	40	35	3	偏円形	地盤	10YR3/2 粘土シルト、化合物、地土含む。	—		
SK281	12f	x	○	x	34	28	5	偏円形	地盤	10YR3/2 粘土シルト、化合物少含む。	A		
SK282	11f	x	○	x	43	33	4	偏円形	地盤	10YR3/3 粘土シルト。	SB18 付穴、SK51 と同・か?。	B4	
SK283	11f	x	○	x	18	16	12	偏円形	地盤	10YR3/3 粘土シルト、化合物、飛土若土含む。	B		
SK284	11f	x	○	x	18	16	5	偏円形	地盤	10YR2/2 粘土シルト。	—		
SK285	12g	x	○	x	50	50	9	偏円形	地盤	10YR4/2 緩衝砂、粘土。	地に伸びる可能性有り。SA05 付穴。	B4	
SK286	11g	x	○	x	68	67	13	偏円形	地盤	10YR2/2 緩衝砂、粘土。黄色土粒有り。	走は調査外へ、実はSK07 に切られてる。	B3	
SK287	11f	x	○	x	75	52	49	偏円形	地盤	地面上に人。	SA03 付穴。	B3	
SK288	8e	x	○	x	40	35	6	偏円形	地盤	2.5YR1/2 粘土シルト、粘土含む。	—		
SK289	8d	x	○	x	41	20	21	V字形	地盤	NSI5/3 緩衝砂、化合物を若干含む。	SK73 に切られる。	B3	
SK290	8d	x	○	x	(34)	24	28	偏円形	地盤	地面上に人。	調査区外へ北に伸びる。SB19 付穴。	B3	
SK291	8d, 8e	x	○	x	121	40	44	不整方形	地盤	地面上に人。	調査区外へ北に伸びる。	B2	
SK292	12b	x	○	x	24	23	23	偏円形	地盤	10YR4/2 緩衝砂、粘土。若干地土含む。	A		
SK293	9d	x	○	x	31	30	36	偏円形	地盤	10YR2/2 緩衝砂、黄色シルト混。	A		
SK294	9d	x	○	x	28	23	19	偏円形	地盤	2.5YR1/1 粘土シルト、粘土含む。	—		
SK295	9d	x	○	x	28	27	13	偏円形	地盤	2.5YR1/1 緩衝砂、粘土混。	A		
SK296	8d, 8e	x	○	x	130	130	47	多面形丸形方形	地盤	7.5YR3/2 緩衝砂、粘土。若干少量混。	SK291 と切り合っている。	B3	
SK297	9d	x	○	x	120	53	11	多面形	地盤	2.5YR2/2 緩衝砂、粘土混。	SB19 付穴、SK59 と同・か?。	B3	
SK298	8d, 8e	x	○	x	205	95	90	方形容	地盤	10YR2/2 緩衝砂、粘土。緩衝化物、飛土含む。	SB19 付穴。	B3	
SK299	9d	x	○	x	79	40	6	偏円形	地盤	7.5Y2/2 緩衝砂、粘土混。	A5		
SK300	9d	x	○	x	60	45	7	偏円形	地盤	10YR3/2 緩衝砂、粘土。飛土。	B3		
SK301	9d	x	○	x	62	50	11	多面形	地盤	—	矢轟。	—	
SK302	9d	x	○	x	61	57	19	偏円形	地盤	地元製のため未記入。	B1		
SK303	9e, 9e	x	○	x	295	800	37	多面形四角	地盤	地面上に人。	SK229 の残部の可能性あり。SK327 に切られる。	B3	
SK304	9d	x	○	x	118	68	—	多面形	—	地上(NSI1 + SY3/1)緩衝砂、粘土。	地開発の遺構か? SK070 地上は地盤。	C3	
SK305	9d	x	○	x	41	40	7	偏円形	地盤	10YR4/2 中砂粘土、粘土。	—		
SK306	9d	x	○	x	36	34	3	偏円形	地盤	2.5YR1/1 緩衝砂、粘土混。	A		
SK307	9d	x	○	x	26	25	9	偏円形	地盤	2.5YR1/2 緩衝砂、粘土混。	B3		
SK308	9d, 9d	x	○	x	273	40	40	偏円形	地盤	地面上に人。	A3		
SK309	9d	x	○	x	46	40	22	多面形	U字形	10YR6/2シルト、緩衝砂まじ。白色シルトプロック混。	C3		
SK310	13b, 13c, 13d	x	○	x	298	250	278	多面形	地盤	NSI1/1 地面上に人。	SK226 が上解である。飛土。	B1	
SK311	9d	x	○	x	60	31	5	多面形	地盤	10YR4/1 緩衝砂、粘土混。	—		
SK312	9d	x	○	x	29	27	9	偏円形	地盤	10YR4/1 緩衝砂、粘土混。2cm 厚の壁わずかに見。	SD36 を切っている。	B3	

名古屋城三の丸遺跡 VII

遺構番号	アリット	1面	2面	3面	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	プラン	断面形	地主	備考	時期
SK213	10e	x	x	○	28	28	9	円形	圓形	10Y3/2/1 磨耗跡、底上わずかに屈、黄色土と混。		A
SK214	10e	x	x	○	52	40	7	楕円形	圓形	10Y2/2/2 磨耗跡、粘土、燒土混。		A
SK215	10e	x	x	○	42	37	30	楕円形	圓形	10Y3/2/1 磨耗跡、粘土、黄色土と混。底上屈。	SB10 杖元。	A5
SK216	10e	x	x	○	43	34	12	楕円形	圓形	7.5YR1-1 磨耗跡、粘土、燒土。底上、底付で凹字記入。	SB12 杖元。	A5
SK217	10e	x	x	○	31	29	15	円形	圓形	10Y3/2/3 磨耗跡、粘土。	SB12 杖元。	A5
SK218	10e	x	x	○	35	21	12	楕円形	圓形	10Y3/2/3 磨耗跡、粘土の上、黄色土と混。わずかに屈。	SB16 杖元。	B1?
SK219	10e	x	x	○	29	23	33	楕円形	圓形	10Y3/2/3 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。わずかに屈。	SB10 杖元。	A5
SK220	10d	x	x	○	23	21	12	円形	圓形	10Y3/2/2 磨耗跡、粘土。	SB10 杖元。	B1?
SK221	10e	x	x	○	29	24	19	楕円形	圓形	10Y3/2/2 磨耗跡、粘土、黄色土と混。		B3
SK222	10e	x	x	○	32	21	18	楕円形	圓形	10Y3/2/2 磨耗跡、粘土、黄色土と混。	SB12 杖元。	A5
SK223	10e	x	x	○	55	12	2	楕円形	圓形	10Y3/2/2 磨耗跡、粘土、黄色土と混。白色土と混。V字形。		A
SK224	10d, 11d	x	x	○	212	82	—	長方形	—	7.5YR1-1 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。V字形。		B2
SK225	10e, 11e	x	x	○	259	60	—	楕円形	—	7.5YR1/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。V字形。		A5
SK226	11e	x	x	○	30	30	26	円形	圓形	10Y3/2/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。わずかに屈。	SB16 杖元。	B1?
SK227	10e	x	x	○	115	42	15	楕円形	圓形	10Y3/2/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。	SB34にかたり半分は煮えている。	A3
SK228	10d	x	x	○	96	81	4	楕円丸形	圓形	10Y3/1/1 磨耗跡、粘土底。		—
SK229	11e	x	x	○	61	61	42	円形	V字形	10Y3/1/1 磨耗跡、粘土底。燒土、硬化物少頭。	SB10 杖元。	A5
SK230	11d	x	x	○	147	98	55	長方形	圓形に記入	圓形に記入。		B2
SK231	9d	x	x	○	—	—	—	—	—	SD35に刻まれている。	A1	
SK232	10d	x	x	○	99	36	17	長方形	不整形	10Y3/4/2 磨耗跡、中斜角、黄色土と混。白色土と混。V字形。		B3
SK233	11e	x	x	○	57	45	9	楕円形	圓形	10Y3/4/2 磨耗跡、粘土底。	SB10 杖元。	A5
SK234	11e	x	x	○	48	46	6	円形	圓形	10Y3/4/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。わずかに屈。	SB13 杖元。	A3
SK235	11e	x	x	○	50	49	27	円形	圓形	10Y3/4/2 磨耗跡、粘土、黄色土と混。V字形。	SB10 杖元。	A5
SK236	11e	x	x	○	44	44	32	円形	圓形	10Y3/4/2 磨耗跡、粘土、黄色土と混。V字形。	SB10 杖元。	A5
SK237	11e	x	x	○	56	32	26	楕円形	圓形	10Y3/4/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。わずかに屈。	SB10 杖元。	A5
SK238	10e	x	x	○	120	101	14	楕円形	圓形	10Y3/4/2 磨耗跡、粘土、黄色土と混。燒土と混。わずかに屈。		A3
SK239	11e	x	x	○	51	41	68	楕円形	圓形	10Y3/2/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。わずかに屈。	SB13 杖元。	A2
SK240	10e	x	x	○	31	28	5	円形	圓形	10Y3/4/2 磨耗跡、粘土、黄色土と混。		—
SK241	9d, 10d	x	x	○	161	45	—	平整形	—	10Y3/4/1 磨耗跡、烧土物、硬化物。燒石と混。	西側を SX 0.2 に刻まれている。	C1
SK242	11d	x	x	○	82	63	2	円形	圓形	10Y3/4/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。燒土と混。V字形。		—
SK243	11e	x	x	○	42	36	19	楕円形	圓形	10Y3/4/2 磨耗跡、粘土底。燒土と混。燒石と混。V字形。		A
SK244	9d	x	x	○	22	21	9	円形	圓形	10Y3/4/2 磨耗跡、粘土底。烧石と混。V字形。		—
SK245	11c	x	x	○	160	65	11	楕円形	圓形	10Y3/4/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。燒土と混。V字形。		A5
SK246	11e	x	x	○	41	32	5	楕円形	圓形	10Y3/4/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。V字形。		—
SK247	11e	x	x	○	97	59	16	楕円形	圓形	10Y3/4/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。V字形。	SB23 杖元。	C1
SK248	11e	x	x	—	—	—	—	—	—	無く透視とせず。欠乏。	A	
SK249	11e	x	x	○	61	34	13	楕円形	圓形	10Y3/4/2 磨耗跡、黄色土と混。V字形。		A
SK250	11e	x	x	○	76	44	21	楕円形	圓形	10Y3/4/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。V字形。	SB17 杖元。	R3
SK251	11f	x	x	○	76	54	10	楕円形	圓形	10Y3/4/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。燒土と混。V字形。		A
SK252	11f	x	x	○	53	41	9	楕円形	圓形	10Y3/4/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。燒土と混。V字形。		A5
SK253	12d	x	x	○	88	54	—	平整形	—	振り込みは確認です。遺物中範囲を追跡とした。	A2	
SK254	9d	x	x	○	26	21	6	楕円形	圓形	10Y3/2/2 磨耗跡、黄色土と混。V字形。		—
SK255	11a	x	x	○	24	23	16	円形	V字形	10Y3/2/2 磨耗跡。	SB07 杖元。	A4
SK256	11a, 11b	x	x	○	30	30	27	楕円形	V字形	10Y3/2/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。燒土と混。V字形。		—
SK257	11a	x	x	○	29	27	6	平整形	圓形	10Y3/2/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。燒土と混。V字形。		A3
SK258	12a	x	x	○	45	34	29	楕円形	圓形	10Y3/2/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。燒土と混。V字形。		A
SK259	12a	x	x	○	37	16	19	楕円形	圓形	10Y3/2/2 磨耗跡、粘土底。烧石と混。V字形。	SB09 杖元。	A3
SK260	12a	x	x	○	51	34	32	楕円形	圓形	10Y3/2/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。燒土と混。V字形。	SB03 杖元。	A5
SK261	11a	x	x	—	—	—	—	—	—	無くなっています。	A	
SK262	10e	x	x	○	59	59	—	円形	圓形に記入	焼石有り。セクション図面あり。	SB404 3号-か?	A
SK263	10e, 10c	x	x	○	95	76	16	円形	圓形	10Y3/1/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。燒土と混。V字形。	焼石有り。セクション図面あり。	D1
SK264	11d	x	x	○	19	14	—	円形	圓形	—	未調査。	C3
SK265	11e	x	x	○	25	23	—	円形	圓形	—	—	—
SK266	11e	x	x	○	24	24	—	円形	圓形	—	SB17 杖元。	R3
SK267	11e	x	x	○	41	29	12	楕円形	圓形	10Y3/2/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。燒土と混。V字形。	SB403 と重なっています。	A
SK268	11e	x	x	○	68	46	13	楕円形	圓形	10Y3/2/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。燒土と混。V字形。	SB404 3号-か?	A
SK269	11f	x	x	○	24	23	13	円形	圓形	10Y3/4/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。燒土と混。V字形。	SB17 杖元。	R3
SK270	11f	x	x	○	22	21	6	円形	圓形	10Y3/2/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。燒土と混。V字形。		A
SK271	11e	x	x	○	36	35	17	楕円丸形	圓形	10Y3/3/2 磨耗跡、粘土底。黄色土と混。燒土と混。V字形。	SB17 杖元。	R3
SK272	9d	x	x	○	31	30	—	円形	—	—	—	—
SK273	9e	x	x	—	—	—	—	円形	—	—	—	—

遺構一覧表

遺構番号	グリッド	1面	2面	3面	封緘(cm)	厚縮(cm)	厚さ(cm)	プラン	断面形	埋土	地表	時期
SK374	11f	×	×	○	44	—	51	内円	圓形	圓形に記入。	セクション開削面あり。SA03柱穴。	B3
SK375	12g	×	×	○	35	33	—	内円	圓形	—	SA05柱穴。	B4
SK376	8d	×	×	○	46	43	—	圓丸正方形	圓形	—	—	—
SK377	13d	×	×	○	76	65.5	—	不整二角形	圓形	—	地土範囲、東側北 SD39に接続する。	—
SK378	11d	×	×	○	43	41	—	圓丸正方形	圓形	—	第3段階部分、ビットでない。	A
SK379	10d	×	×	○	—	—	—	—	圓形	—	第3段階部分、ビットでない。	—
SK380	10d	×	×	○	—	—	—	—	圓形	—	第3段階部分、ビットでない。	—
SK391	10d	×	×	○	—	—	—	—	圓形	—	ビットの重なりを遺構と認識。	—
SK382	11d	×	×	○	41	36	26	圓円形	圓形	HOYR3/1 極細砂、粘土、堆山状況。	—	A
SK383	11b	×	×	○	40	29	26	圓円形	圓形	HOYR3/1 極細砂、粘土、堆山状況。	—	A
SK384	10c	×	×	○	37	31	29	圓円形	圓形	HOYR3/1 極細砂、白色土ブロック層。SK363内	—	A
SK385	11a	×	×	○	36	32	14	内円形	圓形	HOYR3/2 極細砂、粘土、白色シルトブロック層。	SK357、SK409と重なっている。	—
SK386	11a, 11b	×	×	○	36	32	33	不整二角形	V字形	HOYR3/2 極細砂、粘土、白色土ブロック層。	SK368と重なっている。	A
SK387	11b	×	×	○	32	29	5	内円形	圓形	HOYR3/2 極細砂、粘土层。	—	—
SK388	11a, 11b	×	×	○	29	45	16	圓円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、地土、黑色土层。SH09主柱穴。	A3	—
SK389	11a	×	×	○	—	—	—	—	圓形	—	SH07右に記入されていたが遺構と認められなかったため矢印	A
SK390	11b	×	×	○	34	29	17	圓円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黑色土、黄色土層。SH07左に記入。	—	A
SK391	11a	×	×	○	25	24	19	圓円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黑色土、黄色土、白色シルトブロック層。地土上に鉄。	—	A
SK392	11b	×	×	○	25	23	5	内円形	圓形	圓形に記入。	—	—
SK393	12a	×	×	○	30	24	13	圓円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、地土层。黄色土ブロック層。	—	A
SK394	11a, 12a	×	×	○	27	26	15	圓円形	V字形	HOYR2/2 極細砂、粘土、地土层。	—	A
SK395	12a	×	×	○	27	23	10	圓円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土多く混入。	—	A
SK396	12a	×	×	○	45	37	44	内円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色土ブロック層。地土上。	—	A
SK397	11a	×	×	○	22	18	26	圓円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黑色土层。壁上部。	—	A
SK398	11a	×	×	○	22	20	13	圓円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黑色土、壁上部。	—	A
SK399	12a	×	×	○	21	19	13	圓円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黑色土、壁上部。	—	A
SK400	12a	×	×	○	44	41	5	内円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土层。地土わずか。	SH07主柱穴。	A4
SK401	12a	×	×	○	53	39	39	圓円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色土、白色シルトブロック層。壁上部。	SK405に記入されている。SH07主柱穴。	A4
SK402	12b	×	×	○	61	50	2	内円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黑色土层。地土わずかに混入。	SH09主柱穴。	A3
SK403	12a	×	×	○	41	24	5	内円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土层。地土わずかに混入。	SK366と重なっている。	—
SK404	11a	×	×	○	28	24	23	圓円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色土、白色シルトブロック層。	—	—
SK405	12a, 12b	×	×	○	30	26	23	圓円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色土シルトブロック層。	SK401と重なっている。	—
SK406	12a	×	×	○	48	41	23	圓円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色土ブロック層。地土上。	—	A
SK407	11a	×	×	○	40	35	32	圓円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色土ブロック層。地土上。	SK408と重なっている。	—
SK408	11a	×	×	○	32	31	19	圓円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色土ブロック層。地土上。	SK407と重なっている。	—
SK409	11e	×	×	○	34	24	13	圓円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色土ブロック層。地土上。	SK385と重なっている。	—
SK410	11b	×	×	○	20	37	16	圓円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、白色シルトブロック層。地土上。	SH23柱穴。	C1
SK411	11b	×	×	○	37	36	5	内円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色土层。	—	A4
SK412	11b	×	×	○	29	27	2	内円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色土层。壁上部。	—	A4
SK413	11b	×	×	○	29	28	48	内円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色土层。地土多く混入。	SH23柱穴。	C1
SK414	11b	×	×	○	41	39	19	内円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色土シルトブロック層。地土上。	SH04主柱穴。	A3
SK415	11b, 11c	×	×	○	35	34	23	内円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色シルトブロック層。	—	—
SK416	11c	×	×	○	30	27	27	内円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色シルトブロック層。	SK461と重なっている。	A3
SK417	11c	×	×	○	51	43	54	不整圓形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色土ブロック層。	SH23柱穴。	C1
SK418	10c	×	×	○	43	35	6	内円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色土层。地土多く混入。	—	A
SK419	10c, 11c	×	×	○	40	(21)	22	圓円形	V字形	HOYR2/2 極細砂、粘土、地物混入、黄色土ブロック層。地土上。	SD14に記入されている。	A
SK420	11c	×	×	○	30	29	31	内円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色土层。地土上。	SH04主柱穴。	A3
SK421	11c	×	×	○	22	21	13	内円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、白色シルトブロック層。地土上。	SH08主柱穴。	A2
SK422	10c	×	×	○	24	19	18	内円形	V字形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色土层。地土上。	SK451の中。	—
SK423	10c	×	×	○	28	27	53	内円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色シルトブロック層。地土上。	SK453と重なる。	A
SK424	10c	×	×	○	27	24	36	内円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色土层。地土上。	SH04主柱穴。	A3
SK425	10c, 10d	×	×	○	43	28	40	内円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色土层。地土上。	—	A
SK426	10d	×	×	○	40	38	49	内円形	V字形	HOYR2/2 極細砂、粘土、白色シルトブロック層。地土上。	—	A
SK427	10d	×	×	○	42	38	45	不整圓形	V字形	HOYR2/2 極細砂、粘土、白色シルトブロック層。地土上。	SH08主柱穴。	A2
SK428	10c, 10d	×	×	○	43	28	13	内円形	圓形	HOYR2/2 極細砂、粘土、黄色土、地土上。	—	A

名古屋城三の丸遺跡 VII

遺構番号	アリット	1面	2面	3面	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	プラン	断面形	地主	備考	時期
SK429	10d	×	×	○	40	34	48	楕円形	V字形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。	—	A
SK430	10d	×	×	○	36	35	32	円形	V字形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シートプロック部。	—	A
SK431	11e, 11d	×	×	○	36	33	32	楕円形	V字形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y4/2 極端部、粘土、黄色シート上部。	SR23 杖元。	C1
SK432	11d	×	×	○	31	29	12	円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シートプロック部。	SR20 玉柱。	A2
SK433	11e	×	×	○	33	33	32	円形	V字形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート、白色シート。	—	—
SK434	11e	×	×	○	38	31	9	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート、黑色土。	—	—
SK435	12b	×	×	○	29	22	14	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	—	—
SK436	12b, 12c	×	×	○	105	100	23	円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	底面に SK439 有り。	A
SK437	12c	×	×	○	14	14	14	円形	V字形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。	—	—
SK438	13c	×	×	○	18	18	7	円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	SD14 にかきり切れている。	—
SK439	12c	×	×	○	33	28	32	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。	—	—
SK440	12c	×	×	○	36	21	14	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。	—	B1
SK441	13c	×	×	○	62	40	8	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	底面に SK442 有り。	—
SK442	13c	×	×	○	22	20	5	円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。	—	—
SK443	11c, 11d	×	×	○	(110)	38	9	半楕円	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。	—	—
SK444	11d	×	×	×	50	43	22	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	A	—
SK445	11c	×	×	○	32	25	28	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。	—	—
SK446	11c	×	×	○	73	31	19	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	SR23 杖元。	C1
SK447	11c	×	×	○	51	46	68	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	—	—
SK448	11c	×	×	○	35	25	4	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	—	—
SK449	11c	×	×	○	28	24	7	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	—	—
SK450	11c	×	×	○	25	20	6	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。	—	—
SK451	10c, 11c	×	×	○	220	165	7	半楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	SK451 と重なる。 SK422 中に存在。 SK450, SK452, SK453 と重なる。	A3
SK452	11c	×	×	○	29	19	9	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	SK451 と重なる。	—
SK453	10c	×	×	○	42	30	20	円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土上部。	SK423, SK451 と重なる。	—
SK454	10b, 11b	×	×	○	43	43	29	半楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	SR23 杖元。	C1
SK455	10b	×	×	○	40	30	38	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	—	A
SK456	10b	×	×	○	95	62	5	半楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	SK457 と重なる。	—
SK457	10b	×	×	○	41	33	49	楕円形	V字形	10Y3/2 楔形切跡、粘土上部。	SK456 と重なる。	A
SK458	11c	×	×	○	37	28	3	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土上部。	SR23 杖元。	C1
SK459	11b	×	×	○	24	23	28	円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	—	—
SK460	11c	×	×	○	24	19	28	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	—	B1
SK461	11c	×	×	○	39	37	42	円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	SK410 と重なる。	A
SK462	11c	×	×	○	33	30	48	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土上部。	—	—
SK463	11c	×	×	○	19	16	5	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	—	—
SK464	11c	×	×	○	50	39	27	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	—	A
SK465	11c	×	×	○	23	21	7	円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。	—	—
SK466	11c	×	×	○	24	24	4	円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、白色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、白色シート下部。	—	—
SK467	11c	×	×	○	26	28	6	半楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	—	—
SK468	11c	×	×	○	21	18	16	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黑色土上部。	—	A
SK469	12d	×	×	○	26	25	15	円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黑色土上部。	—	—
SK470	12c	×	×	○	114	82	9	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	—	—
SK471	12d	×	×	○	11	10	6	円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。	—	—
SK472	12d	×	×	○	33	33	6	円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。	—	—
SK473	11d, 12d	×	×	○	34	24	12	楕円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	—	—
SK474	11d, 12d	×	×	○	21	21	18	円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	—	—
SK475	12d	×	×	○	21	21	11	円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土上部。	地主わずかに露。	—
SK476	12d	×	×	○	12	11	2	円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	—	—
SK477	12d	×	×	×	11	11	2	円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、白色物質。	—	—
SK478	12d	×	×	○	12	10	2	円形	楕円形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、白色物質。	—	—
SK479	12d	×	×	○	20	18	20	円形	V字形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、白色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、白色シート下部。	地主わずかに露。	A
SK480	12d	×	×	○	25	23	27	円形	V字形	10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート上部。 10Y3/2 楔形切跡、粘土、黄色シート下部。	—	—

遺構一覧表

遺構番号	グリッド	1面	2面	3面	面積 (m ²)	厚幅 (cm)	深さ (cm)	プラン	断面	埋土	備考	時期
SK481	13d	x	x	○	20	18	12	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	—	—
SK482	13d	x	x	○	21	21	2	円形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、炭化物混入。	B1	—
SK483	12d, 13d	x	x	○	13	10	5	方形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	—	—
SK484	13c, 13d	x	x	x	430	390	25	整地形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。 遺土 (IJOY6/1 + 7.5x10.4m 梯級砂...) 勘定上、白色、薄黄色シルトブロック、炭化物混入。	C1 しつてている。SK485 上同。	—
SK485	13d	x	x	x	60	47	9	扇円形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	—	—
SK486	13d	x	x	○	160	62	12	平行四辺形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	B4	—
SK487	13d	x	x	○	22	29	7	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	—	—
SK488	13c	x	x	○	170	52	10	角形	不整形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	—	—
SK489	12c	x	x	○	128	92	30	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	A	—
SK490	12c	x	x	○	38	29	—	圓形	—	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	—	—
SK491	11d	x	x	○	18	15	10	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	SH23柱穴。	C1
SK492	11d	x	x	○	16	13	9	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	—	—
SK493	12c	x	x	x	33	31	9	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。勘定上、褐色シルト、炭化物混入。	—	—
SK494	11e	x	x	x	21	19	17	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。勘定上、褐色シルトブロック、炭化物混入。	—	—
SK495	11e	x	x	○	38	36	11	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	SH10柱穴。	A5
SK496	11e	x	x	○	30	30	22	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	SH17柱穴。	B3
SK497	11e	x	x	○	25	23	9	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	SH13柱穴。	A3
SK498	11e	x	x	○	52	40	24	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	—	B1
SK499	11e	x	x	○	41	39	16	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	SH12柱穴。	A5
SK500	11e	x	x	○	40	38	26	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	SH10柱穴。	A5
SK501	11e	x	x	○	36	30	17	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	—	A
SK502	11e	x	x	○	27	27	9	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	—	A
SK503	11e	x	x	○	38	38	14	整地形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	SH10柱穴。	A5
SK504	11e	x	x	○	35	31	6	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、炭化物混入。	—	—
SK505	11e	x	x	○	23	19	5	圓形	楕形	7.5x10.2m 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、勘定上。	A	—
SK506	11f	x	x	○	36	28	5	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、勘定上。	—	—
SK507	11f	x	x	○	58	58	26	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、白色、褐色シルトブロック、黑色シルト混入。	B1	—
SK508	11f	x	x	○	52	38	5	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、白色、褐色シルトブロック、黑色シルト混入。	—	A
SK509	11f	x	x	○	39	37	14	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、白色、褐色シルトブロック、勘定上。	—	A5
SK510	11f	x	x	○	33	32	5	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、白色、褐色シルトブロック、勘定上。	SH13柱穴。	A3
SK511	11f	x	x	○	26	25	11	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、白色、褐色シルトブロック、勘定上。	—	—
SK512	11f, 12f	x	x	○	26	25	17	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、勘定上。	—	—
SK513	12f	x	x	○	90	60	50	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、勘定上。	SK514と重なる。柱根有り。柱根部分が大きい。	—
SK514	12f	x	x	○	55	32	26	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、勘定上。	SK513と重なる。	—
SK515	11f	x	x	○	31	29	16	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、勘定上。	SH18柱穴。SK282上同。か?。	—
SK516	11g	x	x	○	48	42	19	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、勘定上。	—	—
SK517	11g	x	x	○	26	22	12	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、勘定上。	SH03上柱穴。	A4
SK518	11g	x	x	○	—	—	—	—	—	無残(通称ではない)。	—	
SK519	11g	x	x	○	33	30	33	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土层。褐色シルト層。	SH03上柱穴。	A4
SK520	12g	x	x	○	28	21	7	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色土层。褐色土多量。	—	—
SK521	11b, 12b	x	x	○	161	131	17	方形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、白色シルトブロック、勘定上。	—	—
SK522	12b	x	x	○	39	34	3	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルトブロック、勘定上。	—	—
SK523	12b	x	x	○	29	24	46	圓形	V字形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土层。褐色シルト層。褐色土多量。	—	A
SK524	12b	x	x	○	28	20	28	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土层。褐色シルト層。	SH05上柱穴。	A3
SK525	12b	x	x	○	120	100	15	大方形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色土层。	—	—
SK526	12b, 13e	x	x	○	95	88	54	圓形	楕形	表面有り。	粘糊附着。SK228上同。道場。	A
SK527	9d, 9e	x	x	○	170	119	40	大方形	楕形	表面有り。	SD35に切られている。SH19柱穴。	B3
SK528	11f	x	x	○	32	32	41	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土层。褐色シルト層。褐色土多量。	—	—
SK529	11f, 12f	x	x	○	35	27	19	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土、褐色シルト層。	—	—
SK530	11g, 12g	x	x	○	48	29	21	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土层。	—	—
SK531	12f	x	x	○	23	18	6	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土层。	—	—
SK532	12f	x	x	○	116	107	8	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土层。わずかに褐色土。	—	A
SK533	12g	x	x	○	24	24	24	圓形	楕形	IJOY3/2 梯級形砂、粘土层。	SK534と重なる。SH05上柱穴。	A3

名古屋城三の丸遺跡 VII

遺構番号	アリット	1面	2面	3面	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	プラン	断面形	埋土	備考	時期
SK534	12g	×	×	○	62	46	9	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色シルト プロック、地土混。	SK533 と重なる。SB18 杖元。	B4
SK535	12g	×	×	○	58	53	23	不整形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土土、灰土多く混。	—	A
SK536	12g	×	×	○	103	102	5	不整形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色シルト、 地土混。	—	A
SK537	12g	×	×	○	43	28	21	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色土シルト、 地土混。	SA05 杖元。	B4
SK538	12f	×	×	○	22	18	16	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色シルト、 地土混。	SA05 杖元。	B4
SK539	11f	×	×	○	(283)	74	12	不整形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色シルト混。 地土多く混。	—	A
SK540	11g	×	×	○	34	33	16	円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色土混。 地土多く混。	SB03 土柱元。	A4
SK541	11d	×	×	○	32	30	20	円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色シルト プロック、地土混。	—	—
SK542	11e	×	×	○	32	30	18	円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色、白色 シルト、地土混。	SB12 杖元。	A5
SK543	10c	×	×	×	53	28	37	楕円形	V字形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色シルト、 地土、地土混。	—	A
SK544	10c	×	×	×	48	34	55	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色シルト、 地土、地土混。	—	—
SK545	11f	×	×	○	24	23	5	円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色シルト プロック、地土混。	—	—
SK546	11c, 11d	×	×	○	34	29	19	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色土、地 土混。	—	—
SK547	9a	×	×	○	180	65	40	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、白色シルト プロック、小石混。	SK23 にかわり切れている。SA06 杖元。	C1
SK548	9a, 9u	×	×	○	140	130	50	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、白色、黃色シ ルトプロック、灰土粘土、泥質物混。	SK567 と重なる。	C3
SK549	9u	×	×	○	77	49	14	不整形	圓形	10Y3U/2 + 10Y3U/1 極細胞砂、粘土 地土混。	SB11 杖元。	A3
SK550	9a	×	×	○	95	62	6	円形	圓形	10Y3U/2 + 10Y3U/1 極細胞砂、7 地粉砂、灰土地土混。	SK23 にかわり切れている。SA06 杖元。	C1
SK551	9u	×	×	○	53	36	41	円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、白色 シルトプロック、地土混。	SB11 杖元。	A3
SK552	9u	×	×	○	55	35	28	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色地土混。	SB11 杖元。	A3
SK553	9a	×	×	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SK554	9u, 10a	×	×	○	120	55	48	鑿形	圓形	左縁: 10Y3U/2 極細胞砂、粘土、赤褐色 土混。右縁: 10Y3U/2 極細胞砂、粘土、 白色シルト、地土混。	SA06 杖元。	C1
SK555	9u, 10a	×	×	○	110	89	11	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色シルト、 地土混。	—	B4
SK556	9b	×	×	○	200	133	100	楕円形	圓形	7.5Y3U/2 極細胞砂、粘土混。	SD12, SK557, SK569 と重なっている。	B1
SK557	9b	×	×	○	70	40	30	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色シルト、 地土混。	SD12, SK556 と重なる。	B1
SK558	9u	×	×	○	25	21	12	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、白シルト プロック、黑色土混。	—	—
SK559	9u	×	×	○	26	24	6	円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色土、周 囲地粉砂混。	—	—
SK560	9u, 9b	×	×	○	67	53	32	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色シルト プロック、赤褐色土混。	SB11 杖元。	A3
SK561	9u	×	×	○	31	21	—	円形	—	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、地土混。	—	—
SK562	9u	×	×	○	25	23	21	円形	V字形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土混。	—	B1
SK563	9b	×	×	○	33	26	25	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃褐色土、 地土混。	SK565 と重なる。	—
SK564	9u, 9b	×	×	○	63	50	22	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、赤褐色土、 地土混。	SK565 と重なる。	A
SK565	9u, 9b	×	×	○	69	49	31	楕円形	圓形?	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黒土七、黃 色土混。	SK563, SK564 と重なる。SH11 杖元。	A3
SK566	9b	×	×	○	49	40	22	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色シルト プロック、赤褐色土混。	—	—
SK567	9u	×	×	○	90	59	41	不整形圓形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色シルト プロック、赤褐色土混。	SK548 と重なる。	—
SK568	9u	×	×	○	65	55	40	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、白色シルト、 地土混。	SB11 杖元。	A3
SK569	9b	×	×	○	60	55	43	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、白色シルト、 地土混。	SB11 杖元。	A3
SK570	9c, 9d	×	×	○	123	53	—	—	—	—	—	—
SK571	13b	×	×	○	46	44	28	円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色、白色 シルト混。	SK602 杖元。	A5
SK572	13b	×	×	○	24	22	23	円形	V字形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色土混。 地土混。	—	—
SK573	13b	×	×	○	28	25	60	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色土、白色土、 地土混。	SB14 杖元。	A4
SK574	13a	×	×	○	28	26	25	円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、白シルト プロック、地土混。	—	—
SK575	13a	×	×	○	18	16	9	円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色土、 地土混。	—	—
SK576	13a	×	×	○	20	18	15	円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、地土混。	—	—
SK577	13a	×	×	○	30	23	51	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、白色シルト、 地土混。	SA092 杖元。	A5
SK578	13a	×	×	○	36	35	34	円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、白シルト プロック、地土混。	—	—
SK579	12a, 13a	×	×	○	241	55	35	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、白シルト、 地土混。	SB11 杖元。	B1
SK580	12a, 13a	×	×	○	136	90	23	円形?	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、地化部分 多い。	—	—
SK581	12a	×	×	○	35	30	19	円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色シルト、 地土混。	—	—
SK582	12a	×	×	○	100	65	32	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、地土混。	SB14 杖元。	A5
SK583	13b	×	×	○	30	24	23	楕円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色シルト プロック。	—	—
SK584	12b	×	×	○	32	26	34	円形	V字形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土混。	SB14 杖元。	A4
SK585	12b	×	×	○	28	27	19	円形	圓形	10Y3U/2 極細胞砂、粘土、黃色シルト 混。	—	—

造構一覧表

造構番号	グリッド	1面	2面	3面	距離(cm)	厚幅(cm)	深さ(cm)	プラン	地盤面	埋土	備考	時期
SK586	12b	x	x	○	30	18	30	側面形	V字形	JOYR3/2 極細粒砂、粘土質。地盤部分有り。	—	
SK587	12b	x	x	○	30	32	22	側面形	楕形	JOYR3/2 極細粒砂、粘土質。白色シルトブロック質、地盤部分有。	A	
SK588	12b	x	x	○	63	58	4	側面	楕形	JOYR3/2 極細粒砂、粘土質。白色上部シルト質、下部シルト質。	SB14往穴、A4	
SK589	12b	x	x	○	41	40	20	側面形	楕形	JOYR3/2 極細粒砂、粘土質。白色シルトブロック質、地盤部分有。	A4	
SK590	12a	x	x	○	43	28	4	側面形	楕形	JOYR3/2 極細粒砂、粘土質。白色シルトブロック質、地盤部分有。	SB14往穴、A4	
SK591	13a	x	x	○	52	37	22	側面形	楕形	JOYR3/2 極細粒砂、粘土質。白色シルトブロック質、地盤部分有。	—	
SK592	13a	x	x	○	40	35	—	側面形	—	未記	SA62 往穴、A5	
SK593	12b	x	x	○	22	20	—	側面	—	未記	SB14 往穴、A4	
SK594	12a	x	x	○	40	28	—	側面形	—	未記	—	
SK595	12a	x	x	○	25	16	—	側面形	—	未記	—	B1
SK596	12a	x	x	○	31	22	—	側面形	—	未記	—	
SK597	12a	x	x	○	14	12	—	側面	—	未記	—	
SK598	12b	x	x	○	22	21	—	側面	—	未記	—	
SK599	12b	x	x	○	20	14	—	側面	—	未記	—	
SK600	12b	x	x	x	31	30	—	側面	—	未記	—	
SK601	13c	x	x	○	19	10	—	方形	—	未記	—	
SK602	10b	x	x	○	39	37	—	円形	—	未記	—	
SK603	9c	x	x	○	39	37	—	円形	—	未記	—	
SK604	10b	x	x	○	33	(22)	—	側面形	—	未記	—	
SD01	12b ~ 12g, 13a ~ 13g	○	x	x	2811	162	49	圓柱	楕形	圓面に起人	東西に走る溝の底面部分。石経済、地盤有り。	C3
SD02	13b	x	x	x	441	116	21	圓柱	楕形	圓面に起人	石経済SD01に接続し、南北に走る、調査用溝内に伸びる。圓面有り。	C3
SD03	12a, 13a	○	x	x	340	59	17	直方形	楕形	圓面に起人。	石経済SD01に接続し、SD01より東に伸びる。	C3
SD04	13a	x	x	x	80	162	49	圓柱	楕形	圓面に起人。	石経済SD01に接続し調査用溝へ伸びる部分。	C3
SD05	13j	x	○	○	320	52	11	圓柱	楕形	上層: 1.5V4/1 シルト、極細粒砂含む。 下層: 1.5V4/3 シルト、シルト質。	調査用溝外に伸びる、SD17を切っている。	D
SD06	12c, 13b	x	○	x	600	77	23	圓柱	楕形	JOYR3/2 粘土、極細粒砂。	JOYR3/0 粘土。	B4
SD07	12c, 13j	x	○	x	256	20	19	圓柱	楕形	JOYR3/1 極細粒砂、シルト、透出: ブロック質。	—	
SD08	9d	○	x	x	212	41	15	圓柱	楕形	2.5V4/1 極細粒砂、粘土、ベースの黒色土。	—	
SD09	9d, 9d, 10d	x	x	x	1481	40	13	圓柱	楕形	JOYR4/2 極細粒砂、粘土質。	SD10に付する可能性有り。	B3
SD10	11c, 12c	○	○	○	512	112	14	圓柱	楕形	2.5V3/1 粘土、透出: 黒。	—	C1
SD11	11b, 11c, 11f	○	x	x	840	117	13	直方形	楕形	1.5V4/2 極細粒砂、シルト質。	調査用溝外に伸びる。	C3
SD12	10b, 11b, 12b	○	○	○	209	97	10	圓柱	楕形	圓面に起人。	SN02に明らか。	C1
SD13	11b, 11c	○	x	x	149	10	10	直方形	楕形	1.5V4/2 極細粒砂、粘土質。既発見セグメントに隣。	—	C3
SD14	11c ~ 13c	○	○	○	1550	144	81	直方形	V字形	圓面に起人。	SD22上縁が北に向溝の南北部分。	C1
SD15	11c, 11d, 12c, 12d	○	x	x	385	63	43	圓柱	楕形	上層: 2.5V4/2 極細粒砂、シルト質。下層: 2.5V3/2 極細粒砂。	—	C3
SD16	10a, 10b	○	○	x	100	75	24	圓柱	楕形	圓面に起人。	SN02に注ぐ場所の可能性高い。	C3
SD17	12c ~ 12g, 13d ~ 13g	x	○	x	3032	172	115	圓柱	V字形	1.5V4/2 極細粒砂、シルト質。	SD25, SK222と同様 道路となる。	B3
SD18	12c ~ 12g	x	○	x	1673	71	89	圓柱	楕形	圓面に起人。	SD17の両に並行して東西に走る溝。	B1
SD19	13b	x	○	○	277	53	19	圓柱	楕形	1.5V3/1 極細粒砂、シルト質。	—	B1
SD20	13c, 13h, 13b	x	○	x	478	27	61	圓柱	楕形	7.5V3/1 極細粒砂、シルト質。	—	B1
SD21	11c ~ 11f	○	○	x	142	40	6	圓柱	楕形	圓面に起人。	SD11と同道路の可能性高い。	C
SD22	13c ~ 13f	○	○	x	1295	77	47	圓柱	楕形	圓面に起人。	SD14と同道路。	C1
SD23	9d, 9e	○	○	x	573	97	36	直方形	楕形	圓面に起人。	—	C1
SD24	11f ~ 13f	○	○	x	1521	51	14	圓柱	楕形	1.5V4/2 極細粒砂、粘土質。砂土少し混入。	ビット内に走る溝。	B3
SD25	13e	○	x	x	5571	84	52	圓柱	楕形	圓面に起人。	SD17, SK222と同様 道路となる。	B3
SD26	12c, 13c	x	○	x	90	—	—	圓柱	—	—	SD10の振り出しを振り SD02とした。	C3
SD27	13f	x	○	x	195	83	37	圓柱	楕形	10YR4/2 極細粒砂、粘土質。	SD22と同様、SK185を併んで重鑿を SD27とした。	B3
SD28	13f, 13g	x	○	x	194	53	27	直方形	楕形	7.5V3/1 極細粒砂、シルト質。	—	B1
SD29	10b, 11f	x	○	x	468	60	19	直方形	楕形	10YR4/2 極細粒砂。	—	B3
SD30	11a, 13b	x	○	x	259	29	12	圓柱	楕形	10YR3/2 極細粒砂、粘土質。	—	C
SD31	10b, 11b, 12b, 13b	○	○	○	1832	123	74	直方形	楕形	圓面に起人。	圓面有り。	B3
SD32	11c	x	○	x	108	17	8	圓柱	楕形	10YR3/2 極細粒砂、粘土質。	—	B3
SD33	12f, 13f	x	○	x	305	48	11	圓柱	楕形	10YR4/2 極細粒砂、粘土質。中砂質。	圓面有り。	B1
SD34	12c, 12d	x	○	x	412	19	9	圓柱	楕形	10YR3/2 極細粒砂、粘土質。	SD21またはSD15と同の可能性あり。	B3
SD35	9d, 9d	x	○	x	900	64	16	直方形	楕形	10YR4/1 極細粒砂。	—	B3
SD36	8d, 9d, 10d	x	○	x	1481	40	13	圓柱	楕形	10YR4/2 極細粒砂、粘土質。	—	B3
SD37	—	x	○	x	—	—	—	—	—	—	欠番とした。	B3
SD38	12a, 12b	x	○	x	429	21	10	圓柱	楕形	2.5V3/4 2 極細粒。	—	B3
SD39	11d ~ 13d	x	○	x	754	97	17	圓柱	楕形	10YR3/2 極細粒砂、粘土質。砂土わずかに有り。	—	B3
SD40	9a	x	○	x	255	180	49	直方形	楕形	圓面に起人。	圓面有り、SN02北側につながる溝。	C2
SD41	9b, 8c	x	○	x	310	192	119	直方形	楕形	圓面に起人。	圓面有り、SN02から北に走る排水溝。	C2
SD42	9a	x	○	x	179	20	12	直方形	楕形	10YR3/2 極細粒砂、粘土質。	—	—
SN01	12g, 13g	x	○	x	700	534	18	直方形	—	圓面に起人。	SD01に通ずる石経済	C3

名古屋城三の丸遺跡 VII

遺構番号	アリット P	1面	2面	3面	長軸(cm)	短軸(cm)	厚さ(cm)	プラン	断面	埋土	備考	時期
SN02	Ru, Rb, Rc, Rd, Rd, 10b, 10c, 10d	○	○	○	998	477	137	不整形 圓形	圓形に記入	地状遺跡	C3	
SN03	8d, 9d	○	×	×	903	162	13	圓状 圓形	圓形に記入		C3, 4	
SN04	10b	×	×	×	148	91	—	圓形	—	未注記	SN02 と SN12 の頂点にあった瓦礫の 範囲を SN04 とした。	
SN05	10a	○	×	×	112	162	—	円形	—	未注記	瓦が集中して出土した範囲を SN05 とし た。	
SN06	10a	×	×	×	—	—	—	円形	—	未注記	瓦が集中して出土した範囲を SN06 とし た。	
SN07	11c, 12f	×	×	○	—	61	5	圓状 圓形	圓形	10V84/2	SD04 と並行し東にある深い溝を SN07 とした。	
SN08	12d	×	×	○	—	—	—	—	—		—	
SN09	14e, 14f, 14g	×	×	○	—	—	—	—	—		測量外の面倒で出土した石列を SN09 とした。	
SP01	—	×	×	×	2642	780	—	長方形	—	未注記	未注記物質、SN09 と SN07 と SN08 を 切る。	
SP02	11a, 11b	×	×	○	(542)	446	12	圓丸長方形 圓形	圓形に記入	未注記物質、SN09 と SN07 と SN08 を 切る。	A4	
SP03	11g, 11h, 12g, 12h	×	×	○	542	(236)	23	圓丸長方形 圓形	圓形に記入	未注記物質、SN05 を切る。	A4	
SP04	10b, 10c, 11b, 11c	×	×	○	548	344	26	圓丸長方形 圓形	圓形に記入	未注記物質、SN09 と SN02 に切ら れる。	A3	
SP05	10g, 12b	×	×	○	(552)	(180)	21	圓丸長方形 圓形	圓形に記入	未注記物質、SN03 に切られる。	A3	
SP06	12b	×	×	○	310	264	17	圓丸長方形 圓形	圓形に記入	未注記物質と、たが、規八邊形跡ではな い規則性が無い。	A2	
SP07	11a, 11b, 12a, 12b	×	×	○	(508)	380	25	圓丸長方形 圓形	圓形に記入	未注記物質、SN09 を切り、SN02 に切 られる。	A4	
SP08	10c, 10d, 11c, 11d	×	×	○	494	356	20	圓丸長方形 圓形	圓形に記入	未注記物質、SN04 に切られる。	A5	
SP09	11a, 11b, 12a, 12b	×	×	○	538	406	14	圓丸長方形 圓形	圓形に記入	未注記物質、SN02 と SN07 に切られる。	A3	
SP10	—	—	—	—	520	370	—	長方形	—	3 段・2 段の輪郭立柱建物跡。	A4	
SP11	—	—	—	—	(600)	620	—	長方形	—	2 段以上・2 段の輪郭立柱建物跡。	A3	
SP12	—	—	—	—	230	250	—	長方形	—	2 段・1 段の輪郭立柱建物跡。	A5	
SP13	—	—	—	—	530	330	—	長方形	—	2 段・2 段の輪郭立柱建物跡。	A3	
SP14	—	—	—	—	230	210	—	長方形	—	1 段・2 段の輪郭立柱建物跡。	A4	
SP15	—	—	—	—	(420)	410	—	長方形	—	2 段以上・2 段の輪郭立柱建物跡。	B1	
SP16	—	—	—	—	430	300	—	長方形	—	1 段以上・2 段の輪郭立柱建物跡。	B1	
SP17	—	—	—	—	610	300	—	長方形	—	3 段以上・1 段の輪郭立柱建物跡。	B4	
SP18	—	—	—	—	(280)	220	—	長方形	—	1 段以上・2 段の輪郭立柱建物跡。	B5	
SP19	—	—	—	—	6540	(270)	—	長方形	—	2 段以上・1 段の輪郭立柱建物跡。	B5	
SP20	—	—	—	—	300	130	—	長方形	—	1 段以上・1 段の輪郭立柱建物跡。	B5	
SP21	—	—	—	—	6529	010	—	長方形	—	3 段以上・1 段の輪郭立柱建物跡。	C2	
SP22	—	—	—	—	(10500)	(230)	—	長方形	—	3 段以上・1 段の輪郭立柱建物跡。	C1	
SP23	—	—	—	—	570	480	—	長方形	—	3 段・2 段の輪郭立柱建物跡。	C1	
SP24	—	—	—	—	(590)	(480)	—	長方形	—	2 段以上・2 段の輪郭立柱建物跡。	C4	
SP25	—	—	—	—	(550)	750	—	長方形	—	2 段以上・2 段の輪郭立柱建物跡。	D2	
SA01	—	—	—	—	460	—	—	—	—	2 段の輪郭立柱建物跡。	A3	
SA02	—	—	—	—	(440)	—	—	—	—	2 段以上の輪郭立柱建物跡。	A5	
SA03	—	—	—	—	(1550)	—	—	—	—	10 段以上の輪郭立柱建物跡。	B5	
SA04	—	—	—	—	620	—	—	—	—	2 段の輪郭立柱建物跡。	B3	
SA05	—	—	—	—	460	—	—	—	—	2 段の輪郭立柱建物跡。	B4	
SA06	—	—	—	—	(1550)	—	—	—	—	6 段以上の輪郭立柱建物跡。	C2	
SA07	—	—	—	—	(350)	—	—	—	—	2 段以上の輪郭立柱建物跡。	C1	
SA08	—	—	—	—	(420)	—	—	—	—	2 段以上の輪郭立柱建物跡。	C1	
SA09	—	—	—	—	1130	—	—	—	—	2 段の輪郭立柱建物跡。	C4	

遺物一覧表

出土地名	件名	遺物番号	目	材質	固	地	特	種	用	器形	縦横寸	直徑寸	高さ寸	底面寸	内面	外面	新上(外型)	施I	備考
0001	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-44	13.0	5.0	13.0	ヨコナギ	円輪へタケヅリ、 ヨコナギ、自然触、 白黒触、ヨコナギ	10YH7/3に ヨコナギ	10YH7/3					
0002	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-44	12.0	4.5	13.0	ヨコナギ	円輪へタケヅリ、 ヨコナギ、自然触、 白黒触、ヨコナギ	SY6/1灰						
0003	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-50	11.8	4.5	12.1	ヨコナギ	円輪へタケヅリ、 白黒触、ヨコナギ	SY6/1灰						
0004	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-44	12.5	4.0	12.7	ヨコナギ	円輪へタケヅリ、 ヨコナギ	SY7/1灰白						
0005	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-44	12.2	4.8	12.4	ヨコナギ	円輪へタケヅリ、 ヨコナギ	2.5Y6/1灰灰						
0006	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-44	12.2	4.0	12.4	ヨコナギ	円輪へタケヅリ、 白黒触、ヨコナギ	SY6/1灰	10Y5/2					
0007	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-44	12.4	4.3	12.6	ヨコナギ	円輪へタケヅリ、 白黒触、ヨコナギ	SY6/1灰	2.5Y6/1					
0008	hd	SK3008	020012	前庭壁	竹	麻	H-50	12.0	4.2	12.4	ヨコナギ	円輪系灰灰、ヨコ ナギ	2.5Y7/3灰灰						
0009	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-44	11.7	4.0	12.0	ヨコナギ、やか 木付	円輪へタケヅリ、 ヨコナギ	2.5Y6/1灰灰						
0010	hd	SK3008	020012	前庭壁	竹	麻	H-44	10.6	4.3	10.8	ヨコナギ	自然触、ヘタケヅ リ、ヨコナギ、白黒 触、ヨコナギ	2.5Y6/1灰灰	10Y4/2					
0011	hd	SK3008	020028	前庭壁	竹	麻	H-44	13.5	3.9	13.6	ヨコナギ	円輪へタケヅリ、 ヨコナギ	7.5YH6/6附						
0012	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-44	13.3	4.6	13.5	ヨコナギ	円輪系灰灰、ヨコ ナギ	10YH7/1 灰白						
0013	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-50	12.5	4.3	13.2	ヨコナギ	円輪へタケヅリ、 ヨコナギ	2.5Y6/1灰灰						
0014	hd	SK3008	020027	前庭壁	竹	麻	H-50	13.8	4.8	14.0	ヨコナギ	円輪へタケヅリ、 ヨコナギ、白黒触、 ヨコナギ	SY6/1灰	7.5Y4/2					
0015	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-50	14.0	4.0	14.2	ヨコナギ	円輪へタケヅリ、 ヨコナギ	10YH6/1 灰灰						
0016	hd	SK3008	020027	前庭壁	竹	麻	H-44	13.0	4.4	13.2	ヨコナギ	ヨコナギ	2.5Y6/1灰灰						
0017	hd	SK3008	020012	前庭壁	竹	麻	H-44	14.0	3.5	14.2	ヨコナギ	円輪へタケヅリ、 ヨコナギ	2.5Y5/1灰灰						
0018	hd	SK3008	020012	前庭壁	竹	麻	H-44	16.0	4.0	12.7	ヨコナギ	ヨコナギ、圓輪へ タケヅリ	N6/1灰						
0019	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-44	10.5	4.7	11.0	ヨコナギ	ヨコナギ、圓輪へ タケヅリ	7.5Y5/1灰						
0020	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-44	10.8	3.9	11.1	ヨコナギ	圓輪へタケヅリ、 ヨコナギ、圓輪へ タケヅリ	7.5Y5/1灰						
0021	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-50	10.6	4.1	12.1	ヨコナギ	ヨコナギ、自然触、 圓輪へタケヅリ	2.5Y6/1灰灰						
0022	hd	SK3008	020026	前庭壁	竹	麻	H-44	11.4	4.4	13.0	ヨコナギ	ヨコナギ、ヘタケ ヅリ	SY5/1灰						
0023	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-44	11.0	5.0	13.6	ヨコナギ	ヨコナギ、圓輪へ タケヅリ	2.5Y7/2灰灰						
0024	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-44	13.8	4.4	14.4	ヨコナギ	ヨコナギ、圓輪へ タケヅリ	2.5Y6/1灰灰						
0025	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-44	10.9	4.7	12.9	ヨコナギ	ヨコナギ、圓輪へ タケヅリ	7.5Y6/1灰						
0026	hd	SK3008	020012	前庭壁	竹	麻	H-44	11.4	4.7	13.5	ヨコナギ	ヨコナギ、圓輪へ タケヅリ	7.5Y5/1灰						
0027	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-44	11.3	4.4	13.2	ヨコナギ、指輪	ヨコナギ、圓輪へ タケヅリ	10YH7/1灰 灰						
0028	hd	SK3008	020027	前庭壁	竹	麻	H-44	12.0	3.7	13.4	ヨコナギ	ヨコナギ、ヘタケ ヅリ	10YH5/2灰						
0029	hd	SK3008	020012	前庭壁	竹	麻	H-44	12.2	3.7	13.6	ヨコナギ	ヨコナギ、圓輪へ タケヅリ	10YH7/1灰						
0030	hd	SK3008	020027	前庭壁	竹	麻	H-14	10.2	3.4	13.4	ヨコナギ	ヨコナギ、指輪	2.5Y7/1灰灰						
0031	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-44	11.6	2.9	12.6	ヨコナギ	ヨコナギ、自然触、 圓輪へタケヅリ	2.5Y6/1灰灰						
0032	hd	SK3008	020027	前庭壁	竹	麻	H-44	15.4	4.6	15.6	ヨコナギ	ヨコナギ、指輪	2.5Y6/1灰灰						
0033	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-44	2.5	2.1	13.4	ヨコナギ	ヨコナギ、指輪	2.5Y5/1灰						
0034	hd	SK3008	020012	前庭壁	竹	麻	H-44	5.0	3.0	13.6	ヨコナギ	ヨコナギ、指輪	2.5Y7/2灰灰						
0035	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-11	2.7	2.7	13.6	ヨコナギ	ヨコナギ、圓輪へ タケヅリ	10YH7/1灰						
0036	hd	SK3008	020027	前庭壁	竹	麻	H-44	2.7	2.7	13.8	ヨコナギ	ヨコナギ、指輪	2.5Y6/1灰						
0037	hd	SK3008	020027	前庭壁	竹	麻	H-44	1.9	12.2	13.7	ヨコナギ	ヨコナギ	7.5YH7/1 明輪灰						
0038	hd	SK3008	020027	前庭壁	竹	麻	H-44	1.2	10.4	13.8	ヨコナギ	ヨコナギ、自然触、 明輪灰	7.5YH7/1 明輪灰						
0039	hd	SK3008	020027	前庭壁	竹	麻	H-44	10.6	3.5	13.9	ヨコナギ	ヨコナギ、自然触、 明輪灰	2.5Y6/1灰灰						
0040	hd	SK3008	020012	前庭壁	竹	麻	H-44	14.4	3.6	14.0	ヨコナギ	ヨコナギ、自然触	10YH7/1 灰灰	SY5/1					
0041	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-44	7.8	6.1	14.4	ヨコナギ	ヨコナギ、自然触	2.5Y6/1灰灰	オーバー					
0042	hd	SK3008	020027	前庭壁	竹	麻	H-44	13.1	3.9	14.7	ヨコナギ	ヨコナギ、圓輪へ タケヅリ	2.5Y7/2灰灰						
0043	hd	SK3008	020027	前庭壁	竹	麻	H-44	4.6	4.6	14.8	ヨコナギ	ヨコナギ、圓輪へ タケヅリ	2.5Y6/1灰灰						
0044	hd	SK3008	020012	前庭壁	竹	麻	H-44	6.0	4.8	14.9	ヨコナギ	ヨコナギ、自然触	SY6/1灰	10Y4/2					
0045	hd	SK3008	020027	前庭壁	竹	麻	H-44	2.8	2.8	15.0	ヨコナギ	ヨコナギ、指輪	2.5Y6/1灰白						
0046	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-44	16.2	7.6	15.0	ヨコナギ	ヨコナギ、指輪	SY6/1灰						
0047	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-117	29.0	8.4	16.0	ヨコナギ	ヨコナギ、指輪	SY6/1灰						
0048	hd	SK3008	020011	前庭壁	竹	麻	H-447	34.0	17.0	16.0	ヨコナギ	ヨコナギ、ヘタケ ヅリ	2.5Y7/2灰灰						

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	区画	地名	付番	所在地	材質	層	幅	奥行	高さ	用途	内面	外面	野上(外部)	地主	備考
0049	9d	SK308	020911	田原町	陶?	H-44	幅 27.0	奥 12.0	堆 22.8	ヨコナタデ、脚オサエ、ヨコナタデ、タタキ	SY7/1 黒1				
0050	9d	SK308	020912	田原町	陶	H-447		奥 8.0		脚オサエ、ヘラケツリ	ヨコナタデ、タタキ	SY5/1 黒			
0051	9d	SK308	020906	田原町	陶		幅 24.6	奥 14.4	堆 25.5	ヨコナタデ、ヨコナタデ、ヨコナタデ、ヨコナタデ	ヨコナタデ、ヨコナタデ	2.5YB6/2 黒1			
0052	9d	SK308	020912	土師町	陶小瓦科		幅 12.4	奥 3.5		ヨコナタデ	ヨコナタデ	2.5YB6/4 椿			
0053	9d	SK308	020828	土師町	小壇帶		幅 9.0	奥 4.0		ヨコナタデ	ヨコナタデ	10YR6/3 黒			
0054	9d	SK308	020912	土師町	陶		幅 16.0	奥 17.0	堆 18.8	ヨコナタデ、全体にヨコナタデ、スズ付青瓦	ヨコナタデ、ヨコナタデ	7.5YB6/3 黒			
0055	9d	SK308	020827	土師町	陶		幅 18.0	奥 6.2		ヨコナタデ、ヨコナタデ、ヨコナタデ	ヨコナタデ、ヨコナタデ	7.5YB6/3 黒			
0056	9d	SK308	020827	土師町	陶		幅 18.0	奥 0.3		ヨコナタデ、スズ付青瓦	ヨコナタデ、ヨコナタデ	5YB6/3 黒			
0057	9d	SK308	020911	土師町	陶		幅 18.0	奥 9.0		ヨコナタデ、ヘタ、ヨコナタデ、脚オサエ	ヨコナタデ、ヨコナタデ	7.5YB6/3 黒			
0058	9d	SK308	020911	土師町	陶		幅 15.4			ヨコナタデ、ヨコナタデ、ヨコナタデ	ヨコナタデ、ヨコナタデ	7.5YB6/2 黒			
0059	9d	SK308	020828	土師町	陶		幅 16.0	奥 3.6		ヨコナタデ、ヘタ	ヨコナタデ、ヨコナタデ	10YR6/3 黑			
0060	9d	SK308	020827	土師町	陶		幅 16.0	奥 2.3		ヨコナタデ	ヨコナタデ	7.5YB6/4 黒			
0061	9d	SK308	020911	土師町	陶		幅 3.0	奥 7.0		調整-9M (ヨコナタデ、スズ付青瓦、ヘタ)、ヨコナタデ、ヨコナタデ	ヨコナタデ	7.5YB6/3 黒			
0062	9d	SK308	020903	土師町	陶		幅 3.2	奥 6.1		調整-9M、被熱のヘタ、表面剥離?	ヨコナタデ	10YR6/1 黒			
0063	9d	SK308	020911	土師町	台付窓?		幅 4.7			調整-9M (ヨコナタデ、スズ付青瓦、ヘタ)、ヨコナタデ、ヨコナタデ	ヨコナタデ	7.5YB6/3 黒			
0064	9d	SK308	020911	土師町	台付窓		幅 3.6			調整-9M、脚内面付青瓦、スズ付青瓦	ヨコナタデ	7.5YB6/4 黑			
0065	9d	SK308	020912	土師町	瓦		残幅 1.45	残高 0.8	厚 0.6	ヨコナタデ	ヨコナタデ	5YB6/4 黑			
0066	9d	SK308	020912	土師町	瓦		残幅 0.9			調整-9M (ヨコナタデ、スズ付青瓦、ヘタ)、ヨコナタデ	ヨコナタデ	10YR6/2 黑			
0067	9d	SK308	020912	土師町	瓦		残幅 0.6		0.7	ヨコナタデ	ヨコナタデ	2.5Y3/2 黑			
0068	9d	SK308	020912	土師町	瓦		残幅 0.55		0.68	ヨコナタデ	ヨコナタデ	2.5Y3/1 黑			
0069	9d	SK308	020912	土師町	瓦		残幅 0.4		0.71	ヨコナタデ	ヨコナタデ	10YR6/2 黑			
0070	9d	SK308	020912	石鶴町	瓦		上幅 0.41	高 0.2	下幅 0.45	表面台形、孔あり	表面台形、孔あり	CD-MB-Y10-BL60			
0071	11b	SB802	020821	田原町	杵窓	O-10.	幅 16.0	2.6		ヨコナタデ	ヨコナタデ	SY5/1 黑			
0072	11a	SB802	020826	田原町	杵窓	O-10.	幅 14.4	残 1.3		ヨコナタデ	ヨコナタデ	10YR6/3 にへく・青黒			
0073	11a	SB802	020826	田原町	杵窓	C-2	幅 17.3	残 1.2		ヨコナタデ	ヨコナタデ	2.5Y6/1 黒			
0074	11b	SB802	020821	田原町	杵窓	C-2	幅 18.4	残 1.6		ヨコナタデ	ヨコナタデ	2.5Y4/1 黒			
0075	11b	SB802	020909	田原町	杵窓	Se-代	幅 16.8	残 2.8		ヨコナタデ	ヨコナタデ	2.5Y5/1 黑			
0076	11b	SB802	020826	田原町	杵窓	Se-代	幅 16.0	残 3.3		ヨコナタデ	ヨコナタデ	2.5Y5/1 黑			
0077	11b	SB802	020821	田原町	杵窓	O-10.	幅 14.0	3.4	幅 10.0	ヨコナタデ	ヨコナタデ	SY5/1 黑			
0078	11a	SB802	020826	田原町	杵窓	O-10.	幅 1.6	残 13.0		ヨコナタデ	ヨコナタデ	2.5Y4/1 黒			
0079	11a	SB802	020826	田原町	杵窓	C-2	幅 11.4	3.5	幅 7.4	ヨコナタデ	ヨコナタデ	SY5/1 黑			
0080	11b	SB802	020821	田原町	杵	C-2	幅 11.8	4.1		ヨコナタデ	ヨコナタデ	SY5/4/2 黒			
0081	11a	SB802	020826	田原町	杵窓	C-2	幅 2.7	残 7.2		ヨコナタデ	ヨコナタデ	SY5/4/2 黒			
0082	11b	SB802	020821	田原町	杵窓	C-2	幅 10.6	残 3.9		ヨコナタデ	ヨコナタデ	10YR6/3 にへく・青黒			
0083	11a	SB802	020826	田原町	杵窓	O-10.	幅 1.6	残 10.4		ヨコナタデ	ヨコナタデ	SY5/1 黑			
0084	11a	SB802	020826	田原町	杵窓	C-2	幅 1.5	残 10.6		ヨコナタデ	ヨコナタデ	2.5Y4/1 黒			
0085	11a	SB802	020826	火薙御殿	杵	H-72	幅 1.4	残 7.3		ヨコナタデ	ヨコナタデ	10YR5/3 にへく・青黒			
0086	11a	SB802	020826	火薙御殿	杵	H-72	幅 1.6	残 7.4		ヨコナタデ	ヨコナタデ	10YR6/2 にへく・青黒			
0087	11b	SB802	020821	田原町	杵	C-2	幅 23.4	残 3.0		ヨコナタデ	ヨコナタデ	2.5Y5/1 黑			
0088	11a	SB802	020826	土師町	杵		幅 14.6	残 2.5		ヨコナタデ、被熱、被熱	ヨコナタデ、被熱、被熱	2.5Y6/3 黒			
0089	11a	SB802	020826	土師町	杵		幅 18.2	残 2.3		ヨコナタデ、ヘタ?	ヨコナタデ	10YR7/3 にへく・青黒			
0090	11a	SB802	020826	土師町	杵	Se-代	幅 22.0	残 2.1		ヨコナタデ	ヨコナタデ	2.5Y6/4 黑			
0091	11b	SB802	020910	土師町	杵	Se-代	幅 4.1			ヨコナタデ、ヘタ?	ヨコナタデ、ヨコナタデ	2.5Y6/4 黑			
0092	11a	SB802	020827	土師町	杵		幅 3.4			ヨコナタデ	ヨコナタデ	10YR6/6 40mm			
0093	11a	SB802	020826	土師町	杵		幅 2.4			ヨコナタデ	ヨコナタデ	10YR7/3 にへく・青黒			
0094	11a	SB802	020826	土師町	杵		幅 22.0	残 3.4		ヨコナタデ	ヨコナタデ	2.5Y6/6 椿			
0095	11b	SB802	020826	土師町	杵	Se-代	幅 7.7			ヨコナタデ	ヨコナタデ	2.5Y6/4 にへく・青黒			
0096	11b	SB802	020821	田原町	杵	Se-代	幅 1.6			ヨコナタデ	ヨコナタデ	2.5Y6/4 にへく・青黒			
0097	11b	SB802	020826	土師町	杵	Se-代	幅 4.2	残 6.0		ヨコナタデ	ヨコナタデ	SY6/4 にへく・青黒			
0098	11b	SB802	020826	土師町	杵		幅 3.0	残 0.0		ヨコナタデ	ヨコナタデ	2.5Y6/6 椿			

遺物一覧表

登録号	登録日	日付	地名・材質	縦	横	厚	U断面積	断面積	断面形状	最大寸法	内面	外面	動土(外壁)	地主	備考	
0009 12b	S007 9	200828	羽衣町 鉄	C-2 or 1-41	馬 15.4	3.5	16.0	ヨコナデ、スヌ付 等	回転ヘタケイズ、 ヨコナデ	2.5YH/1 露灰						
0100 12b	S007 9	200902	羽衣町 鉄	C-2	馬 17.6	馬 1.8	16.0	ヨコナデ	ヨコナデ、自然輪	2.5YH/1 露灰						
0101 12b	S007 9	200903	羽衣町 鉄	C-2	馬 15.0	馬 1.9	16.5	ヨコナデ	回転ヘタケイズ、 ヨコナデ	2.5YH/3-2 黒糊						
0102 12a	S007 9	200903	羽衣町 鉄	1-41	馬 12.4	4.5	16.2	ヨコナデ、底面 等	ヨコナデ、自然輪、 回転ヘタケイズ	2.5YH/1 露灰						
0103 11b	S007 9	200902	羽衣町 鉄	1-41	馬 15.6	馬 3.2	16.0	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YH/1 露灰						
0104 12a	S007 9	200906	羽衣町 鉄	1-41	馬 15.8	馬 2.0	16.1	ヨコナデ	ヨコナデ	10YH/6/3 に点々・露糊						
0105 12a	S007 9	200903	羽衣町 鉄	C-2	馬 1.7	馬 11.8	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘ タケイズ	10YH/6/5 に点々・露糊						
0106 12	S007 9	200905	羽衣町 鉄	1-17 or C-2	馬 1.7	馬 12.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YH/1 露灰						
0107 11a	S007 9	200827	羽衣町 鉄	1-17 or C-2	馬 1.2	馬 8.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘ タケイズ	ヨコナデ、10YH/6/2 露灰							
0108 12b	S007 9	200903	羽衣町 鉄	1-41	馬 3.3		ヨコナデ	ヨコナデ、自然輪	10YH/6/1 露灰							
0109 12b	S007 9	200903	羽衣町 鉄	1-41	馬 2.8		ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YH/1 露灰							
0110 12b	S007 9	200903	羽衣町 鉄	1-17 or C-2	馬 1.2		ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘ タケイズ	10YH/6/1 露灰							
0111 12b	S007 9	200903	羽衣町 鉄	1-25	馬 13.4	馬 2.8	16.0	ヨコナデ、ハラツ 等	ヨコナデ	2.5YH/1 露灰						
0112 11b	S007 9	200904	羽衣町 鉄	7c	馬 1.3		ハラツ	ハラツ	10YH/6/1 露灰							
0113 12a	S007 9	200903	上野町 鐵	8c	馬 2.2		ヨコナデ、ハサ 調整不明	ヨコナデ、ハサ	10YH/6/6 桜							
0114 11a	S007 9	200905	上野町 鐵	8c	馬 2.0		調整不明	調整不明	10YH/6/6 桜 に点々・露糊							
0115 12b	S007 9	200905	上野町 鐵	8c	馬 23.4	馬 3.2	調整不明	調整不明	2.5YH/4 に点々・露糊							
0116 12a	S007 9	200903	上野町 鐵	8c	馬 5.0		16.0	ヨコナデ、指オサ エ	ヨコナデ、指オサ エ	10YH/7/3 に点々・露糊						
0117 12b	S007 9	200908	上野町 鐵	8c	馬 4.8		16.0	ヨコナデ、ハサ 調整不明	ヨコナデ、ハサ	2.5YH/6 桜						
0118 12b	S007 9	200808	上野町 鐵	8c	馬 25.6	馬 2.1	ヨコナデ、ヨコハ カ	ヨコナデ、ヨコハ カ	10YH/7/3 に点々・露糊							
0119 11b	S009	200905	羽衣町 鉄	NN32	馬 3.5		16.0	ヨコナデ	回転ヘタケイズ、 ヨコナデ、自然輪	5YH/1 露灰						
0120 11b	S009	200905	羽衣町 鉄	8c	馬 2.8		ヨコナデ	ヨコナデ	5.5YH/3 に点々・露							
0121 11g	S003 9	200921	羽衣町 鉄	C-2	馬 1.3		ヨコナデ	回転ヘタケイズ、 重ね地輪、 ヨコナデ	10YH/1 露灰							
0122 11g	S003 9	200921	羽衣町 鉄	7c~ 代	馬 1.6	馬 3.2	16.0	ヨコナデ	ヨコナデ	5YH/4 露輪						
0123 11g	S003 9	200922	羽衣町 鉄	A-41 直絞	馬 13.8	馬 4.0	16.0	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YH/9 に点々・露						
0124 11g	S003 9	200922	羽衣町 鉄	O-53	馬 1.4	馬 7.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転直 絞	ヨコナデ、回転直 絞	7.5YH/9/2 に点々・露						
0125 11g	S003 9	200912	羽衣町 鉄	ハサウ	1-17	馬 11.6	馬 3.8	11.6	ヨコナデ	ヨコナデ	5YH/1 露灰					
0126 11g	S003 9	200921	羽衣町 鉄	直絞	C-2	馬 4.0	ヨコナデ	ヨコナデ、自然輪	2.5YH/4 露灰							
0127 11g	S003 9	200922	羽衣町 鉄	有高鉄	H-11	馬 1.2	馬 8.4	ヨコナデ	ヨコナデ	10YH/1 露灰						
0128 11g	S003 9	200922	羽衣町 鉄	直絞	馬 15.	馬 0.9	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YH/4 露灰						
0129 11g	S003 9	200911	羽衣町 鉄	H-44	馬 5.4	馬 10.0	ヨコナデ、リサ、 ヨコナデ、自然輪	ヨコナデ、リサ、 ヨコナデ	5YH/1 露灰							
0130 12a	S003 9	200911	羽衣町 鉄	H-44	馬 2.2	馬 12.6	ヨコナデ	ヨコナデ	10YH/1 露灰							
0131 11g	S003 9	200922	羽衣町 鉄	直?	不明	馬 3.8	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YH/3 露輪							
0132 11g	S003 9	200922	羽衣町 鉄	直	H-44	馬 12.8	馬 5.1	ヨコナデ	ヨコナデ、レガタ?	10YH/1 露灰						
0133 11g	S003 9	200921	羽衣町 鉄	7c~ 代	直	馬 4.0	馬 4.2	2.1	ヘラケイズ	ヘラケイズ	2.5YH/1 露灰					
0134 11g	S003 9	200921	羽衣町 鉄	直	馬 3.9		ヨオサニ?	ヨオサニ?	2.5YH/1 露灰							
0135 11g	S003 9	200922	上野町 鉄	直	馬 2.3		調整不明	調整不明	2.5YH/4 に点々・露							
0136 12f	S005 9	200823	羽衣町 鉄	直	馬 2.9		ヨコナデ	ヨコナデ、直	N5c 露							
0137 12f	S005 9	200823	羽衣町 鉄	直	馬 3.2		ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YH/1 露輪							
0138 12f	S005 9	200823	羽衣町 鉄	直	馬 3.3		17.0	ヨコナデ、自然輪	ヨコナデ、自然輪	2.5YH/1 露灰						
0139 12f	S005 9	200823	羽衣町 鉄	直	馬 3.5		ヨコナデ	ヨコナデ、直	C30-M40 直輪、直絞	10YH/1-6.0						
0140 12f	S005 9	200823	羽衣町 鉄	直	馬 4.4		ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YH/1 露灰							
0141 12f	S005 9	200912	羽衣町 鉄	直	馬 4.4		ヨコナデ	ヨコナデ	5YH/1 露灰							
0142 12f	S005 9	200923	羽衣町 鉄	直	馬 3.8		ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YH/1 露灰							
0143 12f	S005 9	200912	羽衣町 鉄	直	馬 4.4	馬 8.6	ヨコナデ	ヨコナデ、透	2.5YH/1 露灰							
0144 12b	S005 9	200912	羽衣町 鉄	直	馬 1.8		ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YH/1 露灰							
0145 12b	S005 9	200912	羽衣町 鉄	直	馬 7.5		ヨオサニ	ヘラケイズ	10YH/2 露輪							
0146 11b	S004 9	200822	羽衣町 鉄	C-2	馬 1.4		ヨコナデ、一部ス トジ有	ヨコナデ	10YH/5/1 露灰							
0147 11b	S004 9	200822	羽衣町 鉄	直	不明	馬 2.9	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YH/1 露灰							
0148 10e	S004 9	200823	羽衣町 鉄	直	馬 1.5	3.0	ヨコナデ	ヨコナデ、ヘタ ケイズ、跡・小切 痕?	10YH/2/2 露 輪							
0149 11c	S004 9	200823	直絞	H-72	馬 1.6	馬 7.7	ヨコナデ	ヨコナデ、直絞、 横筋、直輪	10YH/7/2 露輪							
0150 11c	S004 9	200822	羽衣町 鉄	H-44	馬 5.1		ヨコナデ	ヨコナデ、一部 自然輪、透	2.5YH/1 露灰							
0151 10e	S004 9	200823	羽衣町 鉄	直	馬 2.9	馬 8.6	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YH/1 露灰							
0152 11c	S004	200903	羽衣町 鉄	H-50	馬 1.3	馬 8.4	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YH/5 露灰							
0153 10e	S004 9	200822	羽衣町 鉄	H-44	馬 5.6		ヨコナデ	ヨコナデ、自然輪、 透	10YH/2 露輪							
0154 10e	S004 9	200822	上野町 鉄	直	馬 1.1	馬 5.6	ヨコナデ	ヨコナデ、透	10YH/4 に点々・露輪							
0155 10e	S004 9	200823	上野町 鉄	直	馬 3.3		ヨコナデ	ヨコナデ、透	10YH/4 に点々・露輪							

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	区画	遺跡名	日付	地図	材質	層	幅	特徴	UUT	UTL	底面	底面	底面	内面	外面	野上(外部)	地主	備考	
0156	11e	S004 N	200823	羽根堀	備?	H-44	幅 25.8	高 11.8		幅 22.0	ヨコナギ、ベック	ヨコナギ、タガ	ヨコナギ	ヨコナギ、ベック	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	
0157	10e	S004 N	200823	東西北山系	山系構	鶴之島	幅 12.9	高 3.0	幅 4.9	幅 13.4	ヨコナギ								
0158	10e	S004 N	200823	東西北山系	山系構	鶴之島	幅 7.9	高 1.5		幅 6.0	ヨコナギ、自然樹	ヨコナギ、自然樹	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	
0159	10e	S009 N	200829	羽根堀	石井利左衛門?	Gc	高 1.8				ヨコナギ								
0160	10e	S008 B	200910	羽根堀	井戸	C-2		高 1.4			ヨコナギ								
0161	10e	S008 B	200829	羽根堀	井戸	O-10		高 1.1			ヨコナギ								
0162	11e	S008 B	200910	羽根堀	井戸	H-44	高 4.3		幅 13.8	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	
0163	10e	S008 B	200829	灰転陶器	井戸	K-90		高 1.5	幅 6.8	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	
0164	10e	S008 B	200827	灰転陶器	井戸	K-90		高 1.9			灰輪								
0165	10e	S008 B	200827	羽根堀	井戸	O-10		高 1.5	幅 13.2	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	
0166	10e	S008 B	200827	羽根堀	溝	H-11		高 1.6	幅 7.6	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	
0167	10e	S008 B	200809	羽根堀	井戸	H-11		高 2.0			自然転石溝、3.0								
0168	11d	S008 N	200904	羽根堀	溝	H-11		高 1.7	幅 8.0	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	
0169	10e	S008 N	200917	羽根堀	溝	H-11		高 1.6			ヨコナギ								
0170	10e	S008 N	200829	土塁跡	土塁	1.28		高 4.1		1.3	調整不規								
0171	10e	S008 N	200807	羽根堀	井戸	O-10	以降	高 7.3		ヨコナギ、自然樹	ヨコナギ、自然樹	ヨコナギ、自然樹	ヨコナギ、自然樹	ヨコナギ、自然樹	ヨコナギ、自然樹	ヨコナギ、自然樹	ヨコナギ、自然樹	ヨコナギ、自然樹	
0172	10e	S008 N	200829	土塁跡	土塁	二河町	幅 16.0	高 1.4			調整不規								
0173	10e	S008 N	200829	土塁跡	土塁	二河町	幅 20.0	高 8.2		幅 20.0	ヨコナギ、ハケ								
0174	10e	S008 N	200917	土塁跡	井戸	9c 代?	幅 19.8	高 7.1		幅 20.1	ヨコナギ、ハケ、サ	ヨコナギ、サ	ヨコナギ、サ						
0175	10e	S008 B	200829	土塁跡	井戸	9c 代?		高 3.6	幅 7.2		調整不規	調整不規							
0176	12e	S008 B	200826	羽根堀	井戸	H-63	幅 14.8	高 5.4		幅 15.4	ヨコナギ								
0177	12e	S008 B	200823	羽根堀	井戸	H-63	幅 13.8	高 6.0		幅 16.4	ヨコナギ								
0178	12e	S006	200904	土塁跡	井戸	13.8	高 3.7				調整不規 (ヨコナギ)								
0179	—	S009	200911	羽根堀	井戸	7 ~ 8c		高 9.4			ヨコナギの木立 (ヨコナギ)								
0180	—	S0231	200910	土塁跡	小空堀		幅 7.7	高 9.8		幅 10.0	ヨコナギ、サ								
0181	11e	S0239	200903	羽根堀	井戸	H-11	幅 11.2	高 4.8		幅 11.8	ヨコナギ								
0182	11e	S0239	200902	羽根堀	井戸	Muli Z	幅 11.0	高 5.2		幅 12.0	ヨコナギ								
0183	11e	S0239	200903	土塁跡	井戸		幅 2.5				ヨコナギ								
0184	12a	S0259	200909	羽根堀	井戸	H-50	幅 10.8	高 3.7		幅 11.1	ヨコナギ								
0185	—	S0268	200910	羽根堀	井戸	H-11	幅 9.2	高 5.2			ヨコナギ								
0186	—	S0253	200910	羽根堀	井戸	9c	幅 11.8	高 3.6			ヨコナギ								
0187	—	S0253	200910	土塁跡	台付	松原川	幅 5.5	高 8.6			調整不規								
0188	—	S0253	200910	土塁跡	台付	松原川	幅 4.4	高 8.2~8.6			ヨコナギ								
0189	—	S0253	200910	土塁跡	井戸	松原川 1 or II	幅 18.0	高 7.0			ヨコナギ								
0190	11d	S0262	200903	羽根堀	井戸	6c		高 6.2			透かし入り、ヨコナギ								
0191	10d	S0245	200911	羽根堀	井戸	C-2	幅 12.6	高 4.6	幅 5.9	幅 12.8	ヨコナギ								
0192	11b	S0242	200909	土塁跡	井戸		幅 22.0	高 9.5		幅 22.8	ヨコナギ								
0193	12b	S0249	200917	土塁跡	井戸		幅 19.0	高 5.3		幅 20.0	ヨコナギ								
0194	12b	S0249	200917	土塁跡	井戸	9c	幅 4.2				ヨコナギ								
0195	12b	S0249	200917	土塁跡	井戸	9c 代?	幅 23.8	高 4.4		幅 24.0	ハケ								
0196	11c	S0248	200725	灰転陶器	井戸	O-23	幅 16.0	高 2.6		幅 16.2	ヨコナギ								
0197	11c	S0248	200725	白色転陶器	井戸		幅 11.2	高 5.8			ヨコナギ								
0198	13a	S0242	200910	灰転陶器	井戸		幅 9.0	高 7.0			ヨコナギ								
0199	11c	S0242	200730	灰転陶器	井戸	H-72	幅 11.0	高 6.6			ヨコナギ								
0200	12b	S0245	200729	灰転陶器	井戸	G-90	幅 9.0	高 6.0			ヨコナギ								
0201	12b	S0245	200730	灰転陶器	井戸	G-90	幅 9.0	高 6.1	幅 7.4		ヨコナギ								
0202	12e	S0245	200730	羽根堀	井戸	9c 代?		高 9.7			ヨコナギ								
0203	—	表記	200920	土塁跡	井戸	S字裏 D 前	幅 10.7	高 4.4			ヨコナギ								
0204	11c	電レシ	200514	土塁跡	井戸	S字裏 D 前	幅 12.0	高 3.7			ヨコナギ								
0205	10d	施出田	200906	土塁跡	井戸	S字裏 D 前	幅 13.8	高 2.9			ヨコナギ								

遺物一覧表

登録番号	登録年月	登録者名	日付	場所	材質	縦幅	横幅	厚さ	目次番号	説明	内面	外面	出土(外因)	地主	備考
0206	10e	SK215	200720	土師器	新	宇佐市D都 野川1丁 目	縦15.0	横4.8		ヨコナデ、下平調 整不規	ヨコナデ、あらい ハサ	10YR7/3 にえいの施			
0207	12b	斎田屋	200813	土師器	宇田町東	地河1丁 目	縦12.2	横3.2		ヨコナデ	ヨコナデ、あらい ハサ	7.5YR7/6 梯			
0208	11b	斎田屋	200808	土師器	新		縦12.7	横3.9	6.0	13.4	ケ、丁子調整不 規、指オサズ、和木目 あり?	ヨコナデ、和木目 あり?	7.5YR7/4 洗施		
0209	11e	斎田屋	200808	土師器	鉢?	2e 代	縦12.4	横4.8		ヨコナデ、ハサ	ヨコナデ、ハサ	7.5YR6/4 にえいの施			
0210	9d	斎田屋	200806	土師器	鉢	地河1丁 目	縦12.6	横5.9		ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/2 にえいの施			
0211	13f	SK50	200613	土師器	高井	地河1丁 目	縦14.0	横3.4		ヨコナデ	ヨコナデ	5YR7.6 梯			
0212	9d	斎田屋	200806	土師器	高井	地河1丁 目	縦17.2	横5.0		ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/3 2.5YR7/6 梯			
0213	12b	斎田屋	200808	土師器	鉢	地河1丁 目	縦5.5	横10.0		上部調不規、和 オサズ、ヨコナデ	上部調不規、和 オサズ、ヨコナデ	10YR7/2 にえいの施			
0214	13b	斎田屋	200911	土師器	鉢	地河1丁 目	縦5.5	横9.0		上部調不規、和 オサズ	上部調不規、和 オサズ	10YR6/2 洗施			
0215	—	SX02	200624	土師器	鉢	地河1丁 目	縦4.5	横8.8		上部調不規、和 オサズ	上部調不規、和 オサズ	10YR7/3 にえいの施			
0216	10e	SK215	200720	土師器	鉢	地河1丁 目	縦3.0	横8.0		上部調不規、和 オサズ	上部調不規、和 オサズ	10YR7/2 にえいの施			
0217	13e	SK8-4	200712	土師器	高井?	中古 手	縦4.5	横7.0		上部調不規、和 オサズ	上部調不規、和 オサズ	10YR7/2 にえいの施			
0218	11e	斎田屋	200827	土師器	鉢	地河1丁 目	縦2.5	横7.0		上部調不規	上部調不規	10YR6/4 にえいの施			
0219	10e	斎田屋	200807	土師器	鉢	地河1丁 目	縦2.3	横7.0		上部調不規、和 オサズ	上部調不規、和 オサズ	10YR6/6 梯			
0220	11e	斎田屋	200808	土師器	鉢	中古~ 初期	縦3.0	横6.4		調整不規	調整不規	10YR6/3 洗施			
0221	11e	斎田屋	200808	土師器	筒形土器類	中古~ 初期	縦3.9	横3.8		しばり	ナダ?	5YR6/6 梯			
0222	12b	斎田屋	200805	土師器	鉢		縦1.8	横7.0		指オサズ	ハサ、和木目あり	10YR6/2 洗施			
0223	9d	斎田屋	200806	土師器	高井	地河1丁	縦5.8	横8.0		しばり、ハタケリ タカガタケリ リ、ヨコナデ	しばり、ハタケリ タカガタケリ リ、ヨコナデ	7.5YR6/6 梯			
0224	10e	斎田屋	200806	土師器	高井	地河1丁 目	縦5.0	横7.4		ハタケリ?、ヨコ ナデ?	ハタケリ?、ヨコ ナデ?	10YR6/3 洗施			
0225	9d	SK73	200624	土師器	鉢	2e 代	縦19.4	横7.7		調整不規	調整不規	10YR7/1 洗			
0226	11f	斎田屋	200812	土師器	鉢	伊勢野	縦18.0	横3.3		ヨコナデ、ハサ	ヨコナデ、ハサ	10YR7/4 にえいの施			
0227	11g	斎田屋	200812	土師器	鉢	伊勢 野?	縦6~7c	横2.8		ヨコナデ、ハサ	ヨコナデ	10YR6/3 にえいの施			
0228	11j	SK147	200705	土師器	鉢	昭和野	2e 代	縦19.0	横5.8		ハサ、指オサズ	ヨコナデ、ハサ	5YR6/6 梯		
0229	12g	斎田屋	200813	土師器	鉢	昭和野	前半	縦19.4	横4.5		ヨコナデ、ハサ	ヨコナデ、ハサ	7.5YR6/4 洗施		
0230	11f	斎田屋	200812	土師器	鉢	昭和野	2e 代	縦22.6	横9.8	23.0	ヨコナデ、ハサ	ヨコナデ、ハサ	10YR6/6 明治期		
0231	9d	斎田屋	200806	土師器	鉢	三河型	8c 代	縦26.0	横4.2		調整不規	調整不規	2.5Y/4/2 始発者		
0232	12b	斎田屋	200822	土師器	鉢	不明	縦24.0	横3.6		細かいハサ	指オサズの跡ハサ タカガタケリ	10YR7/2 にえいの施			
0233	11f	斎田屋	200909	土師器	鉢	伊勢野	6~7c	縦2.6		調整不規	調整不規	10YR7/2 にえいの施			
0234	11g	斎田屋	200812	土師器	鉢	伊勢野	2e 代	縦1.9		ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/6 梯			
0235	11e	斎田屋	200809	土師器	鉢	三河型	8c 代	縦2.6		調整不規	調整不規	2.5Y/6/1 洗			
0236	10e	斎田屋	200814	土師器	鉢	三河型	8c 代	縦1.3		調整不規	調整不規	2.5Y/7/1 洗			
0237	9c	東トモ トモシ	200514	土師器	鉢		縦8.9			ヨコナデ、指オサズ ハサの跡ヨコナデ	ヨコナデ、指オサズ ハサの跡ヨコナデ	10YR7/3 にえいの施			
0238	13f	南レ ン	200507	土師器	鉢		縦4.6			ケズリ?、ハサ	チナハサ	5YR6/6 梯			
0239	—	吉田	—	土師器	支脚?		縦5.9			ハラシリ?	—	2.5YR6/6 明治期			
0240	9d	斎田屋	200813	土師器	上野または 押野製陶		縦2.4			細孔?	空孔あり	2.5Y/3/1 にえいの施			
0241	9b	斎田屋	200720	土師器	野山土器		縦2.5			指オサズ	—	2.5Y/2/2 始発者			
0242	12a	斎田屋	200822	土師器	土器		縦3.1			指オサズ	—	7.5YR/2 洗			
0243	11e	斎田屋	200806	別器皿	有柄高脚盃	H-11	13.3	6.3	12.3	ヨコナデ	回転ハタケリ? ヨコナデ	10YR7/2 にえいの施			
0244	13b	斎田屋	200827	別器皿	有柄高脚盃	H-11	10.5	縦5.5	11.8	ヨコナデ	回転ハタケリ? ヨコナデ	2.5Y/6/1 洗			
0245	11e	斎田屋	200808	別器皿	有柄高脚盃	9c 代	縦4.9		10.4	ヨコナデ	自然施、ヨコナデ	2.5Y/7/1 洗			
0246	11e	斎田屋	200808	別器皿	有柄高脚盃	H-11	7.6	縦2.4		ヨコナデ	回転ハタケリ? ヨコナデ	7.5Y/3/1 オーブ施			
0247	11e	斎田屋	200809	別器皿	高井	H-11	縦11.2	4.7	12.6	ヨコナデ	回転ハタケリ? ヨコナデ、自然施、 鍍金?	7.5Y/4/1 洗 オーブ施			
0248	11e	斎田屋	200808	別器皿	高井	H-11	縦4.4		12.6	ヨコナデ	回転ハタケリ? ヨコナデ	5Y/1/1 洗			
0249	11e	斎田屋	200808	別器皿	高井高脚盃	H-61	13.6	縦4.5	12.6	ヨコナデ、青む ヨコナデ	回転ハタケリ? ヨコナデ、自然施、 鍍金?	2.5Y/5/1 洗			
0250	11e	斎田屋	200808	別器皿	高井	H-44	縦9.2	横4.0	10.6	ヨコナデ	回転ハタケリ? ヨコナデ	2.5Y/4/1 洗			
0251	13f	南レ ン	200507	別器皿	高井	H-44	縦12.2	横3.4	12.2	ヨコナデ	回転ハタケリ? ヨコナデ	5Y/1/1 洗			
0252	13f	南レ ン	200507	別器皿	高井	H-44	縦8.3		13.9	ヨコナデ	回転ハタケリ? ヨコナデ	3Y/4/1 洗			
0253	10e	斎田屋	200513	別器皿	高井	H-11	縦13.9	横2.6	14.6	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y/6/1 洗			
0254	11e	斎田屋	200800	別器皿	高井	H-11	縦12.2	横4.1	12.6	ヨコナデ	ヨコナデ	5Y/1/1 洗			
0255	13f	南レ ン	200507	別器皿	高井	H-11	縦14.8	横3.0	15.4	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y/8/1 洗			
0256	10e	斎田屋	200514	別器皿	高井	H-11	4.6~5.0	4.9	11.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ハ タケリ?	2.5Y/5/4 にえいの施			
0257	13f	南レ ン	200507	別器皿	高井	H-11	縦3.6		14.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ハ タケリ?	2.5Y/6/1 洗			

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	位置	日付	地元・材質	断面	特徴	U管φ300	断面φ300	直径φ300	内面	外面	割土(外部)	柱	参考
0258 1te	東側通9	202827	旧志摩	柱身	H-11			φ4.5	φ3.6	壁11.4	ヨコナギ、 ラケツリ	10YR6/1 灰	
0259 8te	SK2H1	202823	旧志摩	柱身	H-11	壁11.8	残4.4		推14.6	ヨコナギ	ヨコナギ、回転ヘラク セリ	SYW/1 灰	
0260 10M	東側通	202806	旧志摩	柱身	H-11	壁5.8～ 11.8	5.1	5.4	壁0.2～ 3.4	ヨコナギ、 ラケツリ	ヨコナギ、 ラケツリ	SYW/1 灰	
0261 10M	SK2A0	202730	旧志摩	柱身	H-11	壁7.8	4.2	6.6	推10.2	ヨコナギ	ヨコナギ、わずか にラケツリ	7.5YR4/1 灰	
0262 10te	南側	202808	旧志摩	柱身	M柱2	壁11.8	4.0		推14.2	ヨコナギ	ヨコナギ、ヘラケ ツリ	SYW/1 灰	
0263 13M	南側トレー ン	202507	旧志摩	柱身	H-63	壁9.6	8.4	推11.8	ヨコナギ	ヨコナギ、回転ヘ ラケツリ	7.5YR9/4 にC-1地		
0264 9te	東側通	202806	旧志摩	柱身	H-63	壁9.9	4.3		推12.4	ヨコナギ	ヨコナギ、回転ヘ ラケツリ	SYW/1 灰	
0265 9te	東側通	202806	旧志摩	柱身	H-44	壁10.9	4.2	3.4	推12.8	ヨコナギ	ヨコナギ、回転ヘ ラケツリ	SYW/1 灰	
0266 8d	SK2T3	202624	旧志摩	柱身	H-44	壁12.2	4.2	4.6	推14.0	ヨコナギ	ヨコナギ、回転ヘ ラケツリ	10YR6/1 灰	
0267 10M	東側通	202806	旧志摩	柱身	H-44			残3.6		ヨコナギ	ヨコナギ、自然輪、 白雲母	10YR6/1 灰	
0268 13M	南側トレー ン	202507	旧志摩	柱身	H-44			残2.6		ヨコナギ	ヨコナギ、自然輪、 白雲母	10YR5/2 灰	
0269 —	東側通	202803	旧志摩	柱頭	C-2			残1.7		ヨコナギ	ヨコナギ、回転ヘ ラケツリ	2.5Y4/2 暗褐色	
0270 9d	東側通	202806	旧志摩	柱頭	不明			残1.6		ヨコナギ	ヨコナギ	SYW6/6 灰	
0271 11te	東側通	202802	旧志摩	柱頭	C-2			残2.7		ヨコナギ	ヨコナギ、ラケツリ アリ、ヨコナギ	2.5Y5/1 灰	
0272 1te	東側通	202809	旧志摩	柱頭	C-2			残1.7		ヨコナギ	ヨコナギ、回転ヘ ラケツリ	10YR5/6 灰	
0273 12te	東側通	202807	旧志摩	柱頭	C-2			残1.3		ヨコナギ	ヨコナギ、回転ヘ ラケツリ	2.5Y5/1 灰	
0274 11te	東側通	202808	旧志摩	柱頭	C-2			残1.6		ヨコナギ	ヨコナギ、回転ヘ ラケツリ	SYW/1 灰	
0275 11te	東側通	202816	旧志摩	柱頭	不明			残1.6		ヨコナギ	ヨコナギ	10YR6/1 灰	
0276 1te	東側通	202809	旧志摩	柱頭	C-2	壁13.8	残1.8		推14.0	ヨコナギ	回転ヘラケツリ、 ヨコナギ	7.5YR6/6 灰	
0277 1te	東側通	202808	旧志摩	柱頭	O-10	壁13.8	残2.2		推14.1	ヨコナギ	回転ヘラケツリ、 ヨコナギ	2.5YR6/6 灰	
0278 11te	東側通	202809	旧志摩	柱頭	O-10	壁13.8	残2.3		推14.2	ヨコナギ	回転ヘラケツリ、 ヨコナギ	10YR6/3 にC-1地	
0279 11te	東側通	202812	旧志摩	柱頭	O-10	壁14.2	残1.5		推14.4	ヨコナギ	回転ヘラケツリ	7.5YR6/2 灰	
0280 11c	東側通	202807	旧志摩	柱頭	O-10	壁14.8	残1.8		推15.2	ヨコナギ	ヨコナギ	SYW6/4 にC-1地	
0281 12te	東側通	202828	旧志摩	柱頭	O-10	壁15.6	残1.4		推16.2	ヨコナギ	ヨコナギ	10YR6/1 にC-1地	
0282 12te	東側通	202807	旧志摩	柱頭	O-10	壁15.4	残1.8		推15.9	ヨコナギ	ヨコナギ、自然輪 回転ヘラケツリ、 ヨコナギ	SYW/1 灰	
0283 11te	東側通	202808	旧志摩	柱頭	C-2	壁16.3	残2.9		推16.8	ヨコナギ、若干不規 ル輪、ヨコナギ	ヨコナギ、ヘラケツリ、 ヨコナギ	SYW/1 灰	
0284 12te	東側通	202802	旧志摩	柱頭	C-2			残1.3		ヨコナギ	ヘラケツリのほか 、白雲母、ヨコナ ギ	7.5YR6/2 灰	
0285 11g	東側通	202812	旧志摩	柱頭	C-2	壁16.8	残1.5		推17.8	ヨコナギ	ヘラケツリ、白雲 母	2.5Y5/1 灰	
0286 10e	東側通	202807	旧志摩	柱頭	C-2	壁16.6	残2.1		推17.0	ヨコナギ	ヘラケツリ、白雲 母2種、ヨコナギ	10YR6/1 灰	
0287 13M	SK2H3	202610	旧志摩	柱頭	O-10		残1.6		ヨコナギ、 壁頭お	ヨコナギ、ヘラケツリ、 ヨコナギ	7.5YR6/3 にC-1地		
0288 12M	SK2C7	202731	旧志摩	柱頭	Se 壁半		残2.0			ヨコナギ、 回転ヘラケツリ	10YR6/1 灰		
0289 11te	東側通	202808	旧志摩	柱頭	C-2	壁18.4	残2.0		推17.9	ヨコナギ	ヨコナギ、ヘラケツリ、 ヨコナギ	10YR6/2 灰	
0290 11te	東側通	202808	旧志摩	柱頭	C-2	壁18.6	残2.0		ヨコナギ	ヨコナギ、ヘラケツリ、 ヨコナギ	10YR6/1 灰		
0291 11te	東側通	202808	旧志摩	柱頭	C-2	壁22.0	2.1		推22.2	ヨコナギ	ヨコナギ、ヘラケツリ、 ヨコナギ	10YR6/3 にC-1地	つまみなしは ほしい
0292 10te	東側通	202808	旧志摩	柱頭	C-2	壁23.7	残2.4		推22.4	ヨコナギ	ヨコナギ、ヘラケツリ、 ヨコナギ	10YR6/3 にC-1地	
0293 12te	東側通	202828	旧志摩	柱頭	不明	壁10.4	4.0	推16.8	ヨコナギ	ヨコナギ、ヘラケ ツリ、ヨコナギ	SYW/1 灰		
0294 11te	東側通	202808	旧志摩	柱頭	O-10	壁13.4	3.8	推11.2	推13.8	ヨコナギ	ヨコナギ、回転ヘ ラケツリ、 ヨコナギ	10YR6/2 灰	
0295 11te	東側通	202812	旧志摩	柱頭	O-10	壁1.2	壁6.4		ヨコナギ	ヨコナギ、静止系 回転	10YR6/1 灰		
0296 11te	東側通	202812	旧志摩	柱頭	O-10	壁3.0			ヨコナギ	ヨコナギ	7.5YR6/2 灰		
0297 11te	SK156	202723	旧志摩	柱頭	O-10	壁13.4	3.8	推11.2	推13.8	ヨコナギ	ヨコナギ、回転ヘ ラケツリ、 ヨコナギ	10YR6/2 灰	
0298 13te	東側通	202802	旧志摩	柱頭	不明	壁13.0	残3.4		推13.1	ヨコナギ	ヨコナギ	10YR6/1 灰	
0299 12te	東側通	202809	旧志摩	柱頭	O-10	壁1.2	壁11.0		ヨコナギ	ヨコナギ、回転ヘ ラケツリ	2.5YR6/3 にC-1地		
0300 12te	東側通	202813	旧志摩	柱頭	C-2	壁1.6	壁11.0		ヨコナギ	ヨコナギ、回転ヘ ラケツリ	10YR6/1 灰		
0301 11te	東側通	202813	旧志摩	柱頭	O-10	壁1.7	壁14.0		ヨコナギ	ヨコナギ、回転ヘ ラケツリ	SYR5/2 灰		
0302 11te	東側通	202807	旧志摩	柱頭	O-10	壁14.4	4.2	壁9.7	推14.0	ヨコナギ	ヨコナギ、回転ヘ ラケツリ	2.5Y6/1 灰	
0303 11te	東側通	202812	旧志摩	柱頭	C-2	壁13.6	3.6	推10.0	推14.0	ヨコナギ	ヨコナギ	SYW/1 灰	
0304 10e	東側通	202807	旧志摩	柱頭	O-10	壁2.0	壁9.0		ヨコナギ	ヨコナギ、回転ヘ ラケツリ	7.5YR6/2 灰		
0305 —	東側通	202803	旧志摩	柱頭	O-10	壁1.6	壁12.0		ヨコナギ	ヨコナギ、回転ヘ ラケツリ	10YR6/1 灰		
0306 1te	東側通	202808	旧志摩	柱頭	O-10	壁2.0	壁11.8		ヨコナギ	ヨコナギ、回転ヘ ラケツリ	2.5Y6/1 灰		

遺物一覧表

登録号	登録日	登録番号	目	材地・材質	縦	横	厚	U付年	前後(左)	前後(右)	左右(上)	内面	外側	動土(外側)	動土	備考	
0307 11e	202008	前田屋	舟形	舟形	不明	幅13.0	幅3.4	幅13.2	ヨコナヂ	ヨコナヂ	10YR5/2 白色						
0308 11b	202008	前田屋	舟形	舟形	不明	幅15.6	幅2.3	幅16.0	ヨコナヂ	ヨコナヂ	10YR1/1 白色						
0309 11e	202002	前田屋	舟形	舟形	O-10	幅2.1	幅0.8	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	21YR5/3に近 ラテラルの内側	10YR4/1 白色					
0310 11i	SK01	202006	前田屋	舟形	幅6-14	幅13.0	幅4.0	幅13.2	ヨコナヂ	ヨコナヂ	5YR6/1 白色	5YR6/1 白色					
0311 10e	202014	前田屋	舟形	舟形	幅6-78	幅13.2	幅3.9	幅13.6	ヨコナヂ	ヨコナヂ	10YR1/1 白色						
0312 11e	202008	前田屋	舟形	舟形	O-10	幅15.2	幅6.2	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	10YR5/1 白色	Nb: 舟底 リブ、自然輪、 腰から上四方にあ り	10YR2/2 オーブ型	314と同一か もしれない			
0313 10M	202006	前田屋	舟形	舟形	幅11	幅4.3	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	10YR7/1 白色	12					
0314 13f	南トレ ン	202007	前田屋	舟形	舟形	幅8.2	幅11.6	—	ヨコナヂ、自然輪	ヨコナヂ、自然輪	2.5YR5/1 白色	5YR2/2 オーブ型	312と同一か もしれない				
0315 10e	202012	前田屋	舟形	舟形	幅11	幅8.2	幅10.3	幅9.0	幅10.8	ヨコナヂ	ヨコナヂ	2.5YR4/3 に近い	2.5YR6/1 白色	10YR4/2 オーブ型			
0316 10M	SK240	202020	前田屋	舟形	舟形	幅6C	幅4.4	幅11.7	ヨコナヂ	ヨコナヂ、自然輪、 リブ	2.5YR6/1 白色						
0317 12b	202008	前田屋	舟形	舟形	H-50	幅17.6	幅5.2	幅17.8	ヨコナヂ	ヨコナヂ、リブ、 リブ	2.5YR6/1 白色						
0318 11b	202007	前田屋	舟形	舟形	H-50	幅3.4	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	5YR1/1 白色						
0319 11f	202012	前田屋	舟形	舟形	H-44	幅1.9	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	10YR1/1 白色						
0320 13f	南トレ ン	202007	前田屋	舟形	H-44	幅2.3	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	5YR1/1 白色	10YR4/2 オーブ型					
0321 9d	202006	前田屋	舟形	舟形	H-44	幅2.2	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	2.5Y/3/2(浅)						
0322 12e	202003	前田屋	舟形	舟形	H-44	幅3.4	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	10YR6/1 白色						
0323 11e	202009	前田屋	舟形	舟形	H-44	幅5.1	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	2.5YR5/1 白色						
0324 11e	202008	前田屋	舟形	舟形	H-111 至	幅2.7	幅8.0	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	2.5YR5/1 白色						
0325 10e	202021	前田屋	舟形	舟形	H-44	幅1.7	幅7.6	—	ヨコナヂ、自然輪	ヨコナヂ	5YR1/1 白色						
0326 12e	202008	前田屋	舟形	舟形	H-44	幅3.8	幅10.0	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	10YR5/1 白色						
0327 13f	南トレ ン	202007	前田屋	舟形	H-44	幅3.5	幅10.0	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	NB: 灰						
0328 10e	202014	前田屋	舟形	舟形	H-44	幅1.8	幅11.8	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	10YR5/1 白色						
0329 11c	202025	前田屋	舟形	舟形	H-11	幅3.5	幅10.0	—	ヨコナヂ、自然輪	ヨコナヂ、進し 四方に走る	2.5YR4/1 白色						
0330 11b	202021	前田屋	舟形	舟形	H-44 以前	幅3.1	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	2.5Y/7/1 白色						
0331 11e	202009	前田屋	舟形	舟形	合子	幅12.5	幅12.4	幅3.5	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ、一面 黒磨き	2.5Y/4/1 白色					
0332 13f	南トレ ン	202007	前田屋	ハサワ	6C 代	幅3.8	幅0.4	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ、脚部 ラテラル?	5Y/4/1 オーブ型						
0333 12i	SK155	202011	前田屋	短角舟	6C 代	幅7.8	幅7.6	幅12.3	ヨコナヂ	ヨコナヂ、足端 灰灰、底端自然輪	NB: 灰 灰灰、底端自然輪	10YR4/2 オーブ型					
0334 11f	202009	前田屋	直角舟	直角舟	～6C 代	幅4.5	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ、自然輪	3YR1/1 白色						
0335 10e	202008	前田屋	直角舟?	直角舟?	5C 代	幅2.7	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ、脚端灰 灰灰、自然輪	2.5YR6/1 白色						
0336 10e	202007	前田屋	直角舟?	直角舟?	6C 代	幅2.6	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ、自然輪、 自然輪	2.5Y/4/1 白色	子供または○ 通常					
0337 10b	202020	前田屋	舟	舟	H-44	幅9.0	幅3.8	幅9.4	ヨコナヂ、一部 ヨコナヂ	ヨコナヂ、一部自 然輪	5Y/1/1 白色	10YR4/1 白色					
0338 11d	202005	前田屋	舟	舟	O-10	幅2.8	幅8.8	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ、回転へ ラテラル?	2.5Y/5/2 船首者						
0339 11e	202009	前田屋	高井脚輪?	高井脚輪?	5～6C 代	幅2.3	幅11.0	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	5Y/1/1 白色						
0340 11d	202014	前田屋	高井脚輪?	高井脚輪?	6C 代	幅2.8	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ、あり	2.5YR6/1 白色						
0341 11b	202008	前田屋	舟	舟	不明	幅4.1	幅14.6	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	5Y/1/1 白色						
0342 11e	202027	前田屋	舟	舟	5～6C 代	幅12.6	幅4.3	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	2.5Y/6/1 白色						
0343 12i	SK155	202012	前田屋	脚輪	8C	幅12.8	幅5.5	—	ヨコナヂ、自然輪	ヨコナヂ、ラテラ ル?	5Y/1/1 白色	10YR6/3 （二）脚輪	10YR4/2 オーブ型				
0344 11f	202012	前田屋	脚輪	脚輪	7C 代	幅3.6	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	10YR7/4 に近い						
0345 11b	202020	前田屋	脚輪	脚輪	不明	幅3.7	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	2.5Y/6/2 （二）脚輪						
0346 11e	202009	前田屋	脚輪	脚輪	H-44	幅3.6	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	2.5Y/6/2 （二）脚輪						
0347 12a	202027	前田屋	脚輪	脚輪	7C 代	幅2.1	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	10YR8/2 （二）脚輪						
0348 10M	SK215	202021	前田屋	脚輪	NN-32	幅8.7	幅8.6	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ、ラテラ ル?	5Y/1/1 白色						
0349 11e	202008	前田屋	脚輪	脚輪	O-10	幅4.9	幅8.8	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ、脚端 切妻	2.5YR4/2 （二）脚輪						
0350 11b	202008	前田屋	脚輪	脚輪	不明	幅6.6	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ、脚輪、 ラテラル	5Y/4/1 白色						
0351 10M	SK240	202020	前田屋	脚輪	不明	幅3.5	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	5Y/1/1 白色						
0352 10e	202020	前田屋	脚輪	脚輪	H-44	幅3.1	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	5Y/1/1 白色						
0353 11d	202005	前田屋	脚輪	脚輪	不明	幅4.2	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ	5Y/1/1 白色						
0354 12c	202023	前田屋	舟	舟	不明	幅6.0	—	—	ヨコナヂ、脚輪 ラテラル?	ヨコナヂ、ラテラ ル?	2.5Y/6/1 白色	2.5Y/4/3 （二）脚輪					
0355 11b	202008	前田屋	舟	舟	117	幅23.4	幅5.1	—	ヨコナヂ、ヨコナヂ、 ヨコナヂ	ヨコナヂ、ラテラ ル?	2.5Y/5/1 白色						
0356 11e	202009	前田屋	舟	舟	117	幅29.2	幅12.7	幅20.4	ヨコナヂ	ヨコナヂ、ラテラ ル?	2.5Y/5/1 白色						
0357 10i	SK155	202012	前田屋	舟	7C 代	幅6.9	—	—	ヨコナヂ、ヘラサ キ	ヨコナヂ、ヘラサ キ	2.5Y/7/3 （二）脚輪						
0358 11g	202012	前田屋	舟	舟	不明	幅5.6	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ、ラテラ ル?	5Y/1/1 白色						
0359 11g	202012	前田屋	舟	舟	0-1117	幅3.5	—	—	ヨコナヂ	ヨコナヂ、ラテラ ル?	7.5YR6/3 に近い						

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	番号	日付	地名	材質	形	特徴	U面(φ)	裏面(φ)	直径(φ)	目錠(φ)	内面	外面	割土(外部)	輪	備考
0360	8d	鶴出田	020806	瓦板屋	瓦	O-10	丸 5.8	—	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ	2.5Y6/1 黄灰		
0361	11c	鶴出田	020807	瓦板屋	瓦	7 ~ 8c	丸 5.9	—	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ、ヘラケ ドリ	SY4/1 黄		
0362	11d	鶴出田	020809	瓦板屋	瓦	6c 代	丸 3.8	—	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ、タキ シ	7.5Y8/0/3 1.5~1.8		
0363	9d	鶴出田	020806	瓦板屋	瓦	6c 代	丸 6.1	—	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ、タキ シ	2.5Y6/1 黄灰		
0364	11e	鶴出田	020808	瓦板屋	瓦	7c 代	丸 8.3	—	—	—	ヨコナギ、ヨコハ マ	ヨコナギ	SY6/1 黄		
0365	10d	SK240	020730	瓦板屋	瓦 or 大型 瓦	7 ~ 8c	丸 3.8	—	—	—	—	ヨコナギ	SY6/1 黄		
0366	10d	SK196	020726	瓦板屋	瓦	7 ~ 8c	丸 9.0	—	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ、自然輪	2.5Y6/1 黄灰 オーリーブ		
0367	12d	SK222	020606	瓦板屋	瓦	K-90	丸 8.0	丸 2.1	—	—	瓦輪、ヨコナギ	瓦輪、ヨコナギ	2.5Y6/1 黄灰 オリーブ灰		
0368	8d	鶴出田	020806	瓦板屋	瓦板屋	K-90	丸 3.9	丸 9.2	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ、瓦輪	SY7/1 黄	SY6/4 オリーブ灰	
0369	11e	鶴出田 II	020718	瓦板屋	瓦	不明	丸 9.2	丸 9.5	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ、瓦輪	SY7/1 黄		
0370	12f	SK196	020724	瓦板屋	瓦	不明	丸 12.8	2.8	丸 5.6	推 13.0	ヨコナギ、瓦輪	ヨコナギ、瓦輪、マ ルチ	10Y9/2/1 10Y9/2/2 10Y9/2/3 10Y9/2/4		
0371	11c	鶴出田	020807	瓦板屋	瓦	H-72	丸 16.0	5.1	—	推 16.2	瓦輪、ヨコナギ	瓦輪、ヨコナギ、ヨ コハナ、瓦板屋切削	2.5Y7/2 黄		
0372	11d	鶴出田	020805	瓦板屋	瓦	K-90	丸 14.8	3.0	—	推 15.0	瓦輪、ヨコナギ	瓦輪、ヨコナギ、ヨ コハナ	10Y9/2/2 10Y9/2/3 10Y9/2/4		
0373	11d	鶴出田	020805	瓦板屋	小柄	O-53	丸 12.2	3.6	0.6	推 12.4	瓦輪、ヨコナギ	瓦輪、ヨコナギ、ヨ コハナ	10Y9/2/2 10Y9/2/3 10Y9/2/4		
0374	11j	SK247	020708	瓦板屋	瓦	O-53	丸 13.2	4.4	推 5.2	推 13.8	ヨコナギ	ヨコナギ、自然輪	2.5Y7/1 黄		
0375	11e	鶴出田	020807	瓦板屋	瓦	K-90	丸 14.6	3.1	—	推 15.0	ヨコナギ	ヨコナギ、瓦板屋 切削	2.5Y7/1 黄白		
0376	11b	鶴出田	020820	瓦板屋	瓦	O-53	丸 1.0	推 7.4	—	—	瓦輪、ヨコナギ	ヨコナギ、瓦板屋	10Y9/1 黄		
0377	8c 8d	鶴出田	020820	瓦板屋	瓦	K-90	丸 2.5	推 8.4	—	—	瓦輪、ヨコナギ	瓦輪、ヨコナギ、瓦 板屋切削	10Y9/8/2 黄 白		
0378	11e	鶴出田	020808	瓦板屋	瓦	K-90	丸 3.1	6.0	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ、瓦輪、マ ルチ	2.5Y9/8/2 黄 白		
0379	10d	SK240	020730	瓦板屋	瓦	K-90	丸 1.8	推 7.4	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ、瓦板屋	2.5Y6/2 黄		
0380	12b	鶴出田	020805	瓦板屋	瓦	O-53	丸 2.0	推 7.2	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ	SY7/1 黄白		
0381	11e	鶴出田 II	020718	瓦板屋	瓦	O-53	丸 4.3	推 8.0	—	—	瓦輪、ヨコナギ	ヨコナギ、瓦板屋	2.5Y6/2 黄		
0382	10d	SK240	020730	延喜寺山	山系	3 様式	丸 2.7	8.0	—	—	ヨコナギ、瓦輪、ヨ コハナ	ヨコナギ、瓦板屋 切削	2.5Y5/2 黄		
0383	10d	SK240	020730	瓦板屋	瓦	O-53	丸 2.4	推 7.5	—	—	ヨコナギ、瓦輪	ヨコナギ、瓦輪、マ ルチ	2.5Y6/2 黄		
0384	11c	鶴出田	020807	瓦板屋	瓦	O-53	丸 2.2	推 7.9	—	—	瓦輪、ヨコナギ	ヨコナギ、瓦板屋 切削	2.5Y6/1 黄		
0385	11c	鶴出田	020806	瓦板屋	瓦	K-14	丸 2.0	推 8.4	—	—	瓦輪、ヨコナギ	ヨコナギ	2.5Y6/2 黄		
0386	11b	鶴出田	020808	瓦板屋	瓦	白代寺	丸 1.8	推 6.6	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ、瓦板屋 切削	10Y9/2/1 黄 白		
0387	11c	鶴出田	020807	瓦板屋	瓦	O-53	丸 2.4	7.2	—	—	瓦輪、ヨコナギ	ヨコナギ、瓦板屋 切削	2.5Y6/2 黄		
0388	10d	SK240	020730	瓦板屋	瓦	O-53	丸 2.0	推 5.7	—	—	ヨコナギ、瓦輪	ヨコナギ、瓦板屋 切削	2.5Y7/2 黄白		
0389	11g	鶴出田	020812	瓦板屋	瓦	白代寺	丸 2.1	推 7.0	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ、瓦板屋 切削	2.5Y7/1 黄白		
0390	11c	鶴出田	020807	瓦板屋	瓦	H-72	丸 2.0	推 6.8	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ、瓦板屋 切削	2.5Y6/2 黄		
0391	10d	SK240	020730	延喜寺山	山系	3 様式	丸 2.0	推 7.2	—	—	ヨコナギ、瓦板屋 切削	ヨコナギ、瓦板屋 切削	2.5Y6/1 黄		
0392	10d	SK240	020730	瓦板屋	瓦	H-72	丸 1.8	推 7.6	—	—	ヨコナギ、瓦輪	ヨコナギ、瓦輪、マ ルチ	2.5Y7/1 黄白		
0393	11c	鶴出田	020807	瓦板屋	瓦	H-72	丸 1.8	6.3	—	—	瓦輪、ヨコナギ	ヨコナギ、瓦板屋 切削	2.5Y6/2 黄		
0394	11g	鶴出田	020812	瓦板屋	瓦	H-72	丸 2.1	推 8.0	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ	SY6/1 黄		
0395	8d	鶴出田	020806	瓦板屋	瓦	H-72	丸 2.5	推 7.8	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ、瓦板屋 切削	2.5Y7/1 黄		
0396	11c	鶴出田	020807	瓦板屋	瓦	K-90	丸 1.8	推 7.4	—	—	ヨコナギ、瓦輪	ヨコナギ、瓦板屋 切削	10Y9/8/1 黄 白		
0397	11a	鶴出田	020821	延喜寺山	山系	2 様式	丸 1.7	推 6.2	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ	2.5Y7/1 黄白		
0398	10d	SK240	020730	延喜寺山	山系	3 様式	丸 2.0	推 6.6	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ、瓦板屋 切削	2.5Y6/1 黄		
0399	10d	SK240	020730	延喜寺山	山系	3 様式	丸 2.0	推 6.6	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ	2.5Y8/1 黄		
0400	11i	SK201	020806	瓦板屋	瓦	O-53	丸 1.9	2.0	—	—	ヨコナギ、瓦板屋 切削	ヨコナギ、瓦板屋 切削	2.5Y7/1 黄白		
0401	11c	鶴出田	020802	瓦板屋	瓦	H-72	11.3	2.1	6.2	11.6	瓦輪、ヨコナギ	瓦輪、ヨコナギ	2.5Y6/2 黄		
0402	11a	鶴出田	020821	瓦板屋	瓦	H-72	丸 1.5	推 7.4	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ、瓦板屋 切削	2.5Y7/1 黄白		
0403	11c	鶴出田	020807	瓦板屋	瓦	O-53	丸 1.3	6.6	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ、瓦板屋 切削	2.5Y8/1 黄白	白色瓦板屋	
0404	11c	鶴出田	020807	瓦板屋	瓦	H-72	丸 1.2	6.2	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ、瓦板屋 切削	10Y9/6/2 黄		
0405	9d	鶴出田	020813	瓦板屋	瓦	H-72	丸 1.2	推 6.4	—	—	ヨコナギ、瓦輪	ヨコナギ、瓦板屋 切削	10Y9/2/2 黄		
0406	10d	SK240	020730	瓦板屋	瓦	O-53	丸 1.3	推 5.5	—	—	ヨコナギ、瓦板屋 切削	ヨコナギ、瓦板屋 切削	2.5Y7/1 黄白		
0407	11r	鶴出田	020807	瓦板屋	瓦	O-53	丸 1.3	6.6	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ、瓦板屋 切削	10Y9/2/2 10Y9/2/3 10Y9/2/4		
0408	12b	鶴出田	020805	瓦板屋	瓦	H-72	丸 1.4	6.0	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ、瓦板屋 切削	10Y9/2/2 10Y9/2/3 10Y9/2/4		
0409	9d	鶴出田	020813	瓦板屋	瓦	K-90	丸 1.7	推 6.8	—	—	ヨコナギ、瓦輪	ヨコナギ、瓦板屋 切削	2.5Y7/1 黄白		
0410	13e	SK208	020727	瓦板屋	瓦	H-72	丸 1.4	5.2	—	—	ヨコナギ	ヨコナギ、瓦板屋 切削	2.5Y7/1 黄白		

遺物一覧表

登録番号	登録年	登録番号	日付	発地・材質	縦幅	横幅	厚さ	寸法(全長)	寸法(全幅)	寸法(高さ)	内面	外面	割上(外側)	施主	備考
0411 11e	SK156	020725	瓦	瓦	小判	9.72		約2.4	4.8		ヨコナギ、自然色、 瓦軒先切机	ヨコナギ、利根、 瓦軒先切机	2.5YH/3 に伝い直		
0412 12b	SD117	020827	瓦	瓦	大判	8.90		約2.3			瓦軒ハケ作り、ヨ コナギ	瓦軒ハケ作り、ヨ コナギ	2.5YH/1 瓦白		
0413 13d	SD139	020629	砂輪内盤	瓦		6.90	約 1.0				砂輪、ヨコナギ	砂輪、ヨコナギ	10YR/1 瓦	GSD-MD	鉛板
0414 12b	SK155	020711	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0415 12b	SD117	020508	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0416 13d	SK146	020612	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0417 13e	SK138	020612	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0418 12b	SK155	020711	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0419 12b	SK155	020712	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0420 12f	SD116	020619	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0421 11g	SK147	020617	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0422 13e	SD125	020729	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0423 12b	SK155	020718	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0424 13e	SK138	020612	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0425 13c	SD122	020729	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0426 12b	SK155	020711	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0427 12b	SK155	020711	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0428 8e	SK56	020621	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0429 12b	SK155	020712	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0430 12b	SK155	020711	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0431 12j	SK104	020605	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0432 12b	SK155	020712	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0433 13b	南トレ	020509	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0434 9b	SD112	020019	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0435 13e	SK138	020612	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0436 11b	SD112	020731	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0437 8e	SK291	020623	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0438 8a	SK23	020009	瓦	瓦	内向磁輪	V型									
0439 12b	SK155	020711	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0440 11d	SD118	020805	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0441 12b	SD117	020711	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0442 10c	SB004 II	020823	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0443 12b	SK155	020715	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0444 8d	SD118	020711	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0445 11i	SK101	020530	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0446 12b	SK155	020711	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0447 11d	T05	020802	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0448 12f	柳山Ⅲ	020723	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0449 11a	柳山Ⅲ	020820	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0450 11a	柳山Ⅲ	020820	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0451 12b	SK155	020711	瓦	瓦	内向磁輪	7	古賀2								
0452 12b	SK277	020823	瓦	瓦	内向磁輪	古賀2									
0453 12b	SK155	020712	瓦	瓦	内向磁輪	7	古賀2								
0454 12b	SK155	020711	瓦	瓦	内向磁輪	7	古賀2								
0455 12b	SK155	020711	瓦	瓦	内向磁輪	7	古賀2								
0456 13b	SK226	020610	延喜式山茶 御鏡	山茶柄	7型式	13.7	5.7	5.0	13.0	自然軸、ヨコナギ、 一方沟ナギ	ヨコナギ、利根、 内向系切机、薄台 一部欠落	2.5YH/1 瓦白		施主	
0457 13b	SK226	020610	延喜式山茶 御鏡	山茶柄	8型式	13.1	5.1	5.8	13.3	ヨコナギ、一方沟 ナギ	ヨコナギ、内向系 切机、一方沟ナギ	10YR/2 に伝い直		施主	
0458 13b	SK226	020610	延喜式山茶 御鏡	山茶柄	7型式	13.2	5.9	5.0	13.0	ヨコナギ、一方沟 ナギ	ヨコナギ、利根、 内向系切机	2.5YH/1 瓦白		施主	
0459 13b	SK226	020610	延喜式山茶 御鏡	山茶柄	7型式	13.8	5.9	5.2	14.0	ヨコナギ、内面ス タッフ着、自然軸、 内向系切机、薄台 一部欠落	ヨコナギ、利根、 内向系切机、薄台 明滅灰	7.5YH/2		施主	
0460 13b	SK226	020610	延喜式山茶 御鏡	山茶柄	7型式	14.0	6.2	5.7	14.2	ヨコナギ、一方沟 ナギ	ヨコナギ、利根、 内向系切机、薄台 大灰、スヌード	7.5YR 7/1 明 滅灰		施主	

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	区画	遺跡名	日付	所在地・材質	施設	特徴	U面(東)	南面(西)	北面(北)	内面	外面	地上(外部)	地主	備考
0461 13b SK220 020911		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	7盤式	13.0	5.6	5.6	13.0	ココナラ、一方向 回転木板類、高台 泥瓦	ココナラ、轉角 回転木板類、高台 泥瓦	10Y8/11 床白		■
0462 13b SK220 020911		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	8盤式	13.0	5.0	6.0	13.0	ココナラ、一方向 回転木板類、高台 泥瓦	ココナラ、轉角 回転木板類、高台 泥瓦	2.5Y7/11 床白		
0463 13b SK220 020911		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	7盤式	13.3	5.3	4.6	13.0	ココナラ、一方向 回転木板類、高台 泥瓦	ココナラ、轉角 回転木板類、高台 泥瓦	2.5Y7/11 床白		
0464 13b SK220 020910		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	7盤式	13.2	4.9	6.0	13.4	ココナラ 木筋	ココナラ、轉角 回転木板類、高台 泥瓦	10Y8/11 床白		■
0465 13b SK220 020730		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	7盤式	8.4	4.0	4.8		ココナラ、全体合 成木 ココナラ、轉角 回転木板類	ココナラ、轉角 回転木板類	10Y8/12 床白		
0466 13b SK220 020826		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	6盤式	8.3	3.2	5.7		ココナラ、一方向 回転木板類	ココナラ、轉角 回転木板類	10Y8/8/1 床白		
0467 13b SK220 020826		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	7盤式	8.4	2.4	5.2		ココナラ、一方向 回転木板類	ココナラ、轉角 回転木板類	2.5Y7/11 床白		
0468 13b SK220 020727		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	7盤式	9.3	5.3			ココナラ、木筋合 成木 ココナラ、轉角 回転木板類	ココナラ、轉角 回転木板類	10Y8/8/2 床白		
0469 13b SK220 020826		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	0盤式	9.2	2.4	6.0		ココナラ、一方向 回転木板類	ココナラ、轉角 回転木板類	10Y8/8/1 床白		
0470 13b SK220 020823		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	7盤式	9.5	1.5	5.4		ココナラ、木筋合 成木 木筋	ココナラ、轉角 回転木板類	2.5Y7/11 床白		
0471 13b SK220 020727		東虎町山系 尾形町山系		7盤式 石垣	12.8	4.0	3.0		13.0	ココナラ	ココナラ	2.5Y8/6 床白		
0472 13b SK220 020727		尾形町山系 尾形町山系		小組 石垣	7盤式	7.8	2.1	5.0	8.0	ココナラ、一方向 回転木板類	ココナラ、轉角 回転木板類	2.5Y7/11 床白		
0473 13b SK220 020727		尾形町山系 尾形町山系		小組 石垣	8盤式	8.0	1.8	5.6	8.3	ココナラ、自然軸 ココナラ、轉角 回転木板類	ココナラ、轉角 回転木板類	2.5Y7/2 床白		
0474 13b SK220 020727		尾形町山系 尾形町山系		小組 石垣	9盤式	7.5	1.8	5.8	7.8	ココナラ、一方向 回転木板類	ココナラ、轉角 回転木板類	2.5Y7/11 床白		
0475 13b SK220 020823		尾形町山系 尾形町山系		小組 石垣	8盤式	7.2	1.4	4.8	7.6	ココナラ、一方向 回転木板類	ココナラ、轉角 回転木板類	10Y8/7/1 床白		
0476 13b SK220 020727		東虎町山系 尾形町山系		小組 利根	7盤式	9.8	1.4	5.2	9.8	ココナラ、一方向 回転木板類	ココナラ、轉角 回転木板類	2.5Y7/11 床白		
0477 13b SK220 020826		上御殿 赤		赤	14.8	2.2			11.0	ココナラ	ココナラ	10Y8/2/3 に赤い物質		
0478 13b SK220 020823		東虎町山系 赤		赤	14	無	18.0			ココナラ	石黒鳥	2.5Y7/1 床白		
0479 13b SK220 020727		尾形町山系 赤		7盤式 石垣	1.5					よく木筋	ハラタガリ、ココ ナラ	10Y8/7/1 床白		
0480 13b SK220 020826		上御殿 赤		赤	2.0					ココナラ	ココナラ、ハサ キ	10Y8/2/3 に赤い物質		
0481 13b SK220 020727		上御殿 赤		赤	6.0					監オサエ	ハサキ	2.5Y8/3/3 に赤い物		
0482 13b SK220 020823		上御殿 内陣型前庭		赤	19.4	5.6				ココナラ、監オサエ スズキ村井	ココナラ、ハサキ スズキ村井	2.5Y8/1/3 に赤い物質		
0483 13b SK220 020823		上御殿 内陣型前庭		赤	2.8					ココナラ	ココナラ、スズキ 村井	10Y8/2/3 に赤い物質		
0484 13b SK310 020827		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	7盤式	13.7	5.1	5.8	14.0	ココナラ、一方向 回転木板類	ココナラ、轉角 回転木板類	10Y8/2/1 床白		■
0485 13b SK310 020827		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	7盤式	13.6	4.6		14.0	ココナラ	ココナラ	2.5Y7/1 床白		■
0486 13b SK310 020827		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	0盤式	13.2	5.3			ココナラ、一方向 回転木板類	ココナラ、轉角 回転木板類	10Y8/2/1 床白		
0487 13b SK310 020826		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	6盤式	9.0	3.0	6.8		ココナラ、一方向 回転木板類	ココナラ、轉角 回転木板類	10Y8/2/1 床白		
0488 13b SK310 020826		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	6盤式	9.3	2.3	6.8		ココナラ、一方向 回転木板類	ココナラ、轉角 回転木板類	2.5Y7/1 床白		
0489 13b SK310 020826		上御殿 赤		赤	1.3					ココナラ	ココナラ、スズキ 村井	10Y8/2/3 に赤い物質		
0490 13b SK310 020826		上御殿 赤		赤	2.5					自然軸、ココナラ	自然軸、ココナラ	2.5Y8/3/3 に赤い物質		
0491 13b SK310 020826		上御殿 赤		赤	3.5					自然軸、ココナラ	自然軸、ココナラ	10Y8/2/3 に赤い物質		
0492 12b SO18 020712		尾形町山系 尾形町山系(廻り)		山手側 石垣	7盤式	2.2				ココナラ、一方向 回転木板類	ココナラ、轉角 回転木板類	10Y8/2/2 床白		
0493 12b SO18 020712		尾形町山系 尾形町山系(廻り)		山手側 石垣	7盤式	2.2		5.2		ココナラ、自然軸、 織物あり	ココナラ、轉角 回転木板類	10Y8/2/2 床白		
0494 12b SO18 020712		尾形町山系 尾形町山系(廻り)		大洞丸 大洞丸	2.4	2.2	2.0			監オサエ	監オサエ	10Y8/2/2 床白		
0495 12b SO18 020711		土御殿 大洞丸		大洞丸	3.6					ヘタラギリ、織 物	ヘタラギリ、織 物	2.5Y7/2 床白		
0496 12b SO18 020712		尾形町山系 尾形町山系		大洞丸 大洞丸	3.6					ココナラ、一方向 回転木板類	ココナラ、轉角 回転木板類	10Y8/2/4 床白		
0497 11b SK285 020618		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	7盤式	12.8	2.6		13.0	ココナラ	ココナラ	2.5Y7/2 床白		■
0498 12g SK285 020621		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	7盤式	13.0	1.6		13.2	ココナラ	ココナラ	2.5Y8/3 床白		
0499 12g SK285 020621		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	7盤式	13.0	1.6			ココナラ、一方向 回転木板類	ココナラ、轉角 回転木板類	10Y8/2/1 床白		
0500 12g SK285 020621		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	7盤式	13.0	1.6			ココナラ、自然軸、 織物あり	ココナラ、轉角 回転木板類	10Y8/2/1 床白		
0501 8b SK256 020919		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	7盤式	12.7	4.5		13.0	ココナラ、自然軸 織物	ココナラ、轉角 回転木板類	10Y8/1 C10-M4-B6		
0502 8b SK256 020919		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	7盤式	2.2				ココナラ、一方向 回転木板類	ココナラ、轉角 回転木板類	10Y8/1 C10-B6		
0503 8b SK256 020919		尾形町山系 尾形町山系		小組 石垣	7盤式	3.2	1.6	5.2	5.2	ココナラ、一方向 回転木板類	ココナラ、轉角 回転木板類	2.5Y7/1 床白		
0504 8b SK256 020919		尾形町山系 尾形町山系		山手側 石垣	7盤式	11.8	2.3		12.2	ココナラ	ココナラ	2.5Y8/3 床白		
0505 9a SK557 020919		尾形町山系 尾形町山系		明和 山手側 石垣	14.4	5.0			14.8	自然軸、ココナラ 織物	自然軸、ココナラ 織物	SY7/1 床白		
0506 9a SK557 020919		尾形町山系 尾形町山系		土御殿 山手側 石垣	13.4	2.6	9.2	9.0	13.6	ココナラ、ヘタラギ リ、織物あり	ココナラ、ヘタラギ リ、織物あり	10Y8/2/2 床白		

遺物一覧表

登録番号	登録年	遺物番号	日付	発地・材質	縦幅	横幅	厚さ	目録番号	説明	大きさ	内面	外側	出土(外側)	地主	備考	
0507 12f	SK237	202729	鹿島町御前	組	0-33	馬	1.2	幅 0.2	ヨコナギ	ヨコナギ、回転木 切削	ヨコナギ、回転木 切削	10YR7/3 にこく・鹿島				
0508 12f	SK237	202729	鹿島町山茶	小箱	20cm	8.0	1.8	幅 5.6	幅 8.4	ヨコナギ、自然輪 切削	ヨコナギ、自然輪 切削	10YRN/1 鹿島		廻り		
0509 11f	SK274	202002	鹿島町御前	鹿ノ原町御前	馬	2.0	2.0			ヨコナギ	ヨコナギ	2.5YR2/鹿3				
0510 16e	SK009	202013	鹿島町山茶	山茶樹	大根大 丸	1.4	4.4	幅 4.2	幅 14.8	ヨコナギ	ヨコナギ	2.5YR7/1 鹿白				
0511 16e	SK009	202012	鹿島町山茶	山茶樹	7型式	馬	4.1	幅 0.4	ヨコナギ、一方削	ヨコナギ、一方削	ヨコナギ、一方削	10YR7/1 鹿白		廻り		
0512 12e	SK203	202726	鹿島町御前	山茶樹	H-72	馬	2.8	幅 6.6	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	7.5Y7/1 鹿白		小箱、古代各 時代の 付せん		
0513 12e	SK203	202726	鹿島町山茶	山茶樹	8型式	馬	2.0	幅 5.6	ヨコナギ	ヨコナギ、回転木 切削	ヨコナギ、回転木 切削	2.5Y6/1 鹿白		廻り		
0514 12e	SK203	202726	鹿島町山茶	山茶樹	明治	馬	1.6	幅 5.2	ヨコナギ、一方削	ヨコナギ、一方削	ヨコナギ、一方削	2.5Y7/2 鹿白				
0515 12e	SK203	202726	鹿島町御前	施設	0-53	馬	1.8	幅 6.3	ヨコナギ、一方削	ヨコナギ、一方削	ヨコナギ、一方削	2.5Y6/2 鹿白				
0516 12e	SK203	202726	鹿島町御前	施設	0-53	馬	2.7	幅 7.0	ヨコナギ	ヨコナギ、ヘタキ ダリ、ヨコナギ	ヨコナギ、ヘタキ ダリ、ヨコナギ	2.5Y7/1 鹿白				
0517 12e	SK203	202726	鹿島町御前	施設	K-90 前 後	馬	3.3	9.4	施設、ヨコナギ	施設、ヨコナギ、 ヘタキダリ、ヨコナギ	施設、ヨコナギ、 ヘタキダリ、ヨコナギ	2.5Y7/1 鹿白	SY4/4 朝オリーブ			
0518 12e	SK203	202726	土師器	酒器	馬	3.0			ヨコナギ、スヌ	ヨコナギ	ヨコナギ	2.5YR6 鹿白				
0519 12d	SK203	202729	土師器	内側酒器	馬	2.4			ヨコナギ、スヌ 等	ヨコナギ、スヌ 等、ヨコナギ、ヨコハ マ	ヨコナギ、スヌ 等、ヨコナギ、ヨコハ マ	10YR7/3 鹿島・酒器				
0520 12e	SK203	202726	土師器	内側酒器	馬	15.8	3.2		幅 20.6	ヨコナギ、施設	ヨコナギ、施設	10YR6/3 空き壇				
0521 11e	SK109	202020	鹿島町山茶	山茶樹	6型式	馬	4.6	幅 3.4		ヨコナギ、自然輪 切削	ヨコナギ、自然輪 切削	7.5YR7/1 鹿白		廻り		
0522 11e	SK109	202020	鹿島町山茶	山茶樹	7型式	馬	12.4	幅 5.4	幅 10.6	ヨコナギ、一方削	ヨコナギ、一方削	2.5Y7/1 鹿白		廻り		
0523 10e	SK109	202014	鹿島町山茶	山茶樹	7型式 洋行	馬	2.1	幅 7.0	ヨコナギ、自然輪 切削	ヨコナギ、自然輪 切削	ヨコナギ、自然輪 切削	2.5Y7/1 鹿白				
0524 11a	SK002	202027	鹿島町山茶	山茶樹	7型式	馬	2.4	幅 5.0	ヨコナギ、わずか に土司	ヨコナギ、施設、 ヨコナギ、施設	ヨコナギ、施設	7.5YR7/1 明治		廻り		
0525 10e	SK109	202014	鹿島町山茶	山茶樹	8型式	馬	2.1	幅 5.8	ヨコナギ、一方削	ヨコナギ、回転木 切削	ヨコナギ、回転木 切削	10YR7/2 にこく・鹿島				
0526 11b	SD01	202731	鹿島町山茶	山茶樹	明治	馬	13.8	幅 3.6	幅 14.2	ヨコナギ	ヨコナギ	2.5Y7/1 鹿白				
0527 12e	施山田	202011	鹿島町山茶	山茶樹	大根丸	馬	12.9	4.1	幅 4.6	幅 13.0	ヨコナギ、重ね脚 2個	ヨコナギ、重ね脚 2個	10YR7/3 にこく・鹿島			
0528 10e	SK109	202014	鹿島町山茶	山茶樹	明治	馬	2.9	幅 5.2	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	10YR7/3 明治				
0529 12a	施山田	202022	鹿島町山茶	山茶樹	7-丸	馬	13.4	3.5	幅 3.0	幅 13.7	ヨコナギ	ヨコナギ、施設 切削の丸の施設	10YR7/2 にこく・鹿島			
0530 10e	施山田	202006	鹿島町山茶	山茶樹	7-丸	馬	11.6	2.8	幅 4.0	幅 12.6	ヨコナギ	ヨコナギ、回転木 切削	2.5Y7/1 鹿白			
0531 19d	施山田	202016	鹿島町山茶	山茶樹	7-丸	馬	12.4	2.9	幅 4.8	幅 12.8	ヨコナギ	ヨコナギ、施設 切削の丸の施設	2.5Y7/1 鹿白			
0532 11e	施山田	202725	鹿島町山茶	山茶樹	7-丸	馬	12.7	3.6	幅 5.2	幅 13.0	ヨコナギ、施設 切削	ヨコナギ、施設 切削	2.5Y7/1 鹿白			
0533 10e	SK324	202027	鹿島町山茶	山茶樹	生田	馬	10.4	2.5	幅 4.0	幅 10.8	ヨコナギ	ヨコナギ、回転木 切削	ヨコナギ、回転木 切削	2.5Y6/2 鹿白		
0534 11a	SK109	202020	鹿島町山茶	山茶樹	6型式	馬	3.1	4.8		ヨコナギ、自然輪 切削	ヨコナギ、施設、 ヨコナギ、施設	10YR7/2 にこく・鹿島				
0535 11b	SK112	202020	鹿島町山茶	山茶樹	6型式	馬	0.6			ヨコナギ、一方削	ヨコナギ、施設、 ヨコナギ	ヨコナギ、施設	2.5Y7/1 鹿白			
0536 13b	SD112	202727	鹿島町山茶	山茶樹	6型式	馬	8.0	3.1	幅 5.4	ヨコナギ、自然輪 切削	ヨコナギ、回転木 切削	2.5Y7/1 鹿白				
0537 11a	SK002	202027	鹿島町山茶	山茶樹	7型式	馬	8.0	1.6	幅 6.0	幅 8.7	ヨコナギ、一方削	ヨコナギ、回転木 切削	10YR7/1 にこく・鹿島		廻り	
0538 11a	SK002	202027	鹿島町山茶	山茶樹	7型式	馬	8.4	1.5	幅 5.8	幅 8.8	ヨコナギ	ヨコナギ	10YR7/1 鹿白			
0539 11a	施山田	202020	鹿島町山茶	山茶樹	6型式	馬	8.0	1.3	幅 5.4	幅 8.4	ヨコナギ、一方削	ヨコナギ、回転木 切削	10YR7/2 鹿白		廻り	
0540 11a	施山田	202020	鹿島町山茶	山茶樹	6型式	馬	8.2	2.0	幅 5.0	幅 8.6	ヨコナギ、一方削	ヨコナギ、回転木 切削	10YR7/1 鹿白			
0541 11b	SK260	202730	鹿島町山茶	山茶樹	6型式	馬	9.6	1.5	幅 4.4	幅 10.6	ヨコナギ、一方削	ヨコナギ、回転木 切削	10YR7/1 鹿白		廻り	
0542 13c	南レシ ン	202009	鹿島町山茶	山茶樹	7型式	馬	7.0	1.4	幅 5.2	幅 8.2	ヨコナギ、一方削	ヨコナギ、回転木 切削	10YR7/2 にこく・鹿島		廻り	
0543 13c	南レシ ン	2020509	鹿島町山茶	山茶樹	6型式	馬	8.0	1.7	幅 4.7	幅 8.1	ヨコナギ、一方削	ヨコナギ、回転木 切削	10YR7/1 にこく・鹿島		廻り	
0544 11a	施山田	202021	鹿島町山茶	山茶樹	7型式	馬	8.6	2.0	幅 4.5	幅 8.9	ヨコナギ、一方削	ヨコナギ、回転木 切削	10YR7/1 鹿白		廻り	
0545 11a	施山田	202021	鹿島町山茶	山茶樹	6型式	馬	8.2	1.2	幅 5.6	幅 8.4	ヨコナギ	ヨコナギ、回転木 切削	2.5Y7/1 鹿白			
0546 11b	T04	202708	鹿島町山茶	山茶樹	4or5型 式	馬	8.6	幅 10.0		ヨコナギ	ヨコナギ、ヘタキ ダリ	ヨコナギ、ヘタキ ダリ	2.5Y7/1 鹿白	狼社		
0547 10e	SD113	202021	鹿島町山茶	山茶樹	6型式	馬	9.7			ヨコナギ、ヘタキ ダリ	ヨコナギ、ヘタキ ダリ	ヨコナギ、ヘタキ ダリ	2.5Y7/1 鹿白			
0548 9e	SK257	202013	中里	白磁玉縁	馬	15.6	馬 2.5		幅 16.2	白磁	白磁	10YR7/1 鹿白	2.5Y6/1 鹿白			
0549 10e	施山田	202014	中国製黒	青磁	馬	4.4				青磁	青磁	5Y7/1 鹿白	2.5Y5/2 朝オリーブ			
0550 10e	内トロ ン	202013	鹿島町山茶	無田小箱	馬	5.0	-3.0	幅 4.0	幅 6.9	ヨコナギ	ヨコナギ、自然輪、 板状底	ヨコナギ、自然輪、 板状底	2.5Y6/1 鹿白	狼社+加多		
0551 10b	SD004	202022	鹿島町山茶	古木箱	IV	5.0	1.8	3.7	6.2	古木	古木、下半削、組合 木組合	古木、下半削、組合 木組合	10YR7/1 鹿白	10YR7/2 鹿白		
0552 12b	-6ト	202023	古木箱	古木箱	人子	古木箱	2.0	0.5	幅 2.4	幅 2.7	ヨコナギ	ヨコナギ、古木	5Y6/1 鹿 白			
0553 9a~ 9b	SK548	202019	鹿島町山茶	陶丸	大輪	馬	2.3	2.1	幅 2.0		ヨコナギ	部分的に 自然輪	5Y6/1 鹿白			
0554 10e	T03	202024	土師器	白螺口調	馬	12.8	2.6		幅 13.6	白磁	白磁	10YR8/2 鹿白				
0555 11a	施山田	202020	土師器	白螺口調	馬	10.0	2.3		幅 10.2	ヨコナギ	ヨコナギ	2.5Y6/1 鹿白				

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	区画	遺跡名	日付	場所	材質	施設	時期	UFT(60)	緯度(60)	経度(60)	緯度(60)	経度(60)	内面	外面	野上(外部)	地主	備考
0556	11b	東側田山	202820	土塁壁	漆付木造	土塁	古墳時代	南北8.5	標 1.5	標 5.6	標 9.0	ヨコナギ、?	ヨコナギ、?	ヨコナギ、?	ROY88/2灰瓦		
0557	11b	東側田山	202820	土塁壁	漆付木造	土塁	古墳時代		南北1.0			ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	10Y86/2 灰瓦		
0558	11b	東側田山	202820	土塁壁	漆付木造	土塁	古墳時代		南北1.5			ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	10Y86/2 に伝い・漆替		
0559	11a	東側田山	202820	土塁壁	漆付木造	土塁	古墳時代		南北1.7			ヨコナギ	ヨコナギ、わざか にスズメ音	ヨコナギ	10Y87/2 に伝い・漆替		
0560	13b	SD17	202724	土塁壁	漆付木造	土塁	古墳時代		南北1.1			ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	10Y88/2灰瓦		
0561	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北11.8	5.7	南 4.5	南 12.0	北 12.0	ヨコナギ	ヨコナギ、下平塁脚	ヨコナギ	2.5Y62/2灰瓦 7.5Y82/1黑		
0562	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北10.8	5.1	南 11.0	北 11.0	北 11.0	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	2.5Y7/2灰瓦 2.5Y2/1黑		
0563	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北11.4	5.5	南 5.5	南 11.0	北 11.0	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	10Y87/2 5Y2/1黑		
0564	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北11.0	5.5	南 11.2	北 11.0	北 11.0	ヨコナギ	ヨコナギ、下平塁脚	ヨコナギ	10Y88/4 10Y8L2/1 黑		
0565	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北11.4	5.4	南 11.7	北 11.0	北 11.0	ヨコナギ	ヨコナギ、下平塁脚	ヨコナギ	2.5Y86/2 に伝い・漆替		
0566	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北15.2	3.9	南 15.0	北 15.0	北 15.0	ヨコナギ	ヨコナギ、口脚端部 部分欠けX×付着	ヨコナギ	2.5Y87/6灰瓦 30Y88/2灰瓦		
0567	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北10.5	5.0	南 10.0	北 5.0	北 5.0	ヨコナギ	ヨコナギ、ラッカイリ	ヨコナギ	2.5Y7/2灰瓦		
0568	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北1.9	0.5	南 0.5	北 0.5	北 0.5	ヨコナギ	ヨコナギ、ラッカイリ	ヨコナギ	2.5Y7/2灰瓦		
0569	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北10.2	2.2	南 5.8	南 10.4	北 10.4	ヨコナギ、下平塁脚、 口脚端部付着	ヨコナギ、下平塁脚、 口脚端部付着	ヨコナギ	2.5Y5/3 灰瓦		
0570	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北13.2	3.2	南 5.8	南 13.4	北 13.4	ヨコナギ	ヨコナギ、下平塁脚、 口脚端部付着	ヨコナギ	2.5Y8/2灰瓦 7.5Y8/3 灰瓦		
0571	12b	SK155	203712	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北2.1	0.4	南 0.4	北 0.4	北 0.4	ヨコナギ	ヨコナギ、下平塁脚、 口脚端部付着	ヨコナギ	10Y6/2 オーリーブ灰		
0572	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北1.3	4.7	南 0.4	北 0.4	北 0.4	ヨコナギ	ヨコナギ(部分的に漆 付)、ヨコナギ(部分的に漆 付)、ヨコナギ(部分的に漆 付)	ヨコナギ	2.5Y7/2灰瓦		
0573	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北2.4	0.4	南 0.4	北 0.4	北 0.4	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	2.5Y7/1灰瓦 7.5Y8/2 オーリーブ		
0574	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北1.6	5.0	南 1.6	北 1.6	北 1.6	ヨコナギ、ヨコナギ、 ヨコナギ	ヨコナギ、ヨコナギ、 ヨコナギ	ヨコナギ	2.5Y7/3 灰瓦		
0575	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北1.6	0.0	南 1.6	北 1.6	北 1.6	ヨコナギ	ヨコナギ(部分的に漆 付)、ヨコナギ(部分的に漆 付)、ヨコナギ(部分的に漆 付)	ヨコナギ	2.5Y7/2灰瓦 7.5Y8/3 灰瓦		
0576	12b	SK155	203718	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北1.3	9.0	南 1.3	北 1.3	北 1.3	ヨコナギ	ヨコナギ、ヨコナギ	ヨコナギ	10Y87/2 に伝い・漆替		
0577	12b	SK155	203712	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北1.7	9.2	南 1.7	北 1.7	北 1.7	ヨコナギ	ヨコナギ、ヨコナギ	ヨコナギ	10Y87/2 に伝い・漆替		
0578	12b	SK155	203711	死ぬ御塁	塗壁	古墳時代	K-9.0	3.2	南 7.4			死ぬ御塁、静止、 死ぬ御塁、死ぬ御塁	死ぬ御塁、死ぬ御塁、 死ぬ御塁	死ぬ御塁	2.5Y7/2灰瓦 2.5Y7/3 死ぬ御塁		
0579	12b	SK155	203711	死ぬ御塁	塗壁	古墳時代	K-9.0	3.5	南 2.3	南 6.6	南 6.6	ヨコナギ、死ぬ御塁、 死ぬ御塁	ヨコナギ、死ぬ御塁、 死ぬ御塁	ヨコナギ	3Y6/1灰 死ぬ御塁		
0580	12b	SK155	203712	死ぬ御塁	塗壁	古墳時代	H-7.2	2.4	南 2.4	南 7.6	南 7.6	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	10Y87/2 に伝い・漆替		
0581	12b	SK155	203712	死ぬ御塁	塗壁	古墳時代	H-7.2	2.4	南 2.4	南 7.6	南 7.6	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	10Y87/2 に伝い・漆替		
0582	12b	SK155	203711	死ぬ御塁	塗壁	古墳時代	H-7.2	2.4	南 2.4	南 7.6	南 7.6	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	10Y87/2 に伝い・漆替		
0583	12b	SK155	203711	尾張御塁	塗壁	古墳時代	H-7.2	2.4	南 2.4	南 7.6	南 7.6	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	10Y87/2 に伝い・漆替		
0584	12b	SK155	203711	尾張御塁	塗壁	古墳時代	H-7.2	2.4	南 2.4	南 7.6	南 7.6	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	10Y87/2 に伝い・漆替		
0585	12b	SK155	203711	尾張御塁	塗壁	古墳時代	H-7.2	2.4	南 2.4	南 7.6	南 7.6	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	10Y87/2 に伝い・漆替		
0586	12b	SK155	203711	尾張御塁	塗壁	古墳時代	H-7.2	2.4	南 2.4	南 7.6	南 7.6	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	10Y87/2 に伝い・漆替		
0587	12b	SK155	203711	尾張御塁	塗壁	古墳時代	H-7.2	2.4	南 2.4	南 7.6	南 7.6	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	10Y87/2 に伝い・漆替		
0588	12b	SK155	203711	尾張御塁	塗壁	古墳時代	H-7.2	2.4	南 2.4	南 7.6	南 7.6	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	10Y87/2 に伝い・漆替		
0589	12b	SK155	203711	尾張御塁	塗壁	古墳時代	H-7.2	2.4	南 2.4	南 7.6	南 7.6	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	10Y87/2 に伝い・漆替		
0590	12b	SK155	203711	尾張御塁	塗壁	古墳時代	H-7.2	2.4	南 2.4	南 7.6	南 7.6	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	10Y87/2 に伝い・漆替		
0591	12b	SK155	203711	尾張御塁	塗壁	古墳時代	H-7.2	2.4	南 2.4	南 7.6	南 7.6	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	10Y87/2 に伝い・漆替		
0592	12b	SK155	203711	尾張御塁	塗壁	古墳時代	H-7.2	2.4	南 2.4	南 7.6	南 7.6	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	10Y87/2 に伝い・漆替		
0593	12b	SK155	203711	尾張御塁	塗壁	古墳時代	H-7.2	2.4	南 2.4	南 7.6	南 7.6	ヨコナギ	ヨコナギ	ヨコナギ	10Y87/2 に伝い・漆替		
0594	12b	SK155	203712	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北1.9	3.7	南 10.4	南 20.0	北 20.0	ヨコナギ	ヨコナギ、口脚端部 付着	ヨコナギ	2.5Y7/2 に伝い・漆替		
0595	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北2.0	3.7	南 10.4	南 20.0	北 20.0	ヨコナギ	ヨコナギ、口脚端部 付着	ヨコナギ	3Y6/2 オーリーブ		
0596	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北2.0	3.7	南 10.4	南 20.0	北 20.0	ヨコナギ	ヨコナギ、口脚端部 付着	ヨコナギ	3Y6/2 オーリーブ		
0597	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北2.0	3.7	南 10.4	南 20.0	北 20.0	ヨコナギ	ヨコナギ、口脚端部 付着	ヨコナギ	3Y6/2 オーリーブ		
0598	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北2.0	3.7	南 10.4	南 20.0	北 20.0	ヨコナギ	ヨコナギ、口脚端部 付着	ヨコナギ	3Y6/2 オーリーブ		
0599	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北2.0	3.7	南 10.4	南 20.0	北 20.0	ヨコナギ	ヨコナギ、口脚端部 付着	ヨコナギ	3Y6/2 オーリーブ		
0600	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北2.0	3.7	南 10.4	南 20.0	北 20.0	ヨコナギ	ヨコナギ、口脚端部 付着	ヨコナギ	3Y6/2 オーリーブ		
0601	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北2.0	3.7	南 10.4	南 20.0	北 20.0	ヨコナギ	ヨコナギ、口脚端部 付着	ヨコナギ	3Y6/2 オーリーブ		
0602	12b	SK155	203711	南北2重塁	天王系構	古墳時代	南北2.0	3.7	南 10.4	南 20.0	北 20.0	ヨコナギ	ヨコナギ、口脚端部 付着	ヨコナギ	3Y6/2 オーリーブ		

遺物一覧表

遺物番号	種類	遺物名	日付	発地・材質	縦幅	横幅	厚さ	目録番号	説明	内面	外面	出土(外因)		備考
												高さ	幅	
0003 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 赤土	古墳 I ～Ⅲ	丸	4.8			圓筒、テテ方向へ 灰釉		2.5V7/1 海白 5V6/3 オリーブ			
0004 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 船形	古墳 I ～Ⅲ	丸	4.3	幅16.0		灰釉、下手彫刻、 トチン痕		10V8T/3 にこい・表面			
0005 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 輪形	古墳IV		5.5	幅6.0		灰釉、丁子彫刻、 灰釉、表面		2.5V7/2 海白 5V6/4 オリーブ			
0006 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 舟形深皿	古中I or II	丸	3.3	幅19.4		灰釉、灰釉		2.5V7/2 海白 5V7/2 赤			
0007 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 輪形	古墳IV	丸	5.8		幅27.0	灰釉	研磨、わざに彫刻、 円柱1單位7 cm, 1.7cm ? 事 件	2.5V7/2 海白 40V3/2 赤			
0008 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 輪形	古墳IV	丸	29.2	幅5.5		研磨		10V8T/4 灰釉		2.5V6/3 5V6/2 赤	
0009 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 輪形	古墳IV	丸	36.0	幅8.7		研磨、肥厚盛り、 灰釉、スヌ付		10V8T/3 にこい・表面		10V8T/3 研磨	
0010 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 輪形	古墳IV	丸	31.4	幅4.4		研磨		2.5V7/3 海白 7.5V6/2 赤			
0011 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 輪形	古墳IV	丸	31.4	幅5.6		研磨、(頭部?)		2.5V8/3 海白 5V6/2 赤			
0012 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 輪形大皿	古墳I ～Ⅲ	丸	2.7	幅10.0		灰釉、ハケ彫り、 灰釉、切口、付高 台		2.5V7/3 海白 5V6/2 オリーブ			
0013 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 輪形	古墳IV	丸	1.8		幅5.1	灰釉		2.5V7/2 海白 5V6/3 赤			
0014 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 輪形	古墳IV	丸	4.2	幅12.6		圓筒、部分的に 彫刻、灰釉、付高 台		2.5V8/2 海白 5V6/2 赤			
0015 120	SK155	202520	海 ³ 美濃陶 輪形	古墳IV	丸	17.0	幅6.2		研磨		2.5V9/1 海白 10V8/2 5V6/2 赤			
0016 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 輪形	古墳IV 手付	丸	5.4	幅12.4		研磨、若しく彫刻、 灰釉、(頭部?)、 灰釉、手付		10V8/2 5V6/2 赤		10V8/2 5V6/2 赤	
0017 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 輪形	古墳IV ～大 古	丸	6.4	幅6.6		研磨、削口、手 付5.5 cm, L.1cm		2.5V6/3 海白 7.5V6/1 黒			
0018 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 輪形	古墳IV 手付大 古	丸	7.1	幅9.6		研磨、手付1.0 cm, L.2.7cm 位付5.5cm		2.5V6/2 海白 5V6/2 赤		2.5V6/2 5V6/2 赤	
0019 120	SK155	202711	上皿	付手皿		6.9		幅2.5	調整(手付) ヨコナタ?、スヌ 付口、ヘタリ?		10V8/2 5V6/2 海白			
0020 120	SK155	202711	上皿	付手皿		5.8		幅5.8	ヨコナタ?、スヌ 付口、ヘタリ?		7.5V6/4 海白			
0021 120	SK155	202711	上皿	付手皿		4.4			ヨコナタ?、 スヌ付口		10V8/4 にこい・表面			
0022 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 瓶	古墳IV 手付 手口	丸	7.1	幅7.1	幅16.0	灰釉、丁子彫刻、 手付、手口		10V8/2 海白 5V6/2 にこい・表面		5V6/4 オリーブ	
0023 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 瓶母腹	古墳IV	丸	10.2	幅8.3		研磨、手付彫刻		2.5V6/1 海白 10V8/4 5V6/4 赤			
0024 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 瓶	内(二) 古 古墳四 手付	丸	5.5			灰釉		2.5V7/3 海白 5V6/6 明治期			
0025 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 瓶	内(三) 古 古墳四 手付	丸	5.2			手付		2.5V7/3 海白 7.5V6/3 オリーブ			
0026 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 瓶	内(三) 古 古墳四 手付	丸	7.8	幅8.4		研磨		10V8/4 にこい・表面		2.5V7/1 黒	
0027 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 瓶	古墳IV 手付	丸	7.0	幅8.8		手付		2.5V7/3 海白 5V6/3 オリーブ			
0028 120	SK155	202712	海 ³ 美濃陶 花瓶	古墳IV		5.4			研磨、磨削		10V8T/2 にこい・表面		2.5V6/6 明治期	
0029 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 瓶子	古墳IV		5.5			灰釉		5V6/1 海白 5V6/3 オリーブ			
0030 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 瓶子	古墳II		4.7			灰釉、丁子彫刻		2.5V7/1 海白 10V8/2 5V6/2 オリーブ		10V8/2 5V6/2 明治期	
0031 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 瓶子	古墳II		15.6			灰釉?、古面化 する、ヘタリ?		10V8/2 にこい・表面			
0032 120	SK155	202712	海 ³ 美濃陶 假玉形瓶子	古墳IV		9.5			研磨、丁子彫刻		2.5V6/3 海白 7.5V6/4 たぶん620上 倒伏			
0033 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 瓶?	古墳IV 前		3.3	幅9.6		研磨		10V8T/6 明治期		10V8T/2 黒	
0034 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 瓶子	古墳II		5.2			灰釉、丁子彫刻		2.5V7/3 海白 7.5V6/3 オリーブ			
0035 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 假玉形瓶子	古墳IV		9.2			研磨		10V8/2 にこい・表面			
0036 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 假玉形瓶子	古墳IV		6.7	幅11.4		研磨		10V8/3 にこい・表面		10V8/2/1 黒	
0037 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 瓶	古墳IV		14.8			研磨、磨削		10V8/1 海白 10V8/1/1 黒			
0038 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 瓶	内(四) 10 新式	丸	16.4	幅7.3		ヨコナタ?、自然釉		2.5V7/3 海白 7.5V6/4 オリーブ			
0039 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 瓶	内(四) 10 新式	丸	6.9	幅6.9		磨削、ヨコナタ?		2.5V7/1 海白 640上 16-20、40-42 高台			
0040 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 瓶	内(四) 5 新式	丸	31.4	幅6.3		自然釉、ヨコナタ?		SY03/4 40-42 オリーブ			
0041 120	SK155	202712	海 ³ 美濃陶 瓶	内(四) 5 新式	丸	4.1			ヨコナタ?、自然釉		SY03/3 5V4/3 オリーブ			
0042 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 瓶	内(四) 7 新式	丸	5.3			自然釉、ヨコナタ?		2.5V4/4 にこい・表面			
0043 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 瓶	内(四) 9 新式	丸	6.3			自然釉、ヨコナタ?		SY03/3 5V5/4 オリーブ			
0044 120	SK155	202711	海 ³ 美濃陶 瓶	内(四) 5 新式	丸	31.4	幅6.3		自然釉、ヨコナタ?		SY03/4 40-42 オリーブ			
0045 120	SK155	202712	海 ³ 美濃陶 瓶	内(四) 5 新式	丸	4.1			ヨコナタ?、自然釉		SY03/3 5V4/3 オリーブ			
0046 110	SK147	202705	海 ³ 美濃陶 瓶	天日手鏡	古墳IV	1.8	幅5.8	幅12.0	研磨		10V8/3 にこい・表面		10V8/3 5V6/2	
0047 110	SK147	202708	海 ³ 美濃陶 瓶	天日手鏡	古墳IV	1.8	幅5.9	幅12.0	研磨		10V8/2 40-42 5V6/3 研磨		10V8/2 40-42 5V6/3 研磨	

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	番号	日付	所在地	材質	施設	特徴	U面	S面	E面	N面	内面	外側	割土(上部)	輪	備考	
0648	111	SK347	20200606	廻り土塁跡	天王寺御	人1	壁11.8	残5.7		推12.0	跡地	跡地、跡地	10Y8G/3 にない箇所	SV3/2 オリーブ色		
0649	111	SK347	2020020	廻り土塁跡	天王寺御	古墳N		残3.2	4.2		跡地	跡地、跡地、回転式	10Y8G/4 私1私	SYH2/3 黒鉛		
0650	111	SK347	2020020	廻り土塁跡	御田川		壁8.6	4.7	4.6	9.0	跡地	跡地、跡地、 回転式	2.5Y8G/8,0.1 私1私	10Y8G/1 黄		
0651	111	SK347	2020708	廻り土塁跡	御田川	古墳N	壁13.6	残2.9		推14.0	跡地	跡地、下平窓跡	10Y8G/4 にない箇所	10Y8G/4 黄鉛		
0652	111	SK347	2020020	廻り土塁跡	御田川	古墳N	壁11.1	2.6	4.7	推11.4	跡地	跡地、下平窓跡、 回転式	2.5Y8G/9 黄白	7.5VS/3 黒1グレーブ		
0653	111	SK347	2020020	廻り土塁跡	御田川	生田	壁10.8	残1.8		推11.0	跡地		2.5VS/3 深青			
0654	111	SK347	2020020	廻り土塁跡	御田川	福之島	壁11.2	3.1	壁4.4	推11.4	ヨコナタデ、わざか に自然軸、回転式			SY7/1 黄(1)		
0655	112	SK347	2020709	尾形町山茶	小畠	6型式	壁9.0	2.0	5.4	残9.4	ヨコナタデ、一方角	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	2.5Y7/1 黄,白	黒(1)		
0656	111	SK347	2020705	尾形町山茶	小畠	7型式	壁8.2	2.1	5.0	残8.8	ヨコナタデ、自然軸	ヨコナタデ、回転式 一方ナタデ	10Y8Z/1 黄	黒(1)		
0657	111	SK347	2020705	尾形町山茶	小畠	0/53	14.0	4.2	5.4	14.1	ヨコナタデ、自然軸	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	2.5Y7/1 黄	白		
0658	111	SK347	2020705	尾形町山茶	壁	9.0	残2.1	残7.4		跡地、毛なれき跡	跡地、回転式	2.5Y7/2 黄,青	SY9/2 黄(1)			
0659	112	SK347	20200606	土塁跡	中田	1型式	壁1.7	3.4		白軸軸	跡地、跡地、回転式	SY1/1 黄(1)	C4ABD-YG BL4			
0660	111	SK347	2020705	中國	御田川		壁0.7	壁2.0		白軸軸	ヨコ軸		CO-M4-Y4- BL0	CO-M4- BL0	口形	
0661	111	SK347	2020020	土塁跡	ヨリ口調整		壁2.4	2.0	6.6	12.8	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/4 にない箇所			
0662	111	SK347	2020820	土塁跡	ヨリ口調整		壁2.8	2.1	7.2	13.2	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/4 にない箇所			
0663	111	SK347	2020700	土塁跡	ヨリ口調整		壁3.9	2.3	6.7	14.1	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/4 にない箇所			
0664	111	SK347	2020020	土塁跡	ヨリ口調整		壁12.0	2.3	6.5	12.2	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/3 にない箇所			
0665	111	SK347	2020820	土塁跡	ヨリ口調整		壁12.4	2.1	6.3	12.6	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/4 にない箇所			
0666	111	SK347	2020820	土塁跡	ヨリ口調整		壁11.7	2.0	6.0	11.9	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/4 にない箇所			
0667	111	SK347	2020020	土塁跡	ヨリ口調整		壁13.0	2.1	6.6	13.2	ヨコナタデ	ヨコナタデ、被熱軸	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/4 にない箇所		
0668	111	SK347	2020819	土塁跡	ヨリ口調整		壁12.8	2.6	5.8	13.0	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/4 にない箇所			
0669	111	SK347	2020020	土塁跡	ヨリ口調整		壁11.8	2.0	6.2	12.0	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	7.5Y8Z/4 にない箇所			
0670	111	SK347	2020820	土塁跡	ヨリ口調整		壁11.7	2.1	6.0	11.9	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/4 にない箇所			
0671	111	SK347	2020620	土塁跡	ヨリ口調整		壁12.1	2.0	6.4	12.3	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/3 にない箇所			
0672	111	SK347	2020705	土塁跡	ヨリ口調整		壁13.4	2.2	6.3	13.6	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/3 にない箇所			
0673	111	SK347	2020820	土塁跡	ヨリ口調整		壁11.9	2.0	6.4	12.2	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/3 にない箇所			
0674	111	SK347	2020620	土塁跡	ヨリ口調整		壁12.0	2.1	6.4	12.3	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/4 にない箇所			
0675	111	SK347	2020806	土塁跡	ヨリ口調整		壁13.0	2.3	6.4	13.2	ヨコナタデ	ヨコナタデ、被熱軸	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/4 にない箇所		
0676	111	SK347	2020820	土塁跡	ヨリ口調整		壁12.1	2.1	6.5	12.3	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/4 にない箇所			
0677	111	SK347	2020620	土塁跡	ヨリ口調整		壁12.2	2.0	6.2	12.5	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/4 にない箇所			
0678	111	SK347	2020820	土塁跡	ヨリ口調整		壁11.6	2.2	6.2	12.2	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/3 にない箇所			
0679	111	SK347	2020708	土塁跡	ヨリ口調整		壁14.0	2.2	7.2	推14.4	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/3 にない箇所			
0680	111	SK347	2020619	土塁跡	ヨリ口調整		壁13.6	2.1	6.8	13.8	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/3 にない箇所			
0681	111	SK347	2020820	土塁跡	ヨリ口調整		壁13.0	2.2	7.0	13.2	ヨコナタデ	ヨコナタデ、被熱軸	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	7.5Y8Z/6 極		
0682	111	SK347	2020020	土塁跡	ヨリ口調整		壁12.0	2.0	6.0	推12.5	ヨコナタデ	ヨコナタデ、被熱軸	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/3 にない箇所		
0683	111	SK347	2020819	土塁跡	ヨリ口調整		壁14.0	2.4	7.0	14.2	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/4 にない箇所			
0684	111	SK347	2020705	土塁跡	ヨリ口調整		壁13.7	2.2	6.7	13.9	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/4 にない箇所			
0685	111	SK347	2020806	土塁跡	ヨリ口調整		壁13.4	2.5	7.0	推13.6	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/4 にない箇所			
0686	111	SK347	2020620	土塁跡	ヨリ口調整		壁12.1	2.0	5.9	12.3	ヨコナタデ	ヨコナタデ、被熱軸	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/3 にない箇所		
0687	111	SK347	2020819	土塁跡	ヨリ口調整		壁16.0	2.6	7.6	ヨコナタデ、スズキ 音	ヨコナタデ、スズキ 音	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/4 にない箇所			
0688	111	SK347	2020820	土塁跡	ヨリ口調整		壁11.8	残2.0		推12.0	ヨコナタデ	ヨコナタデ にない箇所	10Y8Z/2 にない箇所			
0689	111	SK347	2020705	土塁跡	ヨリ口調整		壁12.6	2.1	6.4	12.6	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/3 にない箇所			
0690	111	SK347	2020705	土塁跡	ヨリ口調整		壁12.6	残1.8		推12.7	ヨコナタデ	ヨコナタデ	10Y8Z/3 にない箇所			
0691	111	SK347	2020705	土塁跡	ヨリ口調整		壁12.0	残1.7		推12.2	ヨコナタデ	ヨコナタデ	10Y8Z/2 にない箇所			
0692	111	SK347	2020705	土塁跡	ヨリ口調整		壁11.0	残1.8		推11.1	ヨコナタデ	ヨコナタデ	10Y8Z/2 にない箇所			
0693	111	SK347	2020705	土塁跡	ヨリ口調整		壁12.2	2.2		推12.4	ヨコナタデ	ヨコナタデ にない箇所	10Y8Z/2 にない箇所			
0694	111	SK347	2020822	土塁跡	ヨリ口調整		壁8.0	1.7	4.0	推8.2	ツール付春	ツール付春、ヨコ ナタデ、回転式	10Y8Z/4 にない箇所			
0695	111	SK347	2020820	土塁跡	ヨリ口調整		壁7.0	1.4	4.0	推7.3	ヨコナタデ	ヨコナタデ、回転式 切迫1.0,斜状1.0	10Y8Z/4 にない箇所			
0696	111	SK347	2020820	土塁跡	ヨリ口調整		壁7.0	1.5	4.0	7.2	ヨコナタデ	ヨコナタデ	10Y8Z/4 にない箇所			

遺物一覧表

登録番号	登録年月日	出土地・材質	縦幅	横幅	厚さ	目次番号	裏面	外観	出土(外観)	施主	備考
0097	11/ SK147	2020/05 土蔵壁 木造(鉛?)			3.2			黒オサエ	SVR6/6 横 時代不明		
0098	11/ SK147	2020/05 土蔵壁 木造	7.0~7.3	1.0	5.8~6.1	7.2~7.5	ヨコナデ?	ヨコナデ、黒オサ エ	140/R7/2 に伝いの施物		
0099	11/ SK147	2020/05 土蔵壁 木造	6.8~7.2	1.2	5.4~5.6	7.0~7.5	ヨコナデ?	ヨコナデ、黒オサ エ	140/RM/3 に伝いの施物		
0100	11/ SK147	2020/05 土蔵壁 木造	6.0~6.9	0.9	5.3~5.7	6.8~7.1	ヨコナデ?	ヨコナデ、黒オサ エ	140/RM/3 浅井持		
0101	11/ SK147	2020/05 土蔵壁 木造	6.0~7.1	1.0	5.3~5.7	6.8~7.3	ヨコナデ?	ヨコナデ、黒オサ エ	140/RM/3 浅井持		
0102	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	7.0	1.0	6.3	7.2	ヨコナデ?	ヨコナデ、黒オサ エ	140/RM/3 浅井持		
0103	11/ SK147	2020/19 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	無	6.8	1.1	黒 5.8	黒 7.0	ヨコナデ?	ヨコナデ、黒オサ エ	140/R7/3 に伝いの施物
0104	11/ SK147	2020/19 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	6.3~6.5	1.3	4.7~5.0	5.5~6.7	ヨコナデ?	ヨコナデ、黒オサ エ	140/R7/3 無	
0105	11/ SK147	2020/05 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	6.4~6.6	1.3	4.7~5.0	6.0~6.6	ヨコナデ? ハケ	ヨコナデ、黒オサ エ	140/R7/3 に伝いの施物	
0106	11/ SK147	2020/08 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	6.0~6.2	1.3	4.7~5.0	6.2~6.4	ヨコナデ?	ヨコナデ、黒オサ エ	140/R7/3 に伝いの施物	
0107	11/ SK147	2020/05 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	6.2~6.4	1.2	4.9~5.2	6.6~6.7	ヨコナデ?	ヨコナデ、黒オサ エ	140/R7/3 に伝いの施物	
0108	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	6.6~6.9	1.3	5.0~5.1	6.4~6.5	ヨコナデ?	ヨコナデ、黒オサ エ	140/R7/3 に伝いの施物	
0109	11/ SK147	2020/08 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	6.2	1.4	4.7~5.0	6.4~6.5	ヨコナデ?	ヨコナデ、黒オサ エ	140/R7/3 に伝いの施物	
0110	11/ SK147	2020/05 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	6.3~6.7	1.2	4.5~5.0	6.5~6.9	ヨコナデ?	ヨコナデ、施主庄 信、黒オサエ	140/R7/3 に伝いの施物	
0111	11/ SK147	2020/05 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	6.8~7.1	1.2	5.3~5.4	7.0~7.3	ヨコナデ?	ヨコナデ、施主庄 信、黒オサエ	140/R7/3 に伝いの施物	
0112	11/ SK147	2020/19 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	無	6.3	1.1	4.8	黒 6.6	ヨコナデ?	ヨコナデ、黒オサ エ	140/R7/3 に伝いの施物
0113	11/ SK147	2020/05 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	6.7~6.9	1.0	5.3~5.5	6.9~7.1	ヨコナデ?	ヨコナデ、黒オサ エ	140/R7/3 浅井持	
0114	11/ SK147	2020/19 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.0~7.5	1.6	7.2~7.5	ハケ、ナデ?	黒オサエ	140/R7/3 に伝いの施物		
0115	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.0~7.2	1.7	7.3~7.7	ハケ、ナデ?	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0116	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.2~7.5	1.6	7.2~7.5	ナデ?	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0117	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.1~7.6	1.7	7.5~8.6	ナデ?	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0118	11/ SK147	2020/05 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.0~7.2	1.5	7.0~7.2	ハケ、ナデ?	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0119	11/ SK147	2020/05 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.2~7.6	1.6	7.4~8.6	ハケ、ナデ?	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0120	11/ SK147	2020/05 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.0~7.3	1.7	7.4~7.6	ハケ	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0121	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.4~7.6	1.7	7.7~9.0	ハケ、ナデ?	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0122	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.2~7.6	1.4	7.5~7.9	ヨコナデ?	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0123	11/ SK147	2020/05 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.0~7.2	1.4	7.4~7.6	ハケ	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0124	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.2~7.6	1.6	7.5~8.6	ハケ	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0125	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.2~7.6	1.6	7.3~7.8	ヨコナデ?	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0126	11/ SK147	2020/19 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.0~7.3	1.5	7.3~7.6	ハケとヨコナデ?	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0127	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.0	1.7	7.4~8.6	スヌイ	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0128	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	6.8~7.0	1.8	7.2~7.5	ヨコナデ?	黒オサエ	140/R7/3 に伝いの施物		
0129	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.2~7.4	1.7	7.6~7.8	ハケ、ナデ?	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0130	11/ SK147	2020/05 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.3~7.5	1.6	7.6~7.8	ハケ、ヨコナデ?	黒オサエ	140/R7/3 に伝いの施物		
0131	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.2~7.4	1.6	7.5~7.7	ハケ、ヨコナデ?	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0132	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.4~7.6	1.9	7.6~7.8	ヨコナデ?	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0133	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.2~7.6	1.8	7.2~7.6	ハケ	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0134	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.2~7.6	1.6	7.6~8.6	ハケ、ヨコナデ?	黒オサエ	140/R7/3 に伝いの施物		
0135	11/ SK147	2020/08 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.2~7.4	1.5	7.5~7.7	ナメ	黒オサエ	140/R7/3 に伝いの施物		
0136	11/ SK147	2020/08 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.2~7.4	1.7	7.4~7.7	ハケ、ヨコナデ?	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0137	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.2~7.4	1.8	7.4~7.8	ハケ	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0138	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.2~7.6	1.7	7.2~7.6	調整不明	黒オサエ、ハケ?	140/R7/4 に伝いの施物		
0139	11/ SK147	2020/08 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.2~7.4	1.5	7.4~7.7	ハケ、黒オサエ	黒オサエ、ハケ?	5/5/R7/3 に伝いの施物		
0140	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.6	1.6	7.5	ハケ、黒オサエ	黒オサエ	5/5/R7/3 に伝いの施物		
0141	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.2	1.5	7.5	調整不明	黒オサエ	5/5/R7/4 に伝いの施物		
0142	11/ SK147	2020/20 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.6	1.5	7.6	ハケ、黒オサエ	黒オサエ	5/5/R7/4 に伝いの施物		
0143	11/ SK147	2020/19 土蔵壁 木造	ヨコナデ 木造	7.1	1.4	7.4	ヨコナデ?	黒オサエ	140/R7/4 に伝いの施物		
0144	11/ SK147	2020/08 楽器 木製	古鏡IV	高 4.6	肩 5.7	従 11.4	鏡軸	鏡軸	2.5/6/1 銅鏡 オリーブ		
0145	11/ SK147	2020/08 楽器 木製	内(二) 古鏡II 或 III	高 1.30	肩 4.9	従 8.2	鏡軸	鏡軸	2.5/6/2 銅鏡 オリーブ		
0146	11/ SK147	2020/20 楽器 木製	古鏡IV 高	2.6			鏡軸	鏡軸	5/5/R3 明吉鏡		

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	区画	遺跡名	日付	地場	材質	施 稲	特 性	U面(東)	南面(西)	北面(北)	内面	外面	野(外郭)	植(内郭)	考査
0747 1丁目	SK3-47	020820	赤堀内蔵	二重構造	小石積 板瓦	幅18.0	残4.8	推20.2	自然崩	ヨコナギ、指オサ エ、タチハシ?	2.5V4/2 西周 底石	1084/2 底石			
0748 1丁目	SK3-47	020806	赤堀内蔵	板瓦	古墳瓦	幅13.6	残4.1		研磨	研磨	2.5V6/3 底石	1083/2 底石			
0749 1丁目	SK3-47	020820	赤堀内蔵	板瓦	古墳瓦	幅2.1	残9.6		研磨	研磨、削除(切削)	2.5V7/2 西周 底石	1083/2 底石			
0750 1丁目	SK3-47	020820	赤堀内蔵	板	板	幅1.2		残3.0		研磨	研磨	10YRS/2 底石	1083/3 底石		
0751 1丁目	SK3-47	020820	土御前	板	板	幅11.6	残4.5		ヨコナギ、ヨコハ ス、スズメガラク 等	ヨコナギ、ヨコハ ス、スズメガラク 等	2.5V6/4 底石	1084/2 底石			
0752 1丁目	SK3-47	020806	土御前	手掘形内蔵 壁	板	幅5.6			ヨコナギ、指オサ エ、スズメガラク 等	ヨコナギ、指オサ エ、スズメガラク 等	2.5V6/3 底石	1083/2 底石			
0753 1丁目	SK3-47	020822	土御前	手掘形内蔵 壁	板	幅21.4	残11.2	推23.0	ヨコナギ、ハケ、 スズメガラク、 ヨコナギ等	ヨコナギ、ハケ、 スズメガラク、 ヨコナギ等	10YRS/2 底石	1084/2 底石			
0754 1丁目	SK3-47	020705	土御前	手掘形内蔵 壁	板	幅26.6	残11.7	推26.6	ヨコナギ、調整不 明、大穴付	ヨコナギ、田中 エ、ハケ、カツリ、 スズメガラク、 スズメガラク等	10YRS/1 底石	1083/1 底石			
0755 1丁目	SK3-47	020917	土御前	手掘形内蔵 壁	板	幅22.8	残10.2	推22.8	ヨコナギ、ハケ、 スズメガラク、 ヨコナギ等	ヨコナギ、ハケ、 スズメガラク、 ヨコナギ等	2.5VRS/2 底石	1084/2 底石			
0756 1丁目	SK3-47	020820	土御前	手掘形内蔵 壁	板	幅31.0	残11.7	推31.1	ヨコナギ、ハケ、 ヨコナギ等	ヨコナギ、ハケ、 ヨコナギ等	10YRS/4/2 底石	1084/3 底石			
0757 1丁目	SK3-47	020820	土御前	手掘形内蔵 壁	板	幅23.0	残10.1	推23.0	ヨコナギ、ハケ、 スズメガラク、 ヨコナギ等	ヨコナギ、指オサ エ、スズメガラク、 ヨコナギ等	10YRS/3 底石	1083/3 底石			
0758 1丁目	SK3-47	020819	土御前	手掘形内蔵 壁	板	幅30.0	残15.7	推31.2	ヨコナギ、調整不 明、ヨコナギ等	ヨコナギ、指オサ エ、ハケ、カツリ、 下平調等、ス スズメガラク等	10YRS/2 底石	1084/2 底石			
0759 1丁目	SK3-47	020820	本堀内	板	板	幅大約 33.5	残3.0			研磨					
0760 1丁目	SK3-47	020705	洪積層	板	板	幅6.5	幅2.0	厚2.0							
0761 1丁目	SK3-47	020705	赤堀底泥引	砾石	板	幅2.5	幅1.4	厚0.4							
0762 1丁目	SK3-47	020705	赤堀底泥引	砾石	板	幅3.5	幅2.3	厚0.4							
0763 1丁目	SK3-47	020705	赤堀底泥引	砾石	板	幅3.6	幅3.0	厚0.5							
0764 1丁目	SK3-47	020705	赤堀底泥引	砾石	板	幅5.7	幅2.9	厚1.3							
0765 1丁目	SD3-9	020820	櫛ノ口遺物	古墳瓦	板	幅11.4	6.4	厚4.0	推31.8	研磨	洪積、研磨、回転 等	10YRS/2 底石	1083/2 底石		
0766 1丁目	SD3-9	020829	櫛ノ口遺物	板	(古墳瓦)	幅6.3	幅12.2		研磨	洪積、下平調、 研磨	2.5V7/2 西周 底石	2.5V6/2 底石			
0767 1丁目	SD3-9	020829	土御前	櫛ノ口調整	板	幅12.2	2.2	幅6.0	推12.4	ヨコナギ	ヨコナギ、回転木 切削	10YRS/4 に伝い直角			
0768 1丁目	SD3-9	020829	土御前	櫛ノ口調整	板	幅1.5	6.0		ヨコナギ	ヨコナギ、回転木 切削の、板状化等					
0769 1丁目	SD3-9	020829	土御前	櫛ノ口調整	板	幅3.3			研磨	研磨	2.5V6/2 に伝い直角	2.5V6/2 オリーブ青			
0770 1丁目	SD3-9	020829	土御前	櫛ノ口調整	板	幅3.4			研磨	研磨	10YRS/4 に伝い直角	2.5V6/3 明古玉			
0771 1丁目	SD3-9	020829	土御前	ヨコナギ調整	板	幅5.5	1.4		ヨコナギ	ヨコナギ、指オサ エ等	10YRS/2 に伝い直角				
0772 1丁目	SD3-9	020829	土御前	ヨコナギ調整	板	幅5.2	1.3	幅5.5	ヨコナギ?	ヨコナギ、指オサ エ等	10YRS/2 に伝い直角				
0773 1丁目	SD3-9	020829	土御前	ヨコナギ調整	板	幅5.4	1.2		ヨコナギ	ヨコナギ、指オサ エ等	10YRS/3 に伝い直角				
0774 1丁目	SD3-9	020829	土御前	ヨコナギ調整	板	幅5.2	1.2		ヨコナギ	ヨコナギ、指オサ エ等?	10YRS/2 に伝い直角				
0775 1丁目	SD3-9	020829	土御前	ヨコナギ調整	板	幅30.0	幅3.5		研磨	研磨	2.5V6/4 に伝い直角	1083/2 明古玉			
0776 1丁目	SD3-9	020829	土御前	ヨコナギ調整	板	幅30.0	幅2.7		研磨	研磨	10YRS/4 に伝い直角	1083/2 明古玉			
0777 1丁目	SD3-9	020829	土御前	ヨコナギ調整	板	幅9.2	9.2		研磨、内面ねじ 等	研磨、回転木切削 等	10YRS/3 に伝い直角 等	2.5V6/3 明古玉			
0778 1丁目	SD3-9	020919	ヨコナギ調整	板	古墳瓦	幅30.0	幅3.9		推31.0	研磨	研磨	2.5V7/2 西周 底石	2.5V6/2 オリーブ青		
0779 1丁目	SD3-9	020919	ヨコナギ調整	板	古墳瓦	幅18.0	幅14.3		研磨、剥離、一部 落着、リフロー等	ヨコナギ、指オサ エ等	2.5V6/6 西周 底石	2.5V8/4 西周 底石			
0780 1丁目	SD3-9	020829	土御前	手掘形内蔵 壁	板	幅3.1			ヨコナギ、調整不 明	ヨコナギ、指オサ エ等、スズメガラク 等	10YRS/5 に伝い直角				
0781 1丁目	SD3-9	020829	土御前	手掘形内蔵 壁	板	幅2.3			ヨコナギ	ヨコナギ	10YRS/3 に伝い直角				
0782 1丁目	SD3-9	020829	土御前	手掘形内蔵 壁	板	幅3.4			ヨコナギ	ヨコナギ、スズメ ガラク等	10YRS/6 橙				
0783 1丁目	SD3-9	020829	土御前	手掘形内蔵 壁	板	幅4.1			ヨコナギ、ハケ	ヨコナギ、指オサ エ等、スズメガラク 等	10YRS/2 底石				
0784 1丁目	SD3-9	020829	土御前	手掘形内蔵 壁	板	幅4.4			ヨコナギ、ハケ	ヨコナギ、指オサ エ等、スズメガラク 等	10YRS/2 底石				
0785 1丁目	SD3-9	020829	土御前	手掘形内蔵 壁	板	幅4.6			ヨコナギ、ハケ	ヨコナギ、指オサ エ等、スズメガラク 等	2.5V6/6 に伝い直角				
0786 1丁目	SD3-9	020829	土御前	手掘形内蔵 壁	板	幅3.2			ヨコナギ	ヨコナギ、スズメ ガラク等	10YRS/2 に伝い直角				
0787 1丁目	SD3-9	020829	土御前	(羽村) 壁	板	幅12.2	幅3.9		ヨコナギ	ヨコナギ	10YRS/4 に伝い直角				
0788 1丁目	SD3-9	020829	土御前	(羽村) 壁	板	幅21.0	幅9.0		推23.6	ヨコナギ、ヨコハ ス、スズメガラク 等、下平調等	2.5V6/4 に伝い直角 等				
0789 1丁目	SD3-9	020829	土御前	(羽村) 壁	板	幅21.0	幅5.4		推22.6	ヨコナギ、ヨコハ ス、スズメガラク 等、下平調等	10YRS/3 に伝い直角				
0790 1丁目	SD3-9	020829	土御前	(羽村) 壁	板	幅22.0	幅6.3		推23.6	ヨコナギ、ハケ、 ヨコハス、指オサ エ等、スズメガラク 等	10YRS/3 に伝い直角				
0791 1丁目	SD3-9	020829	土御前	(羽村) 壁	板	幅22.8	幅6.2		推23.8	ヨコナギ、下平調 等	10YRS/3 に伝い直角				
0792 1丁目	SD3-9	020829	土御前	(羽村) 壁	板	幅23.0	幅4.5		推24.0	ヨコナギ、下平調 等	10YRS/3 に伝い直角				
0793 1丁目	SD3-9	020829	土御前	(羽村) 壁	板	幅25.0	幅4.5		推25.7	ヨコナギ、下平 調等(ハナツ)	10YRS/3 に伝い直角			800m上同 少?	
0794 1丁目	SD3-9	020829	土御前	(羽村) 壁	板	幅24.0	幅4.1		推25.6	ヨコナギ、ハケ	2.5V6/5 に伝い直角				

遺物一覧表

登録番号	登録年	遺物番号	日付	発地・材質	縦幅	横幅	厚さ	U断面	断面形状	断面寸法	最大寸法	内面	外面	出土(外因)	地主	備考
0795	13d	SD039	202829	138番	半球形内耳 鉢	幅24.0	残	4.3				ヨコナデ、下干瀬形、 直路、スヌ付背		10V8R/2 洗面槽		
0796	12d	SD039	202829	138番	半球形内耳 鉢	幅25.0	残	3.8				ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、削オサ ム、スヌ付背	10V8R/3 洗面槽		
0797	13d	SD039	202829	138番	半球形内耳 鉢	幅26.8	残	4.5				ヨコナデ、ロコナ ド、スヌ付背		10V8R/6 洗面槽		
0798	13d	SD039	202829	138番	半球形内耳 鉢	幅29.0	残	13.3				ヨコナデ、ハケ、 直路	ヨコナデ、削オサ ム、スヌ付背	10V8R/2 洗面槽		
0799	13d	SD039	202829	138番	半球形内耳 鉢	幅25.2	残	13.8		26.5		ヨコナデ、ハケ、 削オサム、ヘラク セリ	ヨコナデ、削オサ ム、スヌ付背、ヘ ラクセリ	10V8R/3 洗面槽		
0800	13d	SD239	202829	138番	半球形内耳 鉢	幅25.0	残	3.4				ヨコナデ、下干瀬形 等(ハサワ)、スヌ付 背	ヨコナデ、下干瀬形 等(ハサワ)、スヌ付 背	10V8R/3 に伝る面	293と同一 手元	
0801	13d	SD039	202829	138番	半球形内耳 鉢	幅23.2	残	11.7				ヨコナデ、ハケ、 削オサム、スヌ付 背	ヨコナデ、削オサ ム、スヌ付背	10V8R/6 洗面槽		
0802	13d	SD039	202829	138番	半球形内耳 鉢	幅23.2	残	4.1				ヨコナデ	ヨコナデ、削オサ ム、スヌ付背			
0803	12d	SD06	202708	和3-美透鏡 鉢	天日多曲 古窯IV 鉢	幅11.5	残	5.3				直輪動、片切道 等	直輪動、片切道 等	10V8R/2 洗面槽	10V8R/1 黒	
0804	13d	SD06	202603	和3-圓乳頭 青磁鉢		残	3.3					青磁動	青磁動、片切道 等	10V8R/1 洗面槽	10V8R/2 オーラー	
0805	12d	SD06	202604	和3-美透鏡 鉢	前輪動	大	幅	12.2		幅12.0		直輪動	直輪動、下干瀬形 等	10V8R/3 洗面槽		
0806	12d	SD06	202708	和3-美透鏡 鉢	青軸	古窯IV 鉢	残	2.1	幅	5.0		直輪動	直輪動、下干瀬形、 片切道	10V8R/3 に伝る面	NSK 電気	
0807	12d	SD17	202711	和3-圓乳頭 青磁鉢	青軸	幅14.6	残	2.7		幅14.6		直輪動	直輪動、下干瀬形、 片切道	10V8R/4 洗面槽	C10-MD V4-HD	
0808	12d	SD17	202728	和3-美透鏡 鉢	前輪動	大	幅	10.8		幅10.8		直輪動	直輪動、下干瀬形 等	10V8R/3 洗面槽	7.5V8R/1 黒	
0809	12d	SD17	202708	和3-美透鏡 鉢	直輪動	中古	幅	16.0		幅16.0		直輪動	直輪動、下干瀬形 等	10V8R/4 に伝る面	5V8R/4 オーラー	
0810	12d	SD17	202709	和3-美透鏡 鉢	鉢	大	幅	10.2		幅10.2		直輪動	直輪動、トランク 等	10V8R/3 に伝る面	5V8R/3 オーラー	
0811	12f	SD17	202728	和3-美透鏡 鉢	古窯IV 鉢	幅14.2	残	6.5		幅14.2		直輪動	直輪動	7.5V8R/6 洗面槽		
0812	12d	SD17	202711	和3-美透鏡 鉢	前輪	大	幅	2.0		幅2.0		直輪動	直輪動	10V8R/4 に伝る面	10V8R/1 黒	
0813	12d	SD17	202709	和3-美透鏡 鉢	前輪直頭	古窯IV 鉢	残	3.2				直輪動	直輪動	2.5V8R/3 洗面槽	2.5V8R/3 洗面槽	
0814	12d	SD17	202709	和3-美透鏡 鉢	鉢	中古9 式	幅	4.2				ヨコナデ	ヨコナデ、削オサ ム	5V8R/6 洗面槽		
0815	12d	SD17	202709	土師器	半球形内耳 鉢	幅4.5						ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、削オサ ム、スヌ付背	7.5V8R/2 洗面槽		
0816	10d	SD29	202727	和3-美透鏡 鉢	天日多曲 古窯IV 鉢	幅10.0	残	4.9				直輪動	直輪動、下干瀬形 等	10V8R/6 洗面槽	7.5V8R/3 洗面槽	
0817	10d	SD29	202727	土師器	ガリコノ瀬 直輪C型	幅6.2	残	0.7				ヨコナデ、削オサ ム	ヨコナデ、削オサ ム	10V8R/3 に伝る面		
0818	10d	SD29	202727	土師器	ガリコノ瀬 直輪C型	幅6.0	残	0.8				ヨコナデ、削オサ ム	ヨコナデ、削オサ ム	10V8R/4 に伝る面		
0819	13e	SD25	202729	和3-美透鏡 鉢	丸鉢	古窯IV 鉢	幅13.0	3.6	3.6	11.4	直輪	直輪動、下干瀬形、 片切道	直輪動、下干瀬形、 片切道へタツミの 柄に付着、ヨコ ナデ	2.5V8R/2 洗面槽	5V7D/3 洗面槽	
0820	12d	SD25	202726	和3-美透鏡 鉢	繩目はき 鉢	幅12.2	2.9	幅6.0		幅12.6		直輪動、下干瀬形 等	直輪動、下干瀬形、 片切道	10V8R/3 洗面槽	7.5V8R/2 洗面槽	
0821	12f	SD25	202727	土窯	白磁反対	幅11.0	幅	2.2		幅11.0		白磁動	白磁動	CO-MD-YO- BL4	CO-MD-YO- BL4	
0822	12d	SD25	202726	土師器	ガリコノ瀬 直輪	0.1	1.8			9.6		調整不 ^明	ヨコナデ、調整不 明	10V8R/3 に伝る面		
0823	12d	SD25	202726	土師器	ガリコノ瀬 直輪	幅9.6	幅	1.4		幅10.6		調整不 ^明	ヨコナデ、調整不 明	7.5V8R/3 に伝る面		
0824	12d	SD25	202727	和3-美透鏡 鉢	圓鉢	大	幅	2.4				直輪動	直輪動	7.5V8R/4 に伝る面	7.5V8R/3 洗面槽	
0825	12d	SD25	202727	和3-美透鏡 鉢	圓鉢	古窯IV 鉢	幅4.0					直輪動	直輪動	10V8R/4 に伝る面	7.5V8R/3 洗面槽	
0826	13d	SD25	202729	和3-美透鏡 鉢	和日川大曲 古窯IV 鉢	幅32.8	幅	4.8		幅33.2		直輪	直輪	2.5V8R/1 洗面槽	2.5V8R/1 洗面槽	
0827	12f	SD25	202727	和3-美透鏡 鉢	内(3)右 II	幅9.3						直輪、直輪	直輪、直輪	10V8R/1 洗面槽	5V5/4 オーラー	
0828	13d	SD23	202730	安須賀山多 用器	山手鉢	幅1.2	5.4					ヨコナデ、削音条 等	ヨコナデ、削音条 等	2.5V7/1 洗面槽		
0829	13f	SD33	202730	安須賀山多 用器	鉢	幅3.9						ヨコナデ	ヨコナデ	2.5V7/1 洗面槽		
0830	13d	SD36	202626	和3-美透鏡 鉢	繩目小鉢	大	幅	9.2		幅9.0		直輪、下干瀬形 等	直輪、下干瀬形、 片切道	2.5V7/2 洗面槽	2.5V8/3 オーラー	
0831	13d	SD36	202626	和3-美透鏡 鉢	繩目小鉢	古窯IV 鉢	幅12.0	1.7	幅6.8	幅12.3		直輪、下干瀬形 等	直輪、下干瀬形、 片切道	2.5V7/2 洗面槽	2.5V8/3 オーラー	
0832	13d	SD35	202823	和3-圓乳頭 青磁鉢	青磁鉢文 丸鉢	幅13.6	幅	3.8		幅13.6		青磁動	青磁動、西花文	CO-MD-YO- BL4	C6-MD-YO- BL4	
0833	13d	SD35	202823	和3-美透鏡 鉢	繩目	古窯IV 鉢	幅2.0					直輪、下干瀬形 等	直輪、下干瀬形 等	10V8R/2 に伝る面	5V5/4 オーラー	
0834	13d	SD35	202823	土師器	リヨウ調整	幅0.8	7.0					ヨコナデ、直輪の シルエット	ヨコナデ、直輪の シルエット	7.5V8R/3 洗面槽		
0835	13d	SD36	202823	和3-美透鏡 鉢	ガリコノ瀬 直輪	幅7.6	1.0			幅8.6		ヨコナデ	ヨコナデ、削音 条等	7.5V8R/3 洗面槽		
0836	13d	SD35	202827	土師器	ガリコノ瀬 直輪	幅9.8	1.9			幅10.6		削オサエ	削オサエ	7.5V8R/4 に伝る面		
0837	13d	SD35	202827	土師器	ガリコノ瀬 直輪	幅9.1~ 0.6	2.0			幅9.4~ 0.6		削オエ	削オエ	7.5V8R/4 に伝る面		
0838	11j	SK146	202705	土師器	リヨウ調整	幅6.4	幅	1.2		幅6.5		削オサエ	削オサエ	7.5V8R/4 に伝る面		
0839	11j	SK146	202705	土師器	リヨウの調整	幅11.4	幅	1.4		幅11.6		ヨコナデ	ヨコナデ	10V8R/3 に伝る面		
0840	11j	SK146	202705	土師器	リヨウ調整	幅12.8	幅	1.4		幅11.6		ヨコナデ	ヨコナデ	10V8R/4 洗面槽		
0841	11j	SK146	202705	土師器	リヨウの調整	幅6.1	幅	1.1		幅10.0		ヨコナデ、ダマ ル?付	ヨコナデ、ダマ ル?付	7.5V8R/6 洗面槽		
0842	11j	SK146	202705	土師器	内側側面剥 離	幅11.2	幅	7.4		幅20.6		ヨコナデ、ダマ ル?付	ヨコナデ、ダマ ル?付	10V8R/3 に伝る面		

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	区画	遺跡名	日付	所在地	材質	施設	特徴	U面(東)	南面(西)	東西(北)	南北(南)	内面	外側	歴史(外側)	歴史	備考
0843	10M	SK214	2007.2.27	東ノ大虎跡	土	古墳	無	18.8	残 6.0	無	無	坑跡	坑跡、輪・保溝部	2.5YR7/1 黄白 オリーブ色		
0844	10e	SK215	2007.2.20	東ノ大虎跡	天王寺系	天王寺系	人 1	無 11.4	残 6.1	無 11.6	無	坑跡	坑跡、少すこ細軸	10YR7/3/3 7.5YR5/3 に、よい・昔		
0845	10d	SK215	2007.2.21	東ノ大虎跡	天王寺系	山側系	古墳	無 10.8	残 5.4	無 11.8	無	坑跡	坑跡、下丁型軸、 ヘラタケリ	10YR6/2/2 2.5YR6/2 黄白		
0846	10e	SK215	2007.2.20	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 10.4	残 5.2	無 10.7	無	坑跡	坑跡、下丁型軸、 ヘラタケリ	10YR2/4 に、よい・昔		
0847	10e	SK215	2007.2.20	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 11.4	残 4.6	無 11.6	無	坑跡	坑跡、下丁型軸	5YR1/1 黄 2.5YR3/1 黄白		
0848	10d	SK215	2007.2.21	東ノ大虎跡	天王寺系	山側系	生田	無 11.5	残 2.4	幅 4.2	無 11.6	ヨコカド	ヨコカド、回転系 切削	10YR6/2 黄白		
0849	10e	SK215	2007.2.20	東ノ大虎跡	天王寺系	生田	無	8.0	1.6	5.2	無 8.2	ヨコカド、自然形 切削	10YR6/2/1 黄白		▲	
0850	10e	SK215	2007.2.20	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 15.4	残 4.2	無 15.6	無	坑跡	坑跡、輪・保溝部 する	5YR7/3 4黄白	5YR5/3 黄・オリーブ	
0851	10d	SK215	2007.2.21	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 3.9	5.0	無	無	坑跡	坑跡、下丁型軸、 ヘラタケリ	10YR7/3 10YR8/1		
0852	10e	SK215	2007.2.20	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 4.8	無	無	無	坑跡	2.5YR6/2 黄白			
0853	10e	SK215	2007.2.20	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 4.1	無	無	無	坑跡	10YR7/3 2.5YR2/2 黄白			
0854	10e	SK215	2007.20	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 4.6	無	無	無	坑跡	10YR6/2 に、よい・昔	7.5YR6/2 黄白		
0855	10e	SK215	2007.20	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 4.9	無	無	無	坑跡	10YR6/2 に、よい・昔	7.5YR6/3 黄白		
0856	10e	SK215	2007.20	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 2.9	無	無	無	坑跡	10YR6/2 に、よい・昔	5YR4/4 黄白		
0857	10e	SK215	2007.20	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 2.7	無	無	無	坑跡	2.5YR6/2 黄白			
0858	10e	SK215	2007.20	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 4.8	無	無	無	坑跡・ハサウ	坑跡・ハサウ。無 ラツメ有り。	2.5YR6/2 黄 5YR6/2 黄・オリーブ		
0859	10e	SK215	2007.20	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 27.6	残 7.6	無 28.0	無	坑跡、下丁型軸	坑跡、下丁型軸	N7/灰白 10YR2/4 に、よい・昔	5YR4/4 黄・オリーブ	
0860	10e	SK215	2007.20	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 4.8	無 9.2	無	無	研磨、横口 1 号 ◎ 10.4 2.6m, 直径	研磨、横口 1 号 保溝部	2.5YR6/2 黄白		
0861	10M	SK215	2007.21	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳	古墳	無 11.0	残 4.0	口縁・腰部剥離、 保溝部	口縁・腰部剥離、 保溝部	無	2.5YR7/1 黄白 10YR6/2 黄白	2.5YR6/3 黄・オリーブ		
0862	10e	SK215	2007.20	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳	古墳	無 5.4	無	無	無	研磨	研磨、保オサエ、 無	2.5YR7/1 黄白 10YR6/2 黄白		
0863	13d	SK222	2007.29	東ノ大虎跡	土盤	古墳	古墳	無 12.8	残 6.2	無	無	研磨	研磨	2.5YR6/2 黄白 7.5YR4/2 黄白		
0864	13d	SK222	2007.29	東ノ大虎跡	土盤	古墳	古墳	無 1.0	軸 0.9	厚 3.3	無	研磨	研磨	2.5YR6/2 黄白 7.5YR4/2 黄白		
0865	10e	SK227	2007.27	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 12.2	残 4.0	無 12.4	無	坑跡	坑跡、下丁型軸	5YR1/1 黄白	2.5YR6/2 黄白	
0866	10e	SK227	2007.27	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 2.7	無	無	無	研磨	研磨	7.5YR6/2 黄白		
0867	10M	SK240	2007.30	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳	古墳	無 12.6	残 3.4	無 12.8	無	坑跡	坑跡	10YR6/1 黄白	7.5YR6/1 黄白	
0868	10d	SK240	2007.30	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳	古墳	無 11.4	残 3.2	無 11.6	ヨコカド、調節	ヨコカド、調節	2.5YR1/1 黄白	白色軽質陶器		
0869	10d	SK240	2007.30	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳	古墳	無 2.6	4.0	無 2.9	ヨコカド、一方刃 ナギ	ヨコカド、一方刃 ナギ	2.5YR7/1 黄白 回転系切削			
0870	10M	SK240	2007.30	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳	古墳	無 12.6	残 1.8	無 12.8	ヨコカド	ヨコカド	2.5YR6/2 黄白			
0871	10d	SK240	2007.30	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳	古墳	無 11.0	残 1.7	無 12.0	ヨコカド	ヨコカド	2.5YR7/1 黄白			
0872	10M	SK240	2007.30	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 1.2	無 5.0	無	無	坑跡	坑跡、下丁型軸、 回転系切削	2.5YR6/2 黄白		
0873	10M	SK240	2007.30	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 1.2	6.0	無	無	研磨、自然物	研磨、自然物、 回転系切削	7.5YR7/1 黄白		
0874	10d	SK240	2007.30	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 1.2	無 2.1	無 11.0	坑跡、下丁型軸	坑跡、下丁型軸	2.5YR7/1 黄白	2.5YR3/3 オリーブ色		
0875	10d	SK240	2007.30	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 14.6	残 3.1	無 14.8	坑跡、期口、下丁型軸	坑跡、期口、下丁型軸	10YR6/3 黄白	7.5YR5/3 オリーブ色		
0876	10M	SK240	2007.30	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 2.3	8.0	無	坑跡、下丁型軸	坑跡、下丁型軸	2.5YR7/1 黄白			
0877	10M	SK240	2007.30	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 2.0	無 2.0	無	研磨、自然物	研磨、自然物、 回転系切削	2.5YR7/2 黄白			
0878	10d	SK240	2007.30	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 1.5	6.0	無	ヨコカド	ヨコカド、回転系 切削	2.5YR6/2 黄			
0879	10M	SK240	2007.30	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 11.6	残 3.0	無	研磨	研磨	2.5YR6/4 10YR6/4			
0880	10d	SK240	2007.30	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 2.3	16.0	無	よく骨膚	骨オサエ、砂口	2.5YR6/2 10YR6/2			
0881	10M	SK240	2007.30	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 6.3	無	無	研磨	研磨	10YR6/1 黄白 7.5YR6/6 黄			
0882	10d	SK240	2007.30	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 2.3	3.0	無	ヨコカド	ヨコカド	10YR6/3 2.5YR6/3			
0883	10M	SK240	2007.30	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 1.7	3.8	無	研磨、一部消物	研磨、一部消物	2.5YR7/2 黄白	2.5YR7/2 黄白		
0884	10M	SK240	2007.30	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 1.5	10.6	無	研磨	研磨、回転系切削	5YR5/4 に、よい・昔			
0885	10e	SK291	2008.26	緑釉瓦	前	O-53	無	0.8	無	無	ヨコカド、輪・保溝部 ヘラタケリ	ヨコカド、輪・保溝部 ヘラタケリ	2.5YR6/1 黄白	10YR5/2 オリーブ色		
0886	10e	SK291	2008.26	東野山系	山側系	鶴之鳥	無 11.4	残 2.4	無 11.6	ヨコカド	ヨコカド	2.5YR6/1 黄白 2.5YR6/2 黄白				
0887	10e	SK291	2008.26	土盤	口 7.0 調整	前	無 11.8	1.7	無 5.2	無 12.0	ヨコカド	ヨコカド、回転系 切削	10YR2/3 に、よい・昔			
0888	10e	SK291	2008.26	東ノ大虎跡	天王寺系	古墳群	古墳群	無 8.0	無	無	坑跡、下丁型軸	坑跡、下丁型軸、 自然物	10YR6/1 黄白 7.5YR3/2 黄白			
0889	10d	SK298	2008.26	灰陶輪	前	K-90	無	2.2	6.6	無	坑跡・つけかけ	坑跡・つけかけ、 ヨコカド、ヘラタケリ	2.5YR7/2 黄白			

遺物一覧表

登録番号	件名	日付	発地・材質	縦幅	横幅	厚さ	目次番号	測定値(cm)	測定値(cm)	測定値(cm)	内面	外面	出土(外箱)	施主	備考
0890 6d SK258	202028	延喜式年条 山手柄	7.5cm	2.7	7.8	2.0	ヨコナデ、斜面 切端の板状化	ヨコナデ、一方端 切端の板状化	ヨコナデ、斜面 切端の板状化	ヨコナデ、斜面 切端の板状化	ヨコナデ、斜面 切端の板状化	ヨコナデ、斜面 切端の板状化	2.5Y7/1 白瓦	廻り	
0891 6d SK258	202028	延喜式年条 山手柄	7.5cm	2.4	5.2	2.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/1 白瓦		
0892 6d SK258	202028	延喜式年条 山手柄	7.5cm	10.2	1.5	2.0	ヨコナデ、斜面 切端	ヨコナデ、斜面 切端	ヨコナデ、斜面 切端	ヨコナデ、斜面 切端	ヨコナデ、斜面 切端	ヨコナデ、斜面 切端	2.5Y8/2 白瓦	2.5Y9/2 白瓦	
0893 6d SK258	202028	延喜式年条 天日手柄	古墳I	11.2	2.8	2.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	10Y07/2 白瓦	7.5Y9/2 白瓦	
0894 6d SK258	202028	延喜式年条 土師器	ヨコナデ	13.8	1.6	1.6	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5Y9/2 白瓦		
0895 6d SK258	202028	延喜式年条 土師器	ヨコナデ	8.8	1.3	1.6	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	10Y08/3 浅黄		
0896 6d SK258	202028	延喜式年条 土師器	ヨコナデ	7.0	1.3	1.6	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	10Y08/2 白瓦		
0897 6d SK258	202028	延喜式年条 土師器	ヨコナデ	30.8	7.4	2.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	5Y6/4 オリーブ		
0898 6d SK258	202028	延喜式年条 土師器	ヨコナデ	31.4	6.5	2.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/2 灰瓦	2.5Y5/3 灰瓦リップ	
0899 6d SK258	202028	延喜式年条 土師器	ヨコナデ	5.0	—	—	研磨	研磨	研磨	研磨	研磨	研磨	2.5Y6/2 白瓦	5Y4/1 白瓦	
0900 6d SK258	202028	延喜式年条 土師器	ヨコナデ	12.2	2.8	10.8	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	10Y07/3 白瓦	2.5Y8/4 白瓦	
0901 6d SK258	202028	延喜式年条 土師器	ヨコナデ	1.6	16.0	16.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y6/3 白瓦		
0902 11d SK321	202029	延喜式年条 山手柄	山手柄	1.6	2.2	3.8	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/2 灰瓦		
0903 11d SK321	202029	延喜式年条 山手柄	山手柄	1.5	2.5	4.7	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	10Y07/1 白瓦	10Y08/2 白瓦	
0904 11d SK321	202029	延喜式年条 山手柄	山手柄	2.1	5.0	—	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/2 灰瓦		
0905 11d SK321	202029	延喜式年条 新緑漆	新緑漆	3.1	—	—	研磨	研磨	研磨	研磨	研磨	研磨	5Y6/4 白		
0906 11d SK321	202029	延喜式年条 新緑漆	新緑漆	1.9	—	—	研磨	研磨	研磨	研磨	研磨	研磨	2.5Y7/2 灰瓦		
0907 11d SK321	202029	延喜式年条 土師器	土師器	残存部	4.5	4.4	2.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/4 灰瓦	本來の状態 引
0908 11d SK321	202029	延喜式年条 内蔵漆	内蔵漆	16.0	5.0	5.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	10Y08/3 白瓦	2.5Y8/3 白瓦	
0909 11d SK321	202029	延喜式年条 新緑漆	新緑漆	16.6	4.1	—	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	10Y06/2 灰瓦	2.5Y4 オリーブ	
0910 11d SK321	202029	延喜式年条 新緑漆	新緑漆	12.2	4.1	—	研磨	研磨	研磨	研磨	研磨	研磨	10Y07/2 灰瓦	2.5Y5/3 灰瓦	
0911 11d SK321	202029	延喜式年条 新緑漆	新緑漆	3.2	—	—	研磨	研磨	研磨	研磨	研磨	研磨	5Y6/4 白		
0912 11d SK321	202029	延喜式年条 新緑漆	新緑漆	29.2	3.2	20.8	研磨	研磨	研磨	研磨	研磨	研磨	2.5Y4/4 正		
0913 11d SK321	202029	延喜式年条 新緑漆	新緑漆	27.6	4.6	4.3	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	10Y06/2 灰瓦	2.5Y8/3 灰瓦	
0914 11d SK330	202028	延喜式年条 山手柄	山手柄	29.8	12.7	8.6	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	10Y08/3 白瓦		
0915 11d SK330	202028	延喜式年条 山手柄	山手柄	1.9	4.7	—	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/2 灰瓦		
0916 11d SK330	202028	延喜式年条 山手柄	山手柄	9.6	—	—	研磨	研磨	研磨	研磨	研磨	研磨	2.5Y7/2 灰瓦		
0917 11d SK330	202028	延喜式年条 土師器	土師器	21.2	3.9	—	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/4 灰瓦		
0918 11d SK330	202028	延喜式年条 土師器	土師器	21.8	3.8	—	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y8/3 灰瓦		
0919 11d SK330	202028	延喜式年条 土師器	土師器	37.6	4.5	—	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/2 灰瓦		
0920 11d SK324	202027	延喜式年条 天日手柄	天日手柄	12.0	4.1	—	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/2 灰瓦		
0921 11d SK324	202027	延喜式年条 天日手柄	天日手柄	3.0	—	—	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/1 灰瓦	2.5Y7/2 オリーブ	
0922 11d SK324	202027	延喜式年条 天日手柄	天日手柄	5.4	—	—	自然物	自然物	自然物	自然物	自然物	自然物	2.5Y6/1 灰瓦	10Y07/1 灰瓦	
0923 11d SK324	202027	延喜式年条 天日手柄	天日手柄	12.4	2.0	6.5	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/2 灰瓦		
0924 11d SK324	202027	延喜式年条 天日手柄	天日手柄	12.9	2.3	6.7	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	10Y07/4 白瓦		
0925 11d SK324	202027	延喜式年条 天日手柄	天日手柄	2.8	2.3	7.3	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/4 灰瓦		
0926 11d SK324	202027	延喜式年条 天日手柄	天日手柄	13.0	2.5	5.4	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/4 灰瓦		
0927 11d SK324	202027	延喜式年条 天日手柄	天日手柄	13.2	2.5	6.8	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/4 灰瓦		
0928 11d SK324	202027	延喜式年条 天日手柄	天日手柄	7.0	1.9	—	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/4 灰瓦		
0929 11d SK324	202027	延喜式年条 天日手柄	天日手柄	7.5	1.9	—	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/4 灰瓦		
0930 12d SK324	202005	延喜式年条 山手柄	山手柄	10.0	6.8	4.5	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/4 灰瓦		
0931 1d 梶山川	202006	延喜式年条 山手柄	山手柄	5.3	4.0	—	自然物	自然物	自然物	自然物	自然物	自然物	10Y06/3 1/7/1 灰瓦		
0932 1d 梶山川	202020	延喜式年条 山手柄	山手柄	3.8	4.0	—	自然物	自然物	自然物	自然物	自然物	自然物	10Y06/3 灰瓦		
0933 1d 梶山川	202020	延喜式年条 山手柄	山手柄	12.6	5.6	—	自然物	自然物	自然物	自然物	自然物	自然物	2.5Y7/2 灰瓦		
0934 1d 梶山川	202019	延喜式年条 山手柄	山手柄	10.0	6.8	4.5	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/1 灰瓦		
0935 1d T02	202007	延喜式年条 山手柄	山手柄	3.8	5.1	—	自然物	自然物	自然物	自然物	自然物	自然物	2.5Y7/2 灰瓦		
0936 1d 梶山川	202013	延喜式年条 山手柄	山手柄	10.8	3.2	6.4	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y6/1 灰瓦	2.5Y7/3 オリーブ	
0937 10d 梶山川	202006	延喜式年条 山手柄	山手柄	1.2	10.0	—	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5Y7/2 灰瓦		

名古屋城三の丸遺跡 VII

地名	番号	日付	地名・材質	施設	特徴	UH(㎝)	幅(㎝)	高さ(㎝)	目次(㎝)	内面	外面	地上(外部)	袖	備考
0938 9d	桃山II	202711	織り天蓋陶器 瓦	内蔵舟形 ⁹	古御所	幅7.0	3.0	4.0	幅7.1	鉢底、下干欄脚(鉢底、下干欄脚)、内蔵舟形、ヘラケツリ、スヌリ	鉢底、下干欄脚(鉢底、下干欄脚)、内蔵舟形、ヘラケツリ、スヌリ	10YR 6/2 7.5YR3/2 黒灰		
0939 9d	桃山II	202806	土御盆	ロフロ調整		幅12.6	2.1	幅5.6	幅12.8	ココナデ	ココナデ、内蔵舟形	10YR2/3 によい青碧		
0940 11b	桃山II	202820	土御盆	ヨリヨロ調整		幅6.6	1.8	幅6.8	幅6.8	調整不明、わざかくココナデ、調整不明、わざかくヨリヨロ付着	調整不明、わざかくココナデ、調整不明、わざかくヨリヨロ付着	10YR2/3 によい青碧		
0941 10M	桃山II	202806	織り天蓋陶器 瓦	内蔵舟	古御所	幅29.4	4.0	幅30.0	鉢底	鉢底	鉢底	10YR2/4 によい青碧	頭付	2.5YR3/3 頭付
0942 10M	桃山II	202806	織り天蓋陶器 瓦	内蔵舟	古御所	幅29.0	5.6	幅29.4	鉢底、頭付(平 底5.6×1.8cm)	鉢底	鉢底	2.5YR2/2 黒白 3YR4/3 によい青碧		
0943 9d	桃山II	202813	織り天蓋陶器 瓦	内蔵舟	古御所	幅24.0	6.7	幅24.6	うすい鉢底	うすい鉢底、他成 合せ、スヌリ付着	うすい鉢底	10YR2/2 7.5YR4/3 頭付		
0944 11d	SK236	202729	織り天蓋陶器 瓦	内蔵舟	古御所	幅15.6	4.3	幅16.0	鉢底	鉢底	鉢底	10YR2/4 によい青碧	頭付	2.5YR4/4 によい青碧
0945 10M	桃山II	202806	織り天蓋陶器 瓦	内蔵舟	古御所	幅11.4	13.2	幅18.0	うすい鉢底	うすい鉢底、一部 スヌリ付着	うすい鉢底	10YR2/1 頭付		3YR4/4 によい青碧
0946 11d	TOS	202802	織り天蓋陶器 瓦	内蔵舟	古御所	幅11.4	6.9	幅11.4	鉢底	鉢底	鉢底	SYR4/4 によい青碧		
0947 12d	桃山II	202723	織り天蓋陶器 瓦	内蔵舟	古御所	幅8.3		幅8.3	鉢底	鉢底	鉢底	10YR2/4 によい青碧		5Y/7/2 淡黄
0948 9d	桃山II	202806	織り天蓋陶器 瓦	内蔵舟	古御所	幅2.6		幅2.6	鉢底	鉢底	鉢底	10YR2/4 によい青碧		7.5YR2/2 灰赤
0949 12d	SK236	202729	織り天蓋陶器 瓦	内蔵舟	古御所	幅3.5		幅3.5	ココナデ、自然釉	ココナデ、自然釉	ココナデ、自然釉	2.5YR2/1 頭付		2.5YR2/3 頭付
0950 10c	桃山II	202814	土御盆	内蔵舟型前垂		幅2.1				ココナデ、スヌリ付 着	ココナデ、スヌリ付 着	10YR2/3 によい青碧		
0951 10M	SK236	202828	土御盆	内蔵舟型前垂		幅2.5				ココナデ、タケ スヌリ付着	ココナデ、タケ スヌリ付着	10YR2/3 によい青碧		
0952 10M	桃山II	202806	土御盆	内蔵舟		幅4.6				ココナデ、調整 せず、ココナデ、タケ スヌリ付着	ココナデ、タケ スヌリ付着	2.5YR6/6 淡黄		
0953 10M	桃山II	202806	土御盆	ヨリヨロ調 整前		幅6.2	1.0	幅6.4	調整不明(チグワ)	ココナデ、指折 付	ココナデ、指折 付	10YR2/3 によい青碧		
0954 11a	桃山II	202821	土御盆	内蔵舟型前垂		幅2.0				ココナデ、タケ スヌリ付着	ココナデ、タケ スヌリ付着	10YR2/3 によい青碧		
0955 10M	桃山II	202802	土御盆	内蔵舟型前垂		幅2.5				ココナデ、タケ スヌリ付着	ココナデ、タケ スヌリ付着	10YR2/3 によい青碧		
0956 10M	桃山II	202806	土御盆	内蔵舟内削		幅26.0	4.3	幅26.0	ココナデ、淡黄	ココナデ、淡黄 スヌリ付着	ココナデ、淡黄 スヌリ付着	2.5YR6/6 淡黄		
0957 11e	桃山II	202718	瓦輪陶器	瓦	内削	幅12.4	幅24.8			ココナデ	ココナデ	SYR1/灰		
0958 12d	SK235	202726	織り天蓋陶器 瓦	瓦刀彫刻	(登1小 型)	幅10.6	7.4	幅4.0	11.0	鉢底、瓦刀彫付 鉢底、ヘラケツリ	鉢底、ヘラケツリ、 ヘラケツリ	10YR2/2 2.5YR3/4 瓦灰		
0959 12d	SK235	202823	織り天蓋陶器 瓦	瓦刀彫刻	(登2小 型)	幅11.4	4.0	幅11.0	鉢底	ココナデ、スヌリ 付着	ココナデ、スヌリ 付着	10YR2/3 によい青碧		
0960 13d	SK235	202726	美濃陶器	瓦	内削	幅2.0	10.0	幅7.8	幅10.4	鉢底	鉢底、下干欄脚 ヘラケツリ	10YR2/2 によい青碧		
0961 12d	SK235	202823	美濃陶器	瓦	内削	幅3.0	10.0	幅7.5	幅10.3	鉢底に灰陶底し 下干欄脚	鉢底に灰陶底し 下干欄脚	2.5YR5/3 淡黄		
0962 12d	SK235	202823	織り天蓋陶器 瓦	内削	(登1小 型)	幅10.4	5.9	幅10.6	鉢底に灰陶底し 下干欄脚	鉢底に灰陶底し 下干欄脚	10YR2/2 によい青碧			
0963 13d	SK235	202726	美濃陶器	瓦	内削	幅2.0	10.6	幅7.1	幅11.2	鉢底に灰陶底し 下干欄脚	鉢底に灰陶底し 下干欄脚	10YR2/1 によい青碧		
0964 12d	SK235	202823	美濃陶器	瓦	内削	幅2.0	10.6	幅5.5	幅11.3	鉢底に灰陶底し 下干欄脚	鉢底に灰陶底し 下干欄脚	10YR2/2 7.5YR4/3 頭付		
0965 12d	SK235	202725	織り天蓋陶器 瓦	内削	(登1小 型)	幅10.6	6.0	幅11.0	鉢底に灰陶底し 下干欄脚	鉢底に灰陶底し 下干欄脚	2.5YR5/1 灰白 SYR1/1 一ツアモ			
0966 12d	SK235	202725	美濃陶器	瓦	内削	幅1.8	4.2	幅1.8	鉢底に灰陶底し 下干欄脚	鉢底に灰陶底し 下干欄脚	2.5YR2/2 灰白 一ツアモ			
0967 12d	SK235	202726	美濃陶器	瓦	内削	幅3.0	4.0	幅3.5	鉢底	鉢底、一ツアモ	鉢底、一ツアモ	2.5YR1/灰白		
0968 12d	SK235	202726	織り天蓋陶器 瓦	内削	(登1小 型)	幅12.4	5.4	幅12.0	鉢底	鉢底	10YR2/1 頭付	2.5YR4/4 オーバー青		
0969 12d	SK235	—	織り天蓋陶器 瓦	内削	(登1小 型)	幅4.3	4.3	幅4.3	鉢底	鉢底	2.5YR2/2 灰白 2.5Y2/3 瓦灰			
0970 12d	SK235	202726	不干欄脚	瓦	(登 1号2小 型)	幅1.5	5.0	幅1.5	長石脚	長石脚、高台彫刻 鉢底	10YR2/2 頭付	CO-Md-Y4 BL4	織り、肥前、 頭付等 諸造あり	
0971 12d	SK235	202725	乳頭陶器	志上丸皿	登1小 型	幅8.8	5.6	幅4.5	幅9.0	長石脚	長石脚、下干欄脚、 ヘラケツリ、スヌリ	SYW1/灰 頭付オーバー青		
0972 12d	SK235	202726	美濃陶器	編み網	幅2.0	11.2	7.6	幅4.9	幅11.4	鉢底	鉢底、下干欄脚 重ね付	10YR2/3 2.5Y2/3 オーバー青		
0973 12d	SK235	202726	乳頭陶器	瓦	内削	幅1.0	12	7.5	幅3.8	鉢底	鉢底、下干欄脚、 ヘラケツリ	2.5Y2/2 淡黄 7.5Y5/3 オーバー青		
0974 12d	SK235	202725	中国陶器	青花小杯	瓶9.7	幅5.2	幅16.0	青花	青花	青花、10台彫刻 青花	C4-M4-Y4 BL4	CO-Md-Y4 BL4		
0975 12d	SK235	202726	中国陶器	青花	内削	幅2.1	5.2	幅2.1	青花	青花、高台彫刻 青花	CO-Md-Y4 BL4			
0976 12d	SK235	202823	織り天蓋陶器 瓦	志上丸皿	内削	幅7.0	3.0	幅3.1	幅7.3	鉢底	鉢底、高台彫刻 ヘラケツリ	2.5Y2/2 灰白 SYT/淡黄		
0977 12d	SK235	202726	織り天蓋陶器 瓦	志上丸皿	内削	幅5.6	2.0	幅3.7	幅5.8	鉢底	鉢底、高台彫刻 ヘラケツリ、ココナデ	2.5Y2/2 灰白 SYT/淡黄		
0978 12d	SK235	—	織り天蓋陶器 瓦	志上丸皿	内削	幅11.4	2.3~2.4	幅6.8	幅11.0	長石脚、黒付付着 長石脚、内蔵舟 脚、ヘラケツリ、 ココナデ	2.5Y2/2 灰白 SYT/1 灰白			
0979 12d	SK235	202823	織り天蓋陶器 瓦	志上丸皿	内削	幅11.4	2.5	幅6.4	幅11.6	長石脚、ヘラケツリ 長石脚、内蔵舟 脚、ヘラケツリ、 ココナデ	2.5Y2/1 灰白 SYW1/1 灰白			
0980 12d	SK235	202726	織り天蓋陶器 瓦	志上丸皿	内削	幅11.5	2.5	幅7.2	幅11.7	長石脚、ビン脚	長石脚、内蔵舟 脚、ヘラケツリ、 ココナデ	SYW1/1 灰白 CO-Md-Y4 BL4		
0981 12d	SK235	—	乳頭陶器	志上丸皿	内削	幅11.3	2.4~2.6	幅6.3	幅11.0	長石脚、ビン脚	長石脚、内蔵舟 脚、ヘラケツリ	SYW1/1 灰白		
0982 12d	SK235	202726	織り天蓋陶器 瓦	志上丸皿	内削	幅11.6	2.2	幅7.6	幅11.8	長石脚、ビン脚	長石脚、内蔵舟 脚、ヘラケツリ、 ココナデ	2.5Y5/1 淡黄 2.5Y5/1 青灰		
0983 12d	SK235	202725	織り天蓋陶器 瓦	志上丸皿	内削	幅11.4	2.4	幅7.0	幅11.0	長石脚、ビン脚	長石脚、内蔵舟 脚、ヘラケツリ	SYW1/1 灰白 SYW1/1 灰白		

遺物一覧表

遺物番号	登録番号	日付	発地・材質	縦	横	厚	U断面積	断面積	断面形状	大きさ(寸)	内面	外面	動土(外側)	動土(内側)	備考
0984	12F SK185	202823	柳 ¹ 美濃陶 志野丸鉢	合102	幅11.2	2.0	横7.2	幅12.0	直石輪、ビン類 1+残、スズ付	直石輪、ヘタケツリ、 トナン類	直石輪、ヘタケツリ、 トナン類	2.5V7/1 白瓦	SY7/1 R白		
0985	13F SK185	202726	柳 ¹ 美濃陶 志野鉢	合2 小 鉢	幅11.0	2.2	横7.0	幅11.0	直石輪、ビン類 1+残、スズ付	直石輪、直内側 1+残、ヘタケツリ、 トナン類 2+残	直石輪、直内側 1+残、ヘタケツリ、 トナン類 2+残	2.5V7/1 白瓦	SY7/1 R白		
0986	12F SK185	202726	柳 ¹ 美濃陶 志野丸鉢	合102	幅11.0	2.6	横7.0	幅11.0	直石輪	直石輪、アラ遮乳、 ヘタケツリ	直石輪、アラ遮乳、 ヘタケツリ	2.5V7/1 白瓦	2.5V7/2 R白	R白	
0987	12F SK185	202725	柳 ¹ 美濃陶 灰陶丸鉢	合2 小 鉢	幅10.4	残1.0	幅10.0	幅10.0	直石輪	直石輪	直石輪	2.5V7/1 白瓦	2.5V7/2 R白	R白	
0988	12F SK185	202823	上絞器	ロクハ調整 組	幅11.8	2.7	0.0	幅12.0	少雨焼(テナ)、ス ス付	ココナデ、回転系 初組	ココナデ、回転系 初組	2.5V7/2 白瓦	10VH7/2		
0989	12F SK185	202823	上絞器	ロクハ調整 組	幅10.0	0.8	幅10.0	幅10.0	ココナデ	ココナデ、回転系 初組	ココナデ、回転系 初組	10VH7/2	に伝る西側		
0990	12F SK185	202726	柳 ¹ 美濃陶 器	木製 or 骨質	幅6.8	1.2	幅6.8	幅6.8	直石輪	直石輪	直石輪	2.5V7/2 白瓦	10VH7/2	に伝る北	
0991	13F SK185	202726	上絞器	筋輪	幅26.4	残6.3	幅26.4	幅26.4	ハケ取付不明(ヘ タケツリ)	ココナデ、脚サ エ、ヘタケツリ、 スズ付	ココナデ、脚サ エ、ヘタケツリ、 スズ付	10VH7/2 R白		上板の差 設あり	
0992	13F SK185	202706	上絞器	筋輪	幅4.2	幅4.2	幅4.2	幅4.2	ココナデ、ハケ 取付	ココナデ、ハケ 取付	ココナデ、ハケ 取付	2.5V7/2 R白	直石輪		
0993	12F SK185	202823	上絞器	筋輪	幅3.9	幅3.9	幅3.9	幅3.9	ナダ、ハケ	ナダ、オササ、 スズ付	ナダ、オササ、 スズ付	10VH7/2 R白	10VH7/2		
0994	12F SK185	202823	上絞器	筋輪	幅2.0	1.8	幅2.0	幅2.0	直石輪	ココナデ	ココナデ	2.5V7/4	に伝る西側		
0995	13F SK185	202726	上絞器	筋輪	幅5.0	幅7.8	幅5.0	幅7.8	直石輪	ココナデ、直石輪	ココナデ、直石輪	10VH7/2	に伝る西側		
0996	12F SK185	202726	柳 ¹ 美濃陶 灰陶 ¹ 鉢	合102	幅2.2	幅11.7	幅2.2	幅11.7	直石輪(テナ)、 灰陶輪(テナ)、 筋輪(テナ)、 トナン類 2+残、 田代	直石輪、直内側 筋輪(テナ)、 トナン類 2+残、 田代	直石輪、直内側 筋輪(テナ)、 トナン類 2+残、 田代	10VH7/3	10VH7/2	に伝る西側	
0997	12F SK185	202526	柳 ¹ 美濃陶 志野鉢	合102	幅27.2	7.6	15.0	幅28.0	直石輪	直石輪、下垂 筋輪、内側引き 取り、ヘタケツリ	直石輪、下垂 筋輪、内側引き 取り、ヘタケツリ	SY7/1 R白	2.5V7/2	直石	
0998	12F SK185	202622	柳 ¹ 美濃陶 灰陶 ¹ 鉢	合2 小 鉢	幅31.6	7.3	幅31.2	幅31.2	直石輪(テナ)、 筋輪(テナ)、 板なし	直石輪(テナ)、 筋輪(テナ)、 板なし	直石輪(テナ)、 筋輪(テナ)、 板なし	2.5V7/2 白瓦	2.5V7/2	直石	
0999	13F SK185	202726	柳 ¹ 美濃陶 筋輪	筋輪	幅2.7	幅2.7	幅2.7	幅2.7	筋輪	筋輪	筋輪	10VH7/2	に伝る西側	2.5V7/2 R白	
1000	13F SK185	202726	美濃陶器	人形	高1.0	高1.0	高1.0	高1.0	筋輪	筋輪、下垂筋輪	筋輪	2.5V7/2	に伝る西側	2.5V7/2 R白	
1001	13F SK185	202726	柴田光鉢	赤土式鉢	幅16.4	幅4.9	幅17.0	幅17.0	ココナデ、調節、 スズ付	ココナデ、調節、 スズ付	ココナデ、調節、 スズ付	10VH7/2	に伝る西側	2.5V7/2 R白	
1002	13F SK185	202726	柴田光鉢	赤土式鉢	幅17.0	幅4.7	幅17.0	幅4.7	ココナデ、直石輪	ココナデ、直石輪	ココナデ、直石輪	SY7/4/4	に伝る西側		
1003	12F SK185	202726	中川津世良 青花大瓶	青花大瓶	高2.2	幅19.1	高2.2	幅19.1	青花	青花	青花	SY7/4/4 に伝 る西側	10VH7/1 R白	(1)	
1004	—	SK185	202622	中川津世良 青花大瓶	青花大瓶	幅26.6	5.3	幅14.3	幅26.8	青花	青花、直内側筋 輪	青花、直内側筋 輪	SY7/4/4 に伝 る西側	SY7/4/4 に伝 る西側	SY7/4/4 に伝 る西側
1005	13F SK185	202726	柳 ¹ 美濃陶 有耳瓶	六角 ¹ 直内側筋 輪	高4.0	幅11.8	高4.0	幅11.8	直石輪	筋輪、直内側筋 輪	筋輪、直内側筋 輪	10VH7/3	2.5V7/1	に伝る西側	
1006	12F SK185	202725	瀬世御器	瀬世小鉢	幅17.0	幅13.0	幅17.0	幅13.0	ココナデ、筋輪	ココナデ、筋輪	ココナデ、筋輪	SY7/3/3	SY7/4/4	オリーブ	
1007	13F SK185	202726	瀬世御器	しどり或 脚4+	幅15.5	幅5.3	幅16.3	幅20.8	スズ付	スズ付、指サ エ、ナダ、下平筋 筋輪	スズ付、指サ エ、ナダ、下平筋 筋輪	2.5V7/2	に伝る西側		
1008	12F SK185	202623	本削品	木舟(角付)	幅15.5	幅5.3	幅2.6	幅15.5	直石輪	直石輪、直内側筋 輪	直石輪、直内側筋 輪	10VH7/4	2.5V7/2 R白		
1009	12F SK185	202725	本削品	木舟(脚付)	幅17.0	幅5.6	幅17.0	幅5.6	直石輪	直石輪	直石輪	10VH7/2	に伝る西側		
1010	12F SK185	202726	祇園貢珍珍	祇園	幅4.5	幅4.5	幅4.5	幅4.5	直石輪	直石輪、直内側筋 輪	直石輪、直内側筋 輪	10VH7/3	2.5V7/1	に伝る西側	
1011	13F SK156	202723	柳 ¹ 美濃陶 天日透陶	天日透陶	直内側筋 輪	幅11.0	幅5.0	幅11.0	幅5.0	直石輪	筋輪、直石輪	筋輪、直石輪	10VH7/4	2.5V7/2 R白	
1012	11D SK156	202723	柳 ¹ 美濃陶 丸瓶	丸瓶	合102	幅6.0	幅4.9	幅11.2	直石輪	直石輪	直石輪	10VH7/2	に伝る西側		
1013	11D SK156	202723	柳 ¹ 美濃陶 丸瓶	丸瓶	合102	幅6.0	幅6.1	幅10.0	直石輪	直石輪(テナ)、 筋輪(テナ)、 トナン類	直石輪(テナ)、 筋輪(テナ)、 トナン類	10VH7/2	SY7/3/3	ナダ、脚4+	
1014	11D SK156	202723	柳 ¹ 美濃陶 小瓶	小瓶	幅1.1	幅0.4	幅3.6	幅4.4	直石輪	直石輪、直内側筋 輪	直石輪、直内側筋 輪	2.5V7/2	2.5V7/1	白瓦	
1015	11D SK156	202726	柳 ¹ 美濃陶 供盆	古盆器 或 IV 直内 筋輪	幅2.2	幅4.8	幅2.2	幅4.8	直石輪	直石輪、内側込み ナダ、直石輪、 回転系	直石輪、内側込み ナダ、直石輪、 回転系	10VH7/2	に伝る西側		
1016	11D SK156	202723	柳 ¹ 美濃陶 結晶器	古直内	幅16.6	3.7	幅5.1	幅10.8	直石輪	直石輪、下平筋 筋輪	直石輪、下平筋 筋輪	10VH7/2	2.5V7/2 R白		
1017	11D SK156	202726	柳 ¹ 美濃陶 丸瓶	丸瓶	合202	幅1.3	幅5.8	幅1.3	幅5.8	直石輪	直石輪	直石輪	10VH7/2	10VH7/2	白瓦
1018	11D SK156	202726	美濃陶器	志野丸瓶	合2 小 鉢	幅12.0	2.8	幅7.2	幅12.0	直石輪	直石輪、ビ ン類	直石輪、ビ ン類	2.5V7/2	2.5V7/2	白瓦
1019	11D SK156	202726	美濃陶器	志野丸瓶	合1 小 鉢	幅9.6	1.9	幅9.6	幅9.6	直石輪	直石輪、内側込み ナダ、直石輪、 回転系	直石輪、内側込み ナダ、直石輪、 回転系	2.5V7/1	2.5V7/3	白瓦
1020	11D SK156	202723	美濃陶器	志野丸瓶	合102	幅1.3	幅7.4	直石輪、ビ ン類	直石輪、ビ ン類	直石輪、ビ ン類	直石輪、ビ ン類	直石輪、ビ ン類	2.5V7/2	2.5V7/2 R白	
1021	11D SK156	202723	美濃陶器	志野丸瓶	合2 小 鉢	幅8.2	1.5	幅5.2	幅8.6	直石輪	直石輪	直石輪	2.5V7/2	2.5V7/2	白瓦
1022	11D SK156	202723	美濃陶器	志野丸瓶	合1 小 鉢	幅8.8	1.8	幅5.2	幅9.0	直石輪	直石輪、直内側筋 輪	直石輪、直内側筋 輪	2.5V7/2	2.5V7/1	R白
1023	11D SK156	202726	美濃陶器	志野丸瓶	合2 小 鉢	幅11.7	2.1	幅7.6	幅12.0	直石輪	直石輪、トナン類 付	直石輪、トナン類 付	10VH7/3	SY7/1 R白	
1024	11D SK156	202723	柳 ¹ 美濃陶 反り瓶	反り瓶	合204	幅13.4	3.0	幅8.4	幅13.6	全面凹陶	全面凹陶、 ナダ	全面凹陶、 ナダ	2.5V7/3	2.5V7/3	白瓦
1025	11D SK156	202726	美濃陶器	丸瓶	合202	幅14.4	3.5	幅7.3	幅14.6	直石輪	直石輪、内側込み ナダ、直石輪、 回転系	直石輪、内側込み ナダ、直石輪、 回転系	SY7/2	SY7/2	白瓦

名古屋城三の丸遺跡 VII

地名	番号	日付	所在地	材質	施	幅	特	U面	W面	南北面	東西面	日付	内面	外面	野(外側)	植(内側)	備考
1026	11d	SK156	202723	廻り矢張脚	瓦	0.9m	幅3.3 小 間	高13.2	2.8	幅7.6	幅13.0	瓦脚	瓦脚、下平脚、 回転ヘタケツリ	2.55m/2 瓦白 瓦白	7.5m/2 7.5m/2	7.5m/2 7.5m/2	
1027	11d	SK156	202723	美的陶器	瓦脚	—	幅4 小 間	高13.0	2.2	—	幅13.2	瓦脚	—	2.55m/2 瓦白 瓦白	7.5m/2 7.5m/2	7.5m/2 7.5m/2	
1028	11d	SK156	202726	美的陶器	瓦	0.9m	幅4 小 間	高1.5	1.7	幅8.6	高1.5	瓦脚、ビン頭1 個 瓦脚	瓦脚、下平脚、 回転ヘタケツリ	2.55m/1 瓦白 瓦白	7.5m/2 瓦白 瓦白	7.5m/2 瓦白 瓦白	
1029	11d	SK156	202723	美的陶器	瓦脚	—	幅3 小 間	高11.4	2.4	幅7.2	幅11.8	瓦脚	瓦脚、下平脚、 回転ヘタケツリ	2.55m/3 瓦白 瓦白	5.5m/3 瓦白 瓦白	5.5m/3 瓦白 瓦白	
1030	11d	SK156	202723	瓦脚内側 瓦脚	—	—	—	高8.9	2.3	—	—	—	—	—	SYW/2 瓦白	SYW/2 瓦白	
1031	11d	SK156	202723	廻り矢張脚	瓦脚	0.9m	幅1.62 小 間	高3.3	—	—	—	瓦脚	瓦脚	10YR07/2 にへい・直壁	2.55m/2 瓦白	7.5m/2 瓦白	
1032	11d	SK156	202723	廻り陶器	瓦脚	—	幅5 小 間	高8.5	—	—	—	瓦脚	—	2.55m/3 瓦白 瓦白	7.5m/4 瓦白	7.5m/4 瓦白	
1033	11d	SK156	202723	廻り陶器	瓦脚	—	幅1.62 小 間	高2.5	—	—	—	瓦脚	瓦脚	10YR06/4 にへい・直壁	SYC/3 瓦白	SYC/3 瓦白	
1034	11d	SK156	202723	廻り陶器	瓦脚	—	幅2.08 小 間	高4.1	17.4	—	—	瓦脚、トランク 1 + 瓦	瓦脚、トランク 1 + 瓦、瓦内ら うい・直壁	2.55m/2 瓦白 瓦白	C12-MH- V20-B8	C12-MH- V20-B8	
1035	11d	SK156	202723	美的陶器	瓦	0.9m	幅3.4 小 間	高3.2	6.6	—	—	瓦脚	瓦脚、下平脚、 回転ヘタケツリ	10YR01/1 瓦白	5.5m/2 瓦白	5.5m/2 瓦白	
1036	11d	SK156	202723	廻り矢張脚	瓦脚	1.2m	幅12.6	高9.2	—	幅3.0	—	瓦脚	瓦脚、下平脚、 回転ヘタケツリ	10YR02/2 瓦白	10YR02/2 瓦白	10YR02/2 瓦白	
1037	11d	SK156	202723	廻り矢張脚	瓦脚	0.9m	幅6.2	高2.4	—	—	—	瓦脚	—	10YR08/2 にへい・直壁	7.5m/3 瓦白	7.5m/3 瓦白	
1038	11d	SK156	202723	廻り矢張脚	瓦脚	—	幅6.5	高13.0	—	—	—	瓦脚	瓦脚、下平脚、 回転ヘタケツリ	2.55m/3 瓦白 瓦白	7.5m/4/2 瓦白	7.5m/4/2 瓦白	
1039	11d	SK156	202726	廻り矢張脚	瓦脚	—	幅1 ~ 4 小 間	高2.7	19.0	—	—	瓦脚	瓦脚、下平脚、 回転ヘタケツリ	2.55m/3 瓦白 瓦白	7.5m/3 瓦白 瓦白	7.5m/3 瓦白 瓦白	
1040	11d	SK156	202723	美的陶器	瓦	0.9m	幅1.6 小 間	高30.4	5.9	幅16.6	幅31.2	瓦脚	瓦脚、下平脚、 回転ヘタケツリ	2.55m/2 瓦白 瓦白	2.55m/2 瓦白	2.55m/2 瓦白	
1041	11d	SK156	202723	美的陶器	瓦脚	—	—	高38.0	7.6	—	—	瓦脚	瓦脚、下平脚、 回転ヘタケツリ	2.55m/3 瓦白 瓦白	2.55m/3 瓦白	2.55m/3 瓦白	
1042	11d	SK156	202723	廻り陶器	瓦脚	—	幅6.9	—	—	—	—	瓦脚	—	2.55m/1 瓦白 瓦白	SYW/2 瓦白	SYW/2 瓦白	
1043	11d	SK156	202723	廻り陶器	瓦脚	—	幅7.9	—	—	—	—	瓦脚、面脚	瓦脚、大面(直面)	10YR02/1 瓦白	—	—	
1044	11d	SK156	202723	廻り瓦足	瓦脚	—	—	高5.9	5.2	幅2.3	—	—	—	—	SYW/3/2 瓦白 瓦白	SYW/3/2 瓦白 瓦白	
1045	13a	SK223	202727	土脚	燒成陶器	1.7c 瓦 —	幅5.8	8.8	4.0	7.2	ココナラ、瓦日板 ココナラ、瓦日板 ～中	ココナラ、瓦日板 ココナラ、瓦日板 ～中	10YR04/4 にへい・直壁	SYW/4 瓦白	SYW/4 瓦白		
1046	13a	SK223	202727	土脚	焼成陶器	1.7c II 瓦 II	幅1.0	—	幅11.8	高1.9	—	ココナラ、瓦日板 ココナラ、瓦日板 ～中	ココナラ、瓦日板 ココナラ、瓦日板 ～中	10YR07/3 にへい・直壁	SYW/3 瓦白	SYW/3 瓦白	
1047	13a	SK223	202727	土脚	焼成陶器	1.7c III 瓦 III	—	幅1.6	8.2	—	—	ココナラ	ココナラ、瓦日板 ～中	10YR06/3 瓦日板	SYW/3 瓦白	SYW/3 瓦白	
1048	13a	SK223	202727	廻り矢張脚	瓦?	—	幅1.8	3.2	5.2	—	—	瓦脚	瓦脚、下平脚、 回転ヘタケツリ	2.55m/1 瓦白 瓦白	10YR03/3 瓦白	10YR03/3 瓦白	
1049	13a	SK223	202727	廻り矢張脚	瓦?	—	幅3.7	—	—	—	—	瓦脚	—	2.55m/2 瓦白 瓦白	2.55m/2 瓦白	2.55m/2 瓦白	
1050	13a	SK223	202727	廻り陶器	瓦脚	—	幅1.9	12.4	—	—	—	瓦脚、瓦子手	瓦脚、下平脚、 回転ヘタケツリ	10YR08/2 瓦白	7.5m/4 瓦白	7.5m/4 瓦白	
1051	13a	SK223	202727	廻り陶器	瓦脚	—	幅3 小 間	高39.2	9.8	—	—	瓦脚	—	10YR07/2 にへい・直壁	SYC/1 瓦白	SYC/1 瓦白	
1052	11b	S0112	202625	美的陶器	瓦脚	—	幅4 小 間	高9.8	7.6	幅5.6	高9.4	瓦脚	瓦脚、下平脚、 回転ヘタケツリ	2.55m/2 瓦白 瓦白	2.55m/2 瓦白	2.55m/2 瓦白	
1053	12b	S0112	202724	廻り矢張脚	瓦脚	—	幅1.9	10.0	5.4	—	—	瓦脚	瓦脚、回転ヘタケツリ	2.55m/3 瓦白 瓦白	7.5m/3/4 瓦白	7.5m/3/4 瓦白	
1054	9b	S0112	202619	肥前瓦	烧成瓦脚	—	幅10.9	9.4	3.4	—	—	瓦脚	—	9/1	C4-M0-Y4 瓦白	関西系 19c 前?	
1055	12b	S0112	202619	肥前瓦	烧成瓦脚	—	幅2.3	5.8	—	—	—	瓦脚	—	10YR07/2 にへい・直壁	SYW/1 瓦白 SYW/1 瓦白	SYW/1 瓦白 SYW/1 瓦白	
1056	11b	S0112	202625	美的陶器	瓦脚	—	幅4 小 間	高14.2	2.9	幅7.6	高14.5	瓦脚	瓦脚、下平脚、 回転ヘタケツリ	10YR02/2 にへい・直壁	5.5m/2 瓦白	5.5m/2 瓦白	
1057	11b	S0112	202621	美的陶器	瓦脚	—	幅4 小 間	高14.8	2.8	—	幅15.8	瓦脚	瓦脚、ヘタケツリ	2.55m/2 瓦白 瓦白	SYW/2 瓦白	SYW/2 瓦白	
1058	11b	S0112	202621	廻り矢張脚	瓦脚	—	幅1.8	2.8	—	—	—	瓦脚、瓦脚	瓦脚、ヘタケツリ	2.55m/2 瓦白 瓦白	SYW/2/2 瓦白 瓦白	SYW/2/2 瓦白 瓦白	
1059	12b	S0112	202727	美的陶器	瓦脚	—	幅3 小 間	高12.0	2.9	幅7.5	高12.2	瓦脚	瓦脚、回転ヘタケツリ	10YR02/2 にへい・直壁	5.5m/2 瓦白 瓦白	5.5m/2 瓦白 瓦白	
1060	11b	S0112	202625	美的陶器	瓦脚	—	幅9.0	1.8	幅5.9	高9.2	—	瓦脚	瓦脚、回転ヘタケツリ	10YR01/1 瓦白 瓦白	2.55m/1 瓦白	2.55m/1 瓦白	
1061	11b	S0112	202621	廻り瓦足	瓦脚	—	幅9.2	6.4	—	—	—	瓦脚	瓦脚、ヘタケツリ	2.55m/2 瓦白 瓦白	2.55m/2 瓦白	2.55m/2 瓦白	
1062	13b	S0112	202727	廻り陶器	瓦脚	—	幅1 小 間	高12.6	2.9	—	幅12.8	瓦脚	瓦脚	10YR01/1 直灰	2.55m/1 直灰	2.55m/1 直灰	
1063	11b	S0112	202626	土脚	瓦脚	—	—	3.8	0.9	—	4.1	瓦オサニ?	瓦オサニ?	10YR02/3 にへい・直壁	SYW/2/2 瓦白	SYW/2/2 瓦白	
1064	11b	S0112	202625	土脚	瓦脚	—	—	3.8	1.0	—	4.0	調整不良、被熱化	被熱化	SYR7/6 植	SYR7/6 植	SYR7/6 植	
1065	11b	S0112	202625	土脚	瓦脚	—	幅3.5	高0.8	—	幅4.2	—	調整不良	被熱化	SYR7/6 植	SYR7/6 植	SYR7/6 植	
1066	13b	S0112	202726	土脚	瓦脚	—	幅4.2	1.4	—	幅4.5	—	瓦オサニ?	瓦オサニ?	10YR02/3 にへい・直壁	SYR7/6 植	SYR7/6 植	
1067	11b	S0112	202625	土脚	瓦脚	—	幅3.8	0.9	—	—	—	調整不良	被熱化	SYR7/6 植	SYR7/6 植	SYR7/6 植	
1068	11b	S0112	202621	土脚	瓦脚	—	—	—	—	—	—	ココナラ、牛内板	ココナラ、牛内板	10YR02/3 にへい・直壁	SYR7/6 植	SYR7/6 植	
1069	11b	S0112	202625	土脚	瓦脚	—	—	—	—	—	—	ココナラ、回転板	ココナラ、回転板	10YR02/3 にへい・直壁	SYR7/6 植	SYR7/6 植	
1070	11b	S0112	202621	廻り陶器	瓦脚	—	—	—	—	—	—	調整不良	被熱化	2.55m/2 瓦白 瓦白	10YR04/4 瓦白	10YR04/4 瓦白	

遺物一覧表

遺物番号	登録番号	日付	発地・材質	縦	横	厚	UUT番号	測量番号	測量年	発見年	発見月	内面	外側	動土(外側)	動土(内側)	備考		
1071	12e	SD12	202724	虎毛胸韁	帆船				丸	4.1	9.6		帆船	帆船、両台面 画面黒焼き。頭 回転ヘタケイズ 帆船内側黒焼き 取り	10YR0/1 R0/1	SYR6/3 動土用		
1072	12b	SD12	202727	帆 ¹ 胸韁	革	江戸塗			丸	4.7	10.2		帆船	帆船、下千手形、 回転ヘタケイズ	10YR0/2 R0/1	7.3YR0/2 黒焼		
1073	11b	SD12	202730	帆 ¹ 胸韁	上瓶	帆 Scrb 小瓶			丸	5.3	10.0		帆船	帆の形、帆船、 テラコッタ、頭輪へ タケイズ	2.5YR/C R0/1	C1-MO-Y- BL0		
1074	12b	SD12	202727	虎毛胸韁	丸鉢				丸	7.7			ヨコナギ	ヨコナギ	7.5YR0/4 に伝い棒			
1075	11b	SD12	202730	帆 ¹ 胸韁	帆船	帆 Scrb 小瓶			丸	21.0	丸		帆船	帆船黒焼き 頭輪、5.5寸	10YR0/2 R0/1	10YR0/2 黒焼		
1076	12b	SD12	202724	虎毛胸韁	古物的船身	帆 1or2 小瓶			丸	3.9	15.4		帆船	帆船、両台面 画面黒焼き	2.5YR/C R0/1	SYT7/2 黒焼		
1077	11b	SD12	202626	虎毛胸韁	古物的船身	帆 1or2 小瓶			丸	7.2			帆船	帆船、両台面の 内側	2.5YR/C R0/1	SYT7/2 黒焼		
1078	11b	SD12	202621	虎毛胸韁	セヒ田端付	帆 1小 瓶			丸	41.4	4.9		ヨコナギ	ヨコナギ、帆の形 帆船	2.5YR/C R0/1	2.5YR/C R0/1		
1079	13b	SD12	202727	上綱	羽根巻				丸	12.2	丸		ヨコナギ、ヘタケ メリ、テラコッタ、 黒色化、スリ付板	スリ付板、ヨコナ ギ、ヘタケイズ 等	2.5YR/C R0/1	2.5YR/C R0/1		
1080	13b	SD12	202726	上綱	手揉糸内付	帆			丸	21.0	丸		ヨコナギ	ヨコナギ、ヨコナ ギ等	SYR6/6 櫛			
1081	12b	SD12	202727	上綱	船				丸	33.2	6.1		ヨコナギ、ハサ キ等	ヨコナギ、ハサキ 等、下千手形、 頭輪、5.5寸	SYR6/6 櫛	7.3YR4/2 R0/1		
1082	11b	SD12	202625	上綱	帆船 A	D 18c 帆					1.3			ヨコナギ?	ヨコナギ、D18c 等、ツマツカ	SYR6/6 櫛		
1083	13b	SD12	202724	上綱	帆船 A	B 5.0	9.0	3.6		6.2			ヨコナギ、ヘタケ メリ	ヨコナギ、ヘタケ メリ等	7.5YR0/4 に伝い棒			
1084	11b	SD12	202625	帆船品	打				丸	44.4	10.5	1.3			10YR0/1 R0/1	10YR0/2 R0/1		
1085	11b	SD12	202625	帆船品	打				丸	40.0	11.6	1.1			10YR0/1 R0/1	10YR0/2 R0/1		
1086	11b	SD12	202625	帆船品	打				丸	45.1	10.0	1.2			10YR0/1 R0/1	10YR0/2 R0/1		
1087	12c	SD12	202720	虎毛胸韁	丸鉢	セ 1 ~ 3小瓶	第 5.6	丸	4.9		10.0	帆船	帆船に灰物焼 L 等	10YR0/4 R0/1	7.3YR2/2 黒焼			
1088	12c	SD12	202730	帆 ¹ 美濃胸韁	天日系	帆 3小 瓶			丸	3.9	4.0		帆船	帆船、下千手形、 回転ヘタケイズ	10YR0/2 R0/1	10YR0/2 黒焼		
1089	11b	SD12	202721	虎毛胸韁	丸鉢	セ 2小 瓶			丸	2.4	5.0		帆船	帆船、下千手形、 回転ヘタケイズ	10YR0/1 R0/1	10YR0/2 R0/1		
1090	12c	SD12	202720	帆 ¹ 胸韁	丸鉢	セ 1 ~ 4小瓶	第 6.6	2.7	第 3.6	丸	6.8	帆船	帆船、下千手形、 回転ヘタケイズ	10YR0/1 R0/1	7.3YR/2 R0/1			
1091	11c	SD12	202624	帆船品	糸付舟 ⁹		推 0.7	丸	3.1			白磁	糸付舟	C1-MO-Y- BL0	0.1YR0/4 オリゴ ⁹			
1092	11c	SD12	202625	帆 ¹ 美濃胸韁	左野丸鉢	帆 2小 瓶	推 1.5	2.3	第 6.4	11.1	11.8	白磁、ビン類 1+瓶	白磁、トランク 瓶 2+瓶	10YR0/1 R0/1	10YR0/2 R0/1			
1093	11b	SD12	202731	帆 ¹ 胸韁	帆毛鉢	セ 3小 瓶	推 13.0	3.0	0.6	推 13.6		白磁	白磁、陶器、 帆毛鉢	SYN/1 R0/1	SYT7/2 R0/1			
1094	11c	SD12	202726	帆 ¹ 美濃胸韁	帆毛鉢	セ 2小 瓶	推 13.8	丸	2.4		14.2	帆船、帆毛 ¹⁷	帆船、下千手形、 回転ヘタケイズ	SYN/1 R0/1	7.2YR2/2 R0/1			
1095	13c	SD12	202725	上綱	帆反繩	帆 3or4 小瓶	推 14.0	2.7	第 8.8	推 14.7	12.4	全面黒面、Aスリ 等	全面黒面、Aスリ 等	10YR7/2 に伝い棒	7.3YR0/2 帆毛等			
1096	13c	SD12	202725	帆 ¹ 美濃胸韁	反 ¹ 反 ² 船	帆 3or4 小瓶	推 13.8	丸	2.5		14.4	帆船	帆船	10YR0/1 R0/1	5YR0/3 オリゴ ²			
1097	11c	SD12	202726	虎毛胸韁	帆毛鉢	セ 2小 瓶	丸	1.5	6.2			白磁	白磁、帆毛 ¹⁷	2.5YR/2 R0/1	7.3YR/1 R0/1			
1098	11b	SD12	202731	帆 ¹ 美濃胸韁	左野丸鉢	帆 1or2 小瓶	丸	1.7	0.0			白磁	白磁、帆毛 ¹⁷ 等	2.5YR/1 R0/1	2.5YR/1 R0/1			
1099	11c	SD12	202624	虎毛胸韁	志野的船身	帆 1or2 小瓶	丸	4.0	17.6			長石物織	長石物織、 帆船等	2.5YR0/3 R0/1	SYR6/2 R0/1			
1100	11c	SD12	202726	虎毛胸韁	新郎鉢	帆 3or4 小瓶	推 34.8	丸	6.1		35.4	白磁	白磁、帆物織 等	2.5YR/2 R0/1	SYT7/2 R0/1			
1101	11b	SD12	202731	帆 ¹ 胸韁	ホロク ¹⁸	3.7~4.2	3.1			4.3~4.8		帆オサエ	帆オサエ	2.5YR/2 R0/1	2.5YR/2 R0/1			
1102	11c	SD12	202726	上綱	帆 ¹ 船	帆 5.0	丸	2.8				ヨコナギ	ヨコナギ、セ 等	SYR7/6 櫛				
1103	11c	SD12	202624	帆 ¹ 胸韁	御絆	帆 3小 瓶	推 27.8	丸	4.8		推 28.7	帆船、御絆	帆船、御絆、 帆船等	10YR0/1 R0/1	2.5YR/1 R0/1			
1104	12c	SD12	202730	帆 ¹ 胸韁	御絆	帆 3小 瓶	推 28.0	丸	13.5		28.6	帆船、御絆、 帆船等	帆船、御絆、 帆船等	10YR7/3 に伝い棒	2.5YR0/3 R0/1			
1105	11c	SD12	202727	津洋	帆 ¹ 船	丸 7.4	丸	5.0	2.8									
1106	11c	SD12	202625	津洋 ¹⁹ 船物	不明(内付)	丸 6.4	丸	4.1	2.3									
1107	12c	SK163	202725	帆 ¹ 美濃胸韁	志野的船身	帆 5小 瓶	丸 10.6	丸	5.9		推 11.2	帆船	帆船、下千手形、 回転ヘタケイズ	10YR7/2 に伝い棒	2.5YR/3 R0/1			
1108	12c	SK163	202723	帆 ¹ 美濃胸韁	天日系	帆 1小 瓶	丸	3.0	4.4			帆船	帆船、下千手形、 ヘタケイズ	7.5YR0/2 R0/1	7.3YR/2 R0/1			
1109	13c	SK163	202725	帆 ¹ 美濃胸韁	丸鉢	帆 3or4 小瓶	丸	3.7				帆船	帆船、下千手形、 ヘタケイズ	SYR6/2 R0/1	7.3YR/2 R0/1			
1110	13c	SK163	202725	帆 ¹ 美濃胸韁	志野丸鉢	帆 1or2 小瓶	丸	1.4	3.8		推 11.8	帆船	帆船	SYN/1 R0/1	SYT7/1 R0/1			
1111	13c	SK163	202725	帆 ¹ 美濃胸韁	御絆	帆 1小 瓶	丸	12.0	4.4		推 12.2	帆船物織	帆船物織	10YR7/3 に伝い棒	7.3YR/0 に伝い棒			
1112	13c	SK163	202729	帆 ¹ 胸韁	丸鉢	帆 12.4	丸	5.0			推 12.7	帆船物織	帆船物織	10YR6/1 R0/1	7.3YR/1 R0/1			
1113	13c	SK163	202725	中綱	白綿小舟	丸	3.0	3.8				白磁	白磁、両台端 黒焼	SYN/1 R0/1	9/ 白			
1114	13c	SK163	202725	帆 ¹ 美濃胸韁	反り縄	帆 2or4 小瓶	丸	0.4	3.5		推 9.8	白磁	白磁	SYN/1 R0/1	9/ C			
1115	13c	SK163	202725	帆 ¹ 船物	舟丸小舟	丸	0.6	4.8			推 10.0	白磁	白磁	SYR6/1 R0/1	C1-MO-Y- BL0			
1116	13c	SK163	202725	帆 ¹ 船物	舟丸鉢	丸	0.5	3.8			推 9.7	白磁	白磁	SYN/1 R0/1	C1-MO-Y- BL0			
1117	13c	SK163	202729	帆 ¹ 美濃胸韁	反り縄	帆 2or4 小瓶	丸	12.2	丸	2.3		推 12.6	帆船	帆船、下千手形、 ヘタケイズ	SYT7/2 R0/1			

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	戸番	地名	面積	材質	施設	特徴	U面(東)	V面(西)	W面(北)	X面(南)	内面	外面	割合(外部)	施主	備考	
1118 13e	SK603	030729 柳川大通西	土手間	石垣	登1段2 小間	面13.8	高2.1	幅14.0	長石牆	長石牆	10YR5/1 10YR5/2 に=V面積	10YR6/1 10YR6/2 に=V面積				
1119 13e	SK603	030725 上御前	ロアロ調査			面10.4	1.0	6.0	10.0	横オサスのちコラ ナード	セキル付壁、壁2 面に=V面積	10YR5/2 10YR5/3 に=V面積				
1120 13e	SK603	030725 上御前	ロアロ調査			面10.4	2.3	5.5	10.0	ココナド、ホール 付窓	ココナド、ホール 付窓	10YR5/2 10YR5/3 に=V面積				
1121 13e	SK603	030725 上御前	ロアロ調査			面10.5	1.8	6.2	10.0	ココナド	ココナド、回転木 付窓	10YR5/4 10YR5/5 に=V面積				
1122 13e	SK603	030725 上御前	ロアロ調査			面8.0	1.7	4.4	8.0	ココナド	ココナド、回転木 付窓	10YR5/2 10YR5/3 に=V面積				
1123 13e	SK603	030725 上御前	ロアロ調査			面8.0	1.4	5.4	8.0	ココナド	ココナド、回転木 付窓の、板状仕様 か?	7.5YR6/3 7.5YR6/4 に=V面積				
1124 13e	SK603	030725 上御前	ロアロ調査			面7.4	1.7	4.0	8.0	ココナド	ココナド、回転木 付窓	9YR6/2 に=V面積				
1125 13e	SK602	030724 上御前	ロアロ調査			面12.0	2.7	8.4	10.0	ココナド	ココナド、回転木 付窓の、板状仕様	7.5YR6/3 7.5YR6/4 に=V面積				
1126 13e	SK602	030724 上御前	ロアロ調査			面13.2	2.2	7.6	10.0	ココナド	ココナド、回転木 付窓の、板状仕様	10YR5/3 に=V面積				
1127 13e	SK602	030724 上御前	ロアロ調査			面12.8	2.2	6.2	10.0	ココナド	ココナド、回転木 付窓の、板状仕様	10YR5/3 に=V面積				
1128 13e	SK603	030725 上御前	地盤整備 A	17c 砂		面5.8	9.2	4.7	6.2	ココナド、毎日假 支柱	ココナド、ヘラク 支柱	5YR6/6 横				
1129 13e	SK603	030729 上御前	地盤整備 A			面8.2	4.0	6.4	有日假	ハラケリ、リ、指オ セラ?	7.5YR6/4 に=V面積					
1130 13e	SK603	030729 上御前	地盤整備 A			面5.2	9.2	7.7	ココナド、毎日假 支柱	ココナド、毎日假 支柱	2.5YR6/6 横					
1131 13e	SK602	030724 上御前	地盤整備 A			面7.0			有日假	調整手竿、ヘラク 支柱	5YR6/6 横					
1132 13e	SK602	030724 上御前	地盤整備 A			面5.2	9.7	6.2	ココナド、毎日假 支柱	ココナド、ヘラク 支柱	7.5YR7/4 に=V面積					
1133 13e	SK603	030725 上御前	排水用内蔵			面4.7			ココナド、ハケ	ココナド、排水用内 蔵	5YR6/2 横					
1134 13e	SK603	030725 柳川大通西	面	砂		面1.0	3.6	4.2	10.0	不切崩	不切崩、下干瀬筋	10YR8/4 7.5YR3/2 明木脚				
1135 13e	SK603	030723 柳川大通西	路地	砂5 小 間		面1.0	8.4	8.4	不切崩	不切崩、ヘラケリ、 トナシ柱2×4	2.5YR6/2 黄白 7.5Y7/2 明木脚					
1136 13e	SK603	030725 美濃町西	西側中間	砂1段2 小間		面22.4	3.8	2.0	23.0	不切崩	不切崩	2.5Y7/2 黄白 4×2×4				
1137 13e	SK602	030724 美濃町西	路地	砂1段2 小間		面1.8	10.6	11.0	不切崩	不切崩、ヘラケ リ、トナシ柱	5Y7/2 黄白	7.5Y7/2 明木脚				
1138 13e	SK602	030724 美濃町西	西側中間	砂1段2 小間		面24.6	5.4	13.2	推25.0	不切崩無脚4 柱、トナシ柱2×4 4×2×4	不切崩、下干瀬筋 、トナシ柱2×4 4×2×4	5Y6/2 黄白	5Y7/2 深黄			
1139 13e	SK603	030725 美濃町西	生垣跡	砂1段2 小間		面30.4	5.8	10.0	31.2	長石牆	長石牆	7.5Y7/1 黄白	7.5Y7/1 明木脚			
1140 13e	SK603	030725 美濃町西	路地	大2		面30.0	5.2	10.0	30.5	研磨	研磨、無口あり	研磨	2.5Y6/1 黄白	3.5Y6/1 明木脚		
1141 12e	SK603	030723 柳川大通西	中間	砂2 小 間		面2.3			研磨	研磨	研磨	2.5Y6/2 黄白	10YR3/2 明木脚			
1142 12e	SK603	030723 本削足	本削足路			面3.0	5.8		赤色漆	赤色漆に赤色漆 地紋	—					
1143 13e	SK603	030725 削足製	段落	(元)砂 盛土				2.5								
1144 13e	SK604	030912 美濃町西	天王茶所	砂1段2 小間		面5.5			不切崩	不切崩、下干瀬筋	2.5Y8/2 黄白	7.5Y8/3 明木脚				
1145 13e	SK604	030912 美濃町西	削足中間	占吉屋		面1.0	9.8	9.8	不切崩、下干瀬筋、 露筋、ヘラケリ、 2×4	不切崩、ヘラケリ、 2×4	10YR8/3 明木脚					
1146 13e	SK604	030912 美濃町西	削足	大2		面4.0			研磨	研磨	研磨	10YR7/4 に=V面積	5Y6/3 明 木脚			
1147 —	SK604	030913 土御前	ロアロ調査			面11.3	2.3	6.6	11.5	ココナド	ココナド、下干瀬 筋	10YR8/2 明木脚				
1148 —	SK604	030913 土御前	ロアロ調査			面12.0	2.3	6.7	12.3	ココナド	ココナド、回転木 付窓の、板状仕様	10YR8/3 明木脚				
1149 13e	SK604	030912 土御前	ロアロ調査			面11.0	2.3	6.9	11.3	ココナド	ココナド、回転木 付窓の、板状仕様	10YR8/3 明木脚				
1150 —	SK604	030913 土御前	ロアロ調査			面11.2	2.2	6.2	11.4	ココナド	ココナド、回転木 付窓の、板状仕様	10YR7/2 に=V面積				
1151 —	SK604	030913 土御前	ロアロ調査			面11.2	2.0	6.6	11.4	ココナド	ココナド、調査手 竿	10YR8/3 明木脚				
1152 —	SK604	030913 土御前	ロアロ調査			面11.0	2.1	6.0	7	ココナド	ココナド、回転木 付窓の、板状仕様	10YR7/3 明木脚				
1153 —	SK604	030913 土御前	ロアロ調査			面11.8	2.1	6.0	11.9	ココナド	ココナド、回転木 付窓の、板状仕様	10YR8/3 明木脚				
1154 —	SK604	030913 土御前	ロアロ調査			面1.0	6.6		ココナド	ココナド、回転木 付窓の、板状仕様	10YR8/3 明木脚					
1155 —	SK604	030913 土御前	ロアロ調査			面11.0	2.2	6.5	11.3	ココナド	ココナド、回転木 付窓の、板状仕様	10YR8/3 明木脚				
1156 —	SK604	030913 土御前	ロアロ調査			面11.4	2.2	6.5	11.6	ココナド	ココナド、回転木 付窓の、板状仕様	10YR8/3 明木脚				
1157 —	SK604	030913 土御前	ロアロ調査			面11.1	2.7	6.2	11.4	ココナド	ココナド、回転木 付窓の、板状仕様	10YR7/3 明木脚				
1158 —	SK604	030913 土御前	ロアロ調査			面11.0	2.6	6.2	11.2	ココナド	ココナド、回転木 付窓の、板状仕様	10YR7/3 明木脚				
1159 13e	SK604	030912 土御前	ロアロ調査			面11.4	2.1	6.0	11.6	ココナド	ココナド、回転木 付窓の、板状仕様	10YR8/3 明木脚				
1160 13e	SK604	030912 土御前	ロアロ調査			面11.2	1.7	6.8	11.4	ココナド	ココナド、回転木 付窓の、板状仕様	10YR7/3 明木脚				
1161 13e	SK604	030912 土御前	ロアロ調査			面2.0	5.8		ココナド	ココナド、回転木 付窓の、板状仕様	10YR8/3 明木脚					
1162 —	SK604	030913 削足製	貯水	(貯水 満度)				2.5								
1163 —	SK604	030913 削足製	貯水	(貯水 満度)				2.5								
1164 —	SK604	030913 削足製	貯水	(貯水 満度)				2.5								
1165 —	SK604	030913 削足製	貯水	(貯水 満度)				2.5								

遺物一覧表

登録番号	登録年	登録番号	日付	所在地・材質	縦	横	厚	目録番号	裏面	裏面	外側	裏上(外側)	裏下	備考	
1166 13e SK484	200912	銅製品		鉄質(黒木 造)			2.5								
1167 13e SK484	200912	銅製品		鉄質(黒木 造)			2.5								
1168 13e SK49	200612	土器類		高麗地金 人形	無	6.4	1.6		無	6.6	ヨコナメ	不明、ヨコナメ	7.5YR6/6 横		
1169 13d SK490	200612	泥地陶器 (金)				残	1.0	無	4.8		透明釉陶(黄人ぬ り)	透明釉陶(黄人ぬ り)	2.5YR6/1 黄白 洗白	2.5YR7/3 洗白	
1170 13a SK49	200612	陶・瓦類	天日井	瓦小 筒		残	4.5	5.0			鉄輪	鉄輪、手彫刻、 スリット	10YR6/2	10YR6/1 黄	
1171 13a SK49	200612	土器類		ロクの調整 組		無	11.8	2.0	無	7.8	無	ヨコナメ、テール 付首	10YR6/2 切削、テール付首、 口縁延長部		
1172 13a SK49	200612	土器類		粘土		残	3.6				ヨコナメ	ヨコナメ、ヨコカ リ、スヌード	7.5YR5/3		
1173 13a SK49-4	200613	泥地陶器 他				残	14.9		無	25.6	透明釉陶(黄人ぬ り)、圓形、筋目せき	透明釉陶(黄人ぬ り)	10YR7/1 黄白 洗白	5YR4 オーバーポ ジション	
1174 13a SK49-2	200613	陶・瓦類	鋸輪	管		残	8.2	無	13.0		鉄輪	鉄輪、差し鉄輪 組合せ	2.5YR6/2 黄白 洗白	2.5YR6/1 黄 洗白	
1175 13a SK49	200612	泥地陶器 他物類?				残	10.6	無	22.8		靴足サム、ナゲ 靴足サム、脚付首	靴足サム、脚付首、ヨ コナメ、脚付首	7.5YR7/4 に点々		
1176 13d SK90	200621	陶・瓦類	小壺	高麗地 金 IV		無	3.2	無	1.4		鉄輪	鉄輪	2.5YR6/1 黄白 洗白	10YR6/2 洗白	
1177 12e SD26	200726	地器	灰人			残	1.5	無	5.0		鉄輪		2.5YR7/2 黄白 洗白	5YR2/3 洗白	
1178 12f SK132	200814	陶・瓦類	丸瓶	管 I ~ IV		残	11.0	残	3.0		無	ヨコナメ、スヌード	5YR6/1 黄白	5YR6/3 洗白	
1179 11b SK132	200625	美濃陶器		深澤所組		無	13.8	無	1.8		無	ヨコナメ	2.5YR7/1 黄白 洗白	5YR7/1 黄白	
1180 10a SK127	200626	陶・瓦類	左野丸瓶	管 I 小 筒		無	8.4	1.8	無	4.8	無	月牙輪、回輪ヘタ ケイリ、トライプ 1~4角、スヌード	5YR6/1 黄 洗白	7.5YR7/1 洗白	
1181 10a SK127	200626	美濃陶器	耳鉢瓶	管 I 小 筒		無	11.4	残	2.0		無	12.0角、鉄輪、手彫刻 組	2.5YR5/1 黄白 洗白	5YR6/4 オーバーポ ジション	
1182 10a SK127	200626	土器類		ロクの調整 組		無	9.0	無	2.0		無	9.2 ヨコナメ	ヨコナメ、スヌード 付首	10YR6/2 に点々	
1183 10a SK127	200626	土器類		ロクの調整 組		無	10.6	1.8	無	5.0	無	ヨコナメ、回輪系 組	7.5YR6/4 洗白		
1184 10a SK127	200626	美濃陶器	瓦鉢	管 I		無	3.3	無	6.0		鏡胎	月牙輪、手彫刻組	2.5YR6/1 黄白 洗白	2.5YR7/1 洗白	
1185 10a SK127	200626	陶・瓦類		瓦鉢	管 I 小 筒		無	1.8			無	月牙輪、月牙輪組	2.5YR6/2 黄白 洗白	2.5YR7/1 洗白	
1186 10a SK127	200626	陶・瓦類		瓦鉢	管 I 小 筒		無	3.6			無	月牙輪、月牙輪組	10YR6/3 黄白		
1187 13d SK202	200727	土器類		ヨコナメ 整組		3.7	0.9		3.9	無	ヨコナエ	ヨコナエ	10YR7/3 に点々		
1188 13a SK224	200727	美濃陶器	左野小瓶	管 I ~ 4小筒		6.5	3.3	3.2	0.8	無	ヨコナメ	月牙輪、手彫刻組 回輪ヘタケイリ	10YR8/4 洗白	2.5YR7/2 洗白	
1189 10c SK270	200731	陶・瓦類	瓦鉢	管 I 小 筒		無	3.8				鏡胎	鏡胎、鏡胎	2.5YR6/2 黄白 洗白		
1190 9d SK296	200826	陶・瓦類	天日井瓶	瓦鉢IV A		無	2.6	4.4			無	鏡胎、回輪ヘタ ケイリ、焼成在付首 等	10YR7/2 黄 洗白	2.5YR6/1 オーバーポ ジション	
1191 9d SK296	200826	土器類		ロクの調整 組		無	2.2	無	6.4		ヨコナメ	ヨコナメ、回輪系 組	10YR7/3 に点々		
1192 9d SK296	200826	東北山形 系陶器	山形瓶	生田		10.2	2.7	3.4	10.6	ヨコナメ	ヨコナメ、回輪系 組	10YR8/4 洗白	2.5YR6/4 洗白		
1193 11b SK054	200918	陶・瓦類	天日井瓶	瓦鉢IV A		無	1.9	4.0			鏡胎	鏡胎	2.5YR6/3 黄白		
1194 12f SD21	200724	美濃陶器	新絞瓶	管 I 小 筒		無	11.0	2.7~2.8	無	7.2	無	11.6角、吹き、うすい 風呂敷、回輪、手彫刻 組、瓦ね付首	2.5YR6/3 黄白 洗白	5Y7/4 黄白	
1195 11d SD21	200724	土器類		下絞内刃 組		無	19.0	残	4.9		ヨコナメ	ヨコナメ、風呂敷 組、瓦ね付首	10YR7/3 に点々		
1196 13d SD22	200726	美濃陶器				無	2.2	無	6.4		ヨコナメ	ヨコナメ、風呂敷 組	10YR7/3 に点々		
1197 13e SD22	200729	美濃陶器	左野小瓶	管 I 小 筒		無	1.8	5.3			月牙輪組	月牙輪、高台端面 壓縮繩引き組	10YR6/1 洗白	2.5YR7/1 洗白	
1201 13e SD22	200729	陶・瓦類	左野小瓶	管 I 小 筒		無	11.6	2.3	無	7.4	無	月牙輪組	月牙輪、高台端面 壓縮繩引き組	5Y7/2 黄白 洗白	
1202 9d SK94	200625	肥前磁	肥前丸瓶	古H 瓶		無	2.9	無	17.0		5寸	うすい-皿輪	2.5YR8/2 黄白 洗白	5Y7/3 黄白	
1203 9d SK94	200625	肥前磁	肥前丸瓶	古H 瓶		無	0.9	5.3	3.9	10.6	白磁胎	白胎、高台端面 壓縮繩引き組	C4-MD-Y- BLD		
1204 9d SK94	200625	肥前磁	肥前丸瓶	古H 瓶		無	0.7	5.4	3.8	9.9	白磁胎	白胎、高台端面 壓縮繩引き組	C4-MD-Y- BLD	源氏尾	
1205 9d SK94	200625	肥前磁	肥前丸瓶	古H 瓶		無	1.6	5.7	4.1	10.8	白磁胎	白胎、高台端面 壓縮繩引き組	C4-MD-Y- BLD		
1206 9e SK94	200625	肥前磁	肥前丸瓶	古H 瓶		無	10.3	5.1	3.9	10.2	白磁胎	白胎、高台端面 壓縮繩引き組	C4-MD-Y- BLD		
1207 9d SK94	200625	肥前磁	肥前丸瓶	古H 瓶		無	10.4	5.2	3.5	10.6	白磁胎	白胎、高台端面 壓縮繩引き組	C4-MD-Y- BLD		
1208 9e SK94	200702	肥前磁	肥前丸瓶	古H 瓶		無	10.3	4.7	3.6	10.4	白磁胎	白胎、高台端面 壓縮繩引き組	2.5YR6/1 黄白 洗白	C4-MD-Y- BLD	
1209 9e SK94	200702	肥前磁	肥前丸瓶	古H 瓶		無	9.0	4.8	3.6	9.1	白磁胎	白胎、高台端面 壓縮繩引き組	N861 RGD C10-MD-Y- BLD		
1210 10e SK94	200621	肥前磁	肥前丸瓶	古H 瓶		無	9.0	4.3		10.6	白磁胎	白胎	2.5YR6/1 黄白 洗白	C4-MD-Y- BLD	
1211 9e SK94	200626	肥前磁	肥前丸瓶	古H 瓶		無	10.2	無	3.9	10.3	白磁胎	白胎	2.5YR6/1 黄白 洗白	2.5YR6/1 黄 洗白	
1212 9d SK94	200625	肥前磁	肥前丸瓶	古H 瓶		無	9.9	無	4.0	10.6	白磁胎	白胎	2.5YR6/1 黄白 洗白	C4-MD-Y- BLD	

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	位置	日付	地場	材質	施設	時期	U断面	縦断面	横断面	目録	内面		外面		施工(外部)	施工	備考
											柱材	梁材	柱材	梁材			
1213 9d 9e 9f	SK094	~202708	野田郷	柱打丸柱	18c 前半		8.0	4.0	2.9	8.1	白磁輪	柱材、高台構造筋	SYW1 R(O)	C4 M0-Y- BL0			
1214 9d 9e 9f	SK094	~202709	野田郷	柱打丸柱	18c 前半		8.1	4.0	2.9	8.2	白磁輪	柱材、高台構造筋	—	C4 M0-Y- BL0	有田		
1215 9e	SK094	202621	野田郷	柱打丸柱				2.6	3.6	—	白磁輪	柱材、高台構造筋	—	C4 M0-Y- BL0			
1216 9d	SK094	202625	野田郷	柱打小柱	18c 前半		8.2	4.5	4.8	8.3	白磁輪	白磁輪、高台構造筋	—	C4 M0-Y- BL4			
1217 10e	SK094	~202703	野田郷	柱打小柱	18c 前半		8.1	4.2	3.8	8.2	白磁輪、内部に付	白磁輪、高台構造筋	—	C4 M0-Y- BL0	有田		
1218 ~	SK094	202625	野田郷	柱打丸柱			10.1	4.3	—	—	白磁輪	白磁輪	SYW1 R(O)	C4 M0-Y- BL0			
1219 9e	SK094	~202702	野田郷	野田風丸柱	18c 前半		11.2	4.7	—	11.4	透明輪	柱材、下手側筋	10Y8Z/4 (L, L+1)青筋	10Y8Z/2 (L, L+1)青筋	透明		
1220 9d	SK094	202625	野田郷	野田風丸柱	18c 前半		9.4	5.4	3.2	9.8	灰輪	上鉄筋	灰輪、上鉄筋	10Y8Z/2 2.5M(Y+1)灰	透明という誤 記あり		
1221 10e	SK094	202624	野田郷	丸柱	18c 前半		8.5	4.3	2.6	8.6	灰輪	灰輪、下手側筋	2.5M(Y+1)灰	SYW1 R(O)	有田		
1222 10e	SK094	202624	野田郷	丸柱	18c 前半		8.1	—	—	—	灰輪	灰輪、下手側筋	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白			
1223 9e	SK094	202702	野田郷	御承架木	賃 50ft 小柱		11.4	4.3	—	11.7	灰輪	灰輪、乳頭筋	SYW1 R(O)				
1224 10e	SK094	202624	野田郷	柱打丸柱	18c 前半		11.5	4.9	4.4	11.7	白化粧	透中輪筋	白化粧、透中輪筋	50ft 1 灰白	2.5Y8/2 灰白	鶴見	
1225 ~	SK094	202702	野田郷	丸柱	賃 10ft		11.2	4.6	3.6	11.5	灰輪	灰輪	SYW1 R(O)				
1226 9e	SK094	202625	野田郷	丸柱	小柱		4.7	1.7	4.2	—	灰輪	灰輪、輪台	2.5Y8/2 灰白	10Y8Z/3 透明			
1227 9d	SK094	202624	野田郷	丸柱			11.6	4.1	—	12.0	灰輪	透明	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/3 灰白			
1228 10e	SK094	202624	野田郷	透明風呂物			8.3	6.1	5.0	8.3	透明輪	口縁輪筋	透明筋鉄筋、上鉄 筋、下手側筋	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	透明という誤 記あり	
1229 9d 9e 9f	SK094	~202708	中国御所	百人廻			4.4	4.3	—	4.5	白化粧	透中輪筋	透中輪筋、高台構造筋	C10 M0- V4 H2A			
1230	SK094	202702	野田郷	柱打小柱			3.7	2.5	—	—	白磁輪	柱材、下手側筋	9/ 白	C4 M0-Y- BL0			
1231 ~	SK094	202702	野田郷	柱打小柱			4.3	3.5	2.8	4.6	白磁輪	柱材、下手側筋	2.5Y8/1 灰	C4 M0-Y- BL0			
1232 9d	SK094	202624	野田郷	柱打小柱			6.0	4.1	4.2	6.1	白磁輪	柱材、高台構造筋	C10 M0- V6 H2D				
1233 9d	SK094	202625	野田郷	柱打小柱			6.6	4.0	—	6.7	白磁輪	柱材	2.5Y8/1 灰白	C4 M0-Y- BL0			
1234 ~	SK094	~202709	野田郷	柱打小柱			2.0	2.9	—	—	白磁輪	白磁輪、高台構造筋	SYW1 R(O)	C4 M0-Y- BL4			
1235 9d	SK094	202625	野田郷	柱打丸柱	18c 前半		6.4	2.1	—	—	白磁輪	白磁輪	SYW1 R(O)	C4 M0-Y- BL0	有田		
1236 9d	SK094	202625	野田郷	柱打丸柱	18c 前半		6.6	2.4	—	6.7	白磁輪	柱材	C0 M0-Y- BL4				
1237 10e	SK094	202621	野田郷	柱打丸柱	18c 前半		6.6	2.0	—	6.7	白磁輪	柱材	9/ 白	C4 M0-Y- BL0			
1238 10e	SK094	202621	野田郷	柱打小柱			1.0	2.1	—	—	白磁輪	白磁輪、高台構造筋	SYW1 R(O)	C4 M0-Y- BL0			
1239 9d	SK094	202625	野田郷	柱打小柱			1.8	4.2	—	—	白磁輪	白磁輪、高台構造筋	SYW1 R(O)	C4 M0-Y- BL0			
1240 9e	SK094	~202702	野田郷	透明風呂物	18c 前半		1.3	—	—	—	灰輪	灰輪、鉄筋	10Y8Z/1 2.5M(Y+1) 9/ 白	10Y8Z/1 2.5M(Y+1) 9/ 白			
1241 9e	SK094	202702	野田郷	透明風呂物	18c 前半		4.4	4.4	—	—	白磁輪	白磁輪、下手側筋	9/ 白	C0 M0-Y- BL4			
1242 9d	SK094	~202708	野田郷	柱打丸柱	18c 前半		13.4	3.6	7.6	13.5	柱材	柱材、高台構造筋	2.5Y8/1 R(O)	C100 M0- H2C H2D			
1243 10e	SK094	202624	野田郷	柱打丸柱			10.1	2.3	4.8	10.2	灰輪	柱材、高台構造筋	2.5Y8/2 灰白	C100 M0- H2C H2D オリーブ			
1244 9d	SK094	202625	野田郷	柱打丸柱	17c 前半		2.7	—	—	—	柱材	柱材、高台構造筋	9/ 白	C4 M0-Y- BL0			
1245 9d	SK094	202702	野田郷	透明風呂物	18c 前半		11.7	3.0	7.2	11.8	灰輪	灰輪、鉄筋	2.5Y8/1 R(O)	2.5Y8/1 R(O)			
1246 9d	SK094	202621	野田郷	透明風呂物	18c 前半		10.0	4.6	—	11.2	灰輪	灰輪、高台構造筋	SYW1 R(O)	C4 M0-Y- BL0			
1247 10e	SK094	~202702	野田郷	透明風呂物	18c 前半		9.3	2.8	—	—	白磁輪	柱材	—	C4 M0-Y- BL0	有田		
1248 9d	SK094	202621	京・尾張御所	透明風呂物	18c 前半		9.0	4.6	—	—	白磁輪	透明筋鉄筋	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白			
1249 9d	SK094	202624	美濃御所	透明風呂物	18c 前半		5.5	1.0	—	—	白磁輪	透明筋鉄筋	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白			
1250 9e	SK094	202626	美濃御所	透明風呂物	18c 前半		3.6	1.7	—	—	白磁輪	透明筋鉄筋	2.5Y8/1 R(O)	C4 M0-Y- BL0			
1251 9d	SK094	202624	野田郷	透明風呂物	1600		6.3	5.6	3.0	2.7	白磁輪	柱材、高台構造筋	2.5Y8/1 R(O)	C4 M0-Y- BL0	有田		
1252 9d	SK094	202625	野田郷	透明風呂物	1600		6.7	2.3	—	—	白磁輪	柱材、高台構造筋	2.5Y8/2 灰白	C4 M0-Y- BL0			
1253 9d	SK094	202621	野田郷	透明風呂物	18c 前半		10.0	4.2	—	11.0	白磁輪	柱材、高台構造筋	2.5Y8/2 灰白	C4 M0-Y- BL0	有田		
1254 9e	SK094	~202709	上御	透明風呂物	17c 前半		17.2	3.6	8.4	17.3	ココナラ	ココナラ、鉄筋	SYW8/8 柱				
1255 ~	SK094	~202709	上御	透明風呂物	17c 前半		17.2	4.1	9.0	17.4	ココナラ	ココナラ、回転筋	SYW8/8 柱				
1256 9d	SK094	~202702	土御門	透明風呂物	17c 前半		12.6	2.4	6.0	12.8	ココナラ	ココナラ、鉄筋	7.5Y8/6 柱				
1257 ~	SK094	~202702	土御門	透明風呂物	17c 前半		11.9	2.3	6.3	12.1	ココナラ	ココナラ、鉄筋	7.5Y8/6 柱				
1258 9d	SK094	~202625	土御門	透明風呂物	17c 前半		11.8	2.4	5.9	12.0	ココナラ	ココナラ、鉄筋	7.5Y8/6 柱				
1259 10e	SK094	~202708	土御門	透明風呂物	17c 前半		11.0	2.4	5.0	11.2	ココナラ	ココナラ、鉄筋	7.5Y8/6 柱				
1260 9d	SK094	~202708	土御門	透明風呂物	17c 前半		11.0	2.4	5.0	11.2	ココナラ	ココナラ、鉄筋	7.5Y8/6 柱				

遺物一覧表

登録番号	発見場所	日付	地名・材質	層	幅	高さ	厚さ	測定方法	測定値	測定誤差	測定時間	内面		外面		出土(外因)	施主	備考	
												左内面	右内面	左外面	右外面				
1261	—	SK04-202709	土師器	ロウの調査 トトト	推11.0	2.3	5.3	推11.2	ココナデ	ココナデ、回転系 切削	SVRH6 横								
1262	9d	SK04-202709	土師器	ロウの調査 トトト	推10.6	2.3	5.5	推10.8	ココナデ	ココナデ、回転系 切削	SVRH7 横								
1263	9d	SK04-202625	土師器	ロウの調査 トトト	推10.8	2.2	5.4	推11.0	ココナデ、データ 付付着	ココナデ、データ 付付着	SVRH6 横								
1264	—	SK04-202709	土師器	ロウの調査 トトト	推10.6	2.4	5.0	推10.8	ココナデ	ココナデ、回転系 切削	SVRH6 横								
1265	9e	SK04-202625	土師器	ロウの調査 トトト	推10.2	2.1	5.4	推10.4	ココナデ	ココナデ、回転系 切削	SVRH6 横								
1266	9d	SK04-202625	土師器	ロウの調査 トトト	推0.8	2.0	5.2	推10.0	ココナデ	ココナデ、データ 付付着	SVRH6 横								
1267	9d	SK04-202625	土師器	ロウの調査 トトト	推9.8	2.1	5.7	推10.0	ココナデ、データ 付付着	ココナデ、回転系 切削	SVRH6 横								
1268	9d	SK04-202625	土師器	ロウの調査 トトト	推8.8	1.7	4.8	推9.0	ココナデ	ココナデ、回転系 切削	SVRS6 横 回転間								
1269	9e	SK04-202626	土師器	ロウの調査 トトト	推8.5	1.6	5.2	推8.8	調整不明	ココナデ、回転系 切削	SVRS6 横 回転間								
1270	9e	SK04-202702	土師器	ロウの調査 トトト	推8.6	2.2	5.0	推8.8	ココナデ	ココナデ、回転系 切削	SVRH7 横								
1271	9e	SK04-202621	土師器	ロウの調査 トトト	推8.0	1.6	5.0	推8.2	ココナデ、表面 付付着	ココナデ、表面 付付着	SVRH6 横 トトト								
1272	9e	SK04-202626	土師器	ロウの調査 トトト	推6.2	1.2	3.6	6.4	ココナデ	ココナデ、回転系 切削	SVRH6 横								
1273	9d	SK04-202625	土師器	ロウの調査 トトト	推6.2	1.2	3.8	6.4	ココナデ、被熱物	ココナデ、回転系 切削	SVRH6 横								
1274	10d	SK04-202621	土師器	ロウの調査 トトト	推6.2	1.2	4.0	推6.4	ココナデ	ココナデ、回転系 切削	SVRH6 横 トトト								
1275	10e	SK04-202624	土師器	カロリの調 査	推11.0	2.2	7.0	推11.8	内包成形	調整不明	SVR1 黒(1)								
1276	9e	SK04-202702	土師器	不明(疑)	推19.0	4.8	2.4		調整不明		10YR0/2 黒(1)								
1277	9d	SK04-202626	瓦陶陶器	瓦	19.4	7.4	10.8	7.2	9.2	遮蔽	瓦陶陶器	下灌水	2.5YR2 黑(1)	2.5YR2 黑	瓦陶陶				
1278	10d	SK04-202621	土師器	粘土	推28.0	5.5		推28.2	高いヒレ、ひづれ に崩れやすい、鰐口 付付着	ココナデ、崩れ し、ひづれ	7.5YR0/4 に高い崩 れ								
1279	9d	SK04-202625	瓦	大鉢	瓦1.3				ナデ	ココナデ、4調節	2.5YR7/1 黑(1)								
1280	9d	SK04-202702	瓦陶陶器	鍋	瓦8 小 鉢	瓦2.6	0.9		研磨	研磨、スズ付着、 スズ付着	SVR8/2 スズ(1)アーチ								
1281	9e	SK04-202626	瓦陶陶器	瓦8 小 鉢	瓦6.7	4.2	6.5	3.8	6.4	研磨、うのふら 付付着	瓦8.0	うのふら、 下灌水	3.5YR1 黑(1)	2.5YR4/4 オーリー陶					
1282	9d	SK04-202625	瓦陶陶器	瓦8 小 鉢	瓦6.0	2.9			研磨	瓦8.0	うのふら、 下灌水	10YR7/2 に高い崩 れ	2.5YR2/3 に高い崩 れ						
1283	10e	SK04-202624	瓦陶陶器	御深井田瓦	瓦2.9				研磨	瓦8.0	うのふら、 下灌水	2.5YR7/1 黑(1)	2.5YR2/4 オーリー陶						
1284	—	SK04-202702	瓦陶陶器	瓦8.0 日本 瓦	瓦3.6				研磨	瓦8.0	うのふら、 下灌水	2.5YR/2 黑(1)	2.5YR/2 黑(1)						
1285	9d	SK04-202702	瓦陶陶器	瓦	16.4	5.2		推17.0	研磨	研磨	2.5YR/2 黑(1)								
1286	9d	SK04-202626	瓦陶陶器	瓦8.0 日本 瓦	瓦1.8		11.0		清潔な物、絵文あり	清潔な物、瓦陶陶器	2.5YR/8 黑(1)	SVR6/2 黑(1)							
1287	10e	SK04-202624	瓦陶陶器	7.0cm 小鉢	推19.2	7.7		推19.6	研磨	研磨、下灌水	2.5YR/4 オーリー陶								
1288	—	SK04-202709	瓦陶陶器	上輪	瓦8 小 鉢	瓦9.2	8.7	推17.0	11種類の調査、 瓦陶陶器、下灌水	瓦陶陶器、 下灌水	2.5YR/2 黑(1) 相								
1289	9e	SK04-202702	瓦陶陶器	鉢	瓦5 小 鉢	瓦5.8	9.8		研磨、無目あり、 うすい研磨	研磨、無目あり、 うすい研磨	2.5YR/6 黑(1)	10YR3/2 に高い崩 れ							
1290	9e	SK04-202702	瓦陶陶器	鉢	瓦5 小 鉢	瓦37.0	瓦8.0	推28.4	研磨、無目あり、 うすい研磨	研磨、無目あり、 うすい研磨	2.5YR/4/2 黑(1) に高い崩 れ	SVR4/4 に高い崩 れ							
1291	—	SK04-202702	瓦陶陶器	鉢	瓦8 小 鉢	瓦37.2	瓦9.5	推28.8	研磨、無目あり、 うすい研磨	研磨、無目あり、 うすい研磨	2.5YR/2 黑(1)	2.5YR/4/3 に高い崩 れ							
1292	9d	SK04-202524	瓦陶陶器	鉢	瓦7 小 鉢	瓦38.0	残 11.4	推40.0	研磨、無目あり、 うすい研磨	研磨、無目あり、 うすい研磨	10YR3/2 黑(1)	14.4- 15.0cm、 壁底							
1293	9d	SK04-202709	瓦陶陶器	鉢	瓦8 小 鉢	瓦4.6	残 0.5	推4.7	研磨、無目あり、 うすい研磨	研磨、無目あり、 うすい研磨	2.5YR/6 黑(1) に高い崩 れ								
1294	—	SK04-202625	瓦	瓦	瓦1.4	0.5	0.4												
1295	9e	SK04-202625	瓦+鉢	新留	瓦2.0	2.0	1.8	0.3											
1296	11b	SK01-202609	瓦陶陶器	瓦8 小 鉢	瓦1.8	瓦5.6		推12.0	研磨	研磨、下灌水	2.5YR1 黑(1) ヘラケツリ								
1297	11b	SK01-202608	瓦陶陶器	瓦11.0 級	瓦3.0	瓦5.2		推10.0	研磨	研磨、下灌水	10YR7/1 10YR3/4 相								
1298	11b	SK01-202530	瓦陶陶器	瓦11.0 級	瓦6.7	瓦2.4	3.0		研磨	研磨、下灌水	10YR7/3 に高い崩 れ	2.5YR/2 相							
1299	11b	SK01-202609	瓦陶陶器	瓦11.0 級	瓦5.5 小 鉢	瓦10.8	瓦5.8	推11.2	研磨に瓦陶陶器	研磨に瓦陶陶器、 瓦陶陶器、瓦陶陶器	2.5YR/2 黑(1) に高い崩 れ	2.5YR/4/2 に高い崩 れ							
1300	11b	SK01-202530	瓦陶陶器	瓦11.0 級	瓦3.8	5.4		研磨に瓦陶陶器	研磨、うすい研磨	研磨、うすい研磨	2.5YR/3 黑(1) 相								
1301	11b	SK01-202607	瓦陶陶器	瓦反椀	瓦1.2	瓦6.3		推12.0 研磨	研磨に瓦陶陶器	研磨に瓦陶陶器	10YR1/1 黑(1) SVR1/4 相								
1302	11b	SK01-202608	(重)	瓦陶陶器	瓦5 小 鉢	瓦5.8	瓦6.0		瓦陶陶器	研磨、瓦陶陶器	2.5YR/3 相								
1303	11b	SK01-202607	瓦陶陶器	瓦8 小 鉢	瓦10.4	瓦5.2		推10.4 研磨	瓦陶陶器	瓦陶陶器	2.5YR/2 黑(1) 相								
1304	11b	SK01-202528	瓦陶陶器	瓦8 小 鉢	瓦16.2	瓦5.1		推10.4 研磨	瓦陶陶器	瓦陶陶器	2.5YR/3 黑(1) 相								
1305	11b	SK01-202609	瓦陶陶器	青留新留	瓦5.0	10.1	6.4	推10.4 研磨	瓦陶陶器	瓦陶陶器	2.5YR/1 黑(1) ヘラケツリ								
1306	11b	SK01-202609	瓦陶陶器	丸瓶	瓦3.0	5.2		研磨	研磨	研磨	2.5YR/2 黑(1) 相								
1307	11b	SK01-202609	瓦陶陶器	丸瓶	瓦3.7	5.2		瓦陶陶器に研磨	瓦陶陶器の筋 に研磨	瓦陶陶器の筋 に研磨	2.5YR/2 黑(1) 相								
1308	11b	SK01-202613	瓦陶陶器	丸瓶	瓦2.3	4.4		研磨	研磨	研磨	2.5YR/2 黑(1)								
1309	11b	SK01-202531	瓦陶陶器	丸瓶	瓦2.0	5.0		長石物	長石物	長石物	2.5YR/2 黑(1) 相								
1310	11b	SK01-202606	瓦陶陶器	7 不明	15c	瓦1.1	4.2	研磨	研磨	研磨	2.5YR/2 黑(1) 相								
		SK-47																	

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	区画	遺跡名	日付	地場	材質	施設	時期	U断面	縦断面	横断面	目次図	内面	外面	野戸(外側)	土手	備考	
1311 11b	S801	020807	野戸陶器	丸岡					丸3.1	4.2		野戸陶器、灰陶	野戸陶器、灰陶、ヘリタツリ、下平窓	2.5YR6/2 灰白 C90-M60 Y40-B10			
1312 11b	S801	020807	野戸陶器	御茶ノ糸町					丸10.2	丸5.6		野戸陶器	野戸陶器	2.5YR6/2 灰白 C90-M60 Y40-B10			
1313 11b	S801	020531	野戸陶器	御茶ノ糸町					丸9.8	丸4.5		野戸陶器	野戸陶器	2.5YR6/2 灰白 C90-M60 Y40-B10			
1314 11b	S801	020807	野戸陶器	丸岡					丸9.0	丸5.8		野戸陶器	野戸陶器	2.5YR7/3 浅黄	2.5Y7/4 浅黄		
1315 11b	S801	020531	海(?)天井陶	御茶ノ糸町	廿5小 間			丸10.8	6.7	5.8	丸11.2	野戸陶器	野戸陶器、高台 御茶ノ糸町、御茶ノ糸 2段、内側、外側、ヘリタツ リ	10YR7/1 灰 10YR7/2 灰白	7.5Y7/2 灰白		
1316 11b	S801	020531	野戸陶器	丸岡				丸12.8	丸5.3	推15.8	灰陶	灰陶	2.5YR7/1 灰白	5Y7/3 浅黄			
1317 11d	S801	020814	野戸陶器	丸岡				丸9.0	丸4.8	推10.0	灰陶	野戸陶器	野戸陶器	2.5YR6/2 灰白 C90-M60 Y40-B10	2.5Y7/4 浅黄		
1318 11b	S801	020806	野戸陶器	丸岡?				丸9.6	6.8	5.3	丸10.0	灰陶	野戸陶器、高台 御茶ノ糸町、御茶ノ糸 2段、内側、外側、ヘリタツ リ	2.5YR7/2 灰白 C90-M60 Y40-B10	2.5Y7/4 浅黄		
1319 11b	S801	020807	野(?)陶器	御茶ノ糸町	17c 宮 子			丸2.6	丸4.8		灰陶	灰陶	2.5YR7/2 灰 白	10YR7/2 灰 白	野(?) に付く野(?) 御茶ノ糸 町		
1320 11j	S801	020806	野戸陶器	丸岡				丸2.3	丸5.4		灰陶	野戸陶器、下平窓	10YR7/2 灰白	2.5Y7/3 浅黄			
1321 11j	S801	~	020802	京百貨陶器	西少?			丸2.4	丸6.4		透明陶器、露ん丸?	透明陶器、露ん丸? 高台御茶ノ糸町?	2.5YR7/1 灰白 C90-M60 Y40-B10	5Y8/2 灰白	5Y8/2 灰白		
1322 11j	S801	~	020803	野戸陶器	丸岡			丸3.1	6.2		灰陶	野戸陶器、露ん丸? 高台御茶ノ糸町?	2.5YR7/2 灰白 C90-M60 Y40-B10	2.5Y7/3 に付く			
1323 11j	S801	020807	野戸陶器	丸岡				丸2.3	5.6		透明陶器、白化粧、 透明陶器、白化粧、 高台御茶ノ糸町	透明陶器、白化粧、 透明陶器、白化粧、 高台御茶ノ糸町	10YR7/4 灰 白	10YR6/3 灰白	高台御茶ノ糸町		
1324 11b	S801	020531	野戸陶器	丸岡				丸13.4	丸4.9	推13.5	灰陶	柴付	2.5YR1 灰白	C12-M4 Y6-B10			
1325 11b	S801	020603	野戸陶器	丸岡				丸2.2	丸4.8		白磁陶	柴付、高台御茶ノ糸 町	5YR1 灰白	C4-M0-Y4 B10-L0			
1326 11b	S801	020807	野戸陶器	御茶ノ糸町				丸2.2	4.4		白磁陶	白磁陶、高台御茶 ノ糸町	5YR1 灰白	C4-M0-Y4 B10-L0			
1327 11b	S801	020603	中田屋京 菴	御茶ノ糸 町				丸2.5	丸5.2		音磁物、輪毛(?) 音磁物、輪毛(?)	音磁物、輪毛(?) 音磁物、輪毛(?)	5YR7/1 灰白	2.5YR6/2 灰白	音磁物 輪毛(?)		
1328 11b	S801	020528	中田屋京 菴	御茶ノ糸 町	17c 植 子			丸2.6	4.8	青花	青花、高台御茶ノ糸 町	青花、高台御茶ノ糸 町	5YR1 灰白	C10-M0 Y4-B10			
1329 11b	S801	~	020802	野戸陶器	御茶ノ糸 町			丸5.4	丸3.1	推5.5	白磁陶	柴付	5YR1 灰白	C4-M0-Y4 B10-L0			
1330 11b	S801	~	020803	野戸陶器	御茶ノ糸 町			丸7.4	丸3.7	推7.5	白磁陶	柴付	5YR1 灰白	C4-M0-Y4 B10-L0			
1331 11b	S801	020613	野戸陶器	御茶ノ糸 町				2.9	1.6	1.6	3.1	白磁陶	柴付、高台御茶ノ糸 町	5YR1 灰白	C4-M0-Y4 B10-L0		
1332 11b	S801	020808	野戸陶器	御茶ノ糸 町				5.0	3.0	2.2	5.2	白磁陶	柴付、高台御茶 ノ糸町	5YR1 灰白	C4-M0-Y4 B10-L0		
1333 11b	S801	020803	野戸陶器	御茶ノ糸 町	小作			丸2.9	2.4		白磁陶	柴付	5YR1 灰白	C4-M0-Y4 B10-L0			
1334 11g	S801	020813	野戸陶器	御茶ノ糸 町	小作			丸7.4	丸4.7	推7.6	白磁陶	柴付	5YR1 灰白	C4-M0-Y4 B10-L0			
1335 11c	S801	020610	野戸陶器	御茶ノ糸 町	小作			丸5.6	5.0	推3.6	推8.8	柴付	柴付、高台御茶 ノ糸町	5YR1 灰白	C4-M0-Y4 B10-L0		
1336 11b	S801	020530	京清酒器	千代	廿8小 間			丸4.2	4.2		灰陶、耐熱	灰陶、耐熱、高台 御茶ノ糸町	5YR7/2 灰白	7.5YR5/3 に付く			
1337 11b	S801	~	020802	美濃陶器	吉野丸岡			丸11.3	2.4	6.5	11.3	良石陶、タール付 瓦、ビンコト 瓦、ビンコト	良石陶、タール付 瓦、ビンコト 瓦、ビンコト	2.5YR4/1 灰灰 1+瓦	2.5YR2/2 灰白		
1338 11b	S801	020528	美濃陶器	吉野丸岡	廿2小 間			丸11.6	2.1	推11.8	良石陶、ビンコト 瓦、ビンコト	良石陶、ビンコト 瓦、ビンコト	2.5YR2/2 灰白	2.5YR1/1 灰白			
1339 11b	S801	020806	美濃陶器	吉野丸岡	廿2小 間			丸10.6	2.1	推11.0	良石陶、ビンコト 瓦、ビンコト	良石陶、ビンコト 瓦、ビンコト	10YR6/2/3 2.5YR2/2 灰白	2.5YR2/2 灰白			
1340 11b	S801	020603	美濃陶器	吉野丸岡	廿3小 間			丸12.8	3.1	推7.4	推13.0	良石陶	良石陶、下平窓	10YR6/3 2.5YR3/2 灰白			
1341 11b	S801	020807	美濃陶器	吉野丸岡	廿3小 間			丸13.4	2.8	推6.8	推13.6	良石陶、推2.5 瓦	良石陶、推2.5 瓦	10YR7/2 灰 白	2.5Y7/3 灰白		
1342 11b	S801	020808	美濃陶器	吉野丸岡	廿5小 間			丸12.0	2.7	推6.6	推12.2	良石陶、推2.5 瓦	良石陶、推2.5 瓦	10YR8/2 灰 白	2.5Y7/2 灰白		
1343 11b	S801	020809	京清酒器	吉野丸岡	廿11.4			丸11.4	2.9	推11.6	良石陶	良石陶	2.5YR1/1 灰灰	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白
1344 11b	S801	020604	野戸陶器	平岡	17c 植 子			丸13.8	丸3.3	推14.0	灰陶、耐熱、白陶 灰陶、耐熱、白陶	灰陶、耐熱、白陶、 下平窓	2.5Y6/2 灰白 C12-M6 Y6-B10				
1345 11b	S801	020807	美濃陶器	御茶ノ糸 町	廿3小 間			3.0	推5.4		灰陶	灰陶、下平窓	2.5Y7/1/1 灰白	2.5Y7/1 灰白			
1346 11b	S801	020613	中田屋京 菴	御茶ノ糸 町				丸1.5	推6.6		青花	青花、高台御茶 ノ糸町	5YR1 灰白	C10-M0-Y0 B10-L0			
1347 11b	S801	020808	野戸陶器	御茶ノ糸 町	廿1小 間			丸7.2	5.0	推5.6	柴付	白磁陶、高台御茶 ノ糸町	5YR1 灰白	7.5Y7/2 灰白			
1348 11b	S801	~	020803	野戸陶器	御茶ノ糸 町			丸20.6	丸3.5	推20.8	柴付	柴付	5YR1 灰白	C12-M6 Y6-B10			
1349 11b	S801	020807	美濃陶器	御茶ノ糸 町	廿2小 間			丸4.4			灰陶、耐熱灰陶、 灰陶、耐熱灰陶	灰陶、耐熱灰陶、 灰陶、耐熱灰陶	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/2 灰白			
1350 11b	S801	020611	美濃陶器	御茶ノ糸 町	廿2小 間			丸3.1			良石陶鉢	良石陶鉢	2.5YR6/3 10YR7/2 灰白	2.5Y7/3 灰白			
1351 11b	S801	020530	美濃陶器	御茶ノ糸 町	廿1小 間			丸3.7			耐熱陶、白口あり 耐熱陶、白口あり	耐熱陶、白口あり 耐熱陶、白口あり	2.5YR6/2 灰白 C10-M60 Y100-B10				
1352 11b	S801	020806	美濃陶器	御茶ノ糸 町	廿1小 間			丸5.7			良石陶	良石陶	2.5YR6/2 灰白 C12-M6 Y6-B10	2.5Y7/3 灰白			
1353 11b	S801	020807	美濃陶器	吉野丸岡	廿30.6			丸6.1			良石陶鉢、耐熱陶 良石陶鉢	良石陶鉢、耐熱陶 良石陶鉢	2.5Y6/1 灰白 5YR1/1 灰白				
1354 11b	S801	020613	美濃陶器	吉野丸岡	廿30.6			丸4.1			良石陶鉢	良石陶鉢	2.5Y7/4 灰白				
1355 11b	S801	020528	美濃陶器	吉野丸岡	廿26.6			5.1	推15.8	推27.0	良石陶鉢、 トナン灰	良石陶鉢、 トナン灰	2.5Y7/2 灰白	5Y7/2 灰白			
1356 11b	S801	020808	美濃陶器	吉野丸岡	廿10.2			丸3.2	推15.0		良石陶	良石陶	2.5Y8/2 灰白 C12-M6 Y6-B10	2.5Y7/2 灰白			

遺物一覧表

登録番号	登録年月日	出土地・材質	縦幅	横幅	厚さ	目録番号	測定値(高さ)	測定値(幅)	測定値(厚さ)	目次	内面	外面	動上(外側)	動上(内側)	備考
1357 11b SK01 020611	鹿児島前	平鉢	直径10.2 小鉢	直径4.1	無1.6		直石輪軸に刷毛	直石輪軸に刷毛	直石輪軸に刷毛	自然軸、高台内	自然軸、高台内	2.5YR5/2 灰黄	2.5YR5/2 灰黄		
1358 11b SK01 020606	鹿児島前	壺	直径5.6 小鉢	直径3.2	無8.4		直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	2.5YR5/2 灰白	2.5YR5/6 灰青		
1359 11b SK01 020530	鹿児島前	呂が	直径4.9 小鉢	直径1.5.2	無6.9	目録116	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	2.5YR5/3 灰白	2.5YR5/6 灰青		
1360 11b SK01 B 020607	鹿児島前	鉢	直径7	直径4.0	無5.1		直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	2.5YR7/2 灰青	2.5YR7/2 灰青		
1361 11b SK01 020528	鹿児島前	鉢	直径10.2 小鉢	直径29.2	無4.4		直石輪軸、刷毛1半	直石輪軸、刷毛1半	直石輪軸、刷毛1半	直石輪軸、刷毛1半	直石輪軸、刷毛1半	10YR5/4 灰白	10YR5/4 灰白		
1362 12b SK01 020631	鹿児島前	鉢	直径5 小鉢	直径36.6	無7.4		直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	10YR5/3 灰白	10YR5/3 灰白		
1363 11b SK01 SK47	020606	鹿児島前	鉢	直径4.9 小鉢	直径5.7		直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	2.5YR5/3 灰青	2.5YR5/3 灰青		
1364 11b SK01 B 020608	鹿児島前	呂が	直径7 小鉢	直径27.8	無7.3		直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	10YR5/1 灰白	10YR5/1 灰白		
1365 11b SK01 B 020608	鹿児島前	晋	直径13 中鉢	直径9.1	無14.8		直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	2.5YR5/1 灰白	2.5YR5/1 灰白	直石輪	
1366 11b SK01 B 020531	鹿児島前	晋	直径3.0 小鉢	直径1.2	3.2	目録3.2	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	3YR5/1 灰白	3YR5/2 灰白		
1367 11b SK01 B 020607	鹿児島前	晋	直径4 小鉢	直径13.4	無4.3		直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	2.5YR5/2 灰白	2.5YR5/2 灰白		
1368 11b SK01 020611	鹿児島前	晋	直径12.4	無5.2			直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	直石輪軸	2.5YR5/2 灰白	2.5YR5/4 灰青		
1369 11b SK01 B 020607	鹿児島前	晋	直径7	無3.1	無11.4		直石輪	直石輪	直石輪	直石輪	直石輪	10YR7/3 灰白	10YR7/1 灰白		
1370 11b SK01 B 020607	鹿児島前	晋	直径5 中鉢	直径2.4	無12.0		直石輪	直石輪	直石輪	直石輪	直石輪	2.5YR7/2 灰白	2.5YR7/4 灰白		
1371 11g SK01 020614	鹿児島前	晋	直径16.0 1750	直径2.7	無5.8		直石輪	直石輪	直石輪	直石輪	直石輪	2.5YR7/4 灰白	2.5YR7/3 灰白		
1372 11b SK01 020530	中国新羅 晋	晋	直径2.0	直径2.0			晋花	晋花	晋花	晋花	晋花	2.5YR7/2 灰白	10Y7/1 7.5YR6/6 灰白		
1373 11b SK01 B 020608	鹿児島前	晋	直径3.7 中鉢	直径3.7			直石輪	直石輪	直石輪	直石輪	直石輪	10YR4/1 灰白	7.5YR4/3 灰白		
1374 11b SK01 020530	中国新羅 晋	晋	直径18.0	直径2.6	無18.0		直石輪	直石輪	直石輪	直石輪	直石輪	2.5YR6/3 灰白	2.5YR6/3 灰白		
1375 11b SK01 B 020608	鹿児島前	晋	直径4.0	直径1.6	無4.0		直石輪	直石輪	直石輪	直石輪	直石輪	10YR4/2 灰白	10YR4/3 灰白		
1376 12b SK01 020613	鹿児島前	晋	直径3.0	直径2.7	無3.6		直石輪	直石輪	直石輪	直石輪	直石輪	9/1 CA44-Y4-HL0	CA44-Y4-HL0		
1377 11b SK01 B 020531	鹿児島前	晋	直径5.5	直径19.8	無3.7		直石輪	直石輪	直石輪	直石輪	直石輪	2.5YR5/1 灰白	7.5YR4/3 灰白		
1378 11b SK01 B 020606	鹿児島前	晋	直径4.3	直径22.7	無4.3		直石輪	直石輪	直石輪	直石輪	直石輪	10YR4/1 灰白	7.5YR4/3 灰白		
1379 11b SK01 020606	鹿児島前	晋	直径2.4 中鉢	直径11.5	2.4	目録11.8	ヨコナデ、わざか ヨコナデ、回転式付	ヨコナデ、わざか ヨコナデ、回転式付	ヨコナデ、わざか ヨコナデ、回転式付	ヨコナデ、回転式付	ヨコナデ、回転式付	2.5YR7/6 灰 白	2.5YR6/3 灰白		
1380 11b SK01 020613	鹿児島前	晋	直径2.3	直径6.4	無11.2	目録11.2	ヨコナデ、回転式付	ヨコナデ、回転式付	ヨコナデ、回転式付	ヨコナデ、回転式付	ヨコナデ、回転式付	10YR7/4 灰白	10YR7/4 灰白		
1381 11g SK01 020617	鹿児島前	晋	直径3.3	直径5.8	無9.0	目録16.6	ヨコナデ、回転式付	ヨコナデ、回転式付	ヨコナデ、回転式付	ヨコナデ、回転式付	ヨコナデ、回転式付	7.5YR6/6 灰 白	7.5YR6/6 灰 白		
1382 11g SK01 020617	鹿児島前	晋	直径8.6	直径2.8	無3.8		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR6/6 灰 白	2.5YR6/6 灰 白		
1383 11g SK01 020617	鹿児島前	晋	直径8.6	直径2.8	無3.8		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR6/6 灰 白	2.5YR6/6 灰 白		
1384 11g SK01 020617	鹿児島前	晋	直径8.2	直径2.2	無3.8		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR6/6 灰 白	2.5YR6/6 灰 白		
1385 12b SK01 020613	鹿児島前	晋	直径3.8	直径3.8			ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/2 灰白	10YR5/2 灰白		
1386 11b SK01 SK47	020606	鹿児島前	晋	直径2.3	直径24.0	無2.3	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/6 灰 白	5YR6/6 灰 白		
1387 12b SK01 020613	鹿児島前	晋	直径1.3	直径5.8	1.3		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR6/6 灰 白	2.5YR6/6 灰 白		
1388 11b SK01 020531	鹿児島前	晋	直径2.6	直径5.6	2.6		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR6/6 灰 白	2.5YR6/6 灰 白		
1389 11b SK01 020610	鹿児島前	晋	直径4.0	直径3.7	無4.0	目録4.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR7/6 灰 白	5YR7/6 灰 白		
1390 11b SK01 A 020617	鹿児島前	晋	直径3.0	直径4.0	無4.0	目録3.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR6/6 灰 白	2.5YR6/6 灰 白		
1391 11b SK01 020611	元	元	直径5.5	直径5.5	無1.7	目録1.7	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR7/3 灰白	2.5YR7/3 灰白		
1392 11b SK01 020530	晋	晋	直径5.2	直径5.2			ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/6 灰 白	5YR6/6 灰 白		
1393 11b SK01 020531	晋	晋	直径6.2	直径6.2			ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR6/6 灰 白	2.5YR6/6 灰 白		
1394 11b SK01 020528	晋	晋	直径9.7	直径7c			ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/6 灰 白	5YR6/6 灰 白		
1395 11b SK01 B 020608	晋	晋	直径10.0	直径10.0			ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR4/2 流 通	10YR4/2 流 通		
1396 11b SK01 020530	晋	晋	直径7.4	直径18.8	7.4	目録18.8	ヨコナデ、スス付	ヨコナデ、スス付	ヨコナデ、スス付	ヨコナデ、スス付	ヨコナデ、スス付	5YR4/4 灰白	5YR4/4 灰白		
1397 11b SK01 020606	晋	晋	直径7.0	直径7.0			ヨコナデ、スス付	ヨコナデ、スス付	ヨコナデ、スス付	ヨコナデ、スス付	ヨコナデ、スス付	2.5YR6/6 灰 白	2.5YR6/6 灰 白		
1398 11b SK01 020603	鹿児島前	晋	直径7c (加工付)	直径7c (加工付)			ヨコナデ、直石輪	ヨコナデ、直石輪	ヨコナデ、直石輪	ヨコナデ、直石輪	ヨコナデ、直石輪	5YR1/B/1	5YR1/B/1		
1399 11b SK01 B 020603	鹿児島前	晋	直径6.1	直径6.1			ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/1 9HBL灰	10YR7/1 9HBL灰		
1400 12b SK01 020613	鹿児島前	晋	直径4.0	直径4.0	無0.8		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR6/2 灰白	2.5YR6/2 灰白		
1401 11b SK01 020607	晋	晋	直径4.2	直径4.2	無0.5	目録5	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	3枚重複	3枚重複		
1402 12b SK01 020613	晋	晋	直径2.8	直径2.8	無6.6		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR1/B/1	5YR1/B/1		
1403 12b SK01 020613	晋	晋	直径1.3	直径1.3	無1.2		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ				
1404 12b SK01 020613	晋	晋	直径0.8	直径0.8	無1.2		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ				
1405 12b SK01 020612	晋	晋	直径1.9	直径1.9	無1.0		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ				
1406 11b SK01 020530	晋	晋	直径3.8	直径3.8	無1.4		ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ				
1407 12b SK01 020613	晋	晋	直径4.2	直径4.2	無0.5	目録4	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ				
1408 11b SK01 B 020607	本漆器	本漆器	直径1.8 (加工付)	直径1.8 (加工付)	無4.1	目録2.7	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ				

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	件名	日付	発地・材質	形	幅	厚	U寸(㎝)	横高(㎝)	逆高(㎝)	目大(㎝)	内面	外面	第1(外側)	第2	備考
1409 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	板			約18.0	幅3.0	厚3.2		無質、ノミ痕				
1410 11b	SK01 B 下附		木製品	板			約18.0	幅3.2	厚3.3		無質、ノミ痕				
1411 11b	SK01 B 下附		木製品	板			約17.5	幅4.1	厚2.7		無質、ノミ痕				
1412 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	板			約17.1	幅4.0	厚2.7		無質、ノミ痕				
1413 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	板			約17.2	幅2.7	厚2.7		無質、ノミ痕				
1414 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	板			約16.8	幅2.7	厚3.5		無質、ノミ痕				
1415 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	板			約16.5	幅2.7	厚2.9		無質、ノミ痕				
1416 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	板			約15.3	幅3.2	厚2.6		無質、ノミ痕				
1417 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	板			約15.2	幅3.0	厚2.6		無質、ノミ痕				
1418 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	板			約14.3	幅5.7	厚1.7		無質、ノミ痕				
1419	SK01 B 下附		木製品	板			約13.6	幅2.5	厚2.3		無質、ノミ痕				
1420	SK01 B 下附		木製品	板			約12.6	幅2.2	厚1.5		無質、ノミ痕				
1421 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	板			約7.6	幅4.3	厚1.3		無質、ノミ痕				
1422 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	縦横板			約20.5	幅3.3	厚1.0		不明(白カシナ?)				
1423 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	縦横板			約23.2	幅6.2	厚1.4		不明(白カシナ?)				
1424 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	縦横板			約24.0	幅5.2	厚1.0		無面白カシナ	不明(白カシナ?)			
1425	SK01 B 下附		木製品	木割			約11.8	幅6.5	厚1.0		ノミ?				
1426 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	木割			約7.2	幅6.8	厚1.5		ノミ?				
1427 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	木割			約5.9	幅5.0	厚1.5		ノミ?				
1428 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	カンナ割			約5.5	幅2.9	—		白カシナ			厚め	
1429 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	カンナ割			約5.5	幅1.6	—		白カシナ			厚め	
1430	SK01 B 下附		木製品	建築部材			約13.9	幅6.1	厚2.7		コギリのち白カシナ				
1431 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約9.4	幅4.7	厚4.4		白カシナ				
1432 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約12.9	幅3.5	厚1.2		コギリ				
1433 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約15.1	幅2.8	厚0.7		無質のちセリガシナ?				
1434	SK01 B 下附		木製品	建築部材			約15.1	幅2.5	厚1.3		無質、白ノコギリ				
1435 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約11.3	幅3.5	厚1.3		無質の白カシナ				
1436 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約6.5	幅4.0	厚3.2		不明				
1437 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約9.8	幅5.0	厚2.2		白・鋼筋コギリ				
1438 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約20.7	幅3.8	厚2.3		白面コギリ・井筒 セリガシナ・カシナ				
1439 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約18.7	幅5.8	厚3.6		コギリ? ノミ?				
1440 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約22.2	幅2.1	厚1.9		不明				
1441	SK01 B 下附		木製品	建築部材			約20.5	幅3.5	厚1.1		コギリのち白カシナ				
1442 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約17.8	幅3.9	厚1.6		不明				
1443 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約12.8	幅2.5	厚3.4		不明(ノコギリ?)				
1444 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約26.5	幅4.3	厚3.3		不明				
1445 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約27.2	幅3.4	厚1.7		セズリ・無面無質				
1446 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約27.0	幅3.7	厚2.1		ノコギリ				
1447 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約30.0	幅5.7	厚1.3		赤小松、白ノコギリ				
1448 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約32.7	幅2.7	厚0.8		セズリ・白ノコギリ				
1449 11b	SK01 B 下附	020807	木製品	建築部材			約32.6	幅3.4	厚1.3		不明				
1450 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約34.4	幅3.7	厚1.0		ノコギリ				
1451 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約32.7	幅4.5	厚3.3		セズリ				
1452 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約39.6	幅4.0	厚2.5		無面ノコギリ				
1453 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約45.0	幅4.8	厚5.8		ノコギリ?				
1454	SK01 B 下附		木製品	建築部材			約54.4	幅3.6	厚2.5		ノコギリ				
1455 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約50.1	幅3.0	厚2.6		ノコギリ				
1456 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約50.7	幅4.6	厚3.4		ノコギリ				
1457 11b	SK01 B 下附	020808	木製品	建築部材			約54.7	幅6.7	厚5.6		ノコギリ				

遺物一覧表

登録番号	登録年月日	性別・年齢	材質	縦	横	厚	目次番号	最高寸法	最低寸法	最大幅(横)	内側	外側	形態(外側)	形態	備考
1458	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		楕円	幅3.7 25.2		厚2.1			不明(ノコギリ?)				
1459	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長25.7	幅3.1		厚2.0			不明(無質?)				
1460	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長19.4	幅3.8		厚1.9			不明(ノコギリ?)				
1461	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長18.9	幅3.8		厚1.7			不明(ノコギリ?)				
1462	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長18.3	幅6.6		厚1.1			ケツリ				
1463	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長18.0	幅9.3		厚1.1			ケツリ				
1464	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		楕円	幅8.0		厚0.4			ノコギリまたは無質				
1465	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長29.3	幅6.8		厚0.3			無質				
1466	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長35.5	幅7.1		厚0.4			無質				
1467	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長29.7	幅5.8		厚0.5			無質				
1468	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長15.5	幅5.9		厚1.0			無質				
1469	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長22.1	幅5.2		厚0.6			不明(無質?)				
1470	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		楕円	幅7.0		厚0.2			不明(無質?)				
1471	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		楕円	幅4.4		厚0.5			ノコギリ				
1472	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長15.4	幅9.0		厚5.2			ノコギリ				
1473	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		員1.5	幅4.7		厚3.2			ノコギリ				
1474	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長8.3	幅5.5		厚3.7			ノコギリ				
1475	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長13.1	幅9.5		厚3.4			無質				
1476	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		楕円	幅7.4		厚0.7			ノコギリ				
1477	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長36.5	幅6.6		厚0.6			無質				
1478	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		楕円	幅6.2		厚0.8			ノコギリ、無質				
1479	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長32.7	幅5.2		厚0.4			ノコギリ				
1480	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長30.2	幅5.9		厚0.7			無質				
1481	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		楕円	幅11.2		厚0.4			員ノコギリ、無質				
1482	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長35.1	幅8.2		厚0.4			無質				
1483	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長40.7	幅15.1		厚0.7			ノコギリ				
1484	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長45.5	幅6.3		厚1.2			無質、ノコギリ				
1485	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長48.8	幅6.7		厚0.6			無質				
1486	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長12.3	幅8.3		厚0.4			無質				
1487	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長15.7	幅6.2		厚0.6			無質				
1488	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長20.3	幅9.6		厚0.7			不明(ノコギリ?)				
1489	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長22.2	幅9.8		厚0.3			ノコギリの当台カット				
1490	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長21.9	幅5.2		厚0.3			無質				
1491	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長28.0	幅4.5		厚1.2			当台カット)。無質				
1492	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長23.3	幅8.7		厚1.2			不明(ケツリ?)				
1493	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長21.6	幅7.8		厚1.2			不明(ケツリ?)				
1494	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長17.8	幅7.9		厚1.1			不明(ケツリ?)				
1495	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長15.4	幅5.9		厚1.7			不明(ノコギリ?)				
1496	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長28.1	幅6.5		厚1.8			ノコギリ				
1497	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		長27.8	幅11.2		厚1.6			ノコギリ				
1498	SK01 B 020808	本物品	建築面材片		楕円	幅17.0		厚1.2			ノコギリ				
1499	11b SK01 B 020808	本物品	建築面材片		楕円	幅5.1		厚1.2			不明				
1500	11b SK01 B 020808	本物品	不明(板材)		楕円	幅8.0		厚0.3			ノコギリ				
1501	11b SK01 B 020808	織繩製品	紺		楕円	幅0.7		厚0.2			—				
1502	11b SK01 B 020808	織繩製品	紺		楕円	幅0.4		幅0.9			—				
1503	12 SK01 B 020531	麻糸	麻糸		楕円	幅5.1		幅3.4		厚1.8	無質				
1504	11b SK01 B 020604	麻糸貴賎呂	麻糸		楕円	幅5.2		幅4.5		厚1.6	無質				
1505	12 SK01 B 020531	麻糸貴賎呂	麻糸		楕円	幅5.1		幅4.1		厚2.9	無質				
1506	11b SK01 B 020806	麻糸貴賎呂	麻糸		楕円	幅4.6		幅3.5		厚0.9	無質				
1507	11b SK01 B 020809	麻糸貴賎呂	切石(建築用砂岩)		楕円	幅21.6		幅8.2		厚1.1	—				
1508	11b SK01 B 020809	麻糸貴賎呂	切石(建築用砂岩)		楕円	幅18.1		幅10.1		厚1.1	—				

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	区画	遺跡名	日付	発掘場所	地質	層	特徴	時期	UVR (cm)	最高 (cm)	最低 (cm)	最大 (cm)	内面	外面	第1 (外部)	第2	備考	
1500	11b	S803	020800	織田陣跡	砂岩 (建物 堆積物)	切付 (建物 堆積物)	板状	丸柱	幅15.4	幅18.1	厚10.5		なし					
1510	11b	S803	020611	織田陣跡	砂岩 (建物 堆積物)	切付 (建物 堆積物)	板状	丸柱	幅40.1	幅30.0	厚8.6		なし					
1511	11b	S801	020809	織田陣跡	砂岩 (建物 堆積物)	切付 (建物 堆積物)	板状	丸柱	幅30.1	幅14.1	厚10.6		なし					
1512	11b	S801	020808	織田陣跡	砂岩 (建物 堆積物)	切付 (建物 堆積物)	板状	丸柱	幅25.6	幅20.7	厚9.2		なし					
1513	14F	S809	020809	織田陣跡	砂岩 (建物 堆積物)	切付 (建物 堆積物)	板状	丸柱	幅25.5	幅11.5			なし					
1514	14F	S809	020620	織田陣跡	砂岩 (建物 堆積物)	切付 (建物 堆積物)	板状	丸柱	幅32.0	幅22.7	厚10.6		なし					
1515	11b	S847	020618	織田陣跡	砂岩 (建物 堆積物)	切付 (建物 堆積物)	板状	丸柱	幅24.9	幅18.7	厚15.3		なし					
1516	10c	S804	020703	織田陣跡	砂岩 (建物 堆積物)	切付 (建物 堆積物)	板状	丸柱	幅20.3	幅7.2			不明					
1517	11d	S805	020621	織田陣跡	青苔丸柱		板付	丸柱	幅10.4	幅5.6		幅10.6	白苔触	白苔触	2.5YR5/1 丸白	10GY7/1 青苔		
1518	11d	S805	020621	乳白色陶器	土	板付	小 周	丸柱	幅4.0	3.3	2.6	14.4	灰触、ピンクヨ ロッジ	灰触、薄台面膨 脹風化あり、回転 風化あり、トレン チ窓あり	2.5Y7/3 丸青	5Y7/3 浅青		
1519	S802	020619	織田陣跡	漆付丸柱	漆付	中付	丸柱	幅10.3	幅5.5	4.2	幅10.4	白苔触	青苔、薄台面膨 脹風化あり	NH 白灰	C20-M10 Y16-B10	波打見		
1520	S802	020620	織田陣跡	漆付丸柱	漆付	丸柱	幅10.6	幅4.5	幅10.7	白苔触	青苔	青苔	NW 白灰	C16-M6 Y16-B10	波打見			
1521	S802	020621	織田陣跡	漆付丸柱	漆付	丸柱	幅10.4	幅3.6	幅30.6	青苔	青苔	青苔	9/ 白	C16-M6 Y16-B10	波打見			
1522	S802	020624	織田陣跡	漆付丸柱	漆付	丸柱	幅3.5	幅4.4		青苔	青苔、薄台面膨 脹風化あり	CD-M0-Y4 BL4	CG-M0-Y4 BL4	CG-M0-Y8 BL8				
1523	S802	020620	織田陣跡	漆付丸柱	漆付	丸柱	幅8.6	幅2.4		青苔	青苔	青苔	9/ 白	CG-M0-Y8 BL8				
1524	9c	S802	020816	漆付丸底陶器	丸底	1付2 小 周	丸底	丸底	幅3.5	幅4.8		青苔	青苔、薄台面膨 脹風化あり	2.5YR5/4 浅青色	3.5YR5/4 モーリー陶			
1525	9c	S802	020624	漆付陶器	丸底		丸底	丸底	幅5.4	幅11.8	幅11.8	青苔 (透明陶)	青苔 (透明陶)	10YR2/3 に、1C1-青苔 に、1C1-青苔	10YR5/3 に、1C1-青苔 に、1C1-青苔	波打見では ない		
1526	9c	S802	020624	漆付丸底陶器	丸底	青50% 小 周	丸底	丸底	幅2.5	幅4.8		青苔	青苔、薄台面膨 脹風化あり	2.5YR5/1 丸灰	7.5Y7/1 丸 灰			
1527	9c	S802	020620	漆付陶器	丸底		丸底	丸底	幅7.0	幅4.2	幅3.7	青苔	青苔、下平脚	2.5YR5/3 丸灰 N6灰	2.5YR5/6 2 モーリー陶	波打見では ない		
1528	9c	S802	020625	漆付陶器	丸底		丸底	丸底	幅2.0	幅2.0	幅13.8	青苔	青苔	9/ 白	C12-M0 Y16-B10			
1529	9c	S802	020626	漆付丸底陶器	丸底	1付1 小 周	丸底	丸底	幅14.3	幅3.2	幅7.6	青苔	青苔、薄台面膨 脹風化あり	2.5YR5/2 丸灰 N6灰	2.5Y7/2 丸灰			
1530	9c	S802	020621	漆付丸底陶器	丸底	1付1 小 周	丸底	丸底	幅1.4	幅8.2		青苔	青苔	青苔	2.5YR5/1 丸灰 N6灰	2.5YR5/1 丸灰		
1531	S802	020624	中国伝統陶器	青苔丸柱			丸柱	丸柱	幅4.1			青苔	青苔	9/ 白	CG-M0-Y4 BL4			
1532	8a	S802	020621	乳白色陶器	中柱	半1付2 小 周	丸底	丸底	幅21.8	3.9	幅11.8	青苔	青苔、薄台面膨 脹風化あり	2.5YR5/3 丸灰 N6灰	2.5YR5/4 丸灰			
1533	8a	S802	020621	乳白色陶器	中柱	半1~ 4 小 周	丸底	丸底	幅3.8	幅16.8		青苔	青苔、下平脚	SY7/1 丸白	7.5Y7/2 丸白			
1534	S802	020624	美濃陶器	瓦筒	青苔	3付4% 小 周	丸底	丸底	幅5.5			青苔に側面擦痕	青苔、へケズ 0	SY7/2 丸灰	SY7/2 丸灰			
1535	9c	S802	020812	漆付陶器	漆付	1付1~ 2 小 周	丸底	丸底	幅3.3			青苔に側面擦痕	青苔、油ぬれき裂	2.5YR5/4 丸灰 N6灰	2.5Y7/2 丸 灰			
1536	S802	020621	乳白色陶器	瓦筒	半1付2 小 周	丸底	丸底	幅40.8	幅5.2	幅42.0	青苔	青苔	青苔	2.5YR5/6 丸灰 N6灰	2.5YR5/6 丸 灰			
1537	S802	020621	漆付陶器	瓦筒	半1付2 小 周	丸底	丸底	幅36.0	幅5.2	幅37.2	青苔	青苔	青苔	2.5Y7/2 丸 灰	7.5Y7/3 丸 灰			
1538	S802	020619	乳白色陶器	瓦筒	半1付2 小 周	丸底	丸底	幅39.0	幅6.5	幅40.6	ココナラ、自然 色ココナラ、ハッタ ク、自然色	ココナラ、ハッタ ク、自然色	7.5YR5/1 モーリー陶	SY7/1 モーリー陶				
1539	S802	020913	菊池陶器	高麗丸底	高麗丸底		丸底	丸底	幅17.2	幅6.6	幅10.6	ココナラ、スヌカ 青、大きめ変な ササ	ココナラ、ハッタ ク、自然色	NG 灰、 2.5YR6/6 橙	10YR5/2 丸灰			
1540	S802	020621	上御陶器	高麗丸底	高麗丸底		丸底	丸底	幅40.5	幅12.1	幅12.0	青苔	青苔	調査不詳	SY10-4 に、1C1-特			
1541	8b	S802	020621	乳白色陶器	瓦筒	半1付2 小 周	丸底	丸底	幅43.1	幅9.3	幅10.8	青苔	青苔、側面擦痕 はく、油ぬれき裂	SY7/2 丸灰 N6灰	SY8/4 に、1C1-特			
1542	S802	020619	漆付陶器	瓦筒	丸底?	丸底?	丸底	丸底	幅32.5	幅9.3	幅7.4	青苔	青苔	10YR8/4 丸灰	10YR3/2 丸灰			
1543	8a	S802	020621	菊池陶器	古物	半1付2 小 周	丸底	丸底	幅43.1	幅9.3	幅2.0	青苔	青苔、うすく 白色背景物、粗 白色背景物 ササ	SY6/6 橙				
1544	S802	020624	菊池陶器	古物大鉢合	丸底		丸底	丸底	幅7.0			ココナラ、スヌカ 青	ココナラ、スヌカ 青	2.5YR3 丸灰		地盤改良設置		
1545	S802	020615	本製品	丸底		半1付2 小 周	丸底	丸底	幅40.5	幅12.1	幅12.0	青苔	青苔	セズリ		地盤改良設置		
1546	S802	020615	本製品	丸底		半1付2 小 周	丸底	丸底	幅20.4	幅10.1	幅9.8	青苔	青苔	セズリ		地盤改良設置		
1547	S802	020625	本製品	丸底		半1付2 小 周	丸底	丸底	幅32.5	幅9.3	幅7.4	青苔	青苔	セズリ		地盤改良設置		
1548	8c	S802	020621	本製品	丸底		丸底	丸底	幅43.1	幅9.3	幅2.0	青苔	青苔 (擦痕?)					
1549	8c	S802	020621	本製品	丸底		丸底	丸底	幅23.3	幅3.9	幅0.9	青苔 (タズリ?)						
1550	S802	020813	砂岩	道付		半1付2 小 周	丸底	丸底	幅14.5	幅14.7	幅7.3	青苔 (十)						
1551	13a	S801	020529	織田陣跡	漆付丸柱	1付1 周	丸柱	丸柱	幅10.2	5.1	幅4.2	幅10.4	白苔触	青苔、薄台面膨 脹風化	9/ 白	C16-M4 Y16-B10	有田	
1552	13a	S801	020531	織田陣跡	漆付丸柱	1付1 周	丸柱	丸柱	幅10.9	5.6	4.5	幅18.0	白苔触、板の目跡	青苔、薄台面膨 脹風化	SY7/1 丸白	C16-M6 Y16-B10	波打見	
1553	12b	S801	020604	織田陣跡	上御丸柱	1付1 周 1650~ 1690	丸柱	丸柱	幅11.0	6.2	幅4.4	幅31.1	白苔触	青苔、上御丸、丸 柱の目跡	7.5Y7/2 丸灰 N6灰	SY8/4 に、1C1-特		
1554	13a	S801	020521	織田陣跡	漆付丸柱		丸柱	丸柱	幅4.1	幅3.5		白苔触	青苔、薄台面膨 脹風化	SY6/6 橙				
1555	13a	S801	020527	小御園	青苔丸柱		丸柱	丸柱	幅3.0	4.4		青苔	青苔、薄台面膨 脹風化	9/ 白	C16-M4 Y16-B10	波打見		

遺物一覧表

登録番号	登録年月日	発見地・材質	縦	横	厚	目次番号	裏面の状況	裏面の状況	大きさ(単位)	内面	外側	動植物(外側)	動植物(内側)	備考		
1556 13a SD011 020531	鹿児島県 山口	鹿児島陶器	鉄輪	角	4.2		無	9.6	無	無	無	2.5V6/2 黒白	2.5V2/1 黒	鹿児島県では ない		
1557 13b SD011 020530	鹿児島県 山口	鹿児島直透陶器	瓦口多頭小口	曾 304	角		無	2.5	無	5.7	無	2.5V7/2 黒白	2.5V3/4 黒	鹿児島直透では ない		
1558 13b SD011 020524	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口小口	曾 304	角		無	6.2	無	2.4	無	6.4 白化	6.4 黑白	鹿児島直透の 外観形態		
1559 13a SD011 020521	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口不規則	曾 7	角		無	13.8	無	3.9	無	14.6 黑白	10V6/1 黒白	10V7/2 黒	鹿児島直透では ない	
1560 13a SD011 020527	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口	曾 304	角		無	15.0	無	3.1	無	15.2 黑白	10V6/4 黒白	2.5V6/3 黒	鹿児島直透	
1561 13b SD011 020529	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口不規則	曾 7	角		無	13.0	無	3.9	無	13.2 黑白	2.5V6/1 黒白	2.5V6/2 黒	鹿児島直透では ない	
1562 12a SD012 020524	鹿児島県 山口	鹿児島陶器	小口	曾 506	角		無	6.8	無	3.1	無	7.0 黑白	5V6/1 黑	2.5V6/3 黒	鹿児島リニア	
1563 13b SD011 020529	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口	曾 506	角		無	3.7	無	5.1	無	4.0 黑白	5V1/1 黑白	5V2/2 黒白	鹿児島リニア	
1564 13b SD011 020522	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口不規則	曾 7	角		無	13.2	無	5.1	4.2	13.4 黑白	10V6/1 黒白	10V7/2 黒	鹿児島直透では ない	
1565 13b SD011 020518	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口	曾 506	角		無	14.4	無	3.8	無	14.6 黑白	10V6/4 黒白	2.5V6/3 黒	鹿児島直透	
1566 13a SD011 020521	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口	曾 506	角		無	12.2	無	6.9	無	12.4 黑白	10V6/1 黒白	2.5V6/3 黒	鹿児島直透	
1567 13c SD011 020523	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口	曾 506	角		無	14.4	無	3.7	無	8.6 14.6 曾付	9.1 白化	CO-MO-Y4 BL0	鹿児島直透し?	
1568 13a SD011 020529	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口	曾 506	角		無	1.7	無		無	2.0 黑白	9.1 白化	CO-MO-Y4 BL0	鹿児島直透	
1569 13b SD011 020522	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口直角	曾 304	角		無	10.8	2.2	6.4	11.6	11.6 黑白	10V6/2 黒白	10V7/2 黒	鹿児島直透	
1570 13b SD011 020522	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口直角	曾 304	角		無	2.1	無	8.4	無	2.0 黑白	5V7/1 黑	5V7/2 黑	鹿児島直透	
1571 13a SD012 020531	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口	曾 506	角		無	3.0	無		無	3.0 黑白	2.5V6/2 黒白	2.5V7/1 黑	鹿児島直透	
1572 12d SD012 020524	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口直角	曾 506	角		無	15.4	無	2.9	無	16.4 黑白	10V6/1 黒白	2.5V3/3 黒	鹿児島直透	
1573 13b SD011 020529	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口	曾 506	角		無	19.0	無	3.1	無	19.8 青磁	10V6/1 黒白	2.5V6/3 黒	鹿児島直透	
1574 12f SD012 020603	鹿児島県 山口	土師器	リコナ	曾 163	角		無	16.3	3.3	無	8.6	14.6 曾付	9.1 白化	CO-MO-Y4 BL0	リコナ	
1575 12e SD012 020603	鹿児島県 山口	土師器	リコナ	曾 163	角		無	2.2	無	6.4	11.6	11.6 黑白	10V6/2 黒白	10V7/1 黑	リコナ	
1576 12e SD012 020603	鹿児島県 山口	土師器	リコナ	曾 163	角		無	12.8	2.5	6.0	13.6	13.6 黑白	10V6/6 橙	10V7/1 橙	リコナ	
1577 13a SD011 020527	鹿児島県 山口	土師器	リコナ	曾 163	角		無	1.6	無	5.4	無	2.0 黑白	5V6/6 橙	5V7/1 橙	リコナ	
1578 13b SD011 020529	鹿児島県 山口	土師器	リコナ	曾 163	角		無	2.2	無	8.4	無	2.0 黑白	10V6/1 橙	10V7/2 橙	リコナ	
1579 13b SD011 020529	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口	曾 506	角		無	4.1	無	6.2	無	4.1 黑白	10V6/1 黒白	2.5V4/3 オリーブ	鹿児島直透	
1580 13b SD011 020530	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口	曾 506	角		無	3.3	無		無	3.0 黑白	10V6/6 橙	10V7/3 橙	鹿児島直透	
1581 13a SD011 020527	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口直角	曾 707B	角		無	14.2	無	3.6	無	14.2 黑白	10V6/2 黒白	2.5V3/3 黒	鹿児島直透	
1582 13a SD011 020524	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口	曾 707B	角		無	4.3	無		無	4.3 黑白	10V6/1 黒白	2.5V2/2 黒	鹿児島直透	
1583 13b SD011 020529	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口直角	曾 707B	角		無	2.0	無	13.6	無	2.0 黑白	10V6/1 黑	2.5V3/3 黑	鹿児島直透	
1584 13c SD012 020527	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口	曾 506	角		無	2.5	無	9.0	無	1.0 黑白	10V6/1 黑	2.5V4/4 黑	鹿児島直透	
1585 13b SD011 020522	鹿児島県 山口	鹿児島直透	本鉢	曾 506	角		無	12.6	9.0		無	15.6 黑白	10V6/1 黑	2.5V4/3 オリーブ	鹿児島直透	
1586 13a SD012 020531	鹿児島県 山口	鹿児島直透	本鉢	曾 506	角		無	8.1	無	16.5 ~ 17.0	無	17.0 黒白	10V6/3 黒白	2.5V0/1 黒	鹿児島直透	
1587 13c SD012 020531	鹿児島県 山口	鹿児島直透	本鉢	曾 506	角		無	2.0	無		無	2.0 黑白	10V6/3 黒白	10V7/3 黒	鹿児島直透	
1588 13b SD011 020529	鹿児島県 山口	鹿児島直透	本鉢	曾 506	角		無	3.4	無		無	3.0 黑白	10V6/6 橙	10V7/4 橙	鹿児島直透	
1589 13e SD011 020527	鹿児島県 山口	鹿児島直透	本鉢	曾 506	角		無	9.1	無	5.6	7.0	10.1 曾付	6.11 曾付	7.5V6/6 橙	7.5V7/1 橙	鹿児島直透
1590 13e SD012 020524	鹿児島県 山口	鹿児島直透	本鉢	曾 506	角		無	9.0	無		無	9.0 黑白	10V6/1 黑	2.5V4/2 黑	鹿児島直透	
1591 13c SD011 020517	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口	曾 506	角		無	12.1	無	19.2	無	12.1 黑白	10V6/1 黑	N3/1 黑	鹿児島直透	
1592 12f SD011 020524	鹿児島県 山口	鹿児島直透	瓦口	曾 506	角		無	1.0	無		無	1.0 黑白	10V6/3 黑	2.5V6/3 黑	鹿児島直透	
1593 13a SD011 020527	鹿児島県 山口	鹿児島直透	直鉢	曾 506	角		無	56.2	63.2	19.6	64.8 曾付	56.2 白化	56.2 黑白	56.2 白化	やや硬成不良	
1594 13c SD011 020524	鹿児島県 山口	鹿児島直透	直鉢	曾 506	角		無	3.0	無	2.3	無	3.0 黑白	10V6/2 黑	2.5V4/2 黑	鹿児島直透	
1595 13c SD012 020527	鹿児島県 山口	鹿児島直透	直鉢	曾 506	角		無	6.6	無	2.1	無	6.6 黑白	10V6/4 黑	2.5V4/4 黑	鹿児島直透	
1596 12c SD011 020524	鹿児島県 山口	鹿児島直透	直鉢	曾 506	角		無	6.1	無	1.6	無	6.1 黑白	10V6/4 黑	2.5V4/4 黑	鹿児島直透	
1597 13a SD011 020521	鹿児島県 山口	鹿児島直透	直鉢	曾 506	角		無	6.3	無	1.4	無	6.3 黑白	10V6/3 黑	2.5V4/3 黑	鹿児島直透	
1598 12f SD012 020529	鹿児島県 山口	鹿児島直透	直鉢	曾 506	角		無	5.5	無	1.8	無	5.5 黑白	10V6/3 黑	2.5V4/3 黑	鹿児島直透	
1599 12e SD011 020524	鹿児島県 山口	鹿児島直透	直鉢	曾 506	角		無	5.0	無	1.6	無	5.0 黑白	10V6/2 黑	2.5V4/2 黑	鹿児島直透	
1600 13a SD011 020527	鹿児島県 山口	鹿児島直透	直鉢	曾 506	角		無	5.2	無	2.1	無	5.2 黑白	10V6/1 黑	2.5V4/1 黑	鹿児島直透	
1601 12f SD011 020524	鹿児島県 山口	鹿児島直透	直鉢	曾 506	角		無	5.0	無	1.8	無	5.0 黑白	10V6/3 黑	2.5V4/3 黑	鹿児島直透	

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	フリガナ	日付	地場・材質	形	幅	厚	U寸(㎝)	縦寸(㎝)	逆寸(㎝)	目大寸(㎝)	内面	外面	第1(内部)	第2	備考
1602 12b	SD01 通	030524	鉄製品	板			幅員 4.0	幅 1.4	厚 1.1						
1603 13d	SD01 通	030530	鉄製品	板			幅員 5.1	幅 2.0	厚 1.0						
1604 12b	SD01 通	030524	鉄製品	板			幅員 5.0	幅 1.0	厚 0.7						
1605 13a	SD01 2	030531	鉄製品	板			幅 4.8	幅 2.0	厚 0.9						
1606 13a	SD01 2	030531	鉄製品	板			幅 4.6	幅 2.5	厚 1.0						
1607 13b	SD01 2	030529	鉄製品	板			幅員 4.7	幅 1.6	厚 1.2						
1608 12b	SD01 2	030529	鉄製品	板			幅員 4.8	幅 1.2	厚 0.9						
1609 13d	SD01 2	030529	鉄製品	板			幅員 4.2	幅 2.0	厚 1.3						
1610 13d	SD01 1	030527	鉄製品	板			幅 4.2	幅 0.9	厚 0.9						
1611 12b	SD01 通	030524	鉄製品	板			幅員 3.7	幅 0.9	厚 0.7						
1612 13a	SD01 2	030531	鉄製品	板			幅員 3.6	幅 0.7	厚 0.6						
1613 12b	SD01 通	030524	鉄製品	板			幅 3.7	幅 3.1	厚 0.2						
1614 12b	SD01 通	030524	鉄製品	板			幅 3.8	幅 1.5	厚 0.9						
1615 12b	SD01 通	030524	鉄製品	板			幅員 3.7	幅 1.7	厚 1.7						
1616 12b	SD01 通	030524	鉄製品	板			幅員 3.0	幅 1.1	厚 1.0						
1617 12b	SD01 通	030524	鉄製品	板			幅 3.6	幅 1.2	厚 0.7						
1618 12b	SD01 通	030524	鉄製品	板			幅員 3.3	幅 1.0	厚 1.0						
1619 12b	SD01 2	030529	鉄製品	板			幅員 3.3	幅 1.5	厚 1.2						
1620 13d	SD01 2	030529	鉄製品	板			幅 3.4	幅 1.2	厚 0.7						
1621 13a	SD01 1	030527	鉄製品	板			幅員 3.0	幅 1.3	厚 0.8						
1622 13d	SD01 2	030529	鉄製品	板			幅 3.4	幅 1.1	厚 0.9						
1623 13a	SD01 通	030531	鉄製品	板			幅 3.6	幅 0.8	厚 0.6						
1624 12b	SD01 通	030524	鉄製品	板			幅 2.8	幅 1.4	厚 0.9						
1625 12b	SD01 2	030529	鉄製品	板			幅 2.7	幅 1.6	厚 0.8						
1626 13a	SD01 通	030531	鉄製品	板			幅 2.2	幅 1.5	厚 0.7						
1627 13c	SD01 2	030527	鉄製品	板			幅 2.0	幅 0.5	厚 0.3						
1628 13a	SD01 通	030531	鉄製品	板			幅 2.2	幅 1.1	厚 0.6						
1629 13a	SD01 通	030524	鉄製品	板						2.5					
1630 13b	SD01 通	030529	鐵製品	板			幅 6.1	幅 3.8	厚 1.2						
1631 12b	SD03	030606	把頭部	寄付丸輪	板	幅 10.0	5.6	3.9	幅 10.2	白磁釉	寄付、両台輪部漆 付	白	C4-M0-Y4- BL0		
1632 12a	SD03	030603	把頭部	寄付丸輪	板	幅 11.0	4.6	4.5	幅 11.1	白磁釉	寄付	白	C8-M4-Y0- BL0		
1633 11a	SD03	030604	夷頭部	打付頭	幅 11.0	4.6	1.0		幅 11.2	路釉	寄頭、ウチリ、結物、 板頭部漆付		LOV06-3 7.5YR03/3 乳頭		
1634 12a	SD03	030606	上頭部	口口頭部		幅 12.2	5.6	6.0	幅 12.4	ココナツ	ココナツ、わくら にテラリ付脛、同 軸系切低		SYR06-6 梯		
1635 12a	SD03	030604	上頭部	口口頭部		幅 10.6	2.2	5.0	幅 10.8	ココナツ	ミダリ、同軸ヘリ 付脣、同軸部漆 付脣		SYR06-6 梯	奥系統	
1636 12a	SD03	030606	上頭部	口口頭部		幅 8.4	1.6	4.4	幅 8.6	ココナツ、ターネル 付脣、同軸部切低	ココナツ、ターネル 付脣、同軸部切低		LOV06-6 明 SYR06-6 梯		
1637 12a	SD03	030604	上頭部	地頭部漆付	幅 8.4	2.4			幅 8.5	布	ミガキ?		7.5YR06-4 7.5YR06-4		
1638 12a	SD01 通	030603	上頭部	地頭部漆付	幅 8.2	2.1			幅 8.4	毎日	ミガキ?		7.5YR06-6 梯		
1639 11a	SD03 通	030604	上頭部	地頭部漆付	幅 8.7					ナギ?	ナギ?		SYR06-6 梯		
1640 12a	SD03	030604	鉄製品	板			幅員 5.0	幅 1.6	厚 1.2						
1641 12a	SD03	030604	鉄製品	板			幅 4.6	幅 1.2	厚 0.8						
1642 12a	SD03	030604	鉄製品	板			幅 4.4	幅 2.1	厚 1.2						
1643 12a	SD03	030604	鉄製品	板			幅 4.1	幅 1.3	厚 0.9						
1644 12a	SD03	030604	鉄製品	板			幅 3.8	幅 2.0	厚 0.8						
1645 12a	SD03	030604	鉄製品	板			幅 3.4	幅 0.8	厚 0.6						
1646 12a	SD03	030604	鉄製品	板			幅 3.2	幅 1.3	厚 0.8						
1647 11a	SD03 通	030604	鉄製品	頭輪(板机)		幅 2.6	幅 1.6	厚 0.7							
1648 8a	SK23	030905	不規則形	寄付丸輪	板	幅 10.0	4.5	3.7	幅 10.2	白磁釉	寄付、両台輪部漆 付	白	C4-M4-Y4- BL0	開西系?	
1649 8a	SK23	030911	軽い頭部	寄付丸輪	板	幅 10.0	4.8	3.5	幅 10.2	白磁釉	寄付、両台輪部漆 付	白	C4-M4-Y4- BL0		
1650 8a	SK23	030911	軽い頭部	寄付丸輪	板	幅 9.5	4.0	3.4	幅 9.7	白磁釉	寄付、両台輪部漆 付	白	C4-M4-Y4- BL0		
1651 9a	SK23	030911	軽い頭部	寄付丸輪	板	幅 10.0	4.7	3.6	幅 10.2	白磁釉	寄付、両台輪部漆 付	白	C4-M4-Y4- BL0		
1652 9a	SK23	030911	軽い頭部	寄付丸輪	板	幅 10.9	5.6	4.8	幅 11.1	白磁釉、輪充付	寄付、両台輪部漆 付	白	C4-M4-Y4- BL0	波止足	
1653 9a	SK23	030911	軽い頭部	寄付丸輪	板	幅 10.1	4.0	4.1	幅 10.2	白磁釉	寄付、両台輪部漆 付	白	C4-M4-Y4- BL0		

遺物一覧表

登録番号	発見場所	日付	地名・材質	縦幅	横幅	厚さ	目次番号	説明	大きさ	内面	外側	記入（外側）	物語	備考
1654 9a	SK23	202005	鶴形埴輪	奈村山周辺	推10.0	残4.3		推10.2	白磁釉	奈村	9.1白	C8-MD-Y-BLD		
1655 9a	SK23	202019	鶴形埴輪	奈村山周辺	推10.0	残3.9		推10.2	白磁釉	奈村	9.1白	C16-M4-Y-BLD		
1656 9a	SK23	202005	鶴形埴輪	奈村山周辺	推9.7	残3.6		推9.9	白磁釉	奈村	9.1白	Y10.0BL		
1657 9a	SK23	202011	鶴形埴輪	奈村山周辺	推9.7	残3.1		推9.9	白磁釉	奈村	9.1白	C10-MB-Y-BLD		
1658 9a	SK23	202011	鶴形埴輪	奈村山周辺		残2.4	面4.2	白磁釉	奈村、高台場遺跡	9.1白	C16-M4-Y-BLD			
1659 9a	SK23	202011	鶴形埴輪	奈村山周辺	推9.0	残2.2		推9.1	白磁釉	奈村	9.1白	C8-M4-Y10.0BL		
1660 9a	SK23	202011	鶴形埴輪	奈村山周辺		残3.0		白磁釉、輪毛欠	奈村	2,579/1 白	C12-M4-Y8.0BL			
1661 9a	SK23	202011	鶴形埴輪	奈村山周辺	推8.1	残3.2		推8.3	白磁釉、口部端部剥離	奈村	9.1白	C4-MD-Y10.0		
1662 11a	SK23	202007	虎形陶器	奈村山周辺	推12.0	5.6	4.5	推12.2	灰釉鉢底、塑目	灰釉、下手彫刻、回転ヘタズメ	Neg.灰	7,257/2 R2/2		
1663 9a	SK23	202011	鶴形陶器	丸岡	推7.0	残3.0		推7.1	灰釉	灰釉、下手彫刻	2,579/2 黄	5,797/2 R4/2		
1664 10a	SK23	202019	虎形陶器	鶴形山周辺	推8.0	5.6		推9.8	灰釉	灰釉、灰釉、輪毛欠	2,579/2 黄	5,797/2 R4/2		
1665 9a	SK23	202005	伝馬陶器	丸岡		残1.9	面3.6	灰釉		灰釉、下手彫刻	2,579/2 R4/2	5,797/2 R4/2		
1666 11a	SK23	202028	鶴形陶器?			残1.3	推5.2	灰釉		灰釉、下手彫刻	5,797/2 黄	5,797/3 黄	鶴形陶器ではない	
1667 9a	SK23	202011	不明陶器	奈村	推14.0	残3.7		推14.2	灰釉?	灰釉?	2,579/3 黄	10/9R/4/4		
1668 9a	SK23	202005	虎形陶器	京極丸岡	推13.8	残3.0		推14.0	灰釉	灰釉	2,579/3 黄	5,797/4 黄		
1669 11a	SK23	202007	牛頭陶器	丸岡	推3.3			灰釉		白磁釉鉢底、下半露窓	5,797/1 黄	5,797/1 黄		
1670 9a	SK23	202011	鶴形埴輪	奈村山周辺	推9.2	6.0	5.6	推9.3	白磁釉	奈村、高台場遺跡	9.1白	C10-MD-Y10.0		
1671 9a	SK23	202011	鶴形埴輪	奈村山周辺	9.7	2.0	4.7	9.8	白	奈村、高台場遺跡	9.1白	C8-M4-Y10.0		
1672 9a	SK23	202005	鶴形埴輪	奈村山周辺	推7.2	1.6	残4.2	推7.3	白	白磁釉、高台場遺跡	2,579/6 R4/6	C8-MD-Y4-BLD		
1673 9a	SK23	202019	鶴形埴輪	奈村山周辺	推15.2	4.3	残9.0	推15.3	白	奈村、高台場遺跡	9.1白	C8-M4-Y4-BLD		
1674 9a	SK23	202011	鶴形埴輪	奈村山周辺	推17.4	2.9	推11.0	推17.7	白	奈村、上田、13E	9.1白	C12-M4-Y12.6L		
1675 9a	SK23	202011	鶴形埴輪	奈村山周辺	推10.9	残1.8	推11.1	白		奈村	9.1白	C10-M4-Y8.0BL		
1676 9a	SK23	202011	鶴形埴輪	奈村山周辺		残1.9	面4.8	白		奈村、高台場遺跡	5,797/1 黄	10/9R/4 黄		
1677 9a	SK23	202011	土師器	口の調整器	推12.2	2.9	推7.0	推12.4	ヨコナギ	ヨコナギ、回転鉢	5,797/6 R4/6			
1678 9a	SK23	202011	土師器	口の調整器	推11.0	3.2	推5.2	推11.2	ヨコナギ	ヨコナギ、回転鉢	7,579/6 R4/6			
1679 10a	SK23	202019	土師器	口の調整器	推10.4	2.2	推6.2	推10.6	ヨコナギ	ヨコナギ、回転鉢	5,797/6 橙			
1680 9a	SK23	202005	土師器	奈村山周辺	推11.0	残2.2		推11.0	ヨコナギ	ヨコナギ	5,797/6 橙			
1681 9a	SK23	202011	鶴形埴輪	奈村山周辺	推9.8	2.7		推9.9	白磁釉	奈村	9.1白	C8-MD-Y4-BLD		
1682 9a	SK23	202005	虎形陶器	萬葉の道	推7.0	推1.6		推9.6	露窓	灰釉鉢底	2,579/2 白	5,797/3 黄		
1683 11a	SK23	202006	鶴形陶器	丹波御浜町		残1.4		推13.0	露窓	灰釉鉢底に露窓	2,579/2 白	5,797/4 オーバーオレンジ		
1684 9a	SK23	202011	鶴形陶器	者路?	推6.2	最大1.6	最大1.6		灰	灰釉	10/9R/3/2 黄	2,579/3 黄		
1685 11a	SK23	202028	虎形陶器	利根川		推5.3	推0.6		1すい	灰釉	2,579/2 白	2,579/2 黑		
1686 11a	SK23	202006	鶴形陶器	奈村		残5.3		灰		灰釉	10/9R/3 黑	2,579/3 黑		
1687 10a	SK23	202024	鶴形陶器	奈村		残5.2		灰		灰釉	10/9R/3 黑	2,579/3 黑		
1688 11a	SK23	202006	鶴形陶器	奈村		残5.2		5すい	露窓	5すい露窓	10/9R/3 黑	2,579/3 黑		
1689 10a	SK23	202024	鶴形陶器	奈村		残4.9		灰		灰釉	10/9R/3 黑	2,579/3 黑		
1690 11a	SK23	202007	虎形陶器	奈村		推7.3		ヨコナギ		自然釉	2,579/2 黑	2,579/2 黑		
1691 9a	SK23	202006	鶴形陶器	奈村		推5.3		灰		灰釉	10/9R/3 黑	2,579/2 黑		
1692 10a	SK23	202024	鶴形陶器	奈村		推5.2		5すい	露窓	5すい露窓	10/9R/3 黑	2,579/3 黑		
1693 11a	SK23	202012	鶴形陶器	奈村		推5.0	推5.5	ヨコナギ		自然釉	2,579/2 黄	5,797/6 橙		
1694 10a	SK23	202024	鶴形陶器	奈村		推4.3	4.0	灰		灰釉	2,579/2 黄	5,797/6 橙		
1695 11c	SK23	202024	土師器	口の調整器		推2.0	6.4	ヨコナギ		自然釉	10/9R/3 黑	2,579/2 黑		
1696 11a	SK23	202007	虎形陶器	奈村?	推25.0	残2.3		灰		灰釉	10/9R/3 黑	2,579/2 黑		
1697 10a	SK23	202024	土師器	奈村也見日	推6.7	1.8		推7.2	奈村也見	奈村也見	10/9R/3 黑	2,579/3 黑		
1698 9a	SK23	202012	鶴形陶器	奈村也見 A		推5.0	推5.5	ヨコナギ		自然釉	10/9R/3 黑	2,579/3 黑		
1699 10a	SK262	202030	鶴形陶器	奈村也見 A		推2.6		青花		青花	10/9R/3/1 始末	2,579/2 黄		
1700 11c	SK262	202031	土師器	奈村也見		推2.0	6.4	ヨコナギ		自然釉	10/9R/3 黑	2,579/2 黄		
1701 11c	SK262	202031	土師器	奈村也見		推4.0		青花		青花	2,579/2 黄	2,579/3 黄		
1702 9a	SK262	202030	中國陶器	青花天球瓶	推20.4	推9.0		推21.0	白磁鉢底に露窓	内白釉、ヘラケツ	2,579/2 白	2,579/3 黄		
1703 11c	SK262	202031	中国陶器	青花天球瓶	推39.8	推5.8	推41.3	白磁鉢底に露窓	内白釉、ヘラケツ	5,797/1 白	2,579/3 黄			
1704 13d	SK262	202010	鶴形天球瓶	野村新筋 A	推12.0	2.8	7.4	推12.3	白磁鉢底に露窓	内白釉、ヘラケツ	2,579/2 白	5,797/2 白		
1705 13d	SK262	202010	鶴形天球瓶	加工工場	大堀	目大堀 2.4	2.1	目大堀 2.0	内白釉、ヘラケツ	内白釉、ヘラケツ	C8-M30-Y10.0			

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	区画	遺跡名	日付	所在地	材質	施設	時期	U100cm	範囲100m	範囲100m	内面	外面	歴史(外側)	歴史	参考		
1702 12b SK003	—	櫻井陶器	直	櫻井陶器	直	登8小	昭和	12.0	3.3	12.0	直輪	直輪	SYK2/R01	2.5Y6/2 直輪			
1703 12b SK003	—	櫻井陶器	水田	櫻井陶器	水田	登8小	昭和	12.8	18.3	14.2	16.7	直輪	直輪	SYK2/R01	2.5Y6/2 直輪		
1704 12b SK002 9 前田	—	G	G	G	G	登9.7	昭和	7.4	7.4	2.6							
1705 12b SK003 9 前田	—	G	G	G	G	登9.8	昭和	6.5	7.8	3.8							
1706 11g SK47	020614	櫻井陶器	御手多綱	御手多綱	御手多綱	御手多綱	昭和	9.4	0.8	9.2	直輪	直輪	直輪(直輪、高台 直輪直輪)	2.5Y6/3 漢鏡 2.5Y6/2			
1707 11b SK47	020614	美濃陶器	伊勢丸陶器	伊勢丸陶器	伊勢丸陶器	伊勢丸陶器	昭和	2.8	3.4	3.4	直輪	直輪	直輪(直輪、高台 直輪直輪)	2.5Y6/2/R01 2.5Y6/3			
1708 11b SK47	020614	美濃陶器	近江陶器	近江陶器	近江陶器	近江陶器	昭和	11.4	5.3	5.3	直輪	直輪	直輪(直輪)	N7/直 7.5Y6/3 直輪			
1709 11d SK05	020613	肥前陶器	白川田日	白川田日	白川田日	白川田日	昭和	4.6	1.4	1.6	直輪	直輪	直輪(直輪)	9/白 9/白			
1710 11g SK03	020614	肥前陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	昭和	11.0	4.2	4.2	直輪	直輪	直輪(直輪)	SYH1/R01	C4-M0-Y4 HL0		
1711 11g SK03	020614	肥前陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	昭和	10.1	4.0	4.0	直輪	直輪	直輪(直輪)	9/白 9/白	C4-M0-Y4 HL0		
1712 11g SK03	020614	肥前陶器	丸陶器	丸陶器	丸陶器	丸陶器	昭和	1.8	5.0	5.0	直輪	直輪	直輪(直輪、高台 直輪)	10Y8R/2 9/白	10Y8R/3 丸陶器		
1713 11g SK03	020819	肥前陶器	丸陶器	丸陶器	丸陶器	丸陶器	昭和	9.6	0.5	5.2	直輪	直輪	直輪(直輪、高台 直輪)	7.5Y6/6/R 直輪	2.5Y7/4 丸陶器		
1714 11g SK03	020616	肥前陶器	柴田小舟	柴田小舟	柴田小舟	柴田小舟	昭和	2.4	2.6	2.6	直輪	直輪	直輪(直輪)	9/白 9/白	C4-M0-Y4 HL0		
1715 11g SK03	020614	肥前陶器	白山小舟	白山小舟	白山小舟	白山小舟	昭和	1.9	2.8	2.8	直輪	直輪	直輪(高台直 輪)	9/白	C4-M0-Y4 HL0		
1716 11g SK03	020819	肥前陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	昭和	1.6	5.5	5.5	透明直輪(透 明)	透明直輪	透明直輪(子 母輪)	10Y8R/2 9/白	10Y8R/4 透明直 輪	白色系直上と 透明直輪の 繋り込み	
1717 11g SK03	020614	肥前陶器	高台丸陶器	高台丸陶器	高台丸陶器	高台丸陶器	昭和	2.0	12.8	3.0	7.4	13.0	右石輪(直輪輪 内輪へタケリ)	右石輪(子 母輪)、直輪 内輪へタケリ	2.5Y6/2/R01 7.5Y6/6 直 輪	SYH6/3 漢鏡	
1718 10c SK00	020614	肥前陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	昭和	2.3	4.6	4.6	直輪	直輪	直輪(直輪、子 母輪)	2.5Y6/3 漢 鏡	2.5Y7/4 直輪		
1719 10d SK00	020703	肥前陶器	柴田丸陶器	柴田丸陶器	柴田丸陶器	柴田丸陶器	昭和	8.6	3.4	8.7	直輪	直輪	直輪(直輪)	SYH1/R01	C4-M0-Y4 HL0		
1720 10M SK00	020617	肥前陶器	丸陶器?	丸陶器?	丸陶器?	丸陶器?	昭和	1.7	9.4	9.4	直輪	直輪	直輪(、タケリ)	10Y8R/1 黄白 直輪	10Y8R/2 直輪		
1721 10M SK00	020617	美濃陶器	桶?	桶?	桶?	桶?	昭和	1.7	7.6	7.6	直輪	直輪	直輪(、子 母輪)	2.5Y6/6 直 輪	10Y8/2 桶		
1722 10M SK00	020617	肥前陶器	陶器?	陶器?	陶器?	陶器?	昭和	5.5	1.0	1.0	直輪	直輪	直輪	10Y8R/4 陶器?	SYH3 陶器?		
1723 10M SK00	020614	土師器	他岐山造	他岐山造	他岐山造	他岐山造	昭和	2.7	1.7	8.4	直輪	直輪	直輪(直 輪)	SYH6/3 直輪			
1724 10M SK00	020617	土師器	口口口調査	口口口調査	口口口調査	口口口調査	昭和	17.5	4.2	8.9	直輪	直輪	直輪(子 母輪)	SYH6/6 直 輪	SYH6/6 直 輪		
1725 10M SK00	020617	土師器	口口口調査	口口口調査	口口口調査	口口口調査	昭和	13.8	3.2	7.0	直輪	直輪	直輪(直 輪)	SYH6/6 直 輪	SYH6/6 直 輪		
1726 10M SK00	020617	土師器	口口口調査	口口口調査	口口口調査	口口口調査	昭和	11.6~ 12.3	2.5~ 2.0	6.0~ 6.3	11.8~ 12.0	直輪	直輪(直輪直 輪)	直輪(直 輪)	SYH6/6 直 輪	SYH6/6 直 輪	
1727 10M SK00	020617	土師器	口口口調査	口口口調査	口口口調査	口口口調査	昭和	12.0	2.4	5.8	直輪	直輪	直輪(直 輪)	SYH6/6 直 輪	SYH6/6 直 輪		
1728 10M SK00	020617	土師器	口口口調査	口口口調査	口口口調査	口口口調査	昭和	1.6	7.2	7.2	直輪	直輪	直輪(直 輪)	SYH6/6 直 輪	SYH6/6 直 輪		
1729 10M SK00	020703	土師器	口口口調査	口口口調査	口口口調査	口口口調査	昭和	1.4	7.6	7.6	直輪	直輪	直輪(直 輪)	SYH6/6 直 輪	SYH6/6 直 輪		
1730 10M SK00	020617	土師器	口口口調査	口口口調査	口口口調査	口口口調査	昭和	1.0	6.4	6.4	直輪	直輪	直輪(直 輪)	SYH6/6 直 輪	SYH6/6 直 輪		
1731 10M SK00	020617	肥前陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	昭和	16.8	7.7	17.8	直輪	直輪	直輪(、ココナ ダ)	直輪(、ココナ ダ)	10Y8R/2 に近い直 輪		
1732 10M SK00	020617	京州陶器	赤堀	赤堀	赤堀	赤堀	昭和	11.3	—	—	直輪	直輪	直輪(、ココナ ダ)	直輪(、ココナ ダ)	10Y8R/3 赤堀		
1733 10M SK00	020703	京州陶器	高台	高台	高台	高台	昭和	54.4	12.5	—	直輪	直輪	直輪(直 輪)	SYH6/6 直 輪	SYH6/6 直 輪		
1734 10M SK00	020617	京州陶器	高台	高台	高台	高台	昭和	51.4	52.4	58.4	直輪	直輪	直輪(直 輪)	SYH6/3 に近い直 輪	SYH6/3 に近い直 輪		
1735 10M SK00	020617	京州陶器	高台	高台	高台	高台	昭和	48.2~ 56.4	39.1	62.6	直輪	直輪	直輪(直 輪)	SYH6/2 に近い直 輪	SYH6/2 に近い直 輪		
1736 8e SK075	020618	肥前陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	昭和	16.8	5.1	18.0	直輪	直輪	直輪(直輪直 輪)	直輪(直 輪)	10Y8R/3 近江丸陶 器		
1737 9d SK100	020621	肥前陶器	白山小舟	白山小舟	白山小舟	白山小舟	昭和	6.8	2.7	7.0	直輪	直輪	直輪(直 輪)	C4-M0-Y4 HL0	SYH6/6 直輪		
1738 9d SK100	020621	肥前陶器	白山小舟	白山小舟	白山小舟	白山小舟	昭和	4.4	—	—	直輪	直輪	直輪(直 輪)	SYH6/6 直 輪	SYH6/6 直 輪		
1739 9d SK100	020621	肥前陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	昭和	2.5	—	—	直輪	直輪	直輪(直 輪)	10Y8R/3 近江丸陶 器	10Y8R/3 近江丸陶 器		
1740 9d SK100	020624	肥前陶器	鉢	鉢	鉢	鉢	昭和	3.1	18.0	18.0	直輪	直輪	直輪(直輪直 輪)	直輪(直 輪)	SYH6/6 R/L1		
1741 11d SK131	020626	肥前陶器	白山小舟	白山小舟	白山小舟	白山小舟	昭和	6.4	3.4	6.5	直輪	直輪	直輪(直 輪)	SYH6/6 直輪	C4-M0-Y4 HL0		
1742 11d SK131	020626	肥前陶器	白山丸陶器	白山丸陶器	白山丸陶器	白山丸陶器	昭和	2.9	3.2	3.2	直輪	直輪	直輪(直 輪)	SYH6/6 直輪	SYH6/6 直輪		
1743 11j SK039	020702	肥前陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	昭和	5.2	8.5	—	直輪	直輪	直輪(直 輪)	2.5Y7/1 黄白 青色	5P03/1 青色		
1744 11j SK159	020723	肥前陶器	二之持鉢?	二之持鉢?	二之持鉢?	二之持鉢?	昭和	4.5	16.0	—	うの輪、直輪、 直輪、直輪、直 輪	直輪	直輪(直 輪)	10Y8R/3 うの輪	SYH6/3 うの輪		
1745 11j SK003	020520	肥前陶器	直輪	直輪	直輪	直輪	昭和	9.6	2.1	4.2	直輪	直輪	直輪(直 輪)	2.5Y6/3 漢鏡 直輪	SYH6/3 に近い直 輪		
1746 11j SK003	020530	土師器	他岐山造	A	A	A	昭和	5.4	6.5	6.0	直輪	直輪	直輪(直 輪)	10Y8R/6 直輪	SYH6/6 直輪		
1747 11j SK003	020530	土師器	吉田クリア セラミック	吉田クリア セラミック	吉田クリア セラミック	吉田クリア セラミック	昭和	7.0	1.1	7.3	直輪	直輪	直輪(直 輪)	10Y8R/3 直輪	10Y8R/3 直輪		
1748 11j SK003	020530	土師器	吉田クリア セラミック	吉田クリア セラミック	吉田クリア セラミック	吉田クリア セラミック	昭和	6.6	1.2	6.9	直輪	直輪	直輪(直 輪)	10Y8R/3 直輪	10Y8R/3 直輪		
1749 11e SD11	020619	肥前陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	近江丸陶器	昭和	10.4	8.4	10.4	直輪	直輪	直輪(直 輪)	10Y8R/2 近江丸陶 器	7.5Y6/2 近江丸陶 器		
1750 11e SD11	020619	肥前陶器	—	—	—	—	昭和	—	—	—	時灰者	時灰者	時灰者(直 輪)	2.5Y7/1 黄白 青色	2.5Y7/1 黄白 青色		

遺物一覧表

登録番号	登録年	遺物番号	日付	発地・材質	縦幅	横幅	厚さ	U寸法	高さ(cm)	直径(cm)	目次	内面	外面	動土(外側)	動土	備考		
1751	11e	SD11	200621	廻り鉢	鉢底	20.2			2.3		研磨	鉢底	7.5YR4/4 にぶ~機	10/6/1 鉢底				
1752	11e	SD11	200621	土器	土器				2.1		不明?	不明?	7.5YR4/4 にぶ~機					
1753	12e	S915	200625	廻り鉢	灰陶	25.5			2.5	4.2	鉢	鉢底、下平底、 内側へタツミ。	2.5YR2/3 鉢底					
1754	12e	SD15	200624	廻り鉢	瓦底板	20.5			4.3		長石焼鉢	鉢底	2.5YR4/3 表面	2.5Y7/3 表面				
1755	11e	SD13	200626	廻り鉢	瓦付筒形	盤	5.6		4.0		白陶	白陶	2.5YR1/1 白陶	C1-MO-Y6				
1756	11e	SD13	200626	美濃陶器	丸皿	盤 20.6			1.8	8.4	灰陶	印花文	灰陶、下平底、 内側へタツミ。	2.5Y7/3 流れ	3/5/6 オリバ			
1757	11b	SD13	200621	廻り鉢	反り鉢	20.2			13.0	2.8	0.8	盤 14.2	灰石焼、盤 2+残	2.5YR3/3 流れ	2.5Y6/1 流れ			
1758	12b	SD13	200621	美濃陶器	瓦底板	盤 3.2					鉢	灰陶	灰陶	2.5YR3/3 流れ	2.5Y7/3 流れ			
1759	11b	SD13	200625	瓦底	灰陶	盤 0.5			5.6		不明?	印花文	10/6/4/4 にぶ~機	10/6/1 表面				
1760	11e	SD13	200626	美濃陶器	花瓶	盤 5 ~ 2.9			17.4	4.2	灰陶	灰陶に内側底 削除	10/6/1 表面	2.5YR1/3 表面				
1761	11b	SD13	200625	美濃陶器	盤	12					白陶	白陶	5/1/1/灰	5/1/4/3 モチーフ				
1762	12b	SD13	200621	美濃陶器	盆	13.5					白陶	白陶	5/1/4/3 モチーフ	5/1/4/3 モチーフ				
1763	11b	SD13	200621	鉢	灰	盤 0.7			2.5	0.7	白陶	白陶	10/6/1 表面					
1764	11b	SD13	200621	鉢	灰	盤 4.8			0.8	0.7	白陶	白陶	5/1/1/灰					
1765	11b	SD13	200621	鉢	灰	盤 10.0			2.0	1.0	白陶	白陶	5/1/1/灰					
1766	10R	SK16	200606	廻り美濃陶器	瓦付灰陶	盤 10.8	丸皿	4.3		盤 11.2	長石焼	長石焼	2.5Y7/1/灰白	10/6/1 灰白				
1767	11b	SD13	200419	瓦底板	瓦底板	盤 1.1				3.8	灰陶(引き出し型)	長石焼鉢	2.5Y7/2/灰白	5/1/1/灰白				
1768	13F	SK50	200612	廻り陶器	灰陶灰	盤 1 ~			9.8	4.4	灰陶	灰陶	2.5Y7/1/灰白	5/1/4/4 にぶ~機				
1769	11b	SD13	200415	廻り陶器	瓦底板	盤 5 ~ 4.1			10.0	0.6	4.4	4.8	10.7 灰陶	灰陶、研磨、ヘラ ツマミ、削除	2.5Y8/3 流れ	2.5Y8/3 流れ	平継形が彌 でいる	
1770	13F	SK50	200612	廻り美濃陶器	灰陶灰	盤 10.4 ~ 小皿			12.7	5.6	盤 13.0	灰陶	灰陶	2.5Y8/2/灰白	5/1/2/灰白			
1771	11e	SK36	200610	美濃陶器	天日灰	盤 12 ~			3.8		盤 13.0	灰陶	灰陶	2.5Y8/2/灰白	5/1/2/灰白			
1772	11e	SK36	200612	美濃陶器	植物柄	盤 8 ~			12.8	3.5	盤 13.0	研磨	研磨	10/6/4/3 表面	10/6/2 表面			
1773	13e	SK36	200610	廻り四脚	丸皿	盤 3.0 ~ 小皿			2.7	5.6	灰陶	灰陶	10/6/1/灰白	5/1/2/灰白				
1774	13F	SK50	200613	肥前灰	盆付灰	盤 2.9				5.5	灰陶	盆付	5/1/1/灰白	C1-MD- Y6-LA				
1775	11a	SD13	200724	廻り美濃陶器	志野灰	盤 2 ~			12.0	2.7	6.8	盤 12.5	長石焼、跡状痕 有り	長石焼、轟古有 り	2.5Y8/2/灰白	5/1/2/灰白		
1776	11e	SD13	200718	廻り美濃陶器	志野灰	盤 3 ~			10.8	1.8	盤 6.0	盤 11.2	長石焼、ビン痕 有り	長石焼、轟古有 り	5/1/1/灰白	2.5Y8/2/灰白		
1777	13b	SK36	200610	廻り美濃陶器	志野灰	盤 11.2				2.3	盤 6.6	盤 11.4	長石焼	長石焼、内側底 削除	10/6/5/1 表面	2.5Y6/1 表面		
1778	13b	SD13	200509	廻り陶器	志野輪花灰	盤 1 ~			14.2	3.2	盤 7.4	盤 14.6	長石焼と跡状痕 の合計分?	長石焼、跡状痕 か合計分?	2.5Y7/2/表面	5/1/1/灰 表面	破損部に唐草 模様	
1779	12b	SD13	200802	美濃陶器	反り鉢	盤 4 ~			12.8	2.9	7.4	盤 13.2	灰陶、ビン痕 1 ~ 内側へタツミ。	灰陶、下平底、 内側へタツミ。 トランク付	2.5Y8/2/灰白	5/1/2/灰白		
1780	12j	SK19	200706	美濃陶器	反り鉢	盤 4 ~			2.6		灰陶	灰陶	手平鉢、下平底、 内側へタツミ。	手平鉢、下平底、 内側へタツミ。	2.5Y7/1/ECI	5/1/2/ECI		
1781	11b	SD13	200419	瓦底板	柳割削	盤 12.6	2.2		盘 8.0	盤 12.8	ココナゾ、コラ カコナゾ、回転式 スライス式付	ココナゾ、回転式 スライス式付	10/6/6/1 表面					
1782	11a	SD13	200724	土器	瓦底板		4.0	1.0			4.3	万字文	手の平付	10/6/7/4 にぶ~機				
1783	13e	SK36	200611	土器	瓦底板		4.0	1.1			4.4	コロセのみ	コロセのみ	10/6/6/1 にぶ~機				
1784	11a	SD13	200724	土器	瓦底板	盤 10.4	2.3		6.0	盤 10.6	ココナゾ、赤色付	ココナゾ、回転式 スライス式付	10/6/6/2 表面					
1785	13a	SK36	200513	土器	O 9.0 調整器	盤 11.8	2.4		7.0	12.3	ココナゾ	ココナゾ、回転式 スライス式付	10/6/6/3 内側の板状底付					
1786	11a	SD13	200724	土器	瓦底板	盤 11.0	2.6		6.6	盤 11.8	ココナゾ、ヌメ付	ココナゾ、ヌメ付 有り	10/6/6/4 表面					
1787	13e	SD13	200724	土器	O 9.0 調整器	盤 10.2	2.3		4.8	盤 10.2	ココナゾ	ココナゾ、灰陶、 内側底付	10/6/7/4 表面					
1788	11t	SD13	200423	肥前灰	盆付灰	盤 9.8	2.2		5.0	盤 10.6	盆付	盆付、轟古有 り	C1-MO-YO- HLA	C1-MD- Y6-LA				
1789	13b	レシ	200509	肥前灰	志野灰	盤 13.4	3.2		5.0	13.8	盆付	盆付、轟古有 り	10/6/6/3 Y12-BL0					
1790	11t	SD13	200423	肥前灰	盆付灰	盤 6.6	3.6			8.8	白陶	白陶	C1-Z4-M- Y6-BL0					
1791	11d	SD13	200722	美濃陶器	灰人	灰 4.0	2.2				灰陶	灰陶、下平底	7.5YR4/4 にぶ~機	7.5Y6/4 にぶ~機				
1792	13e	SK36	200612	美濃陶器	上瓶	盤 8.6 ~ 4.0	盤 9.4		4.6		青磁/7.5 灰 4.0 ~ 2.5	青磁/7.5 灰 4.0 ~ 2.5	10/6/3/1 内側の板状底付	10/6/3/1 内側の板状底付				
1793	11t	SD13	200412	美濃陶器	合子灰	盤 8.6 ~	2.6		4.4	5.8	O 10.6 調整器	青磁/7.5 灰 4.0 ~ 2.5	2.5Y8/2/灰白	5/1/2/灰白				
1794	12a	SK36	200513	美濃陶器	植物柄	盤 7.0 ~	3.2		5.2	盤 8.6	灰陶	灰陶、下平底、 内側へタツミ。	10/6/8/2 灰白	5/1/2/灰白				
1795	4c	北尾	200827	美濃陶器	細編織	盤 8 ~	3.1				9.6	透明物	透明物、内側 底付	7.5Y9/4 にぶ~機	10/7/1 灰白			
1796	11t	SD13	200423	廻り美濃陶器	神鉢	江戸時 代			5.7		盤 15.6	青磁/7.5 灰 4.0 ~ 2.5	10/6/7/4 にぶ~機	10/6/5/6 表面				

名古屋城三の丸遺跡 VII

地名	番号	日付	所在地・材質	施設	特徴	U面	S面	E面	N面	内面	外側	割石(外側)	輪	備考
1797 13e SK38	200612	美濃陶器	樹木	骨小屋	高9.3	横6.2	横8.4	研磨	施物、泥れきり痕	10Y8R/3 瓦松根	SYR3/4 昭和期			
1798 13e 破山II	200723	美濃陶器	系人	17c(c)	高1.0	2.9	4.2	鑿削、手掘へラク	石臼・施物上研磨をかけ分け	2.5W7/1 BC白	SYT/2(既T)	輪3 SYR3/2 昭和期		
1799 13g SK67	200813	美濃陶器 屋	樹木 加工 大便	邑大村 2.8	高9.3	横6.2	横8.4	研磨	施物	10R3/1 昭和期				
1800 11e 破山II	200718	美濃陶器	生糞糞	骨1+2	高31.0	高8.9	—	推31.0	柱石脚部段に削痕 其石類、ヘラケツ 瓦松根	10Y8R/2/2 にへく青盤	2.5Y7/2 昭和期			
1801 12a 破山II	200513	美濃陶器 屋	骨2 小 糞	高3.5	横6.5	—	推33.4	柱口1平 柱2.2cm凹2 方向孔	研磨、一部削減	2.5W8/2 BC白	V2-2 昭和期			
1802 13e SK38	200610	美濃陶器	樹木	骨1 小 糞	高2.7	—	—	研磨	施物	10Y8R/3 にへく青盤	SYR3/1 昭和			
1803 16e SK21	200522	瓦屋	瓦屋?	—	高21.4	幅5.0	幅20.0	推21.8	ココナヂ、ヘケ エコナヂ、瓦屋 エグザ、研石留?	10Y8R/2 瓦屋	2.5W8/2 昭和			
1804 11e SK25	200606	美濃陶器	瓦屋瓦跡?	—	高3.1	—	—	—	ココナヂ	10Y8R/3 にへく青盤				
1805 11e SK28	200607	美濃陶器	瓦屋	—	高9.8	—	—	—	ココナヂ、削オサ ア	10Y8R/3 瓦	2.5W8/3			
1806 13d SK38	200612	美濃陶器	瓦屋	17c	高21.2	5.6	幅14.0	幅22.0	ココナヂ	エコナヂ、ラク 自然軸、ヘラケツ 瓦	2.5W8/6 BC白	2.5W8/3 昭和		
1807 13e SK28	200610	南側土手跡	垂	—	高5.2	幅10.2	—	ココナヂ、露筋	ココナヂ、露筋、 瓦留痕等+附	10Y8R/5 瓦留痕	2.5W8/4 昭和ではない			
1808 13d SK30	200610	土手跡	下層附内用 垂	—	高3.7	—	—	ココナヂ、調整等	ココナヂ、調整等 瓦留痕等+附	10Y8R/4/2 瓦留痕				
1809 11e SK28	200605	土製品	時代 (鳥)	—	高2.8	—	—	—	—	10Y8R/3				
1810 11d SK301	200621	土手跡	地盤密着 A 型	高8.0	高1.0	—	推8.2	ココナヂ	ココナヂ	SYR7/6 植				
1811 13a 破山II	200509	土手跡	地盤密着 A 型	高7.4	高1.4	—	推7.8	ココナヂ	ココナヂ	SYR7/6 植				
1812 12d SK605	200603	土手跡	地盤密着 A 型	高5.8	高4.0	—	—	ココナヂ、布口留 等	ココナヂ、布口留 等	SYR6/6 植				
1813 11e SK24 A	200607	土手跡	地盤密着 A 型	高4.8	高4.7	—	—	耐オサのチナ 等、布口留	耐オサのチナ 等、布口留	SYR7/6 植				
1814 未上 SK24 B	200418	土手跡	地盤密着 A 型	高5.8	高6.3	—	—	ココナヂ、布口留 等	ココナヂ、布口留 等	SYR6/6 植				
1815 11e SK24	200606	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具	高17.6	厚2.0	—	コビキ瓦、布口留 等	コビキ瓦、布口留 等	C10-M20- Y20-BL60	M01-1			
1816 11b SK01 B	200607	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具	高18.2	厚2.3	—	コビキ瓦、布口留 等	コビキ瓦、布口留 等	C10-M20- Y20-BL60	M01-2			
1817 11b SK01 B	200609	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具	—	—	—	—	—	C10-M20- Y20-BL60	M01-3			
1818 11b SK01 B	200609	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具	—	—	—	—	—	C10-M20- Y20-BL60	M01-4			
1819 —	—	—	—	—	—	—	—	—	—	C10-M20- Y20-BL60	M01-5			
1820 10c SK600	200614	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具	—	—	—	—	—	C10-M20- Y20-BL60	M01-6			
1821 11b SK01 B	200607	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具	高34.7	幅17.0	厚1.9	コビキ瓦、布口留 等	コビキ瓦、布口留 等	C10-M20- Y20-BL60	M01-5			
1822 11b SK01, SK47	200606	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	C10-M20- Y20-BL60	—			
1823 10b SK64	200626	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	C10-M20- Y20-BL60	M01-7			
1824 — 10c	SK02 B	200628	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	C10-M20- Y20-BL60	M01-8		
1825 11b SK01 B	—	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	C10-M20- Y20-BL60	M01-9			
1826 10b SK64	200626	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	C10-M20- Y20-BL60	M04-2			
1827 — 未上	SK04 B	200418	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	高4.6	幅18.6	厚2.3	コビキ瓦、布口留 等	コビキ瓦、布口留 等	C10-M20- Y20-BL60	M05-1		
1828 10b SK305	200703	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	C10-M20- Y20-BL60	M05-2			
1829 11b SK01 B	200605	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	高4.6	幅20.1	厚2.3	コビキ瓦、布口留 等	コビキ瓦、布口留 等	C10-M20- Y20-BL60	M06-2			
1830 13d SK02 B	200724	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	C10-M20- Y20-BL60	M06-3			
1831 10a SK02 B	200624	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	C10-M10- Y20-BL60	M06-4			
1832 6c SK02 B	200621	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	C10-M20- Y20-BL60	M06-5			
1833 — SK05 B	200628	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	C10-M20- Y20-BL60	M06-6			
1834 10f SK16	200606	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	C10-M20- Y20-BL60	M06-7			
1835 10a SK23	200611	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	C10-M20- Y20-BL60	M06-8			
1836 — 未上	SK04 B	200423	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	C10-M20-Y10 BL60	M06-9		
1837 10e SK04 B	200702	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	C10-M20-Y10 BL60	M06-10			
1838 13c SK03	200725	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	C10-M20- Y20-BL60	M06-2			
1839 13a SK224	200729	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	C10-M20- Y20-BL60	M06-3			
1840 11a 破山II	200513	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	C10-M20- Y20-BL60	M06-4			
1841 13a 破山II	200724	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	C10-M20-Y10 BL60	M06-5			
1842 9b T-01	200527	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	C10-M20-Y10 BL60	M10-1			
1843 — 北壁	—	200514	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	布口留	—	—	C10-M20-Y10 BL60	M10-2		
1844 9c T-01	200528	瓦	瓦 M01 瓦	瓦具 M01 型	—	—	—	—	—	—	C10-M20-Y10 BL60	M10-3		

遺物一覧表

登録号	発見場所	日付	地図	施設番号	種類	時期	口径(φ)	縦長(φ)	横幅(φ)	高さ(φ)	内面	外面	出土(外因)	施I	標号
1845 10d	SK001	020625	瓦		軒丸瓦	M10 型式					—	ハラサカズリ、ミガキ	C30-M20-Y10 V30-HL60	M10-4	
1846 11g	SK01	020617	瓦		軒丸瓦	M10 型式					コビキ瓦、和目板	ハラサカズリ、ミガキ	C20-M10-Y10 V30-HL60	M10-5	
1847 11h	SK01 8	020607	瓦		軒丸瓦	M20 型式					—	ハラサカズリ、ミガキ	V20-HL60	M20-5	
1848 11h	SK47	020614	瓦		軒丸瓦	M20 型式					—	ハラサカズリ、ミガキ	C10-M20-Y10 BL60	M20-1	
1849 —	SK02 8	020615	瓦		軒丸瓦	M20 型式					—	ハラサカズリ、ミガキ	C30-M20-Y10 V30-HL60	M20-3	
1850 —	SK02 8	020624	瓦		軒丸瓦	M20 型式					—	ハラサカズリ、ミガキ	C30-M20-Y10 V30-HL60	M20-2	
1851 11i	SK01 A	020607	瓦		軒丸瓦	M20 型式					—	ハラサカズリ、ミガキ	C30-M20-Y10 V20-HL60	M20-4	
1852 —	SK02 8	020625	瓦		軒丸瓦	M20 型式					—	ハラサカズリ、ミガキ	C30-M20-Y10 V30-HL60	M20-1	
1853 —	SK02 8	020626	瓦		軒丸瓦	M30 型式		形 2.0		?	ハラサカズリ、ミガキ	C40-M20-Y10 V30-HL60	M30-2		
1854 —	西壁	020507	瓦		軒丸瓦	M30 型式					コビキ瓦	ハラサカズリ、ミガキ	C30-M30-Y10 V30-HL60	M30-3	
1855 11i	SK01	020530	瓦		軒丸瓦	M30 型式					—	—	C20-M10-Y10 V20-HL60	M30-4	
1856 —	SK02 8	020625	瓦		軒丸瓦	M007					—	—	C30-M20-Y10 V20-HL60		
1857 11e	SK23	020628	瓦		軒丸瓦	M02-7					—	—	C20-M10-Y10 V20-HL60	瓦当面ナメ	
1858 11h	SK01	020611	瓦		軒丸瓦	0型					—	—	C30-M20-Y10 V20-HL60		
1859 11h	SK01	020631	瓦		軒平瓦	H01					—	—	C30-M40-Y10 V40-HL30	H01-1	
1860 11h	SK01 B	020605	瓦		軒平瓦	H01					—	—	C30-M40-Y10 V40-HL30	H01-3	
1861 11e	WII 1	020522	瓦		軒平瓦	H01					—	—	C30-M20-Y10 V20-HL60	H01-4	
1862 10e	SK00	020614	瓦		軒平瓦	H01					—	—	C30-M20-Y10 V20-HL60	H01-5	
1863 12h	SK01 A	020605	瓦		軒瓦	H01					—	—	C30-M20-Y10 V20-HL60	H01-6	
1864 11h	SK01	020608	瓦		軒瓦	H01					—	—	C30-M10-Y10 V20-HL60	H01-7	
1865 10e	SK04	020626	瓦		軒平瓦	H01					—	—	C30-M20-Y10 V20-HL60	H01-8	
1866 11h	SK47	020614	瓦		軒平瓦	H01					—	—	C30-M40-Y10 V40-HL30	H01-9	
1867 11h	SK01	020603	瓦		軒平瓦	H01					—	—	C10-M10-Y10 V20-HL60	H01-10	
1868 10e	SK00	020614	瓦		軒平瓦	H01					—	—	C30-M20-Y10 V20-HL60	H01-11	
1869 11h	SK01 A	020605	瓦		軒瓦	H01					—	—	C30-M20-Y10 V20-HL60	H01-2	
1870 11h	SK01	020610	瓦		軒瓦	H02					—	—	C30-MO-YD-HL60	H02-1	
1871 12h	WII B	020722	瓦		軒平瓦	H02					—	—	C40-M20-Y10 V30-HL60	H02-2	
1872 13h	SK50	020612	瓦		軒瓦	H02					—	—	C40-M30-Y10 V40-HL10	H02-4	
1873 11h	SK01 B	020607	瓦		軒瓦	H02					—	—	C30-M40-Y10 V40-HL10	H02-5	
1874 10e	SK04	020523	瓦		軒平瓦	H02					—	—	C30-MO-YD-HL60	H02-3	
1875 11h	SD13	020621	瓦		軒瓦	H02					—	—	C30-M20-Y10 V20-HL60	H02-1	
1876 —	SK01	—	瓦		軒瓦	H02					—	—	C40-M20-Y10 V30-HL60	H02-2	
1877 11h	SK01 A	020605	瓦		軒平瓦	H02					—	—	C30-M20-Y10 V30-HL60	H02-6	
1878 10e	SK04	020627	瓦		軒瓦	H03					—	—	C30-M20-Y10 V30-HL60	H03-1	
1879 10e	SK05	020703	瓦		軒瓦	H03					—	—	C30-M20-Y10 V30-HL60	H03-2	
1880 10e	SK05	020702	瓦		軒瓦	H03					—	—	C40-M20-Y10 V30-HL60	H03-3	
1881 13j	SK12	020604	瓦		軒瓦	H04					—	—	C30-M30-Y10 V30-HL60	H04-3	
1882 11h	SK01	020528	瓦		軒瓦	H04					—	—	C30-M10-Y10 V20-HL60		
1883 —	SK02 8	020624	瓦		軒瓦	H04					—	—	C30-M20-Y10 V20-HL60		
1884 10e	SK05	020702	瓦		軒瓦	H04					—	—	C40-M20-Y10 V30-HL60	H04-1	
1885 11h	SK01 B	020608	瓦		軒瓦	H05					—	—	C30-M20-Y10 V30-HL60	H05-1	
1886 11h	SK05	020528	瓦		軒瓦	H05					—	—	C10-MO-YD-HL60	H05-2	
1887 11h	SK01 B	020607	瓦		軒瓦	H05					—	—	C30-MO-YD-HL60	H05-3	
1888 —	SK02 8	020626	瓦		軒瓦	H06					—	—	C30-MO-YD-HL60	H06-1	
1889 10e	WII 1	020702	瓦		軒瓦	H06		規則 12.0	規則 9.3	規則 2.3	—	—	C30-M20-Y10 V30-HL60	H06-2	
1890 13h	SD22	020725	瓦		軒瓦	H07					—	—	C30-MO-YD-HL10		
1891 10d	SK02 8	020621	瓦		軒瓦	H08					—	—	C30-MO-YD-HL60	H09-1	
1892 9u	SK23	020911	瓦		軒瓦	H09					—	—	C40-M20-Y10 V20-HL60	H09-2	
1893 10u	WII 1	020702	瓦		軒瓦	H09					—	—	C30-M20-Y10 V30-HL60	H09-3	
1894 13e	南トレス	020507	瓦		軒瓦	H09					—	—	C40-M20-Y10 V30-HL60	H09-4	

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	件名	日付	発地・材質	断面	時間	UUT(φ)	幅(φ)mm	高さ(φ)mm	目次番号	内面	外面	形状(外部)	袖	備考
1895 10a	S805	020703	瓦	和瓦JL1809 型式								C0-M0-Y10- BL30		H009-5
1896 —	S802 Ⅱ	020621	瓦	和瓦JL1809 型式								C10-M10- V20-BL30		H009-6
1897 13b	S800	020612	瓦	和瓦JL1809 型式								V20-BL30 Y40-BL30		H009-7
1898 11b	S801 B	020600	瓦	和瓦JL1811 型式								C0-M40- Y40-BL60		H11-1
1899 11b	S801 B	020607	瓦	和瓦JL1811 型式								C40-M20- V20-BL60		H11-2
1900 11b	S801	020613	瓦	和瓦JL1811 型式								C40-M10- Y10-BL30		H11-3
1901 —	S802 Ⅳ	020619	瓦	和瓦JL1812 型式								C20-M20- V20-BL60		H12-1
1902 12a	S803 Ⅳ	020625	瓦	和瓦JL1812 型式								C20-M20- V20-BL60		H12-2
1903 9c	瓦2	020607	瓦	和瓦JL1813 型式								C0-M40- Y40-BL30		H13-1
1904 —	S802 Ⅲ	020625	瓦	和瓦JL1813 型式								C20-M20- V20-BL60		H13-2
1905 10b	S8262	020730	瓦	和瓦JL1819 型式								C20-M20- V20-BL60		H19-1
1906 11b	S801 B	020607	瓦	和瓦JL1819 型式								C20-M20- V20-BL60		H19-2
1907 12b	S801	020613	瓦	和瓦JL1819 型式								C20-M10- Y10-BL60		
1908 6d	S802 Ⅲ	020621	瓦	和瓦JL1819 型式								C0-M40- Y40-BL30		H19-3
1909 12b	S806	020621	瓦	和瓦JL1819 型式								C40-M30- Y10-BL10		
1910 12a	西コレ ンチ	020513	瓦	和瓦JL1809 型式								C20-M10- Y10-BL60		
1911 14e	S801	020919	瓦	和瓦JL1809 型式								C40-M20- V20-BL60		
1912 —	西コレ ンチ	—	瓦	和瓦JL1809 型式								C20-M20- V20-BL60		
1913 11a	S823 Ⅶ	020826	瓦	和瓦JL1802 型式								C20-M20- V20-BL60		
1914 —	北壁	—	瓦	和瓦JL1803 型式								C40-M20- V20-BL60		
1915 —	直上	020418	瓦	和瓦JL1804 型式								C0-M30- Y10-BL60		
1916 12a	S822	020606	瓦	和瓦JL1804 型式								C20-M10- V20-BL60		
1917 12a	西コレ ンチ	020513	瓦	和瓦JL1804 型式								C40-M20- V20-BL60		
1918 —	S860	020704	瓦	和瓦JL1801 型式?								C20-M10- V20-BL60		
1919 —	S802 Ⅸ	020619	瓦	丸瓦	丸	33.8	幅18.6	厚2.6		コビキ丸、和目側 ヘラタガリ、ミガ キ		C20-M10- Y10-BL60		
1920 —	S802 Ⅸ	020619	瓦	丸瓦	丸	35.5	幅17.6	厚2.5		コビキ丸、和目側 ヘラタガリ、ミガ キ		C10-M6-YD- BL60		
1921 11b	S802 Ⅰ	020718	瓦	丸瓦	丸	31.8	幅16.2	厚2.5		コビキ丸、和目側 ヘラタガリ、ミガ キ		C20-M20- V20-BL60		
1922 12b	S802 Ⅰ	020524	瓦	丸瓦	丸	27.9	幅14.7	厚3.0		コビキ丸、和目側 ヘラタガリ、ミガ キ		C40-M20- V20-BL60		
1923 11b	S801 I	020906	瓦	丸瓦	丸	34.1	幅17.6	厚2.2		コビキ丸、和目側 ヘラタガリ、ミガ キ		C20-M10- V10-BL60		
1924 11b	S801	—	瓦	丸瓦	丸	31.1	幅16.2	厚2.1		コビキ丸、和目側 ヘラタガリ、ミガ キ		C10-M6-YD- BL60		
1925 11b	S801 B	020808	瓦	丸瓦	丸	32.4	幅15.2	厚2.1		コビキ丸、和目側 ヘラタガリ、ミガ キ		C40-M20- V20-BL60		焼成前切削面 丸き
1926 11b	S800	020909	瓦	丸瓦	丸	32.4	幅14.2	厚2.2		コビキ丸、和目側 ヘラタガリ、ミガ キ		C40-M20- V20-BL60		
1927 11b	S801 Ⅹ ホルト ルート	020802	瓦	丸瓦	丸	26.0	幅13.1	厚1.6		コビキ丸、和目側 ヘラタガリ、ミガ キ		C10-M6-YD- BL60		
1928 —	S801	—	平瓦	平瓦	平	30.4	幅28.8	厚2.0				C20-M20- V20-BL30		
1929 11b	S802	020625	瓦	平瓦	平	31.8	幅27.3	厚1.6				C20-M10- V10-BL60		
1930 12b	西コレ ンチ	020513	瓦	平瓦	平	31.2	幅29.7	厚2.0				C10-M6-YD- BL60		
1931 12b	S812	020724	瓦	平瓦	平	32.6	幅31.5	厚2.3				C20-M20- V20-BL60		
1932 12b	西コレ ンチ	020513	瓦	平瓦	平	27.8	幅25.9	厚1.8				C10-M6-YD- BL60		
1933 12b	西コレ ンチ	020513	瓦	平瓦	平	32.1	幅14.7	厚1.8				C10-M6-YD- BL60		
1934 12b	西コレ ンチ	020513	瓦	平瓦	平	26.9	幅13.0	厚1.6				C0-M40- Y40-BL60		
1935 12b	西コレ ンチ	020513	瓦	平瓦	平	30.0	幅16.5	厚1.8				C20-M10- V10-BL60		
1936 —	S802 Ⅲ	020625	瓦	丸瓦	丸	21.5	幅11.4	厚1.4				C20-M10- V20-BL60		
1937 11c	S8262	020731	瓦	丸瓦	丸	28.6	幅30.3	厚2.2				C20-M10- V10-BL60		
1938 12b	西コレ ンチ	020513	瓦	丸瓦	丸	27.9	幅17.8	厚2.2				C20-M20- V20-BL60		
1939 12b	西コレ ンチ	020509	瓦	丸瓦	丸	28.6	幅17.3	厚1.9				C40-M20- V20-BL60		
1940 10b	S8262	020730	瓦	丸瓦	丸	31.5	幅30.2	厚1.8				C20-M10- V10-BL60		
1941 12b	西コレ ンチ	020509	瓦	丸瓦	丸	9.0	幅8.0	厚1.8				C20-M10- Y10-BL60		
1942 10b	S8262	020730	瓦	丸瓦	丸	25.7	幅21.7	厚1.9				C10-M6-YD- BL60		
1943 11b, 11c	S801 B	020610	瓦	丸瓦 K01 型式	丸瓦 K01 型式	27.5	幅12.4	厚2.2				C0-M6-YD- BL60		K01-1
1944 11b	S801	020611	瓦	丸瓦 K01 型式	丸瓦 K01 型式	27.9	幅17.3	厚2.0				C10-M6-YD- BL60		K01-2

遺物一覧表

遺物番号	種類	遺物番号	日付	発地	材質	縦	横	厚	目録番号	箱番号	箱番号	最大寸(横)	内面	外面	記入(外側)	施I	備考
1945 11b	SK01	8	020613	瓦	陶瓦	801	型式	長28.6	瓦軸19.0	厚2.2				C40-M20- V29-HL00	K01-3		
1946 11i	SK01	9	020802	瓦	陶瓦	801	型式?	瓦軸22.8	瓦軸14.8	厚2.2				C30-M10- V10-HL00	K01-4		
1947 11b	SK01	9		瓦	陶瓦	801	型式?	瓦軸16.9	瓦軸14.2	厚2.0				C40-M20- V29-HL00	K01-5		
1948 11i	SK01	9	020619	瓦	陶瓦	801	型式	瓦軸20.4	瓦軸16.4	厚2.3				C10-M0- V10-HL00	K01-6		
1949 11b	SK01	9	020807	瓦	陶瓦	801	型式?	瓦軸14.1	瓦軸12.4	厚2.1				C20-M10- V10-HL00	K01-7		
1950 11e	SK25	0	020606	瓦	陶瓦	801	型式?	瓦軸20.2	瓦軸16.9	厚2.1				C30-M10- V10-HL00	K01-8		
1951 11i	SK01	8	020610	瓦	陶瓦	801	型式	長29.5	瓦軸13.3	厚2.2				C20-M10- V29-HL00	K01-9		
1952 11b	SK01	8	020803	瓦	陶瓦	801	型式?	瓦軸19.2	瓦軸17.2	厚2.1				C30-M20- V29-HL00	K01-12		
1953 11b	SK01	8	020807	瓦	陶瓦	801	型式?	瓦軸21.6	瓦軸15.5	厚2.0				C30-M10- V10-HL20	K01-15		
1954 11b	SK01	8	020807	瓦	陶瓦	801	型式?	瓦軸17.3	瓦軸13.8	厚2.1				C30-M20- V30-HL00	K01-20		
1955 —	SX02	2	020625	瓦	陶瓦	801	型式	瓦軸19.9	瓦軸8.4	厚1.7				C10-M0- V30-HL00	K01-25	穿孔直筒成形 瓦	
1956 12	瓦	1	020515	瓦	陶瓦	802	型式	瓦軸14.7	瓦軸14.0	厚2.5				C10-M0- V10-HL00	K02-1		
1957 11b	SK01	9	020807	瓦	陶瓦	802	型式?	瓦軸27.7	瓦軸17.0	厚2.7				C30-M20- V29-HL00	K02-2		
1958 11b	SK01	9	020807	瓦	陶瓦	802	型式?	瓦軸16.1	瓦軸15.2	厚3.3				C40-M20- V29-HL00	K02-3		
1959 10e	SX04	0	020626	瓦	陶瓦	802	型式	瓦軸11.9	瓦軸7.0	厚4.0				C40-M30- V30-HL10	K02-4		
1960 13e	SD01	0	020524	瓦	陶瓦	802	型式	瓦軸12.2	瓦軸9.0	厚3.6				C30-M0-YD- HL00	K02-5		
1961 11b	SK01	8	020809	瓦	陶瓦	802	型式?	瓦軸14.6	瓦軸11.4	厚3.2				C30-M20- V29-HL00	K02-6	既成形して 直角に切ってあ り。	
1962 13b	SD01	0	020530	瓦	陶瓦	802	型式	瓦軸19.9	瓦軸12.2	厚3.1				C20-M10- V29-HL00	K02-7		
1963 11b	SK01	8	020807	瓦	陶瓦	802	型式?	瓦軸14.8	瓦軸14.1	厚3.2				C10-M10- V29-HL00	K02-8		
1964 —	SX02	2	020615	瓦	陶瓦	802	型式	瓦軸16.8	瓦軸7.9	厚4.6				C30-M20- V29-HL00	K02-10		
1965 —	SX02	2	020615	瓦	陶瓦	802	型式?	瓦軸17.3	瓦軸7.2	厚4.7				C30-M20- V29-HL00	K02-11		
1966 11b	SK03	0	020804	瓦	陶瓦	803	型式?	瓦軸30.7	瓦軸31.5	厚5.3				C30-M20- V30-HL00	K03-1		
1967 —	瓦	2	020807	瓦	陶瓦	803	型式?	瓦軸11.0	瓦軸7.1	厚1.7				C30-M20- V30-HL00	K03-2		
1968 11b	SK01	9	020807	瓦	陶瓦	803	型式?	瓦軸16.6	瓦軸8.3	厚3.4				C40-M20- V30-HL00	K03-4		
1969 10e	瓦	2	020514	瓦	陶瓦	803	型式?	瓦軸13.0	瓦軸5.1	厚3.5				C30-M0-YD- HL00	K03-5		
1970 11b	SK01	9	020530	瓦	陶瓦	803	型式	瓦軸15.6	瓦軸6.9	厚2.9				C40-M20- V30-HL00	K03-5		
1971 —	SK01	—		瓦	陶瓦	803	型式?	瓦軸15.0	瓦軸9.2	厚5.0				C30-M20- V30-HL00	K03-6		
1972 11b	SK01	9	020807	瓦	陶瓦	803	型式?	瓦軸19.8	瓦軸17.2	厚5.2				C30-M20- V30-HL00	K03-7		
1973 —	瓦	2	020807	瓦	陶瓦	803	型式?	瓦軸16.6	瓦軸18.3	厚3.5				C40-M20- V30-HL00	K03-9		
1974 11b	SK01	9	020809	瓦	陶瓦	803	型式	瓦軸20.3	瓦軸18.6	厚4.2				C10-M10- V29-HL00	K03-8		
1975 —	SX02	2	020615	瓦	陶瓦	804	型式?	瓦軸16.6	瓦軸20.4	厚6.6				C30-M10-YD- HL00	K04-1		
1976 9c	SX02	2	020621	瓦	陶瓦	804	型式?	瓦軸15.5	瓦軸10.1	厚7.3				C20-M10- V10-HL10	K04-2		
1977 —	SX02	2	020615	瓦	陶瓦	804	型式?	瓦軸16.9	瓦軸7.3	厚7.1				C30-M10- V10-HL00	K04-3		
1978 11b	SK01	9	020808	瓦	陶瓦	804	型式?	瓦軸13.0	瓦軸8.9	厚7.6				C30-M20- V30-HL00	K04-4		
1979 11b	SK01	9	020809	瓦	陶瓦	804	型式	瓦軸15.6	瓦軸9.2	厚6.9				C40-M20- V29-HL00	K04-5		
1980 11b	SK01	9	020613	瓦	陶瓦	804	型式	瓦軸19.8	瓦軸14.2	厚7.7				C10-M10- V29-HL00	K04-6		
1981 13b	SD12	0	020726	瓦	鬼瓦	804	—	瓦	14.3	—	厚32.6	厚7.7		C30-M40- Y40-HL20	参考文献用		
1982 11i	SK01	9	020528	瓦	鬼瓦	804	—	瓦	瓦軸12.3	瓦軸11.3	厚7.6				C10-M0-YD- HL00		
1983 11i	SK01	9	020530	瓦	鬼瓦?	804	—	瓦	瓦軸9.1	瓦軸6.4	厚2.1				C40-M20- V29-HL00		
1984 —	SK01	—		瓦	鬼瓦	804	—	瓦	瓦軸15.5	瓦軸14.9	厚4.9				C40-M20- V30-HL60		
1985 11g	SK03	0	020814	瓦	鬼瓦	804	—	瓦	瓦軸11.7	瓦軸11.3	厚4.4				C30-M20- V29-HL00		
1986 11d	SK156	0	020723	瓦	鬼瓦	804	—	瓦	瓦軸19.8	瓦軸8.5	厚3.4				C30-M40- Y40-HL20		
1987 11g	SK03	0	020819	瓦	鬼瓦	804	—	瓦	瓦軸11.7	瓦軸7.3	厚3.5				C30-M20- V29-HL00		
1988 10e	SX05	0	020503	瓦	鬼瓦	804	—	瓦	瓦軸12.5	瓦軸9.2	厚5.8				C40-M20- V29-HL00		
1989 9b	瓦	1	020523	瓦	鬼瓦	804	—	瓦	瓦軸16.6	瓦軸9.3	厚5.5				C30-M20- V29-HL00		
1990 10b	SK127	0	020628	瓦	鬼瓦	804	—	瓦	瓦軸14.4	—	厚8.8	厚3.3			C30-M0-YD- HL60		
1991 13c	SK163	0	020725	瓦	鬼瓦?	804	—	瓦	瓦軸17.2	瓦軸6.5	厚2.6				C30-M20- V30-HL00		
1992 11f	SK16	0	020606	瓦	鬼瓦?	804	—	瓦	瓦軸11.5	瓦軸6.5	厚2.2				C40-M20- V29-HL00		
1993 12f	SK185	0	020726	瓦	鬼瓦	804	—	瓦	瓦軸15.2	瓦軸9.6	厚3.6				C30-M20- V30-HL60		

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	件名	日付	場所・材質	断面	時期	U断面cm	断面cm	直径cm	目次番号	内面	外面	割上(外部)	袖	備考
1994 111	SK01 舟	020705	瓦	船形H.290 筒瓦								C20-M10 V20-HL60		Z01-1
1995 111	SK01 B	020907	瓦	船形H.290 筒瓦								C20-M10 V20-HL30		Z01-2
1996 111	SK01 F	020906	瓦	船形H.290 筒瓦								C20-M10 V20-HL60		Z01-3
1997 111b	SK01	020613	瓦	船形H.290 筒瓦								C20-M10 V10-HL60		Z01-5
1998 111b	SK01 F	020906	瓦	船形H.290 筒瓦		鉄 14.7	軸 9.3	厚 1.8				C40-M20 V20-HL60		Z01-4
1999 110	SK01 E	020702	瓦	船形H.290 筒瓦								C40-M20 V20-HL60		Z02-1
2000 111	SK01 A	020907	瓦	船形H.290 筒瓦								C20-M10 V10-HL30		Z02-2
2001 106	SK01 G	020610	瓦	船形H.290 筒瓦								C20-M20 V20-HL60		Z02-3
2002 -	SN02 里 西	020625 030527	瓦	船形H.290 筒瓦								C20-M10 V20-HL60		Z03-1
2003 -	SN09	020917	瓦	船形H.		現鉄 10.8	軸 6.5	厚 1.7				C20-M20 V20-HL60		
2004 111	SK01 A	020905	瓦	船形H.?								C20-M20 V20-HL60		
2005 111	SK01 A	020905	瓦	船形H.瓦 6.5		鉄 14.0	軸鉄 13.5	厚 1.7				C20-M20 V20-HL60		
2006 111	SK01 A	020905	瓦	船形H.瓦 6.5		鉄 14.2	軸鉄 12.0	厚 1.8				C10-M0-Y0 HL60		
2007 -	SK01	-	瓦	船形H.瓦		鉄 14.4	軸 14.0	厚 1.8				C40-M20 V20-HL60		
2008 -	SK01	-	瓦	船形H.瓦		現鉄 11.1	軸 12.6	厚 2.0				C20-M20 V20-HL60		
2009 12b	SK01	020613	瓦	船形H.瓦		鉄 14.6	軸鉄 10.1	厚 2.1				C20-M60 V60-HL60		
2010 111	SK01 F	020906	瓦	船形H.瓦		現鉄 10.7	軸鉄 10.3	厚 2.0				C20-M20 V20-HL60		
2011 11b	SK01 B	020809	瓦	船形H.瓦		鉄 17.0	軸 14.5	厚 2.4				C40-M20 V20-HL60		
2012 -	SN02 里 東	020628	瓦	船形H.瓦		鉄 14.5	軸鉄 13.0	厚 1.9				C20-M60 V60-HL60		
2013 11b	SK01, SK47	020906	瓦	船形H.瓦		鉄 12.2	軸鉄 11.8	厚 2.4				C20-M20 V20-HL60		
2014 106	SN05	020703	瓦	船形H.瓦		鉄 14.6	軸鉄 11.3	厚 2.0				C40-M20 V20-HL60		
2015 104	船山1	020522	瓦	船形H.瓦		鉄 11.5	軸鉄 10.3	厚 2.2				C40-M20 V20-HL60		
2016 11g	SK03	020819	瓦	船形H.瓦		鉄 15.8	軸 14.0	厚 2.0				C40-M20 V20-HL60		
2017 11g	SK03	020819	瓦	船形H.瓦		鉄 15.5	軸 14.2	厚 2.1				C40-M20 V20-HL60		
2018 11g	SK03	020819	瓦	船形H.瓦		鉄 16.0	軸鉄 13.5	厚 2.0				C40-M20 V20-HL60		
2019 12b	SK01	020613	瓦	丸瓦系道瓦		現鉄 17.0	軸鉄 0.8	厚 2.2				C30-M40 Y40-HL30		
2020 11b	SK01 B	020808	瓦	丸瓦系道瓦		現鉄 12.4	軸鉄 7.3	厚 2.2				C20-M30 V10-HL60		
2021 11b	SK01	020611	瓦	丸瓦系道瓦		現鉄 10.5	軸 8.6	厚 1.3				C20-M30 V10-HL60		
2022 111	SK01 A	020802	瓦	丸瓦系道瓦		現鉄 10.8	軸鉄 7.2	厚 2.6				C20-M60 V60-HL60		
2023 -	直上	020513	瓦	丸瓦系道瓦		現鉄 14.0	軸鉄 12.7	厚 7.9				C20-M20 V20-HL60		
2024 -	SN02 里 西	020625	瓦	丸瓦系道瓦		現鉄 16.5	軸鉄 8.9	厚 2.9				C40-M20 V10-HL60		
2025 12b	SK11	020603	瓦	丸瓦系道瓦		現鉄 10.2	軸鉄 8.5	厚 2.6				C40-M20 V10-HL60		
2026 13e	船山B	020729	瓦	丸瓦系道瓦		現鉄 7.5	軸鉄 7.5	厚 1.8		ヨビキ A		C10-M0-Y0 HL60		
2027 111	SK01 A	020805	瓦	丸瓦系道瓦		現鉄 22.1	軸 14.6	厚 3.5				C10-M0-Y0 HL60		
2028 11b	SK01 B	020807	瓦	平瓦系道瓦		現鉄 17.5	軸鉄 13.8	厚 5.3				C20-M20 V20-HL60		
2029 -	SK01	-	瓦	平瓦系道瓦		現鉄 11.3	軸鉄 7.6	厚 4.9				C20-M20 V20-HL60		
2030 11b	SK01 B	020807	瓦	平瓦系道瓦		現鉄 12.2	軸鉄 12.2	厚 2.5				C40-M20 V20-HL60		
2031 11b	SK01 B	020805	瓦	平瓦系道瓦		現鉄 20.2	軸鉄 12.1	厚 2.0				C30-M40 Y40-HL60		
2032 11b	SK01 B	020807	瓦	平瓦系道瓦		現鉄 16.3	軸鉄 12.2	厚 2.0				C20-M40 V10-HL60		
2033 111	SK01 A	020805	瓦	平瓦系道瓦		現鉄 9.9	軸鉄 7.2	厚 2.4				C40-M20 V20-HL60		
2034 11b	SD13	020621	瓦	平瓦系道瓦		現鉄 18.0	軸鉄 18.0	厚 2.4				C30-M0-Y10 HL60		
2035 14e	SN09	020919	瓦	平瓦系道瓦		現鉄 19.8	軸鉄 14.8	厚 1.8				C20-M20 V10-HL60		
2036 16c	SN02 里 東	020621	瓦	平瓦系道瓦		現鉄 8.5	軸鉄 7.3	厚 1.4				C20-M10 V10-HL60		
2037 11b	T03	020621	瓦	平瓦系道瓦		現鉄 9.5	軸鉄 8.2	厚 3.0				C20-M20 V20-HL60		
2038 10b	SN05	020703	瓦	平瓦系道瓦		現鉄 12.5	軸鉄 9.7	厚 2.4				C20-M20 V20-HL60		
2039 101	020528	瓦	船形瓦丸瓦		現鉄 10.5	軸 13.0	厚 1.8			漆酒		10YR8e-2 R11		
2040 -	直上	020424	瓦	船形瓦丸瓦		現鉄 10.3	軸 8.2	厚 2.2				10YR8e-2 R11		
2041 9c	SN02 里 東	020621	瓦	船形瓦丸瓦		現鉄 21.6	軸鉄 9.9	厚 1.5		漆酒「中」		10YR7-3 R12-弱帶		
2042 -	SN02 里 西	020625	瓦	船形瓦丸瓦		現鉄 9.1	軸鉄 5.7	厚 1.8				2.0YR8e-2 黄白		
												C20-M40 Y100-HL60		

遺物一覧表

登録号	発見場所	日付	地名・材質	種類	時期	口径(φ)	高さ(±)	蓋高(±)	底径(±)	内面	外面	動土(外側)	動土	備考
2043	—	SK002	020621	瓦	輪軸瓦丸瓦	現段 7.4	現高 3.0	厚 1.5				2.5Vh/2 白瓦	C0-M20-Y00-H10	
2044	—	SK002	020624	瓦	輪軸瓦丸瓦	現段 5.6	現高 4.8	厚 1.4				2.5Vh/2 白瓦	C0-M20-Y00-H10	
2045	—	SK002	020629	瓦	輪軸瓦丸瓦	現段 4.0	現高 1.2	厚 1.2				10Vh/2 瓦	Y00-H10	瓦片横
2046	北	SK002	020621	瓦	輪軸瓦丸瓦	現段 8.8	現高 6.0	厚 1.5				2.5Vh/2 白瓦	C0-M40-Y00-H10	
2047	—	SK002	020625	瓦	輪軸瓦丸瓦	現段 10.0	現高 6.4	厚 1.9				2.5Vh/2 白瓦	C0-M40-Y00-H10	
2048	北	SK002	020621	瓦	輪軸瓦丸瓦	現段 10.7	現高 4.1	厚 1.5				10Vh/2 瓦	C0-M20-Y00-H10	瓦に火照跡
2049	10b	SK004	020626	瓦	輪軸瓦丸瓦	現段 4.0	現高 3.3	厚 1.1				2.5Vh/2 白瓦	C0-M20-Y100-H10	
2050	9c	SK002	020621	瓦	輪軸瓦平瓦	現段 12.2	現高 9.3	厚 2.2				2.5Vh/2 白瓦	C0-M40-Y00-H10	
2051	—	SK002	020619	瓦	輪軸瓦平瓦	現段 13.4	現高 12.2	厚 1.4		墨書		2.5Vh/2 白瓦	C0-M40-Y00-H10	
2052	—	SK002	020625	瓦	輪軸瓦平瓦	現段 5.5	現高 4.5	厚 1.1				2.5Vh/2 白瓦	C0-M20-Y00-H10	
2053	—	SK002	020625	瓦	輪軸瓦平瓦	現段 8.6	現高 5.6	厚 1.3				2.5Vh/2 白瓦	C0-M40-Y00-H10	
2054	若主	SK004	020624	瓦	輪軸瓦平瓦	現段 8.1	現高 7.9	厚 1.6				2.5Vh/2 白瓦	C0-M20-Y100-H10	
2055	北	SK002	020621	瓦	輪軸瓦平瓦及 素瓦丸瓦?	現段 5.5	現高 4.2	厚 2.1				2.5Vh/2 白瓦	C100-M40-Y00-H10	
2056	—	SK002	020620	瓦	瓦石輪瓦道	現段 5.8	現高 2.9	厚 1.0				2.5Vh/2 灰	Y05-H10	
2057	—	SK002	020620	瓦	輪軸瓦のし 瓦	現段 11.5	現高 8.8	厚 1.6				2.5Vh/2 白瓦	C0-M20-Y00-H10	
2058	—	SK002	020625	瓦	輪軸瓦平瓦	現段 17.4	現高 12.2	厚 1.8				2.5Vh/2 白瓦	C0-M20-Y100-H10	
2059	—	SK002	020624	瓦	輪軸瓦平瓦	現段 24.3	現高 17.5	厚 2.8				2.5Vh/2 白瓦	C100-M40-Y00-H10	
2060	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	7 大柄	14.8	6.0	5.4	15.0	白磁器、コバルト 色、鉢形、輪軸、コバルト 色、鉢形、輪軸、素瓦 ローブル	白	C0-M20-CD-M10-Y60- H10-L10		
2061	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	7 大柄	14.8	5.8	5.2	15.0	白磁器、コバルト 色、鉢形、輪軸、素瓦 ローブル	白	C0-M20-CD-M10-Y60- H10-L10		
2062	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	7 大柄	14.6	6.0	5.4	14.8	白磁器、コバルト 色、鉢形、輪軸、素瓦 ローブル	白	C0-M20-CD-M10-Y60- H10-L10		
2063	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	7 大柄	14.0	5.1	5.8	14.2	白磁器、コバルト 色、鉢形、輪軸、素瓦 ローブル	白	C100-M80-Y100-H10		
2064	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	7 大柄	14.0	5.1	5.6	14.2	白磁器、コバルト 色、鉢形、輪軸、素瓦 ローブル	白	C100-M80-Y100-H10		
2065	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	7 大柄	13.8	5.1	5.8	14.1	白磁器、コバルト 色、鉢形、輪軸、素瓦 ローブル	白	C0-M40-V4-Y100-H10		
2066	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	7 大柄	15.2	7.2	5.9	15.6	白磁器、コバルト 色、鉢形、輪軸、素瓦 ローブル	白	C0-M20-Y100-H10		
2067	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	7 大柄	15.0	7.2	6.0	15.3	白磁器、コバルト 色、鉢形、輪軸、素瓦 ローブル	白	C0-M20-Y100-H10		
2068	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	7 大柄	15.1	7.2	6.1	15.3	白磁器、コバルト 色、鉢形、輪軸、素瓦 ローブル	白	C0-M20-Y100-H10		
2069	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	7 大柄	15.0	7.1	6.0	15.4	白磁器、コバルト 色、鉢形、輪軸、素瓦 ローブル	白	C0-M20-Y100-H10		
2070	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	7 大柄	15.2	7.2	6.0	15.6	白磁器、コバルト 色、鉢形、輪軸、素瓦 ローブル	白	C0-M20-Y100-H10		
2071	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	7 大柄	15.0	7.2	6.0	15.4	白磁器、コバルト 色、鉢形、輪軸、素瓦 ローブル	白	C0-M20-Y100-H10		
2072	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	7 大柄	15.2	7.2	6.0	15.6	白磁器、コバルト 色、鉢形、輪軸、素瓦 ローブル	白	C0-M20-Y100-H10		
2073	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	小杯	5.5	2.9	2.3	5.7	白磁器、コバルト 色、鉢形、輪軸、素瓦 ローブル	白	白		
2074	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	小杯	7.5	5.2	3.2	7.6	白磁器、口縁 白磁器、輪軸	白	C0-M20-Y80-BL0-L10,	C10-M20-Y80-BL0-L10, C0-M100-Y80-BL0-L10, V80-BL0-L10, U100-M100-Y80-BL0-L10, <td></td>	
2075	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	尚存	6.8	6.7	4.0	6.9	白磁器	白	白		
2076	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	尚存	6.4	6.7	4.3	6.8	白磁器	白	白		
2077	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	小杯	5.2	5.9	3.5	5.3	磁酒器	白	白	C0-M40-Y10-H10	
2078	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	尚存	7.6	7.7	4.8	8.0	白磁器	白	白	C0-M20-Y80-BL0	
2079	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	尚存	7.6	7.6	4.4	7.8	白磁器	白	白	C0-M20-Y10-BL4	
2080	12b	SK06	020621	櫛 ^ノ 磁器	尚存	7.3~ 7.7	6.7	4.4	7.8	白磁器	白	白	C0-M20-Y4-BL4	
2081	12b	SK06	020621	リタケ罐	カップ	8.7	7.8	—	—	白磁器	白	白		
2082	12b	SK06	020621	リタケ罐	皿	14.8	2.8	7.8	15.2	白磁器	半分が黒彩、残り 1/4が白彩、高台 輪軸	白	C0-M0-Y0-BL4	
2083	12b	SK06	020621	碟子	ノック碟子	3.0	5.0	3.4	3.4	白磁器	白磁器、乳頭部 動土の合せ日	白	白	

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	戸番	地図番号	日付	所在地	材質	施 稲	特 用	U面(東)	露面(西)	露面(北)	露面(南)	内面	外 面	窓(外部)	軸 線	備考	
2084	12b	5806	200621	廻ノ縁壁?	漆			2.6	1.2	3.0		白縁板、下半漆 刷、帶の合せ口 打、手一か黒刷 色付着あり	白縁板、下半漆 刷、帶の合せ口 打	白/白	C4-M0-Y4-BL4		
2085	12b	5806	200621	廻ノ縁壁?	漆			2.5	1.2	2.8		白縁板、下半漆 刷、帶の合せ口 打	白縁板、下半漆 刷、帶の合せ口 打	白/白	CO-M0-Y4-BL4		
2086	12b	5806	200621	廻ノ縁壁?	漆板	漆	2.2	13.0	4.4	7.6	白縁板	白縁板、上漆付	白/白	C4-M0-Y4-BL4			
2087	12b	5806	200621	廻ノ矢張内 壁	西方解木綿	真竹 17.8	7.4					矧板、なまこ板、 下半漆刷、カケリ、 縫合	なまこ板、紙漆刷 刷、割合子	2.5YR5/2灰白	C10-M0-Y30-BL0	C10-M0-Y30-BL0 C40-M0-Y20-BL0 C20-BL0 C40-M0-Y30-BL0	
2088	12b	5806	200621	土塀	船木綿	漆	10.4	10.2	6.8	10.8	白縁板、コヨチテ、 方向合き、墨 透(「内・外」)	白縁板、コヨチテ、 方向合き、墨 透(「内・外」)	SYR66木柵		直通漆系 かくし		
2089	12b	5806	200621	土塀	船木綿	漆	12.0	10.0	7.5	推12.4	白縁板、コヨチテ、 方向合き、墨 透(「内・外」)	白縁板、コヨチテ、 方向合き、墨 透(「内・外」)	2.5YR5/6 白/白		直通漆系 かくし		
2090	12b	5806	200621	土塀	船木綿	漆	15.4	13.6	9.6	15.8	白縁板、コヨチテ、 方向合き、墨 透(「内・外」)	白縁板、コヨチテ、 方向合き、墨 透(「内・外」)	SYR66木柵		直通漆系 かくし		
2091	12b	5806	200621	土塀	船木綿	漆	15.4	14.3	10.4	推16.0	白縁板、コヨチテ、 方向合き、墨 透(「内・外」)	白縁板、コヨチテ、 方向合き、墨 透(「内・外」)	SYR74 白/白		直通漆系 かくし		
2092	12b	5806	200621	土塀	船木綿	大正五 四	20.6	19.7	16.0	27.0	白縁板、コヨチテ、 方向合き、墨 透(「内・外」)	白縁板、コヨチテ、 方向合き、墨 透(「内・外」)	SYR66木柵 108cm木柵		直通漆系 かくし		
2093	12b	5806	200621	荷物小物棚	瓦			5.7	10.6	7		有縫物、白縁板	有縫物、下半漆 刷	白/白	C30-M0-Y20-BL10	明打	
2094	12b	5806	200621	廻ノ縁壁?	漆	漆	14.8	5.4	4.8	推15.6	白縁板	白縁板、漆刷	白/白				
2095	12b	5806	200621	廻ノ縁壁?	漆	漆	15.2	14.5	14.0	15.6	白縁板	白縁板漆刷	白/白				
2096	12b	5806	200621	グラスチック 廻ノアラシ	漆	真竹 16.1	1.1	厚0.5				毛丸		C30-M6-Y12-BL6			
2097	12b	5806	200621	グラスチック 廻ノアラシ	漆	真竹 15.3	1.1	厚0.5				毛丸		CD-M20-Y100-BL10			
2098	12b	5806	200621	ガラス	瓶		1.9	24.4	5.2	6.4		圓柱「大日本製 陶器株式会社 印」N NK			CB-M4-Y12-BL6	5すい緑色系	
2099	12b	5806	200621	ガラス	瓶		1.8	24.9	4.6	6.0	内容物の痕跡?	圓柱「30LJH9 10」		C20-M4-Y10-BL4	青色系		
2100	12b	5806	200621	ガラス	瓶		2.0	23.0	4.6					C30-M6-Y10-BL6	5すい緑色系		
2101	12b	5806	200621	ガラス	瓶		2.3	20.2	2.4	8.6				C30-M6-Y100-BL10	緑色系		
2102	12b	5806	200621	ガラス	瓶		3.6	15.9	4.2	推6.8					無色透明	無色系	
2103	12b	5806	200621	ガラス	瓶		2.8	14.4	4.8	5.7	陽絞「吉田牧場 第一二六七、『萬 葉集』八十八人、 八十八人、」	陽絞「吉田牧場 第一二六七、『萬 葉集』八十八人、 八十八人、」				無色透明	無色系
2104	12b	5806	200621	ガラス	瓶		13.1	4.1	5.3		陽絞「金丸、『萬 葉集』八十八人、 八十八人、八十八人、 八十八人、」	陽絞「金丸、『萬 葉集』八十八人、 八十八人、八十八人、 八十八人、」				無色透明	無色系
2105	12b	5806	200621	ガラス	瓶		1.3	18.1	3.8	4.5	わずかに気泡	陽絞「伊藤重蔵、 『萬葉集』八十八人、 八十八人、八十八人、 八十八人、」		C20-M6-Y16-BL6	5すい緑色系		
2106	12b	5806	200621	ガラス	瓶		2.5	16.8	6.4	7.3	わずかに気泡	陽絞「伊藤重蔵、 『萬葉集』八十八人、 八十八人、八十八人、 八十八人、」		C20-M6-Y10-BL6	5すい緑色系		
2107	12b	5806	200621	ガラス	瓶		1.2	12.2	4.3	5.6	わずかに気泡			CL-M6-Y16-BL6	5すい青色系		
2108	12b	5806	200621	ガラス	瓶		1.8	8.4	4.6	5.2	わずかに気泡	陽絞「ルートワー ツ」武田昌義作			無色透明	透明系	
2109	12b	5806	200621	ガラス	瓶		2.4	6.9	4.2	5.9	わずかに気泡	陽絞陽「PILOT JAPAN」		C20-M6-Y4-BL6	5すい青色系		
2110	12b	5806	200621	ガラス	瓶		1.4	8.5	3.2	4.0	わずかに気泡			CD-M6-Y100-BL10	透明系		
2111	12b	5806	200621	ガラス	瓶		1.4	8.1	2.6	2.8	付着物あり、わず かに気泡				透明系	透明系	
2112	12b	5806	200621	ガラス	瓶		1.6	7.2	1.9	2.3	わずかに気泡	底座付「15」、 「15」			透明系	透明系	
2113	12b	5806	200621	ガラス	瓶		2.0	6.0	4.2	5.1	わずかに気泡	底座付「15」、 「15」			透明系	透明系	
2114	12b	5806	200621	ガラス	瓶		4.4	9.4	3.9	5.4	わずかに気泡	陽絞「TAMBI SALE」		C20-M6-Y10-BL6	5すい青色系		
2115	12b	5806	200621	グラスチック 廻ノアラシ	瓶		1.7	1.6		1.7	わずかに気泡	中中角打「15」、 「15」		2.5YR5/6青系	青色系		
2116	12b	5806	200621	ガラス	瓶		1.1	12.6	4.5	5.2	わずかに気泡	陽絞「ナチュラル」 「ナチュラル」		CH0-M10-V100-BL10- 30	緑色系		
2117	12b	5806	200621	ガラス	瓶		3.8	3.3	3.6	4.5			9/白	白色系			
2118	12b	5806	200621	ガラス	瓶		4.5	3.9	4.6	5.0			C20-M6-Y10-BL6	5すい青色系			
2119	12b	5806	200621	ガラス	瓶		4.4	4.3	4.6	5.1	気泡くあり			C20-M6-Y10-BL6	5すい青色系		
2120	12b	5806	200621	ガラス	瓶		3.7	4.4	4.0	4.5		底座付「15」、 「15」		透明系	白色系		
2121	12b	5806	200621	ガラス	瓶		4.4	4.9	5.0	5.3	口縁部に緑色付 着	底座付「15」、 「15」		透明系	白色系		
2122	12b	5806	200621	ガラス	瓶		4.6	5.7	5.0	5.2	両付け口目付あり			C4-M4-Y4-BL4	白色系		
2123	12b	5806	200621	グラスチック 廻ノアラシ	瓶		3.4	1.1		3.4				7.5YR5/6 青系	青色系		
2124	12b	5806	200621	ガラス	瓶		3.6	4.0	4.0	4.9			9/白	白色系			
2125	12b	5806	200621	ガラス	瓶		4.8	9.2	3.5	5.8	わずかに気泡	口縁付逆波紋状の ものの付着、底座部 「705」		無色透明	透明系		
2126	12b	5806	200621	ガラス	コップ		5.5	9.1	4.0	5.8	わずかに気泡	底座部			透明系		
2127	12b	5806	200621	ガラス	コップ		5.5	9.1	4.0	5.8	わずかに気泡	底座部			透明系		
2128	12b	5806	200621	ガラス	瓶		3.7	7.4	2.8	4.5	気泡あり			C20-M6-Y10-BL6	5すい青色系		
2129	12b	5806	200621	ガラス	瓶		4.0	7.4	3.2	4.5	気泡あり			C20-M6-Y10-BL6	5すい青色系		

遺物一覧表

登録番号	登録年	登録番号	日付	発地・材質	部	種	特	寸法	重量	容積	目次	内面	外面	形上(外観)	物	備考
2130	12b	SK96	200621	ガラス	瓶			3.2	7.3	3.1	4.4	気泡やあり	C20-MD-Y10-HL8	うすい青色系		
2131	12b	SK96	200621	ガラス	瓶			3.3	7.3	3.0	4.3	気泡あり	C20-MD-Y10-HL8	うすい青色系		
2132	12b	SK96	200621	ガラス	瓶			3.8	7.2	3.0	4.4	気泡やあり	C20-MD-Y10-HL8	うすい青色系		
2133	12b	SK96	200621	ガラス	瓶			3.9	7.5	3.0	4.4	気泡やあり	C20-MD-Y10-HL8	うすい青色系		
2134	12b	SK96	200621	ガラス	瓶			2.8	7.3	2.8	4.4	気泡少しあり	C20-MD-Y10-HL8	うすい青色系		
2135	12b	SK96	200621	ガラス	瓶			3.8	7.4	3.0	4.4	気泡少しあり	C20-MD-Y10-HL8	うすい青色系		
2136	12b	SK96	200621	ガラス	瓶			3.1	7.3	3.0	4.4	気泡多くあり	C20-MD-Y10-HL8	うすい青色系		
2137	12b	SK96	200621	ガラス	瓶			3.1	7.3	2.8	4.5	気泡少しあり	C20-MD-Y10-HL8	うすい青色系		
2138	12b	SK96	200621	ガラス	瓶			3.0	7.3	2.9	4.4	気泡あり	C20-MD-Y10-HL8	うすい青色系		
2139	12b	SK96	200621	ガラス	瓶			2.8	7.3	2.8	4.3	気泡多くあり	C20-MD-Y10-HL8	うすい青色系		
2140	12b	SK96	200621	ガラス	瓶			3.1	7.3	2.9	4.4	気泡少しあり	C20-MD-Y10-HL8	うすい青色系		
2141	12b	SK96	200621	ガラス	瓶			3.1	7.2	2.8	4.4	気泡あり	C20-MD-Y10-HL8	うすい青色系		
2142	12b	SK96	200621	ガラス	瓶			3.9	7.5	2.8	4.4	気泡少しあり	C20-MD-Y10-HL8	うすい青色系		
2143	12b	SK96	200621	ガラス	試験管			残13.8			1.6		無色透明	透明系		
2144	12b	SK96	200621	ガラス	試験管			残13.7			1.6		白色プリント	透明系		
2145	12b	SK96	200621	ガラス	試験管			残10.7			1.6		白線や並む。E	透明系		
2146	12b	SK96	200621	ガラス	試験管			残10.0			1.8		無色透明	透明系		
2147	12b	SK96	200621	ガラス	試験管			残9.9			1.7		無色透明	透明系		
2148	12b	SK96	200621	ガラス	試験管			残8.2			1.7		無色透明	透明系		
2149	12b	SK96	200621	ガラス	試験管			1.6	残4.3		1.7		O細かな、玉綱状	透明系		
2150	12b	SK96	200621	ガラス	試験管			残3.5			1.0		無色透明	透明系		
2151	12b	SK96	200621	ガラス	スライドガラス			最大直	最大幅				無色透明	透明系		
								7.8	2.6	0.15						
2152	12b	SK96	200621	ガラス	スライドガラス			最大直	最大幅				無色透明	透明系		
								7.2	2.6	0.17						
2153	12b	SK96	200621	ガラス	スライドガラス			最大直	最大幅				無色透明	透明系		
								7.2	2.0	0.13						
2154	12b	SK96	200621	ガラス	スライドガラス			残在直	最大幅				無色透明	透明系		
								3.7	2.7	0.13						
2155	12b	SK96	200621	ガラス	スライドガラス			残在直	最大幅				無色透明	透明系		
								2.6	2.6	0.15						
2156	12b	SK96	200621	ガラス	スライドガラス			残在直	最大幅				無色透明	透明系		
								2.3	2.0	0.08						
2157	12b	SK96	200621	ガラス	板ガラス			残在直	最大幅				無色透明	透明系		
								0.1	8.5	0.22						
2158	12b	SK96	200621	ガラス	板ガラス			残在直	最大幅				無色透明	透明系		
								11.2	0.2	0.2						
2159	12b	SK96	200621	ガラス	板ガラス			残在直	最大幅				C9-M4-V16-HL8			
								1.8	7.6	0.2						
2160	12b	SK96	200621	プラスチック	ビニルシート			3.7	1.9		3.7		白/白			
2161	12b	SK96	200621	プラスチック	ビニルシート			3.7	3.7		3.7		白/白			
2162	12b	SK96	200621	その他の製品	乾燥剤?			長6.5	幅1.7	厚1.5						
2163	12b	SK96	200621	その他の製品	乾燥剤?			長6.7	幅1.7	厚1.7						
2164	12b	SK96	200621	その他の製品	乾燥剤?			長6.5	幅1.6	厚1.5						
2165	12b	SK96	200621	その他の製品	乾燥剤?			長6.5	幅1.6	厚1.5						
2166	12b	SK96	200621	その他の製品	乾燥剤?			長5.9	幅0.7	厚0.6						
2167	12b	SK96	200621	乾燥品	E冠(直)			2.9								
2168	12b	SK96	200621	乾燥品	E冠(直)			2.9								
2169	12b	SK96	200621	乾燥品	E冠(直)			3.1								
2170	12b	SK96	200621	乾燥品	E冠(直)			3.0								
2171	12b	SK96	200621	乾燥品	直			長12.0	幅2.8	厚1.7						
2172	12b	SK96	200621	乾燥品	直			残4.0	幅1.7	厚1.8						
2173	12b	SK96	200621	乾燥品	直			長7.2	幅1.7	厚1.3						
2174	12b	SK96	200621	乾燥品	円柱形容器			長6.2	幅2.2	厚2.2						
2175	12b	SK96	200621	乾燥品	円柱形容器			残長6.4	幅5.2	厚0.3						
2176	12b	SK96	200621	乾燥品	円柱形容器			残長6.6	幅5.2	厚0.3						
2177	12b	SK96	200621	乾燥品	円柱形容器			残4.9	幅8.5							
2178	12b	SK96	200621	乾燥品	円柱形容器			残2.0	幅11.4							
2179	12b	SK96	200621	その他の製品	直			長3.7	幅3.6	厚1.7						
2180	12b	SK96	200621	乾燥品	直			残10.5	幅8.2	厚1.0						
2181	12b	SK96	200621	乾燥品	直			残11.8	幅4.0	厚0.6						
2182	12b	SK96	200621	乾燥品	直			長3.4	幅1.4	厚0.3						
2183	Re	SK96	200619	鏡子	不明			最大直	最大幅				鏡面、白磁輪、黒	白磁輪、黑色経膏	白/白	白/白
								8.1	6.2				白磁輪			
2184	Re	SK96	200619	鏡子	不明			残直	最大幅				鏡面、白磁輪、黒	白磁輪、黒色経膏	C4-M4-V4-HL4	C80-M30-Y80-HL30
								5.1	3.6				白磁輪			
2185	Re	SK96	200619	鏡子	ノップ鏡子			最大直	最大幅				鏡面、白磁輪	白磁輪	白/白	白/白
								5.0	3.6				白磁輪			
2186	Re	SK96	200619	鏡子	ノップ鏡子			最大直	最大幅				鏡面、白磁輪、黒	白磁輪	白/白	白/白
								5.0	3.6				白磁輪			
2187	bd	SK96	200614	石瓢箪	石瓢						0.6		2.2			白/白
2188	bd	SK96	200619	草瓢箪	直			長5.7	幅4.6	厚0.1						
2189	bd	SK96	200619	草瓢箪	直			長5.4	幅4.1	厚0.1						
2190	bd	SK96	200619	草瓢箪	直			長5.2	幅3.9	厚0.5						

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	位置	日付	所在地・材質	形	幅	厚	U寸(寸)	裏寸(寸)	透寸(寸)	最大寸(寸)	内面	外面	第1(内部)	第2	備考	
2191 8e SK56	020619	老鶴品	瓶	瓶	約14.3	瓶0.4	厚0.5									
2192 8e SK56	020619	老鶴品	瓶	瓶	約15.8	瓶0.1	厚0.3									
2193 8e SK56	020619	老鶴品	瓶	瓶	約6.8	瓶0.3	厚0.4									
2194 8e SK56	020619	老鶴品	瓶	瓶	約6.7	瓶0.1	厚0.3									
2195 8e SK56	020619	老鶴品	瓶	瓶	約11.1	瓶0.8	厚0.5									
2196 8e SK56	020619	老鶴品	瓶	瓶	約7.3	瓶0.5	厚0.2									
2197 8e SK56	020619	老鶴品	瓶	瓶	約10.1	瓶0.7	厚0.6									
2198 8e SK56	020619	老鶴品	瓶	瓶	約15.6	瓶0.7	厚0.3									
2199 8e SK56	020619	老鶴品	瓶	瓶	約14.2	瓶0.4	厚0.3									
2200 8e SK56	020619	老鶴品	瓶	瓶	約7.1	瓶0.5	厚0.3									
2201 8e SK56	020619	老鶴品	瓶	瓶	約13.5	瓶0.9	厚0.5									
2202 8e SK56	020619	老鶴品	瓶	瓶	約6.0	瓶0.1	厚0.4									
2203 8e SK56	020619	老鶴品	瓶	瓶	約23.5	瓶0.7	厚0.6									
2204 8e SK56	020619	老鶴品	瓶	瓶	約23.2	瓶0.6	厚0.2									
2205 8e SK56	020621	古ちうき類	ボタル	瓶	—	—	0.9	—	—	2.0						
2206 8e SK56	020619	鉢類品	鉢盛りボウル	瓶	約20.3	瓶0.9	厚0.2									
2207 8e SK56	020619	鉢類品	鉢盛り	瓶	約15.2	瓶0.6	厚1.0									
2208 8e SK56	020619	鉢類品	金具	瓶	約2.6	瓶0.1	厚1.3									
2209 8e SK56	020619	鉢類品	口鉢	瓶	約3.5	瓶0.7	厚1.7									
2210 8e SK56	020619	銅+木製品	金具(櫛用)	瓶	約5.6	瓶0.7	厚1.0									
2211 10e SK14	020624	ガラス 壺	瓶	瓶	2.4	18.8	6.0	7.4	気泡多くあり	瓶削口彫り	C20-M9-Y16 BLA	うすい青色系				
2212 10e SK14	020624	ガラス 壺	瓶	瓶	2.2	18.9	5.9	7.3	—	瓶削口彫り	C16-M9-Y18 BLA	うすい青色系				
2213 10e SK14	020624	ガラス 壺	瓶	瓶	2.0	19.8	4.4	5.4	ビード入り	—	C20-M9-Y16 BLA	緑色系				
2214 10e SK14	020624	ガラス 壺	瓶	瓶	3.5	4.3	6.4	6.6	—	瓶削口彫り	C20-M9-Y16 BLA	透明系				
2215 10e SK14	020624	蘭+白磁器	合子身	瓶	4.6	2.0	5.9	5.6	口細胞	合子口彫り	C16-M9-Y18 BLA	透明系				
2216 10e SK14	020624	鉢類品	円筒形容器	瓶	—	4.6	1.8	4.5								
2217 10d SK57	020614	鉢類品	骨壺	瓶	約17.6	瓶0.2	厚1.0									
2218 10d SK58	020617	鉢類品	ハーフ	瓶	約16.2	瓶0.8	厚2.0									
2219 11e SK25	020606	鉢類品	瓶(はつまみ)	瓶	約6.1	瓶0.7	厚1.2									
2220 11e SK25	020606	鉢類品	瓶	瓶	約14.4	瓶0.1	厚1.3									
2221 11e SK25	020606	鉢類品	瓶	瓶	約8.4	瓶1.2	厚1.0									
2222 11e SK25	020606	ガラス レンズ	レンズ	瓶	約7.5	瓶0.7	厚1.0									
2223 11e SK24	020607	ガラス	鏡面レンズ	瓶	約18.8	瓶0.6	厚0.7									
2224 11e SK25	020607	本鶴品	透面筒材	瓶	約25.9	瓶4.6	厚4.5									
2225 10d SK07	020704	本鶴品	透物	瓶	約64.2	瓶13.6	厚6.5									
2226 10d SK07	020614	本鶴品	瓶(4-8)	瓶	約41.7	瓶10.6	厚2.9									
2227 10d SK02	020910	本鶴品	瓶(4-8)	瓶	約34.0	瓶13.8	厚0.9									
2228 10d SK02	020910	本鶴品	透物瓶	瓶	約42.0	瓶17.6	厚2.8									
2229 10a 鶴出I	020702	金属性品	手印(円筒)	瓶	約1.5	瓶1.5	高0.2									
2230 10a 鶴出I	020702	金属性品	蓋	瓶	約1.0	瓶1.0	高0.2									
2231 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.6	瓶0.74	高0.74		底面磨1本	透面丸穴1テ		Se 271	乙			
2232 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.6	瓶0.74	高0.75		底面磨1本、空	透面丸穴1テ		Se 272	一			
2233 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.6	瓶0.6	高1.2									
2234 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.4	瓶0.6	高1.2									
2235 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.6	瓶0.5	高0.5									
2236 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.4	瓶0.6	高0.5									
2237 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.6	瓶0.28	高0.28		底面磨1本	透面丸穴1テ		Se 301	無			
2238 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.5	瓶0.37	高0.37		底面磨1本	透面丸穴3テ		Se 298	甲			
2239 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.6	瓶0.38	高0.38		底面磨1本、穴	—		Se 174	屬?			
2240 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.4	瓶0.38	高0.38		底面磨1本	透面丸穴2テ		Se 193	属?			
2241 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.5	瓶0.4	高0.4									
2242 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.0	瓶0.6	高0.5									
2243 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.0	瓶1.4	高0.5									
2244 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.0	瓶1.5	高0.5									
2245 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.0	瓶1.1	高0.5									
2246 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.0	瓶1.0	高0.5									
2247 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.0	瓶0.8	高0.6									
2248 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.0	瓶0.7	高0.3									
2249 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.0	瓶0.3	高0.3									
2250 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.2	瓶0.9	高0.2									
2251 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約4.1	瓶1.4	高0.5									
2252 10a 鶴出I	020702	金属性品	透物	瓶	約14.6	瓶0.2	高11.1		底子小因着	—						
2253 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.7	瓶0.38	高0.38		底面磨1本	透面丸穴1テ		Se 2	代			
2254 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.6	瓶0.37	高0.37		底面磨1本	—		Se 4	銀			
2255 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.6	瓶0.38	高0.38		底面磨1本	透面丸穴1テ		Se 5	銀			
2256 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.5	瓶0.37	高0.37		底面磨1本	透面丸穴1テ		Se 6	鐵			
2257 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.5	瓶0.38	高0.38		底面磨1本	—		Se 7	鐵			
2258 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.5	瓶0.29	高0.29		—	—		Se 8	+7			
2259 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.7	瓶0.37	高0.37		—	透面丸穴1テ		Se 9	青			
2260 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.6	瓶0.37	高0.37		底面磨1本	—		Se 10	青			
2261 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.6	瓶0.38	高0.38		底面磨1本	—		Se 11	洋			
2262 10a 鶴出I	020702	金属性品	底子	瓶	約2.5	瓶0.38	高0.38		底面磨1本	—		Se 12	洋			

遺物一覧表

登録号	登録日	遺物番号	日 程	所在地・材質	種類	特 性	寸法(横)	寸法(縦)	寸法(高)	最大寸法	内面	外面	附注(外観)	施 1	備考
2263	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 14 銀	
2264	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 15 银	
2265	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.34	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 16 山	
2266	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 18 法	
2267	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.37	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 19 残	
2268	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.38	幅 0.39	高 0.39		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 20 青	
2269	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 21 生	
2270	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.36	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	—		Se 22 帽	
2271	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.37	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 23 第	
2272	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 24 試	
2273	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.34	幅 0.37	高 0.38		沉函 1 本	—		Se 25 造?	
2274	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 26 + 斧	
2275	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.36	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 29 附	
2276	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.36	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 30 夕	
2277	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.40	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 31 二	
2278	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		—	側面丸穴 1 +		Se 32 少?	
2279	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 33 附	
2280	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	—		Se 34 +	
2281	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.49	幅 0.39	高 0.39		沉函 1 本	—		Se 35 ?	
2282	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.36	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 36 頭?	
2283	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 37 頭	
2284	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.33	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 38 11	
2285	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 39 9?	
2286	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.36	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 40 西	
2287	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.36	幅 0.39	高 0.39		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 41 頭	
2288	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 42 8?	
2289	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.45	幅 0.39	高 0.40		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 43 亨	
2290	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 44 双	
2291	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.34	幅 0.38	高 0.41		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 45 日	
2292	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.37	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	—		Se 46 八	
2293	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.37	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 47 争?	
2294	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 48 頭?	
2295	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 49 工	
2296	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 50 了	
2297	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 51 附?	
2298	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.38	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 52 頭?	
2299	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.25	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 53 頭	
2300	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.39	高 0.38		沉函 1 本	—		Se 54 附?	
2301	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 55 食	
2302	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 56 畏	
2303	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.37	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 57 附	
2304	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	—		Se 59 附	
2305	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 60 附	
2306	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 61 附?	
2307	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 62 附?	
2308	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 63 附	
2309	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.39	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	—		Se 64 頭	
2310	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.34	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 65 附?	
2311	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.37	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 66 頭	
2312	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 67 附	
2313	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.34	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 68 附	
2314	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 69 生	
2315	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 70 ノ	
2316	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	—		Se 71 2?	
2317	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.51	幅 0.42	高 0.45		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 72 附	
2318	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.38	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 73 武	
2319	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 74 第	
2320	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.36	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 75 子	
2321	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.34	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 76 附	
2322	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.38	高 0.39		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 78 十	
2323	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.34	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 79 頭	
2324	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.43	幅 0.40	高 0.41		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 80 伸	
2325	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.38	幅 0.38	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 81 附	
2326	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 83 箔	
2327	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.37	幅 0.44	高 0.47		沉函 1 本	—		Se 84 頭	
2328	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.39	高 0.39		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 85 十	
2329	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.39	幅 0.41	高 0.42		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 86 九	
2330	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.38	高 0.39		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 87 金	
2331	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 88 申	
2332	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 89 附	
2333	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 90 2?	
2334	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.34	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	—		Se 91 附	
2335	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 92 附	
2336	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.32	幅 0.39	高 0.39		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 93 附	
2337	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 94 附	
2338	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 95 /	
2339	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.34	幅 0.37	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 96 附	
2340	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.37	高 0.37		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 97 附	
2341	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 98 附	
2342	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 99 附	
2343	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.34	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	—		Se 100 店	
2344	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.35	幅 0.40	高 0.39		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 101 甲	
2345	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.36	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 102 附?	
2346	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.40	幅 0.38	高 0.38		沉函 1 本	側面丸穴 1 +		Se 103 旨	
2347	10a	地出 1	202702	金屬製品	漆字		長 2.37	幅 0.38	高 0.37		沉函 1 本	—		Se 104 賢	

名古屋城三の丸遺跡 VII

遺物一覧表

登録号	登録年	登録番号	日付	発地	材質	縦	横	厚	寸法	重量(g)	重さ(g)	最大幅(寸)	内面	外面	加工(外側)	脚1	脚2
2435	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.37	高0.37	汎面直1本	—	—	—	—	Na.204 鋼	Na.208	
2436	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.39	高0.39	汎面直1本	—	—	—	—	Na.205 鋼	Na.206 鋼	
2437	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.37	幅0.39	高0.36	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.207 大	Na.208	
2438	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.38	高0.37	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.209 A~E?	Na.210 A?	
2439	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.00	幅0.37	高0.37	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.210	Na.211	
2440	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.38	高0.37	汎面直1本	—	—	—	—	Na.212 八	Na.213 八	
2441	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.42	高0.38	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.214	Na.215	
2442	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.36	幅0.42	高0.41	汎面直1本	—	—	—	—	Na.216	Na.217	
2443	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.45	高0.44	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.218 八	Na.219 八	
2444	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.25	幅0.38	高0.35	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.220	Na.221	
2445	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.25	幅0.38	高0.38	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.222	Na.223	
2446	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.27	幅0.39	高0.39	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.224	Na.225	
2447	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.29	幅0.39	高0.38	汎面直1本	—	—	—	—	Na.226	Na.227	
2448	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.25	幅0.39	高0.38	汎面直1本	—	—	—	—	Na.228	Na.229	
2449	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.25	幅0.39	高0.28	汎面直1本	—	—	—	—	Na.230	Na.231	
2450	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.44	幅0.41	高0.41	汎面直1本	—	—	—	—	Na.232	Na.233	
2451	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.26	幅0.38	高0.38	汎面直1本	—	—	—	—	Na.234	Na.235	
2452	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.36	幅0.40	高0.40	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.236	Na.237	
2453	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.37	高0.37	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.238	Na.239	
2454	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.25	幅0.38	高0.38	汎面直1本	脚面丸穴2+	—	—	—	Na.240	Na.241	
2455	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.40	幅0.41	高0.40	汎面直1本	—	—	—	—	Na.242	Na.243	
2456	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.25	幅0.37	高0.37	汎面直1本	穴	—	—	—	Na.244	Na.245	
2457	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.36	幅0.39	高0.38	汎面直1本	—	—	—	—	Na.246	Na.247	
2458	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員1.98	幅0.38	高0.38	汎面直1本	—	—	—	—	Na.248	Na.249	
2459	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.34	幅0.37	高0.37	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.250	Na.251	
2460	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.38	高0.37	汎面直1本	—	—	—	—	Na.252	Na.253	
2461	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.37	幅0.38	高0.39	汎面直1本	—	—	—	—	Na.254	Na.255	
2462	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.25	幅0.37	高0.37	汎面直1本	穴	—	—	—	Na.256	Na.257	
2463	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.37	幅0.37	高0.37	汎面直1本	—	—	—	—	Na.258	Na.259	
2464	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.23	幅0.37	高0.37	汎面直1本	穴	—	—	—	Na.260	Na.261	
2465	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.23	幅0.37	高0.37	汎面直1本	穴	—	—	—	Na.262	Na.263	
2466	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.36	幅0.38	高0.36	汎面直1本	穴	脚面丸穴1+	—	—	Na.264	Na.265	
2467	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.45	高0.43	汎面直1本	—	—	—	—	Na.266	Na.267	
2468	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.37	幅0.38	高0.38	汎面直1本	穴	脚面丸穴1+	—	—	Na.268	Na.269	
2469	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.38	高0.38	汎面直1本	—	—	—	—	Na.270	Na.271	
2470	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.37	幅0.39	高0.40	汎面直1本	穴	脚面丸穴1+	—	—	Na.272	Na.273	
2471	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.47	幅0.44	高0.40	汎面直1本	—	—	—	—	Na.274	Na.275	
2472	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.36	幅0.40	高0.40	汎面直1本	穴	脚面丸穴1+	—	—	Na.276	Na.277	
2473	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.37	高0.37	汎面直1本	穴	—	—	—	Na.278	Na.279	
2474	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.34	幅0.38	高0.38	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.280	Na.281	
2475	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.37	高0.37	汎面直1本	—	—	—	—	Na.282	Na.283	
2476	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.32	幅0.37	高0.37	汎面直1本	穴	脚面丸穴1+	—	—	Na.284	Na.285	
2477	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.38	高0.38	汎面直1本	—	—	—	—	Na.286	Na.287	
2478	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.38	高0.38	汎面直1本	—	—	—	—	Na.288	Na.289	
2479	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.40	高0.40	汎面直1本	—	—	—	—	Na.290	Na.291	
2480	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.30	幅0.38	高0.38	汎面直1本	—	—	—	—	Na.292	Na.293	
2481	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.36	幅0.38	高0.40	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.294	Na.295	
2482	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.36	幅0.38	高0.38	汎面直1本	—	—	—	—	Na.296	Na.297	
2483	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.36	幅0.40	高0.39	汎面直1本	—	—	—	—	Na.298	Na.299	
2484	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.37	高0.37	汎面直1本	—	—	—	—	Na.300	Na.301	
2485	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.37	幅0.39	高0.38	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.302	Na.303	
2486	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.28	幅0.39	高0.38	汎面直1本	—	—	—	—	Na.304	Na.305	
2487	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.40	高0.39	汎面直1本	—	脚面丸穴1+	—	—	Na.306	Na.307	
2488	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.37	高0.38	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.308	Na.309	
2489	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.36	幅0.38	高0.38	汎面直1本	—	脚面丸穴1+	—	—	Na.310	Na.311	
2490	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.34	幅0.40	高0.40	汎面直1本	—	脚面丸穴1+	—	—	Na.312	Na.313	
2491	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.34	幅0.40	高0.40	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.314	Na.315	
2492	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.36	幅0.37	高0.34	汎面直1本	—	脚面丸穴1+	—	—	Na.316	Na.317	
2493	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.26	幅0.40	高0.38	汎面直1本	—	脚面丸穴1+	—	—	Na.318	Na.319	
2494	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.49	高0.49	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.320	Na.321	
2495	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.26	幅0.49	高0.49	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.322	Na.323	
2496	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.36	幅0.49	高0.49	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.324	Na.325	
2497	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.25	幅0.49	高0.49	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.326	Na.327	
2498	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.36	幅0.50	高0.50	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.328	Na.329	
2499	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.36	幅0.49	高0.49	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.330	Na.331	
2500	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.36	幅0.44	高0.44	汎面直1本	—	脚面丸穴1+	—	—	Na.332	Na.333	
2501	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.38	幅0.46	高0.44	汎面直1本	—	脚面丸穴1+	—	—	Na.334	Na.335	
2502	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.36	幅0.76	高0.74	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.336	Na.337	
2503	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.37	幅0.76	高0.75	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.338	Na.339	
2504	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.36	幅0.28	高0.29	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.340	Na.341	
2505	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.34	幅0.28	高0.28	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.342	Na.343	
2506	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.35	幅0.29	高0.29	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.344	Na.345	
2507	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.25	幅0.28	高0.28	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.346	Na.347	
2508	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.36	幅0.19	高0.38	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.348	Na.349	
2509	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.25	幅0.20	高0.28	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.350	Na.351	
2510	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員1.92	幅0.25	高0.49	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.352	Na.353	
2511	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員1.96	幅0.24	高0.49	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.354	Na.355	
2512	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員1.95	幅0.24	高0.50	汎面直1本	脚面丸穴1+	—	—	—	Na.356	Na.357	
2513	10a	施出I	1	202702	金剛製品	汎字	員2.25	幅0.21	高0								

名古屋城三の丸遺跡 VII

地番	件名	日付	地場・材質	形	規	特	寸	U寸	W寸	高寸	深寸	目次寸	内面	外面	第1(外部)	第2	備考	
2515 10e SK002	金國御物	020702	漆字	直	2.35	幅0.19	厚0.38						灰面漆一本	側面丸穴2ヶ			No.342 標に十	
2516 西壁	020507		画	直	明治10 年2歳	11.2	5.3	3.6	幅11.4	白磁製コバルト釉	白磁製コバルト 釉、西台面漆刷			C4-M4Y4- BL0	C4-M4Y5- BL0			
2517 西壁	020507	■■■■■	画	直	明治10 年2歳	11.4	4.7	3.6	幅11.6	白磁製コバルト 釉、白磁製コバルト 釉、側面丸穴1ヶ 合漆面刷	白磁製コバルト 釉、白磁製コバルト 釉、側面丸穴1ヶ 合漆面刷			C4-M4Y4- BL0	C4-M4Y5- BL0			
2518 表土	020412	■■■■■	画	直	明治10 年2歳	13.1	5.9	4.3	幅13.3	白磁製コバルト釉	白磁製コバルト 釉、西台面漆刷			C4-M4Y4- BL0	C4-M4Y4- BL0			
2519 表土	020412	■■■■■	画	直	直	6.6	7.2	4.2	幅6.7	白磁製コバルト 釉、白磁製コバルト 釉、側面丸穴1ヶ 合漆面刷	白磁製コバルト 釉、白磁製コバルト 釉、側面丸穴1ヶ 合漆面刷			C4-M4Y6- BL0	C4-M4Y6- BL0			
2520 表土	020412	■■■■■	画	直	直	15.0	4.0	7.2	幅15.3	白磁製コバルト 釉、白磁製コバルト 釉、側面丸穴1ヶ 合漆面刷	白磁製コバルト 釉、白磁製コバルト 釉、側面丸穴1ヶ 合漆面刷			C4-M4Y4- BL0	C4-M4Y5- BL0			
2521 西壁	020507	■■■■■	輪花	直	14.9	4.1	7.6	幅15.2	白磁製コバルト 釉、白磁製コバルト 釉、側面丸穴1ヶ 合漆面刷	白磁製コバルト 釉、白磁製コバルト 釉、側面丸穴1ヶ 合漆面刷			N7/灰白	C2D-M10- Y20-M10				
2522 表土	020412	■■■■■	石油	直	直	23.4	3.2	10.4	幅24.1	白磁製コバルト 釉、ビンテラ2ヶ附	白磁製コバルト 釉、ビンテラ2ヶ附				7.5W/1灰白	C4-M4Y6- BL0		
2523 表土	020412	■■■■■	画舟	直	直	7.0	7.0	4.6	幅7.2	白磁製	白磁製、タム緑 鉢紋、西台面漆刷			9/白	9/白			
2524 表土	020412	■■■■■	画	直	明治20 年2歳~ 大正~ 昭和	7.2	1.8	1.8	幅6.8	白磁製、口縁漆刷	白磁製、口縁漆刷			9/白	9/白			
2525 表土	020412	■■■■■	(輪)(漆付)	直	直	16.0	4.6	3.6	幅17.0	白磁製コバルト 釉、スタンプ?	白磁製			9/白	9/白			
2526 SNP2 020619	■■■■■	どんぶり	画	直	15.2	6.4	5.6	幅15.6	白磁製	白磁製、青緑、輪 田、西台面漆刷				C4-M4Y6- BL0				
2527 南壁	020617	直角小判陶	輪	直	直	11.6	4.6	3.7	直	白色釉	白色釉、白色釉			SYN-1 白	C4-M4Y4- BL0			
2528 表土	020412	直らう型	食器皿	直	直	12.6	1.8	9.4	幅12.8	口輪漆刷	口輪漆刷、直				C4-M4Y20- BL10	アキミ群		
2529 表土	020412	直らう型	食器皿	直	直	12.6	1.8	9.4	幅12.8	口輪漆刷	口輪漆刷、直				C4-M4Y20- BL10	アキミ群		
2530 10f SK16	020606	洗製品	鉢	直	直	22.9	0.9	0.9	直	残	口輪漆刷							
2531 11f SK16	020605	洗製品	鉢	直	直	10.6	0.9	0.9	直	残	口輪漆刷							
2532 11f SK16	020606	洗製品	鉢	直	直	3.0	1.6	1.2	直	残	口輪漆刷							
2533 10f SK16	020606	洗製品	タジ	直	直	2.0	0.6	0.7	直	残	口輪漆刷							
2534 11f SK16	020605	鏡・ゴム置	コップ	直	直	4.6	0.6	0.7	直	残	口輪漆刷							
2535 11f SK007	020621	鏡製品	鏡	直	直	2.6	0.4	0.0	直	残	口輪漆刷							
2536 13f SK007	020603	土製品	土器	直	直	3.3			直	残	口オサヌ?				IOV86/4 洗修理			
2537 11c SK134	020625	土製品?	土器	直	直	3.1			直	残	ヘラケダリと指す セズ				2.5W/1 黄灰 セズ			
2538 8e SK70	020617	土製品	土器?	直	直	0.6			直	残	調節不順				SYH6/6 残			
2539 10e SK47	020703	瓦	片付?	直	直	13.8	残	30.0	直	残	ヘラケダリと指す セズ				NA/SC			
2540 10d SK308	020627	遺物	鉢	直	直	4.2	4.8	2.4	直	残	口輪漆刷							
2541 11a SK203	020620	遺物	鉢	直	直	17.6	16.9	0.6	直	残	口輪漆刷							
2542 西壁	020507	瓦	瓦?	直	直	14.1	6.3	1.9	直	残	口輪漆刷							
2543 13a 西トレ シント	020509	瓦	瓦?	直	直	5.5	4.5	1.1	直	残	口輪漆刷							
2544 13e SK170	020724	瓦	瓦?	直	直	7.6	5.6	1.7	直	残	口輪漆刷							
2545 11e SK43	020610	瓦	瓦?	直	直	10.9	4.9	2.3	直	残	口輪漆刷							
2546 11e SK011	020718	瓦	瓦?	直	直	11.5	5.9	4.0	直	残	口輪漆刷							
2547 11e SK011	020523	瓦	瓦?	直	直	12.1	2.5	2.1	直	残	口輪漆刷							
2548 10e SK341	020629	瓦	瓦?	直	直	5.2	4.3	0.9	直	残	口輪漆刷							
2549 12b SK005	020705	瓦	瓦?	直	直	3.6	2.2	1.3	直	残	口輪漆刷							
2550 11b SK011	020523	瓦	瓦?	直	直	2.1	1.7	0.9	直	残	口輪漆刷							
2551 10e SK005	020629	瓦	瓦?	直	直	0.9	0.1	0.5	直	残	口輪漆刷							
2552 10b SK005	020603	瓦	瓦?	直	直	2.7	12.2	13.0	直	残	口輪漆刷							
2553 12b SK005	020630	瓦	瓦?	直	直	8.0	2.6	1.6	直	残	口輪漆刷							
2554 10d SK007	020712	瓦	瓦?	直	直	13.0	2.6	1.6	直	残	口輪漆刷							
2555 13f SK008	020726	瓦	瓦?	直	直	11.2	4.9	2.0	直	残	口輪漆刷							
2556 9b SK011	020619	瓦+瓦	瓦?	直	直	9.4	1.6	0.5	直	残	口輪漆刷							
2557 10a SK011	020703	瓦	瓦?	直	直	1.5	4.6	1.5	直	残	口輪漆刷							
2558 10a SK005	020603	瓦	瓦?	直	直	1.5	0.2	0.2	直	残	口輪漆刷							
2559 13b SK005	020603	瓦	瓦?	直	直	4.1	0.3	0.2	直	残	口輪漆刷							
2560 13b SK005	020603	瓦	瓦?	直	直	1.5			直	残	口輪漆刷							
2561 13d SK002	020727	ガラス	ガラス	直	直	4.2	2.0	0.2	直	残	口輪漆刷							

図 版

1. 遺構図版 $s = 1 : 250$

遺構図版 1 : 第 1 面の遺構

遺構図版 2 : 第 2 面の遺構

遺構図版 3 : 第 3 面の遺構

遺構図版 4 : 第 1 面の遺構 (掘削前の略測図)

遺構図版 5 : 第 2 面の遺構 (掘削前の略測図)

2. 写真図版

遺構写真 : 写真図版 1 ～ 写真図版 16

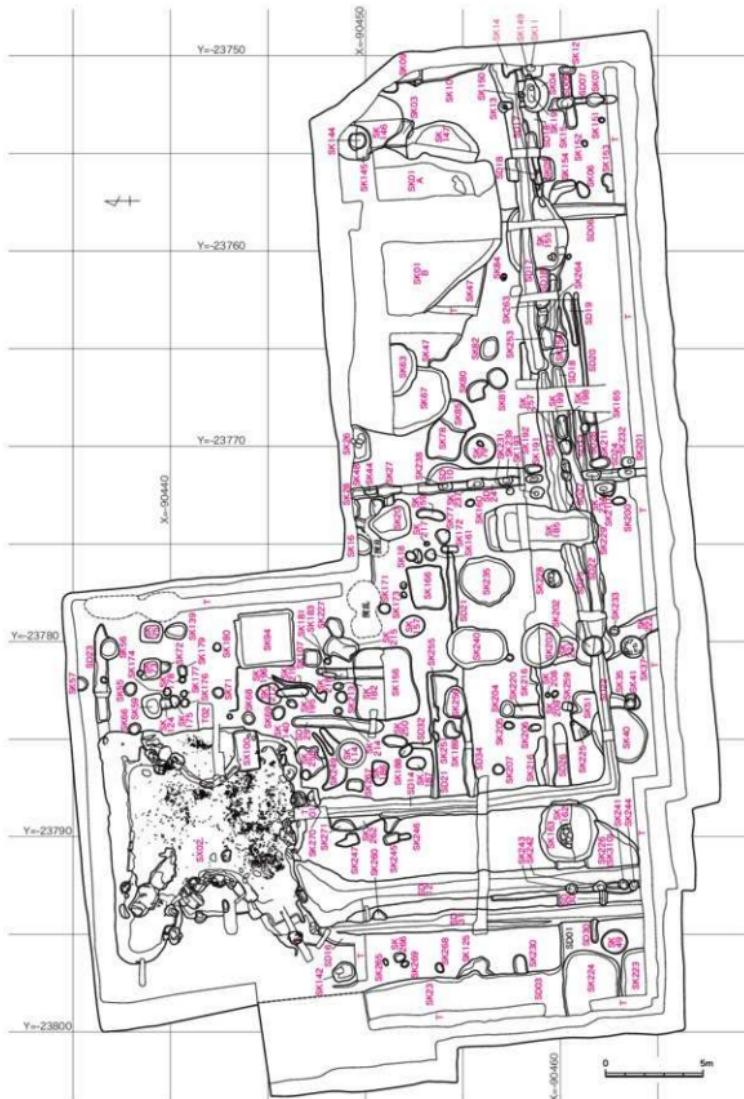
遺物写真 : 写真図版 17 ～ 写真図版 30

関連絵図の写真 : 写真図版 31 ～ 写真図版 32



第2面の遺構

遺構図版2



第3面の遺構

遺構図版 3



第1面の遺構（掘削前の略測図）

遺構図版 4



名古屋城三の丸遺跡 VII

第2面の遺構（掘削前の略測図）

遺構図版 5



写真図版 1



調査区遠景（南東からみる） 左上にみえる建物が名古屋城天守



1面遺構全体（北西からみる）

名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 2



2面遺構全体（北西からみる）



3面遺構全体（北西からみる）

写真図版 3



土坑 SK308 遺物出土状態（東からみる）



竪穴建物跡群（北からみる）

名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 4



井戸 SK226 土層断面（北からみる）



溝 SD17, 18 全体（東からみる）



溝 SD12, SD14 等全体（北からみる）



土坑 SK185, 柵列 SD24 全体（南からみる）

名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 6



石組溝 SD01～03 全体（西からみる）



池 SX02 全体（北西からみる）

写真図版 7



池 SX02 東張り出し部 (北からみる)



池 SX02 西張り出し部 (北からみる)



池 SX02 階段状遺構 (西からみる)



池 SX02 東張り出し部正面 (西からみる)



池 SX02 東張り出し部上面玉石 (南からみる)



池 SX02 床面玉石 (東からみる)



池 SX02 南壁盛土層断面 (東からみる)



池 SX02 導水部漆喰断面 (南西からみる)

名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 8



礎石建物跡 SB01 全体（東からみる）



礎石建物跡 SB01 床面（南西からみる）

写真図版 9

左:調査区遠景
(南からみる)



右:SK331遺物
出土状態
(南西からみる)



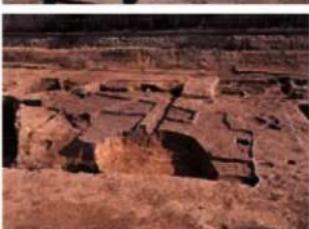
左:SB07,SB09
(西からみる)



右:SB02
(西からみる)



左:SB03,SB05
(北からみる)



右:SB06
(北からみる)



左:SB04土層断面(東からみる)



右:SB08土層断面(南からみる)



左:3面中央部
柱穴群
(北東からみる)



右:3面南西部
柱穴群
(東からみる)



名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 10

左:SD17・SD18
土層断面
(東からみる)



左:SD24・SA03
(北からみる)



左:SK226遺物
出土状態
(北西からみる)



左:SK147
土層断面
(西からみる)



右:SK146
土層断面
(南からみる)

左:SK330
土層断面
(南からみる)



写真図版 11

左:SK484遺物
出土状態
(東からみる)



左:SK93遺物
出土状態
(東からみる)

右:SK26石材
出土状態
(南からみる)



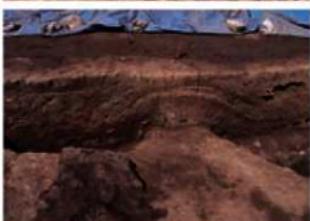
左:SK60遺物
出土状態
(東からみる)

右:SK01
(東からみる)



左:SK01
土層断面
(南からみる)

右:SK63・SK01
土層断面
(南からみる)



左:SK01
木材出土状態
(西からみる)

右:SK01
出土状態
(東からみる)



名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 12

左:SD01全体
(西からみる)



左: SX01
(南からみる)



左: SD01部分
(南からみる)



左: SD01部分
(北からみる)

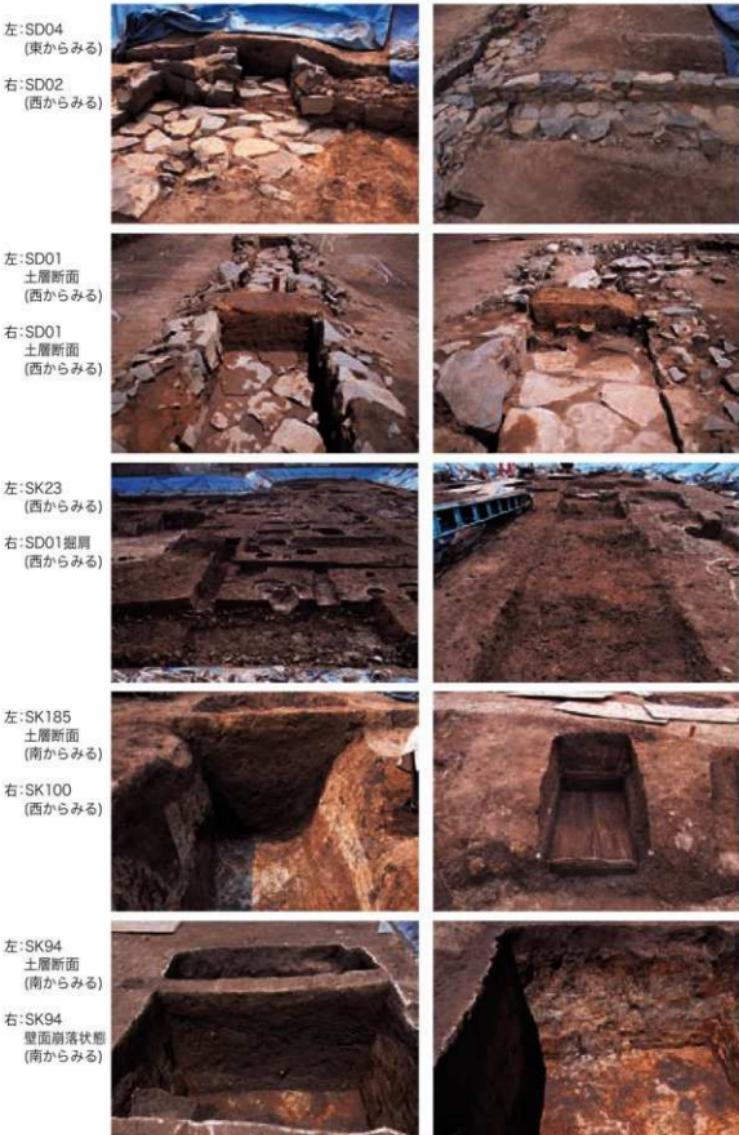


左: SD02
(南からみる)



右: SD01・SD03
(南からみる)

写真図版 13



名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 14

左: SX02
調査風景
(北西からみる)



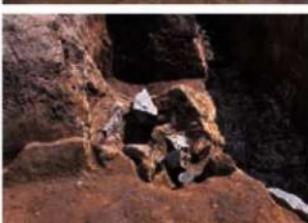
右: SX02
北壁部
(東からみる)

左: SX02
階段状遺構
(北西からみる)



右: SX02
南壁
(北からみる)

左: SX02-SK01
(北からみる)



右: SX02-SK03
(北からみる)

左: SX02-SK04
(北からみる)



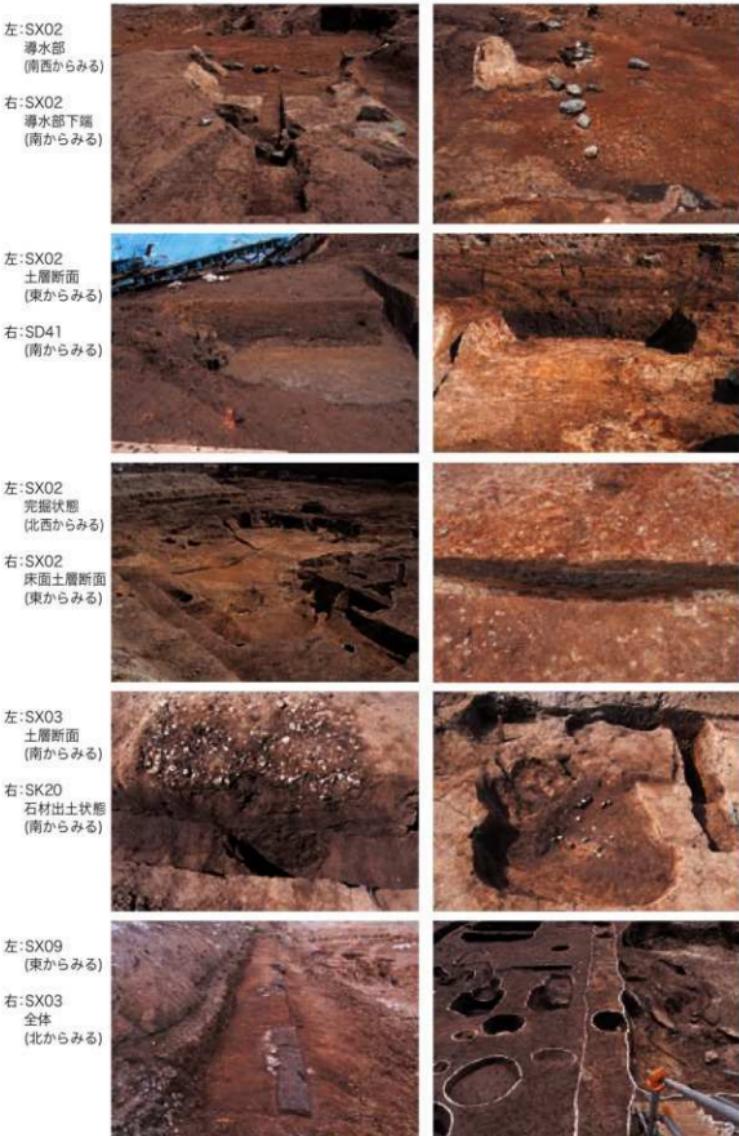
右: SX02-SK09
(東からみる)

左: SX02-SK16
(東からみる)



右: SX02-SK07
(北東からみる)

写真図版 15



名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 16

左:SK163
土層断面
(南からみる)



右:SK202
裏面
(北からみる)

左:SK49
土層断面
(北からみる)



右:SK37
土層断面
(北からみる)

左:SK56
遺物出土状態
(東からみる)



右:SK66
遺物出土状態
(南からみる)

左:SK68
遺物出土状態
(南からみる)



右:SK107
(南からみる)

左:SK142
土層断面
(南からみる)



右:SK362
遺物出土状態
(南からみる)



土坑 SK308 出土遺物



井戸 SK226 出土遺物

名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 18



井戸 SK147 出土遺物



土坑 SK185 出土遺物



地下室 SK94 出土遺物



土坑 SK96 出土遺物





2078



2124



2098

2099

2101

2106

2103



2110

2109

2129

2141

2086



2088

2087

2252



2093



2204

2203



2237 2238 2239 2240 2233 2234
2249 2242 2247 2248 2250 2246 2245 2230
2251
2

名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 22



1515



1508



2562



1514



1510



SX02-S54



SX02-S7



1510



SX02-玉石



SK20-玉石



SX02-玉石



SX02-S75



SX02東張りだし部-玉石



SX02-玉石



2059



2041



2042



2039



2050

2051



1981



1966



1602

1601

1600

1599

1598

1597

1596

1626

1625

1624

1623

1622

1621

1620

1595



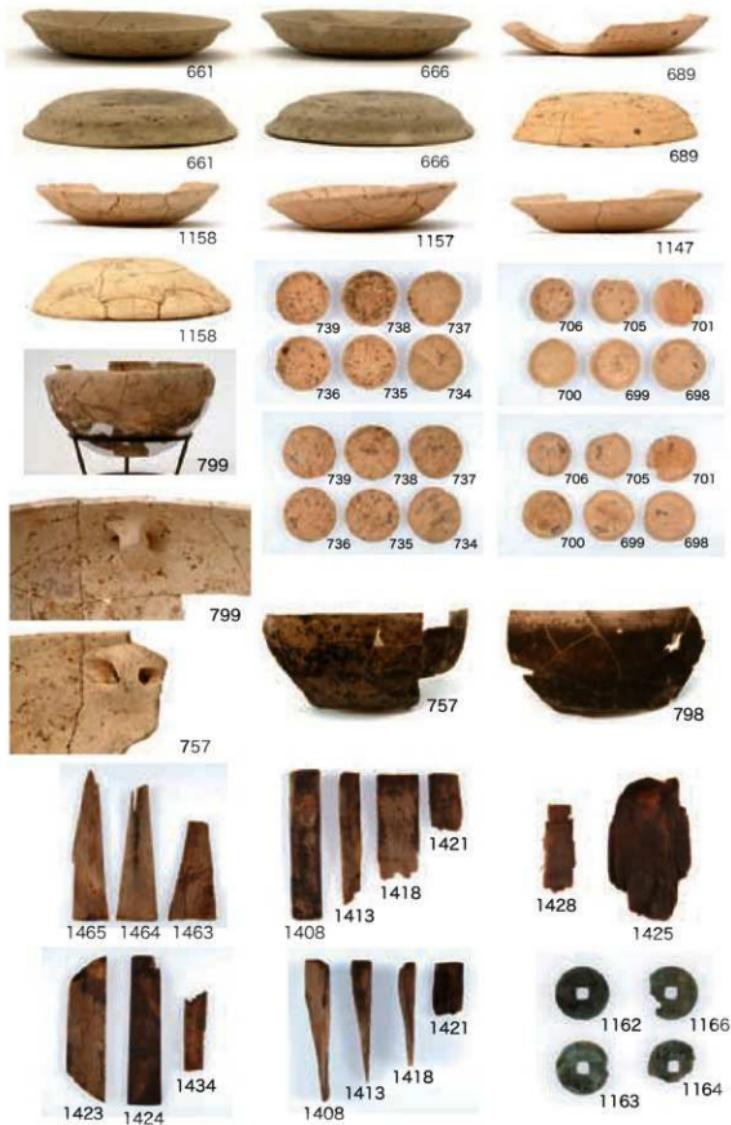
写真図版 24





名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 26









名古屋城三の丸遺跡 VII

写真図版 30



1815



1816



1825



1829



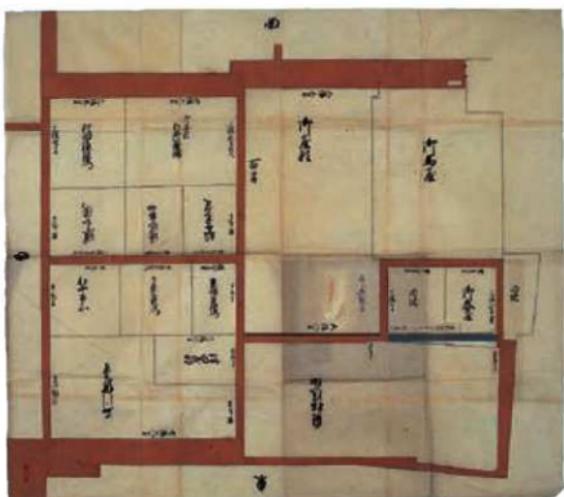
1836



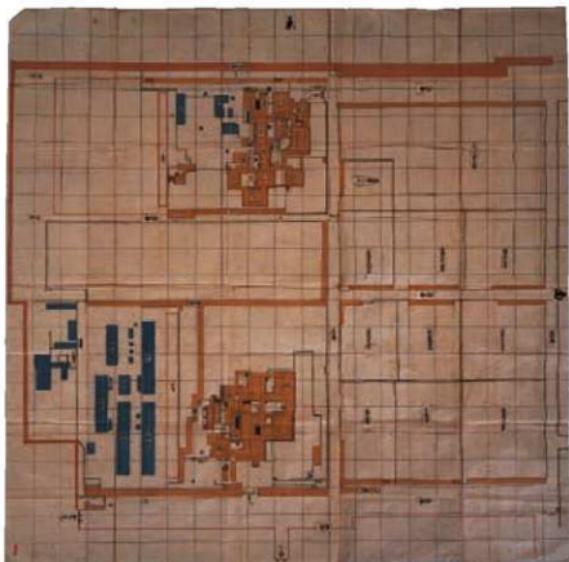
1847



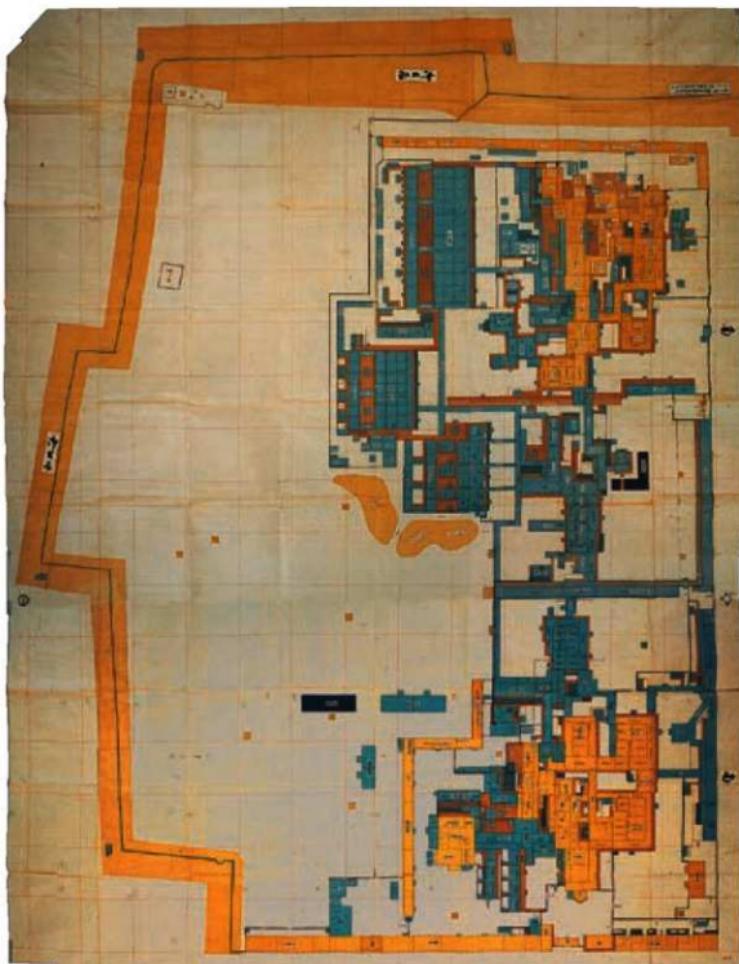
1842



「三の丸絵図」(名古屋市蓬左文庫蔵)



「御屋形并東御殿御絵図」(名古屋市蓬左文庫蔵)



「御屋形御絵図」（名古屋市蓬左文庫蔵）

報告書抄録

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第127集

名古屋城三の丸遺跡 VII
—旧国立名古屋病院地点の調査—

2005年3月31日

編集・発行 財団法人愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター

印刷

西濃印刷株式会社